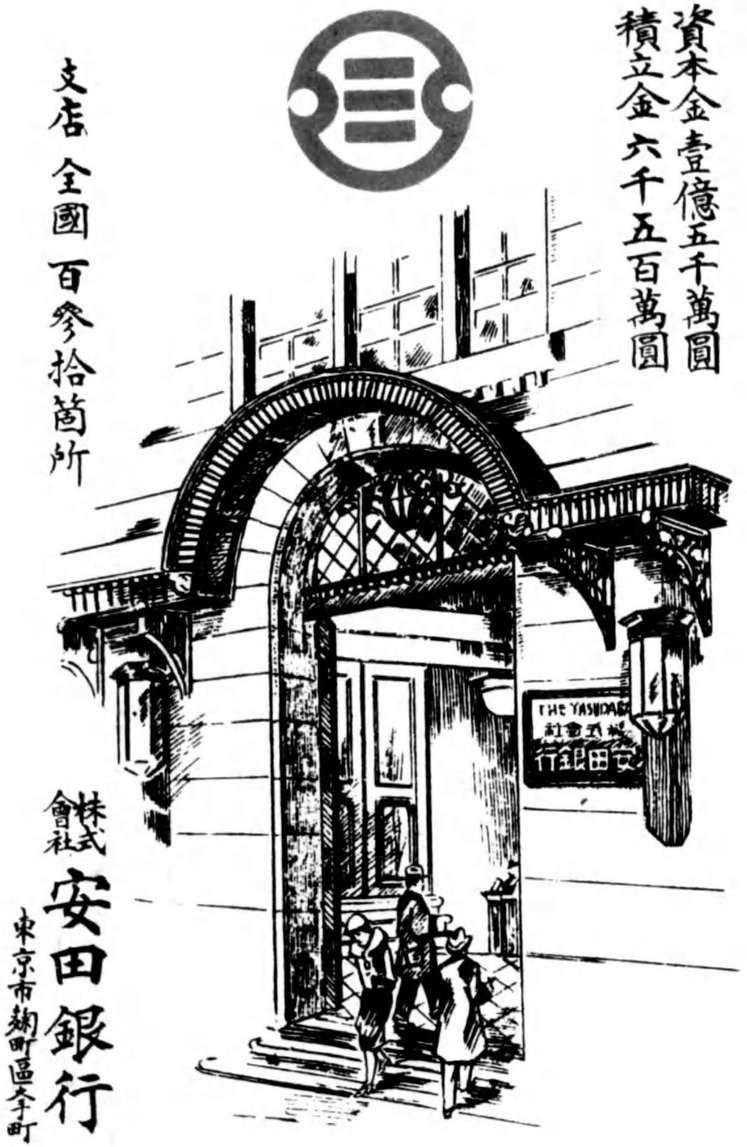
95-15
1200501337915
95
禁複写

始

昭9
B
6

資本金壹億五千萬圓
積立金六千五百萬圓

支店 全國百參拾箇所



株式會社 安田銀行
東京市麹町區大手町

火災保險
海上保險
運送保險
傷害保險
信用保險
盜難保險
自動車保險
硝子保險
森林保險

資本金 壹千萬圓
諸積立金 壹千五百四萬圓
總保險契約高 五拾四億七千萬圓

火災保險の開祖

東京火災保險株式會社

取締役社長 男爵 四條隆英
取締役副社長 南 莞爾

本店 東京市麹町區大手町一丁目
支店 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、仙臺、福岡、京城
代理店 內地、滿鮮、支那、印度及歐米主要地四千八百餘ヶ所

エビスビール
サッポロビール
アサヒビール
ユニオンビール

清涼飲料
リボンシトロン
ナポリン
三ッ矢サイダー
金線サイダー
三ッ矢平野水

宮内省御用達 大日本麦酒株式會社

昭和九年十月刊行

第十版

人事興信錄

下巻

東京・麻布・民政黨政務調査會
購入
9.11.6

株式會社
人事興信所

業目

一、各種工業、鐵道、電氣、瓦斯抵當貸付
二、地方債、社債ノ募集引受
三、擔保附社債信託
四、有價證券擔保貸付
五、諸預リ金
六、手形割引
七、內外爲替
八、船舶又ハ製造中ノ船舶抵當貸
九、造船材料及船舶屬具ノ擔保貸
十、株式ノ募集又ハ引受業務

資本金五千萬圓

東京市麹町區丸ノ內壹丁目
株式會社 日本興業銀行
電話 丸ノ內 代表 長 (番號 二二二 六五五 一〇 番)

支店

東京市日本橋區通貳丁目 日本橋支店 電話日本橋 二二二 九九九 二一一
大阪市東區高麗橋 大阪支店 電話本局 四〇八 二〇一 五〇二 長八
神戸市神戸區仲町 神戸支店 電話二ノ宮 八六 三四六 二九 三五
名古屋市中區南長島町 名古屋支店 電話本局 一一一 三三三 三一一
福岡市栄町 福岡支店 電話福岡 六一一 〇〇八 〇〇

東京市日本橋區通一丁目
株式會社 川崎第百銀行
電話 日本橋 (24) 代表 四一 〇五 三三 七四

市內支店出張所

日本橋、富澤町、大傳馬町、馬喰町、京橋、淺橋、銀座、新川、麹町、丸之內、日比谷、番町、四谷、新宿、神樂坂、江戸川、神田、岩本町、小川町通、本郷、上野、三ノ輪、淺草、浅草橋通、本所、押上、向島、深川、芝、金杉、六本木、青山、王子、大塚、池袋、小山、大井、大森、目黒、目黒區、恵比寿、渋谷川

市外支店出張所

八王子、橋場、川崎、名古屋、京都、西陣、二條、三條、五條、出町、伏見、稻荷、大阪、本町、大阪西、堺、神戸、兵庫、岡山、岡山西、福山、廣島、鄂山、鳥取、所澤、越ヶ谷、千葉、銚子、佐原、佐倉、松戸、船橋、水戸、石岡、七條、京橋、新町、市川、樓町

95
15
X

44.10.28
東京神保町

807001

夕之部

太應善

朝鮮煙草元賣捌㊟取締役、布木商
京城府在籍

妻　金順德
男　斗星　明一八、四生、金祐植女
　　大五、四生

君は京城府人太植順の長男にして明治十一年四月を以て生る幼時より儒を學び家業たる布木商を營む大正十年專賣令實施以來朝鮮煙草元賣捌會社取締役として今日に至る傍ら町總代東部隣保館副館長たり長女壽定(明四五、一生)は江原道人黃潤秀に嫁せり(京城府鐘路六ノ一二六電光化門二二九)

太宰施門

正五位勳四等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務
京都府在籍

妻　春枝　明三四、二生、東京、北村彌一郎女
男　瓊維　大一三、三生

君は岡山縣人太宰雅各の弟にして明治二十二年四月一日を以て生れ後分れて一家を創立す大正二年東京帝國大學文科大學佛文科を卒業し第一高等學校教授に任ぜられ佛瑞西各國に留學す同十年京都帝國大學助教授となり昭和六年文學博士の學位を授けられ同八年同大學教授に任じ文學部に勤務し以て現在に至る家族は尙二男庵里(大一五、四生)あり(京都市上京區竹屋町通大宮西入)

太刀川善吉

北海道多額納稅者、北日本製紙、大小樽興産、函館日日新聞社各㊟、北海道社長、函館産業、函館水産、函館銀行、函館電氣、函館鐵工所、函館冷藏、函館製網船具、函館各㊟、北海道土地、三共電機、函館取締役、函館製作所、函館倉庫、函館市役所、函館市電、函館中軌道、函館港各㊟、北海道鑛業、北海道在籍、函館商業、函館米穀商、函館大沼電鐵、函館ウロコ製作所、函館南茅部郡役所、函館道庶務課、函館道廳

妻　ハル　明二二、一生、北海道、畑澤要吉妹
男　善平　明四二、二生
女　靜　明四四、四生
男　大次郎　大元、一二生
男　正三郎　大三、四生

君は北海道人先代善吉の長男にして明治十七年七月三十一日を以て生れ同四十二年家督を相續し襲名す米穀商を營み現に北海道多額納稅者にして直接國稅一千二百八十二圓を納む又前記各銀行會社の重役にして囊に函館商業會議所特別議員たりし事あり家族は尙五男泰猷(大四、八生)八男落彌(同九、七生)九男卓爾(同一一、四生)妹榮(明三四、五生)あり弟善治(同二一、三生)同妻ユキ(同二四、一一生、北海道、田邊善吉妹)同妻ユキ(同二四、一一生、北海道、田邊善吉妹)は共に分家し妹治(同二九、九生)も亦分家せり(函館市西濱町二八電三四〇)

太刀川平四郎

明光堂、鉄力印刷並製罫及機械製作業、東京府在籍

妻　トキ　明一八、六生、群馬、佐羽麟太郎姉
男　正一郎　大元、一一生、早大在學
　　榮子　大五、九生、福島、大木昇從妹
　　智惠　東洋英和女學校出身

君は新潟縣人太刀川善藏の三男にして同平治の兄なり明治十年一月二十三日を以て生れ後叔父倉治の養子となり同二十年家督を相續す明光堂と稱し鉄力印刷並製罫及機械製作業を營む長女百合(明四一、一二生)は京都府人太刀川英次郎に嫁せりA四〇四B一九一(東京市本所區龜澤町二ノ三電本所八二四)
參照＝太刀川平治の項

太刀川平治

正八位勳六等、工學博士、東京電燈、東宣灣電氣、關東水力電氣、大井、川水力電氣、東信電氣各㊟取締役、東電電球㊟監査役
東京府在籍

妻　ミツ　明二〇、一生、男爵富井政章長女、御茶の水高女出身
男　襄治　大三、一〇生、武藏高校在學
女　惇子　明四二、九生
女　悅子　明四四、九生

君は新潟縣人太刀川善藏の四男にして同平四郎の弟なり明治十年四月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業して遞信省に入り日露戰役中軍務に服し後渡米三ヶ年の研究を遂げて歸朝し神戸三菱造船所電氣工場主任猪苗代水力電氣會社電氣課長を經て東京電燈會社常務取締役兼工務部長となる現時同社取締役の外前記各會社の重役たり囊に工學博士の學位を授けられ電氣學會長商工省工業品規格統一調査委員に擧げらる家族は尙二男眞治(大六、九生)三男恭治(昭二、一生)ありA四二六六(東京市小石川區駕籠町二〇三電大塚六四八)
參照＝男爵富井政章、太刀川平四郎※植村甲午郎の項

太刀川久八郎

勳六等、太刀川㊟代表社員、船舶合同事務所長、海事研究會常務委員、東京府在籍

妻　酉　明六、三生、東京、士、荻島成之助妹、太刀川㊟出資社員
男　英雄　明二九、八生、正七位、辯護士、法學士

君は新潟縣人太刀川守太郎の弟にして元治元年十二月九日を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す現時太刀川合名會社代表社員にして船舶合同事務所長海事研究會常務委員たり家族は尙庶子八千代(大九、三生、生母、滋賀、榎常)同太郎(同一三、三生、生母同上)あり(東京市牛込區原町二ノ一八)

田井九一

從四位勳四等、前鐵道技師
兵庫縣在籍

妻　セイ　明一九、一生、和歌山、宇治泌妹
男　梁之　明四二、六生

君は兵庫縣士族田井司の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十八年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し同四十一年帝國鐵道廳技手となり次で技師に進み鐵道局技師に任じ神戸東京各鐵道局工務課保線係長札幌仙臺各鐵道局工務課長を經て昭和二年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後內務技師兼拓務技師に任ぜられ監督局技術課長たりしが現時官を辭し閑地に在り家族は尙二男明(大四、一〇生)三男圭三(同七、一生)三女光子(同九、一〇生)四男修(同一二、一二生)四女雪子(同一五、一一生)あり長女宣子(明四四、五生)は他に嫁せり(東京市目黑區高木町一五一四電祿原二四四九)

(※印は姻族關係)

田井深　醫師　京都府在籍
母　くに　慶應三、二生
妻　ノブ　明一八、七生、京都、士、河村信一妹
男　汪　大三、二生
女　喜美枝　明四三、九生
女　富美枝　大五、八生

君は京都府人田井兵太郎の長男にして明治十六年十二月五日を以て生れ後家督を相續し前名儀太郎を改む醫師として知らる家族は尚二男清（大七、七生）四女登美枝（同一一、一生）三男洗（同一五、五生）四男淳（昭三、四生）あり長女義枝（明四〇、五生）は兵庫縣人濱路政紀に嫁せりA七九八（京都市東山區袋堀一ノ七九電東一八八六）

田内幸治　中外拓殖、中外勸業各種監査役
高知縣在籍
妻　止可枝　明二一、一生、高知、江澤圭麿四女、高知縣立高女出身
女　須可子　大元、一二生、婦人の友社員、自由學園出身
女　美穂　大六、三生、御茶の水高女出身、自由學園在學
女　多代子　大八、二生、自由學園在學

君は高知縣人田内嘉藏の長男にして明治十五年一月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十九年東京高等商業學校を卒業し實業界の人となり現時前記各會社の重役たり家績は尚五女慶子（大一二、一生）弟一城（明一九、三生）同妻辰子（同二六、八生、高知、東川和三郎長女）及其子女あり長女幸枝（同四一、九生）は高知縣人森澤泰治に嫁せり（東京市豊島區雑司ヶ谷町六ノ一一一九）

田内三吉　正三位勳一等、陸軍少將、宮中顧問官、學習院御養育掛長
東京府在籍
妻　龍　慶應三、一〇生、高知、士、藤井守馬二女
男　一郎　明二六、一一生、陸軍歩兵少佐
婿　幸　明三七、六生、長男一郎妻、東京森義臣長女
男　五郎　明四一、四生、三井物産會社員、慶大經濟學部出身

君は舊高知藩士田内銘吾の二男にして安政三年二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す夙に身を軍籍に投じ明治三十一年東宮武官となり後累進して陸軍少將に陞り豫備役編入後仰付宮中顧問官（東宮侍從となり又侍從に任ぜらる大正三年閑院宮別當に轉任し同四年澄宮御養育掛長となり昭和二年別當を辭し現に前記の職に在り家族は尚孫幸一（昭六、一生、長男一郎長男）あり長女多鶴（明二二、三生）は熊本縣士族山室宗文弟宗武に二女久（同二四、九生）は京都府士族橋本昌世長治長男好毅に嫁せりA二二三（東京市芝區高輪西臺町一御料地内官舎電高輪六）
参照＝橋本児之助の項

田内森三郎　正五位勳五等、理學博士、水産講習所教授、愛知縣在籍
妻　琉璃　明三五、一生、愛知縣人
上野高女出身
男　忍　大一二、九生
男　東京、笃恒八孫、大一二、九生

君は愛知縣人田内佐藏の二男にして明治二十五年五月十五日を以て生れ大正十一年家督を相續す同六年東京帝國大學理科大學理論物理學科を卒業し同九年水産講習所教授に任じ爾で同技師に轉じ昭和四年再ひ同教授に任じ同二年理學博士の學位を授けらる家族は尚長女アヤ子（大一〇、二生、香蘭高女在學）二女エミ子（同一五、九生）二男力（昭四、一生）三男治（同六、一生）あり（東京市芝區白金三光町三二三）

田岡美代子　田岡工場主、電機並諸機械製造業
東京府在籍

君は東京府人田岡英一郎の長女にして大正三年七月を以て生れ同十五年家督を相續す田岡工場を經營し電機並に諸機械製造業に從事す家族は尚妹三重子（大六、一生）同富美子（同八、二生）同久美子（同一一、一〇生）ありA九〇一B一七二（東京市芝區本芝一ノ二六電三田三八四）

田頭百太郎　家主、大阪府在籍
妻はタネ　明八、一〇生、大阪、磯野與三郎三女
男　シゲ　明二八、六生、養父八郎兵衛長女
男　勇作　大一五、一一生
女　ノチ代　大六、一生

君は大阪府人村田德次郎の三男にして明治二十三年四月を以て生れ先代八郎兵衛の養子となり大正十年家督を相續す家主たりA三七四（大阪市北區木幡町四八）

田上壽作　日本ビルディング、帝國火災保險各種監査役、廣島縣在籍
妻　シツ　明二一、六生、廣島、木原善三郎孫
男　眞名　明三七、二生、日本火災保險會社員、農學士

君は廣島縣人田上陽次郎の二男にして明治十二年四月を以て生れ同三十一年兄爲吉の後を承け家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚四男清（大五、六生、第一早稲田高等學院在學）長女ミツエ（明三九、八生、府立第五高女出身）は東京府人釘宮磐弟眞石に二女壽子（同四四、二生、麹町高女出身）は廣島縣人三好振三郎に三女文子（大二、一〇生、三輪田高女出身）は東京府人勝田泰一に嫁し弟鵬造（明一四、九生）は同妻シゲ（同二六、一生、廣島、越智輔藏妹）と共に其一子を伴ひ分家し弟耕一（同一七、五生）は千葉縣人吉岡竹次郎の養子となり同榮（同一九、二生）は廣島縣人山田トラの家籍に入れりA三一一（東京市麻布區三河臺町一四電赤坂一五四五）
参照＝釘宮磐の項

田川謙吉　正五位勳三等、獸醫學博士、獸醫監、第四師團獸醫部長
東京府在籍
妻　銀子　明二七、三生、岡山、士、三浦誠吉郎二女、宮田女學校出身
男　一夫　大三、五生、宮田女學校出身
女　幸子　大八、二生、東京府立第三高女在學

君は東京府士族現戸主田川正二郎の弟にして明治十六年九月三十日を以て生る同四十二年東京帝國大學獸醫學科を卒業し直に軍籍に入り二等獸醫に任じ爾來累進して昭和三年一等獸醫正に同七年獸醫監に陞任す其間陸軍獸醫學校教官第四第三各師團獸醫部長等に歴補し現に前記の職に在り義に獸醫學博士の學位を受く家族は尚二男二夫（大五、一生、早稲田高等學院在學）あり

大阪市東區第四師團獸醫部内）
参照＝田川正二郎の項

田川正二郎　神岡水電株式會社、三井鑛山株式會社、三井物産株式會社顧問
東京府士族
妻　政四、三生、大阪、親勅兵衛長女
母　つね　明一六、一生、山口、馬屋原二郎長女、大阪梅田高女出身
妻　ウメ　明三五、三生、三井物産會社員、慶大出身
誠　明三九、四生、三菱銀行員、青山學院出身
男　武　明四〇、六生、新潟鐵工所蒲田工場勤務、早大理工學部出身
男　寛　明四三、三生、東神倉庫會社員
男　潔　明四五、三生、東京商學部出身

君は東京府士族田川義照の長男にして明治九年七月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業實業界に入り現時神岡水電會社常務取締役たる外三井鑛山會社顧問たり家族は尚十男茂（大七、七生）弟謙吉（明一六、九生）あり長女千代子（同三七、一一生、東京晉樂學校出身）は東京府人古河電機工業會社員早大出身本田成美に嫁せりA二二五〇（東京市目黒區下目黒一ノ五電高輪四三八一〇）
参照＝田川謙吉※編澤大四郎の項

田川大吉郎　明治學院總理、著述業
長崎縣士族
繼母　コト　文久二、一〇生、長崎、士、富永久雄叔母
妻　直　明一八、六生、京都、中江種造三女
男　信一　明三四、六生、經濟學士
婦　イク　明三八、四生、長男信一妻、兵庫庄司乙吉二女
男　文二　明七、八生、米國コロネル大學出身

當家は舊大村藩主大村家の世臣たり君は先代節造の長男にして明治二年十月を以て生れ同三十六年家督を相續す同二十二年東京專門學校政治科を卒業し報知新聞記者郵新聞記者東京市吏陸軍通譯等を經て同四十一年東京市助役に擧げられ第三都長兼下水改良事務所長に任ぜらる同年以來郷里長崎縣及東京府より推されて衆議院議員に當選する事六回往年大隈内閣の下に司法參政官たり曾て日本大博覽會理事商科大學講師たりし事あり現時明治學院總理たり米國を視察する事三回英國を中心として各國を巡遊する事二回にして「英國の皇室及議會」「社會改良史論」「都市政策汎論」其他の著あり家族は尚三男行三（大四、二生、慶大在學）五女安子（同一〇、一一生、雙葉高女在學）四男忠（同一二、六生）五男敬吾（昭二、三生）孫和子（同三、一〇生、長男信一長女）同俊一（同五、六生、同長男）あり長女ヨシノ（明三〇、一生）は高知縣人細木盛枝に二女靜江（同四二、四生）は滋賀縣人法學士西川彌之助に妹ハマ（同五、五生）は長崎縣人吉田茂平に同トナ（同一〇、九生）は同縣士族牛津久次郎に嫁し弟捨三郎（同一一、三生）同妻チイ（同二五、三生、長崎、士、河野愈三郎妹）は其子女を伴ひ分家せり（東京市小石川區小日向臺町二ノ二五電大塚四四八八）
参照＝庄司乙吉※宮崎勝太郎の項

田川平三郎　横須賀市參事會員、神奈川縣多額納稅者、田浦土地建物、横須賀合同各種社長、鎌倉銀行株式會社取締役、米酒商、神奈川縣在籍
妻　クラ　明四、一一生、菱父幸藏三女
男　誠治　明二五、八生、藤倉電線會社員
男　光三　明三二、一一生、慶大理財科出身
婿　ヤマ　明三六、四生、三男光三妻、神奈川、澤村政太郎二女
男　平二郎　明四二、一二生、早大出身
男　完吾　大二、二生

君は三重縣人高橋萬藏の次男にして明治元年三月三十日を以て生れ田川幸藏の養子となり同三十四年養弟國銀行會社の重役にして直接國稅千八百二十四圓を納め太郎の後を承け家督を相續す米酒商を營み現時前記各神奈川縣多額納稅者に列し推されて横須賀市參事會員たり家族は尚孫靜子（大一五、一二生、三男光三長女）あり二女郁子（明三六、一生）は熊本縣人松岡進一に三女照子（同三九、九生）は神奈川縣人河野一郎に嫁せり（横須賀市浦郷町四五六八電二）

田北道衛　福岡縣多額納稅者、農業
福岡縣士族
繼母　フク　元治元、一生、福岡、鍋田唯七二女
男　牧太郎　明四三、二生
女　ヒデ　大三、二生
女　千里　大五、八生

君は福岡縣士族田北辰三郎の長男にして明治十二年六月二十日を以て生れ同三十七年家督を相續す農業を營み直接國稅千九百六十圓を納め福岡縣多額納稅者たり家族は尚五女リツ（大一五、三生）從弟隆美（明二九、六生、亡叔父博亮長男）同妻シズエ（同三三、一生、熊本士、佐川豊姉）及其二子あり三女キク（大一〇、四生）四女スイ（同一二、九生）は共に福岡縣人菊地唯了養子道英の養子となれり（福岡縣山門郡三橋村）

田口明　田口商會株式會社取締役、墨汁製造業
東京府在籍
母　榮　明二〇、八生、栃木、安生順一妹
東京女學館出身

君は東京府人田口精爾の長男にして明治四十一年八月五日を以て生れ昭和三年家督を相續す同七年慶應義塾大學經濟學部を卒業し父榮を繼ぎ墨汁製造業を營み現に田口商會取締役たりスポーツ讀書に趣味を有す家族は尚弟鵬二（明四三、三生）妹道子（同四四、一〇生、府立第六高女出身）同節子（大五、四生、出身校同上）同可子（同一二、四生）あり姉實津（明四一、五生）は東京府人窪田利七に嫁せりA四四三（東京市芝區三田小山町二〇電三田三七〇）
参照＝窪田利七の項

田口一太　ハーレーダビットソンモーターサイクル販賣所、住友アルミニューム、日本ペークライト各種取締役
高峰保全株式會社監査役、東京府在籍
妻　常子　明三二、七生、東京、松方正作二女
女　和子　大八、二生

君は埼玉縣人田口牛七の二男にして明治十八年九月十五日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す夙に横濱商業學校を出で英語を修め明治四十年米國大統領タフト卿の來朝に際し擢でられて隨行員となり北米に航し

同地に於て故高峰譲吉博士の知遇を受け其の紹介書役に重用せられ同博士の三共株式會社々長に就任するや君又直接間接之れに關與する所ありたり現時前記各會社の重役として知らるA七六八（東京市品川區北品川三ノ三二二電高輪二二一一）

参照＝松方正作の項

田口榮藏　西宮市會議員、兵庫縣多額納稅者、桶木樽丸問屋業、兵庫縣在籍

妻　ひろ　明一八、三生、大阪、上念政七妹
　　積　二　大七、八生

君は和歌山縣人先代榮藏の長男山村德太郎の兄にして明治十一年一月を以て生れ大正元年家督を相續し前名虎之介を改め襲名す桶木樽丸問屋業を營み兵庫縣多額納稅者にして推されて西宮市會議員たり家族は尙妹さえ（明二一、一二生）あり弟辨七（同一八、五生）は其妻幸枝（同二〇、二生、兵庫、吉岡新三郎長女）及其一子を伴ひ同重太郎（同一九、一二生）は其妻田鶴（同二四、七生、兵庫、岸本勝藏長女）及其一子を伴ひ各分家し同正藏（同二六、六生）も亦分家し妹ゆき（同二八、四生）は同縣人田口榮藏の養子となり同ふさ（同一六、七生）は同縣人山口慶吉叔父久吉に嫁せりA一九六四B四九〇（西宮市東町三ノ一六八電四）

参照＝山口慶吉、山村德太郎の項

田口勝次郎　關東製氷㈱取締役、日本綿綿製織㈱監査役、栃木縣在籍

妻　マサ　明九、六生、群馬、岩崎民三郎二女

明二七、六生、早大商學部出身
明三六、四生、長男武雄妻、北海道市藏五女
男　安　孝　明三八、一生、早大商學部出身
　　光　敏　明三九、二生、早大商學部出身
　　雄　（陸軍平四女
　　（陸軍

君は栃木縣人先代勝次郎の長男にして明治五年八月を以て生れ同十年家督を相續し製名す夙に家業材木商に從事せしが轉じて天然氷製造業に從事し後其組織を改め關東製氷會社を設立し現に其取締役にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙孫輩（大一二、八生、長男武雄長男）同惠美子（同一三、九生、同長女）同峯子（昭四、九生、二男安壽長女）あり庶子ツネ（明二六、一二生）は岩手縣士族日野玄一郎叔父和に嫁せり（栃木縣安蘇郡堀米町）

参照＝※塚越正司の項

田口勝太　醫學博士、報知新聞社㈱診療所長、醫師、東京府在籍

妻　澄子　明三二、一生、東京、益井信長女
　　郁子　大六、一二生

君は大分縣人田口ミキの三男にして明治十八年十二月一日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す醫師にして蠱に醫學博士の學位を授けらる現時報知新聞社診療所長として知らる家族は尙二女絢子（大九、五生）三女葉子（同一三、三生）あり（東京市荏原區中延町一〇七二電荏原三〇一五）

田口喜一郎　埼玉縣在籍田口商科醫院長、商科醫師

妻　イノ　明三三、九生、埼玉、間下孫雄四女

君は埼玉縣人田口廣三郎の二男にして明治二十三年三月二十日を以て生れ大正五年先代兄軌次の後を承け家督を相續す夙に日本商科醫學專門學校を卒業し大正二年商科醫を開業田口商科醫院を經營し其院長たり家族は尙二男直弘（大一二、六生）三男有信（同一五、一生）四男眞也（昭三、五生）五男當己（同五、七生）長女順子（同七、五生）あり（東京市京橋區京橋一ノ六電京橋二八六四）

田口教一　從五位勳六等、農林技師兼拓務技師、農林省畜產局勤務、岐阜縣在籍

母　ヲシヘ　安政六、一生
妻　千代子　明三二、五生
男　孝文　大九、四生

君は岐阜縣人にして明治二十四年八月を以て生る大正六年東京帝國大農學科大學農學科を卒業し後京都府農業技師兼京都府種畜場技師に任じ大正七年京都府種畜場長となり同十一年畜產試驗場技師に任ぜられ中國支場長となり後九州支場長兼務を命ぜらる同十四年種羊場技師兼畜產試驗場技師に轉じ月寒種羊場長となり次で種鷄場技師大宮種鷄場長等に歷任し昭和七年農林技師に任じ畜產局に勤務し拓務技師を兼ね現在に至る嘗に戰回歐米各國及び滿洲新西蘭土等に出張す家族は尙長女和代（昭二、一二生）二女滿代（同五、一〇生）あり（東京市王子區稻付西町六ノ三五）

田口邦重　大宮瓦斯㈱社長、熱海瓦斯、東京麥酒各㈱取締役、帝國興業、丸ノ內ホテル各㈱監査役、栃木縣在籍

養父　喜八郎
養母　キン
妻　ろく　明一七、二生、東京、里見義隆養妹
男　重郎　明四〇、八生、大宮瓦斯㈱支配人
　　成城高等學校出身
女　絢子　大元、八生、府立第二高女出身
　　道子　大五、二生、跡見女學校出身

君は栃木縣人上野定一郎の二男にして明治十五年十一月十五日を以て生れ後父の生家田口家に嗣子なき故を以て叔父喜八郎の養子となる同十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し久原鑛業會社に入り庶務課長に進み後日本麥酒鑛泉會社に轉じ支配人となり次で取締役に就任せしが昭和八年同社が大日本麥酒會社に合併せらるゝに及び退職す現時大宮瓦斯會社長の外前記各會社の重役たり乘馬に趣味を有す長女美枝子（明四三、二生、跡見女學校出身）は東京府人日本郵船會社員工學士岡田榮一に嫁せりA一〇二五（東京市本郷區丸山福山町六電小石川五三六〇）

田口耕平　三和銀行㈱審査第一課次長、東京府在籍

妻　恒　明三二、一生、東京、酒井宮橋長女、東京女學館出身
男　恭平　大一五、五生

君は岐阜縣人安江順二郎の三男にして明治二十四年七月二日を以て生れ大正七年廢家田口氏を再興す同六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し山口銀行に入り同行京城支店長丸ノ內支店長本店總務部次長等に歷任し昭和八年山口三十四湯池三銀行の合併して三和銀行となるに及び其審査第一課次長に就任す家族は尙長女武子（大一三、四生）あり（兵庫縣武庫郡精道村芦屋）

田口興淳　日本坩堝㈱取締役、西田商店㈱監査役、東京府士族

男　元　明四〇、九生
　　大三、三生、長男元妻、福島、佐藤美千代二女
婦　正子　明二一、一生
女　孝　明二一、一生

君は東京府士族田口興治の長男にして文久元年一月二日を以て生れ明治二十五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり孫興豊（明三七、一一生、長女孝長男）は分家せりA七六二（東京市芝區三田小山町三電高輪五一〇）

田口シケ　田口組家具裝飾部、洋家具製造業、東京府在籍

君は東京府人佐久間茂兵衛の長女にして明治十七年十一月を以て生れ昭和九年家督を相續す田口組家具裝飾部と稱し洋家具製造業を營むA三二四B一三二（東京市京橋區横町二ノ一電京橋六一一）

田口十一郎　勳七等、脇野町銀行㈱頭取、新潟縣在籍

妻　サウ　文久元、一生、新潟、安立數衛三女
男　半　明一〇、五生
婦　タキ　明二〇、二生、長男半妻、新潟、西卷傳重郎長女
孫　半式　明四一、六生、長男半男
孫　ヤス　明四五、六生、長男半四女

君は新潟縣人山口平三郎の六男同政治の兄にして大塚益郎の弟なり安政五年八月を以て生れ先代半二の養子となり明治十八年家督を相續す新潟縣會議員脇野町村長三島郡教育會々長三島農商銀行重役等に擧げられ教育事業村政に盡せる功顯る多し現時脇野町銀行頭取たり二男道教（明一二、四生）は新潟縣人河內藤三郎の養子となり三男在中（同一四、一生）四男愼二（同一八、二生）は各分家し長女マキ（同一六、一生）は新潟縣人元井八十一に二女カウ（同二〇、二生）は同縣人岩本恕三郎長男恒太郎に三女フジ（同二二、三生）は同縣人大塚豊三郎長男清一郎に四女ミキ（同二七、七生）は同縣人倉品廣吉に六女スミ（同三三、六生）は同縣人竹田義武に孫ナカ（同三八、一生、長男半二女）は同縣人萩野義平に嫁せり（新潟縣三島郡脇野町村電二〇）

参照＝山口政治の項

田口重一　鹽原重工㈱取締役、金萬證券㈱監査役、東京株式取引所取引員、東京府在籍

男　太一郎　明三二、七生
婦　フジ　明四〇、八生、長男太一妻、東京田中茂一孫
男　眞二　明三七、四生
婦　理知子　明四一、四生、二男眞二妻、東京戶田直一道妹
男　一雄　明四三、五生
男　義一　明四五、四生
男　五郎　大三、一生

君は東京府人中西仲五の兄にして明治五年八月二十三日を以て生れ同三十二年先代太七の養子となり同年家督を相續す現に東京株式取引所一般短期實物取引員にして傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙孫佐知子（昭七、一生、二男眞二長女）あり二女シゲ（明三九、五生）は栃木縣人釜井盛四郎に嫁すA六八二七B一〇四九（東京市日本橋區兜町二ノ三二電長谷場町二五三二）

田口順一郎　長野縣多額納稅者、飯田土地建物㈱監査役、酒造業、長野縣在籍

妻　むめえ　明一五、三生、長野、松澤鷹三妹
男　良三　明三四、六生、飯田町會議員、飯田商工會議所議員
男　秀男　明三七、九生
男　三郎　明四〇、八生
男　榮之助　明四三、二生
婦　せつ　明三八、二生、二男良三妻、長野牧野內永治長女
男　正吾　大元、九生、第一早稻田高等學院在學

女　ひろ子　大八、一生

君は長野縣人田口金助の長男にして明治九年六月二十一日を以て生れ昭和三年帝國廣治方より分れて一家を創立す酒造業を營み傍ら前記會社の重役にして所得調査委員に擧げられ縣下の多額納稅者に列し直接國稅九百七十圓を納む家族は尙七男莊次郎（大四、一生、富山高校在學）八男邦治郎（同六、七生）九男啓治（同一一、五生）十男武男（同一三、九生）孫元（同一五、八生、二男良三長男）同勳（昭三、一一生、同二男）あり（長野縣下伊那郡飯田町櫻一〇〇電五六八）

田口正平　參天堂㈱取締役、日本高級煙材製造所㈱社長、東京府在籍

母　たけ　明元、六生、兵庫、竹內玄林三女、參天堂㈱取締役、同志社女學校出身

當家は舊廣島藩士にして世々勤定所に勤む先代謙吉夙に大阪に於て藥種を經營し海外直輸出に從事す後組織を株式に改め參天堂と稱し其社長に推さる君は其長男にして明治二十九年九月を以て生れ昭和三年家督を相續す先是京都帝國大學經濟學部を卒業し家業を繼ぎ現時其取締役たり家族は尙妹和（明三一、一〇生、日本女子大學家政科出身）は故海軍大將名和又八郎長男工學士海軍造兵中佐武に嫁せりA二五九（東京市小石川區小日向臺町二ノ一電大塚四六八五）

田口晉吉　前日本勤業銀行㈱監査役、秋田縣士族

妻　英　明一四、五生、鹿兒島、中村千代彥從妹
男　謙三　明三五、九生、早大文科出身

君は實秋田藩士田口政五郎の二男にして明治七年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す先是明治三十一年東京帝國大學農科大學を卒業し直に日本勤業銀行に入り鑑査課に勤務すること實に二十餘年大正八年より九年迄西貢遲羅關貢支那等の外米產地を視察し同十一年同行富山支店長に擧げられ同十四年本店鑑定課長となり尋で同行監査役に推され後之を辭す スポーツに趣味を有す長女順子（明三九、九生、山脇高女出身）は香川縣人橫濱正金銀行員法學士森源三郎に嫁せりA八八九（東京市品川區大井元芝町七〇三電高輪四八五七）

田口弼一　從四位勳三等、衆議院書記官長、大分縣在籍

父　環　安政六、二生、現戶主、大分、田口兵次郎弟
母　ナカ　安政五、八生、大分、渡邊貞右衛門長女
妻　花子　明二二、三生、東京、秋月是藏長女、學習院女學部出身
男　正廣　大三、八生、慶大經濟學部豫科在學

女　トシ子　大七、一一生、東京女學館在學

君は大分縣人田口環の長男にして明治十五年十月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大分縣大分郡長同縣理事官兼議院書記官に歷任し昭和五年衆議院書記官長に任ぜられ法制審議會臨時委員被仰付叢に內務省參事官臨時議院建築局事務官同書記官行政裁判所評定官等を兼任せり又西比利亞支那及歐米各國に出張を命ぜらるる趣味に讀書ゴルフ等あり家族は尙二男和男（大五、一〇生、第二市立中在學）あり長女實子（同元、一〇生）は靜岡縣人宮崎五郎に妹ノブ（明二一、二生）は大分縣人田原淳に嫁せりA二四一（東京市麴町區內幸町衆議院構內官舍電銀座三〇二七）

參照‖※酒卷芳男の項

田口善一

妻　モトヨ　東京府多額納稅者、白十字堂、菓子商、鹿兒島縣在籍

孫　男　一郎　大一三、六生　明三三、三生、鹿兒島、本町福助

君は鹿兒島縣人田口龜吉の二男にして明治十九年四月十二日を以て生れ大正十年兄今助方より分れて一家を創立す夙に洋菓子の製造販賣に從ひ又喫茶店を經營し白十字堂本店として著聞す東京府多額納稅者にして直接國稅六千八十七圓を納む（東京市本郷區上富士前町一〇二電大塚六三一六）

田口惣八

母　なみ　酒類醋炭商　東京府在籍

妻　イヨ　安政元、七生、東京、小貝染三郎二女

男　三五郎　明一二、九生、東京、牛込源次郎妹　明三七、一一生

婦　みつ　明三六、九生、三男三五郎妻、東京、吉田菊次郎五女

男　富藏　明四二、六生

女　キヨ　大七、五生

君は東京府人田口八重藏の二男にして明治十一年七月二十九日を以て生れ同四十二年家督を相續す酒類醋炭商を營む家族は尙二女いと（大一四、九生）三女和子（昭三、八生）孫なみ子（大一五、三生、三男三五郎長女）同惣一（昭四、六生、同長男）同イヨ子（同七、七生、同三女）あり妹とよ（明一七、七生）は東京府人齊藤淺次郎に嫁し弟德太郎（同一九、九生）同妻みつ（同二一、一生、東京、岡本伊兵衛長女）は其四男一女と共に分家せりA五二（東京市足立區西新井町一〇二九）

田口達三

妻　シヅ　堺辰、魚商　東京府在籍

男　篤一郎　明二一、一一生、東京、杉山留吉三女

男　鋭二　明四三、一生

男　順三　明四五、四生　大三、一二生

君は埼玉縣人田口與三の二男にして明治十六年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す堺辰と稱し魚商を營む家族は尙長女榮子（大一三、一四、一二生）四男隆三（同一四、一二生）ありA三三四B一二六（東京市京橋區築地二ノ六ノ二電京橋六八五三）

田口環

妻　清子　正五位勳四等、檢事、盛岡地方裁判所檢事正、熊本縣在籍

男　寬　明二六、九生、長野、百瀨武策二女

女　秀子　大四、一生

女　敏子　大八、一〇生

君は熊本縣人秋永勝房の三男陸軍一等主計正第十師團經理部長木崎求馬の實兄住友銀行名古屋支店長代理百瀨涉及昭和生命保險會社札幌支部長永田潔の各義兄に當る大正十年五月を以て生れ先代充輝の養子となり大正十三年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十二年檢事に任じ爾來山形區同地方都城區山鹿區熊本區大分區同地方竹田區福岡區同地方都長崎區同地方島原區下關區岩國區水戶區同地方東京地方大津地方同區各裁判所檢事に歷補し大阪廣島各控訴院檢事及鎭路地方裁判所檢事正を經て現時盛岡地方裁判所檢事正たり家族は尙四女文子（大一〇、一一生）五女和子（同一三、八生）二男關（昭四、七生）六女七重（同七、二生）あり（盛岡市仁王第一地割字丸內九八官舍電二三）

田口傳右衛門

大阪屋、茶商　東京府在籍

男　忠三郎　明四一、三生、中央大學商學部出身

婦　榮　大二、七生、東京、鈴木源太郎妹

君は東京府人先々代田口傳右衛門の長男にして明治元年三月を以て生れ同十六年弟廣吉の跡を承け家督を相續し後前名梅吉を改む大阪屋と稱し茶商を營む蘭に東京商業會議所議員に擧げられし事あり家族は尙孫芳樹（昭七、一生、三男忠三郎長男）ありと長男芳太郎妻仙（明二七、一生、東京、辻芳妹）は分家し二男金治郎（同三〇、八生）同妻たま（同三四、六生、東京、太田彌三郎二女）も亦共に分家し長女トヨ（同三六、一生）は東京府人窪田平三郎養子長二郎に嫁せりA四六七B一三九（東京市神田區旅籠町二ノ一電下谷二八七一）

田口虎次

妻　すゞ　茨城無煙炭礦、茨城無煙炭販賣各㈱取締役、東京府在籍

男　武夫　明三九、四生、日立製作所員、工學士

男　義夫　明四三、四生

女　知子　大八、二生

君は岐阜縣人田口集吉の二男にして明治六年九月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す夙に茨城無煙炭礦會社に入り巢邇して支配人となり現時取締役に擧げられ傍ら茨城無煙炭販賣會社の重役を兼ぬ家族は尙四女和子（大一一、二生）あり長女治子（明三七、三生）は福岡縣人關東廳技師農事試驗場長農學士中富貞夫に二女巷子（同四四、一二生）は愛知縣人電氣化學工業會社員法學士大野俊雄に嫁せり（東京市赤坂區新坂町六九電青山五七一三）

參照‖※喜多吉兵衛の項

田口文次

動四等、衆議院議員（佐賀縣選出）　肥前日日新聞社㈱取締役、農業　佐賀縣士族

妻　ヒサツル　慶應三、一生、佐賀、士、晴氣作一郎二女

男　芳一　明二四、一二生

婦　ムメノ　明三五、九生、長男芳一妻、佐賀竹下雷太郎長女

男　理三　明二八、九生

婦　フヂ　明三三、六生、二男理三妻、佐賀山下寶太郎孫

男　五三　明三七、三生

男　末雄　明四二、一生

君は佐賀縣士族田口壽弼の二男にして明治元年四月十二日を以て生れ先代覺右衛門の養子となり同五年家督を相續す夙に慶應義塾及東京專門學校に學び農を業とし佐賀縣會議員同參事會員同議長同縣農會長立憲政友會佐賀縣支部長等に擧げられ衆議院議員に當選すること三回に及び現に其任に在り立憲政友會所屬たり家族は尙孫武人（大一三、二生、長男芳一長男）同次男（昭二、一生、同二男）同文雄（同四、三生、同三男）同フサ（大一二、一生、二男理三長女）同文利（同一四、一生、同長男）同正敏（昭三、三生、同二男）あり二女ヤス（明三一、六生）は佐賀縣人松園龍雄に嫁せり（佐賀縣杵島郡江北村）

田口松太郎

父　松藏　秋田縣會議員、秋田市會議長、秋田縣農會議員、食料品商　秋田縣在籍　安政二、一生

妻　ミトリ　明一九、一二生、秋田、大友豹治姪

男　正男　明四三、一〇生、報知新聞社員、明大商科出身

男　國男　大二、五生、日立工場社員、横濱高商出身

君は秋田縣人田口松藏の長男にして明治十五年七月を以て生れ昭和四年家督を相續す食料品商並に各新聞取次販賣業を營み推されて秋田縣會議員同縣農會議員秋田市會議長たり義に秋田商工會議所議員同會議所副會頭秋田縣參事會員たり家族は尙三男英男（大五、五生）四男芳男（同七、一生）五男哲男（同八、一二生）二女光子（同一一、一二生）三女アイ子（同一四、四生）あり長女トシ（明四一、一生）は秋田縣人勸銀京都支店副支配人神馬喜助に妹キミ（同二七、一一生）は同縣士族古橋苟吉弟顧孝に同ヨシ（同三一、一一生）は同縣人榊田東治長男治之助に同ヤエ（同三四、六生）は千葉縣人忍足才兵衛に嫁し弟良藏（同一八、九生）は分家せり（秋田市大町一電四六二・四六三）

田口易之

正五位勳四等、大分縣知事　岡山縣在籍

妻　采　明二六、六生、福井、鈴木虎一三女

君は岡山縣人田口德一郎の二男にして明治十六年二月二十四日を以て生れ大正五年兄寄文治方より分れて一家を創立す同元年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同三年檢事に任じ名古屋地方同區岡山區彙同地方輪島區金澤區同地方各裁判所檢事大阪區同地方神戶區各警察部長山梨縣內務部長新潟縣內務部長佐賀高知愛媛京都各府縣內務部長を經て昭和七年大分縣知事に任じ今日に至る（大分市荷揚町官舍電一）

參照‖鈴木虎一の項

田口庸三

妻　かね　埼玉縣多額納稅者、足利銀行㈱頭取、埼玉縣在籍　明二〇、三生、茨城、小倉敍三郎二女

女　松代　大三、八生

君は埼玉縣人田口與左衛門の長男にして明治十二年三月二十七日を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し安田保善社に入り更に安田家主宰大阪百三十銀行に轉じ同行韓國總支店調査部長となり後第三銀行に轉じ米子函館各支店長を經て大正七年同行を退き現時足利銀行頭取にして埼玉縣多額納稅者に列す義に埼玉農工銀行重役を兼ねたりA三一七一（埼玉縣北埼玉郡村君村）

田倉孝雄

妻　タケ　日榮商事、安達實業、二本松電氣各㈱取締役、二本松信磐城水產工業㈱監査役、福島縣在籍　明一二、四生、養父岱洲長女

男　秀雄　明三八、一一生、產業組合中央金庫用組合長、福島縣在籍

君は山形縣人竹內茂之の弟にして明治五年一月一日を以て生れ先代岱洲の養子となり後家督を相續す同三十勤務、法學士

君は愛媛縣人田坂義右衛門の三男にして明治十二年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年日本大學を卒業し農業を營む蘭に福島縣會議員に選ばれ同副議長に擧げらる長女士並辨理士を開業して今日に至る家族は尙五男耕一郎（大五、一二生、成蹊高校在學）六男文吾（同八、一生）七男章三（同一〇、八生）八男友男（同一二、五生）あり弟義道（明一五、九生）同妻ミネヨ（同二八、二生、愛媛七に嫁せり（福島縣安達郡二本松町電二〇）

田子一民

正五位勳三等、衆議院議員（岩手縣選出）、岩手縣士族　明一六、一一生、秋田、福岡易之助姉、日本女大出身

妻　靜江　明四一、七生、三菱銀行員、法學士

男　榮　明四五、七生、古河合名會社員、法學士

男　稔　大三、九生、東京御茶の水高女出身

女　富美

君は岩手縣士族田子勸治の二男にして明治十四年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し山口縣警部同縣都濃郡長同縣警察部長內務省警保局警務保局警務保安課書各課長地方局市町村府縣社會各課長同社會局第一課長兼第二課長社會局長三重縣知事等に歷任す鄕黨より推されて衆議院議員に當選すること三回現時其任に在り政友會所屬たり又協調會中央報德會各理事たり家族は尙三男篤（大七、七生）四男勉（同九、三生）あり二女千鶴子（明四三、一二生）は東京府人工學士西鄕隆興に嫁せりA一六一（東京市品川區上大崎中丸三八二電高輪一九一二）

田坂貞雄

辯護士、辨理士　愛媛縣在籍

妻　梅尾　明一六、九生、埼玉、河上秀雄妹

男　乾吉郎　明三八、一一生、文化學院美術科出身

婦　小夜子　明四五、四生、男乾吉郎妻、東京山本犀藏長女、府立第三高女出身

男　駿　明四一、九生、京都地方裁判所司法官試補、法學士

女　和子　大三、九生、文化學院出身

君は愛媛縣人田坂義右衛門の三男にして明治十二年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年日本大學を卒業し翌三十八年辯護士試驗に合格す爾來辯護士並辨理士を開業して今日に至る家族は尙五男耕一郎（大五、一二生、成蹊高校在學）六男文吾（同八、一生）七男章三（同一〇、八生）八男友男（同一二、五生）あり弟義道（明一五、九生）同妻ミネヨ（同二八、二生、愛媛

工藤甲子郎四女）は其子女を伴ひ分家せり（東京市品川區大井庚町四八三二「事務所」京橋區銀座西三ノ一碌々館内電京橋三七二九）

田阪一郎　三菱商事金屬部副長
父　藤平　愛媛縣在籍
母　タケヨ　明元、一〇生、現戸主
妻　藤子　明五、九生、愛媛、日野悦多長女
男　重正　明三三、五生、東京、士、河村金五郎三女
大八、一生

君は愛媛縣人田阪藤平の二男にして明治二十二年六月八日を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し三菱合資會社に入り昭和四年三菱商事株式會社に轉じ金屬部副長となり同七年上海支店長同八年再び金屬部副長となり現在に至る家族は尙二男晧（大一〇、一生）の外妹有多子（明三三、九生）弟俊吉（同三六、一生）同妻米子（同四三、四生、愛媛、玉井弘四女）弟寛爾（同三八、四生）同元祐（同四四、一二生）妹吉子（大二、一二生）弟得多（同五、一生）あり妹國子（明二九、四生）は愛媛縣人加藤保次郎に同節季子（同四二、一生）は大阪府人戸田鎚次に嫁し弟健而老（同二四、八生）同妻栗子（同三三、九生、愛媛、芥川益太郎五女）は分家せり（東京市赤坂區靈南坂町二一）

参照‖河村金五郎※磯江泰雄の項

田崎重郎　長崎縣多額納稅者、佐世保譽行㈱取締役、酒造業、長崎縣士族
男　太助　明三六、一一生
婦　イチ　明四〇、一二生、二男太助妻、長崎、中尾滿三郎二女

君は長崎縣士族田崎太平次の三男にして明治三年六月十日を以て生れ同三十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時佐世保銀行取締役にして直接國稅二千五百二十三圓を納め縣下の多額納稅者たり養に面高銀行の重役たりし事あり酒造業を營む家族は尙孫滋（昭四、一二生、二男太助二男）あり長女マス（明三〇、一一生）は長崎縣人田崎義十の養子となり姉キク（慶應元、一一生）は同縣人宮崎幹長男南八に各嫁せり（長崎縣西彼杵郡瀬川村）

参照‖中尾滿三郎の項

田崎愼治　正四位勳二等、神戸商業大學長兼教授、神戸商工會議所顧問
妻　シゲ　兵庫縣在籍
男　幸次　明一八、七生、前衆議院議員室原重福長女
明四四、三生

君は長崎縣人田崎慶治の三男にして同周三郎の弟同武男の兄なり明治五年三月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同三十四年東京高等商業學校を卒業し同三十五年商業學研究の爲英獨兩國に留學し同三十九年英國バーミンガム大學を卒業して歸朝す同年長崎高等商業學校教授に任じ同四十一年神戸高等商業學校に轉じ次で同校長となり現時神戸商業大學長兼教授にして又推されて神戸商業會議所顧問たり家族は尙三男三郎（大四、九生）四男四郎（同七、三生）長女信（同九、一一生）あり（兵庫縣武庫郡御影町高羽電蒲合三六）

田崎仁義　正五位勳四等、經濟學博士、陸軍主計、大阪商科大學教授
母　ツタ　安政四、二生、新潟、植木直左衛門長女
妻　フミ　明一九、一二生、廣島、士、百三郎四女、日本女子商業校高等科用身
男　高義　大三、四生、京大工學部在學

君は新潟縣人田崎恒四郎の二男にして明治十三年七月を以て生れ同二十一年家督を相續し前名義介を改む同四十年東京高等商業學校專攻部を卒業し長崎高等商業學校教授を經て現時大阪商科大學教授たり養に支那古正五年米國に留學し昭和五年再び歐米に出張を命ぜらる著書に「支那古代經濟思想及制度」「王道天下の研究」等數種あり家族は尙二女坤子（大一四、七生）二男和義（昭三、一一生）亡弟穀三郎妻アキ（明三一、一一生、長崎、吉田仁右衛門二女）あり長女周子（同四四、七生）は安齊二郎に嫁せりA二六〇（大阪市住吉區山阪町一ノ六一〇電平野七七五）

田崎慎太郎　地家主
妻　わき　東京市在籍
男　清　明一四、八生、東京、鈴木太兵衛妹
女　敏子　大元、一二生
大七、二生

君は東京府人先代慎太郎の長男にして明治十三年一月二十日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名定五郎を改め襲名す地家主たりA九八四（東京市豊島區西巢鴨三ノ八二〇電大塚三二六二）

田崎留太　三田土ゴム製造㈱取締役
妻　萬延元、七生、千葉、黒川喜兵衛二女
養母　くり　明二四、三生、養父忠駕六女
男　はる　明四三、四生
男　忠勝　大元、一一生
女　篤次郎　大三、一〇生
純

君は東京府士族谷口平三の二男同勝季の兄にして明治八年九月を以て生れ先代忠駕の養子となり同四十一年家督を相續す同三十五年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時三田土ゴム製造會社取締役たり家族は尙三男邦男（大一四、一〇生）あり養弟友吉（明二九、一〇生）は分家せりA一五六（東京市豊島區目白町四ノ四三電大塚三四六）

参照‖田崎友吉※江口順一の項

田崎友吉　理學博士、早稲田高等學院講師
妻　峯　東京府在籍
男　明三七、四生、佐賀、光行次郎二女

君は東京府士族田崎忠駕の長男にして同留太の養弟同忠恕の甥なり明治二十九年十月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す同十年東京帝國大學理學部植物學科を卒業し昭和二年理學博士の學位を授けらる現に早稲田高等學院講師たり養に三田土ゴム製造會社取締役たりしことあり（東京市目黒區原町一四〇四電荏原四六二四）

参照‖田崎留太、光行次郎の項

田澤章光　横濱市會議員、戸部商店㈱監査役
母　カツ　地主、神奈川縣在籍
妻　和子　文久二、九生、養祖父又右衛門長女
男　靖夫　明二五、三生、神奈川、飯泉幸三郎五女
大八、一生

當家は横濱開港以前より同地に住し代々農を以て業とせり先代良助に至り横濱市の發展に際し所有地に商家向家屋を建築貸付し田澤家の基を成せり君は其三男にして明治十七年十二月を以て生れ昭和八年家督を相續す明治三十八年横濱商業學校を卒業し第二銀行に勤務せしも後之を辭し現時戸部商店重役にして推されて横濱市會議員たり妹キサ（明二一、五生）は大阪府人戸部太三郎に同朝子（同三一、六生）は千葉縣人大川敏三に養叔母シュン（同一四、七生）は神奈川縣人千葉初之助に嫁し弟又一（同二四、五生）は同縣人增田ヤスの入夫となり同守哉（同二七、四生）は分家せりA六九三（横濱市中區伊勢町一ノ七三電長者町二五四八）

田澤昌孝　電纜社原勤機製造所㈱取締役
妻　ユキ　東京府在籍
養子　坦　明三五、一生、二女綾夫、男爵向山均弟、文學士
女　綾　明三九、九生、養子坦妻
女　静　明三三、三生

君は東京府人田澤昌武の二男にして明治六年十月七日を以て生れ同三十六年兄昌吉方より分れて一家を創立す同二十四年慶應義塾を卒業し電纜社原勤機製造所取締役に擧げられ爾來引續き其任に當り今日に及ぶA三五七（東京市澁谷區代々木初臺六三五電四谷四一三七）

参照‖男爵向山均※賀屋隆吉の項

田島淺治郎　地家主
妻　圭　東京府在籍
男　勁　明三四、七生、千葉、田中正之助妹
大一二、八生

君は東京府人小林清吉の三男にして明治三十年四月六日を以て生れ同三十九年先代淺治郎の養子となり大正七年家督を相續し襲名して前名吉之助を改む先代淺治郎は秋田縣より出でて建築請負業を始め漸次發展して今村組と稱し特に鐵道工事の請負に巨額の利を博して遂に當家今日の礎を築けり君は大正十二年東京高等商業學校を卒業し養に遺業を繼ぎ土木請負業を營みしが現時是を廢し專ら土地家屋の經營に當り地家主として知らる遊藝に趣味を有し又撞球を好む家族は尙二女節子（大一四、三生）二男理（昭二、四生）三男射弦（同四、五生）四男章（同七、七生）あり養母カネ（元治元、三生、千葉、林元治郎長女）は分家し長女瑠璃子（大一〇、七生）は東京府人田鳥カネの養子となり養姉よし（明二九、一二生、東京、堀口清吉姉）は千葉縣人西村甚右衛門養子二五郎に嫁せり（東京市本郷區根津宮永町三三電下谷四六八二）

田島伊藏　愛知縣多額納稅者、家主
妻　たつ　愛知縣在籍
男　健太郎　明元、八生、愛知、田島佐右衛門二女
婦　まさを　明二九、七生
愛知、六、六生、長男、健太郎妻、岩田源一妹

君は三重縣人西村伊之助の兄にして明治二年十二月十一日を以て生れ同三十五年先代たつの入夫となり家督を相續す家主たり直接國稅二千四百四十圓を納め愛知縣多額納稅者に列す家族は尙孫健一（大一三、九生、長男健太郎長男）同惠美子（昭二、六生、同長女）同二郎（同五、三生、同二男）同多美子（同八、三生、同二女）ありA一九一七（名古屋市中區天王町七）

田島一義　愛知縣多額納稅者
母　うめの　愛知縣士族
妻　せつ　弘化四、六生、愛知、田島喜兵衛三女
男　信　明三六、七生、愛知、石垣仙治郎二女
義　大八、一〇生

君は愛知縣士族田島常左衛門の長男にして明治十六年五月十二日を以て生れ大正十年家督を相續す明治三十九年早稲田大學政治經濟科を卒業し後シカゴ大學に學びマスター・オブ・アーツの稱號を受く資產家にして愛知縣多額納稅者に列し直接國稅四千八百九十七圓を納む養に榮保證代辨會社々長名古屋信託會社取締役たりしことあり家族は尙三女秋枝四女幸子（昭六、一生）五女美知子（同八、一生）あり（六生弟常吉（明二三、一一生）は同妻雄（同二九、一一生、愛知、山田庄藏三女）と共に其一子を伴ひ分家せりA三六九六（名古屋市中區池田町一四電中一八五六）

参照‖田島常吉の項

田島勝太郎　正四位勳三等、衆議院議員（福岡縣選出）、大分縣在籍
妻　吉　明一八、一生、東京、寺田勇一姉
男　省　明四五、二生
達　大二、九生
女　和　大五、五生

君は大分縣人田島儀市の二男にして明治三十九年東京帝國大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來農商務屬水產講習所教授製鐵所事務官同參事農商務書記官製鐵所理事東京市助役東京福岡各鐵山監督局長等に歷任し昭和五年商工次官に任ぜられ臨時產業合理局事務官兼時產業審議會幹事長を兼任せしも後官職を退き昭和七年福岡縣より推されて衆議院議員に當選す養に八幡市會議長に擧げられ又歐米各國に出張す家族は尙四男參一郎（大八、五生）五男東吾（同一〇、九生）妹マサ（明三八、一二生）同夫常次（同二九、一二生、佐賀、馬場卯左一弟）及其一男あり長女智惠（同三九、八生、九段精華高女出身）は熊本縣人八木田政雄に二女啓（同四三、八生）は東京府人三田繁に妹セツ（同四〇、五生）は大分縣人後藤師郎に嫁し弟博（同一七、五生）同妻カツ（同二八、八生、大分、大藏重藏二女）は分家せりA八五九（東京市澁谷區十二社四二四電四谷九四四）

参照‖寺田勇一の項

田島義士　正五位勳四等、富山縣書記官、內務部長、山口縣在籍
妻　ウメ　明三四、二生、東京、馬島渡長女
男　信義　大八、一〇生

君は舊山口藩士田島信夫の三男にして當主同武夫の弟同堅吉の兄に當り明治二十一年十二月十二日を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格す同五年福岡縣屬に任ぜられ爾來福岡縣警視同縣理事官千葉縣事務官靜岡縣地方事務官

埼玉新潟兵庫神奈川各縣書記官學務部長に歴任し昭和七年富山縣書記官に轉じ内務部長に補せられ今日に至る家族は尚二男義之（大一二、二生）三男文夫（同一三、一〇生）長女照子（昭三、七生）あり（富山市總曲輪官舍電三〇〇六）

参照＝田島武夫、馬島渡※青木楠男※朝倉虎治郎※有吉明※川崎才四郎※崎川茂太郎※富永鴻の項

田島吉兵衛

地主
東京府在籍

妻　は る　明一三、二生、先代吉兵衛長女
男　吉之助　明三五、一二生
婦　ミツ子　明四四、七生、長男吉之助妻、東京、芦田共介養子
男　保次　明四〇、八生
女　悦子　明四二、一一生
女　俶子　明四五、三生
女　きよ子　大三、一生
長子　大四、一〇生
次女　喜久子　大八、一〇生

君は東京府人藤井善兵衛の二男にして明治六年七月八日を以て生れ同三十年坐代吉兵衛の養子となり大正二年家督を相續し前名信次を改め襲名す地主たり家族は尚三男守（大六、六生）孫基子（昭六、八生、長男吉之助長女）同正惠（同九、三生、同二女）あり A七四一（東京市小石川區柳町二八電小石川七六四）

参照＝藤井善兵衛の項

田島金太郎

地主
東京府在籍

父　伊之助　明四、一生、現戸主
母　里　喜　明七、一〇生、東京、渡邊文藏妹
妻　キ　ン　明三二、一生、東京、伊佐市太郎二女

君は東京府人田島伊之助の長男にして明治二十五年三月八日を以て生る地主たりA九六六（東京市豊島區雜司ヶ谷町四ノ五八電牛込三一〇九）

田島繁二

三井物産㈱常務取締役、金城興業㈱監査役、群馬縣在籍

妻　英子　明三〇、一生、東京、吳大五郎長女

男　二郎　大八、三生
女　文子　大六、五生

君は群馬縣人田島文平の二男にして明治十六年二月二十二日を以て生れ大正十五年甥文雄方より分れて一家を創立す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し直ちに三井物産會社に入り同社横濱絹育各支店勤務を經て後立命館大學長に推さる左翼の河上肇博士と對蹠的立場に在り經濟學者として其名を知らる君は其長男にして明治三十七年二月を以て生れ昭和九年家督を相續す同三年京都帝國大學經濟學部經濟學科を同七年同大學文學部支那文學科を各卒業す資産家たり家族は尚弟健（明三九、四生）同治（同四三、四生）同敬（大二、九生）あり姉淑子（明三四、一生）は醫學博士石川憲夫に嫁し弟正（同四一、一生）は京都府人補正秋の養子となれり（京都市上京區吉田神樂岡町三ノ二電上一〇二一）

田島潤次郎

二樂堂、茶商
大阪府在籍

妻　かね　明二、八生、島根、濱井松之助姉
女　ラク　明三一、九生、離縁養子久世妻
男　淑震　大三、一生
女子　閑　大七、一〇生

君は愛知縣人桑重兵衛の二男にして文久二年五月十五日を以て生れ先代卯兵衛の養子となり明治十九年家督を相續す二樂堂と稱し茶商を營む家族は尚孫節子（大一二、三生、離縁養子久世長女）あり長女柳（明二八、三生）は大阪府人長井藤兵衛長男直次郎に二女ハル（同二九、八生）は東京府人島木雄次郎に嫁せりA五四〇B二五六（大阪市東區淡路町五ノ六電本局一六一三）

田島庄太郎

三鱗石炭㈱社長、群馬水電㈱取締役、三鱗無煙炭㈱監査役、田島㊟代表社員、東京府在籍

父　達策　安政五、五生、現戸主
妻　セン　明二六、一二生、群馬、天田長三郎二女
男　震　大四、二生
女　閑　大三、一生
女　淑　大七、一〇生

君は東京府人田島達策の男にして明治十八年八月二十二日を以て生る現時三鱗石炭會社々長の外南記各會社の重役たり家族は尚二男清（大五、一〇生）三男稔（同九、一〇生）四男復（同一二、九生）三女和子（同一三、一〇生）ありA三一八（東京市牛込區戸山町三七電牛込一一一生）四男直行（昭二、三生）六男直光（同三、一二生）七男直季（同五、一二生）あり妹孝子（明二四、一生、東京府立第三高女出身）は東京府人矢野正雄に同千勢子（同三〇、六生、出身校同上）は男爵松平外與麿に嫁せりA一六九四（東京市麻布區三軒家町二八電高輪一二八五）

参照＝男爵松平外與麿、田島義士※道家齊次※小濱八彌※末高與次郎※鈴鹿保家の項

田島晉

貴産家
京都府在籍

母　まさき　明九、六生、東京、楠正位二女

當家の先代田島錦治は夙に帝國大學法科大學を卒業し大學院に學び明治三十年經濟財政學研究のため獨逸に留學歸朝後同三十三年京都帝國大學教授に任じ翌年法學博士の學位を受け同四十五年歐米に出張を命ぜられ大學長に推さる左翼の河上肇博士と對蹠的立場に在り經濟學者として其名を知らる君は其長男にして明治三十七年二月を以て生れ昭和九年家督を相續す同三年京都帝國大學經濟學部經濟學科を同七年同大學文學部支那文學科を各卒業す資産家たり家族は尚弟健（明三九、四生）同治（同四三、四生）同敬（大二、九生）あり姉淑子（明三四、一生）は醫學博士石川憲夫に嫁し弟正（同四一、一生）は京都府人補正秋の養子となれり（京都市上京區吉田神樂岡町三ノ二電上一〇二一）

田島武夫

從四位勳五等、元鐵道技師
山口縣士族

母　フム　文久二、一生、山口、八百屋三次郎長女
妻　竹子　明三一、六生、東京、道家齊一郎妹、學習院女學部出身
男　直治　大九、一生

君は舊山口藩士田島信夫の二男にして同堅吉同義士の兄なり先代信夫郷黨の信任厚く舊藩主毛利公爵家の財産管理人に推され又大日本鐵業會社取締役會長に擧げらるる君は其二男にして明治十九年七月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正二年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し鐵道省に入り技師に任ぜられ甲府保線事務所長本省監督局勤務を經て東京鐵道局新橋保線事務所長に補せられ勤續十九年にして昭和七年之を辭す曩に歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尚三男直重（大一〇、一一生）四男直時（同一二、一一生）五男直行（昭二、三生）六男直光（同三、一二生）七男直季（同五、一二生）あり妹孝子（明二四、一生、東京府立第三高女出身）は東京府人矢野正雄に同千勢子（同三〇、六生、出身校同上）は男爵松平外與麿に嫁せりA一六九四（東京市麻布區三軒家町二八電高輪一二八五）

参照＝男爵松平外與麿、田島義士※道家齊次※小濱八彌※末高與次郎※鈴鹿保家の項

田島達策

群馬水電、三鱗無煙炭各㈱社長、上毛電力㈱監査役、三鱗石炭㈱相談役、田島㊟代表社員
東京府在籍

男　庄太郎　明一八、八生

君は群馬縣人田島長十郎の二男にして安政五年五月三日を以て生れ後家督を相續し明治三十九年前名達作を改め同十六年專修大學法律科を卒業し實業界に入り現時群馬水電會社三鱗無煙炭會社各社長の外前記各會社の重役たり曾て國際運送會社相談役東京電力會社々長たりしことあり又群馬縣より推されて衆議院議員に當選せし事ありA四三二〇（東京市中野區城山町四五電四谷六四六）

参照＝田島庄太郎の項

田島達之輔

正五位勳五等、農林技師兼水産講習所技師兼遞信技師、水産局勤務
東京府在籍

妻　タ　ケ　明三七、五生、東京、原島庸三長女、府立第四高女出身
養子　夫佐子　大六、一〇生、東京、原島庸三七女、常磐松高女出身

君は東京府人田島新太郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ同二十二年家督を相續す同四十一年東京高等工業學校機械科を卒業し農商務技手となり水産局勤務を命ぜらるる次で水産講習所技手及遞信局技手を兼任大正七年農林技師に任ぜられ水産講習所技師遞信技師を兼ね現時水産局勤務たり義に大正五年英米二ヶ國へ留學を命ぜらる家族は尚長女量子（大一二、七生）あり（東京市世田谷區大原町一一六七電四谷二〇七二）

田島常吉

家主
愛知縣在籍

妻　雄　明二九、一生、愛知、山内庄藏三女、豊橋高女出身
男　常正　大一〇、三生、愛知一中在學

君は愛知縣人田島常右衛門の二男にして明治二十三年十一月一日を以て生れ大正十一年兄一義方より分れて一家を創立す同四年早稲田大學政治經濟科を卒業す家主たり曩に東部住宅會社專務取締役に擧げられ又名古屋市會議員に選ばる家族は尚二男良彦（大一二、三生）ありA五六二（名古屋市中區山脇町二ノ一〇電南二六八）

八二）
参照＝田島一義の項

田島藤治郎

金物商
大阪府在籍

妻　トミ　明二四、二生、京都、安見又兵衛二女
男　清市　大六、四生

君は大阪府人田島伊助の長男にして明治十九年十二月二十四日を以て生れ大正十一年家督を相續す金物商を營む家族は尚長女隆子（大一五、一〇生）あり妹ミツ（明四二、五生）は京都府人松本安太郎長男半九郎に嫁せりA一三五一（大阪市西區南堀江通二ノ二一ノ三電櫻川一〇七二）

田島豊次

内外燃油㈱取締役
東京府在籍

妻　芳子　明三二、六生、東京、齋藤信一二女
男　忠雄　昭四、一生

君は東京府人田島爲助の長男にして明治二十四年三月を以て生れ大正二年家督を相續す現時内外燃油會社取締役たり家族は尚長女とみ子（大一一、一一生）二女福勝子（同一三、一〇生）三女明子（同一五、二生）あり妻妹子（同三七、一〇生、東京、齋藤信一三女）は神奈川縣人日野清三郎長男照彦に嫁せりA二一四九（東京市麻布區本村町一八三電高輪五六二二）

田島文二郎

合同電氣㈱主任技術者、和歌山支社工務係長、長野縣在籍

妻　さ　ち　明三三、一生、長野、神津國助五女

君は長野縣人田島傳藏の二男にして明治二十年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す大正五年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業す現時前記の職に在り（和歌山市高松一八三電一五四一）

参照＝※小山柳一※牧野長藏の項

田島三好

田島組、土木建築請負業
東京府在籍

妻　や　ゑ　明二四、一生、東京、片山源次郎二女
男　一郎　大七、一生

君は秋田縣人田島直治の長男にして明治二十三年一月十日を以て生れ同三十九年家督を相續す田島組と稱し土木建築請負業を營む家族は尚二男義之（大一二、三生）三男文雄（同一三、一〇生）長女照子（昭三、七生）あり（富山市總曲輪官舍電三〇〇六）

参照＝田島武夫、馬島渡※青木楠男※朝倉虎治郎※有吉明※川崎才四郎※崎川茂太郎※富永鴻の項

田島吉兵衛

地主
東京府在籍

妻　は る　明一三、二生、先代吉兵衛長女
男　吉之助　明三五、一二生
婦　ミツ子　明四四、七生、長男吉之助妻、東京、芦田共介養子
男　保次　明四〇、八生
女　悦子　明四二、一一生
女　俶子　明四五、三生
きよ子　大三、一生
長子　大四、一〇生
次女　喜久子　大八、一〇生

君は東京府人藤井善兵衛の二男にして明治六年七月八日を以て生れ同三十年坐代吉兵衛の養子となり大正二年家督を相續し前名信次を改め襲名す地主たり家族は尚三男守（大六、六生）孫基子（昭六、八生、長男吉之助長女）同正惠（同九、三生、同二女）あり A七四一（東京市小石川區柳町二八電小石川七六四）

参照＝藤井善兵衛の項

田島金太郎

地主
東京府在籍

父　伊之助　明四、一生、現戸主
母　里　喜　明七、一〇生、東京、渡邊文藏妹
妻　キ　ン　明三二、一生、東京、伊佐市太郎二女

君は東京府人田島伊之助の長男にして明治二十五年三月八日を以て生る地主たりA九六六（東京市豊島區雜司ヶ谷町四ノ五八電牛込三一〇九）

田島繁二

三井物産㈱常務取締役、金城興業㈱監査役、群馬縣在籍

妻　英子　明三〇、一生、東京、吳大五郎長女

男　二郎　大八、三生
女　文子　大六、五生

君は群馬縣人田島文平の二男にして明治十六年二月二十二日を以て生れ大正十五年甥文雄方より分れて一家を創立す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し直ちに三井物産會社に入り同社横濱絹育各支店勤務を經て後立命館大學長に推さる左翼の河上肇博士と對蹠的立場に在り經濟學者として其名を知らる君は其長男にして明治三十七年二月を以て生れ昭和九年家督を相續す同三年京都帝國大學經濟學部經濟學科を同七年同大學文學部支那文學科を各卒業す資産家たり家族は尚弟健（明三九、四生）同治（同四三、四生）同敬（大二、九生）あり姉淑子（明三四、一生）は醫學博士石川憲夫に嫁し弟正（同四一、一生）は京都府人補正秋の養子となれり（京都市上京區吉田神樂岡町三ノ二電上一〇二一）

田島潤次郎

二樂堂、茶商
大阪府在籍

妻　かね　明二、八生、島根、濱井松之助姉
女　ラク　明三一、九生、離縁養子久世妻
男　淑震　大三、一生
女子　閑　大七、一〇生

君は愛知縣人桑重兵衛の二男にして文久二年五月十五日を以て生れ先代卯兵衛の養子となり明治十九年家督を相續す二樂堂と稱し茶商を營む家族は尚孫節子（大一二、三生、離縁養子久世長女）あり長女柳（明二八、三生）は大阪府人長井藤兵衛長男直次郎に二女ハル（同二九、八生）は東京府人島木雄次郎に嫁せりA五四〇B二五六（大阪市東區淡路町五ノ六電本局一六一三）

田島庄太郎

三鱗石炭㈱社長、群馬水電㈱取締役、三鱗無煙炭㈱監査役、田島㊟代表社員、東京府在籍

父　達策　安政五、五生、現戸主
妻　セン　明二六、一二生、群馬、天田長三郎二女
男　震　大四、二生
女　閑　大三、一生
女　淑　大七、一〇生

君は東京府人田島達策の男にして明治十八年八月二十二日を以て生る現時三鱗石炭會社々長の外南記各會社の重役たり家族は尚二男清（大五、一〇生）三男稔（同九、一〇生）四男復（同一二、九生）三女和子（同一三、一〇生）ありA三一八（東京市牛込區戸山町三七電牛込一一一生）四男直行（昭二、三生）六男直光（同三、一二生）七男直季（同五、一二生）あり妹孝子（明二四、一生、東京府立第三高女出身）は東京府人矢野正雄に同千勢子（同三〇、六生、出身校同上）は男爵松平外與麿に嫁せりA一六九四（東京市麻布區三軒家町二八電高輪一二八五）

参照＝男爵松平外與麿、田島義士※道家齊次※小濱八彌※末高與次郎※鈴鹿保家の項

田島晉

貴産家
京都府在籍

母　まさき　明九、六生、東京、楠正位二女

當家の先代田島錦治は夙に帝國大學法科大學を卒業し大學院に學び明治三十年經濟財政學研究のため獨逸に留學歸朝後同三十三年京都帝國大學教授に任じ翌年法學博士の學位を受け同四十五年歐米に出張を命ぜられ後立命館大學長に推さる左翼の河上肇博士と對蹠的立場に在り經濟學者として其名を知らる君は其長男にして明治三十七年二月を以て生れ昭和九年家督を相續す同三年京都帝國大學經濟學部經濟學科を同七年同大學文學部支那文學科を各卒業す資産家たり家族は尚弟健（明三九、四生）同治（同四三、四生）同敬（大二、九生）あり姉淑子（明三四、一生）は醫學博士石川憲夫に嫁し弟正（同四一、一生）は京都府人補正秋の養子となれり（京都市上京區吉田神樂岡町三ノ二電上一〇二一）

田島武夫

從四位勳五等、元鐵道技師
山口縣士族

母　フム　文久二、一生、山口、八百屋三次郎長女
妻　竹子　明三一、六生、東京、道家齊一郎妹、學習院女學部出身
男　直治　大九、一生

君は舊山口藩士田島信夫の二男にして同堅吉同義士の兄なり先代信夫郷黨の信任厚く舊藩主毛利公爵家の財産管理人に推され又大日本鐵業會社取締役會長に擧げらるる君は其二男にして明治十九年七月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正二年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し鐵道省に入り技師に任ぜられ甲府保線事務所長本省監督局勤務を經て東京鐵道局新橋保線事務所長に補せられ勤續十九年にして昭和七年之を辭す曩に歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尚三男直重（大一〇、一一生）四男直時（同一二、一一生）五男直行（昭二、三生）六男直光（同三、一二生）七男直季（同五、一二生）あり妹孝子（明二四、一生、東京府立第三高女出身）は東京府人矢野正雄に同千勢子（同三〇、六生、出身校同上）は男爵松平外與麿に嫁せりA一六九四（東京市麻布區三軒家町二八電高輪一二八五）

参照＝男爵松平外與麿、田島義士※道家齊次※小濱八彌※末高與次郎※鈴鹿保家の項

田島道治

正六位、昭和銀行㈱常務取締役
愛知縣在籍

妻　ミシ　明二六、八生、岐阜、野々村佐一郎妹
男　讓治　明四四、一生、東大文學部在學

君は愛知縣人田島五郎作の三男にして明治十八年七月二日を以て生れ同四十五年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し愛知銀行に入り調査部長たりしが轉じて鐵道院に入り參事兼總裁祕書人事課長等に歴任し辭任後支那歐米に遊ぶ再び愛知銀行に入り常務取締役たりしも昭和二年昭和銀行創立に際し入りて常務取締役となり今日に至る家族は尚二男恭二（大六、四生、成城高校在學）あり姉たづ（明九、七生）は愛知縣人糟谷繞右衛門に嫁せりA三〇三四（東京市小石川區駕籠町二五三電大塚一五三五）

参照＝※石川八郎治※山崎文次の項

田島有載

伊豫相互貯蓄銀行支配人
愛媛縣在籍

妻　セキ　明一九、四生
女　充　大六、三生

君は愛媛縣人吉村幸太の二男にして明治五年三月五日を以て生れ後田島家に入る夙に大藏省に入り稅務署に勤務し後專賣局を經て伸田銀行に入り轉じて現時伊豫相互貯蓄銀行支配人たり家族は尚四女元（大九、五生）あり長女俊（明四二、一生）は醫學博士清丸喬に二女史（大三、三生）は醫師安井雅美に嫁せり（松山市新玉町一ノ七電一六五四）

田島嘉門

地主
東京府在籍

母　つね　明一六、四生、東京、土方平吉長女
男　一郎　大一〇、三生、愛知一中在學

君は東京府人田島要之助の二男にして明治四十年六月二十八日を以て生れ大正九年先代祖父嘉右衛門の後を承け家督を相續す地主たり家族は尚妹夏子（明四五、五

生)あり祖父喜右衛門(嘉永五、八生)弟嘉雄(明四二、一〇生)は分家せりA四四五(東京市中野區本町通二ノ一六電中野四〇七三)

田尻昇藏

肥後選行㊟取締役　熊本縣在籍

妻　喜代　明一四、一二生、熊本、士、平井平次郎妹
男　光一　明三六、三生、九州日日新聞社員
婿　喜美代　明四二、九生、長男光一妻、熊本士、中路一眞長女
女　正代　大元、一二生、日本女大師範科家政部出身

君は熊本縣人田尻平太の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治四年家督を相續す夙に家郷の友萩庄藏私塾に學び東肥製紙會社に入り總務課長及支配役となり轉じて細川侯經營の元肥後銀行に入り後更に安田銀行に轉じ貸附課長たりし等の經歴あり現時肥後銀行取締役たり趣味として多くの古硯を愛藏し居を竹石居と號す家族は尙孫正道(昭九、二生、長男光一長男)あり長女登代(明三二、九生)は熊本縣士族京大助教授理學士原田隆康に二女加代(同四一、一生)は同縣士族醫學士林謙敏に嫁せり(熊本市新屋敷町三五八電一五八)

田尻生五

從四位勳四等、陸軍歩兵少將、衆議院議員(福岡縣選出)　福岡縣在籍

妻　光子　明三五、三生、埼玉、岡村豊次郎二女
女　邦子　大八、六生、東京女學館在學

君は福岡縣士族田尻常太郎の三男にして明治二十年七月を以て生れ明和三年兄眞太郎方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格し同五年朝鮮總督府試補となり同府道事務官同府事務官等に歴任し同十年製鐵所參事に轉じ昭和四年同所理事に任じ勞務部長の職にありしも後官を辭し昭和七年郷里福岡縣より推されて衆議院議員に當選し現に其任に在り立憲政友會に屬す兄七郎(明九、一一生)は福岡縣士族櫻庭スエに弟晩穂(同二六、三生)は愛知縣人佐々部茂左衛門に各養子となり姉思(同一六、一二生)は福岡縣士族篠崎懲治長男直之に同マサ(同一八、一一生)は同縣人西山甚作長男茂に妹ユキ(同二一、一二生)は同縣人森田時三郎長男一郎に同慶子(同三三、五生)は大阪府士族堀江乙熊に嫁せり(東京市品川區東大崎三ノ一七二電高輪三五一〇)

參照‖西山茂の項

田尻唯二

正四位勳二等功五級、海軍中將、東京府士族　佐賀、古賀卯藏長女

養母　ハツ　明一〇、六生、養父唯一長女
妻　トモヤサ　明三九、六生
男　種雄　明三三、九生
女　稻子　明四二、四生
　　稔　明四二、五生

君は佐賀縣士族空閑五兵衛の四男にして明治七年十二月を以て生れ先代唯一の養子となり大正六年家督を相續す明治二十九年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ大正十三年海軍中將に累進す其間海軍大學校を卒業第一艦除參謀海軍省軍務局々員淀番羽筑摩金剛各艦長教育本部々員横須賀霞ケ浦海軍航空隊司令馬公要港部司令官海軍々令部出仕等に歴補し後豫備役に編入せらる二女英子(明三六、一生)は福岡縣人野口美造二男正愛に三女菊子(同四〇、九生、東京府立第三高女出身)は兄空閑義治養子二郎に嫁せりA一二五(東京市麻布區笄町七九)

參照‖空閑義治の項

田尻常雄

正四位勳二等、横濱高等商業學校長、熊本縣士族

妻　咲子　明一五、四生、東京、所弘次長女

君は熊本縣士族田尻榮次の二男にして明治九年十二月を以て生る同三十四年東京高等商業學校を卒業す同四十一年長崎高等商業學校教授に任ぜられ同四十三年米英獨に留學し大正三年歸朝す同九年長崎高等商業學校長に昇任し同十二年横濱高等商業學校長に轉じ今日に至る英文商業通論等の著あり長女トミ(明三五、八生)は熊本縣人井物產會社員松山逸藏に二女勝子(同三八、五生)は愛知縣人日本生絲會社員石川茂に嫁せり磯子區磯子町間坂官舍電長者町三七八〇)

田尻藤四郎

衆議院議員　宮崎縣在籍　宮崎縣選出)

君は宮崎縣人田尻市左衛門の二男にして明治三年十月を以て生れ同三十五年家督を相續す先是宮崎縣獨醫學校を卒業し上野村長宮崎縣會議員同參事會員等に選ばれ又營業稅調査委員所得稅調査委員土地收用審査委員地方森林會議員に擧げらる昭和七年宮崎縣より推されて衆議院議員に當選現に立憲政友會所屬たり家族は尙弟七郎(明一五、九生)同濱市郎(同一八、九生)及其子女亡弟半四郎妻シキ(同一七、五生、宮崎、佐藤元藏四女)及其子女亡弟八三郎の子女あり弟長吉(同二一、一〇生)は同妻ヤス(同二七、九生、福岡吉塚房吉妹)と共に分家せり(宮崎縣西臼杵郡高千穗町)

田尻喜通

子爵　東京府華族

父　鐵太郎　明一六、七生、先々代稻次郎長男日本勸業銀行主事

當家は先々代稻次郎より賜はる稻次郎は舊鹿兒島藩士にして大學南校に學び明治四年米國に留學エール大學を卒業す歸朝後大藏省少書記官兼東京大學講師大藏省國債局長同銀行局長同主稅局長大藏次官會計檢査院長貴族院議員東京市長等に歴任し又專修大學を經營し法學博士の學位を受け財政學の權威として帝國學士院會員に推さる日清事件の功に依り華族に列し男爵を授けられ日露事件の功に依り子爵に陞さる先代鐵太郎は其長男にして八代則彥の從弟に當る日本勸業銀行に入り貸付課主事に進む君は其長男にして大正四年九月二日を以て生れ父の退隱の後を承け昭和六年家督を相續し爵仰付けらる家族は尙妹公美子(大六、七生)叔父瓊(明二七、五生、海軍大尉)叔母邑(同四三、一二生)あり叔父瑞穗(同二五、七生)は男爵松村淳藏の養子となり政顯と改名す叔母サイ(同一八、一生)は東京府人松岡靜雄に同トミ(同二〇、一二生)は廣島縣人星禁章に同豊(同三三、一生)は陸軍中將大島健一長男浩に同譽(同三六、七生)は東京府人奥照梅作に嫁せり(神奈川縣鎌倉郡川口村片瀨二六八六星野方)

參照‖大島健一の項

田代運吉

地家主　東京府在籍

養子　其次　明一六、六生、長野、上條彌右衛門男
婿　光子　明二五、五生、養子其次妻、長野赤羽隆彌長女
孫　弘　明四二、八生、養子其次長男、駒大出身
孫妻　好子　大元、九生、孫弘妻、栃木、渡邊鉞二長女
孫　建三　大三、五生、養子其次三男、早大在學
孫　とし子　大七、九生、養子其次三女、日本高女在學

君は東京府人田村運平の長男にして安政三年一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す先是同十一年九月幸生銅山に同十二年九月是尾銅山に勤務せるも同三十年十一月之を辭して上京し主として地所家屋賃貸業を營み今日に至る家族は尙孫辰夫(大五、六生、養子其次四男早大在學)同一夫(同一〇、一生、同五男、獨逸協會中學在學)同芊吉(昭六、七生、同六男)曾孫正子(昭九、三生、孫弘長女)ありA八四〇(東京市小石川區表町一〇九電小石川三五七九)

田代榮重

名古屋商工會議所議員、愛知電氣鐵道㊟取締役、碧海電氣鐵道㊟取締役、愛知多鐵道㊟取締役、愛知自動車㊟取締役、愛知證券㊟保有各㊟監査役　愛知縣在籍

母　チノ　嘉永二、一一生、佐賀、金子勘吉四女
妻　よし　明二六、七生、愛知、伊藤忠孝姉
男　重良　名古屋市立高女出身　大元、一一生、名古屋高工出身
女　八千代　大四、一一生、名古屋市立高女出身

君は長崎縣人田代源平の四男にして明治十六年六月を以て生る同四十二年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し現時愛知電氣鐵道會社取締役兼技術部長にして前記各會社の重役を兼ね推されて名古屋商工會議所議員たり家族は尙二男和夫(大九、六生)二女啓子(同一三、一一生)の外兄泰一(明一〇、三生、現戸主)同妻シツ(同一六、一一生、滋賀、辻勝藏三女)及其一子兄昌吉(同一四、四生)同妻トモ(同一九、九生、長崎、肥塚源次郎妹)及其子女あり兄朝治(同一二、一〇生)同妻タキ(同二二、五生、長崎、西田八〃妹)は其三子を伴ひ分家せりA六九六(名古屋市中區東畑町二ノ八一電東三二四四)

參照‖伊藤忠孝、肥塚源次郎※肥塚慶之助の項

田代皖一郎

從四位勳二等功三級、陸軍中將、憲兵司令官、佐賀縣士族

父　政吉　安政四、一一生、現戸主
妻　雪江　明二四、一生、山梨、酒井伍一長女
男　皖　大六、六生

君は佐賀縣士族田代政吉の長男にして明治十四年十月を以て生る同三十七年陸軍歩兵少尉に任じ昭和九年八月陸軍中將に累進す其間參謀本部々員歩兵第三十聯隊長參謀本部課長歩兵第二十七旅團長及中華民國在勤帝國公使館附武官等に歴補し現時陸軍中將にして憲兵司令官の要職に在り昭和九年十月上海事變の功三級金鵄勳章を賜ふ家族は尙長女節(大九、一一生)二女元子(同一三、一二生)三男皓彥(同一五、三生)弟文造(明二三、一〇生)妹ケ(同一六、一二生)は佐賀縣人曲淵久吉二男大吉に嫁せり(東京市麴町區丸ノ内一丁目憲兵司令部內)

田代金之助

甲子興業、岩田商事各㊟取締役　大阪府在籍

養母　兼　明三二、四生、京都、遠藤萬次郎五女
妻　知枝　大七、三生
男　豊一郎　昭四、三生

君は大阪府人岩田惣三郎の五男にして同宗次郎同千代三郎の實弟同正一の養弟同宗太郎の叔父同正次郎の養叔父なり明治二十七年一月二十三日を以て生れ先代豊の養子となり昭和九年家督を相續す現に前記各會社の重役たり家族は尙二男恭之助(大八、九生)二女すみ(同一二、六生)ありA九〇〇(大阪市住吉區天王寺町二六五五電天王寺六七二)

田代三吉

新潟縣多額納稅者、新潟縣商工會議所顧問、新潟縣興業貯蓄銀行、新潟所業銀行、入船倉庫、新潟巻倉庫㊟、新潟電氣鐵道㊟、新潟灣倉庫㊟取締役、新潟信託㊟取締役、愛嶋銀行㊟、新潟社㊟、新東組各㊟監査役、肥料卸商　新潟縣在籍

男　孫市　明二七、八生
婿　メイ　明二七、四生、長男孫市妻、新潟本多伊之平長女
男　寅吉　明二三、三生
男　三代吉　明二六、六生
婿　ツタ　明三一、四生、三男三代吉妻、新潟、渡邊喜六二女
男　五郎　明三五、七生
養子　久平　明三二、三生、二女ムツ夫、新潟、解良太郎弟
女　ムツ　明三五、二生、養子久平妻
孫　一郎　明三九、八生、長男孫市長男
孫　潤治　明四二、五生、長男孫市二男
孫　三作　明四四、二生、長男孫市三男
孫　ヤイ　明四四、一〇生、二男寅吉長女
孫　イシ　大三、七生、二男寅吉二女
孫　チヨ　大五、三生、長男孫市三女
孫　ウメ　大八、一生、長男孫市四女

君は新潟縣人五十嵐五右衛門の三男にして安政三年二月十八日を以て生れ先代三吉の養子となり明治二十八年家督を相續す肥料卸商を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅四千六百一圓を納む又推されて新潟縣商工會議所顧問たり家族は尙孫繁作(大九、三生、長男孫市四男)同九郎(昭四、三生、同六男)同辰夫(大一一生、同五男)同九郎(昭四、三生、同六男)同辰夫(大五、九生、三男三代吉長男)同驗吉(同七、九生、同二男)同サダ(同一〇、六生、同長女)同芳江(同一五、九生、養子久平長女)同晴江(昭四、一生、同二女)ありA九〇〇(大阪市住吉區天王寺町二六

參照‖岩田正一、岩田正次郎、岩田宗次郎、岩田千代三郎※岩田常右衛門※岩田保太郎※日比野芳太郎の項

田代鹿之助　沖繩縣多額納稅者、米穀商　沖繩縣在籍
男　卯吉　明三六、二生
婦　婦美　明三九、一生、長男卯吉妻、沖繩戸木田由幾女
男　榮藏　明四二、三生
女　貞子　大五、一〇生
君は鹿兒島縣人田代勘兵衛の養子にして安政六年十一月十日を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す米穀商を營み直接國稅百八十七圓を納め沖繩縣多額納稅者に列す家族は尙孫卯一（昭八、一生、長男卯吉長男）同久子（同八、一〇生、長男卯吉庶子）あり（那覇市西本町二ノ二一）

田代重三　大日本紡績㈱常務取締役、日華產業、綿重商㈱各㈱取締役、田代重㈱無限責任社員、岐阜縣在籍
妻　のぶ　明三七、八生、大阪、岩田正一六女
男　二郎　大二、三生
君は兵庫縣人田代重右衛門の長男にして明治二十四年二月十五日を以て生れ大正十一年家督を相續す先是明治四十四年大阪高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二女蕙子（昭二、二生）三女仁和子（同四、四生）四女純子（同六、三生）あり四男義郎（大八、九生）は分家し重右衛門に弟四郎（明三四、八生）は岐阜縣士族河井重兵衛に同金之助（同三七、二生）は同縣人田代哲太郎母さとに各養子となれりA五三二九（兵庫縣武庫郡住吉村雨ノ神七六電御影五四〇五）
參照‖岩田正一※田代金之助の項

田代常　正五位勳五等、藤倉電線㈱顧問　長野縣士族
妻　きん　明一四、九生、東京、士、木村貞四女
男　久雄　明三八、七生
男　利雄　明四二、一一生
男　春雄　大二、一一生
君は長野縣士族田代新の長男にして明治七年六月を以て生れ同八年家督を相續す同二十六年東京郵便電信學校を卒業し同四十年電話事業研究の爲歐米へ派遣せらる多年東京遞信局機械課長として電話擴張工事に從事し又本省電信電話技術調査會委員たりしも大正九年退官し現時前記會社の顧問たりA一七五（東京市荏原區小山町四九五電荏原二五六〇）

田代德左衛門　地家主　東京府在籍
母　みい　安政四、五生、東京、田崎惣左衛門長女
妻　すゝ　明二一、三生、東京、榎本鐵五郎二女
男　秀雄　大二、一二生
君は東京府人先代德左衛門の長男にして明治十三年八月四日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名金五郎を改め襲名す地家主たり家族は尙三男繁（大八、三生）あり長女雪（明四四、四生）は東京府人小松原石藏三男信吉に妹ぎん（同二五、一生）は同府人小松原石藏に同いく（同二七、四生）は同府人田崎鶴三郎長男初太郎に亡弟久次郎妻みさ（同二七、九生、東京、清水初太郎妹）は同府人內田宗一に嫁し弟惣吉（同一五、九生）同妻さわ（同三三、三生、東京、鈴木和十郎五女）は其一子を伴ひ分家し弟芳造（同三二、六生）も亦分家せりA三九五（東京市豐島區西巢鴨三ノ七五一）

田代寅吉　江戸橋商事㈱代表取締役、川崎第百銀行㈱業務部次長、東京府在籍
妻　キチ　明二六、一二生、新潟、田代由太郎長女
男　豐彌　大六、八生
君は新潟縣人田代三吉の二男にして明治二十三年三月十三日を以て生れ昭和六年分れて一家を創立す現時川崎第百銀行業務部次長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙一男昌幸（大九、五生）三男吉弘（同一一、二五女德子（昭三、一二生）四女米子（同一五、一一生）ありA三四一（東京市品川區大井出石町五〇五七電大森一五九一二）
參照‖田代三吉の項

田代光雄　從四位勳四等、東京府士族
妻　萬花　明一九、八生、東京、內田壯姉
男　雄　大三、九生
君は東京府士族田代岩彥の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治十九年家督を相續す農業を營み熊本縣多額納稅者にして直接國稅三千百四十八圓を納む藏に玉名銀行頭取肥後米穀社重役にして熊本縣會議員貴族院議員等に擧げらるる大正七年より土地改良の爲耕地整理組合を四ヶ所に設立し各組合長となり盡瘁する事十七年此面積三百九十四町歩其功績顯著なり爲に帝國耕地協會及熊本縣耕地協會より表彰せらる二女ヌヲ（明二三、二生）は熊本縣士族松田方弟一に四女イシ（同二六、

一二生）は同縣人毛利昌平に孫敏子（大二、七生）は同縣士族廣瀨久門二男道久に妹マト（明一一、二生）は同縣士族關應藏に姪和子（同三八、一〇生、分家弟保尹二女）は同縣人高田久七に嫁し弟保尹（同三、五生）同妻セツ（同一〇、五生、熊本、士、村上貞熊二女）は其子女を伴ひ分家し其子保嗣家督を相續し當主たり（熊本縣玉名郡横島村）
參照‖松田方※菅木新※齊藤宗綾※富雄廣瀨久利松方次の項

田代由三郎　硝子問屋業　東京府在籍
妻　スヾ　明三、九生、愛知、鵜飼信吉姉
養子　義光　明三五、九生、鵜飼信吉甥
婦　はる　明四〇、四生、養子義光妻、神奈川、中村清兵衛二女
田代家は舊幕時代遠州新居宿に於て代々本陣を勤めたる家柄なり君は先々代竹三郎の長男にして慶應元年三月二十九日を以て生れ明治十六年母ゆきの後を承けて家督を相續す夙に上京して輸出入業野澤組の後援の下に輸入硝子の販賣に從事し漸次成功して現時市內一流の硝子問屋として知らる家族は尙孫淑子（昭七、七生、養子義光長女）同義和（同八、一二生、同長男）ありA六七五B二〇四（東京市日本橋區小傳馬町二ノ五電浪花五六四三）

田代義德　從三位勳三等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京市會議員、東京府士族
妻　ハル　明三、三生、養父基德長女
男　信德　明二四、二生、醫學博士、日本大學教授、醫學部勤務、東京田代病院長
婦　松　明三二、三生、長男信德妻、男爵本多政樹妹
男　重德　明二九、五生、外務書記官、法學士
婦　千鶴　明三四、二生、二男重德妻、法學博士横田秀雄長女
男　秀德　明三三、一一生、帝國女子醫學專門學校教授、文學士

田代米七郎　中倉、魚商　東京府在籍
養母　ぜん　文久元、一〇生、東京、佐々木七郎右衛門二女
妻　つる　明二〇、一一生、亡養父倉次郎長女
男　良一　大五、七生
君は東京府人田代銀之助の二男にして明治二十三年五月を以て生れ先代倉次郎の養子となり大正九年家督を相續す家業を繼ぎ中倉と稱し魚商を營む家族は尙三男昌弘（昭二、四生）あり妹かな（明三四、一〇生）は千葉縣人勝浦久治郎弟平三郎に嫁し同むめ（同二三、三生）は其子女を伴ひ分家せりA六三九B七八（東京市芝區金杉町二ノ一〇電三田三四〇四）

田添重一　田添內外科醫院、醫師　大阪府士族
婦　婦美　明三九、一生、長男卯吉妻、沖繩戸木田由幾女
男　榮藏　明四二、三生
女　貞子　大五、一〇生
君は鹿兒島縣人田代勘兵衛の養子にして安政六年十一月十日を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す米穀商を營み直接國稅百八十七圓を納め沖繩縣多額納稅者に列す家族は尙孫卯一（昭八、一生、長男卯吉長男）同久子（同八、一〇生、長男卯吉庶子）あり（那覇市西本町二ノ二一）

田代德左衛門　地家主　東京府在籍
母　みい　安政四、五生、東京、田崎惣左衛門長女
妻　すゝ　明二一、三生、東京、榎本鐵五郎二女
男　秀雄　大二、一二生
君は東京府人先代德左衛門の長男にして明治十三年八月四日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名金五郎を改め襲名す地家主たり家族は尙三男繁（大八、三生）あり長女雪（明四四、四生）は東京府人小松原石藏三男信吉に妹ぎん（同二五、一生）は同府人小松原石藏に同いく（同二七、四生）は同府人田崎鶴三郎長男初太郎に亡弟久次郎妻みさ（同二七、九生、東京、清水初太郎妹）は同府人內田宗一に嫁し弟惣吉（同一五、九生）同妻さわ（同三三、三生、東京、鈴木和十郎五女）は其一子を伴ひ分家し弟芳造（同三二、六生）も亦分家せりA三九五（東京市豐島區西巢鴨三ノ七五一）

田代寅吉　江戸橋商事㈱代表取締役、川崎第百銀行㈱業務部次長、東京府在籍
妻　キチ　明二六、一二生、新潟、田代由太郎長女
男　豐彌　大六、八生
君は新潟縣人田代三吉の二男にして明治二十三年三月十三日を以て生れ昭和六年分れて一家を創立す現時川崎第百銀行業務部次長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙一男昌幸（大九、五生）三男吉弘（同一一、二生）四女米子（同一五、一一生）ありA三四一（東京市品川區大井出石町五〇五七電大森一五九一二）
參照‖田代三吉の項

田代光雄　從四位勳四等、東京府士族
妻　萬花　明一九、八生、東京、內田壯姉
男　雄　大三、九生
君は東京府人田代岩彥の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治十九年家督を相續す農業を營み熊本縣多額納稅者にして直接國稅三千百四十八圓を納む藏に玉名銀行頭取肥後米穀社重役にして熊本縣會議員貴族院議員等に擧げらるる大正七年より土地改良の爲耕地整理組合を四ヶ所に設立し各組合長となり盡瘁する事十七年此面積三百九十四町歩其功績顯著なり爲に帝國耕地協會及熊本縣耕地協會より表彰せらる二女ヌヲ（明二三、二生）は熊本縣士族松田方弟一に四女イシ（同二六、

婦　婦島　明三九、一生、長男卯吉妻、沖繩戸木田由幾女
男　榮藏　明四二、三生
女　貞子　大五、一〇生
君は鹿兒島縣人田代勘兵衛の養子にして安政六年十一月十日を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す米穀商を營み直接國稅百八十七圓を納め沖繩縣多額納稅者に列す家族は尙孫卯一（昭八、一生、長男卯吉長男）同久子（同八、一〇生、長男卯吉庶子）あり（那覇市西本町二ノ二一）

田代重三　大日本紡績㈱常務取締役、日華產業、綿重商㈱各㈱取締役、田代重㈱無限責任社員、岐阜縣在籍
妻　のぶ　明三七、八生、大阪、岩田正一六女
男　二郎　大二、三生
君は兵庫縣人田代重右衛門の長男にして明治二十四年二月十五日を以て生れ大正十一年家督を相續す先是明治四十四年大阪高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二女蕙子（昭二、二生）三女仁和子（同四、四生）四女純子（同六、三生）あり四男義郎（大八、九生）は分家し重右衛門に弟四郎（明三四、八生）は岐阜縣士族河井重兵衛に同金之助（同三七、二生）は同縣人田代哲太郎母さとに各養子となれりA五三二九（兵庫縣武庫郡住吉村雨ノ神七六電御影五四〇五）
參照‖岩田正一※田代金之助の項

田代常　正五位勳五等、藤倉電線㈱顧問　長野縣士族
妻　きん　明一四、九生、東京、士、木村貞四女
男　久雄　明三八、七生
男　利雄　明四二、一一生
男　春雄　大二、一一生
君は長野縣士族田代新の長男にして明治七年六月を以て生れ同八年家督を相續す同二十六年東京郵便電信學校を卒業し同四十年電話事業研究の爲歐米へ派遣せらる多年東京遞信局機械課長として電話擴張工事に從事

婦　婦島　明三九、一生、三男秀德妻、東京齋藤直一妹
男　秀雄　明四四、八生、佛英和高女出身
女　萱子　明四四、一〇生、東京、田崎惣左衛門二女
君は栃木縣人田部井森平の三男にして元治元年七月を以て生れ明治十六年故陸軍々醫監田代基德の養子となり同三十一年家督を相續す同二十二年東京帝國大學醫科大學を卒業し同三十三年外科的婦正術研究の爲獨墺に留學を命ぜられ同三十七年醫學博士の學位を受く久しく東京帝國大學醫科大學教授の任にありて整形外科學の講座を擔任す後之を辭し東京田代病院を設立し其院長たりしが現時東京帝國大學名譽教授東京田代病院顧問にして推されて東京市會議員たり家族は尙孫公德（大九、一〇生、長男信德長男）同瑞德（同一〇、九生、二男重德長男）あり長女キク子（明二二、四生、御茶の水高女出身）は文學博士辻善之助に二女桃子（同二六、四生、出身校同上）は工學士和田信夫に三女よね子（同三一、一〇生、佛英和高女出身）は東京府人山本操一郎養子法學士節民に四女ゆり子（同三八、七生、出身校同上）は同府人今村力三郎二男學郎に妹つな（同三、三生）は茨城縣人宮田逸兄醫學博士哲雄に嫁せりA一八八七（東京市下谷區御徒町六一電下谷三三一〇）
參照‖男爵本多政樹、今村力三郎、辻善之助、横田秀雄、和田信夫※男爵長基連※茨木清次郎※田中東※横田俊夫の項

養母　ぜん　文久元、一〇生、東京、佐々木七郎右衛門二女
妻　つる　明二〇、一一生、亡養父倉次郎長女
男　良一　大五、七生
君は東京府人田代銀之助の二男にして明治二十三年五月を以て生れ先代倉次郎の養子となり大正九年家督を相續す家業を繼ぎ中倉と稱し魚商を營む家族は尙三男昌弘（昭二、四生）あり妹かな（明三四、一〇生）は千葉縣人勝浦久治郎弟平三郎に嫁し同むめ（同二三、三生）は其子女を伴ひ分家せりA六三九B七八（東京市芝區金杉町二ノ一〇電三田三四〇四）

田添重一　田添內外科醫院、醫師　大阪府士族
妻　定子　明三六、一生、亡養父政次郎三女
男　正夫　大一二、九生
當家の先代政次郎は夙に慶應義塾理財科を卒業して實業界に入り日本捺染會社長外數會社の重役に列し又大阪商工會議所議員大日本絲絮布商聯合組合委員長等に擧げられ大正十一年實業に關する功勞鈔からざる賜を以て紺綬褒章を賜はる君は京都府人大橋孝七の四男にして明治二十九年十一月を以て生れ先代政次郎の養子となり昭和八年家督を相續す大正九年東京商科大學を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男精二（大一五、七生）あり養兄竹治郎（明九、一一生、京都附義彰叔父）は分家し養妹ヨシ（同三一、一一生、京都井ノ口辰之助長女）も亦分家し滋賀縣人田附正三を入夫に迎ふA五一四〇六（東都市左京區岡崎法勝寺町五

妻　奈良江　明二〇、六生、大阪、木村奈良祐姉
男　阜一　大一一、一生
女　基子　大八、一〇生
君は大阪府士族田添豐造の長男にして明治十九年十一月十四日を以て生れ大正五年家督を相續す現に田添內外科醫院を經營し醫師たり家族は尙二男重成（大一三、四生）三女富久子（同一五、一一生）三男和男（昭四、四生）四男豐光（同八、一生）あり（大阪府豐能郡豐中村櫻塚一〇四ノ一電岡町一〇八）

田高紋三郎　地主　東京府在籍
妻　ヤス　明二三、一一生、埼玉、島田志茂吉長女
男　茂平　大二、一一生
女　菊子　大八、一一生
君は東京府人川端奈藏の二男にして明治十六年三月二十三日を以て生れ先代富太郎の養子となり大正二年家督を相續す地主たり家族は尙三男辰夫（昭三、四生）長女つね子（明四三、一〇生）は東京府人渕村作太郎の養子となれりA三五三（東京市豐島區西巢鴨二ノ二一四二）

田附孝造　湖東紡績㈱社長、加島信託、東洋農業、日本カタン絲、東洋毛絲紡績、旭殖產、田附商店各㈱取締役　滋賀縣在籍
妻　定子　明三五、九生、亡養父政次郎三女
男　正夫　大一二、九生
當家の先代政次郎は夙に慶應義塾理財科を卒業して實業界に入り日本捺染會社長外數會社の重役に列し又大阪商工會議所議員大日本絲絮布商聯合組合委員長等に擧げられ大正十一年實業に關する功勞鈔からざる賜を以て紺綬褒章を賜はる君は京都府人大橋孝七の四男にして明治二十九年十一月を以て生れ先代政次郎の養子となり昭和八年家督を相續す大正九年東京商科大學を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男精二（大一五、七生）あり養兄竹治郎（明九、一一生、京都附義彰叔父）は分家し養妹ヨシ（同三一、一一生、京都井ノ口辰之助長女）も亦分家し滋賀縣人田附正三を入夫に迎ふA五一四〇六（東都市左京區岡崎法勝寺町五

五電上六二二四）
参照＝田附正三、田附竹治郎※内貴清兵衛※西村總太郎の項

田附正三
田附商店（株）監査役
大阪府在籍
妻　ヨシ　明三一、一一生、滋賀、田附政次郎養子
男　泰造　大八、三生
君は滋賀縣人田附太兵衛の五男にして明治二十三年六月を以て生れ大正七年先代ヨシの入夫となり家督を相續し前名繁治郎を改む現時前記會社の重役たりA三八八七（大阪市住吉區住吉町九三〇ノ二**電住吉二五六七**）
参照＝※田附竹治郎の項

田附竹治郎
日東捺染（株）代表取締役、田附商店（株）取締役、豐國土地、大阪三品取引所各（株）監査役、大阪府在籍
妻　ゆき　明一三、三生、養父政次郎養子
男　左一　明三六、三生、神戸高商出身
婦　敏子　明四二、九生、長男左一妻、滋賀矢尾喜兵衛三女
男　領二　明三八、三生
男　敬三　明四三、六生
君は滋賀縣人田附太郎治の四男同義彰の叔父にして明治九年一月を以て生れ田附政次郎の養子となり大正四年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり長女安子（明四〇、二生）は兵庫縣人田原善二郎に嫁せりA九四三〇（大阪市東區南本町二ノ四〇**電船場三二〇〇**）
参照＝田附義彰、矢尾喜兵衛※岡伊右衛門※田附正三※山中兵右衛門の項

田附義彰
田附商店（株）代表取締役、旭殖産（株）取締役、滋賀縣在籍
父　太郎兵衛　明二五、一生、現戸主
妾　政　萬延元、五生、愛知、村西茂左衛門妹
男　敏郎　大六、八生
女　迪子　大八、九生
君は滋賀縣人田附太郎兵衛の長男にして明治十九年十一月二十九日を以て生る現に前記各會社の重役たり家族は尚二女珍子（大一〇、九生）二男和夫（同一三、二生）弟信治郎（明三一、四生）同妻宮士子（同三八、一生）同妻滋賀、山本豊次郎二女）弟良三（同三二、一一生）同妻ひろの（同四一、一〇生、滋賀、長野謙藏長女）及其一女弟晋太郎（同三六、一生）同淳一（大三、一生）あり妹春子（明三五、一生）は滋賀縣人田附新兵衛長男榮次郎に母たき（同五、二生）は同縣人田附新兵衛長男榮次郎に嫁し弟義一郎（同二六、八生）は其妻とら（同三五、二生、滋賀、鷺田平司妹）を伴ひ叔父直太郎（同二一生）は其妻マサ（同六、五生、滋賀、田附新兵衛長女）を伴ひ各分家し同竹治郎（同九、一生）は滋賀縣人田附政治郎の養子となり後分家せりA九五〇（兵庫縣武庫郡精道村**電芦屋二九八二**）
参照＝田附竹治郎の項

田寺俊信
從四位勳三等、姫路市長兵庫縣在籍
妻　尚子　明三〇、五生、故貴族院議員古澤滋九女
男　信光　大一〇、八生
女　智惠子　大四、九生
君は兵庫縣人田寺敬信の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格し鳥取縣八頭郡長同縣理事官高知奈良各縣理事官及礦學官奈良長野各縣警察部長香川埼玉各縣內務部長愛知縣警察部長大分滋賀石川各縣知事等に歷任し後退官昭和九年九月姫路市長に就任す家族は尚二女善子（大九、三生）あり（兵庫縣飾磨郡高岡村）
参照＝山下義八郎、畠山敏行の項

田所耕耘
南滿洲鐵道（株）參事、經濟調査會副委員長兼第一部主査事務取扱
母　久の　慶應二、五生、和歌山、三川榮七
女　ジュン　明三四、五生、東京、岩城竹治長
男　豊　大一三、五生
君は和歌山縣人田所弓彦の長男にして明治二十年三月十五日を以て生れ昭和九年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校專攻部を卒業し南滿洲鐵道會社に入り監理部次長を經て同社參事に昇進し現に前記の職に在り家族は尚二男巽（大一四、七生）三男周（昭二、二生）四男桑（同七、八生）あり（大連市黑礁屯四四ノ一〇**電九三五七**）

田所哲太郎
從四位勳三等、農學博士、理學博士、北南道帝國大學教授、理學部長、秋田縣士族
父　直道　安政四、八生
母　ウタ　明元、五生、秋田、渡部均長女
男　達雄　大四、九生
君は秋田縣士族田所直道の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十三年東北帝國大學農科大學農藝化學科を優秀なる成績にて卒業し銀時計を賜はる同四十四年同大學農科大學助教授に任ぜられ大正七年英米佛各國に留學し同九年歸朝同十年北海道帝國大學教授に任ぜられ昭和三年歐米各國へ出張同四年歸朝理學部兼農學部に勤務し現時理學部長の職に在り大正七年農學博士昭和三年理學博士の學位を授けらる家族は尚二男俊男（大六、八生）三男武夫（同八、六生）あり妹愛（明三九、一生）は北大助教授小林己智次に嫁し弟雄四郎（同三二、一生、農學士）は分家せり（札幌市北七條西十二丁目**電二六七**）

田所芳秋
從四位勳五等、理學博士、日本製鐵（株）技師、八幡製鐵所勤務、九州帝國大學工學部講師、明治專門學校各講師、高知縣在籍
父　幾馬　元治元、一〇生、現戸主
母　惠津　明三、一一生、高知、牛田熊次郎長女
妻　夏　明三八、七生、高知、常磐井孝純妹
男　崩　大六、三生
女　滿里子　大四、五生
君は高知縣人田所幾馬の長男にして明治二十二年八月を以て生る大正五年東北帝國大學理科大學物理學科を卒業し製鐵所技師たりしが昭和九年日本製鐵會社設立さるゝに及び同社技師八幡製鐵所勤務となり現在に至る大正九年論文を提出して理學博士の學位を受け昭和二年在外研究員を命ぜられ同九年帝國學士院賞を授與さる家族は尚四女多里子（大一五、四生）弟茂樹（明二

六、一一生）同妻登代美（同三二、一二生、高知、石田竹治長女）及其子あり弟愷（同三五、一生、法學士）は分家せりA三〇〇（八幡市高見町日本製鐵株式會社八幡製鐵所社宅**電七四五**）

田所美治
從四位勳二等、貴族院議員、錦鷄間祇候、勳二等、攝津貯蓄銀行、共同火災保險（株）專務、京報知機、壽命生保險各（株）取締役、大日本武德會副會長、東京府在籍
妻　ユキ　明一二、一〇生、鹿兒島、奥山政敬三女
男　美德　明三一、二生、日本銀行員、法學士
婦　かほる　明四〇、一〇生、長男美德妻、和歌山、士、坂田文雄妹、和歌山高女出身
男　美夫　明三五、七生、三菱商事會社員、法學士
婦　倭　明四一、五生、二男美夫妻、東京日比谷平左衛門長女
君は高知藩士田所美之の長男にして陸軍少將田所浪吉の兄なり明治四年四月十七日を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格直に內務省に入り愛媛宮城東京各府縣參事官より轉じて文部省參事官同書記官文部大臣秘書官普通學務局長文部次官等に歷任し又學習院及宮內省御用掛學習院評議會々員たり同三十六年教育行政法研究の爲歐米各國に留學し同四十三年再び歐米に出張す大正七年野に投じ大阪電燈會社長及共同火災保險會社長等に推され現時前記銀行會社の重役にして傍ら大日本武德會副會長たり同七年貴族院議員に勅選せられ又錦鷄間祇候被仰付家族は尚孫美佐子（昭九、一生、二男美夫長女）あり長女登美（明三三、一生、三輪田高女出身）は實業家永田三十郎に二女春（同三九、三生、女子學習院出身）は實業家森村勇に妹ミキ（同一六、一〇生）は新潟縣人土屋純一に嫁せりA六七五（東京市芝區高輪南町四五**電高輪一一一四**）
参照＝土屋純一、永田三十郎、森村勇※仁井田益太郎の項

田中阿歌麿
正三位、子爵、京都帝國大學理學部講師、中央大學教授、田中資代表社員、東京府華族
母　すま　嘉永四、六生、愛知、土井新三郎長女
妻　竹子　明九、一生、男爵高崎正光叔母、華族女學校出身
男　薫　明三一、六生、正五位、神戸商大助教授、理學士
婦　千代　明三九、八生、長男薫妻、男爵松井慶四郎長女、雙葉高女出身
女　實　明四四、五生
君は長崎縣人田中榮吉の三男にして同彦太郎の養弟なり明治三十一年五月を以て生れ大正八年家督を相續す清酒燒酎醸造販賣業を營み清酒玉園醸造元にして田中屋合名會社代表社員たり家族は尚孫久（大一四、九生、長男薫長男）あり（東京市小石川區水道端町二ノ六四**電大塚四六二五**）
参照＝男爵高崎正光、男爵松井慶四郎※子爵芝山孝豊※安川清三郎の項

田中麻吉
田中屋合名代表社員、清酒燒酎醸造販賣業、長崎縣在籍
母　ハツ　明六、二生、福岡、松尾傳次郎長女
妻　スズ　明三六、四生、長崎、中山九平三女
君は長崎縣人田中榮吉の三男にして同彦太郎の養弟なり明治三十一年五月を以て生れ大正八年家督を相續す清酒玉園醸造元にして田中屋合名會社代表社員たり家族は尚孫國雄（明三九、一生）朔一郎（大三、三生）あり弟文吉（明三五、五生）は同妻喜久惠（同四〇、四生、福岡、池田龍姪）と共に分家し妹トミ（同三六、八生）は長崎縣人竹濱桂一に嫁せり（長崎市袋町一六**電三三二**）
参照＝田中彦太郎の項

田中伊久之助
家主
東京府在籍
妻　光子　明四四、八生、東京、藤田力藏長女
男　豊　明四四、八生、東京、藤田力藏長女
君は東京府人田中榮次郎の長男にして明治三十八年一月四日を以て生れ大正十二年甥榮次の後を承け家督を相續す家主たり家族は尚長女伊都子（昭四、一二生）ありA一二〇二（東京市淀橋區西大久保三ノ一〇二**電四谷一八七二**）

田中伊助
材木商
京都府在籍
母　きみ　安政六、九生、京都、榮藤茂助二女
妹　シナ　明二四、四生、京都、加茂定次郎
君は京都府人田中伊三郎の長男にして明治四十四年九月二十一日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名良雄を改む祖業を繼承し材木商を營む家族は尚弟英一（大五、六生）同章雄（同一一、七生）同常雄（同一三、七生）同照三（同一五、一二生）あり叔母花子（明三七、八生）は分家せりA一五六八〇B一六二（京都市下京區綾小路通柳馬場西入**電下四〇七**）
参照＝加茂定次郎の項

田中伊兵衛
藥種商
大阪府在籍
養母　いと　明元、五生、先々代伊兵衛長女
妻　フク　明一九、七生、養母いと私生子
男　眞三郎　明三七、一〇生
男　聖三　明四五、四生
君は大阪府人福島長三郎の三男にして明治十四年四月十五日を以て生れ先代いとの養子となり大正元年家督を相續し前名拾次郎を改む藥種商を營む長女トク（明四〇、二生）同夫美三（同三一、五生、大阪、植村牛松三男）は其一子を伴ひ分家せりA四二三（大阪市浪速區元町五ノ四〇三**電戎一九五〇**）

田中亥三郎
東京株式取引所取引員
東京府在籍
男　一平　明三〇、八生

君は東京府士族田中茂信の三男にして明治八年四月四日を以て生れ大正二年兄鉦次郎方より分れて一家を創立す現に東京株式取引所短期賞物取引員たりA二一二九B五二一（東京市日本橋區小網町二ノ一〇ノ二**電茅場町一一八一**）

田中育之　埼玉縣多額納稅者、農業、地主

母　きく　埼玉縣在籍
妻　ツネ　安政五、九生、田中正衛長女
女　妙　明三三、一〇生、神奈川、上野澤士妹
女　純　大五、三生
　　大七、九生

君は埼玉縣人田中菊三郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す同年東京帝國大學農科大學を卒業し地主にして農業を營み直接國稅五百七十六圓を納め縣下の多額納稅者たり姉芳（明一六、一一生）は埼玉縣人細井省三に嫁せり（埼玉縣北足立郡小室村）

田中勇　家主　大阪府在籍

祖父　富藏　安政四、三生
祖母　ヤエ　萬延元、一〇生、大阪、豊田彌三兵衛四女
母　アイ　明一三、一一生、大阪、井上民三郎長女
妻　千賀子　明四三、一生、大阪、宮本富藏二女

君は大阪府人田中喜一郎の二男にして明治四十一年三月二十八日を以て生れ昭和六年兄武男の跡を承け家督を相續す家主たり家族は尙弟茂（明四五、五生）同信雄（大一一、一二生）あり叔父幸雄（明三三、五生）は大阪府人肥田友七の養子となれりA三三〇六（大阪市此花區玉川町二ノ一九二**電土佐堀一三五三**）

田中勇　從五位勳六等、遞信局技師、廣島遞信局勤務、島根縣在籍

妻　照子　明二九、三生、兵庫、廣田達雄伯母

君は島根縣人田中溝一の長男にして明治十六年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す大正二年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し播磨造船鐵工各會社技師を歷任し同九年遞信局海軍部に勤務す昭和六年東京遞信局海軍部新潟出張所長を命ぜられ同七年廣島遞信局勤務に轉じ現在に至る（尾道市土堂町持光寺西谷八七五ノ一）

田中一策　飽海電氣㈱代表取締役、南羽電氣㈱專務取締役、山形縣在籍

父　豊　安政五、一二生、現戸主
妻　いよ　明三、一〇生、山形、尾原儀助姉、縣立山形高女出身
養子　豊　明四三、一生、分家巻弟兵次郎長男、日本興業銀行員、法學士

君は山形縣人田中豊の長男にして明治十五年十二月を以て生る同四十年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し現時前記各會社の重役にして曩に大日本信託會社常務取締役たりし事あり（東京市淀橋區戸塚町二ノ七○**電牛込三四○一**）

田中市藏　大阪府多額納稅者、安治川土地㈱副社長、大阪海上火災保險、日興證券各㈱取締役、神戸錢橋、共榮土地、安田信託、中央火災傷害保險、近江屋商會各㈱監査役、大阪毎日新聞社各㈱監査役、大阪府在籍

妻　美穂　明三四、一〇生、日本銀行總裁土方久徵長女

君は大阪府人田中市太郎の長男にして明治二十五年三月を以て生れ同四十三年組父市兵衛の後を承けて家督を相續す大正六年神戸高等商業學校を卒業し現時合名會社近江屋商會代表社員たる外前記各會社の重役たり大正商會代表社員たる資産家として知らる叔父貞治郎（明二四、三生）同市三郎（同二七、六生）は各分家し叔母のぶ（同二八、一一生）は山口縣士族山田敬亮に同藝子（同三二、一生）は京都府人醫學士高木六郎に嫁せり（大阪市西區靱北通一ノ二一**電土佐堀一五〇**）

參照‖土方久徵、山田敬亮※子爵土方雄武の項

田中市太郎　大阪中央放送局員、地家主　大阪府在籍

父　錢之助　明五、一生、現戸主
妻　おとき　明三〇、一二生、大阪、岡本タネ
男　耕市　大八、六生
養子　津村源次郎三女

君は大阪府人田中錢之助の庶子にして明治二十八年十月を以て生る地家主にして現に大阪中央放送局員たり家族は尙三男章二（大一一、一一生）三女澄子（昭三、一二生）四女富士子（同五、二生）ありA一八三一（大阪府泉北郡濱寺下一〇九○**電濱寺六五七**）

田中岩雄　神戸商工會義所義員、土木建築請負業、兵庫縣在籍

妻　延代　明二三、三生、島根、今崎伊吉二女
　　美代子　明四五、一生

君は兵庫縣人田中勘作の二男にして明治七年七月三十日を以て生れ同二十九年家督を相續し商名岩吉を改む土木建築請負業を營み現に推されて神戸商工會議所議員たり弟藤四郎（明一八、三生）同勘次郎（同三五、八生）妹於豊（同二〇、一生）は各分家せりA七三九B一六五（神戸市林田區御舟通二ノ五**電濱川三五二二**）

田中岩吉　神奈川縣多額納稅者、田中兄弟商會㈲代表社員、地主　神奈川縣在籍

妻　きち　明七、四生、神奈川、佐藤喜左衛門二女
男　弘藏　明二六、六生、早大商科出身
　　明三八、四生、長男弘藏妻、東京桑原七兵衛姪
婦　春枝子
男　芳之助　明三二、一一生、早大出身
　　明三七、一生、三男芳之助妻、東京、前川萬治郎妹
婦　福子
男　博　明三六、三生、早大出身

君は神奈川縣人田中力藏の三男同松藏の叔父にして慶應二年十二月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す地主にして現に合名會社田中兄弟商會代表社員たり直接國稅千六百八十圓を納め縣下の多額納稅者に列す曩に横濱商業會議所議員に推され日本鐵鋼會主重文に擧げらる家族は尙孫一郎（大一五、三生、長男弘藏長男）同太郎（同一五、一二生、三男芳之助長男）り長女才子（明四二、七生、フェーリス女學校出身）は愛知縣人渡邊儁養子好雄に嫁し二男正之助（同三〇、四生、

早大理工科出身）同妻佐知（同三七、九生、神奈川、原田千太郎四女）は其一子を伴ひ分家せり（横濱市中區本牧三ノ谷一〇七**電本局一二七九**）

參照‖桑原七兵衛、田中松藏※遠井倍之助※河合佐兵衛※田中榮藏の項

田中岩治　質業　東京府在籍

妻　愛　明二一、四生、養父佐次藏長女
男　英二　明四五、五生
女　八重　大四、四生

君は千葉縣人吉田豊吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ同四十年東京府人田中佐次藏の養子となり翌四十一年分れて一家を創立す質業を營む家族は尙三男正男（大八、二生）あり長女喜代（明四三、六生）は東京府人吉田政雄に嫁せりA三五六（東京市麻布區谷町四一**電赤坂一三五四**）

田中卯之吉　地主　東京府在籍

妻　靜　明三一、三生、東京、金親豊治郎姉
男　秀和　昭五、二生

君は東京府人田中文治郎の二男にして明治二十四年一月八日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙長女千惠（大一一、六生）二女榮子（同一四、四生）ありA七〇三（東京市小石川區宮下町四三**電大塚一四七六**）

田中右橋　正四位勳二等、判事、大阪控訴院長、鹿兒島縣在籍

妻　ちよ　明一八、一〇生、宮城、橋本信次郎妹
男　一郎　明三九、二生
男　五郎　明四二、一一生
女　貞子　大四、二生
　　節子　大八、一生

君は鹿兒島縣士族末田景泰の二男にして明治八年七月を以て生れ同十年先代太郎太の養子となり家督を相續す同三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十七年判事に任じ爾來大阪地方同區各裁判所判事大阪控訴院判事大阪地方裁判所部長奈良地方裁判所長大審院判事京都大阪東京各地方裁判所長大審院判事等に歷補し尋で宮城廣島各控訴院を經て現時大阪控訴院長たり長女八子代（明四一、八生）は宮城縣人今井龍雄に二女波留（同四五、三生）は同縣人遠藤乾二に養子志津（同二四、四生、鹿兒島、士、末田貫三女）は鹿兒島縣士族福永篁に嫁せり（大阪市大阪控訴院內）

參照‖橋本信次郎※石光眞臣※橋本壽三郎の項

田中宇一郎　小松屋、茶商　京都府在籍

妻　はつ　明八、八生、京都、伊藤芳太郎長女
養子　重二郎　大原重右衛門二男
　　ちよ　明三三、八生、養子重二郎妻
女　明三〇、一生、二女ちよ夫、滋賀

君は京都府人田中七右衛門の長男にして明治三年四月十二日を以て生れ同二十一年家督を相續す小松屋と稱し茶商を營む家族は尙養孫良直（昭七、六生、養子重二郎養子、高知、有光壬辰三男）あり妹ミツ（明八、一二生）は京都府人田中小佐吉に同テイ（同二三、五生）は大阪府人白井晉治郎に長女イソ（同三〇、五生）は高知縣人有光壬辰に嫁せりA一三六五（京都市上京區大將軍西町九**電西陣一〇七二**）

參照‖有光壬辰の項

田中宇之助　羅紗商　大阪府在籍

母　イノ　嘉永元、一生、田中清平長女
妻　タツ　明元、六生、奈良、後藤與平治二女
男　清一　明二六、八生
　　シカノ　明三二、一〇生、長男清一妻、大阪、吉川民藏六女
婦　清次　明三六、八生
男　コウ　明四二、五生、三男清次妻、京都榮垣寺次郎三女
婦　榮　明四〇、一生
男　清正　明四四、一生、四男清正妻、大阪、松本幾治長女
　　貞子

君は奈良縣人先代清の長男にして明治二年八月八日を以て生れ同二十一年家督を相續す羅紗商を營む家族は孫良子（大九、六生、長男清一長女）同政子（同一三、

五生、同二女）同彰平（昭四、六生、同長男）同正（同五、三生、三男清次長男）同清子（同七、九生、四男清正長女）あり長女紺（同二五、四生）は大阪府人森居小七郎に嫁し二男清太郎（同二八、七生）同妻ふさ（同三三、三生、大阪、平野元治郎二女）は其子女を伴ひ分家せりA二五七B一七二（大阪市東區谷町二ノ一八**電東三〇三五**）

田中哥吉　地主　東京府在籍

妻　はつ　明一一、一生、埼玉、秋元卯太吉長女
男　長治　明三五、一生
婦　なつ　明三八、七生、長男長治妻、東京石川礒之助妹
女　あい子　大二、七生
　　君子　大七、七生

君は東京府人田中吉左衛門の二男にして明治九年八月二十二日を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す地主たり家族は尙孫一夫（大一四、七生、長男長治長男）同キセ（昭三、一〇生、同長女）同容子（同七、一〇生、同二女）あり長女ときを（明四一、八生）は東京府人川端權三郎二男貞次郎に嫁せり（東京市豊島區堀之內一七四）

田中梅吉　惠比須驛運送會社員　東京府在籍

養母　かま　明七、一生、東京、伊東鐵五郎妹
妻　しげ　明三四、四生、養父半次郎長女
　　道仁　昭八、三生
男　清一

君は東京府人福山金太郎の弟にして明治三十年三月三十一日を以て生れ昭和二年田中半次郎の養子となる現時惠比須驛運送會社員にして會計係たり家族は尙長女榮子（昭二、六生）二女穩子（同五、五生）繼子久德（大一一、一二生）あり養叔父巳三郎（明一三、五生）同妻カヨ（同二一、二生、東京、川井鶴之助叔母）は其子女を伴ひ分家し養叔母はな（同一七、四生）は東京府人野村又七に嫁せりA六六九（東京市目黒區三田二五九**電高輪五四六七**）

參照‖川井鶴之助の項

田中英　正五位勳五等、京都市理事、教育部長、神奈川縣在籍
　母　ナミ　文久二、一一生、神奈川、松本忠七長女
　妻　フミ　明三一、八生、神奈川、澁谷常八妹、實踐女學校出身

君は神奈川縣人田中敬太郎の二男にして明治二十一年十月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來長野縣下水内郡長同更級郡長長野茨城各縣理事官茨城山口各縣書記官同觀學官學務部長京都府書記官學務部長等に歷任し昭和五年福井縣書記官に轉じ内務部長に補せらる同六年十二月休職となり閑居せしも同九年五月京都市理事教育部長となり今日に至る家族は尙弟恂(明二六、九生)同郁三郎(同三二、二生)同妻貞(同四一、一二生、神奈川、今井健三妹)及其一子あり姉ふじ(同二〇、一生)は神奈川縣人宮永米造に妹クニ(同二三、七生)は同縣人關野彌八に嫁せり(京都市上京區紫竹初音町一〇**電西陣三三三四**)

田中英之助　資産家　東京府在籍
　妻　德子　明三七、三生、千葉、建石嘉一郎妹
　男　清之助　大一四、三生

君は埼玉縣人間坂伊兵衛の二男にして明治二十九年一月十一日を以て生れ先代ていの養子となり昭和三年家督を相續す資産家たり家族は尙二男惠之助(大一五、六生)二女久子(昭五、一一生)三女英子(同七、一生)あり**A一五七五**(東京市麻布區笄町一二五**電青山六三二七**)

田中榮二郎　京都取引所取引員　京都府在籍
　母　ムメ　文久二、二生、京都、木村喜七三女
　妻　和い　明二七、三生、滋賀、加藤保治郎妹

君は京都府人田中常三郎の長男にして明治二十年六月二十一日を以て生れ同四十四年家督を相續す現に京都取引所証券並米取引員たり家族は尙妹タマ(明二三、一〇生)あり同ユカ(同二七、一二生)は京都府人藏田やゑ養子松太郎に嫁せり**A三三一五B七四六**(京都市中京區東洞院蛸樂師下**電本局二〇四三**)

田中榮藏　尾張屋商店(株)社長、尾張屋倉庫部資代表社員、東京府在籍
　母　ヨシ　明二、一一生、祖父榮次郎長女
　妻　喜代　明二七、一一生、東京、桑原七兵衛妹
　男　榮一郎　大六、一生
　女　和子　大八、三生

君は東京府人田中榮次郎の長男にして明治二十三年三月二日を以て生れ大正十年家督を相續す養に尾張屋商店社長尾張屋倉庫部代表社員たり家族は尙二男實(大一〇、七生)三女愛子(同一四、一〇生)五女秀子(同一二、一一生)四女好子(同一四、一〇生)五女愛子(昭三、五生)の外弟又次郎(明二八、一一生、東京、張屋商店常務取締役)同妻ハナ(同三三、一生、東京、富澤多三郎三女)及其二男二女第三郎(同三六、東京、澤井倍之助※淺井倍之助※河合佐兵衛※田中兵衛※桑原七兵衛※淺井倍之助の項)

田中榮八郎　日本フエルト、日出紡織、鳳城炭鑛、大日本人造肥料、合同炭鑛各(株)社長、大滝鑛山、朝鮮合同炭鑛、東京鋼業、大日本自轉車、熊本加工製紙、大日本製鋼所、帝國氣電、日本硫酸、日本鋼管、北海道肥料、日本電燈、淺野セメント、鳥人造肥料、上毛電氣鐵道、南鐵道、大黄、神人造肥料、理化學興業、北熊本保全、阪アルカリ土地、阪和興業、王子製紙、鴨綠江製紙、昌德鐵業各(株)取締役、東洋汽船、日本汽船、日本製炭鑛、日本セメント、東京飛行機製作所、日本電力、東京電燈、東京瓦斯、東京電氣、日本電興、東京船舶、日東硫酸、東京酸素、關西酸素各(株)監査役、仁壽生命保險各(株)監査役、大榮商會、武州瓦斯、大日本特許肥料各(株)相談役、東京府在籍

　妻　かめ　慶應二、一生、榮父平右衛門長女
　男　壽一郎　明四七、一二生
　男　愼一郎　明四四、一一生、東大經濟學部在學

君は福岡縣人永利傳次郎の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正七年同縣人田中政の養子となる先是同四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同六年文官高等試驗に合格す同年愛知縣屬となり同縣警部同南設樂郡長北海道空知支廳長を經て同十二年東京都府理事官同十四年奈良縣書記官に任じ同觀學官學務部長佐賀島取群馬廣島各縣警察部長に歷任し昭和七年現職に轉ず家族は尙長女榮子(大九年生)二女暢子(同一三年生)二男良彥(同一五年生)三女佐紀子(昭三年生)四女敬子(同五年生)あり(松山市御室町一一九ノ一官舍)

田中音藏　材木商　愛知縣在籍
　妻　けい　元治元、四生、三重、木村駒太郎妹
　男　守藏　明三一、一一生
　婦　郁子　明三七、八生、二男守藏妻、愛知太田善太郎長女

君は三重縣人田中總七の四男にして明治元年九月二十三日を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す材木商を營む家族は尙孫正藏(大一四、六生、二男守藏長男)同芳男(同二男)同富雄(昭五、三生、同三男)あり長女君は薩川越藩士大川儀三の三男にして大川平三郎の弟子爵故澁澤榮一の甥なり文久三年八月十六日を以て生れ先代いねの養子となり明治二十五年家督を相續す嘗に王子製紙會社に勤務せしが後關東醍醐會社を起し推されて專務取締役となり澁澤子爵の相談役を受け後各種の事業に關係し現時前揚諸會社の重役として知らる長女榮子(明二二、七生)は東京府人藤田好三郎に二女三保子(同三〇、三生、跡見女學校出身)は同府人田邊文之助に三女糸子(同三三、三生、御茶の水高女出身)は男爵萬里小路元秀に嫁せり**A七四九〇四**(東京市本郷區根津宮永町三六**電下谷七五八**)
　參照‖男爵萬里小路元秀、大川平三郎、田中壽一、田邊文之助の項

田中修　正五位勳六等、愛媛縣書記官、內務部長、福岡縣在籍
　養父　カツヨ　明一五年生、現戸主
　妻　和政　明三四年生、福岡、大藏周市孫
　男　和政　大一三年生

君は福岡縣人永利傳次郎の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正七年同縣人田中政の養子となる先是同四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同六年文官高等試驗に合格す同年愛知縣屬となり同縣警部同南設樂郡長北海道空知支廳長を經て同十二年東京都府理事官同十四年奈良縣書記官に任じ同觀學官學務部長佐賀島取群馬廣島各縣警察部長に歷任し昭和七年現職に轉ず家族は尙長女榮子(大九年生)二女暢子(同一三年生)二男良彥(同一五年生)三女佐紀子(昭三年生)四女敬子(同五年生)あり(松山市御室町一一九ノ一官舍)

みね　明二六、七生)は分家し養子八重(大二、二生)は愛知縣人山田重和に嫁せり**A二六四B一一六**(名古屋市中區西洲崎町三**電本局二七六九**)

田中弟稻　日本生命保險(株)常務取締役　鳥取縣在籍
　妻　愛　明二四、四生、兵庫、野間宗七姉
　女　千鶴子　大四、六生
　女　明子　大六、七生
　女　律子　大八、三生

君は鳥取縣人田中政春の二男にして明治十四年十月十五日を以て生れ同四十二年家督を相續す現時日本生命保險會社常務取締役たり家族は尙四女不二子(大一一、一生)あり弟春海(明一八、四生)同妻刹(同二八、七生東京、木村義忠三女)は其四男二女を伴ひ分家し妹滋子(同二四、三生)は鳥取縣人吉田鹿藏に嫁せり**A一四一二**(兵庫縣武庫郡良元村**電賓塚一四九**)

田中嘉三郎　東京開城館(株)常務取締役兼編輯長　鳥取縣在籍
　妻　リウ　明二〇、七生、山口、池本初太郎長女
　女　節子　大二、一生、津田英學塾出身
　女　たま　大四、八生、津田英學塾在學
　女　房子　大七、七生、立教高女在學

君は鳥取縣人田中雄三郎の二男にして明治十二年九月四日を以て生れ大正二年家督を相續す夙に東京高等師範學校本科を卒業し高知山口大分の三縣にて中等教育に從事すること六年後大阪新報記者となり株式會社同文館の編輯長を經て現時株式會社東京開成館常務取締役兼編輯長たり家族は尙四女京子(大一〇、八生、府立第五高女在學)**ありA七六二**(東京市杉並區西田町一ノ七〇七**電荻窪三五〇九**)

田中開次　地主　東京府在籍
　養母　きく　安政二、一生、神奈川、山田金五郎妹
　妻　くら　明一五、一生、東京、酒井米太郎養母
　男　喜信　明四二、九生
　婿　壽々　明四三、九生、長男喜信妻、東京柴崎市郎妹

君は東京府人榎本市五郎の三男にして明治九年七月を以て生れ先代久一郎の養子となり大正二年家督を相續す地主たり長女く(明三四、四生)は東京府人柴崎市郎に二女ゆき(同三五、一一生)は同府人大場兵次郎長男秀夫に三女いそ(同三七、一一生)は同府人柴崎藤二に四女つね(同四一、一生)は同府人木村左一に嫁せり**A六〇九**(東京市目黑區三田二〇五**電高輪三八一四**)
　參照‖柴崎市郎の項

田中覽　大同貿易(株)專務取締役　山梨縣在籍
　妻　嘉子　明二九、一〇生、山梨、廣瀨正善姉
　男　實　大七、七生

君は山梨縣人田中和信の三男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十三年東亞同文書院商務部を卒業し現時大同貿易會社專務取締役たり家族は尙長女美代子(大九、一生)**ありA四八九九**(神戸市須磨區櫻木二ノ四四**電須磨一四〇九**)

田中一男　京都府會議員、京阪建築土地(株)社長、京都大內製作(株)監査役、計理士、京都府士族
　繼母　ノブ　明二、五生、京都、金田忠兵衛妹
　妻　駒　明二七、一生、大阪、饗內民三女
　男　健　明四、一二生

君は京都府人田中謙の長男にして明治十七年一月二十五日を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十二年早稻田大學法學部を卒業し計理士にして現時前記銀行會社の重役に擧げらる又京都府會議員に選ばれ京都土地計畫地方委員京都府方面委員等の公職にあり弟經三郎(明三三、八生)は分家せり**A一一〇〇**(京都市下京區東九條札ノ辻町**電下四〇六二**)
　參照‖田中謙の項

田中一馬　京都府多額納稅者、亀岡織取、京都工商商取(株)取締役會長、京都織取、京都恒吉商店各(株)取締役、京都瓦斯(株)理事、京都電燈(株)取引所、川崎信託各(株)監査役

　母　まさ　安政五、六生、京都、垂水九郎左衛門長女
　妻　ゑん　明一五、七生、京都、內貴清兵衛妹、京都第一高女出身
　男　秀雄　明二八、七生、理學士
　男　恭二　明四二、三生、法學士
　男　磐男　明四三、一〇生、經濟學士

田中家は古くより京都府南桑田郡亀岡町に土着し維新以前飛脚運送問屋を營み同町屈指の舊家且素封家として知らる先代源太郎は實業界の長老として衆望を負ひ亀岡銀行を創立し其頭取となり傍ら諸銀行會社の重役を兼ね衆議院議員及貴族院議員に選ばれし人なり君は先代源太郎の長男にして明治十年一月一日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十四年東京高等商業學校を卒業し現時亀岡銀行頭取たる外前記各會社の重役にして京都府多額納稅者に列し義に貴族院議員に互選せられ京都府會議員京都商工會議所顧問に擧げらる謙曲に趣味を有す家族は尙六男乙彥(大五、八生、甲南高校在學)妹滋野(明一三、二生)あり長女道子(同三七、三生、樟蔭高女出身)は兵庫縣人京都工商會社員武井尹人に二女俊子(同四〇、九生、甲南高女出身)は滋賀縣人西川甚五郎二男清二郎に妹りよ子(同一一、二生)は京都府人原田鐵之助に嫁し四男妾(同四五、一生)は同府人田中忠雄に弟政太郎(同一九、三生)は同府人田中數之助に同幸二郎(同二八、一二生、法學士)は東京府士族西村スミに各養子となり弟二郎(同一五、一一生)は其妻子を伴ひ同和一(同二七、九生)も各分家せり**A一七四四五**(京都市中京區新町錦小路上ル**電西陣三三一二**)
　參照‖田中玄藏、田中二郎、田中忠雄、武井尹人、內貴清兵衛、西川甚五郎、原田鐵之助、深田政太郎の項

田中克(スグル)　昭和スレート(株)取締役會長　東京府士族
　男　復　明一八、六生
　男　悌四郎　明二五、二生
　婦　ヨシノ　明三四、一〇生、四男悌四郎妻、東京、栗山敏雄妹

君は新潟縣人八越恕讓の三男にして嘉永六年三月を以て生れ先代廣德の養子となり後家督を相續す現時昭和スレート會社取締役會長たり家族は尙孫嶌子(大一三、

三生、四男悌四郎長女）同浩（昭二、一生、同長男）あり三男已三郎（明二二、一一生）は分家し二女敏（同二七、三生）は愛知縣士族伊勢弘之從弟良男に嫁せり（東京市澁谷區南平臺町一一**電青山三八〇九**）

田中兼三郎　地家主　東京府在籍

男　鎌太郎　明三一、五生、慶大理財科出身

婦　利喜　明三八、三生、埼玉、神田光平長女、埼玉縣立川越高女出身

君は東京府人田中金藏の長男にして明治四年六月十日を以て生れ同四十二年家督を相續す地家主たり家族は尙孫英一（大一四、八生、長男鎌太郎長男）同公子（昭三、六生、同長女）同恭子（同七、六生、同二女）あり二男礎吉（明三三、二生）は同妻すま（同三八、一生、埼玉、小峰小太郎二女）及其一男一女を伴ひ分家し二女コウ（同二九、五生）は埼玉縣人神田光平弟心廣に三女イク（同三五年生）は東京府人深澤秀藏三男龍夫に五女ツル（同四〇、六生）は同府人井上濱吉桑子彌四郎に嫁し弟銀藏（同一九、四生）は千葉縣人平野爲吉の養子となれりA三二五（東京市中野區昭和通一ノ二九）

田中龜次郎　家主　大阪府在籍

妻　ツヤ　明八、八生、大阪、田中エク桑妹

君は大阪府人久保田吉左衛門の三男にして明治十六年七月九日を以て生れ同三十九年先代ツヤの入夫となり家督を相續す家主たりA二一九九（大阪市此花區大野町一ノ二**電土佐堀五二九〇**）

田中龜太郎　京都府多額納稅者　京都府在籍

君は京都府人小倉太吉の長男にして慶應三年一月十日を以て生れ先代ミヨの入夫となり明治二十五年家督を相續す資產家として知られ京都府多額納稅者に列す妹スミ（明一一、五生）は分家せりA四八八六（京都市中京區衣棚通二條上ル**電上二八〇六**）

田中完三　三菱商事㈱常務取締役、肥料部長、北洋商會、三菱倉庫、日本ビクター蓄音器各㈱取締役、日本生絲㈱監査役、新潟縣在籍

妻　ヒデ　明一九、六生、新潟、野上俊夫妹お茶の水高女英語科出身

女　孝子　大元、一一生、聖心女子學院語學科出身

女　從子　大六、六生

女　美穗子　大七、九生

君は新潟縣人八木友次郎の三男にして明治十九年一月二十日を以て生れ先代美鴨の養子となり同四十三年家督を相續す同四十一年東京高等商家學校を卒業し三菱商事會社に入り大正九年雜貨部長となり同十年ロンドン支店長に擧げられ現時同社常務取締役兼肥料部長たる傍ら前記各會社の重役たり家族は尙四女那美子（大六、二生）六女惠美子（昭四、一生）ありA三六九三（東京市花原區小山町五〇九**電荏原二六五七**）

田中勘助　吳服商　京都府在籍

妻　キク　明二九、二生、京都、小野善助長女

男　勘三郎　大八、一二生

君は京都府人先代勘助の長男にして明治二十七年四月二十一日を以て生れ大正十五年家督を相續し後前名勘次郎を改め襲名す吳服商を營む家族は尙二男清太郎（大一二、三生）三男芳三郎（同一三、一一生）長女澄子（同一五、一一生）二女つゞや子（昭六、三生）あり養兄幸吉（明一九、二生、京都、小野善助四女）は其三子を伴ひ分家し妹八重（同三一、一生）も亦分家せりA七六〇B一五六（京都市下京區室町通松原下ル**電下四八八**）

田中寛　日本製粉㈱取締役　東京府士族

父　勝典　安政二、一二生、現戶主

妻　榮子　明二八、四生、東京、野島勝七長女

男　勝壽　大五、九生

女　立江　大四、一一生

君は東京府士族田中勝典の三男にして明治十四年一月を以て生る同四十二年東京高等商業學校卒業し現時日本製粉會社取締役たり家族は尙三男豊（大一〇、三生）ありA九一五（東京市豊島區長崎南町二ノ一九二四**電大塚二八〇八**）

田中寛一　正五位勳四等、文學博士、東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授、日本大學教授、岡山縣在籍

養父　義市　慶應二男、一生、岡山、小松原芳太郎二男、現戶主

妻　初音　明二二、一一生、養父義市長女

男　一彦　明四三、三生、理化學研究所勤務農學士

女　壽滿子　大二、六生、お茶の水高女專攻科出身

君は岡山縣人尾崎若松の四男にして明治十三年九月を以て生れ同四十一年田中義市の養子となる同四十年東京高等師範學校本科英語部を卒業し山梨師範岡山女子師範及岡山高等女學校教諭に歷任し大正二年京都文科大學哲學科を卒業直に東京帝國大學大學院に入り同八年文學博士の學位を受け東京高等師範學校教授に任ぜられ同十一年米佛獨英各國に留學し同十三年歸朝昭和三年附屬中學校主事を命ぜられ同四年東京文理科大學教授に任じ東京高等師範學校教授を兼任し今日に至る「人間工學」日本民族の將來」「數育的測定學」等の著書あり家族は尙二男英彥（大四、九生、東京高師在學）三男俊彥（同一一、六生）ありA一五六（東京市豊島區西巢鴨二ノ二二〇四**電大塚二二三八**）

田中寛介　日本フェルト㈱營業部長　東京府在籍

妻　美穗枝　明三一、一二生、米山たよ長女

君は山口縣人田中美作の二男にして明治十八年四月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す夙に東洋拓殖民專門學校を卒業す横濱稅關に勤務し後日本フェルト會社に入り現時同社營業部長たりA四五四（東京市本郷區駒込淺嘉町九七**電小石川六五五九**）

田中喜左衛門　金融業　京都府在籍

母　らい　嘉永三、三生、京都、岡本卯兵衛三女

妻　ウタ　明一三、八生、京都、廣瀨治兵衛二女

男　俊一　明三七、五生

婦　絢子　明四二、六生、二男俊一妻、滋賀香水文治郎五女、京都府立第一高女出身

男　周三　明四五、三生

田中家は先々代喜作京都府下より市に出て一家を創立したるに創まる先代喜藏其後を承けて田中屋と稱し醬油釀造業を始め刻苦經營して當家今日の礎を爲せり君は其の長男にして明治十年六月一日を以て生れ同十八年家督を相續す夙に遺業を繼ぎ醬油釀造に從事せしが近年是を廢し金融業を營み資產家として知らる登山に趣味を有す家族は尙六男洪五（大八、七生）三女敦子（同一〇、一二生）あり長女キタ（明三〇、八生、京都市立高女出身）は京都府人小泉俊太郎二男俊三に嫁し三男欽二（同四一、九生）弟豊藏（同一四、一〇生、著述業、文學士）同喜作（同一八、二生、京都市立美術工藝學校出身）は各分家し妹ハツ（同二二、一一生）同夫梅吉（同一六、九生、茨城、木村常吉弟、文學士）も亦共に分家せりA一一九二（京都市左京區下鴨中川原町**電上五五三九**）

參照＝木村常吉の項

田中喜三治　大阪市會議員、大阪堂島米穀取引所㈱監査役、大阪堂島米穀取引所取引員、大阪府在籍

妻　しも　明八、一生、大阪、高木伊助三女

養子　龍三　明三二、三生、桑子フク夫、大阪井上林藏弟

養子　フク　明三四、二生、養子龍三妻、大阪高野小市二女

君は兵庫縣人田中喜八郎の長男にして明治十二年二月二十三日を以て生れ後分れて一家を創立す現時大阪堂島米穀取引所監査役にして同取引所正米部執算部取引員たり又大阪市會議員に選ばる曩に東洋自動車會社監査役たりし事あり家族は尙孫英惠子（大一〇、三生、養子龍三長男）同ゆき子（同一二、九生、同長女）同晉平（同一五、一二生、同二男）同靖七（昭四、五生、同三男）同佐和子（同七、九生、同長女）あり庶子多美子（明三四、四生）は其生母兵庫縣人赤銅コトの養子となれりA一九四五B五三四（大阪市北區堂島船大工町四二**電北五五二**）

田中喜三良　鮒鶴料理業　京都府在籍

妻　一榮　明三二、五生、石原清太郎長女

男　泰一　大一〇、七生

君は京都府人田中藤太郎の二男にして明治二十九年一月を以て生れ後分れて一家を創立す鮒鶴と稱し料理業を營む家族は尙長女タミ（大一一、一〇生）二女喜久榮（同一三、七生）二男忠男（昭二、六生）ありA六七八（京都市下京區東木屋町松原上**櫻下七六九〇**）

田中喜三郎　大阪市會議員、質商　大阪府在籍

妻　ツヤ　文久二、九生、大阪、蟹川鶴之助姉

男　一九、一生、大阪、蟹川鶴之助

養子　良　明四四、二生

女　大二、七生

女　大三、一一生

女　博　大四、一一生

女　大七、一生

君は大阪府人田中嘉吉の長男にして明治十六年十二月七日を以て生れ大正十五年家督を相續す質商を營み現に推されて大阪市會議員たり家族は尙三男基雄（大九、三生）あり三女貞子（明四一、一一生）は兵庫縣人中澤德藏長男利一郎に嫁せり養子良（明四一、一一生）は同人赤銅コトの養子となれり家族は尙孫英惠子（昭四、九生、桑子寅雄長女）あり桑父敬造（明三五、四生、兄萬太郎三男、北海道電燈會社秋田出張所勤務、慶大出身）は分家せり（旭川市宮下通一丁目十號）

田中義一　醫海時報社長、倭文社主、出版印刷業、東京府在籍

妻　光　明一〇、一一生、東京、橋本德定長女

君は群馬縣人鷹原萬太郎の弟にして明治十年四月二十日を以て生れ先代敬造の養子となり大正五年家督を相續す夙に同志社大學に學び日露戰役に際し基督教青年會軍政慰問部主事として從軍す後木材商を營み傍ら田中木工場北海興業北海工業旭川曲木工藝北海石灰各會社の重役に就任し現時旭川市會議員の任に在り昭和七年推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す家族は尙孫美惠子（昭四、九生、養子寅雄長女）あり養父敬造（安政元、一一生、田中木工場社長、材木商）養母たき（文久三、八生、兵庫、亡北村武男養母）は共に分家せり（旭川市宮下通一丁目十號）

田中義七　洋反物商　兵庫縣在籍

妻　たね　明一〇、一〇生、兵庫、田中平次郎長女

男　由太郎　明三六、一生、慶大經濟學部出身

君は兵庫縣人田中清吉の長男にして安政二年一月十五日を以て生れ明治五年家督を相續す洋反物商を營む義に兵庫縣多額納稅者に列す家族は尙義起（亡養子義造長男）あり二女國榮（明四二、一一生、東京三輪田高女出身）は分家せりA一一六七（神戸市神戸區山本通四ノ一四五ノ四**電三宮六四九**）

參照＝田中由太郎の項

田中義七　地主　東京府在籍

妻　ふで　明三八、一二生、東京、田中六太郎長女

男　壽太郎　昭八、二生

君は東京府人田中金三郎の二男にして明治三十八年一月二日を以て生れ大正十二年祖父寅吉の跡を承け家督を相續す地主たり家族は尙母長女和江(大一五、九生)二女典子(昭三、一一生)妹壽江(大五、六生)あり弟貞治(明四一、八生)は同妻き〻(同四四、八生、叔母わか女)と共に叔母わか(同三、五生)を伴ひ分家し姉ノブ(同三六、四生)は東京府人田中春吉に嫁せりA五二七(東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ二六一)

田中吉太郎　機工業　大阪府在籍

妻　ちせ　慶應三、四生
男　吉夫　明三六、二生
婿　ちよ　明三八、七生、長男吉夫妻、大阪坂口嘉兵衛二女

君は大阪府人祖父吉五郎の孫にして明治八年九月一日を以て生れ同二十六年家督を相續す鐵工業を營む妹キヌ(明一四、四生)は大阪府人小田治太郎に嫁せりA五〇五B七四(大阪市港區九條北二ノ三三電西一二三八)

田中吉太郎　大阪府多額納稅者、金融業　大阪府在籍

當家は明和年間より大阪に住し代々相傳へて十一代田中吉右衛門に至る君は其長男にして明治九年六月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十九年大阪高等商業學校を卒業し不動產の經營並に金融業を營み直接國稅二萬六千百九十九圓を納め大阪府多額納稅者に列す多年禪を修め又社會教育に力を盡し表彰せらる(大阪市南區北炭屋町四六電南五九〇)

田中吉兵衛　井村整興社㊞取締役、花玉堂、化粧品卸商、東京府在籍

妻　ま　き　明二六、二生、千葉、豊田伊平妹
男　啓二郎　大九、一生
女　年　子　大六、六生

君は東京府人柏熊德兵衛の三男にして明治十六年十月を以て生れ先代吉兵衛の養子となり大正十年家督を相續と共に前名彌三郎を改め襲名す花玉堂と稱し化粧品卸商を營み囊に井村整興社長たりしが現時同社取締役たり家族は尙二女英子(大一一、七生)三男彌三郎(同一三、四生)四男久(昭二、二生)五男宏(同四、三生)あり(大九二五B二三〇)(東京市日本橋區馬喰町三ノ六電濃花三三三)

田中久太郎　海苔採取業　東京府在籍

養母　イ　セ　明九、一生、東京、辻龜吉長女
妻　セ　明二二、一二生、養父久太郎長女
男　久　保　明四五、五生
男　重　久　大三、八生

君は東京府人小關利八の三男にして明治二十一年十月九日を以て生れ同四十四年先代久太郎の養子となり昭和六年家督を相續し前名彙吉を改め襲名す海苔採取業を營む家族は尙三男久三郎(大七、一生)三女勝(同一三、一生)あり(大五〇五(東京市大森區大森六ノ二七六三電大森六六七)

田中久之助　田中久商店㊞代表取締役、洋傘シヨール商、京都府在籍

妻　チヨ　明一六、八生、京都、山室梅三郎姉
養子　吉次郎　明二九、一一生、養子しづ夫、京都、奥田房之助二男
養子　しづ　明三五、一〇生、養子吉次郎妻、京都、林みの養子

君は京都府人田中信光の四男にして明治十一年七月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す洋傘ショール商を營み田中久商店代表取締役たり囊に京都府多額納稅者に列す家族は尙庶子久太郎(昭二、五生、生母、京都、村木チル)同久三(同五、四生、生母同上)孫トシ(大一二、一二生、養子吉次郎長女)同吉之助(同一五生、同長男)あり(大二六一三(京都市左京區淨土寺馬場町八電二八六〇)

參照‖※三宅清治郎の項

田中經太郎　正五位、靜岡高等學校教授　大阪府在籍

妻　す　ま　明二三、一一生、愛知、士、熊澤鏡之介長女
男　喬　大一二、一生

君は大阪府人田中宗三郎の五男にして明治十七年十二月を以て生れ大正三年兄駒太郎方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正九年慶應義塾大學豫科教授となり同十二年靜岡高等學校教授に任ぜられ現時其の任にあり囊に獨逸に留學し昭和三年歸朝す家族は尙四男浩(大一四、七生)あり(靜岡市西草深町六〇)

參照‖余部市郎兵衛の項

田中　清　川崎第百銀行員　東京府在籍

養父　瀧三郎　明三〇、五生、現戸主
妻　富美子　明四三、一生、茨城、小菅讓作二女
男　久　雄　昭六、一〇生

君は東京府人田中福三郎の五男にして明治四十一年二月二十九日を以て生れ大正十三年兄瀧三郎の養子となる資產家にして現時川崎第百銀行員たり家族は尙長女薗子(昭五、四生)ありA一〇〇一(東京市澁谷區螢谷町二四電青山七四四二)

田中金次郎　大阪堂島米穀取引所取引員　大阪府在籍

妻　り　う　明一〇、一〇生、大阪、網野松之助妹
男　治良一　明三六、三生
婿　嶺　子　明三八、一生、長男治良一妻、京都、岡崎貞之助二女

君は大阪府人田中治助の長男にして明治五年七月六日を以て生れ同四十二年家督を相續す現時大阪堂島米穀取引所正米部清算部取引員たり囊に甲陽土地會社取締役たりしことあり家族は尙孫富士子(大一四、三生、長男治良一長女)同美津子(同一五、一一生、同二女)同金之助(昭三、一二生、同長男)同妙子(同六、一生、同三女)同昭忠(同七、九生、同二男)あり A一八五二B三三六(大阪市北區堂島濱通一ノ九三電長北三四二・三四三)

參照‖網野松之助※上原久太郎の項

田中金次郎　資產家　東京府在籍

父　八十八　明八、一一生
繼母　ふ　ん　明三一、五生、群馬、岸友太郎四女

君は東京府人田中八十八の三男にして明治四十二年四月十五日を以て生れ昭和二年家督を相續す資產家たり家族は尙妹ハナ、大三、一一生)ありA五三五(東京市大

森區入新井四ノ八六七電大森二八六)

田中金之助　三菱倉庫㊞取締役、兼神戸支店長　東京府士族

父　銀　藏　文久元、九生、現戸主
母　ま　つ　元治元、三生、東京、新井鐵次郎姉
妻　ル　ツ　明二六、四生、東京、中川藤四郎四女
男　鐘　一　明四五、二生
女　利惠子　大二、一〇生
女　榮　子　大六、二生
女　和　子　大八、八生

君は東京府士族田中銀藏の長男にして明治十九年五月を以て生る夙に三菱倉庫會社に入り大阪神戸各支店支配人を經て現時同社取締役兼神戸支店長たり家族は尙四女英子(大一〇、一二生)五女幸惠(同一三、一生)弟壽夫(明三四、八生)ありA一一〇八(神戸市神戸區下山手通八ノ四二ノ一電元町七九九)

田中銀次郎　堺化學工業㊞社長　大阪府在籍

妻　タ　カ　明三、一〇生、愛知、西原風史二女
男　舍　蜜　明三五、七生、洋畫家
男　秀　男　明四二、六生、早大理工學部在學
女　フ　ジ　大三、一二生、堺高女出身
庶子　芳　子　明四四、三生、生母、大阪、小島カネ
庶子　工　大二、一生、生母、大阪、小島カオ、京大工學部在學
庶子　さかゑ　大八、一二生、生母、大阪、小島カネ

君は岐阜縣人田中忠平の二男にして明治五年六月十一日を以て生れ同二十六年兄嬀次郎方より分れて一家を創立す同二十三年愛知縣藥學校を卒業し工業藥品の製造に從事する事多年現時堺化學工業會社々長たり家族は尙庶子滿丸(大一三、五生、生母、大阪、小島カネ)あり庶子礎子(明四〇、二生、生母同上)は東京府人池上男に嫁し同忠義(同四二、三生、生母同上、東京工大出身)は分家せりA二〇七六(堺市戎島五ノ一四二電二六八一)

田中銀之助

妻　榮　明一七、八生、東京、八田祐二郎二女、御茶の水高女出身
男　元八郎　大三、三生、長男元八郎妻、東京、鈴木要藏長女
婿　三　好　明三六、八生、創橋大學出身

君は東京府人田中菊次郎の長男同平八の甥にして明治六年一月二十日を以て生れ同二十年家督を相續す天下の糸平と呼ばれし故田中平八は君の祖父なり同四十五年第一高等學校佛法科を卒業し現時前記各會社の重役にして囊に田中銀行取締役たりし事あり家族は尙三男雄八郎(大一〇、一生)四男英八郎(同一一、一生)二女啓子(同一二、三生)三女邦子(同一三、五生)あり長女久子(明三四、一生)は東京府人飯島永太郎の養子となり二男銀八郎(同三九、一〇生)弟虎之輔(同一二、一生)は各分家し養伯母コイ(安政二、八生)は東京府人杉田幸五郎に嫁せりA六九四(東京市麻布區市兵衛町一ノ五電赤坂二〇二二)

參照‖田中虎之輔、田中平八※田中實※豊間根繁直※野村榮吉※深田謙介の項

田中銀之助　田中鐵業、東洋鐵山各㊞取締役　東京府在籍

妻　つ　か　明一七、一〇生、愛知、西原風史二女
男　元八郎　大三、三生、長男元八郎妻、東京、鈴木要藏長女
婿　三　好　明三六、八生、創橋大學出身

君は東京府人田中菊次郎の長男同平八の甥にして明治六年一月二十日を以て生れ同二十年家督を相續す天下の糸平と呼ばれし故田中平八は君の祖父なり同四十五年第一高等學校佛法科を卒業し現時前記各會社の重役にして囊に田中銀行取締役たりし事あり家族は尙三男雄八郎(大一〇、一生)四男英八郎(同一一、一生)二女啓子(同一二、三生)三女邦子(同一三、五生)あり長女久子(明三四、一生)は東京府人飯島永太郎の養子となり二男銀八郎(同三九、一〇生)弟虎之輔(同一二、一生)は各分家し養伯母コイ(安政二、八生)は東京府人杉田幸五郎に嫁せりA六九四(東京市麻布區市兵衛町一ノ五電赤坂二〇二二)

參照‖田中虎之輔、田中平八※田中實※豊間根繁直※野村榮吉※深田謙介の項

田中銀之助　東京府在籍

母　ゑ　ひ　明六、八生、祖父助太郎三女
妻　つ　か　明三八、一一生、千葉、長島市藏長女
男　芳　雄　昭四、二生

君は東京府人田中廣吉の長男にして明治三十四年五月二十六日を以て生れ大正十五年家督を相續す田中屋回漕店と稱し回漕業を營む家族は尙長女俊子(昭二、一生)二男傑治(同五、七生)二女美智子(同八、二生)弟孝吉(明四〇、七生)同喜助(同三七、二生)同妻テル(同四三、七生、東京、森松一郎妹)及其二子あり(東京市城東區北砂町三ノ一〇電本所三七八一)

田中國重　正三位勳一等功三級、陸軍大將、明倫會總裁、鹿兒島縣士族

父　國　高　天保一三、六生、現戸主
妻　多　喜　明八、一二生、故海軍大佐末川久敬長女

君は鹿兒島縣士族田中國高の長男にして明治二年十二月を以て生る同二十七年陸軍騎兵少尉に任じ陸軍大學校を卒業し昭和二年陸軍大將に累進す其間參謀本部々員騎兵實施學校教官陸軍大學校兵學教官米國大使館附武官參謀本部第二部長騎兵第三旅團長第十五師團長近衛師團長臺灣軍司令官軍事參議官等に歷補し昭和四年豫備役被仰付日清の役に近衛騎兵聯隊副官として臺灣に出征し日露の役大本營參謀滿洲軍參謀に補し執も戰功あり又巴里媾和會議參加帰府會議首席陸軍隨員を命ぜらる現に明倫會總裁たりA二三五(東京市澁谷區松濤町五九電青山五〇三)

參照‖※山田良之助の項

田中熊之助　神戸取引所㊞相談役　兵庫縣在籍

母　す　て　弘化四、七生、兵庫、阿江丈吉二女
妻　よしゑ　明一七、一〇生、兵庫、今井太左衛門長女
男　熊　男　明三六、三生
婿　かずゑ　明三八、七生、長男熊男妻、兵庫池田吉次郎養子
男　元　一　明四〇、二生
男　伸　三　明四一、三生

君は兵庫縣人田中力藏の長男にして明治八年四月を以て生れ大正元年家督を相續す永年日本銀行臺灣銀行に勤務せしが現時神戸取引所相談役たり家族は尙孫昭三(明三、八生、長男熊男長男)あり長女多加子(明三八、二生)は兵庫縣人中司馬樓に嫁せり(神戸市灘區山田町二ノ二八電御影五一一二)

田中　けい　吐鳳堂、醫療器械商　東京府在籍

君は東京府人田村源藏の長女にして明治八年十二月六日を以て生れ同三十六年田中家に入嫁し大正五年夫增藏の後を承け家督を相續す吐鳳堂と稱し醫療器械商を營む家族は尙亡夫妹アサ(明一四、二生)ありA一一二三B八七(東京市本郷區駒岡町三二電小石川七〇六六)

田中圭之助　地主　東京府在籍

妻　千代子　明四四、三生、東京、光山鐵太郎長女

君は東京府人田中久太郎の二男にして明治四十三年十月十五日を以て生れ大正十四年家督を相續す地主たり家族は尙弟信吉(大二、七生)同龜三郎(同七、六生)妹鶴子(生年月同上)あり姉はる(明三九、五生)は靜岡縣人松島由次に嫁し叔父辰五郎(同一七、一二生)は同妻たかの(同一九、一生、長野、菊地長吉二女)及其二子を伴ひ分家せり(東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ一七七)

田中啓爾

正五位勳五等、東京文理科大學助教授兼東京高等師範學校教授
東京府在籍

妻　延　明二六、九生、東京、馬杉虔長女
男　成　男　大一五、一生
女　千代子　大五、二生

君は福岡縣人田中舛藏の二男にして明治十八年十二月八日を以て生れ兄修義方より分れて一家を創立す現時東京文理科大學助教授兼東京高等師範學校教授たり(A三八〇(東京市淀橋區下落合三ノ一七七八**電大塚三八〇四**)

田中惠

從四位勳三等、檢事、大審院檢事
鹿兒島縣在籍

妻　ト　ク　明一八、七生、鹿兒島、山口孫一
男　秀　惠　明三九、六生、法學士
男　豊　惠　明四一、九生、法學士

君は鹿兒島縣人田中納吉の二男にして明治四年十月を以て生る當家は代々神官にして祖父龜次郎は夙に國學を以て世に顯る君は明治三十一年日本大學を卒業し文官普通試驗に合格し同三十八年檢事に任じ次で判檢事登用試驗に合格し同年退職す五典十義に精通し好んで古書を繙く家族は尙兄嘉吉(慶應二、六生、現戸主)同妻スマ(明六、三生、鹿兒島、西田明次叔母)及其子女あり姉フデ(同二、四生)は鹿兒島縣人阿久根宗右衛門に嫁せりA三三〇(岐阜市北八ッ寺町官舍**電一〇二**)

田中慧吉

五庄堂印刷㈱社長
東京府在籍

妻　節　明二九、九生、廣島、田中昴養子
男　一　郎　大一四、三生
女　日本女大出身

君は東京府人大角豊次郎の二男にして明治二十六年五月を以て生れ大正十一年先代節の入夫となり家督を相續す夙に明治大學に學び後實業に志を立て叢に株式會社五庄堂專務取締役に擧げられ現時其社長として本邦證券印刷界に名あり家族は尙長女敏子(大一一、六生)二女テイ子(同一三、二生)三女榮子(同一五、九生)あり(東京市豊島區上駒込四二二**電小石川五五一**)

田中謙

帝國煉瓦、東京製靴各㈱監査役、田中製革所㈱代表社員
東京府在籍

父　幸　吉　安政六、九生、東京、士、中川禎
妻　ふ　じ　明二五、一生、故藥學博士高橋秀松二女
男　謙　吉　大三、三生、東京女學館出身
女　久美子　大元、九生、

君は東京府人田中幸吉の長男にして明治十七年七月六日を以て生る現時前記各會社の重役たり古錢の蒐集に趣味を有し古錢鑑定には一方の權威にして大阪造幣局囑託たり其藏する錢幣館亦名あり家族は尙二男邦彌(大四、六生)あり長女けふ子(明四三、八生)は東京府人高羽惣兵衛二男義治に嫁し三男勉(大五、一二生)は愛媛縣人三野シナの養子となれりA二四一一(東京市荏原區戸越町二九一**電高輪七五九**)

参照‖田中一男、田中幸吉の項

田中玄藏

自動車貿易商
京都府在籍

父　止　枝　明二六、一生、京都、士、中川禎
妻　雅　英　大九、一生
男　知　子　明四四、一一生、樟蔭高女出身
女　輔六女　大九、一生、

君は京都府人田中一馬の弟にして現戸主忠雄の養弟なり明治二十年七月を以て生れ同二十六年先代亨之助の養子となる大正三年京都工商會社に入り紐育支店詰となり渡米同七年歸朝同八年同會社の命によりフイリッピン、ジャバ、スマトラ印度及南洋地方を視察し同九年歸朝同十三年同會社を辭し翌十四年自動車貿易商を營み今日に至る家族は尙二男喜藏(大一一、一生)二女

ふく子(同一二、一〇生)五男康補(昭五、七生)ありA四五四B一一八(大阪市東區小橋西之町一**電南一二九三**)

参照‖田中一馬、田中忠雄の項

田中源

東京府議長、東京市參事會員、東京府在籍
地主

妻　と　く　明六、一〇生、茨城、士、榊原清衛叔母
男　俊　男　明四〇、一二生、東京、田中梅吉長男

君は東京府人田中小五郎の長男にして明治九年十月十八日を以て生れ同三十七年先代ちせの養子となり家督を相續す地主にして現に東京府會議長東京市參事會員の公職に在りA九三一(東京市江戸川區葛西字京田町三八**電葛西四三**)

参照‖田中梅吉の項

田中源太郎

田中源太郎商店㈱代表社員、日本ホペリング塗料㈱取締役、鑛油商
大阪府在籍

父　源次郎　萬延元、五生
繼母　サ　ク　文久三、五生、大阪、熊田豊松妹
妻　ム　ラ　明二七、五生、大阪、熊田豊松三女
養子　幸次郎　大一三、一二生、弟芳之助二男

君は大阪府人田中源次郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年大阪商科大學の前身大阪高等商業學校を卒業し米國に航して鑛油の視察をなし米國化學工業界の巨頭アチエソン博士の經營するアチエソン會社の東洋南洋總代理店として特種機械油の販賣に從事し其後獨逸レナニアオサツグ製油會社英國アジアチック石油會社の總代理店として我國鑛油界に活躍す尙昭和七年より秋田產純機械油をも取扱ひ目下產油の激增と時局關係上殆んど其販賣に全力を傾注す現時前記諸會社の重役にして讀書旅行に趣味を有す家族は尙姉モトエ(明一七、四生)あり妹キク(明二二、九生)は大阪府人熊谷擧兵衛長男信太郎に同ユキエ(同二五、一生)は同府人井尻ミチ二男泰次郎に嫁し弟芳之助(同三一、六生)は分家し同重太郎(同三四、七生)は大阪府人田中勝子の入夫となりA一〇三一(大阪市佳吉區丸山通二**電天下茶屋二一八一**)

参照‖能谷信太郎の項

田中幸吉

田中製革所㈱代表社員
東京府在籍

妻　か　ね　元治元、一生、愛媛、士、安田義賢長女
男　謙　明一七、七生

君は愛媛縣士族田中米藏の二男にして安政六年九月二十三日を以て生れ明治二十一年兄才吉方より分れて一家を創立す現時合名會社田中製革所代表社員たり三女千代子(明二八、一〇生)は東京府人西川忠亮弟喜代三に四女治子(同三二、一〇生)は宮城縣士族伊達充邦に嫁し二男明(同二一、一二生、農學士)は同妻信(同二七、八生、愛媛、小川正孝長女)及其一子を伴ひ分家し女靜榮(同一四年生)は東京府人溝淵正氣の未亡人にして養子英子(同三四、八生、愛媛、天野熊太郎二女)は同府人中村長次長男彌太郎に嫁せりA四二五(東京市荏原區戸越町二九一**電高輪七五九**)

田中耕三

大阪株式取引所取引員
兵庫縣在籍

妻　エ　イ　明三〇、九生、大阪、今里麟次郎姉
男　至　大八、二生

君は兵庫縣人田中稻人の三男にして明治二十一年八月二十九日を以て生れ大正七年兄館雄方より分れて一家を創立す現に大阪株式取引所短期取引員たり家族は尙二男義人(大九、三生)三男康雄(同一一、六生)家族は尙二七三一B七三三(兵庫縣武庫郡精道村三條西良手二九**電芦屋三九三四**、店舗)大阪市東區今橋一ノ七**電本局一八〇一**)

田中耕造

川崎第百銀行㈱大阪西支店長
京都府在籍

妻　な　み　明三〇、六生、埼玉、橋本文平妹
男　良　人　大七、一生

君は東京府人田中廉造の長男にして明治二十三年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時川崎第百銀行大阪西支店長たり家族は尙長女智英子(大九、二生)あり姉スエ(明二一、六生)は東京府人藤田邦太郎の家籍に入り同ヒサ(同一二、一生)は神奈川縣人松野茂左衛門に嫁せり(大阪市西區新町南通四ノ三川崎第百銀行支店内)

田中耕太郎

正五位勳四等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務
佐賀縣士族

父　秀　夫　文久元年生、現戸主、公證人
妻　峰　子　明三七、一生、岐阜、士、法學博士、松本烝治長女、聖心女學院出身
男　耕　三　昭九、七生

君は佐賀縣士族田中秀夫の長男にして明治二十三年十月二十五日を以て生る大正三年文官高等試驗に合格し同四年東京帝國大學法科大學獨法學科を卒業し直ちに東京帝國大學法科大學助教授内務屬に任じ更に同六年米佛伊スイス英獨各國へ留學し歸朝後同十二年東京帝國大學教授に進み今日に至る昭和四年論文「世界法の理論」を提出して法學博士の學位を授けらる「商法總則概論」「會社法概論」等の著書あり音樂に趣味を有す(東京市豊島區長崎南町一ノ一八六**電大塚五〇一**)

参照‖松本烝治の項

田中耕太郎

地主
東京府在籍

妻　ト　メ　明二五、八生、兵庫、丸田登妹
男　耕　一　大五、一二生
女　喜久子　大三、一生
女　八重子　大八、一生

君は東京府人田中安の長男にして明治十五年八月を以て生れ昭和九年家督を相續す地主たり家族は尙四女邦子(大一〇、一生)二男耕二(同一一、一〇生)五女俊子(同一四、四生)六女英子(昭四、八生)あり長女元子(大元、一二生)は靜岡縣人大村秀雄長男孝に嫁せりA六六一(東京市四谷區北伊賀町四**電四谷三八三八**)

参照‖田中安の項

田中佐之七

名古屋株式取引所取引員
愛知縣在籍

妻　しゃう　明二一、七生、愛知、原田三郎二女
男　賢　一　明二一、三生
男　歸　章　明二八、三生、長男賢一妻、愛知服部兵助五女
孫　子　明四四、七生、長男賢一長男
孫　英　夫　大三、一〇生、長男賢一長女
孫　富　子　大三、一〇生、長男賢一長女
孫　澄　子　大五、八生、長男賢一二女

君は愛知縣人田中佐兵衛の三男にして安政四年八月十日を以て生れ明治七年分れて一家を創立し前名濱三郎を改む現に名古屋株式取引所一般取引員たり家族は尙孫清美(大一一、六生、長男賢一二男)同廣(同一三、七生、同三男)同義久(昭二、一二生、同四男)同利萩(同五、一〇生)ありA一六三五B二一九(名古屋市南區熱田東町澤上七二**電南三二八二**)

参照‖※岩田金之助※牧野市左衛門の項

田中齊

田中、田端屋商店各㈱社長
三重縣在籍

父　治郎左衛門　萬延元、三生、現戸主
妻　昌　子　明三四、八生、東京、小山善夫姉女子學習院出身
男　敏　行　大一二、一〇生

君は三重縣人田中治郎左衛門の二男にして明治二十六年十一月を以て生る大正八年東京帝國大學法學部英法科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女道子(大一五、二生)二男正路(昭四、六生)ありA一九〇九(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪ノ下六二九**電鎌倉二〇四**)

参照‖田中治郎左衛門の項

田中齊

明治大學教授、新愛知新聞社主幹
愛知縣在籍

養父　仁三郎　明一二、七生、現戸主
養母　よ　し　明二〇、七生、愛知、長谷川五郎二女
妻　とみ子　明三八、一生、養父仁三郎長女
男　傳　吾　大一四、七生

君は愛知縣人鈴木實太郎の長男にして明治三十年十月を以て生れ大正十四年同縣人田中仁三郎の壻養子となる先是同九年明治大學商科專門部を卒業し同十年北米メリーランド州私立ジョンスホプキンス大學大學院經濟學科に入り同大學院を卒業しマスター・オブ・アーツの學位を授けられ歸朝後明治大學教授となり傍ら新愛知新聞社主幹として今日に至る家族は尙二男大作(昭二、四生)三男仁(同四、二生)あり(東京市京橋區銀座西七丁目國民新聞社内「自宅」名古屋市東區櫛川町)

参照‖長谷川五郎の項

田中作二　住友製鋼㈱㊫常務取締役
兵庫縣在籍
妻　ちら　明一八、六生、養父重三郎長女
男　重道　明四三、一生
女　文子　大元、八生
女　安子　大七、一生
君は兵庫縣人田中重右衛門の三男にして明治十七年十一月八日を以て生れ先代重三郎の養子となり大正十年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し直に住友合資會社に入り同伸銅所に轉じ大正十四年住友製鋼所支配人となり現時常務取締役たり家族は尙五女明子(大九、一〇生)二男平(同一二、三生)六女正子(同一四、七生)三男常(昭二、一二生)あり長女斐子(明三九、六生)は愛知縣人橋本繁に嫁せりA一一六六(尼崎市別所村牛田二五四ノ二三電二二七)

田中作次郎　家主
大阪府在籍
繼母　ソノ　明三、二生、大阪、平井榮次郎妹
妻　てる子　明二九、三生、兵庫、鹿田達治妹
女　マツエ　明四二、一二生
當家の祖は越前國に出づ文政の頃大阪に移り代々農を業となせり先代友吉に至り細業を廢し綿打業に轉じ又土地家屋を購ひ產を擁するに至り今日の基礎をなせり君は其二男にして明治十七年八月十七日を以て生れ同四十三年家督を相續す家主として知らる謠曲長唄を趣味とす弟善之助(明二七、一生)は分家せりA一一五六(大阪市東區小橋元町一一〇電南三三八)
參照‖※大田黑重五郎の項

田中三四郎　從三位勳二等、山形高等學校講師
東京府在籍
妻　トオ　明二二、四生、佐賀、富岡重雄姉
男　益美　明三八、八生
女　綾子　明三六、九生、東京府立第一高女出身
女　美奈子　明四二、九生、東京府立第一高女出身
君は京都府人田中元三郎の二男にして明治六年四月を以て生れ同十二年叔父三四郎の絕家を再興す同三十一年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸軍中央幼年學校第六高等學校教授等に歷任し現時山形高等學校講師たり長女輝子(明三四、六生、東京府立第一高女出身)は貴族院議員佐藤潤象二男外務書記官敏人に嫁せり(山形市地藏町一〇〇)
參照‖佐藤潤象の項

田中三七郎　津商工會議所議員、三重縣多額納稅者、荒物商、三重縣在籍
妻　てい　明二三、一一生、三重、笠間又次郎長女
女　靜子　大七、二生、津市立高女補習科在學
君は三重縣人高松榮藏の二男にして先代の養子となり大正六年家督を相續す荒物卸商を營み直接國稅六百四十六圓を納め三重縣多額納稅者に列す現に推されて津商工會議所議員たり旅行に趣味を有す(津市榮町一七電五三四)

田中三郎　從四位勳五等、元埼玉縣土木課長
東京府在籍
妻　榮　明二六、一一生、東京、古田中正彥妹
男　愛三　大四、一一生
榮子　靜枝　大五、一〇生、佐賀、萩原玄太郎三女、山脇高女出身
君は佐賀縣士族田中泰秋の三男にして明治十三年十月を以て生れ大正七年兄一郎方より分れて一家を創立す先是明治三十九年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し東京市技師となり水道下水道路の各課に勤務大正七年山形縣技師土木課長に任ぜられ爾來地方技師として愛知三重岡山埼玉各縣土木課長に歷任し昭和八年退官現時閑地に在り(浦和市三六三三ノ一)

田中參五郎　家主
大阪府在籍
母　フシノ　明二〇、七生、大阪、寺田義左衛門妹
君は大阪府人先代參五郎の二男にして大正十一年二月二十二日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名正夫を改め襲名す家主たり家族は尙姉秀(明三九、五生)あり一〇一五(大阪市住吉區天下茶屋三ノ七三電天下茶屋二五〇三)

參照‖寺田善左衛門の項

田中四一郎　勳七等、潮止村長、武州貯蓄銀行各㊫取締役、富國徵兵保險(五)取締役、農業、埼玉縣在籍
妻　きさ　明七、三生、埼玉、太田瀧右衛門妹
男　仁重郎　明二六、一〇生
婦　しげ　明三〇、七生、長男仁重郎妻、埼玉、齋藤義一妹
男　悌六　明三八、一生
孫　文　大七、二生、長男仁重郎長女
君は埼玉縣人田中三郎左衛門の長男にして明治二年十月十日を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十四年和佛法律學校を卒業し農業を營み現時潮止村長に推擧せられ前記銀行會社の重役にして埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅七百二十五圓を納む嚴に埼玉縣會議員に選ばれ大正十二年產業組合中央金庫評議員を命ぜらる家族は尙孫章(大九、八生、長男仁重郎二女)同美津(同一二、四生、同三女)同一郎(同一四、七生、同長男)同參(昭五、四生、同三男)あり三男禮三(明三二、二生)は東京府人宇田川喜重に四男智四郎(同三三、一一生)は同府人金杉信元に五男孝五郎(同三五、一〇生)は千葉縣人米井七右衛門に弟三重(同一一、一生)は東京府人長谷川福十郎に各養子となり同信造(同一七、四生)は分家し叔母すわ(同四、一生)は茨城縣人結城堅の繼母たり(埼玉縣南埼玉郡潮止村)
參照‖宇田川禮三、結城堅の項

田中二郎　第一銀行㊫常務取締役兼大阪支店長、京都府在籍
妻　ミネ　明二二、三生、醫學士松山陽太郎妹
男　慎一　大三、七生
女　慶子　大二、三生、甲南高女出身
君は京都府人田中源太郎の二男にして田中一馬の弟深田政太郎の兄なり明治十一年二月一日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し第一銀行に入り大阪支店副支配人京都支店支配人を經て大阪各支店長となり昭和六年取締役に就任同九年常務取締役に擧げられ現在に至る家族實(大六、五生)三男宏(同九、三生)四男五雄(同一二、二生)あり長女千鈴子(明四四、一一生、神戸女學院出身)は山梨縣人大木親雄長男三菱造船所技師工學士直正に嫁せり(兵庫縣武庫郡住吉村電御影二七二四)
參照‖大木親雄、田中一馬、深田政太郎※岩崎康彌※佐藤得四郎※田中忠雄※武井尹人※原田繼之助※松山陸郎の項

田中次郎　東京興農團㊫社長、渡瀨同族㊫代表取締役、田中鐵工㊫監査役
神奈川縣在籍
養父　平八　慶應二、七生、現戶主
妻　花子　明三一、一二生、養父平八長女、女子學習院出身
男　雄平　大一四、六生、學習院初等科在學
君は東京府人渡瀨寅次郎の二男にして同雅太郎の弟同三郎の兄なり明治二十四年十月を以て生れ田中平八の養子となる大正五年北海道帝國大學農科大學を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙長女洋子(大一〇、三生、女子學習院在學)二女節子(同一一、一〇生、同上在學)三女朝子(昭三、四生)ありA一〇二四(東京市芝區葵手町一七電芝八九七)
參照‖田中平八、田中義次、渡瀨三郎、渡瀨雅太郎※加藤成一※小坂順造※美濃部俊吉の項

田中治一郎　家主
大阪府在籍
妻　タミエ　明二三、五生、大阪、山下太三郎三女
男　治雄　大元、一二生
君は大阪府人田中岩松の長男にして明治二十三年十二月二日を以て生れ同三十一年家督を相續す家主として知らる弟清治(明三〇、四生)は大阪府人高麗清次郎の養子となり當主にして妹キヌエ(同二七、四生)從兄金藏(同八、一〇生)は各分家し從姉イト(同一二、六生、亡伯父治助三女)は大阪府人武田半平長男利三に從姪キノ(同二一、九生)は同府人中川德次郎長男繁太郎に嫁せりA二八八二(大阪市此花區大野町一ノ二九〇電土佐堀一三九一)
參照‖高麗清治の項

田中治部太郎　家主
岐阜縣在籍
母　やす　明七、二生、愛知、恒川美濟妹
妻　こう　明三九、一生、愛知、水野良一妹
君は岐阜縣人先代治部太郎の長男にして明治二十五年十月十日を以て生れ大正十四年家督を相續し前名道夫を改め襲名す家主たり家族は尙弟秀穗(明二七、一二生)妹やゑの(同三九、七生)同あや(同四二、六生)あり
末雄(大二、二生)あり妹たかの(明三六、三生)は愛知縣人水野良一に嫁せりA九三二(名古屋市中區南吳服町一ノ八)
參照‖水野良一の項

田中治兵衛　三木治商店、魚問屋業
東京府在籍
妻　ツナ　明一二、一〇生、養父治兵衛長女
男　政治　明四〇、一〇生
女　鶴子　明四四、八生
女　美代子　大七、六生
君は神奈川縣人吉川平次郎の二男にして明治十六年十月七日を以て生れ同三十九年先代治兵衛の養子となり大正五年家督を相續し前名紀一を改め襲名す三木治商店と稱し魚問屋業を營む養母タマ(文久元、五生、星野末雄(大二、二生)あり妹たかの(明三六、三生)は愛知縣人水野良一に嫁せりA九三二(名古屋市中區南吳服町一ノ八)
參照‖水野良一の項

田中治兵衛　大阪棠島米穀取引所取引員、米穀商、大阪府在籍
養母　つる　慶應元、八生、大阪、田中重兵衛女
妻　シユ　明三二、一生、大阪、松田藤次郎五女
君は大阪府人田中庄次郎の二男にして明治十五年四月三十日を以て生れ先代治兵衛の養子となり大正四年家督を相續し前名賴次郎を改め襲名す米穀商を營み現に大阪棠島米穀取引所正米部取引員たり家族は尙長女敏子(昭六、八生)あり弟勝見(明二八、一一生)はA三九三八B七四八(大阪市北區菅原町一四電北八九四)
參照‖※山野鬼の項

田中治郎左衛門　三重縣多額納稅者、田端屋商店、田中各㊫監査役、三重縣在籍
妻　ふみ　明三、七生、愛知、關戶有彥叔母
男　仁重郎　明三〇、七生、長男仁重郎妻、埼玉、齋藤義一妹
婦　しげ　明三八、一生
男　悌六　大七、二生、長男仁重郎長女
君は埼玉縣人田中三郎左衛門の長男にして明治二年十月十日を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十四年和佛法律學校を卒業し農業を營み現時潮止村長に推擧せられ前記銀行會社の重役にして埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅七百二十五圓を納む嚴に埼玉縣會議員に選ばれ大正十二年產業組合中央金庫評議員を命ぜらる家族は尙孫章(大九、八生、長男仁重郎二女)同美津(同一二、四生、同三女)同一郎(同一四、七生、同長男)同參(昭五、四生、同三男)あり三男禮三(明三二、二生)は東京府人宇田川喜重に四男智四郎(同三三、一一生)は同府人金杉信元に五男孝五郎(同三五、一〇生)は千葉縣人米井七右衛門に弟三重(同一一、一生)は東京府人長谷川福十郎に各養子となり同信造(同一七、四生)は分家し叔母すわ(同四、一生)は茨城縣人結城堅の繼母たり(埼玉縣南埼玉郡潮止村)
參照‖宇田川禮三、結城堅の項

田中四一郎　勳七等、潮止村長、武州貯蓄銀行各㊫取締役、富國徵兵保險(五)取締役、農業、埼玉縣在籍
妻　きさ　明七、三生、埼玉、太田瀧右衛門妹
男　仁重郎　明二六、一〇生
婦　しげ　明三〇、七生、長男仁重郎妻、埼玉、齋藤義一妹
男　悌六　明三八、一生
孫　文　大七、二生、長男仁重郎長女
君は埼玉縣人田中三郎左衛門の長男にして明治二年十月十日を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十四年和佛法律學校を卒業し農業を營み現時潮止村長に推擧せられ前記銀行會社の重役にして埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅七百二十五圓を納む嚴に埼玉縣會議員に選ばれ大正十二年產業組合中央金庫評議員を命ぜらる家族は尙孫章(大九、八生、長男仁重郎二女)同美津(同一二、四生、同三女)同一郎(同一四、七生、同長男)同參(昭五、四生、同三男)あり三男禮三(明三二、二生)は東京府人宇田川喜重に四男智四郎(同三三、一一生)は同府人金杉信元に五男孝五郎(同三五、一〇生)は千葉縣人米井七右衛門に弟三重(同一一、一生)は東京府人長谷川福十郎に各養子となり同信造(同一七、四生)は分家し叔母すわ(同四、一生)は茨城縣人結城堅の繼母たり(埼玉縣南埼玉郡潮止村)
參照‖宇田川禮三、結城堅の項

田中二郎　第一銀行㊫常務取締役兼大阪支店長、京都府在籍
妻　ミネ　明二二、三生、醫學士松山陽太郎妹
男　慎一　大三、七生
女　慶子　大二、三生、甲南高女出身
君は京都府人田中源太郎の二男にして田中一馬の弟深田政太郎の兄なり明治十五年十一月一日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し第一銀行に入り大阪支店副支配人京都支店支配人を經て大阪各支店長となり昭和六年取締役に就任同九年常務取締役に擧げられ現在に至る家族母　明七、二生、愛知、恒川美濟妹
妻　こう　明三九、一生、愛知、水野良一妹
君は岐阜縣人先代治部太郎の長男にして明治二十五年十月十日を以て生れ大正十四年家督を相續し前名道夫を改め襲名す家主たり家族は尙弟秀穗(明二七、一二生)妹やゑの(同三九、七生)同あや(同四二、六生)あり
末雄(大二、二生)あり妹たかの(明三六、三生)は愛知縣人水野良一に嫁せりA九三二(名古屋市中區南吳服町一ノ八)
參照‖水野良一の項

田中治兵衛　三木治商店、魚問屋業
東京府在籍
妻　ツナ　明一二、一〇生、養父治兵衛長女
男　政治　明四〇、一〇生
女　鶴子　明四四、八生
女　美代子　大七、六生
君は神奈川縣人吉川平次郎の二男にして明治十六年十月七日を以て生れ同三十九年先代治兵衛の養子となり大正五年家督を相續し前名紀一を改め襲名す三木治商店と稱し魚問屋業を營む養母タマ(文久元、五生、星野末雄(大二、二生)あり妹たかの(明三六、三生)は愛知縣人水野良一に嫁せりA九三二(名古屋市中區南吳服町一ノ八)
參照‖水野良一の項

田中治兵衛　大阪棠島米穀取引所取引員、米穀商、大阪府在籍
養母　つる　慶應元、八生、大阪、田中重兵衛女
妻　シユ　明三二、一生、大阪、松田藤次郎五女
君は大阪府人田中庄次郎の二男にして明治十五年四月三十日を以て生れ先代治兵衛の養子となり大正四年家督を相續し前名賴次郎を改め襲名す米穀商を營み現に大阪棠島米穀取引所正米部取引員たり家族は尙長女敏子(昭六、八生)あり弟勝見(明二八、一一生)はA三九三八B七四八(大阪市北區菅原町一四電北八九四)
參照‖※山野鬼の項

田中治郎左衛門　三重縣多額納稅者、田端屋商店、田中各㊫監査役、三重縣在籍
妻　ふみ　明三、七生、愛知、關戶有彥叔母
男　仁重郎　明三〇、七生、長男仁重郎妻、埼玉、齋藤義一妹
婦　しげ　明三八、一生
男　悌六　大七、二生、長男仁重郎長女
君は埼玉縣人田中三郎左衛門の長男にして明治二年十月十日を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十四年和佛法律學校を卒業し農業を營み現時潮止村長に推擧せられ前記銀行會社の重役にして埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅七百二十五圓を納む嚴に埼玉縣會議員に選ばれ大正十二年產業組合中央金庫評議員を命ぜらる家族は尙孫章(大九、八生、長男仁重郎二女)同美津(同一二、四生、同三女)同一郎(同一四、七生、同長男)同參(昭五、四生、同三男)あり三男禮三(明三二、二生)は東京府人宇田川喜重に四男智四郎(同三三、一一生)は同府人金杉信元に五男孝五郎(同三五、一〇生)は千葉縣人米井七右衛門に弟三重(同一一、一生)は東京府人長谷川福十郎に各養子となり同信造(同一七、四生)は分家し叔母すわ(同四、一生)は茨城縣人結城堅の繼母たり(埼玉縣南埼玉郡潮止村)
參照‖宇田川禮三、結城堅の項

田中治朗　王子製紙、雨龍電力各㊫專務取締役、樺太鐵道、樺太電氣、日本人絹パルプ各㊫取締役、東京府在籍
妻　マサ　明一九、五生、北海道、栗屋貞一二女
養子　梅作　明三三、二生、長女勝夫、新潟、小出梅吉弟
女　勝　明三七、三生、養子梅作妻
君は山口縣人田中了性の四男にして明治六年十一月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十二年日本大學法科を卒業し王子製紙會社に入り同社參事を經て現時同社專務取締役にして傍ら前揭各會社の重役を兼ぬ家族は尙孫ミリ(大一五、八生、養子梅作長女)同節(昭三、三生、同二女)同純(同五、二生、同三女)あり
A一〇〇四七(東京市淀橋區戶塚町三ノ一五六電牛込一七五六)
參照‖小出梅吉の項

田中栄　三和銀行㊫常任監査役
兵庫縣在籍
妻　くに　明二二、二生、福井、山下由紀枝伯母
男　健　大五、一生
君は福井縣人益田鼎の二男にして明治十七年一月を以

て生れ同二十八年一族田中家の家督を相續す同四十一年神戸高等商業學校を卒業し直に三十四銀行に入り現に其繼承銀行たる三和銀行常任監査役たり家族は尙二男梓(大七、一〇生)三男敬(同一〇、一生)四男戢(同一一、一一生)五男陽(同一四、一生)二女とは子(昭二、一一生)あり長女田鶴(大二、一一生)は大阪高等學校教授桑原武夫に嫁せり△九七三(神戸市湊區梅元町一二〇**電元町三三四**)

參照‖桑原武夫の項

田中重夫

正五位勲五等、專賣局技師、東京地方專賣局芝工場製造掛長

桑母　フサ　明一六、六生、福岡、田中雅長女
現戸主
妻　まさ　明三一、七生、岩手、萱場精一郎長女、岩手縣立盛岡高女出身
男　重則　大八、三生、攻玉社中學在學

君は東京府人田中重藏の四男にして明治二十二年一月を以て生れ大正九年福岡縣士族田中フサの養子となる同二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し專賣局技手を經て同技師となり芝專賣局赤羽分工場主幹岡山地方專賣局製造課長大阪地方專賣局都工場製造掛長等に歷任し昭和六年東京地方專賣局芝工場製造掛長に轉じ今日に至る先祖昭和三年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男修(大九、九生、芝中學在學)三男英彦(同一一、九生)長女康子(同一四、八生)二女惠子(昭二、一〇生)あり(東京市大森區北千束町六〇八)

田中茂雄

地主　神奈川縣士族

母　昔子　明二三、七生

君は神奈川縣士族田中茂の孫にして明治四十四年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す横濱商業專門學校を卒業し地主たり日本畫に趣味を有す家族は尙妹鶴子(明四五、一生、東洋高女出身)あり叔父定一(明一八、八生)は妻子を伴ひ分家せりA一〇五二(横濱市保土ケ谷區帷子町三二四三**電長谷町四五**)

田中繁雄

日本ポリドール蓄音器商會役、十字屋、樂器商、京都府在籍

母　ゆき　明一五、一生、東京、倉田繁太郎叔母

田中繁次郎

東大汽船㈱社長、家主　東京府在籍

妻　貞　明三一、九生、東京、今輪西衛長女、東京高女出身
長子　長春　明四、三生、富山、石原金次郎孫、明治藥學出身

君は富山縣人石原金次郎の二男にして明治十五年二月を以て生れ同二十二年先代久八の養子となり大正五年家督を相續す現時東大汽船會社々長たりA一二五五B三七三(東京市澁谷區大山町一〇**電青山四一〇六**)

田中七郎

家主　兵庫縣在籍

父　種三郎　明一五、一生
母　さゑ　明一八、八生、東京、岡山初太郎二女

君は兵庫縣人田中種三郎の長男にして明治四十四年二月二十六日を以て生れ昭和六年組父七平の後を承け家督を相續す家主たり家族は尙妹タネ子(大元、一〇生)

田中壽一

大日本人造肥料㈱取締役、大成化學工業㈱取締役、朝鮮合同炭礦、日本硫曹㈱監査役、東京府在籍

父　榮八郎　文久三、八生、現戸主

君は東京府人田中榮八郎の長男にして明治二十七年十二月を以て生る夙に東京高等商業學校を卒業し夙に實業界に入り現時日本人造肥料會社取締役兼工務部長たる外前記諸會社の重役たりA三三四八(東京市麻布區廣尾町一五**高輪六五**)

參照‖田中榮八郎の項

田中周衛

十五銀行㈱營業部長　長野縣在籍

父　忠右衛門　竜應二、八生、長野、柳澤公平弟
現戸主
繼母　そみ　明九、四生、長野、士、澁谷四郎三郎妹
妻　千佐　明三四、五生、長野、田中乾二女
長野高女出身
男　俊一　大一五、五生

君は長野縣人田中忠右衛門の長男同穗積の養嗣にして明治二十六年七月を以て生る大正六年早稻田大學商科を卒業し直に十五銀行に入り同十年洋行を命ぜられ歐米に航し銀行信託會社割引會社等の實務を學び歸朝後昭和三年同行日本橋支店長となり現時營業部長の職に在り家族は尙長女和子(大九、一一生、日本女大附屬高女在學)二女淑子(同一三、二生、同校在學)二男秀二(昭四、三生)の外弟民夫(明三三、一生、エビオス工場主任技師、早大理工學部出身)同妻文子(同四〇、一生、長野、大井宰助孫、上田高女出身)弟正巳(同三八、五生、早大出版部編輯部員、京大出身)同時夫(同四二、一一生、蒲田松竹撮影所助監督、東京外語出身)あり姪千枝子(大二、七生、長野高女出身)は東京府人森田俊彦弟日本自動車會社員勝彦に嫁せり(東京市豐島區高田本町二ノ一四六**電牛込一〇八三**)

參照‖田中穗積、森田俊彦※伊藤傳兵衛※久保市三郎の項

田中秋聲

旭川新聞社長　北海道在籍

妻　美好　明三〇、一一生、新潟、高柳民藏妹
男　正巳　大七、一生、旭川中學在學

君は秋田縣人田中多三郎の弟にして明治二十八年十一月十日を以て生れ後分れて一家を創立す十六歲にして

田中家は元富山縣に在り代々農を以て家業とせしが先代傳七之を廢して上京し遠緣に當る十字屋樂器店に奉公す店主倉田繁太郎其將來を囑望して配するに女ゆきを以てし新に米國に支店を設け之を主宰せしむ在米久しく業績亦揚る歸朝して屋號を分ち京都に於て樂器商十字屋を經營し當家今日の基礎を爲せり君は其長男にして明治三十八年二月を以て生れ大正三年家督を相續す遺業を承け樂器商を營み同業者間一流の店鋪たり現時前記會社の重役を兼ぬ家族は尙妹榮(明四〇、一生)同喜美(大二、三生)あり姉フヂ(明三二、五生、第一高女出身)は東京府人山中彥次郎長男直次郎に同東洋(同三五、八生、出身校同上)は同府人元良勳に嫁し弟昌雄(同四二、一一生)は分家せり(京都市中京區三條通河原町西入**電本局五七五**)

參照‖倉田繁太郎、山中直次郎※鈴木幾三郎の項

田中正太郎

現々足袋本鋪、足袋商　大阪府在籍

男　英造　明四〇、三生、大倉商業出身
女　貞子　明四二、九生、西宮高女出身
女　房子　明四五、一生、樟蔭高女出身
女　道子　大四、九生、清水谷高女出身

田中家は先代正太郎京都より大阪に出で一家を創立し現々足袋と銘し足袋製造業を經營したるに始まる君實は滋賀縣人宮崎信三郎の兄にして明治五年二月二十四日を以て生れ先代正太郎の養子となり同四十五年家督を相續し前名英次郎を改め襲名す父業を繼承して足袋商を營み市內一流の店鋪たり長女シツ(明三一、七生、清水谷高女出身)は同夫時次(同二六、一一生、大阪、越尾淳造弟)と共に其子女を伴ひ分家し二女秀子(同三四、一一生、出身校同上)は兵庫縣人泉仙介に三女綾子(同三六、四生、清水谷高女技藝科出身)は大阪府人藤井銓三郎に嫁せりA一二七五B一七一(大阪市東區南久寶寺町二ノ二**電船場二〇二**)

參照‖小澤新六の項

田中正之助

東京府多額納稅者、醬油釀造業　東京府在籍

養母　あか　慶應元、五生、東京、加藤忠林長女

君は大阪府人田中榮治郎の二男にして明治三十五年十一月十八日を以て生れ大正六年家督を相續す地主たり家族は尙長女敦子(昭五、六生)二女靖子(同七、一生)あり(長野市田町二四二七**電五一八**)

田中順一

田中醬油店、醬油味噌釀造業　長野縣在籍

祖母　てい　安政四、一一生、長野、田中兵左衛門長女
母　しづえ　明一五、四生、長野、伊藤太兵衛妹

君は長野縣人田中兵右衛門の長男にして明治三十年三月三十日を以て生れ昭和八年家督を相續す田中屋醬油店と稱し醬油味噌釀造業を營み家族は尙弟善二(大四、二生)同義三郎(同八、一生)同平四郎(同一一、九生)從兄喜平(明三九、三生、長野、酒井佐治郎長男)あり(長野市田町二四二七**電五一八**)

田中榮治郎

現々足袋本鋪、足袋商　大阪府在籍

男　英造　明四〇、三生、大倉商業出身
女　貞子　明四二、九生、西宮高女出身
女　房子　明四五、一生、樟蔭高女出身
女　道子　大四、九生、清水谷高女出身

君は兵庫縣人田中幸次郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ後家督を相續す現時大同海運會社常務取締役高千穗商船會社取締役にして蠶に山下汽船昭和興業等諸會社の重役たりしことあり家族は尙長女英子(大一〇、一一生)二女和子(同一二、四生)二男穰二(同一三、一〇生)弟幸三郎(明三〇、三生)同權兵衛(同四三、一生)妹千鶴(同四一、二生)あり弟庸三(同二六、八生)は兵庫縣人西崎鶴太郎の養子となり妹美代(同三一、六生)は大阪府人榮野又治長男又一に嫁せり神戸市須磨區汐見臺町五ノ一五**電臨須磨五二**)

參照‖追間房太郎の項

田中正平

正五位勲四等、理學博士、三菱重工業㈱顧問、田中電機研究所主、兵庫縣在籍

妻　たけ　明一七、一一生、東京、士、山中讓三二女
男　楠彌太　明四四、一生

君は兵庫縣人田中犀二の二男にして文久二年五月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す同十五年東京大學理學部を卒業し日本鐵道會社汽車課長帝國鐵道廳技師鐵道哈技師等に歷任し其間獨逸に留學す現に田中電機研究所主にして三菱重工業會社技術顧問たり蠶に新開界に入り大正四年二十一歲の年少にして獨力旭川新聞を創立して社長に就任し爾來社員と共に刻苦奮闘而かも僅實なる方針の下に社業逐年進展し昭和四年十數萬圓を投じて新社屋を建設し更に高速度輪轉機を購入し今や朝夕刊十二頁新聞として東京大阪其他道內樞要の地二十數個所に支局を有し信用勢力共に北海道三大新聞の一たり君は新聞界に貢獻せるところ多く推されて日本新聞協會理事同用紙委員の重責にあり讀書旅行に趣味を有すA二八〇(旭川市五條通十丁目右七號**電三四六六**)

田中重吉

地主　東京府在籍

男　清　大一〇、一生
養子　壽子　大六、一生、弟瀧次郎長女

君は東京府人田中清次郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す地主たり家族は尙弟瀧次郎(明二五、五生)同妻とく(同二八、六生、東京、鹽野友次郎孫)及其二男一女ありA五三九(東京市杉並區高圓寺七ノ一〇三〇)

田中重兵衛

北海道多額納稅者、田中貿代表社員、北海道在籍

妻　貞子　明三一、五生、東京、本田桓虎長女
男　重孝　大一〇、一一生

君は北海道人齋藤佐市の從弟にして明治三十年二月十九日を以て生れ先代重兵衛の養子となり大正六年家督を相續し前名重信を改め襲名す現時田中合資會社代表社員にして直接國稅千四百七十八圓を納め北海道多額納稅者に列す家族は尙二女正子(大一二、九生)三女淳子(同一五、一〇生)二男滿(昭七、二生)あり四女香子(同三、五生)は北海道人田中きさの養子となれり(札幌市北一條西一九ノ一)

田中淳治

地主　大阪府在籍

繼母　キノ　明一五、一生、大阪、中野ワイ叔母
妻　松枝　明三五、一一生、大阪、西山德司妹
男　榮　昭三、四生

妻　や　明一八、七生、亡澁父十左衛門長女
男　廣一　明四五、五生
女　澤子　大四、七生

君は東京府人牧原シゲの兄にして明治十七年九月二十七日を以て生れ先代十左衛門の養子となり昭和五年家督を相續す醬油釀造業を營み東京府多額納稅者にして直接國稅四千六百五圓を納む家族は尙二男次郎(大六、一生)三男庸三(同七、九生)三女庭子(同一一、二生)四女桂子(同一四、三生)あり(東京市澁谷區轟ケ谷本町二ノ二〇一**電四谷一四三二**)

田中正之輔

大同海運㈱常務取締役、高千穗商船㈱取締役、兵庫縣在籍

母　ため　慶應三、七生、兵庫、藤岡儀三郎四女
妻　嘉子　明三一、二生、和歌山、追間房太郎長女、釜山高女出身
男　敬一郎　大九、八生

君は兵庫縣人田中幸次郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ後家督を相續す現時大同海運會社常務取締役高千穗商船會社取締役にして蠶に山下汽船昭和興業等諸會社の重役たりしことあり家族は尙長女英子(大一〇、一一生)二女和子(同一二、四生)二男穰二(同一三、一〇生)弟幸三郎(明三〇、三生)同權兵衛(同四三、一生)妹千鶴(同四一、二生)あり弟庸三(同二六、八生)は兵庫縣人西崎鶴太郎の養子となり妹美代(同三一、六生)は大阪府人榮野又治長男又一に嫁せり神戸市須磨區汐見臺町五ノ一五**電臨須磨五二**)

參照‖追間房太郎の項

田中正平

正五位勲四等、理學博士、三菱重工業㈱顧問、田中電機研究所主、兵庫縣在籍

妻　たけ　明一七、一一生、東京、士、山中讓三二女
男　楠彌太　明四四、一生

君は兵庫縣人田中犀二の二男にして文久二年五月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す同十五年東京大學理學部を卒業し日本鐵道會社汽車課長帝國鐵道廳技師鐵道哈技師等に歷任し其間獨逸に留學す現に田中電機研究所主にして三菱重工業會社技術顧問たり蠶に

理學博士の學位を授けらるピアノオルゲン等の改良研究を以て著聞す家族は尙二男於莵丸(大四、一〇生)あり(東京市芝區高輪南町五三)電高輪一二九二)

田中庄一郎　正七位勳七等、宇都宮市木町郵便局長、下野印刷所取締役、下毛貯蓄銀行、下野製紙各監査役、茶商、栃木縣在籍

母　フサ　明二二、一〇生、栃木、野澤德平妹
妻　キク　明三六、五生
男　順一　明四〇、六生、長男順一妻、栃木高橋彌治右衞門妹、跡見女學校出身
婦　カツ
男　慶吉　明三八、二生、經濟學士
女　マサ　大四、四生

君は栃木縣人田中勝次郎の長男にして明治十三年一月を以て生れ昭和八年家督を相續す茶商を營み現時宇都宮市木町郵便局長にして傍ら前記銀行各會社の重役たり囊に日光登山鐵道會社監査役にして推されて宇都宮市會議員宇都宮商工會議所常議員たりしことあり家族は尙三女フミ(大九、四生)孫キミ(昭三、一生、長男順一長女)同次郎(同六、三生、同二男)同セイ子(同八、一二生、同二女)あり妹トヨ(明一四、一二生)は栃木縣人和久井民造長男角太郎に同モト(同三〇、九生)は東京府人工學士山田長右衞門に同ノブ(同四一、五生、宇都宮高女出身)は同府人黑田文一に嫁し弟拼造(同一七、七生)は茨城縣人中澤清八に同良三(同二〇、五生)は栃木縣人田中倉太郎に各養子となり同國平(同二五、五生)は同縣人青木スカの入夫となり祖名源四郎を襲名し同篤介(同三三、四生)同妻ミツ(同三八、九生、栃木、森仁兵衞妹)は其一男を伴び分家せり(宇都宮市材木町一電二〇二七)

參照‖※久保市三郎の項

田中昌太郎　從三位勳二等、陸軍少將、檢事、札幌控訴院檢事長

母　サノ　京都府在籍
妻　實里　喜永五、四生、京都、八木權兵衞四女
男　秀昌　明一一、一〇生、鳥取、士、中田秀實長女
男　芳昌　明三六、二生
男　治昌　明四一、一〇生
女　みつ　大三、九生

君は京都府人田中太兵衞の長男にして以て生れ大正十三年家督を相續す同二十六年第三高等中學校法學部を卒業し判檢事登用試驗に合格直に司法官試補となり同三十年判事に任ぜられ岩國區廣島區同地方三次區宇和島區各裁判所判事廣島控訴院判事等を經て同四十一年檢事に轉じ東京地方裁判所各檢事及長野水戸岡山神戸京都各地方裁判所檢事正に歷補し現時札幌控訴院檢事長の要職に在り囊に一年志願兵として服務し次で日清日露兩役に從軍し退役陳軍少將たり家族は尙四男昌雄(大五、一〇生)五男俊男(同八、三生)六男康雄(同一一、六生)あり(札幌市南二條西十四丁目官舍電二三九〇)

田中省吾　田中汽船鐵業㈱社長、日華製紙㈱取締役、鹿兒島縣在籍

母　惠以　明一九、一〇生、大阪、吉川新吉姉
繼母　省義　大七、八生

君は鹿兒島縣人鹿濱嘉吉の二男田中仁吉の養兒にして明治十五年六月を以て生れ先代省三の養子となり前名嘉八を改め大正十四年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時田中汽船鐵業會社長にして前記會社の重役を兼ぬ囊に山口縣都濃郡長警視驛警視たりし事あり家族は尙四男省信(大一〇、四生)二女和子(昭元、一二生)養弟貞三(大六、二生)同實(同一四、二生)ありA二九二(大阪市北區金屋町一電北二五三)

參照‖田中仁吉の項

田中信三　大阪株式取引所取引員

大阪府在籍

妻　サト　明二一、一〇生、大阪、山脇喜左衞門長女

君は兵庫縣人田中鶴次の三男にして明治十九年十二月十二日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時大阪株式取引所一員たりA一三九四五B二三七五(大阪市東區北濱二ノ七一電本局八八六)

田中信太郎　押上三好野、汁粉商

東京府在籍

母　きぬ　安政六、一一生、茨城、前澤松三郎二女
妻　はな　明一五、五生、東京、小宮嘉七長女
男　清七　明三六、一二生
婿　靜子　明四四、二生、長男清七妻、千葉松丸嘉平次長女
女　圭子　大五、三生

君は東京府人田中直次郎の長男にして明治九年二月八日を以て生れ同四十三年家督を相續す押上三好野と稱し汁粉商を營む家族は尙三男直三(大四、三生)六女數子(同一〇、九生)孫美枝(昭六、一一生、長男清七長女)同雅子(同八、二生、同二女)弟寶(明二一、七生)同妻うた(同三〇、四生、東京、吉田金之助四女)及其二女同福藏(同二四、五生)叔母八重(慶應二、三生)あり二女きく(明三八、一〇生)は東京府人原又吉長男佐太郎に四女智惠子(同四五、六生)は同府人山崎傳司に嫁し二男泰男(同四一、一生)弟善七(同三〇、九生)は各分家せりA三二四(東京市本所區業平橋一ノ九電墨田三四六五)

田中眞三郎　家主

大阪府在籍

父　伊兵衞　明一四、四生、現戸主
妻　操　明四一、二生、奈良、山口甚太郎長女

君は大阪府人田中伊兵衞の長男にして明治三十七年十月二十六日を以て生る家主たり家族は尙長女登子(昭三、八生)二女榮子(同六、一〇生)ありA五〇〇(大阪市浪速區元町五ノ四〇三電戎一九五〇)

田中眞平　醫學博士、三井生命保險㈱嘱託醫、新潟縣在籍

妻　ヤス　明三三、三生、新潟、今井榮松三女
男　耕太郎　大一一、三生

君は新潟縣人田中耕齋の二男にして明治二十七年三月を以て生れ先代喜七の養子となり昭和三年家督を相續す大正八年東京帝國大學醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を授けらる現時三井生命保險會社醫務課長たり家族は尙三男喜平(大一五、九生)四男眞三郎(昭四、三生)ありA三一一(東京市下谷區谷町一〇電下谷七四五七)

田中新一郎　京都商工會議所議員、生絲問屋業

京都府在籍

妻　富惠　明二一、七生、岐阜、大橋貞司妹
男　俊子　京都第一高女出身
女　道子　大五、二生

君は京都府人田中兵七の二男にして同新七の弟同泰次郎の養兒なり明治十八年一月二十四日を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年慶應義塾大學部理財科を卒業し生絲問屋業を營む推されて京都商工會議所議員たり囊に京都電氣鐵道京城工業學校西カーボン日東製鋼各會社の重役たりし事あり繪畫骨董ゴルフ等に趣味を有す家族は尙二男新次郎(大七、七生)三男新三郎(同一〇、七生)あり妹たきの(明二〇、八生)は長崎縣人松永龜三郎三男秀三に嫁せりA三一一三一B四五一二(京都市上京區寺町廣小路上ル電上二八八五)

參照‖田中新七、田中泰次郎の項

田中新吾　從四位勳三等、專賣局技師兼拓務技師、特許局技師、朝鮮總督府專賣局技師、臺灣總督府專賣局技師、專賣局納部技術課長

妻　エイ　明一九、九生、鹿兒島、樺山喜造姉

君は和歌山縣人田中慎市郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ昭和四年再勞田中慎一方より分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學農藝化學科を卒業し大藏技手專賣務局技師兼大藏技師專賣局特許局各技師關東廳技師兼朝鮮總督府專賣局技師兼拓務技師臺灣總督府專賣局技師等に歷任し其間專賣局津田沼三田尻各試驗場長專賣局中央研究所專賣局事業部主任專賣局事業部技術課長等を經て現時前記の官職に在り終始製鹽技術就中內地並植民地鹽業の改良に盡瘁し製鹽に關する發明考案亦尠からず囊に專賣局並發明協會より表彰せらる曾て大正五年支那に同八年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後屢々滿洲朝鮮臺灣等に出張す長女光子(明四〇、一生)は醫學博士橫尾秋夫に二女富美子(同四一、一〇生)は新潟縣人遠藤藤吉三男鐵道技師工學士三郎に嫁せりA二八二(東京市目黑區下目黑三ノ四九八電高輪二六四六)

參照‖遠藤藤吉の項

田中新七　田中商店㈱專務取締役、愛知電氣鐵道、日本ペイント各㈱取締役、昭和絹靴下㈱監査役、田中商店㈱社員、靈絲貿易商、神奈川縣在籍

男　國和　明三七、一二生
男　雅　明四〇、一生
女　三雪子　大二、八生、女子學習院出身

君は京都府人田中兵七の長男にして同新一郎の兄なり明治九年八月を以て生れ先代新七の養子となり大正十一年家督を相續し前名國太郎を改め襲名す靈絲貿易商を營み傍ら田中商店專務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙三男國男(大六、一生、慶大在學)あり養弟泰次郎(明三二、三生、小栗彌平次男)は分家せりA一二三六(橫濱市中區本町二ノ一電本局二一三六)

參照‖田中新一郎、田中泰次郎の項

田中新之助　片倉絹絲紡績㈱常務取締役、中信銀行㈱取締役、信濃電氣㈱監査役、長野縣在籍代表社員、製絲業

妻　とよ　明一五、六生、長野、小林わか孫
男　新一　明三五、一一生
男　次郎　明三九、三生

君は長野縣人田中新藏の長男にして同祐治の養弟なり明治八年一月を以て生れ大正八年家督を相續す製絲業を營み現に片倉製絲紡績會社常務取締役たる外前記銀行會社の重役にして囊に片倉生命保險薩摩製絲大同電力各會社の重役たり(長野縣上高井郡須坂町電二一〇)

田中甚右衞門　資產家

東京府在籍

妻　カネ　明七、九生、宮城、菅野正治二女
男　榮二郎　明三六、一〇生、長女忠子夫、埼玉、關口藤吉二男
女　忠子　明三七、五生、榮二郎妻

君は埼玉縣人田中藤八の四男にして安政五年三月十二日を以て生れ先代甚右衞門の養子となり明治二十七年家督を相續し前名隼太を改め襲名す資產家として知られる家族は尙孫義和(昭七、二生、榮子二郎長男)同貞恭(同八、一一生、同二男)ありA六一一(東京市淺草區吉野町三ノ七ノ一電浅草四三一)

田中甚藏　地主

東京府在籍

母　ふく　文久元、七生、東京、佐藤藤兵衞二女
妻　いう　明一九、八生、東京、荒井佐太郎二女
男　鯨榮　明四一、三生
女　ウメ　明四三、二生
男　勘二　大三、四生
女　トキ　大八、三生

君は東京府人田中元次郎の長男にして明治十四年十月十八日を以て生れ大正十一年家督を相續す地主たり弟金三郎(明二六、九生)は分家せりA五五八(東京市中野區新山通二ノ一九)

參照‖※龜田善三郎の項

田中末雄　田中商事㈱社長、山本興業㈱代表取締役、ロバム農園㈱取締役、南定炭礦、向島船渠各㈱監査役、田中汽船鐵業㈱代表社員、京都府在籍

妻　豊　明一九、一〇生、和歌山、岡田昌作三女、華族女學校出身
男　雄二郎　明四〇、九生
男　五郎　大二、八生
女　春代　大七、五生

君は三重縣人田中佐右衞門の二男にして明治三年四月三日を以て生れ同二十年家督を相續し前名末松を改む夙に米國に遊學し商業學を修め同三十七年支那大連に於て田中商會を起し船舶業を創む現時前記各會社の重役として知られ囊に山東鑛業東洋金綱製造溜川炭礦各會社の重役たりし事あり家族は尙六男泰吉(大五、八生)六女千代子(同一一、四生)七男幸吉(同一四、六生)七女梅子(昭二、二生)あり長女清(明三三、三生)は三重縣人海原宏文に三女禮子(同三八、九生)は鑛山監督局書記官法學士妹川武人に四女愼子(同四四、一生、京都府立第一高女出身)は法學士光田善孝に妹かね(同七、九生)は三重縣人後藤多市に嫁し三男雄三郎(同四二、一〇生)は同縣人田中榮吉の相續人となりA六四〇(京都市左京區岡崎南御所町三五電上一五〇九「大連宅」)大連市加賀町三〇)

参照＝※吉田彌邦の項

田中助市　土木請負業兼代表社員　兵庫縣在籍

妻　はん　明三八、一生、兵庫、椎木木次郎長女
男　定　男　明四二、一生
女　智　惠　大二、四生
男　康　雄　大三、一一生

君は兵庫縣人田中龍之介の二男にして明治十五年九月一日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す土木建築請負業を營む家族は尙長女龍子（大一四、一二生）あり A三八七B八七（兵庫縣武庫郡鳴尾村電西宮一三七九）

田中助左衛門　雜貨貿易商　大阪府在籍

妻　サイ　明九、六生、大阪、澤田佐逸郎妹
男　太郎　明三七、一〇生、神戸高商出身
男　三郎　明四二、二生、同志社高商出身
男　五郎　明四四、一〇生
男　六郎　大二、三生

君は大阪府人先代助左衛門の二男にして明治二年十一月十九日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す夙に京都同志社を卒業し株式會社岩井商店に入り支配人たる事十年次で島商店を創立して其經營に當れり後獨立して雜貨貿易商を營み今日に及ぶ嚢に商業視察を兼ね歐米の取引先を歴訪す妹ミツ（明一二、三生）は兵庫縣人秦銀兵衛に嫁し弟健三（同一四、四生）は大阪府人權野信次郎の養子となり當主たり A一四七二B三四五（大阪府三島郡吹田町五二七電一三）

参照＝秦銀兵衛の項

田中助次郎　島琨縣多額納稅者、砂糖乾物商　島根縣在籍

男　源一　明二七、一生
婦　トキ　明三二、一二生、長男源一妻、島根、中島虎之助五女

君は島根縣人先代助次郎の長男にして明治二年一月十日を以て生れ同三十年家督を相續し前名長太郎を改め襲名す砂糖乾物商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千三百二十三圓を納め豪商として知らる嚢に推されて松江商工會議所副會頭たり家族は尙孫弘一（大一〇、三生、長男源一長男）同朋江（同一四、八生、同二女）同俊子（昭二、八生、同三女）同富美（同六、六生、同四女）あり（松江市白潟本町電四五〇）

田中祐貞　東京市會議員　東京府在籍

妻　とい　明二四、三生、東京、北條祐賢三女
男　定　男　明四二、一生
女　智　惠　大二、四生
男　康　雄　大三、一一生

君は東京府人田中祐次郎の長男にして明治二十一年十二月二十日を以て生れ先代新造の養子となり同四十年家督を相續す現時東京市會議員たり家族は尙五男浩一郎（大八、一生）二女惠美子（同一〇、一一生）あり A四八五（東京市大森區大森七ノ三一六五電大森三一一）

田中進　硝子商　東京府在籍

妻　りう　明二五、一生、東京、矢島幸作妹
男　一　明四五、一生
男　春　大三、一生
女　禮子　大二、一〇生

君は東京府人先代進の長男にして明治二十一年九月二十八日を以て生れ大正元年家督相續と共に前名貞造を改め襲名す硝子商を營む A五九八B二〇四（東京市日本橋區人形町二ノ二ノ二電淺花九二五）

田中清吉　資產家　東京府在籍

養母　たけ　慶應元、三生、東京、醍醐平吉長女
妻　フミ　明二三、一一生、東京、横溝勝藏妹
男　鈴助　大三、二生

君は東京府人田中德右衛門の三男にして明治十四年二月十四日を以て生れ先代德次郎の養子となり大正十年家督を相續す資產家たり家族は尙三男金義（大五、九生）五男正三（同一一、三生）四女せみよ（昭二、七生）六男米造（同五、二生）あり長女喜美江（明四四、八生）は東京府人安藤定治に妹銚（同三一、二生）は同府人武島茂興長男安太郎に同とし（同三三、四生）は靜岡縣人永松九郎に同千代（同三八、六生）は福島縣人鳥居鐵之助三男眞三に嫁せり A五九二（東京市目黑區上目黑四ノ二一七七）

田中清次郎　製藥商　大阪府在籍

妻　ゑい　明二八、一二生、兵庫、須藤嘉兵衛三女
男　香苗　昭二、一一生

君は大阪府人田中興三郎の二男にして明治十六年十二月二十六日を以て生れ大正十一年家督を相續す製藥商を營む家族は尙三女清子（大一五、六生）四女汎子（昭四、一生）三男三苗（同六、一生）あり妹エン（明一九、二生）弟保雄（同三二、八生）は各分家せり A六四六B九五（大阪市西成區粉濱東之町五ノ三六電住吉二五六三）

田中清治郎　田中商會、自轉車及附屬品商　大阪府在籍

妻　アサヘ　明二二、八生、京都、井上龜之助三女
男　義清　明四四、六生
男　正親　大三、八生
女　美枝　大七、五生

君は奈良縣人田中喜市郎の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正五年家督を相續す田中商會と稱し自轉車及附屬品商を營み大阪自轉車商工組合副組合長に推さる嚢に星スポーク製造會社々長宇田辰藏商店取締役たりし事あり家族は尙三男隆英（大一〇、一生）あり A三〇〇（大阪市西區新町通三ノ四七電新町二九六五五）

田中清八　知多商工會議所議員、半田合同運送㈱社長、田中酒造㈱代表社員、愛知縣在籍　酒造業

妻　ぎん　明一〇、九生、岐阜、前島丈之助叔母
男　暢平　明二二、九生
婦　右　明二二、五生、長男暢平妻、岐阜前島丈之助妹
女　ゆき子　大六、一生

君は愛知縣人先代清八の長男にして明治二年十一月四日を以て生れ同十六年家督を相續す祖業を繼ぎ酒造業を營み銘酒清正の醸造元として著く其名を知らる現時田中酒造合資會社代表社員たる傍ら半田合同運送會社長にして推されて知多商工會議所議員たり家族は尙孫明子（大一〇、三生、長男暢平長女）同英子（同一三、

一二生、同二女）あり長女稻子（明三一、一一生）は愛知縣人横田新三に二女良子（同三四、五生）は同縣人鈴木桝次郎に三女不美子（同四四、三生）は兵庫縣人小栗松三郎長男英一に嫁し二男耕二（同二九、四生）は愛知縣人渡邊安太郎に四男錦吾（同三三、一生）は同縣人日比又左衛門に各養子となり五男平八郎（同三八、六生）は其一男一女を伴ひ分家せり（愛知縣知多郡半田町電半九三・五六三）

参照＝鈴木桝次郎、渡邊安太郎※拿松熙の項

田中勢一郎　藥種商、家主　大阪府在籍

母　ふち　明一三、一〇生、京都、岡本藤助二女
妻　加津子　明四四、一一生、大阪、榮田甚藏二女、大手前高女及樟蔭女專出身
男　利幸　昭九、五生

君は大阪府人田中義太郎の長男にして明治三十六年十月三日を以て生れ大正七年家督を相續す藥種商を營み家主たり家族は尙長女美智子（昭七、五生）弟幸太郎（明四二、七生）同角治郎（同四五、七生）あり姉ノブ（同三四、六生）は大分縣人賀來太郎兵衛五男彌七郎に嫁せり（兵庫縣武庫郡精道村芦屋渕屋二九〇電芦屋二四三九）

参照＝柴田甚藏の項

田中誠治　東洋インキ製造㈱常務取締役、美蘭㈱社長、㈱愛代表社員　東京府在籍

妻　武子　明四二、三生、東京、落合幹三郎長女
男　久雄　昭六、三生

君は東京府人田中八眞太郎の二男にして明治三十年五月十五日を以て生れ同四十五年田中末吉の死跡を相續す大正九年早稻田大學商學科を卒業し現時田中商店員にして東洋インキ製造會社常任監査役美蘭社代表社員たり家族は尙長女順子（昭七、一〇生）あり A一〇八（東京市日本橋區本町三ノ六ノ五電淺花四四五〇・四四五一）

田中千吉　正四位勳三等、前大連市長　東京府在籍

妻　キヨ子　明二六、八生、故大審院判事永井巖之亟五女
男　泰　大三、二生
女　靜子　大六、三生

君は東京府人田中熊吉の四男にして當主文藏の弟なり明治十八年三月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格直に警視廳に入り富坂青山三田各警察署長となり大正二年關東都督府祕書官に轉じ文書課長地方課長祕書課長に歷補し同十年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後同十二年關東廳參事官兼事務官同十三年大連民政署長等を經て昭和五年大連市長に就任せしも後之を辭し現時閑地に在り家族は尙二男亮（大四、一一生）二女和子（同九、一一生）あり（東京市目黑區洗足一四七四）

参照＝田中文藏の項

田中善一郎　正八位、陸軍歩兵少尉、金融業、地主、京都府在籍

父　善八　明五、九生、現戸主
妻　カズ　衛長女、六、一生、京都、廣田七郎兵

君は京都府人田中善八の長男にして明治三十一年二月十一日を以て生る金融業を營み地主にして現に學區會議員學務委員の名譽職に在り嚢に陸軍歩兵少尉に任ぜらるA五七〇（京都市下京區油小路通三哲上ル不動堂町五二六六電下六七一）

参照＝田中善八の項

田中善作　家主　東京府在籍

妻　光　明二三、七生、東京、辰澤青梅二女、養母そく養子
男　銀一郎　明四〇、二生
男　昇　明四四、三生
男　三郎　大二、七生
男　四郎　大二、七生

君は神奈川縣人平塚房五郎の二男にして明治十七年三月を以て生れ先代そくの養子となり同四十四年家督を相續す家主として知らる家族は尙五男五郎（大六、三生、同長男）同喜代（同一五、四生、同三女）あり二女（明三六、六生）は廣島縣人小林正一に嫁せり（三重縣阿山郡上野町）

田中善次郎　資產家　東京府在籍

妻　サチ子　明四二、一生、東京、近藤三郎長女

田中家は數代以前より江戸に定住して代々大名屋敷の伸間世話役を勤めたる家柄なり維新後煙草卸商となり市内屈指の大問屋たりしが同業の官營に變更さるゝや是を廢業し今日に至る君は先代佐次兵衛の四男にして明治三十六年七月四日を以て生れ大正十四年家督を相續す昭和三年慶應義塾大學經濟學部を卒業し資產家として知らる旅行將棋に趣味を有す姉愛（明二一、四生）同夫岩治（同一三、三生、千葉、太田豊吉二男）は其一子を伴ひ姉貞（同二三、一二生）は同夫平治（同一七、九生、千葉、郡司德治郎二男、辯護士）と共に姉君（同三二、一一生）は同夫捷三（同二八、一生、埼玉、石田道三郎四男）と共に各分家し弟正五郎（同三八、一生、東京美術學校出身）も亦分家し姉みつ（同三〇、四生）は東京府人劇作家河竹繁俊（本名、吉村茂平）に嫁し妹松（同四〇、一二生）は同府人石關龜次郎に同竹（生年月同上）は千葉縣人絲川權左衛門に各養子となれり A四二四八（東京市牛込區東五軒町三〇電牛込一二六三）

参照＝沂藤三郎の項

田中善助　三重縣多額納稅者、伊賀窯業㈱社長、三重縣在籍

妻　かめの　慶應元、一二生、三重、小阪儀三郎長女
男　次郎八　明三九、三生
養子　儀助　明二四、一一生、長女三喜夫、愛知、古川勇兄
女　三喜　明三〇、九生、養子儀助妻
孫　かね子　大六、九生、養子儀助長女

君は三重縣人竹内長兵衛の長男にして安政五年十月五日を以て生れ先代善助の養子となり明治十二年家督を繼ぎ前名覺次郎を改め襲名す現時前記會社の社長にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千八十七圓を納む嚢に百五銀行合同電氣會社の重役たり事あり家族は尙孫あさ（大九、八生、養子儀助二女）同榮（同一二、二生、同長男）同喜代（同一五、四生、同三女）あり二女らい（明三六、六生）は廣島縣人小林正一に嫁せり（三重縣阿山郡上野町）

田中善太郎　田中善太郎社長、化粧品製造業
　　大阪府在籍
　　祖母　キク　安政六、九生、大阪、早水勘七二女
君は大阪府人田中善次郎の長男にして明治四十四年十月九日を以て生れ大正十四年家督を相續す昭和七年大阪商科大學高等商業部を卒業し父業を繼ぎ化粧品製造業を營み現に田中善會社長にして金鳥化粧品及ミルド化粧品製造卸商として知らる登山スキーに趣味を有す家族は尚弟善三郎(大四、五生)同善正(同一〇、一一生)妹美佐子(同八、九生、帝塚山高女在學)ありA七五一(大阪市東區博勞町一ノ五〇電船場九一三)

田中善八　京都府多額納稅者、金融業、地主
　　京都府在籍
　　妻　きみ　明一〇、八生、京都、廣田七郎兵衛妹
　　男　善一郎　明三一、二生
　　男　善三郎　明三五、一〇生
　　婦　タミエ　明三六、一二生、三男善三郎妻、京都、廣田七五郎長女
　　女　豊子　明四一、七生
　　男　善藏　大三、二生、帝大法學部在學
君は京都府人田中市郎右衛門の長男にして明治五年九月を以て生れ先代善八の樂子となり同三十二年家督を相續し前名善三郎を改め襲名す地主にして金融業を營み京都府多額納稅者に列す義に紺綬褒章及同飾版二個を授與さる又學區會議員學務委員たり事あり二男善雄(明三一、九生)は分家せりA一七九三四B二三五一(京都市下京區油小路通三哲上ル電下六七一)
　　参照＝田中善一郎の項

田中善立　正五位勳三等、衆議院議員(愛知縣選出)、愛知縣在籍
　　妻　サダ　明一三、一二生、神奈川、岩本美忠姪
　　養子　弘之　明三三、一〇生、二女トミ夫、靜岡、加藤宰作七男
　　女　トミ　明三八、八生、養子弘之妻
　　女　喜美子　明四一、二生、畫家
君は愛知縣人田中平八の二男にして明治七年十一月二十四日を以て生れ同四十三年家督を相續す夙に哲學館大學を卒業し中學教員東洋大學講師福井縣彩化堂長等に就任し同四十五年以來衆議院議員に當選すること七回其間海軍省副參政官文部政務次官等に任ぜらる曾て愛知中央鐵道會社長たりし事あり家族は尚孫善弘(昭五、六生、養子弘之長男)同美智子(同六、九生、同長女)同和子(同九、一生、同二女)あり弟重治(明一八、九生)は同妻じやう(同二五、二生、愛知、川口清太郎妹)を伴ひ分家せりA二〇〇(名古屋市南區熱田東町澤上八電五九五「別宅」東京市大森區入新井五ノ三ノ二七電大森三八五八)

田中宗一　地家主
　　大阪府在籍
君は大阪府人森田三郎平の三男にして慶應三年二月十七日を以て生れ田中宗十郎の養子となり明治十九年養祖母エイの後を承け家督を相續す地家主たり養に大阪府多額納稅者に列す養妹コウ(明七、一〇生)は大阪府人津田太郎兵衛の養子となれりA二三八九(大阪市北區旅籠町三四電北五一一)

田中莊二　松村組常務取締役
　　和歌山縣在籍
　　妻　睦子　明三八、三生、和歌山、田中讓二女
　　男　一夫　大一二、七生
　　男　明夫　大一一、一一生
　　女　道子　大六、一二生
君は和歌山縣人田中魯一の長男松村雄吉の兄にして明治三十二年八月を以て生れ同三十九年家督を相續す大正十一年早稻田大學商科を卒業し現に松村組常務取締役たり家族は尚長女俊子(大一四、五生)二男宏(昭二、九生)は分家し弟嘉藏(明三六、三生)あり姉龍子(同二九、八生)は分家し弟喜藏(同三八、七生)は和歌山縣人田中茂二の養子となれりA九六七(大阪市東區南新町一ノ五電東二九四〇)
　　参照＝松村雄吉の項

田中藏六　從四位勳六等、青森縣書記官、內務部長、岐阜縣在籍
　　妻　たか　明三一、九生、岐阜、服部正夫長女
君は岐阜縣人田中唯右衛門の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す同五年東京帝國大學法科大學卒業後新潟縣屬に任じ留學同縣警視愛媛縣伊豫郡長同京多郡長岐阜縣理事官都市計畫地方委員會事務官京都府理事官栃木東京各府縣書記官各學務部長三重石川長野廣島各縣警察部長に歷任し昭和八年青森縣書記官に任じ內務部長に補せらる家族は尚二女俊子(大九、五生)三女京子(同一四、六生)二男和夫(昭四、六生)あり(青森市縣內務部長官舍)

田中園太郎　從七位勳六等、旭木材㈱社長
　　兵庫縣在籍
　　妻　みす　明一四、四生、兵庫、岩井源十郎孫
　　男　大六　大六、四生
君は兵庫縣人田中柳吉の長男にして明治十一年二月を以て生れ同二十年家督を相續す現時旭木材會社長たり養にパンドホテル社長たり事あり(大阪市天王寺區堂ケ芝町一〇一電南三四四四)

田中太右衛門　宋榮堂、書籍出版業
　　大阪府在籍
　　祖母　うた　安政元、二生、大阪、川上喜七二女
　　母　ナミ　明二七、一一生、大阪、加賀常吉二女
君は大阪府人先代太右衛門の長男にして大正三年十月九日を以て生れ同九年家督を相續し前名太郎を改め襲名す宋榮堂と稱し書籍出版業を營む家族は尚妹てる(大四、一二生)同タツ(同七、九生)あり伯母次(明一〇、四生)は大阪府人久保田興市に同美(同一三、四生)は同府人莊保英三郎に同ふさ(同二三、一生)は同府人廣岡覺之助に嫁せりA一九三四B三一七(大阪市南區安堂寺橋通三ノ一五電長船場二七四)
　　参照＝久保田興市、莊保英三郎、廣岡覺之助の項

田中太介　大阪府多額納稅者、車輛製造業
　　兵庫縣在籍
　　妻　太一　明三六、七生
君は兵庫縣人先代太介の二男にして明治九年八月を以て生れ同三十七年家督を相續し襲名す車輛製造業を營み大阪府多額納稅者たり家族は尚姉小きく(明三、四生)あり弟利三郎(同一二、一〇生)は分家せりA九三四五B一五七〇(大阪市北區新喜多町一電東五三〇九)

田中太兵衛　神戸市會議員
　　兵庫縣在籍
　　祖母　うの　明二、五生、兵庫、玉木兼吉長女
　　妻　てい　明三五、四生、兵庫、橋本源吉長女
　　男　肇　大九、六生
君は兵庫縣人先代太兵衛の五男にして明治三十年九月八日を以て生れ大正十二年家督相續と共に前名敬二を改め襲名す現時神戸市會議員たり家族は尚亡弟菊治妻たみ(明三六、二生、兵庫、寺田熊吉二女)及其一子あり妹ちえ(同三九、六生)は大阪府人和田泰雄に嫁せりA五〇二(神戸市灘區鍛冶屋町六五電御影四九七四)

田中泰次郎　田中商店㈱專務取締役、田中商店名代表社員、神奈川縣在籍
　　妻　竹　明三八、四生、東京、兩宮豊次郎二女
　　男　陽　大一三、一二生
君は神奈川縣人小栗彌平の六男にして田中新七同新一郎の養弟なり明治三十二年三月を以て生れ故田中新七の樂子となり大正十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚二男光二(昭二、二生)長女泰子(同四、八生)ありA一六〇(横濱市中區本町二ノ一一電本局二一三六)
　　参照＝田中新一郎、田中新七※兩宮四郎※兩宮鐵郎の項

田中泰次郎　安泰洋行主、莫大小輸出商
　　大阪府在籍
　　母　ラク　明四、二生、大阪、增井德松妹
　　妻　三郎代　明二七、三生、岡山、赤木金三郎二女、日本女大家政科出身
　　男　一郎　大一五、二生
君は大阪府人田中安治郎の長男にして明治二十七年八月七日を以て生れ昭和六年十月家督を相續す夙に明星商業學校を卒へ安泰洋行と稱し莫大小輸出商を營む家族は尚長女敏子(大九、六生)二女節子(昭三、三生)あり妹タマ(明三一、一生)は大阪府人長鹽一正に同タカ(同三五、八生)は同府人近藤陳平に同あい(同三七、九生)は同府人蓐補二男忠道に嫁し弟保太郎(同三二、一一生)妹津多枝同三九、一二生)弟卯三郎(同四一、一一生)同太三郎(同四二、三生、生母、大阪、酒井ヤエ)同正太郎(大元、一二生生母同上)妹淺子(同四、八生、生母同上)は各分家せりA二一二二B四九三(大阪市西區江戸堀南通三ノ二電土佐堀一八三)

田中孝　地主
　　東京府在籍
君は東京府人田中茂三郎の三男にして大正八年七月二十日を以て生れ昭和六年叔父八郎の後を承け家督を相續す地主たりA八九五(東京市大森區大森八ノ三八五三電大森九五六)

田中瀧三郎　地家主
　　東京府在籍
　　母　はん　元治元、六生、東京、士、高林新造長女
　　養子　清　明四一、二生、先代福三郎五男
　　婦　富美子　明四一、一生、養子清妻、茨城、小菅讓作二女
君は東京府人田中福三郎の四男にして明治三十年五月二日を以て生れ大正四年家督を相續す地家主たり家族は尚孫蘭子(昭五、四生、養子清長女)同久雄(同六、一〇生、同長男)姉壽々(明二三、一二生)妹君枝(同四三、六生)あり同ゑい(同三七、五生)は絕家飯田氏を再興し甥實(大三、一生、離緣姉夫政伸二男)は東京府人日高政壽の家籍に入れりA一四八三(東京市澁谷區鶯谷町二四電青山七四四二)

田中武　四日市商工會議所常議員、田中武商店名代表社員、米穀肥料商
　　母　さた　安政三、三生
　　妻　そのゑ　明一九、一二生、三重、山鹿雄二郎長女
　　男　武生　明四三、一〇生
　　男　宣彦　大元、一〇生
君は三重縣人田中武治の三男にして明治二十年三月を以て生れ夙に一家を創立し前名武彦を改む米穀肥料商を營み傍ら合名會社田中武商店代表社員にして推されて四日市商工會議所常議員たり養に三重縣多額納稅者たり事あり家族は尚長女まさ(大一〇、一生)二女優文子(同一一、七生)三女敏子(同一三、八生)あり姉壽滿(明一三、二生)は三重縣人本居清造に嫁せり(四日市市藏町電一七五)

田中武雄　正五位勳四等、朝鮮總督府事務官
　　父　隆　慶應二、七生、現戶主
　　母　てつよ　明五、一〇生、兵庫、士、山中廉馬長女
　　妻　美津　明二九、九生、宮崎、宮越正良三女
　　男　雄一　大九、四生
君は三重縣人田中隆の長男にして明治二十四年一月を以て生れ同四十五年明治大學法科を卒業し長野縣警部補に任じ文官高等試驗に合格す爾來長野縣工場監督官補同警部同警視を經て朝鮮總督府事務官に轉じ同道事務官同府事務官に歷任し其間咸鏡北道警察部長警務局高等警察課長同保安課長兼圖書課長京畿道警察部長警務局保安課長等に歷補し昭和七年總督官房外事課長に補せられ今日に至る大正十五年歐米各國へ出張を命ぜらる家族は尚長女壽美子(大一一、二生)二男鐵之(同一二、九生)三男文樂(同一五、六生)二女博子(昭四、八生)あり妹靜代(明二八、九生)は群馬縣人朝倉雄に同正代(同三一、一二生)は三重縣人草川靖に同慶代(同三四、九生)は大分縣人吉崎文三郎に同紀代(同三九、八生)は愛知縣人伴壽一に同秀代(同四二、三生)は石川縣人白陸輔夫に嫁せり(京城府倭城臺一三號官舍)

田中武雄　正五位、陸軍步兵中尉、拓務政務次官、衆議院議員(兵庫縣選出)、東京府在籍
　　母　さく　文久三、七生、東京、上村英衛長女
　　妻　マツ　明三三、四生、茨城、古屋正一郎妹
君は東京府人田中竹次郎の長男にして明治二十二年六月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に青山學院高等科修業後歐米に留學す養に酒造業を營み兵庫縣多額納稅者に列し岩見銀行頭取銀行關西電氣土木興業會社各取締役東京政情通信社長たり大正九年以來衆議院議員に當選する事四回立憲民政黨に屬し鐵道大臣鑑賞官外務參與官に任ぜられ昭和九年七月岡田內閣成立するや拓務政務次官に擧げられ更に關稅調査委員被仰付養に列國議會同盟會議及同評議員會汎太平洋商業會議に參列し歐米各國を漫遊すること數回に及ぶ(東京市四谷區右京町一三電四谷六五五八)

田中猛　東京貯蓄銀行㊫監査役　東京府士族

妻　ジュン　明一七、六生、大阪、新家政秀二女

男　寛　大六、一二生

君は兵庫縣人社德次郎の長男にして明治五年二月を以て生れ先代信敏の養子となり大正十二年家督を相續す夙に第一銀行に入り大阪西支店支配人を經て同行熊本支店支配人たりしも現時東京貯蓄銀行監査役たり家族は尚四男八郎(大八、一〇生)五女咲子(同一二、三生)あり長女虎子(明三五、一生)は東京府人須藤良一に二女田鶴(同三七、一〇生)は福岡縣人醫學士濱田健吾に嫁せりA一一三(東京市世田谷區北澤四ノ五一一電松澤二五六)

田中忠雄　京都府多額納稅者、龜岡銀行㊫取締役、農業、京都府在籍

妻　ヒロ　明一〇、二生、京都、原田縫之助妹

養子　敬　明四五、一生、京都、田中一馬四男

君は京都府士族鳥羽重義の六男同重晴の弟にして奥田竹四郎井上利助の弟田中玄藏の養兄なり明治八年八月十日を以て生れ故京都府農工銀行頭取先代敷之助の養子となり大正十三年家督を相續す義に酒造業を營みしも昭和四年之を廢し農業を營む傍ら前記銀行の重役にして直接國稅五千三百九十四圓を納め京都府多額納稅者に列す(京都府南桑田郡龜岡町電八)

參照＝井上利助、奥田增四郎、田中一馬、田中玄藏、鳥羽重晴、原田縫之助、※伊藤庄兵衛※久保田庄左衛門※武井尹人※深田政太郎の項

田中辰三　東洋金屬食器㊫取締役、大阪鐵板製造㊫東京工場支配人　東京府在籍

母　きん　明二、一〇生、東京、梅澤定一長女

妻　慶　明三三、一生、東京、松本新太郎長女

君は薩山城國淀藩の世臣にして後麒麟麦酒會社外數會社の重役たり田中常德の長男なり明治二十五年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す同五年慶應義塾大學理財科を卒業し直に貿易商岩井商店に入り現時其傍系會社たる大阪鐵板製造會社東京工場支配人にして傍ら東洋金屬食器會社重役たり家族は尚弟於菟彌(明三六、九生、文學士)同妻元子(同四四、一二生、東京、河田烈長女、雙葉高女出身)同德雄(同三七、二生、經濟學士)同正一(大元、一一生)あり姉とよ(明一七、八生)は大逸市實業家矢橋春藏に同とし(同一九、七生)は東京府士族工學士奥村簡二に妹とめ(同二七、一〇生)は大逸市士族工學士奥村簡二に嫁し弟定則(同三四、五生、三菱海上火災保險會社員、慶大經濟學部出身)は東京府人梅澤定一の養子となり同戌一(同三一、一生、東京美校洋畫科出身)は分家し姉ときヱ(東京市蒲田區六郷町一八九電蒲田三五五六)

參照＝河田烈、松本新太郎※戸張志智之助の項

田中辰藏　家主　大阪府在籍

養子　良藏　明一七、一一生、長女千枝夫、大阪、乾利兵衛弟

女　千枝　明二二、一一生、養子良藏妻

君は大阪府人先々代辰藏の長男にして文久三年十一月十六日を以て生れ明治十九年母キヌの後を承け家督を相續し父名を襲ふ家主たり二女靜(明二七、一生)は共夫修藏(同二二、一生、秋田、齋藤雄藏弟)及其二子と共に分家し四女秀(同三四、二生)は大阪府人小澤新六三男信次郎に妹ミツ(同一〇、一二生)は同府人田中ひら養子鐵之助に嫁せりA三二八(西宮市森具下前田三ノ二電二七九)

田中龍夫　從五位、男爵　山口縣華族

母　ヌテ　明七、八生、故陸軍中將大築尙志六女

妻　節子　大三、六生、宮城、士、高橋勇二女、櫻蔭高女出身

君は先代義一より顯る義一は舊萩藩士にして明治十九年陸軍士官學校を卒業し陸軍少尉に任じ陸軍大將に陞る其間學校を卒業し進して大正十年陸軍大將に陞る其間第一師團參謀大本營陸軍參謀滿洲軍參謀陸軍省軍務局軍事課長歩兵第三聯隊長陸軍省軍務局長歩兵第二旅團長參謀次長等に歷任し大正七年原内閣に入りて陸軍大臣に親任せられ勳功に依り華族に列し男爵を授けらるる同十二年山本第二次内閣に列し再び陸相となり後軍事參議官たりしが同十四年依願豫備役となり立憲政友會總裁に推され同十五年貴族院議員に勅選せらる昭和二年大命を拜して内閣を組織し總理大臣に親任せられ外務大臣を兼ねて内閣を組織し同三年内相同四年拓相を兼任し同年九月薨去す君其後を承く君は先代義一の長男にして明治四十三年九月を以て生れ昭和四年家督を相續し爵位仰付られ同五年從五位に敍せらる昭和八年浦和高等學校を卒業現に東京帝國大學法學部政治學科在學中たり家族は尚妹壽美子(大一〇、三生)同於菟女(同一五、六生)弟義昭(昭二、七生)妹康子(同四、六生)朔健雄(大一〇、七生)あり姉政子(明四〇、二生、東京府立第五高女出身)は陸軍中將橋本勝太郎に妹登米子(大一一、五生)は東京府人出口ふみに各養子となれり(東京市淀橋區柏木一ノ一二四電四谷六四一)

參照＝高橋勇、橋本勝太郎※大築佛郎※柳莊太郎の項

田中龍男　從四位勳三等功五級、海軍少將、川崎造船所㊫潛水艦部長　東京府在籍

妻　孝　明二一、三生、東京、士、石山三造二女

男　勝春　大一二、一一生

君は東京府士族田中中七郎の二男にして明治十年五月二十七日を以て生れ同三十七年家督を相續す夙に海軍機關學校を卒業し海軍機關少尉に任ぜられ爾來累進して大正五年機關大佐となり横須賀海軍工廠造機部員たりしが後海軍少將に陞り豫備役仰付けらる其間日露戰役の功に依り功五級金鵄勳章を賜はる現時川崎造船所潛水艦部長たり家族は尚二男喜九男(昭二、九生)弟敎藏(明一九、二生)あり同庚(同一三、五生)は同妻磯(同二八、九生、北海道、久保長太郎長女)及其二男一女と共に分家せりA四八六(兵庫縣武庫郡精道村虎屋毛賀金九〇六電青屋二三二二)

參照＝田中康の項

田中保　佐世保魚市場、森田製藥各㊫監査役、銃砲火藥商、長崎縣士族

父　規三　安政二、一生、現戸主

母　キン　明四、六生

妻　愛　明四一、七生、長崎、馬場清五郎四女

君は長崎縣士族田中規三の二男にして明治三十二年一月を以て生る銃砲火藥商を營み傍ら佐世保魚市場森田製藥各會社重役たり父規三は義に九州硅藻土工業會社代表取締役たる外數會社の重役を兼ね佐世保商工會議所副會頭たり姉トミ(明一六、一生)は栃木縣人伊佐卓彌に妹チヨ(同三四、三生)は長崎縣人若杉米太郎二男勇に嫁し弟利男(同四〇、一一生)は分家し五女八重(同三五、八生)は佐賀縣人平川幸兵衛の養子となれりA一一五B四〇(佐世保市本島町九一電一四九)

田中丹治　賣藥化粧品商　東京府在籍

養子　盛廣　明四〇、六生、靜岡、榛葉幸藏二男

婦　政　大三、三生、養子盛廣妻、東京、今井勇多長女

君は東京府人先代丹治の二男にして安政六年七月を以て生れ明治十二年家督を相續し後前名金次郎を改め襲名す家業を繼ぎ賣藥化粧品商を營む家族は尚孫美代子(昭八、九生、養子盛廣長女)ありA五七六B二〇四(東京市神田區田代町九電下谷一三四九)

田中千里　正四位勳四等、東大阪電氣軌道、山陽中央水電、阪和電氣鐵道各㊫取締役、石川縣士族

妻　恒　明二一、二生、東京、士、羽野友二妹

男　信一　明四三、一二生

男　精二　大二、一生

女　年子　大四、一生

君は石川縣士族田中信吾の長男にして明治五年八月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格し茨城縣警視青森長野各縣事務官長野廣島大阪各府縣警察部長千葉縣内務部長大分熊本各縣知事等に歷任し後退官實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尚二女千枝子(大一一、二生、五男吾郎(同一五、一生)六男六郎(昭三、六生)あり妹舟(明七、三生)は石川縣士族堀啓次郎に嫁せりA三五〇(兵庫縣武庫郡甲東村電西宮一八三〇)

參照＝羽野友二、堀啓次郎の項

田中忠三郎　前三菱㊫仕入部長　京都府在籍

妻　櫻　明四五、二生、東京女大英文科出身

男　美代

君は京都府人田中勘兵衛の二男にして明治五年一月二十日を以て生れ先代孝通の養子となり同十六年家督を相續す同二十九年三越呉服店に入り大阪支店次長本店調査次長八重五郎の前身なる三井呉服店に入り大阪支店次長本店檢査役を經て仕入部長に昇進し同店參事にして傍ら二幸商會取締役兼支配人たりしも現時之を退き株式會社三越の店老たり謠曲盆栽に趣味を有す長女以登(明四〇、八生、佛英和高女出身)は東京府人學習院教授石山乾二に嫁せり(京都市伏見區日野西大道町一八電醍醐乙二四)

田中忠二郎　三井物產㊫囑託　和歌山縣在籍

妻　正　明二〇、九生、東京、佐藤昌一妹

男　忠雄　明四五、四生、東大法學部在學

君は和歌山縣人田中直人の二男にして明治七年九月十八日を以て生れ同四十二年兄正夫方より分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業直に三井物產會社に入社し同社支那福州出張所長同廣東出張所長に歷任し後本店檢査員及調査課參事たる事多年昭和七年同社囑託となり今日に至る長女廣子(明四二、一生)は和歌山縣人田中正夫の養子となれりA一三一(東京市澁谷區青葉町二〇電青山二二四二)

田中長藏　芝西久保巴町郵便局長　東京府在籍

妻　まさの　明九、三生、岐阜、粉垣次右衛門長女

男　良一　明四一、五生

男　正三　大三、九生

君は大阪府人笹井利助の長男にして明治元年七月を以て生れ後先代先重次郎の養子となり同二十年家督を相續す現時芝西久保巴町郵便局長たり長女延(明三六、一〇生)は東京府人笹井氏を再興し二女時(同四五、一生)は東京市芝區西久保巴町六五電芝二〇三三)

田中東　陸軍三等主計、日本銀行㊫出納局長、福岡縣士族

妻　鈴　明二七、一一生、男爵本多政樹妹

男　肇　大四、七生

君は福岡縣士族元久留米市長六十一銀行頭取舊藩主有馬伯爵家令たり田中順信の長男同務の兄なり明治十二年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に日本銀行に入り秋田小樽各支店長本店檢査役檢査部主事を經て現時同行出納局長たり義に一年志願兵となり陸軍三等主計に任ぜず家族は尚二男克(大六、一二生)弟養(明一五、九生)同妻ミドリ(同二九、七生、福岡、稻富清太長女)及其子女故叔父熊藏妻ヱイ(慶應元、三生、福岡、野田錄郎長女)其三男收(明二六、一一生)同妻雪江(同三九、九生、京都、秋吉晉治長女)あり姉ハツ(同九、一生)は福岡縣士族大藏正一に嫁せりA七四二(東京市澁谷區原宿三ノ二九八電青山三七九七)

參照＝男爵本多政樹、秋吉晉治、田中務※男爵長基連※井上武※芙木清次郎※田代義德の項

田中務　從四位勳三等、理學博士、東京帝國大學教授㊫東京天文臺技師、理學部勳務、福岡縣士族

妻　しん　明三一、五生、宮城、今井產三郎長女、御茶の水高女專攻科出身

君は舊久留米藩士田中順信の三男にして現戸主東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し同四十三年第三高等學校教授に任じ大正八年新潟高等學校教授に轉じ同年物理學研究の爲英米獨各國に留學を命ぜらる現時前記の官職にあり昭和九年一月南洋群島(出張を仰付けられ藥に理學博士の學位を授與せらる(東京市本郷區駒込西片町一〇ノ五七)

參照＝田中東の項

田中定次郎　會社員　大阪府在籍

母　かつ　元治元、一二生、大阪、梨木繁治良二女

妻　千代子　明二五、五生、兵庫、白髮久吉長女
男　平一郎　大四、三生、同志社大學在學
女　きみ　大五、七生、甲南高女出身、成蹊家政塾在學
女　千鶴　大七、一〇生、甲南高女在學

當家は大和國宇陀城主織田常眞公の家臣田中五郎平の末同國宇陀郡伊那佐村田中宇兵衛家より出づ初代田中屋平兵衛大阪市東區本町四丁目（現田中合名會社所在地）に店舗を構へ刀劍甲冑洋物等の賣買業を創始す時に天保八年なり君は其四代目にして先代定治郎の長男なり明治二十二年八月十三日を以て生れ同四十四年家督を相續す先是同四十三年市立大阪高等商業學校を卒業後父祖の業務を繼承し田中合名會社代表社員として漆器及び道具類の製造販賣に從事せしが昭和五年之が業務一切を分家田中平三郎に委讓す同八年大阪に田中事務所を創設し資金運用代家管理の事務を取扱ふ弟幸三郎（明二七、八生、大阪高商出身）並に同興之助（同二九、七生）同妻ふさ（同三七、六生、大阪、月山貞勝二女）は各分家し弟平五郎（同三三、二生）は大阪府人勝川喜次郎に同貞造（同三六、五生、同志社大學出身）は滋賀縣人石居四郎平に三女喜代（大九、二生）は大阪府人西原清次郎に各養子となれりA四三一（兵庫縣武庫郡精道村廣屋字寺田二**電青屋二九一六**）

參照‖石居四郎平、西原清次郎の項

田中貞

松竹興行㈱庶務課長
東京府在籍

妻　ヨリ　明二五、一生、東京、山本ろく養子
男　恭一　大一〇、七生
女　園　大二、一一生
女　歌　大四、一生
女　華　大五、六生
女　惠　大七、九生

君は東京府人田中爲一の三男にして明治二十五年一月を以て生れ大正九年兄尙樹方より分れて一家を創立す現時松竹興行會社庶務課長にして曩に歌舞伎座支配人たりし事あり（東京市麻布區田島町三七**電高輪一二四〇**）

田中貞吉

從五位勳六等、判事、大阪控訴院判事、岐阜縣在籍
妻　てる　明三四、一二生、岐阜縣立大垣高女出身
男　貞彥　大一四、八生

君は岐阜縣人にして明治二十三年十月一日を以て生る大正七年京都帝國大學法科大學を卒業し同年司法官試補となり同九年檢事に任じ次で判事に轉じ神戸地方伊丹區裁判所に勤務昭和五年大阪地方裁判所同六年同區裁判所判事を歷補し同九年六月現職大阪控訴院判事に補せらる家族は尙長女きみ（大一〇、八生）二男和彥（昭四、一一生）三男義彥（同六、二生）あり（兵庫縣川邊郡伊丹町基町五四五）

田中貞二

衆議院議員（愛知縣選出）、松竹キネマ㈱監査役、愛知縣在籍
妻　ネ　明四〇、一一生

君は愛知縣人田中嘉八郎の長男にして明治十四年二月を以て生れ先代佐兵衛の養子となり大正四年家督を相續す現時前記會社の重役にして曾て尾三商業銀行頭取名古屋土地日本護謨製造帮岡倉庫各會社長に擧げらる昭和七年推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す曩に紺綬褒章を賜はる家族は尙庶子良一（昭三、三生、生母、愛知、松永あさを）ありA一七一（名古屋市中區下前津町一三五**電長南二四一〇**）

田中貞次

正五位勳四等、東京帝國大學教授
農學部勤務、東京府在籍
妻　寗美子　明三三、三生、岡山、武野一雄妹
男　貞夫　大一二、二生

君は新潟縣人田中健次衛門の五男にして明治二十三年五月を以て生れ昭和四年兄清一方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學農學科を卒業し同八年佛米瑞各國に留學を命ぜられ九州帝國大學助教授同教授等に歷任し現時東京帝國大學教授にして農學部勤務たり昭和五年支那に同九年滿洲國に出張を命ぜら る家族は尙二男俊郎（昭四、一一生）あり（東京市澁谷區羽澤町四三）

田中貞藏

安治川土地㈱取締役、安治川興業㈱監査役、近江屋商會㈱社員
大阪府在籍

妻　ノ靜子　明三四、四生、東京、加賀豊三郎長女、御茶の水高女出身

田中家は先々代市兵衛近江國より大阪に出で一家を創立して屋號を近市と稱し肥料商を營みたるに始まる君は先代はるの男にして明治二十八年六月十五日を以て生れ同四十二年家督を相續す第三高等學校を經て大正九年京都帝國大學法科大學を卒業し現時安治川土地安治川興業各會社の重役にして傍ら合名會社近江屋商會出資社員たり家族は尙長女佐和子（大一四、一〇生）二女圭子（昭三、八生）あり姉政子（明二二、二生）は東京府士族故貴族院議員南郷茂光二男三郎に嫁し兄市藏（同二五、三生）は祖父市兵衛の死跡を相續し弟德藏（同三〇、一生）は分家せりA一八七四（大阪市西區靱北通一ノ一一**電土佐堀二六**）

參照‖加賀豊三郎の項

田中逞一

金物商
東京府在籍
妻　富貴　明五、一一生、東京、伊藤代次郎三女
男　伸哉　大一四、五生

君は東京府人田中政八の三男にして明治二十九年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す金物商を營む家族は尙長女八千代（大一二、五生）二男和夫（昭二、一生）二女富士子（同三、一一生）三男岳夫（同五、一〇生）弟定雄（明四一、一一生）ありA四八七B一一三（東京市芝區三田四國町一ノ一〇**電三田三八九〇**）

田中哲四郎

正五位勳四等、專賣局技師、板橋製作所長、兵庫縣在籍
妻　フミ　明二五、五生、宮崎縣、岩崎髦治妹
男　雄太　大二、八生、宮崎縣立高女出身
女　道子　大八、八生、府立高校在學

君は兵庫縣人田中六郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等工業學校を卒業し東京瓦斯會社に入り同三十九年實地見學の爲北米に渡航し歸朝後竹內鐵業會社に入社し小松鐵工所副所長同社取締役に擧げられしも後之を辭し專賣局技師に任じ現時板橋製作所長たり家族は尙二女靜子（大一二、二生）三女照代（昭四、四生）あ

りA一二八（東京市豊島區池袋三ノ一五三三）

田中鋏郎

澤潟屋、海苔卸商
東京府在籍
母　ゐゑ　明一八、七生、東京、田中國太郎二女

君は東京府人田中麻藏の長男にして明治四十年六月七日を以て生れ大正十四年家督を相續す澤潟屋を稱し海苔卸商を營む家族は尙妹久惠（大二、六生）弟悅雄（同一三、二生）ありA六二四B九四（東京市大森區大森一ノ一二**電大森一七八**）

田中鐵三郎

日本銀行㈱大阪支店長
佐賀縣士族
明三一、一生、醫學博士古川俊勝妹、御茶の水高女出身
妻　ヘジメ　大四、九生
男　敬一郎　明四二、一一生、女子學習院出身
女　辰子　明四四、九生、女子學習院出身
女　郁子　明二八、一生、大阪中央放送局勤務

君は佐賀縣士族田中摩治の二男にして明治十六年一月二十日を以て生れ同三十六年家督を相續す同四十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業日本銀行に入り本店大阪支店倫敦代理店各詰を經て歐洲大戰中並戰後の獨逸其他大陸諸國の經濟狀況を調査視察して歸朝爾來本店調査局調査役營業局調査役祕書役神戸支店長に歷任し昭和四年以來倫敦代理店監督役國際決濟銀行理事國際聯盟財政委員會委員としての任務に當りし外海牙賠償會議對獨金融委員會其他時局關係諸國際會議に出席し昭和八年一月歸朝同行文書局長に任じ同年十一月同行大阪支店長に轉じ今日に至る妹眞砂（明一九、四生）は佐賀縣士族岡村イトの養子となれり（大阪市住吉區松崎町二ノ三四**電天王寺五六八**）

田中鐵之助

男山鐵道㈱相談役
大阪府在籍
妻　おとき　明三〇、一二生、長男市太郎妻、大阪、岡木喜兵衛妹
男　市太郎　明二八、一生、大阪中央放送局勤務

君は京都府人田中幸助の長男にして明治五年一月を以て生れ先代治郎八の養子となり同三十年家督を相續す現時男山鐵道會社相談役たり蘇に大牟田電氣軌道日本工業所各會社の重役たりし事あり家族は尙孫耕市（大八、六生、長男市太郎長男）同章二（同一一、一一生、同三男）同晴子（同一五、一二生、同二女）同澄子（昭三、一二生、同三女）同富士子（同五、二生、同四女）ありA一二四（大阪市東區北久太郎町三ノ二八**電船場一七八〇**）

田中照三

貴生家
京都府在籍
母　與志子　明二七、三生、愛知、岩田みね二女

君は京都府人田中作次郎の長男にして大正四年九月十三日を以て生れ同九年家督を相續す資產家たり家族は尙妹敏惠（大七、一生）弟左久男（同九、四生）あり（京都市下京區綾小路柳馬場西入**電祇園一九三二**）

田中傳太

王子證券㈱常任監査役、樺太鐵道北海水力電氣日本金網、共同洋紙、日露木材、中井商店、富士洋紙店、大同洋紙店各㈱監査役
東京府在籍
妻　キヨ　明七、三生、小川慶次郎長女
男　勇三　明三五、七生、東京地下鐵道會社員、早大理工學部出身
婦　榮　長男勇三妻、東京、藤井輝雄長女、雙葉高女出身
男　勝介　明三八、八生、法學士
男　達也　大三、一生、早大在學
男　典　大四、一〇生

當家は東京府北多摩郡多摩村の舊家にして豪農を以て知られ維新前まで名主役を勤めし家柄なり君は先代田中傳左衛門の長男にして慶應元年十二月八日を以て生れ大正元年家督を相續す明治二十三年早稻田大學法科を卒業し三井銀行に入り門司支店副支配人を經て同四十年王子製紙會社に轉じ庶務課長に進む現時王子證券會社常任監査役の外樺太鐵道北海水力電氣日本金網及び共同洋紙日露木材中井商店富士洋紙店各會社の監査役たり謠曲書畫骨董に趣味を有す長女廣（明三一、六生）は東京府人海軍大佐星野倉吉に嫁せりA二〇〇八（東京市目黑區洗足町一四六四ノ一**電高輪九二四**）

田中都吉

從三位勳一等、中外商業新報社㈱社長、京都府在籍
妻　みさを　明一七、八生、男爵鈴木備治妹、華族女學校出身

妻　ノ靜子　明三四、四生、東京、加賀豊三郎長女、御茶の水高女出身

田中家は先々代市兵衛近江國より大阪に出で一家を創立して屋號を近市と稱し肥料商を營みたるに始まる君は先代はるの男にして明治二十八年六月十五日を以て生れ同四十二年家督を相續す第三高等學校を經て大正九年京都帝國大學法科大學を卒業し現時安治川土地安治川興業各會社の重役にして傍ら合名會社近江屋商會出資社員たり家族は尙長女佐和子（大一四、一〇生）二女圭子（昭三、八生）あり姉政子（明二二、二生）は東京府士族故貴族院議員南郷茂光二男三郎に嫁し兄市藏（同二五、三生）は祖父市兵衛の死跡を相續し弟德藏（同三〇、一生）は分家せりA一八七四（大阪市西區靱北通一ノ一一**電土佐堀二六**）

參照‖加賀豊三郎の項

田中逞一

金物商
東京府在籍
妻　富貴　明五、一一生、東京、伊藤代次郎三女
男　伸哉　大一四、五生

君は東京府人田中政八の三男にして明治二十九年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す金物商を營む家族は尙長女八千代（大一二、五生）二男和夫（昭二、一生）二女富士子（同三、一一生）三男岳夫（同五、一〇生）弟定雄（明四一、一一生）ありA四八七B一一三（東京市芝區三田四國町一ノ一〇**電三田三八九〇**）

田中哲四郎

正五位勳四等、專賣局技師、板橋製作所長、兵庫縣在籍
妻　フミ　明二五、五生、宮崎、岩崎髦治妹
男　雄太　大二、八生、宮崎縣立高女出身
女　道子　大八、八生、府立高校在學

君は兵庫縣人田中六郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等工業學校を卒業し東京瓦斯會社に入り同三十九年實地見學の爲北米に渡航し歸朝後竹內鐵業會社に入社し小松鐵工所副所長同社取締役に擧げられしも後之を辭し專賣局技師に任じ現時板橋製作所長たり家族は尙二女靜子（大一二、二生）三女照代（昭四、四生）あ

男　舜吉　明三八、一生、北樺太石油會社員慶大經濟學部出身
婦　恭子　明四四、二生、長男舜吉妻、東京猿田甲子藏二女、雙葉高女出身
男　俊季　明三九、一二生、横濱正金銀行員東京商大出身
女　澄子　明四一、一一生、女子學習院出身
男　和眞　明四四、一〇生
女　多美子　大四、三生、女子學習院出身

君は京都府人田中茜三郎の二男にして明治十年一月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十一年東京高等商業學校專攻部領事科を卒業し同年外交官及領事官試驗に合格し領事官補に任じ布哇紐育に在勤後領事に進み新嘉坡香港シヤトルに駐在す同四十三年外務書記官に任ぜられ通商局第二第三各課長となり關米大使館參事官外務省通商局長高等捕獲審檢所評定官外務省情報部次長外務次官兼臨時平和條約事務局長等に歷任し大正十二年官を辭しジヤパンタイムス社長となりしも同十四年日露協商成るや特命全權大使に任ぜられソヴィエット聯邦に駐劄す昭和五年待命仰付られ同年官を辭し中外商業新報社長に就任し現在に及ぶ圍碁撞球芝居に趣味を有す家族は尙三女棋美子（大九、二生、女子學習院在學）四男潤（同一一、五生）あり（東京市澁谷區金王町一一**電青山一六六九**）

參照‖男爵鈴木備治の項

田中藤九郎

家主
大阪府在籍
父　藤兵衛　安政二、一一生、現戶主
妻　チエ　明二三、四生、大阪、佐々木仁兵衛姉
男　藤夫　明四五、六生
女　サイ　大三、三生

君は大阪府人田中藤兵衛の長男にして明治二十年十月七日を以て生る家主たり家族は尙二男得治郎（大四、四生）あり長女モト（明四四、一生）は大阪府人下村仁兵衛二男健一郎に嫁せりA二〇〇五一（大阪市大正區泉尾竹ノ町三ノ四**電櫻川二〇四六**）

參照‖田中藤兵衛の項

田中藤作

東京セメント㈱專務取締役、淺野雨龍炭礦㈱常務取締役
東京府在籍

母　ツル　文久二、二生、東京、小池繁藏妹
妻　多摩　明二七、三生、宮城、乾智一三女
男　隆　大五、三生
君は東京府人田中桐藏の長男にして明治二十年二月十一日を以て生れ大正七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして養に淺野セメント會社參事たり家族は尙す男誠(大二二、一生)四男惇(同一五、七生)五男正(昭三、一一生)あり(東京市大森區田園調布三ノ五四ノ三電田園調布一四四)

田中藤三郎

實商　大阪府在籍
繼母　うの　明一〇、九生、大阪、中野淺治郎
妻　キク　明二〇、一一生、養父市松長女
君は大阪府人田中嘉吉の二男にして明治十八年十一月六日を以て生れ先代市松の養子となり大正十五年家督を相續す商を營む家族は尙二女久子(大一一、九生)三女信子(同一三、三生)あり A三一二五(大阪市此花區玉川町二ノ一三〇電福島一八〇)
參照‖※中納久左衛門の項

田中藤三郎

金融業、家主　大阪府在籍
妻　きく　明七、一生、大阪、森內六左衛門姉
庶子　一郎　明四二、三生、生母、大阪、齋田しま
君は大阪府人先代藤三郎の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十四年家督を相續し前名幸太郎を改め襲名す家族は尙庶子二郎(大五、七生、生母、大阪、齋田しま)同正(同一四、三生、生母同上)あり同多美子(明三九、一〇生、生母同上)は其夫藤五郎(同三四、六生、大阪、田中藤四郎三男)と共に二女あつ(同四一、七生)は其夫博(同三四、三生、大阪、今堀新二男)と共に各分家し姉フジ(慶應元、一二生)も亦其一子を伴ひ分家せり A四三九一(大阪市港區泉尾竹ノ町三ノ一三電櫻川一七一五)

田中藤太郎

大阪市參事會員、泉尾愛兒園主、家主、大阪府在籍
父　寅吉　慶應二、七生、大阪、吉川儀兵衛二男、現戸主
妻　あき　明二四、一一生、大阪、森內宗八三女
男　稔　大一一、四生
女　あい　大三、八生
女　百合子　大八、七生、
君は大阪府人田中寅吉の長男にして明治十八年十二月十日を以て生る同四十年大阪高等商業學校を卒業し家主たり大正三年以來泉尾愛兒園を經營し幼兒保育事業に盡す處鈔からず同十四年以來引續き大阪市會議員に當選し現に同市參事會員の任に在り家族は尙四男修(明四〇、一二生)六女らん(昭三、四生)あり長女弐子(大一四、一二生)六女ら(昭三、四生)あり長女弐子(明四〇、一生)は大阪府人大矢宗太郎孫全節に二女ふき子(同四三、一一生)は京都府士族岩佐氏英長男氏潔に嫁せり A三八九(大阪市大正區北泉尾町三ノ九九電櫻川一五一〇)
參照‖森內宗八※森內重子の項

田中藤兵衛

大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍
男　藤九郎　明二〇、一〇生
君は大阪府人先代藤助の長男にして安政二年十一月三日を以て生れ明治十九年家督を相續す家主にして直接國稅二萬二千三百二十一圓を納め大阪府多額納稅者に列す長女ナヲ(明一〇、三生)は大阪府人下村仁兵衛長男德藏に妹タキ(同五、四生)あり長女弐子嫁し二女イソ(同一三、四生)は同府人吉川榮次郎に三男德三郎藤治(同二五、一一生)は同府人原田卯之松に四男末吉(同二八、五生)は分家弟巳之助に各養子となり弟卯之松(慶應三、八生)も亦同府人原田清次郎の養子となり同巳之助(明二一、八生)三男德三郎(同二五、一一生)は各分家せり(大阪市大正區泉尾竹ノ町電櫻川二〇四六)
參照‖田中藤九郎の項

田中德三郎

卸子商　東京府在籍
母　なか　明八、一〇生、東京、土井繁藏二女
妻　まさ　明三三、九生、茨城、柳橋峯吉孫女子職業學校出身
男　一郎　大一一、九生
君は東京府人先代德三郎の長男にして明治二十八年七月三十一日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名謹一を改め襲名す硝子商を營む家族は尙二男菊次郎(大一四、一一生)弟靜雄(明三七、六生)妹富美(同四〇、二生、日本橋高女出身)弟義雄(同四五、六生、慶大在學)同六郎(大四、四生)あり弟健治(明三三、六生)は分家せり A四六二B一一三(東京市日本橋區小傳馬町一ノ九電濱花三五一二)

田中德藏

仲仕請負業　兵庫縣在籍
妻　たか　明七、七生、兵庫、川村庄助四女
男　德一　大一〇、四生
養子　甚市　明三八、一二生、妹かや私生子
庶子　トシ子　大六、一二生、生母、兵庫、齋田むめ
君は兵庫縣人田中甚四郎の長男にして明治八年六月二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す仲仕請負業を營む家族は尙孫德喜(昭六、五生、養子甚市長男)あり妹むめ(明一三、五生)は兵庫縣人濱田由松に同かや(同一七、二生)は大阪府人柏木仙太郎甥安次郎に嫁し姉よめ(同四、一二生)は分家し甥福松(同二三、二生、亡姉ひさ私生子)も亦分家せり A一三九七(神戸市兵庫區今出在家三ノ三〇ノ一電兵庫四四七)

田中德太郎

大阪堂島米穀取引所取引員、米穀問屋業、大阪府在籍
男　政治郎　明三四、四生
女　八重子　大六、五生
君は大阪府人先代彌藏の長男にして明治十三年一月二十七日を以て生れ大正三年家督を相續す米穀問屋業を營み現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙四男京一(大一二、一二生)庶子昭二(昭二、一生)妹ハヤ(明一六、六生)叔父豊吉(嘉永六、四生)あり A六三二B二三〇(大阪市北區玉江町一ノ二堂島米穀取引所正米市場構內電土佐堀三一五九・七二三九)

田中德兵衛

貴族院議員、埼玉縣多額納稅者、日蘭公司取締役、埼玉縣在籍
男　德太郎　明三〇、八生
婿　俊子　明三三、六生、長男德太郎妻、埼玉、平澤三郎三女、跡見女學校出身
男　莊二　明三九、八生、慶大出身
女　ちか子　大五、二生、跡見女學校出身
君は埼玉縣人先代德兵衛の長男にして明治八年五月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名德藏を改め襲名す味醂醬油醸造業を營み傍ら日蘭公司取締役にして縣下の多額納稅者に列す昭和七年貴族院議員に互選せられ現時交友倶樂部所屬たり養に南平柳村長埼玉縣會副議長等に擧げらる家族は尙孫德衛(大一一、六生、長男德太郎長男)同幸子(同一三、二生、同長女)同朋久(昭三、九生、同二男)同琳子(同五、六生、同三女)あり四女政子(明四一、一一生、京華女學校出身)は長野縣人青木一男弟重臣に五女和嘉子(同四四、九生、跡見女學校出身)は石川縣人南勝治弟商工省勤務好雄に妹ふさ(同二三、一二生)は埼玉縣人吉田俊一郎長男喜一に同まつ(同二六、七生)は東京府人齋藤平兵衛に嫁せり A四三六三B八七(川口市十二月田四五電五〇「別邸」東京市本郷區龍岡町一五電小石川二一三五)
參照‖青木一男、平澤三郎、南勝治の項

田中德松

龍文堂、文具小間物商　東京府在籍
妻　まつ　明二五、一生、養父龍藏養子、山形、木村雄作二女
男　一實　大六、三生
女　ヨシ　大三、一〇生
君は福島縣人板谷溪助の弟にして明治二十三年五月十五日を以て生れ後田中龍藏の養子となり大正八年分れて一家を創立す龍文堂と稱し文具小間物商を營む A五二七B二五〇(東京市日本橋區横山町一ノ一〇電濱花五二〇七)

田中富藏

資產家　大阪府在籍
萬延元、一〇生、大阪、豊田彌三兵衛四女
婿　アイ　明一三、一一生、亡長男喜一郎妻大阪、井上民三郎長女
孫　勇　明四一、三生、亡長男喜一郎長男
孫妻　千賀子　明四二、一二生、孫勇妻、大阪、宮本富藏二女
孫　茂　明四五、五生、亡長男喜一郎二男
君は大阪府人田中寅右衛門の長男にして安政四年三月十六日を以て生れ明治十六年家督を相續す資產家として知らる家族は尙孫信雄(大一一、二生、亡長男喜一郎六男)あり四男安五郎(明一八、一一生)は大阪府人木寺小八に六男幸雄(同三三、五生、工學士)は同府人肥田友七に八男英一(同三七、二生)は東京府人加納政太郎に各養子となり長女チヨ(同二三、二生)は大阪府人鐵龍助長男松之助に三女富榮(同二七、三生)は兵庫縣人山村吉藏長男一市に四女イト(同二八、一一生)は大阪府人中納久左衛門長男久治郎に嫁し五男滕雄(同三一、七生、早大商科出身)は分家せり A八五七(大阪市此花區玉川町二ノ一九二電土佐堀一三五三)
參照‖木寺小八、中納久左衛門、肥田友七、宮本富藏の項

田中留十郎

田中濟起堂、賣藥製造業　東京府在籍
男　正一　大五、三生
君は栃木縣人織田彦市の長男にして明治二十年八月十日を以て生れ先代才市郎の養子となり昭和二年家督を相續す田中濟起堂と稱し賣藥製造業を營む家族は尙二男義昭(大七、一一生)あり A二一八B一四四(東京市日本橋區本町四ノ六ノ五電濱花六六六九)

田中友二郎

從四位勳四等、臺南師範學校長　東京府士族
妻　ツヤ　明一五、一〇生、大阪、士、熊澤尙文姉、東京女高師出身
男　正義　明四三、一生
女　順子　明四五、三生
女　敬子　大四、八生
君は京都府士族田中經始の長男にして明治七年九月十七日を以て生れ同二十五年家督を相續す同三十五年東京高等師範學校文科教育學部を卒業し京都府師範學校同府立第一高等女學校各教諭を經て總督府國語學校教授同府視學官等を經て大正十一年臺灣總督府師範學校長に任じ現時臺南師範學校長たり養に海峽植民地佛領印度支那關領東印度等に出張し植民地に於ける教育狀況を視察す家族は尙二男正文(大七、六生)三男正武(同九、六生)四男正俊(同一一、一一生)あり妹よね(明九、一〇生)は東京府人藤木權兵衛長男林太郎に同壽江(同一四、三生)は京都府人田口熙長男孝吉に同清野(同二二、四生)は千葉縣人藍野精一に嫁し弟數枝(同一七、七生)同妻きぬ(同二八、三生、京都、田村伊之吉妹)は共に其一子を伴ひ分家せり(臺南市師範學校長官舍電五九四四)

田中豊次

田中旗店、旗商　大阪府在籍
妻　チイ　明二〇、八生、東京、田沼松次郎養子、小川久吉二女
男　清七　大一〇、三生
女　繁子　大三、八生
女　佐和子　大七、七生
君は神奈川縣人田中要吉の二男にして明治十六年四月十四日を以て生れ大正六年兄喜作方より分れて一家を創立す田中旗店と稱し旗商を營む A六〇四(大阪市東區瓦町四ノ六一電本局二九五)

田中虎之輔

田中鐵業㈱取締役　東京府在籍
妻　鈴子　明二三、五生、東京、松本市左衛門長女
一之助　明四四、八生、上智大學在學
君は東京府人田中菊次郎の弟同平八の甥にして明治十二年十一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十七年東京高等商業學校を卒業し現時田中鐵業會社取締役たりスポーツを愛好しテニスの技に長ず長女艶(明四三、七生、聖心女子學院出身)は千葉縣人上村伸一に嫁せり A一三六二(東京市麻布區宮村町一〇電赤坂一八九五)
參照‖田中銀之助、田中平八、松本市左衛門の項

田中寅吉

大阪淡水魚貝㈱取締役　大阪府在籍
繼子　藤太郎　明一八、一二生
妻　まさ　明三三、九生、茨城、柳橋峯吉孫女子職業學校出身
男　一郎　大一一、九生
君は東京府人先代德三郎の長男にして明治二十八年七月三十一日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名謹一を改め襲名す硝子商を營む家族は尙二男菊次郎(大一四、一一生)弟靜雄(明三七、六生)妹富美(同四〇、二生、日本橋高女出身)弟義雄(同四五、六生、慶大在學)同六郎(大四、四生)あり弟健治(明三三、六生)は分家せり A四六二B一一三(東京市日本橋區小傳馬町一ノ九電濱花三五一二)

田中德藏

仲仕請負業　兵庫縣在籍
妻　たか　明七、七生、兵庫、川村庄助四女
男　德一　大一〇、四生
養子　甚市　明三八、一二生、妹かや私生子
庶子　トシ子　大六、一二生、生母、兵庫、齋田むめ
君は兵庫縣人田中甚四郎の長男にして明治八年六月二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す仲仕請負業を營む家族は尙孫德喜(昭六、五生、養子甚市長男)あり妹むめ(明一三、五生)は兵庫縣人濱田由松に同かや(同一七、二生)は大阪府人柏木仙太郎甥安次郎に嫁し姉よめ(同四、一二生)は分家し甥福松(同二三、二生、亡姉ひさ私生子)も亦分家せり A一三九七(神戸市兵庫區今出在家三ノ三〇ノ一電兵庫四四七)

田中德太郎

大阪堂島米穀取引所取引員、米穀問屋業、大阪府在籍
男　政治郎　明三四、四生
女　八重子　大六、五生
君は大阪府人先代彌藏の長男にして明治十三年一月二十七日を以て生れ大正三年家督を相續す米穀問屋業を營み現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙四男京一(大一二、一二生)庶子昭二(昭二、一生)妹ハヤ(明一六、六生)叔父豊吉(嘉永六、四生)あり A六三二B二三〇(大阪市北區玉江町一ノ二堂島米穀取引所正米市場構內電土佐堀三一五九・七二三九)

婦　あき　明二四、一一生、繼子藤太郎妻、大阪、森田宗八三女
孫　あい　大三、八生、繼子藤太郎四女
孫　百合子　大八、七生、繼子藤太郎五女

君は大阪府人吉川儀兵衛の二男にして慶應二年七月二十二日を以て生れ先代フジの入夫となり明治二十六年家督を相續す現時大阪淡水魚貝會社取締役たり家族は尙孫稔(大一一、四生、繼子藤太郎三男)同修(同一四、一二生、同四男)同らん(昭三、四生、同六女)あり同戎子(明四〇、一生、同長女)は大阪府人大矢宗太郎孫全節に嫁せりA一六七四(大阪市大正區泉尾町三ノ一二**電櫻川一七一五**)

田中直一

日本興業銀行㊞監査役
東京府在籍

妻　さゑ　明一七、八生、靜岡、松本秀三長女
養子　勇　明三六、六生、長女美紀夫、東京原島進弟
女　美紀　明四二、八生、養子勇妻、三輪田高女出身

君は愛知縣人田中一鷲の長男にして明治四年十一月二十二日を以て生れ大正七年東京專門學校邦語政治科を卒業し三井銀行に入り後日本興業銀行に轉じ大阪支店副支配人本店營業部副長參事預金課長等を經て現時同行監査役たり家族は尙孫齊(昭七、一〇生、養子勇長男)あり弟清二(明一〇、五生)は愛知縣士族水澤慶未亡人たりA三四一(東京市目黑區富士見臺一五五九**電荏原三三二〇**)

田中直吉

地主
東京府在籍

男　駒吉　明四四、二生
女　シン　明四一、六生
女　フキ　明四二、九生

君は東京府人田中仙右衛門の二男にして明治十三年五月二十五日を以て生れ同三十四年先代兄仙太郎の後を承け家督を相續す地主たり家族は尙三男廣(大六、二生)五女アキ(同九、九生)四男豊(同一二、二生)六女きく子(昭二、一〇生)七女育子(同四、五生)あり五男安(大一四、二生)は東京府人並木伊三郎の養子となり弟元次郎(明二四、一二生)は分家し妹まつ(同一六、四生)は東京府人鈴木綱吉弟勝次郎に同なか(同一九、七生)は前記並木伊三郎に同トミ(同二一、三生)は前記並木伊三郎弟鐵吉に同こと(同二八、五生)は同府人島田倉次郎に嫁せりA四七五(東京市澁谷區代々木上原町一一一六)

田中直藏

板硝子商
大阪府在籍

妻　ます　明七、三生、養父惣次郎長女
男　直次郎　明四、九生
養子　利男　明四一、二生、三女フミ夫、奈良
女　フミ　明四一、二生、養子利男妻

君は奈良縣人久保伊平の三男にして明治三年八月二日を以て生れ先代惣次郎の養子となり大正四年家督を相續す板硝子商を營む家族は尙孫和男(昭八、八生、養子利男長男)あり二女ひさ(明三七、一〇生)(同三三、八生、大阪、大澤正兵衛弟)は其子女を伴ひ分家し弟信三(同三〇、三生)は大阪府人猪野口幸次郎の養子となり妹ゆう(同三七、三生)は同府人喜田平太郎に嫁せりA五二四(大阪市住吉區鳴明通二ノ六三**電天下茶屋二七四七**)

田中直通

從四位勳五等、安田生命保險㊞支配人、栃木縣在籍
慶應元、四生、茨城、士、朝日直好二男

父　敬　慶應三、八生、栃木、小野口保吉三女
母　キン
妻　信子　明三一、一一生、男爵山根成一姉女子學習院出身
男　一男　大一三、八生

君は栃木縣人田中敬の長男にして明治二十二年六月を以て生れ後家督を相續す大正三年文官高等試驗に合格同四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同年朝鮮總督府試補となり爾來同事務官軍需局書記官國勞院書記官農商務事務官兼同書記官工務局工務課長關東長官秘書官同秘書課長關東廳事務官兼秘書官商工書記官兼商工大臣官房秘書課勤務等に補任し商工書記官兼外務事務官臨時產業合理局事務官工務局工政課長たりしが後官を辭し現時安田生命保險會社支配人たり家族は尙二女ミチ(大九、一生)三女文子(同一五、一生)四女トク(昭三、三生)弟道(明二七、六生)同妻京(同三九、三生、靜岡、村松五郎馬長女)及其一女弟俊雄(同四三、一一生)あり同寛(同二四、一一生)同信(同三七、五生)養叔父常吉(嘉永六、一生)は各分家せりA三〇六(東京市澁谷區代々木上原町三〇四**電小石川四〇二六**)

㊟照＝男爵山根成一の項

田中仁吉

大阪坩堝㊞社長、日華製紙㊞監査役、鹿兒島縣在籍

妻　稻子　明三七年生
男　仁榮　大七、六生、大阪府立北野中學在學

君は東京府人高松數馬の四男同正信の弟にして明治二十四年一月二十四日を以て生れ同四十四年鹿兒島縣人田中省三の養子となり昭和三年養兄省吾より分れて一家を創立す大正三年東京高等商業學校を卒業し現時大阪坩堝會社長にして日華製紙會社監査役を兼ぬ養に田中汽船鑛業會社日華製紙會社各常務取締役たりし事あり家族は尙長女ふさ(大九、二生、聖心女子學院在學)二男仁也(同一〇、五生、大阪府立北野中學在學)三男英三(同一一、一一生)ありA一二一(兵庫縣武庫郡精道村芦屋毛賀金八七八**電芦屋二九七三**)

㊟照＝田中省吾、高松正信の項

田中波慈女

正五位勳五等、醫林局技師、熊本醫林局計畫課長、埼玉縣在籍
明二六、一一生、東京、士、大瀬甚太郎長女

妻　溫子　昭一郎
男　昭一郎

君は埼玉縣人田中一郎の二男にして明治二十年十月を以て生れ大正八年兄親夫方より分れて一家を創立す同二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手同技師農林技師兼醫林局技師等に歷任し同十四年醫林局技師專任となり高知醫林局計畫課長を經て昭和七年前記現職に轉じ今日に至る養に歐米各國に出張す(熊本市京町熊本醫林局內)

㊟照＝大瀬甚太郎、櫻井錠二、松井簡治の項

田中治之助

東京金網㊞製作所㊞取締役、日高電鐙㊞監査役、田中土地建物㊞資社員
東京府在籍

養父　武兵衛　明一〇、一生、現戸主
妻　清　明三一、七生、養父武兵衛養子、東京、早川鐵冶三女、青山女學院出身
養子　正治　昭四、一一生、養父武兵衛長男
女　良子　大八、九生、雙葉高女在學

君は東京府人先代武兵衛の五男にして明治二十一年七月四日を以て生れ大正六年分れて一家を創立せしが同十四年廢家して兄武兵衛の養子となる同二年東京帝國大學法科大學を卒業直ちに田中銀行に入り各支店に勤務せしが同六年東京金網會社の設立せらるゝや其懇望により入り常務取締役となり爾來同社經營の任に當り傍ら田中機械製作所日高電燈會社重役にして田中土地建物合資會社出資社員として各關係會社に重きをなすA一五六七(東京市四谷區東信濃町一六**電四谷三〇三三**)

㊟照＝田中武兵衛、早川鐵冶※矢部又吉の項

田中半三郎

東京市大森區會議員、菓子商
東京府在籍

妻　ナヨ　明一三、一生、神奈川、中村平左門長女
男　源一郎　明三四、一二生
婦　ミネ　明四三、二生、長男源一郎妻、神奈川、久保田友吉孫
婦　カツ　明三七、八生、亡二男菊次郎妻、福島、高田清長女

君は東京府人田中源次郎の長男にして明治十二年一月十一日を以て生れ同三十一年祖父半右衛門の後を享け家督を相續す菓子商を營む昭和七年推されて東京市大森區會議員たり家族は尙四男正(大六、一生)三女ヨシ(同一〇、二生)孫篤子(昭五、二生、長男源一郎二女)同幸子(同八、一〇生、同三女)同元彥(同八、六生、亡二男菊次郎長男)姉阿喜(明九、七生)あり長女タミ(同三三、六生)は熊本縣人田川信男に從妹つる(同一五、四生)は佐賀縣人技國卯三郎に同ふみ(同一七、七生)は福岡縣人堤恕一長男武六に嫁し三男新三(同四〇、九生)は東京府人渡邊光三郎の養子となれりA一三一三(東京市大森區新井宿四ノ一三一**九電大森三〇四**)

㊟照＝高田清、中村平左衛門の項

田中半兵衛

繪具染料工業藥品商
東京府在籍

妻　光　明三四、一生、山梨、望月恒造長女
女　和彥　大八、一生

君は岐阜縣人田中太郎吉の四男にして明治十七年十二月十五日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同年愛知醫學專門學校を卒業し醫師たり家族は尙三男申彌(大九、四生)長女方子(同一〇、一二生)三男偉生(昭六、八生)ありA一〇六四(名古屋市東區横代官町八**電東六八七**)

田中彥太郎

田中屋酒造㊞代表取締役
福岡縣在籍

妻　キミ　明九、九生、福岡、熊川米吉長女
男　淺吉　明二六、六生
婦　シゲヨ　明二九、三生、長男淺吉妻、福岡飯田甚兵衛二女
養子　米吉　明二三、二生、熊本、川原松太郎三男
婦　サミエ　明三三、八生、養子米吉妻、福岡
孫　幸子　大三、八生、養子米吉長女
孫　瑛子　大八、一一生、長男淺吉長女

君は福岡縣人星醒利七の三男にして田中廉吉の養兄なり慶應二年八月を以て生れ田中榮吉の養子となり明治二十六年分れて一家を創立す現時田中屋酒造會社代表取締役たり養に福岡縣多額納稅者たりし事あり家族は尙孫保子(大一一、一生、長男淺吉二女)同彥佑(同一二、二生、同長男)同貞子(同六、八生、養子米吉二女)同和子(同一四、五生、同三女)同邦子(昭二、五生、同四女)あり二男桂一(明三一、二生)は長崎縣人竹濱マキの家籍に入り二女トシエ(同三八、二生)は福岡縣人溪武貞吉長男文一郎に三女キクヨ(同四〇、一二生)は同縣人山田善彥長男卯一に嫁せり(福岡縣山門郡瀨高町**電三**)

田中恒

川崎第百銀行㊞松戸支店長
東京府在籍

妻　はる　明二九、三生、山梨、大寄元吉四女、山梨英和女學校出身
男　顯一　大一一、六生

君は千葉縣人田中素の二男にして明治二十年七月を以て生れ大正二年家督を相續す先是明治四十三年明治大學商科を卒業し川崎第百銀行神樂坂支店長を經て現時松戸支店長たり家族は尙二男愼二(昭二、七生)弟康男(明四二、四生、川崎第百銀行員、横濱高商出身)あり叔父一雄(安政五、一〇生)は分家せり(千葉縣東葛飾郡松戸町**電二六八**)

田中秀夫

正三位勳二等、退職檢事
東京府士族

妻　キイ　明六、一一生、東京、飯守八郎長女
男　耕太郎　明二三、一〇生

君は佐賀縣士族田中關太郎の長男にして文久二年八月を以て生れ先代甚兵衛の養子となり明治四十一年家督を相續す同二十年判檢事登用試驗に合格し名古屋地方裁判所同控訴院各檢事松江岡山新潟福岡廣島千葉函館鹿兒島各地方裁判所檢事正等に歷補し後退官す長女すみ(明二六、一二生)は和歌山縣人朝鮮殖產銀行理事植野勳に三女宏子(同三四、七生)は貴族院議員長岡半太郎長男三井合名會社員治男に五女順(同四一、一生)は兵庫縣人和田義彥に嫁し二男吉備彥(同三六、一生、三井信託會社員、法學士)は分家し三男重任(同三九、八生、判事、法學士)は東京府人飯守八郎の養子となれりA一一三三(東京市豊島區目白町二ノ一六五一**電牛込四一七九**)

㊟照＝田中耕太郎、長岡半太郎の項

田中秀雄　正五位勳五等、判事、大阪地方裁判所所部長、群馬縣士族

母　はつ　元治元、五生

妻　きよ　明二六、一二生、茨城、富岡常八孫

男　正雄　大一〇、一〇生

女　信子　大二、八生

女　美代子　大五、六生

君は群馬縣士族田中種美の長男にして明治十七年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ高知區同地方大阪地方同區柏原區岸和田區神戸區彙同地方各裁判所判事及大阪控訴院判事等に歷補し現時大阪地方裁判所部長たり家族は尙四女敏子（大一二、一一生）五女文子（同一五、二生）三男忠雄（昭五、二生）弟泰二（明三一、三生）同妻町子（同四二、一生、高知、志和八十彥二女）及其子女弟六郎（同三四、五生）同七郎（同三八、三生）あり（大阪市住吉區帖明通一ノ四五）

田中秀介　本郷藥局、藥種商　東京府士族

妻　サウ　明二九、一〇生、東京、藤田富吉三女

女　民子　大七、一生

君は東京府士族田中榮秀の長男にして明治十六年五月十八日を以て生れ昭和六年家督を相續す本郷藥局と稱し藥種商を營む家族は尙二女芳（大一〇、一生）姉永（同二八、四生、東京、諏訪熊國令二女）及其二女ありA四二〇B一三九（東京市赤坂區一ツ木町八四電青山二三三二）

田中秀央　正五位勳四等、文學博士、京都帝國大學教授、愛媛縣在籍、文學部勤務

妻　静枝　明二六、二生、富山、士、山崎茂苗二女、御茶の水高女出身

男　眞希夫　大九、五生

女　熊紀子　大四、八生

君は愛媛縣人にして明治十九年三月二日を以て生る同四十二年東京帝國大學文科大學言語學科を卒業し大正九年京都帝國大學助教授となり同十一年英獨佛米伊希諸國（留學す昭和五年文學博士の學位を授與せられ同六年京都帝國大學教授に任じ西洋古典文學古典語學を教授し今日に至る曩に希臘國の騎士として基督十字勳章の佩用を許可せられ同地の學會々員たり「希臘語文典」「新羅甸文法」等の著書あり家族は尙二男健夫（大一二、一生）三男和夫（昭二、四生）あり（京都市左京區北白川上池田町一）

田中百太郎　地家主　東京府在籍

妻　けい　安政四、八生、東京、鈴木喜代次良長女

男　七五郎　明一六、六生

孫　重雄　明四一、八生、長男七五郎長男

孫　静江　明四四、八生、長男七五郎長女

孫　美穗子　大二、八生、長男七五郎二女

孫　美千代　大四、三生、長男七五郎三女

君は東京府人田中七藏の長男にして安政六年十月十日を以て生れ明治二十八年家督を相續し前名百太良を改む地家主たり長女みき（明二三、九生）は東京府人小山義太郎に嫁し二女喜代（同二九、一一生）は其養子となり雄（同四二、一一生、長男七五郎二男）は其養子となり妹久仁（文久二、八生）は東京府人島海定寺の家籍に入れりA一一二八（東京市大森區入新井二ノ一二五四電大森六一五）

田中弘太郎　從位勳一等功四級、陸軍大將　京都府士族

君は京都府士族田中道一の長男にして元治元年九月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十年陸軍砲兵少尉に任じ大正十三年陸軍大將に累進す其間陸軍砲工學校教官砲兵會議々員陸軍技術審査官兼同議員陸軍科學研究所長兼陸軍技術會議々員に歷補し大正十三年豫備役仰付けらる弟幾次郎（慶應二、一一生）は其子女を伴ひ分家し同半四郎（明四、七生）同正五郎（同九、一一生）も亦各分家せり（京都府船井郡園部町）

田中博　正五位勳四等、文學博士、京都帝國大學教授、愛媛縣在籍、文學部勤務

妻　静枝　明二六、二生、富山、士、山崎茂苗二女、御茶の水高女出身

男　眞希夫　大九、五生

女　熊紀子　大四、八生

君は愛媛縣人にして明治十九年三月二日を以て生る同四十二年東京帝國大學文科大學言語學科を卒業し大正九年京都帝國大學助教授となり同十一年英獨佛米伊希諸國（留學す昭和五年文學博士の學位を授與せられ同六年京都帝國大學教授に任じ西洋古典文學古典語學を教授し今日に至る曩に希臘國の騎士として基督十字勳章の佩用を許可せられ同地の學會々員たり「希臘語文典」「新羅甸文法」等の著書あり家族は尙二男健夫（大一二、一生）三男和夫（昭二、四生）あり（京都市左京區北白川上池田町一）

田中武兵衛　東京府多額納稅者、東京金網座社長、田中土地建物會社無限責任社員　東京府在籍

妻　さと　安政六、一一生、東京、加藤藤藏二女

母　春子　明二七、三生、東京、小川義春二女

養子　治之助　明二一、七生

君は東京府人先代武兵衛の長男にして明治十年一月十一日を以て生れ大正七年家督相續と共に襲名して前名正之助を改む夙に商業素養學校に學び現時東京金網會社長田中土地建物無限責任社員にして東京府多額納稅者に列し直接國稅八千八百六十圓を納む曩に田中興業田中貯蓄麴町各銀行頭取に擧げらるる家族は尙姉いく（明七、六生、跡見女學校出身）あり弟孝之助（同一二、九生）は東京府人山田寅助に同泰之助（同一五、一二生）は山口縣士族坂田貞重に各養子となり姪ハツ（同二九、一一生、山脇高女出身）は同縣人目鹿之助長男法學士晉熊に同正代（同三六、五生、九段精華高女出身）は新潟縣人永井庄吉長男精一に嫁せりA五四二六（東京市麴町區隼町一四電九段八二二）

參照＝田中治之助の項

田中無事生　正五位勳四等、福岡縣若松市長　三重縣在籍

母　とゑ　安政元、一〇生、三重、中川磯八二女

妻　壽子　明二七、六生、東京、士、井上俊雄四女、東京女學館出身

男　淳夫　大三、五生

君は三重縣人田中健造の長男にして明治十八年十月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來京都府屬同府竹野南桑田各郡長滋賀縣理事官德島縣警察部長烏取大分滋賀長野各縣內務部長等に補任し昭和四年高知縣知事同六年茨城縣知事に任ぜられ後官を辭す現時福岡縣若松市長の職にあり家族は尙二男厚次（大一四、四生）長女豐子（昭四、一〇生）あり妹文能（明三〇、一〇生）は滋賀縣人喜多儀左衛門に嫁せり（福岡縣若松市深町）

田中福次郎　澤田屋、料理業　東京府在籍

妻　とる　明三〇、三生、千葉、鈴木丑太郎三女

男　仙太郎　大一三、二生

女　てる　大七、一〇生

君は東京府人先代福次郎の長男にして明治二十八年五月二日を以て生れ大正十四年家督を相續し前名傳太郎を改め襲名す澤田屋と稱し料理業を營む家族は尙二女恒子（大一五、七生）三女英子（昭七、五生）ありA一〇八三B三八六（東京市大森區大森一ノ二〇二電大森一七〇七・二〇八八）

田中福之助　東海實達、昭和實達、丸開運輸、矢作水力、金城證券各座監査役　東京府在籍

養母　いま　慶應三、二生、三重、松岡勇次長女

妻　トミ　明二八、五生、東京、眞木佐一姉

男　實　大一二、一生

君は東京府人河合金次郎の四男にして明治二十一年四月十九日を以て生れ先代重太郎の養子となり大正九年家督を相續す明治四十三年早稻田大學大學部商科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女彌生（大一〇、三生）二男進（同一四、一〇生）三男昭三（昭三、一〇生）ありA五六三（東京市王子區上十條町一二一三電王子八七七）

田中藤夫　家主　大阪府在籍

父　藤兵衛　明二〇、一〇生、現戸主

母　チエ　明二三、四生、大阪、佐々木仁長衛三女

君は大阪府人田中藤兵衛の長男にして明治四十五年六月四日を以て生る家主たり家族は尙妹サイ（大三、三生）弟得治郎（同四、四生）ありA一〇五四（大阪市大正區泉尾竹ノ町三ノ四電櫻川二〇四六）

田中文右衛門　紙商　大阪府在籍

妻　ふさ　明二二、一一生、大阪、吉川房次郎長女

男　文三郎　明四三、七生

女　ふみ　大元、八生

女　房榮　大三、六生

君は大阪府人先代文右衛門の長男にして明治二十三年五月四日を以て生れ同四十一年家督を相續し襲名して前名文三郎を改む紙商を營み廣く其の名を知らる家族は尙二男文夫（大六、二生）甥文次（明三六、八生、姉スエ長男）あり姉スエ（同一一、六生）は大阪府人宮崎良三郎に嫁し同ウタ（同二〇、一一生）は同府人中田マチの養子となりA七八七（大阪市北區天神橋筋三ノ四六電堀川二五〇）

田中文男　正四位勳二等、醫學博士、岡山醫科大學教授、兵庫縣在籍

妻　みつ　明二七、四生、醫學博士和辻春次長女

男　稻波　大二、八生

君は兵庫縣人田中純一の長男にして明治十六年五月を以て生れ同四十年家督を相續す京都帝國大學醫科大學を卒業し同四十三年岡山醫學專門學校教授に任じ大正四年耳鼻咽喉科學研究の爲米國に留學し同六年醫學博士の學位を受く同十一年岡山醫科大學教授兼同大學附屬醫學專門學校教授に任じ再び耳鼻咽喉科學研究の爲英獨佛米各國に留學す同十二年附屬醫院長を兼ね同十四年醫科大學長に任ぜられ教授を兼ぬ昭和四年歐米各國に出張し同六年同大學長を辭し現に同大學教授專任たり同七年四度歐米各國へ出張を命ぜらる家族は尙長女千穗子（大一〇、一生）二女美穗子（昭二、四生）あり（岡山市國富町四三五電四〇七一）

參照＝和辻春次※和辻春樹の項

田中武彥　明二七、一〇生

妻　ツル　明三一、一一生、長男武彥妻、山口、吹原增治郎長女

女　靖　明三九、五生

君は新潟縣人長谷川長宗の三男にして慶應二年八月十日を以て生れ後田中家の養子となり明治十八年家督を相續す現時京都電燈大聖寺川水電各會社長にして前揭諸會社の重役たり尙推されて京都商工會議所會頭にして京都發明協會副會長日本赤十字社京都支部幹事等に擧げらる家族は尙孫宏平（大一一、九生、長男武彥長男）同亮平（同一二、一一生、同二男）同壯平（昭七、一一生、同三男）あり二女靜（明二二、五生）は東京府人小川長春に四女隆（同三三、二生）は山形縣人久保健之助に五女圭（同三六、六生）は大阪府人宮沼豐に嫁し三女ヒサ（同二四、八生）は其一男二女を伴ひ分家せりA一七四四五（京都市上京區油小路出水上ル電西陣二二一二）

參照＝下村宏の項

田中廣太郎　正五位勳四等、靜岡縣知事　東京府在籍

妻　美子　明三〇、六生、福密顧問官元田肇四女

男　弘道　大九、六生

君は奈良縣人田中祿太郎の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來福岡縣理事官內務省地方局町村課長都市課長財務課長復興局整理部長兼內務書記官等に歷任し後之を辭し東京市助役となり昭和六年靜岡縣知事に任ぜらる地方稅制講話「地方稅研究」「市町村稅戶數割其他地方財政に關する數種の著述あり趣味として和歌將棋をよくす家族は尙三男芳秋（大一一、九生）長女昌子（同一四、一一生）あり弟修次郎（明二三、六生）は分家し妹英（同三一、一〇生）は秋田縣人平野井雷治に同穆（同三八、五生）は神奈川縣人原信次郎に嫁せり（靜岡市追手町官舍電一八）

參照＝元田肇の項

（※印は姻族關係）

田中文藏

三井物産㈱取締役兼本邦各店監督役、日本製粉㈱、仙石原地所㈱取締役、中央大學監事、東京府在籍

母　シカ　嘉永五、一一生、福井、士、前田久七三女

妻　良　明二二、一生、山口、士、勝津莊太郎二女

男　守文　明四四、五生、三井銀行員、東京商大出身

女　惠美子　大二、一一生、東京女學館出身

女　喜美子　大六、一一生、東京女學館在學

君は東京府人田中熊吉の長男にして同千吉の兄なり明治七年七月二日を以て生れ大正十二年家督を相續す明治二十四年東京法學院を卒業し直に母校の編輯員となり同二十八年三井物産會社に入り現に同社取締役兼本邦各店監督役にして前記各會社の重役を兼ぬ又中央大學監事たり家族は尚三男武文(大四、一二生、東京商大豫科在學)あり長女富美子(明四三、二生、東京商大出身)は神奈川縣人鈴木忠治二男東京工業大學助教授工學士松雄に嫁し妹フサ(同二四、一生)は廣島縣人小林和介弟八十七の未亡人にして弟金藏(同一〇、三生)は分家し同千吉(同一八、三生、法學士)も亦同妻清(同二六、八生、東京、永井壯吉妹)及其二男二女を伴ひ分家せりA一四〇六一(東京市澁谷區羽澤町六六電青山二八三一)

參照＝小林和介、田中千吉※渡邊盛作の項

田中平治

長崎縣多額納稅者、農業

長崎縣在籍

妻　キス　明四、一生、長崎、白山蕪衛養子

養子　堯治　明三〇、一生、長崎、松尾秀治二男

婦　ナミ　明三四、六生、養子堯治妻、長崎相川彌右衛門長女

君は長崎縣人田中善衛の長男にして明治元年五月七日を以て生れ同十八年家督を相續す農を營み直接國稅三千七十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚孫平也(大一〇、四生、養子堯治長男)同平内(同一三、一生、同二男)同マス(同一四、一生、同長女)同三夫(昭三、一生、同三男)あり姉エキ(慶應二、一一生)は長崎縣人吉田安治に妹ユキ(明八、一二生)は同縣人鵜殿幾太郎弟春夫に同ミス(同一〇、六生)は同縣人平田忠一長男秀一に同キリオ(同一五、二生)は同縣人相川左平長男光次郎に嫁せり(長崎縣高來郡愛野村)

田中平藏

東京府在籍

妻　義て　明五、八生、埼玉、大熊道太郎妹

男　仁る　明二六、八生、埼玉、新保玉五郎長女

婦　ハナ　明二九、一一生、三男義仁妻、埼玉

女　壽々　明一五、一〇生

女　江　明四〇、一〇生

女　靜　明四三、三生

男　孝平　大二、三生

君は埼玉縣人田中榮次郎の二男にして嘉永六年十月を以て生れ明治十七年家督を相續す家主たり家族は尚孫仁平(大一四、一〇生、三男義仁長男)同葉子(昭二、一二生、二男義仁妻)同ハル(同九、一二生)は東京府人高田雪の入夫となり當主たりA一一四〇(東京市芝區芝手町二四電芝一九二〇)

參照＝田中銀之助、田中虎之輔、福原邦樹、美濃部俊吉※兒玉隼雄の項

田中平八

正六位、田中鐵㈱取締役

神奈川縣在籍

嘉永元、五生、新潟、田中和助長女

妻　澄子　明六、一一生、東京、福原邦樹養姉

夫　郎　明二四、一〇生

君は神奈川縣人先代平八の長男にして田中銀之助同虎之輔は君の甥なり慶應二年七月を以て生れ明治十六年家督を相續し襲名す現時前記會社の重役たり養に田中銀行頭取たりしことあり大正十四年皆旨を以て正六位に敍せらる二女君子(明三九、一二生、東京女學館出身)は兵庫縣人美濃部俊吉二男洋次郎に嫁し弟孝之輔(同一六、八生)は同縣人横田あさの養子となり同釜吉(同九、一二生)は東京府人高田雪の入夫となり當主たりA一一四〇(東京市芝區芝手町二四電芝一九二〇)

參照＝田中銀之助、田中虎之輔、福原邦樹、美濃部俊吉※兒玉隼雄の項

田中穂積

法學博士、早稻田大學總長兼教授

明一九、一生、長野、士、鎌原仲

夫　郎　明三七、一一生、早稻田大學商學部出身

妻　まつ　明四二、三生、長男和夫妻、東京森田俊彥妹、養葉高女出身

婦　壽枝　明四四、一生

男　綱夫　明四四、一生

女　くに　大五、七生

女　美枝　大六、一一生

君は長野縣人田中周之助の長男にして同周衛の養叔父なり明治九年二月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十九年早稻田大學邦語政治科を卒業し同三十三年讀賣新聞記者となり同三十四年同大學より派遣せられて歐米に留學し歸朝後同大學教授に任じ傍ら東京日々新聞記者となり後東京毎日新聞主筆となる同四十三年法學博士の學位を授けられ同大學商科々長及び理事となり同大學常務理事兼教授を經て昭和六年六月同大學總長に就任す繪畫並に一般運動競技に趣味を有す家族は尚孫秀人(昭四、一〇生、長男和夫長男)同和泉(同六、八生、同二男)あり長女てる(明四〇、九生、日本女大附屬高女出身)は長野縣人平林莊治長男勝太郎に二女ひで(同四二、一生、出身校同上)は栃木縣人久保市三郎二男九助に三女ちづ(大元、一〇生、出身校同上)は鹿兒島縣人玉利三之助に妹かつ(明一一、四生)は長野縣人寺澤種二郎弟準四郎に嫁せり(東京市牛込區辨天町一七〇電牛込九八八)

參照＝久保市三郎、平林莊治、森田俊彥※麻生二郎※伊藤傳兵衛の項

田中政芳

北野町長、福岡縣多額納稅者、北野銀行㈱監査役、酒造業

福岡縣在籍

妻　シケノ　明二四、三生、福岡、橋本幾太郎姪

養子　修　明二二、一一生

君は福岡縣人田中政吉の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅千百十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す現に北野町長信用組合三井郡部會長北野町信用組合長の要職にあり妹ミサヲ(明二四、一二生)は福岡縣人堤金吾に嫁せり(福岡縣三井郡北野町)

參照＝田中修の項

田中政吉

兵庫縣多額納稅者、金融業

兵庫縣在籍

妻　いち　明一一、一〇生、兵庫、飴谷貞一姉

男　源次郎　明三一、一二生

女　芳子　明三四、六生

女　勝子　明三八、一生

君は兵庫縣人田中源介の長男にして明治七年八月二十六日を以て生れ後前名金藏を改め同三十四年家督を相續す金融業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅二千七百五十圓を納む家族は尚孫朝子(大一四、一一生、長男源次郎長女)同政男(昭三、八生、同長男)同和夫(同五、九生、同二男)同實(同八、三生、同三男)同政子(大一二、七生、長女芳子長女)同章次(同一五、五生、同二男)同和子(昭二、九生、同二女)同玲子(同六、二生、二女勝子女)あり(西宮市平松町二八電五一・八九)

田中又司

羅紗商

大阪府在籍

妻　フサ　明三〇、八生、奈良、古川龜吉二女

男　又重　大一〇、三生

女　初子　大七、八生

君は奈良縣人田中又市の四男にして明治二十五年十月二日を以て生れ大正十三年兄又作方より分れて一家を創立す羅紗商を營む家族は尚二男又七(大一一、一二生)三男又信(同一三、六生)二女清子(昭二、二生)三女節子(同五、二生)ありA四八三B二三六(大阪市東區谷町二ノ四三電東四八一)

田中又助

田中又商店、羅紗綿布商

大阪府在籍

妻　カメ　明一五、八生、奈良、森居常吉四女

男　又三　明三六、一〇生

婦　光子　明四一、九生、長男又三妻、大阪日動由松長女

男　又男　明四〇、一生

婦　光子　明四三、一〇生、二男又男妻、大阪、鈴木辰雄妹

男　又治　明四四、二生

又千代　大二、七生

君は奈良縣人田中又市の二男にして明治十一年八月十五日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す田中又商店と稱し羅紗綿布商を營み其名を知らる家族は尚孫美智子(昭三、一二生、長男又三長女)同又昭(同五、九生、同長男)同奚子(同八、二生、二男又男長女)同男三(大一二、一〇生、亡養子勇次郎長男)あり長女マサノ(明三四、三生)は大阪府人森居龜吉長男幸一郎に二女カツ(同三五、四生)は其一男を伴ひ同府人吉田與三郎に五女かよ子(同四三、一生)は同府人吉田藤造養子藤次に嫁せりA二五五三(大阪市東區谷町二ノ一七電東二二一)

參照＝森居幸一郎、吉田與三郎の項

田中松右衛門

染色並晒起毛業

東京府在籍

妻　シス　明二〇、二生、東京、板家新吉妹

男　松雄　明四四、一一生

男　二郎　大二、三生

男　三四郎　大三、一〇生

女　シズエ　大六、六生

君は東京府人田中多右衛門の長男にして明治十三年五月を以て生れ同二十四年家督を相續す同四十二年以來染色及晒起毛業を營む妹ふゆ(明一九、七生)は岐阜縣人寺倉龜吉弟留吉に嫁し男富夫(同四一、五生、妹ふゆ男)は愛知縣人石原嘉十郎の養子となれりA三四八B七九(東京市芝區白金臺町二ノ三四電高輪一六九八)

田中松藏

金物商

神奈川縣在籍

母　キク　明一二、一二生、神奈川、村田信次郎姉

妻　たつ子　明四〇、六生、神奈川、横溝島吉三女

男　稔　昭六、一生

君は故神奈川縣多額納稅者田中八十吉の長男にして同縣多額納稅者田中八十九年九月を以て生れ昭和七年家督を相續す金物商を營む家族は尚弟三郎(明三四、四生)同金作(同三八、八生)妹十代子(同四〇、四生)あり姉照子(同二六、一生)は同縣人村田幸平に同糸子(同三五、九生)は同縣人岩崎次郎吉に嫁せり(横濱市中區本牧和田五八電本局八一・二四九)

參照＝岩崎次郎吉、田中岩吉の項

田中松彦

航空機部分品商

東京府在籍

妻　八重　明二九、六生、京都、深見榮三郎妹

男　良一　大六、一生

君は京都府人先代萬之助の長男にして明治二十四年二月五日を以て生れ同三十九年家督を相續し前名榮太郎を改め襲名す糸萬と稱し絲商を營む家族は尚三男英三(大一〇、三生)四男武夫(同一三、九生)弟政藏(明二七、二生)同妻みつ(同三五、八生、京都、板倉清太郎三女)叔母まん(同九、六生)あり弟文三(同三六、一二生)は分家し妹千賀(同二九、一一生)は京都府人上田芳三郎に嫁せりA二二八二B二九一(京都市中京區寺

生、同長男)同奚子(同八、二生、二男又男長女)同男三(大一二、一〇生、亡養子勇次郎長男)あり長女マサノ(明三四、三生)は大阪府人森居龜吉長男幸一郎に二女カツ(同三五、四生)は其一男を伴ひ同府人吉田與三郎に五女かよ子(同四三、一生)は同府人吉田藤造養子藤次に嫁せりA二五五三(大阪市東區谷町二ノ一七電東二二一)

田中萬逸

商業議院議員

大阪府在籍

織母　キク　安政五、一一生、大阪、山口莊一伯母

妻　はま　明一九、六生、京都、北林小太郎妹

男　萬雄　大一一、五生

君は大阪府人田中新造の長男にして明治十五年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す風に早稻田大學に學び多年報知新聞記者として勤務し後諸會社の重役に擧げらる大正五年以降衆議院議員の當選する事七回に及ぶ現時閑地にあり家族は尚長女日出子(大九、一一生)二男萬佐夫(同一五、四生)あり弟新治(明一八、七生)同妻ハル(同二〇、四生、大阪、神田彌太郎長女)は其子女を伴ひ分家し妹ヒデオ(同二三、三生)は大阪府人谷山臺三に嫁せり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇電青山一四一七)

參照＝山口莊一の項

田中萬之助

呉服、絹類商

京都府在籍

妻　うた　明二、一二生、京都、近藤庄兵衛妹

男　良一　明二九、六生、京都、深見榮三郎妹

君は京都府人先代萬之助の長男にして明治二十四年二月五日を以て生れ同三十九年家督を相續し前名榮太郎を改め襲名す糸萬と稱し絲商を營む家族は尚三男英三(大一〇、三生)四男武夫(同一三、九生)弟政藏(明二七、二生)同妻みつ(同三五、八生、京都、板倉清太郎三女)叔母まん(同九、六生)あり弟文三(同三六、一二生)は分家し妹千賀(同二九、一一生)は京都府人上田芳三郎に嫁せりA二二八二B二九一(京都市中京區寺

君は東京府人田中乾三の長男にして明治四十一年十月十六日を以て生れ昭和七年家督を相續す航空機部分品商を營む家族は尚妹照子(大三、九生)同愛子(同八、三生)弟養治(同一〇、一二生)同忠夫(同一二、二生)妹久子(同一三、六生)ありA四八二六B一〇三六(東京市目黑區上目黑八ノ六六五電青山二二八一)

田中萬雄

乾　二　明四五、二生、父之三二男

織母　キク　安政五、一一生、大阪、山口莊一伯母

妻　はま　明一九、六生、京都、北林小太郎妹

男　萬雄　大一一、五生

君は大阪府人田中新造の長男にして明治十五年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す風に早稻田大學に學び多年報知新聞記者として勤務し後諸會社の重役に擧げらる大正五年以降衆議院議員の當選する事七回に及ぶ現時閑地にあり家族は尚長女日出子(大九、一一生)二男萬佐夫(同一五、四生)あり弟新治(明一八、七生)同妻ハル(同二〇、四生、大阪、神田彌太郎長女)は其子女を伴ひ分家し妹ヒデオ(同二三、三生)は大阪府人谷山臺三に嫁せり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇電青山二二八一)

町夷川下ル電上一〇八三)
参照‖上田芳三郎の項

田中美津男　従四位、男爵、海軍豫備中尉
東京府華族
嘉永元、四生、長野、士、三澤元衛妹
母　ゑい
祖母　なつ　明四、六生、祖父芳男長女
妻　美哉子　明三四、一〇生、東京、彭城昌實三女
男　義一　大一四、一〇生

當家は先代芳男より家名を揚ぐ芳男は元信州飯田の人後名古屋に出て本草學を伊藤圭介に學び慶應元年幕命を以て佛國巴里大博覽會に出張す維新以來開成所御用掛文部少教授編修權助内務權大丞同大書記官農商務大書記官農務局長元老院議官貴族院議員等に歴任し又上野公園及動物園の設立に盡力し大日本山林會長大日本農會大日本水産會各顧問に擧げられ大正四年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其孫にして明治二十六年十月を以て生れ大正五年家督を相續し襲爵す同七年東京商船學校航海科を卒業す家族は尚長女節子(大一三、一生)二女美智子(昭四、五生)二男輝男(同六、一〇生)あり兄正男(明二四、一生)は東京府士族田中ことの死跡を相續し弟豊男(同二八、一〇生)同妻マツエ(同三五、一一生、山口、田上郷吉長女)は其子女を伴ひ分家し叔父五一(同二二、七生)も亦分家し叔母ふゆ(同一五、一二生)は三重縣人井村大吉に同美穂(同二八、九生)は岐阜縣人關屋龍吉に嫁せり(神戸市須磨區櫻木町三ノ一二)
参照‖關屋龍吉の項

田中道登　濱寺土地㈱監査役、醫師
大阪府在籍
明二七、四生、大分、士、堤勤平妹
妻　チサム
男　田鶴雄　明四三、七生
女　華子　大二、一生

君は鳥取縣人田中智司の弟にして明治十七年五月五日を以て生れ同四十年先代哲三の養子となり大正七年家督を相續す醫師にして傍ら濱寺土地會社監査役たり家族は尚二男登(大六、一生)三女孝子(同一〇、二生)四女慶子(同一三、一生)三男酵夫(同一五、一一生)五女秀(昭六、一生)ありA九四五(堺市宿院町二五電一三六)

田中光顯　正二位勲一等、陸軍少將、維新史料編纂會顧問、東京府華族
遜　元治元、九生、現戸主
君は舊高知藩士田中充美の長男にして天保十四年九月を以て生る夙に勤王の志を懷き國事に盡瘁し慶應三年鷔尾侍從内勅に依り兵を高野山に擧ぐるや君其參謀たり明治元來以來兵庫縣判事大藏少丞戸籍頭を經て同四年理事官として歐米に差遣特命全權大使會計兼務を命ぜらる同七年陸軍會計監督に任じ西南の役征討軍團會計部長として功あり後陸軍會計局長陸軍少將兼參事院議官恩給局長元老院議官に歴任し同二十年勳功に依り華族に列し子爵を授けらる爾來會計檢査院長警視總監貴族院議員宮中顧問官學習院長宮内大官圖書頭宮内大臣議定官に歴任し同四十年伯爵に陞され昭和七年退隠す現時維新史料編纂會顧問たりA一三五(靜岡縣庵原郡蒲原町電二)
参照‖伯爵田中遜の項

田中貢　商學博士、衆議院議員(廣島縣選出)、明治大學教授、商學部勤務、王子製紙㈱顧問、廣島縣在籍
妻　キクヨ　明二九、一一生、廣島、木本龜治郎長女
男　義久　大一二、五生
女　枝　大六、一生、府立第五高女在學
女　久子　大八、三生、府立第五高女在學

君は廣島縣人田中重之助の二男にして明治二十四年十月を以て生れ後兄重光方より分れて一家を創立す大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業文官高等試驗に合格し東京帝國大學經濟學部講師となる現時明治大學教授にして商學部に勤務し傍ら王子製紙會社顧問廣島縣より推されて衆議院議員に當選同諸會社の重役たり襲に商學博士の學位を受たり昭和五年廣島縣より再選し立憲民政黨に屬す襲に商學博士の學位を受七年再選し立憲民政黨に屬す襲に商學博士の學位を受く又勞働問題及經濟事情研究の爲め歐米各國へ出張したる事あり著書に「工業政策」「社會政策」「日本工業政策」其他教種ありA二五一(東京市淀橋區柏木三ノ三九六電四谷六四〇)

田中稔　従四位勲五等、日本製鐵㈱技師、勤力部長、京都府在籍
祖母　たつ　安政元、七生、京都、中西宗助長女
父　元七　明五、七生、現戸主
母　みつ　明七、五生、養祖父元七長女
妻　昌　明三一、一一生、京都、日下京平三女
養子　康治　大六、一一生、京都、井上末之助二男

君は福井縣人佐藤善兵衛の四男にして明治二十三年十月七日を以て生る大正三年京都帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し直ちに八幡製鐵所に入りて技師となり工務部動力課長に進み昭和三年歐米各國視察に派遣せらる同九年三月同所の日本製鐵會社に合併創立なるや引續き同社技師にして動力部長たり長唄釣魚等に趣味を有す叔母ふき(明一七、八生)は京都府人井上文右衛門弟末之助に同米(同二一、四生)は岡山縣士族谷川進海長男清一に嫁せり(八幡市高見町日本製鐵會社々宅)
参照‖※磯部喜右衛門の項

田中實　程ケ谷ゴルフ、我孫子カンツリー各㈱取締役、東京ゴルフ、日本陶器各㈱監査役、東京府在籍
妻　たみ　明一五、一二生、東京、八田裕郎長女
男　勉　明三七、二生
男　春秋子　明四二、二生、長男勉妻、新湯
嬰　秀雄　明四二、二生
嬰　正子　大二、九生、二男秀雄妻、石川、加藤範次郎長女
男　良雄　大元、一二生

君は和歌山縣士族田中保雄の叔父にして明治元年八月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同十九年米國に遊學し同二十二年紐育森村組社員となり現に前記諸會社の重役たり襲に東洋陶器森村組各會社の取締役たりし事あり家族は尚孫孝(昭四、一〇生、長男勉長男)同愛子(同八、五生、二男秀雄長女)ありA一四九二(東京市赤坂區青山南町一ノ一九電青山七二三)
参照‖※田中銀之助※豊間根繁直※野村榮吉の項

吉の項

田中元七　田中商事、新白濱温泉上地、東洋鑛業各㈱社長、東大阪電氣鐵道㈱代表取締役、成東土地㈱取締役、有馬住宅土地㈱監査役
妻　ツル　大阪府在籍
明二、八生、大阪、柳生重次郎三女、オリエンタルホテル經營
孫　武雄　大元、九生、亡長男繁太郎長男

君は德島縣人田中清七の二男にして同胡四郎の弟なり明治八年十月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時前記諸會社の重役たり長女道江(明四一、三生)は分家せりA一〇四(大阪市南區九郎右衛門町二三電南三一三七・三一三八)

田中守太郎　東京市目黒區會議員、地主
東京府在籍
父　佐喜太郎　慶應元、五生
母　まつ　明元、五生、東京、武島茂興妹
妻　ツタ　助妹　明二一、一一生、福島、鳥居鐵之
男　四郎次　大五、一一生
女　光子　大二、三生
女　房子　大三、一二生
女　正子　大八、二生

君は東京府人田中佐喜太郎の長男にして明治十九年三月二十三日を以て生れ大正十五年家督を相續す地主にして現時目黒區會議員たり家族は尚六女綾子(大一一、九生)二男金次(同一四、八生)七女律子(昭四、七生)妹きね(明二二、六生)弟鐵三郎(同三一、六生)同妻フク(同三三、一〇生、神奈川、持田五郎長女)及其一子あり長女靜枝(同四四、七生)は東京府人安藤平三郎に嫁なみ(同二八、一〇生)は同府人井向辰次に嫁し弟角藏(同三三、一〇生)同妻テル(同二八、一生、栃木、大探義三郎六女)は其子女を伴ひ分家せりA八三九(東京市目黒區上目黒四ノ二一七二)
参照‖安藤平三郎の項

田中八百八　正五位勲四等、農林技師兼内務技師、農林省林務課長、東京帝國大學講師、福井縣在籍
妻　クニエ　明二三、七生、福井、吉井明十郎妹
男　博　大一一、二生、成蹊學園在學
女　華子　大三、三生、成女高女出身
女　啓子　大四、八生、東京女子學院出身
女　恭子　大八、七生

君は福井縣人田中行司の長男にして明治十七年八月八日を以て生れ昭和二年家督を相續す先是明治四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手林務技手山梨岩手各縣技師山林技師農商務技師兼内務技師となり球で歐米各國に出張を命ぜらる大正十五年伊國羅馬に開かれたる第一回萬國森林會議に日本政府委員として參列同會議の副議長に推薦せられ同年末歸朝し現に農林技師兼内務技師にして農林省林務課長東京帝國大學講師たり家族は尚四女和子(大一三、七生)あり弟嘉七(明二七、九生)同妻キヨ(同三〇、八生、兵庫、末永省二二女)は其子女を伴ひ分家せり(東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二五四六ノ六一電吉祥寺四七〇)

田中彌市　新宿屋、麻眞田竹板商
東京府在籍
妻　とく　明二一、三生、東京、宮崎佐五右衛門四女
男　保雄　大五、二生

君は東京府人田中安太郎の長男にして明治十三年九月一日を以て生れ同四十二年家督を相續す新屋と稱し麻眞田竹板商を營む家族は尚二男逸次七、七生)三男一(同一〇、七生)五女すみ(同八、一二生)六女君子(同一五、四生)あり四女きよ(同二、一生)は東京府人宮崎鐵造に嫁せりA三六八(東京市大森區大森二ノ四八〇電大森六六四)

田中彌市郎　資產家
東都府在籍
妻　フサ　明一七、二生、京都、田中和一郎姉
男　總之助　明四一、九生、新興毛織會社員、大阪商大出身
男　和彌　明四四、二生、東大法學部在學
女　ナツ子　大二、六生、京都府立第一高女高等科出身

君は京都府人田中彌太郎の長男にして明治十年一月を以て生れ先代フサの入夫となり大正十四年家督を相續す資產家にして現に京都市方面委員學區會議員等の名譽職に在り家族は尚三男七郎(大七、五生)ありA八七二(京都市下京區東中筋通七條上ル電下一三二〇)
参照‖田中和一郎の項

田中彌次右衛門　東京市大森區會議員、海苔罐詰製造業、東京府在籍
妻　千代　明三七、八生、東京、武藤修藏母
養子　茂之助　明三六、一二生、長女君夫、靜岡齋藏義三郎孫
女　君　明四〇、一一生、養子茂之助妻

君は東京府人先代彌次右衛門の三男にして明治十四年十月四日を以て生れ大正十五年家督を相續し前名友吉を改め襲名す海苔罐詰製造業を營み現時推されて大森區會議員たり家族は尚孫惠子(昭二、七生、養子茂之助長女)同昌(同四、一一生、同二女)同弘(同七、二生同長男)ありA三六三B一三三(東京市大森區大森二ノ五四電大森六五九)

田中彌助　家主
大阪府在籍
明三八、七生、愛知、北川幸太郎三男
養子　悅三　明三四、一〇生、京都、田中富藏二女)あり(大阪市住吉區住吉町一四五電住吉二四七三)

君は大阪府人田中彌治右衛門の長男にして慶應三年四月一日を以て生れ明治十九年家督を相續す家主たり家族は尚養子きよ子(大一〇、一生、京都、田中富藏二女)あり(大阪市住吉區住吉町一四五電住吉二四七三)

田中彌太郎　住友資檢査役
京都府在籍
妻　節　明三〇、八生、大阪、神田美樹長女
男　守也　昭三、九生

君は京都府人田中萬太郎の長男にして明治十四年十二月一日を以て生れ同三十一年家督を相續す現時住友合資會社檢査役たり叔母ヌエ(明四、二生)は分家せりA四一四(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋三條小寄一六八電芦屋三〇五四)

田中彌兵衛　田舗屋、地家主
東京府在籍
祖母　千代　明五、九生、先々代信書三女
母　しづ　明三、一六生、東京、保々誠次郎妹

君は東京府人先代彌兵衛の孫にして大正七年十月十七日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名千一郎を改め

襲名す田當屋と稱し地家主たり家族は尙妹順子(大九、五生)同登子(同一一、三生)同慶子(同一三、二生)弟庸三郎(昭二、三生)叔父彌之助(明三八、五生)あり叔母きん(同二四、八生)は千葉縣人米井九一郎に嫁せりA四〇七七(東京市足立區千住仲町五〇**電足立二二五二**)

參照‖保々誠次郎※宇田川禮三※田中四一郎※結城堅の項

田中安

地主
東京府在籍

妻　加彌　文久元、四生、千葉、山下福藏長女
男　耕太郎　明一五、八生

君は東京府人田中倉吉の長男にして嘉永四年十二月十五日を以て生れ後家督を相續し前名安五郎を改む堀主として知らる長女糸(明一一、九生)は廣島縣人水野穗作に嫁し五男寛(同三一、五生)は東京府士族横瀨貞利に孫安二郎(同四五、一生、亡)二男素次長男)は同府士族上村とみに各養子となり養孫元治(同二二、二生、亡)二男素次養子、神奈川、相澤安之丞弟)は南記右黑吉三郎の家籍に入れりA九九四(東京市四谷區北伊賀町四**電四谷三八三八**)

參照‖田中耕太郎の項

田中安藏

田中長生堂、藥種商
兵庫縣在籍

男　健一　明三五、七生
嬶　都江　明三八、一〇生、長男健一妻、兵庫、萩原善六長女
男　雅夫　明四一、一〇生
男　敏男　明四三、二生

君は兵庫縣人大石伊三右衛門の二男にして明治三年七月を以て生れ先代廣介の養子となり大正十二年家督を相續す藥種商を營み田中長生堂と稱す家族は尙孫英子(大一五、六生、長男健一長女)同豐彥(昭四、二生、同長男)あり長女保江(明三〇、五生)は其一男を伴ひ分家し二男啓二(同四〇、一生)同妻まする(同四一、四生、兵庫、柳田太七四女)も亦其一女を伴ひ分家し三女靜子(同三七、一〇生)は兵庫縣人木住良三に嫁し五男秀信(大六、一一生)は同縣人中田はるの養子となれりA五六七(神戸市湊東區古湊通二ノ八八**電湊川一〇七六**)

田中保平

正五位勳五等、文部督學官兼文部事務官實業學務局商工教育課長
山口縣在籍

母　ソツ　嘉永元、三生、山口、末岡權六長女
妻　ウタ　明二五、三生、山口、延兼宇之助長女
男　保隆　明四四、一生
男　次男　大元、八生

君は山口縣人田中利平の四男にして明治十七年三月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十一年山口高等商業學校を卒業し岡山茨城各縣立商業學校教諭山口和歌山各高等商業學校教授文部事務官兼督學官に歷任し昭和七年前記官職に轉ず其間大正十年英米獨佛各國に留學し同十三年歸朝す家族は尙三男雄平(大七、五生)あり(東京市世田谷區代田一ノ六五二**電松濤二七三**)

田中康

海軍纛關大佐、沖電氣㈱技師
東京府在籍

妻　禧郎長女　大六、一生
男　佐　大二、九生
女　節子　大二、九生

君は東京府人田中中七郎の三男にして明治十三年五月を以て生れ明治四年兄甥男方より分れて一家を創立す義に沖電氣會社大崎工場長たりしも現時同社技師たり家族は尙二男久(大九、六生)ありA二〇〇(東京市赤坂區青山南町四ノ二一**電青山六九八二**)

參照‖田中潤男の項

田中靖郎

伊藤忠商事㈱取締役兼絹毛部長
大阪府在籍

妻　佳子　明二九、九生、滋賀、堀川曾代松長女
女　正子　大八、八生、大手前高女在學

君は大阪府人田中惣代治の五男にして明治二十一年二月二十日を以て生れ後分れて一家を創立す幼にして伊藤忠商事㈱に入り勤續三十餘年現時擧げられて同社取締役兼絹毛部長たりA八六二(大阪府豐能郡豐中町新免三八二**電岡町九**)

田中綏稔

家主
京都府在籍

母　ヤソエ　慶應三、六生、京都、安藤季胤養子
妻　滋枝　明二六、六生、京都、士、石上孫三長女
男　綏久　大五、八生

君は京都府人田中綏秋の長男にして明治二十一年八月八日を以て生れ同二十九年前名琢磨を改め同三十三年家督を相續す家族は尙長女幸榮(大一〇、一〇生)二女豊子(同一一、一〇生)弟綏治(明二三、九生)同妻八重(同三二、五生、京都、久世榮五郎二女)及其一女あり姉和榮(同一一、六生)は同夫茂一(同一三、一生、京都、麥綱廣吉四男)と共に分家し妹滿子(同三三、一生)は京都府人前川正雄に嫁せりA三七一(京都市東山區八坂塔ノ下星野町)

田中勇三

青森縣多額納稅者、東北商船、青森㈱監査役㈱社長、中央計算所、鐵道公認運送取扱人
青森縣在籍

妻　いよ　慶應元、一一生、青森、廣尾藤助妹
男　敬三　明一九、一一生

君は青森縣人田中寅吉の長男にして慶應元年七月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名勇藏を改む鐵道公認運送取扱人にして傍ら前記諸會社の重役を兼ね青森縣多額納稅者に列し直接國稅千十三圓を納む二男誠三(明二三、二生)同妻キヨ(同三〇、一〇生、北海道、上梶乙次郎養子)は其一子を伴ひ三男洪三(同二六、四生)は同妻ウタ(同三六、三生、北海道、坂井佐吉妹)及其一子を伴ひ姉イハ(安政六、六生)は其一子を伴ひ各分家し五男眞三(明三二、六生)も亦分家し二女ひさ(同二五、三生)は青森縣士族松馬勝美に嫁せり(青森市安方町)

田中祐四郎

勳四等、衆議院議員(京都府選出)
吳服商、京都府在籍

妻　ヤス　明二、三生、京都、石原平三郎妹
養子　與三郎　明一七、五生、養父祐四郎三男
養孫　新一郎　明二八、一生、養孫恭夫、京都、西川友七三男

養孫　恭　明三二、一生、養孫新一郎妻、子與三郎養子、當主祐四郎三女

君は京都府人田中助四良の四男にして明治元年二月九日を以て生れ先代祐四郎の養子となり同十九年家督を相續す吳服商を營み京都府より推されて衆議院議員に當選する事四回現に世任に在り立憲民政黨に屬す嘗て京都府會議員に選ばるゝこと八回其間同府參事會員同府會議長に擧げられ又腺浦柔道會社重役たりし事あり家族は尙曾孫美惠(大一四、九生、養孫新一郎長女)同新二(昭二、七生、同二男)同和子(同四、三生、同二女)あり妹モト(明八、八生)は京都府人高橋房吉に嫁し養子コウ(同二七、一生、京都、井上千吉二女)は分家せりA一二六(京都市下京區上鳥羽鳥田町**電下三九三**)

田中遜

正四位勳五等、伯爵、東洋コンプレツソル㈱專務取締役
東京府華族

養父　光顯　明四五、六生、生母、東京、中村むら
庶子　光素　大二、二生、生母、神奈川、飯島イソ、雙葉高女出身
庶子　正子　大七、五生、生母、東京、中村むら
庶子　藤子

君は旧馬縣士族岩神昂の二男にして元治元年九月十六日を以て生れ伯爵田中光顯の養子となり昭和七年家督を相續し翌八年襲爵す先是明治二十四年佛國に留學しエツギヌ大學に入り文學及法律學を修め同三十一年之を卒業して法律博士の學位を受く後更に巴里法科大學に學び同三十三年政治經濟學博士の學位を受く同三十四年歸朝し學習院教授を囑託せられ羅馬法の講座を擔當す同三十五年高知縣より推されて衆議院議員に當選す後東洋コンプレツソル會社を經營し其社長たりしも現時同社專務取締役たり家族は尙庶子光保(大四、二生、生母、中村むら)同光季(同一〇、六生、生母同上)同光常(同一三、五生、生母同上)あり同豐子(明三九、五生、生母、飯島イソ、雙葉高女出身)は愛知縣人村田義敎養子五郎に嫁し同春子(同四二、二生、生母同上、出身校同上)は東京府人井原かまの養子となれりA三五八七(東京市澁谷區氷川町五**電青山三一一〇**)

參照‖田中光顯の項

田中融

正七位、松江銀行㈱專務取締役、島根縣士族
長、島根縣士族
安政二、五生、島根、藤井清二女
男、現戶主

君は京都府人田中中光顯の養子にして明治十三年十二月十日を以て生れ後分れて一家を創立す調査部長たり家族は尙二男圭(大六、一一生)あり長女まさ子(明三九、一二生)は同縣人松山虎次郎養子信に嫁せり(松江市雑賀町四〇五)

田中豐

從四位勳四等、工學博士、東京帝國大學教授、山口縣士族
明元、七生、山口、士、長野政和二女

父　莊次郎　安政六、二生、祖父甚藏長女
母　テル　明一五、一一生、島根、藤井清二女
妻　ダイル　明四四、三生
男　牧　大三、一二生

君は舊松江藩士田中莊次郎の長男にして明治二十一年二月を以て生る同三十四年東京高等商業學校教諭兼商業學校教諭兼島根縣師範學校教諭兼支店長營業部長業務部長等を經て現時同行參事にして調査部長たり家族は尙二男圭(大六、一一生)あり長女まさ子(明三九、一二生)は同縣人松江銀行に入り北志滿子は島根縣人上野誠に二女まさ子(明三九、一二生)あり(松江市雑賀町四〇五)

田中興兵衛

大和屋、酒類商
東京府在籍

男　悅太郎　明三〇、二生
嬶　きみ　明三六、二生、長男悅太郎妻、東京、矢澤小兵衛孫
男　福三郎　明四〇、八生
男　正雄　明四四、一〇生

君は埼玉縣人中島助右衛門の二男にして明治五年十一月を以て生れ先代田中興兵衛の養子となり前名虎吉を改め同四十二年養弟民三郎より分れて一家を創立す大和屋と稱し酒類商を營む家族は尙孫榮子(大一一、一二生、長男悅太郎長女)同義一(昭二、六生、同長男)同道子(同八、二生、同二女)あり二男慶次郎(明三七、一〇生)は東京府人新井伊兵衛の養子となれり(東京市四谷區傳馬町二ノ二一**電四谷三一五八**)

田中要太郎

京都府多額納稅者、金融業
京都府在籍

母　きく　嘉永六、三生、京都、佐々木萬助長女
妻　サヤ　明七、四生、京都、若山庄造妹
庶子　安夫　明四二、三生、生母、京都、羽倉ヒサ
庶子　よし子　明三九、六生、生母、京都、羽倉ヒサ
庶子　安二　大三、三生、生母、京都、羽倉ヒサ

君は京都府人田中安三郎の長男にして明治三十年十一月十五日を以て生れ同四十年家督を相續す金融業を營み京都府多額納稅者たり家族は尙庶子正巳(大六、二生、生母、京都、羽倉ヒサ)同治雄(同九、二生、生母同上)同良生(同一〇、八生、生母同上)あり弟穗之助(明一三、九生)同妻セウ(同一六、四生、京都、山岡萬次郎長女)は其三男を伴ひ分家せりA二九二五B三六七(京都市東山區泉涌寺門前町**電祇園三七九二**)

參照‖若山庄造の項

二十五日を以て生れ大正十年家督を相續す家主たり家族は尙二男克行(昭七、九生)ありA五九二(神戸市葺合區北本町三ノ六**電葺合三六〇〇**)

田中與兵衛

男　悅太郎　明三〇、二生
嬶　きみ　明三六、二生、長男悅太郎妻、東京、矢澤小兵衛孫
男　福三郎　明四〇、八生
男　正雄　明四四、一〇生

君は埼玉縣人中島助右衛門の二男にして明治五年十一月を以て生れ先代田中與兵衛の養子となり前名虎吉を改め同四十二年養弟民三郎より分れて一家を創立す大和屋と稱し酒類商を營む家族は尙孫榮子(大一一、一二生、長男悅太郎長女)同義一(昭二、六生、同長男)同道子(同八、二生、同二女)あり二男慶次郎(明三七、一〇生)は東京府人新井伊兵衛の養子となれり(東京市四谷區傳馬町二ノ二一**電四谷三一五八**)

田中陽太郎
田中商事㈱社長
東京府在籍
母　けい　明四一、七生、東京、杉村友次郎長女
妻　友子　政昭　昭七、四生
君は東京府人田中李次郎の長男にして明治三十七年八月二十一日を以て生れ昭和三年家督を相續す同四年東京帝國大學經濟學部を卒業し現時田中商事會社々長たり家族は尚弟泰次郎(大五、一〇生、慶大經濟學部豫科在學)あり妹綾子(明四一、一二生)は京都府人山田直枝に嫁せりA四二五(東京市赤坂區青山南町六ノ一二七**電青山一〇八五**)
參照‖杉村友次郎の項

田中養達
滋賀縣在籍
養子　潔　明四一、二生、愛知、佐藤分之助孫
君は滋賀縣人今村柴治郎の二男にして明治十八年六月を以て生れ先代貞藏の養子となり同三十九年家督を相續す同四十年愛知縣立醫學專門學校を卒業し京都帝國大學醫科大學產婦人科教室に研鑽を積み後醫を開業す義に阪田郡會議員滋賀縣會議員同參事會員等に擧げられ大正十五年以來衆議院議員に當選する事三回に及べり(滋賀縣阪田郡米原町**電三〇**)

田中由太郎
家主
兵庫縣在籍
父　儀七　安政二、一生、現戸主
妻　登志榮　明四五、四生、兵庫、加藤新造四女
君は兵庫縣人田中儀七の長男にして明治三十六年一月を以て生る昭和二年慶應義塾大學經濟學部を卒業し家主たりA三五〇(神戸市神戸區山本通四ノ一四五ノ四**電葺合三二九二**)
參照‖田中儀七の項

田中由太郎
金融業
大阪府在籍
妻　すて　明七、四生、大阪、木村友三郎妹
君は大阪府人石本藤右衛門の三男にして慶應元年一月十日を以て生れ先代喜兵衛の養子となり昭和三年家督を相續す金融業を營む弟義雄(明四二、二生)は分家せりA六二一B四七四(大阪市西區立賣堀北通六ノ一〇)

田中吉政
三井鑛山㈱技師
滋賀縣在籍
妻　登久代　明二四、二生、京都、田中秀三二女
滋　滋　大一一、一二生
君は滋賀縣人田中吉廣の三男にして明治十九年二月十四日を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し現時三井鑛山會社技師たり弟吉一(明二八、一生)同妻巴江(同三二、一生、滋賀、田井中喜左衛門妹)は其三女を伴ひ分家せりA五六四(東京市麻布區市兵衛町二ノ一八**電青山三九〇七**)

田中良雄
住友貿人事部長
富山縣在籍
母　ゆき　明元、四生、富山、山崎與作長女
妻　市子　明三二、三生、石川、松村諦成二女
男　雄一　大一一、一生
女　良子　大八、一一生
君は富山縣人田中紋治の長男にして明治二十三年一月二十四日を以て生れ大正二年家督を相續す同四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業直に住友家に入り勤續二十年現に住友合資會社人事部長たり大正八年より九年に渉り世界大戰後の歐米を視察す家族は尚二女貞子(大一三、一生)三女安子(昭二、八生)は茨城縣人澤田秋成に嫁せりA二七〇(大阪市東區谷町二ノ三一**電東一二一二**)
參照‖松村諦成の項

田中芳雄
正四位勳二等、工學博士、東京帝國大學教授、東京工業大學教授、東京帝國大學航空研究所員、學術研究會議會員
埼玉縣在籍
妻　晴　明二五、五生、東京、士、宮本恒平妹、跡見女學校出身
男　穣二　大七、九生、成城學園高等科在學
女　芳枝　大五、一生、實踐高女國漢文專科在學
君は埼玉縣人田中萬の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治三十八年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に同大學講師を囑託せられ同三十九年同大學助教授に任じ同四十四年工學博士の學位を受く大正四年應用化學研究の爲米國に留學し歸朝後同大學工科大學教授に進み航空研究所々員を兼ね同二年帝國學士院賞を受け同八年歐洲に出張す現時同大學工學部長にして東京工業大學教授を兼任し航空研究所々員學術研究會議會員たり家族は尚三女美奈(大一〇、六生、佛英和高女在學)あり長女美穂(明四五、四生、佛英和高女出身)は靜岡縣人三菱造船所技師佐野次男に嫁し弟包高(同一三、一〇生)同妻とり(同三〇、一〇生、埼玉、小林捨三長女)は其子女を伴ひ分家せりA四三二(東京市豐島區巣鴨三ノ二八**電大塚一九二四**)
參照‖宮本恒平の項

田中芳三郎
松井商店㈱取締役
東京府在籍
妻　喜代　明三一、八生、東京、吉村辰五郎妹
男　正太郎　大八、一二生
君は東京府人田中鐵太郎の弟にして明治二十五年九月二十七日を以て生れ大正十年分れて一家を創立す現時株式會社松井商店取締役たりA二一八(東京市芝區三田綱町一**電三田九〇三**)

田中芳太郎
京常、生魚商
大阪府在籍
養母　イト　明六、七生、大阪、小角熊太郎妹
妻　愛子　明三六、五生、兵庫、橋本六太郎妹
君は大阪府人水野芳松の二男にして明治二十九年二月五日を以て生れ先代常次郎の養子となり昭和六年家督を相續す京常と稱し生魚商を營む家族は尚長女佐和子(昭二、一〇生)二女常子(同八、一生)ありA二〇四B九五(大阪市西區京町堀上通五ノ五〇**電土佐堀六九八七**)

田中義雄
齋學博士、田中外科病院、醫師
愛知縣在籍
父　純平　安政三、一生
妻　房子　明三四、五生、愛知、豪須賀主一郎四女
男　義廣　大一〇、三生
君は愛知縣人田中純平の三男にして明治二十一年一月二十九日を以て生る大正三年東京帝國大學齋科大學を卒業し醫學博士の學位を授けられ醫師にして田中外科病院を經營す家族は尚二男義正(大一二、二生)三男義守(同一五、九生)五男義保(昭五、二生)兄博(明一〇、一一生、現戸主、醫師)同妻りき(同一八、六生、愛知原田鈔太郎妹)及其三子あり姉やす(同一八、九生、醫師)妹かすみ(同二八、一生、醫師)は各分家し弟徹太郎(同二五、二生、醫師)も亦同妻久子(同三一、七生、愛知、太田德次郎四女)と共に分家せりA八〇六(名古屋市中區西松ヶ枝町二三**電中七八六**)
參照‖原田鈔太郎の項

田中義次
資產家
東京府士族
祖母　イソ　安政六、一一生、東京、田中義勝長女
繼母　ツナ　明二四、一生、東京、德久次郎養子
君は東京府士族先代次郎の二男にして明治三十九年三月二日を以て生れ昭和六年家督を相續す同八年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し資產家たり家族は尚妹已代(大六、一生)ありA三八〇(東京市品川區上大崎長者丸二七〇**電高輪六〇〇**)
參照‖德久次郎の項

田中義能
正四位勳四等、文學博士、大學、東洋大學、大東文化學院各教授、日本大學講師、東京府在籍
妻　喜代　明三〇、七生、東京、志波今朝一四女、共立女子專門學校出身
男　義男　明四〇、三生、陸軍步兵中尉
婿　節子　大三、一生、長男義妻、松田國三二女、實踐女學校出身
女　美江　大四、八生
女　萬貴　大五、七生、京華高女出身
女　千賀　大八、一〇生
君は山口縣人田中寅之助の二男にして明治五年九月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す同三十六年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し國學院大學日本大學各講師東洋大學教授錦城中學校教頭同校長第五高等學校教授等に歷任し大正十年東京帝國大學助教授に任ぜられ現時國學院大學東洋大學大東文化學院各教授にして日本大學講師を兼ね養に文學博士の學位を授けられ著書に「平田篤胤之哲學」「系統的西洋教育史」其他數種あり二女千代子(明四三、一〇生、和洋女專出身)は東京府人齋藤崇德に嫁せりA一四五(東京市小石川區白山御殿町一〇七)

田中義麿
從四位勳三等、農學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務
長野縣在籍
母　うめ　文久元、四生、長野、竹内利三郎長女
妻　ゆか子　明二三、八生、岐阜、鷲見邦司長女
男　克巳　明四四、七生
男　潔　大二、三生
君は長野縣人田中右一の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正五年家督を相續す先是明治四十二年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し同大學助教授となり大正六年農學博士の學位を受け次で歐米各國に留學中九州帝國大學助教授に任じ歸朝の後同十三年教授に進み現に農學部勤務たり著書に「遺傳學」「蠶の遺傳講話」其他七種あり弟正實(明二四、九生)は分家せりA一六九(福岡縣粕屋郡多々良村松崎)

田中利喜藏
資產家
神奈川縣在籍
母　ネ　慶應元、九生、長野、小野伊平治二女
妻　か津　明四二、三生、東京、松村伊助二女
男　通義　昭九、一生
君は神奈川縣人先代利喜藏の二男にして明治三十七年四月三十日を以て生れ大正五年家督を相續し前名敬三を改め襲名す資產家たり姉フミ(明一七、八生、亡養兄三藏妻)は其三男二女を伴ひ分家し同壽子(同三二、六生)は神奈川縣人鈴木銀次郎に妹昌子(同三九、八生)は同縣人淺澤直人に嫁せりA一〇一五(横濱市中區中村町一五四九**電本局六九七**)

田中利兵衛
法衣錦金襴商
京都府在籍
母　巖　明三八、三生
婦　八重　明四一、二生、三男巖妻、滋賀、湯淺房次郎六女
君は京都府人先代利兵衛の四男にして萬延元年十一月十一日を以て生れ明治二十年家督を相續し前名利右衛門を改め襲名す法衣錦金襴商を營む家族は尚孫利夫(昭五、一生、三男巖長男)同豊之輔(同八、一〇生、同二男)あり二女あき(明二八、七生)三女綾(同三三、一二生)は各分家し兄利七(弘化四、一一生)も亦同妻タマ(安政五、一〇生、京都、小寺勘兵衛長女)及其二子と共に分家し五女貞子(明四一、一二生)は大阪府人森熊次郎に六女倭子(同四三、一〇生)は滋賀縣人服部寛順長男琢磨に嫁せりA八〇二(京都市下京區中珠數屋町烏丸東入二十人講町一六**電下二二九**)
參照‖森熊次郎の項

田中力藏
資產家
東京府在籍
妻　トメ　明九、三生、東京、吉村勘次郎妹
養子　保太郎　明二八、一二生、養子敦子夫、東京、蘆義之兄
養子　敦子　明三二、四生、養子保太郎妻、片柳安吉長女
君は東京府人にして慶應二年十一月を以て生る資產家たり家族は尚孫千津子(大一五、一生、養子保太郎長女)同悟子(昭二、一一生、同二女)ありA一〇六〇B二五〇(東京市本所區林町三ノ六〇**電本所二〇二六**)

田中隆吉
小池證券㈱常務取締役、越中島木材倉庫㈱監査役、東京府在籍
妻　よしえ　明二五、三生、山梨、堀田陵二郎妹
男　正隆　大五、七生、慶應義塾在學
女　茂子　大二、一〇生、雙葉高女出身
女　婦美子　大四、三生、府立第三高女出身
君は山梨縣の素封家田中英作の二男にして同慶重の弟同重策の從弟なり明治十五年十二月を以て生れ大正十

年分れて一家を創立す義に小池銀行取締役兼支配人たりしが昭和九年三月同行が小池證券會社に合併さるゝや其の常務取締役に擧げられ傍ら越中島木材倉庫會社監査役たり家族は伺二男昌吉(大六、一二生)あり A八五五(東京市四谷區愛住町三九電四谷四〇二七)

参照‖堀田陵二郎の項

田中隆三　秋田縣士族　正三位勳一等、元文部大臣

妻　かま　明三、八生、東京、志賀けい二女

男　隆一郎　明二三、三生、從五位、商工技師工學士

婦　ふじ　明三三、八生、長男隆一郎妻、長野、小坂順造妹

君は秋田縣士族田中隆世の長男にして元治元年十月を以て生れ明治二十九年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學を卒業し農商務省に入り參事官鑛山監督官となり一旦官を辭して辯護士の業務に從事し後衆議院書記官法制局參事官長崎縣書記官等を經て農商務省鑛山局長行政裁判所評定官農省務次官等に歷任し後再び退官して實業界に投じ藤田鑛業秋田銀行藤田銀行大阪北港南興殖産富士生命保險等幾多銀行會社の重役たりしも昭和四年濱口内閣に際し文相小橋一太の後を承け文部大臣に親任せられ同六年若槻第二次内閣に重任し同年十二月退官す衆議院議員に當選すること七回昭和九年議員を辭任し政界を引退す爵に公益に功績顯著の廉を以て紺綬褒章及其飾版を賜へせらる家族は伺孫テツ子(大九、七生、同二女)同照子(昭二、三生、同三女)あり二男隆二郎(明二八、一〇生)同妻操(同三七、九生、海軍中將春藤牛六長女)は共に分家し三男隆三郎(同三一、七生)は東京府人志賀けいの養子となり妹ヨネ(同三、九生)は秋田縣士族小野崎伍助に嫁せり A五五一(東京市麻布區伊ノ町一二電赤坂一二〇〇)

参照‖小坂順造、齋藤牛六※今井文平※小坂武雄※關根善作※花岡俊夫※深井英五※美濃部達吉の項

田中良　畫家　鹿兒島縣士族

妻　文　明二二、一生、東京、士、河上春生妹、學習院女學部出身

女　秀子　大四、九生、女子學習院在學

畫家の先代宏は夙に駒場農學校を卒業し同校助教授東京農林學校教授帝國大學農科大學教授を歷任し獸醫學博士の學位を授けられ東京帝國大學名譽教授たり君は其長男にして明治十七年十月を以て生れ昭和八年家督を相續す明治四十三年東京美術學校西洋畫科を卒業し大正四年に至る迄文展へ出品する事三回其後舞臺美術並に插畫の研究に進み同八年歐米見學旅行をなし歸朝後專ら斯道に從事して今日に至り國民美術協會日本劇畫協會挿繪協會各會員たり長女芳子(明四四、九生、女子學習院出身)は齋藤得七に二女房子(大二、二生、出身校同上)は日向紀三に妹鈴(明二一、一一生)は東京府士族岩永省一養子裕吉に嫁せり A五五一(東京市澁谷區榮通二ノ一五電青山二四)

参照‖河上春生、岩永裕吉の項

田中良三　動八等、伺美堂、出版業　東京府在籍

男　貞三　明三四、九生

婦　ゆき　明四〇、四生、二男貞三妻、東京

女　美子　明四〇、八生

女　正子　明四四、一生

女　倚子　大二、三生

信子　大四、四生

君は東京府人橋本治作の二男にして明治七年一月十六日を以て生れ先代りきの養子となり同十三年家督を相續す伺美堂と稱し出版業を營む家族は伺四男彌之助(大六、五生)五男倚三(同一〇、三生)孫早苗(昭三、同出雲(同八、一生、同二男)あり長女千代(明三一、一生)は東京府人古平金次郎長男幸太郎に二女富美(同三六、八生、三輪田高女出身)は同府人篠田六松長男繁に五女久子(同四二、四生、府立第一高女出身)は同府人佐宗茂平長男茂に嫁せり A九九三B二六五(東京市神田區一ッ橋通一六電九段二〇七一)

参照‖井口吉藏、古平金次郎の項

田中亮一　乘合業　議院議員(佐賀縣選出)、肥筑軌道㈱取締役、佐賀縣在籍

妻　ヨツ　明二三、一生、佐賀、士、出雲侃妹

男　國郎　大二、一〇生

女　富美　大五、七生

女　美都　大七、三生

君は佐賀縣人田中國太郎の二男にして明治二十三年八月二十九日を以て生れ同三十七年家督を相續す大正四年早稻田大學政治經濟科を卒業し農業に從事し傍ら肥筑軌道會社取締役たり養に千歳村長佐賀縣會議員同參事會員等に選ばれ政友會佐賀支部幹事長に擧げらる昭和三年佐賀縣より推されて衆議院議員に當選同七年再選し現に其任に在り立憲政友會に屬す家族は伺四女美代(大一一、六生)五女美惠(同一三、一一生)六女多美(昭二、二生)七女美彌(同四、五生)妹ミワ(明三六、三生)同夫常六(同三四、八生、佐賀、田中權太郎弟)及其子女あり叔父吉二(同一三、三生)は同妻キノ(同一六、七生、佐賀、庄島源二妹)及其子女を伴ひ分家し叔母キサ(同一七、七生)は佐賀縣人森無三四二男康吉に嫁せり(佐賀市中ノ小路電二一七)

田中良三　東京府在籍

男　貞三　明三四、九生

婦　ゆき　明四〇、四生、二男貞三妻、東京

女　美子　明四〇、八生

女　倚子　明四四、一生

信子　大二、三生

君は東京府人橋本治作の二男にして明治七年一月十六日を以て生れ先代りきの養子となり同十三年家督を相續す伺美堂と稱し出版業を營む家族は伺四男彌之助(大六、五生)五男倚三(同一〇、三生)孫早苗(昭三、同出雲(同八、一生、同二男)あり長女千代(明三一、一生)は東京府人古平金次郎長男幸太郎に二女富美(同三六、八生、三輪田高女出身)は同府人篠田六松長男繁に五女久子(同四二、四生、府立第一高女出身)は同府人佐宗茂平長男茂に嫁せり A九九三B二六五(東京市神田區一ッ橋通一六電九段二〇七一)

参照‖井口吉藏、古平金次郎の項

田中林助　津商工會議所會頭、三重共同貯蓄銀行㈱取締役、湘南土地住宅㈱監査役、三重縣在籍

妻　たま　明二〇、一一生、三重、鈴木武平三女

男　順一郎　大五、七生

女　俊子　大二、六生

君は津米穀取引所理事長として知られたる故田中林助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正七年家督を相續し前名政次郎を改め襲名す先代の後を承けて現時三重共同貯蓄銀行取締役にして又湘南土地住宅會社監査役たり推されて津商工會議所會頭の任に在り家族は伺二男慎二(大八、八生)三女雪子(同一〇、二生)四女二三子(同一二、四生)弟芳三郎(明二六、二生)あり姉かよ(同九、七生)は同夫要助(同二、六生、三重、杉野專助三男)及其子女と共に分家し弟直三郎(同二〇、九生)は三重縣人田所清八に妹しよ(同二四、一生)は同縣人川合又吉に各養子となり二女静(大三、一〇生)は兵庫縣人小浦梅次郎長男源一に姉たを(明一一、三生)は三重縣人鈴木武平弟富三郎に妹とめ(同二一、九生)は同縣人前川晋吉に嫁せり(津市西ノ口出屋敷一一七〇電一九)

参照‖小浦梅次郎の項

田中林藏　神奈川縣多額納稅者、茶商　神奈川縣在籍

妻　ハマ　明二四、一二生、神奈川、藤江藤衛門長女

男　善一　明三六、八生

婦　壽々枝　明四一、三生、長男善一妻、神奈川、栗原徳長女

田中家は先々代林藏武州八王子在より横濱に出で茶及兩替商を營み同家今日の家產を築く君は神奈川縣人戸塚千太郎の四男にして明治十四年一月七日を以て生れ先代林藏の養子となり大正三年家督を相續し舊名安一を改め襲名す家業を繼ぎ茶商を營み直接國稅四千七百二十五圓を納め神奈川縣多額納稅者たり家族は伺四男良介(大九、六生)二女鈴(同一一、六生)孫伊勢子(昭六、八生、長男善一長女)同昭二(同八、三生、同長男)あり長女久子(明三九、一〇生)は神奈川縣人小岩井建治に嫁せり(横濱市中區吉田町二電長者町三八七)

田中六太郎　東京市澁谷區會議員、地主　東京府在籍

母　千賀　安政五、二生、東京、鈴木榮藏長女

妻　チヨ　明三〇、一〇生、東京、鈴木鐵太郎妹

男　寅雄　明四四、一二生

女　豊子　大八、九生

君は東京府人田中豊次郎の長男にして明治十二年六月二十六日を以て生れ大正七年家督を相續す地主にして現に推されて澁谷區會議員たり家族は伺三男清(大六、一〇生)四男敏雄(同一〇、一〇生)あり弟春吉(明三二、一生)は同妻ノブ(同三六、四生、東京、田中菊藏姉)と共に分家せり A三三五(東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ二五〇)

参照‖田中菊藏の項

田中和一郎　京都府會議員、京都市會議員、京都ホテル㈱取締役、内外出版印刷廣濟無盡各㈱監査役、京都府在籍

父　和三郎　安政元、七生

妻　和枝　明三一、一〇生、京都、大藪重太郎長女、第一高女出身

男　榮一　大一〇、一〇生

君は京都府人田中和三郎の三男にして明治二十一年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す同六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時前記各會社の重役にして推されて京都府及京都市會議員たり家族は伺二男宏(大一二、三生)三男義三(昭二、三生)四男健史(同五、三生)より姉フサ(明一七、二生)同夫彌市郎(同一五、一一生、京都、田中彌太郎三男)は其子女を伴ひ分家し弟作次郎(同三五、二生)は京都府人大村喜久の入夫となれり A一〇九一(京都市下京區油小路七條北入一七八電下四三二)

参照‖大藪重太郎、田中彌市郎※奥田增四郎の項

田中館愛橘　議員、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、日本ローマ字會長、帝國飛行協會副會長、東京府在籍　正三位勳一等、理學博士、貴族院

榮子　多加　大六、二生、東京、田中館秀三長女

君は岩手縣士族田中館稻藏の長男にして安政三年九月十八日を以て生れ大正十二年養子秀三方より分れて一家を創立す明治十五年東京大學理學部物理學科を卒業し東京大學理學部准教授同助教授に任じ次で同教授に進む義に理學博士の學位を授けらる後官を辭し東京帝國大學名譽教授に推され帝國學士院會員に列し日本ローマ字會長帝國飛行協會長たり更に帝國學士院より貴族院議員に互選せらるゝ事二回現に其任に在り昭和八年國際學術協力委員會に日本代表として參列す A四〇四(東京市小石川區雜司ヶ谷町一四四四電牛込六五〇二)

田中丸祐厚　北海製罐倉庫、合同漁業、大東食品各㈱取締役、日魯漁業㈱囑託　佐賀縣在籍

妻　美稻　明二七、三生、府立第二高女出身

婦　美都　大二、一生、東京、田中館愛橘長女

君は佐賀縣人田中丸治右衛門の二男にして明治十二年一月を以て生れ前名を勘七と稱す同四十年東京帝國大學法科大學を卒業し三菱商事會社に入り門司長崎各支店詰小樽支店長本社本材部長及食品部長等を經て現時前記各會社の重役に就任し傍ら日魯漁業會社囑託たり養に北洋商會及大北漁業會社の重役たりし事あり劍道と書道に趣味を有す著書に「南遊記」「私の見たソヴエートロシヤ」「封鎖漁業交渉をスパイする」等あり A二一六(東京市麹町區平河町一ノ三電九段一五七七)

参照‖※瀬頭平八の項

田中丸善八　議員、佐賀縣人田中丸善藏の四男にして現戸主善太郎の叔父なり明治二十七年五月を以て生る現時前記各會社の重役にして養に佐世保商工會議所議員に擧げらる大正六年賀易視察の爲印度及南洋を遊歷し同八年より九年に渉り滯米し米人と共同し貿易業を經營せり事あり家族は伺長女初子(大一一、一一生)二女ヒロ子(同一四、一生)三女ミツ子(昭四、七生)あり(福岡市東中洲町電三〇二一〇)

妻　トモ　明三四、一生、佐賀、高木友一長女

男　善司　昭六、三生

君は佐賀縣人田中丸善藏の四男にして現戸主善太郎の叔父なり明治二十七年五月を以て生る現時前記各會社の重役にして養に佐世保商工會議所議員に擧げらる大正六年賀易視察の爲印度及南洋を遊歷し同八年より九年に渉り滯米し米人と共同し貿易業を經營せり事あり家族は伺長女初子(大一一、一一生)二女ヒロ子(同一四、一生)三女ミツ子(昭四、七生)あり(福岡市東中洲町電三〇二一〇)

田部長右衛門　島根縣多額納稅者、松江銀行㈱取締役、農業、島根縣在籍

榮父　長秋　嘉永三、九生、島根、宇山清左衛門弟

妻　梅野　明二五、二生、島根、福井本太郎二女

男　朋之　明四五、三生、經濟學士

婦　喬子　明四五、三生、二男朋之妻、島根、秦莊右衛門長女

當家は紀州熊野の庄田邊淇增の別流田邊宿禰の裔田邊入道安西文永年中吉田村に住して一家を創立し相傳へて君に至る君は島根縣人宇山清左衛門の三男にして明治十一年一月を以て生れ叔父先代長秋の養子となり大正十五年家督を相續し前名種之助を改む先代長秋は貴族院議員島根縣農工銀行重役等に擧げられ命名あり君は明治三十六年早稻田大學政治經濟科を卒業し家業を繼ぎ農業及製炭業を營み傍ら前記銀行の重役にして日本勸業銀行島根地方顧問に推され縣下の多額納稅者に列す家族は伺二女歌子(大一一、一二生)孫睿子(昭九、一生、二男朋之長女)あり長女投子(明四三、三生、松江高女出身)は島根縣人宇山眞に養妹斐(同一四、九生)は同縣人江角泰助に嫁せり A一八一七B一六三(島根縣飯石郡吉田村電二)

參照＝江角泰助の項

田邊畏三男　大井川興業㈱支配人
東京府在籍
母　ムメ　萬延元、九生、東京、大崎幸平長女
妻　照子　明二七、九生、農學博士小林房次郎長女、府立第二高女出身
男　健一　大一一、一生、府立高校在學
女　和　大七、三生、府立第六高女在學
君は舊野州大田原藩士田邊備の二男にして明治十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十九年東京高等商業學校を卒業し直ちに日本郵船會社に入り漸次累進して同社參事たりしも昭和九年大井川興業會社の支配人に就任し現在に至る家族は尙二女鈴（大九、八生）三女豊（同一五、一二生）ありA一三六（東京市芝區白金今里町九六電高輪一八九四）
參照＝小林房次郎※小林康治※船越建の項

田邊英次郎　資產家
富山縣在籍
妻　季子　明二八、一生、富山、西田敬三五女
男　信一　大六、七生、甲陽中學在學
女　文子　大三、五生、神戸女學院家政科出身
女　英子　大八、七生、西宮高女在學
君は富山縣人田邊甚三郎の二男にして明治十八年五月十日を以て生れ大正四年兄貫一方より分れて一家を創立す夙に大阪商業學校を卒業し資產家たり讀書旅行に趣味を有す家族は尙四女綾子（大一一、四生）二男昭二（昭二、八生）あり長女芳子（明四五、一生、西宮高女出身）は兵庫縣人田野清男に嫁せりA四〇〇（西宮市上葭原町電二三六）

田邊加多丸　日本勸業銀行㈱理事、大阪支店長
山梨縣在籍
妻　眞　明二六、一二生、山梨、堀田金四郎長女
男　正　大三、二生
女　美枝子　大六、四生
女　久子　大八、一一生
君は山梨縣人田邊七兵衛の三男にして同七六同宗英の弟なり明治十七年五月二日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す先是明治四十四年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し日本勸業銀行に入り福岡支店長本店貸付課長を經て昭和八年同行理事に就任し現に大阪支店長たり家族は尙二男節郎（大四、七生）ありA二九五四（東京市麻布區櫻田町二五電青山六九六八「別宅」兵庫縣武庫郡精道村蘆屋九九五電芦屋二二八六）
參照＝田邊七六、田邊宗英※早川莊一郎※堀田睦二郎の項

田邊金次郎　田邊元三郎商店㈱代表取締役
東京府在籍
妻　タカ　明一九、六生、大阪、榊原常七三女
男　金一郎　明四四、一〇生
君は東京府人田邊金助の長男にして明治九年二月五日を以て生れ同十年家督を相續す現に田邊元三郎商店代表取締役たり義に第八十五銀行支配人代理を兼ぬ家族は尙三男時雄（大六、一〇生）三女美智子（同九、一生）ありA四六六（東京市品川區五反田六ノ四五九電高輪四七二五）

田邊熊一　㈱立山電力㈱常務取締役、日清紡績㈱相模紡績各㈱取締役、新潟電燈㈱顧問、新潟縣在籍
妻　ヤイ　明一九、六生、大阪、榊原常七三女
男　雅勇　明四二、六生
女　幸子　大三、一生
女　久子　大五、五生
女　倚子　大六、八生
女　光子　大八、七生
君は新潟縣人田邊問吉の長男にして明治七年一月二十五日を以て生れ同三十四年家督を相續す同年中央大學を卒業し現時前記各會社の重役たり義に卷町長新潟縣會議員等に擧げられ明治四十一年以來衆議院議員に當選する事八回現に其任に在り立憲政友會に屬し大正三四年事件の功に依り勳四等に敍せらる家族は尙三男康夫（大一二、一一生）四男英夫（昭二、三生）あり妹マキ（明一九、五生）は新潟縣人三浦傳藏長男良次に嫁し弟廣平（同一一、七生）は分家せりA八〇〇（東京市四谷區舟町電四谷二五六〇）

田邊五兵衛　大阪府多額納稅者、田邊五兵衛商店㈱社長、田邊元三郎商店、大日本製藥各㈱取締役、廣榮㈱監査役、製藥並醫療用品商、大阪府在籍
男　治太郎　明四一、三生、田邊五兵衛商店㈱監査役
婦　まさ枝　明四二、四生、長男治太郎妻、大阪、杉村永三郎庶子
君は大阪府人先代五兵衛の長男にして明治十一年五月四日を以て生れ大正五年家督を相續し前名五三郎を改め襲名す藥種製藥並醫療用品商を營み現に田邊五兵衛商店社長大日本製藥會社取締役たる外前記各會社の重役を兼ね大阪府多額納稅者に列す家族は尙妹エイ（明二〇、六生）あり弟五郎（同三〇、一二生）は分家せりA九七〇二九B一〇四二三（大阪市東區道修町三ノ二一電園本局六〇一・四六一九「別宅」同市東區横堀二ノ一七電園本局六二六）

田邊鄕左衛門　神奈川縣多額納稅者、横濱植木㈱取締役、神奈川縣在籍
男　晃　明四二、一二生、三男晃妻、東京、楠八十兵衛三女
婦　津多子　明三一、九生
女　五枝　明三六、五生、早稻田大學評議員
君は古く紀州田邊町より横濱市に移住し以後中村町に定住せる地主農にして當主は十九代目代々鄕左衛門を襲名し同地方屈指の舊家なり維新前代々名主役を勤めしことあり先代鄕左衛門の彰德碑は中村町東橋際玉泉寺境內にあり君は先代鄕左衛門の二男にして慶應二年一月を以て生れ明治十九年家督を相續し前名榮重郎を改め襲名す夙に現横濱市立商業學校を經て神奈川縣師範學校を卒業し現時横濱植木會社取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千八百九十四圓を納む義に横濱市會議員神奈川縣會議員同參事會員等に擧げらる碁將棋讀書に趣味を有す家族は尙孫饗（昭八、一生）あり長女芳枝子（明二二、九生）は分家し同確（同一九、八生）は山梨縣人田邊よしの養子となれり（東京市目黑區上目黑一ノ一九電青山六〇四〇「別宅」山梨縣東山梨郡塩山町五四六）
參照＝田邊加多丸、田邊宗英の項

田邊正四郎　前大同電力㈱監査役
山口縣在籍
妻　ミネ　明二一、一一生、廣島、加藤三郎二女
男　太郎　大三、七生
女　光子　明四五、四生
君は山口縣人田邊喜三郎の四男にして元治元年三月を以て生れ明治四十年兄英之助の後を承け家督を相續す日本興業銀行參事同信託部副部長を經て大同電力會社監査役たりしも後之を辭し現に閑地に在り家族は尙二男隆次（大六、一一生）三男俊雄（同九、一〇生）四男達雄（同一二、六生）五男幸雄（昭五、三生）あり姪キク（明二〇、一〇生）は山口縣士族賀屋鐵三郎長男恭一に嫁せり（東京市澁谷區松濤町八九電青山七五八九）

田邊信太郎　東洋鑛伸銅㈱監査役、關西大學講師、大阪府在籍
母　ユク　明五、四生、廣島、藤田和三郎妹
男　朝郎　大一一、三生
君は富山縣人田邊喜次郎の長男にして明治二十七年十一月二十五日を以て生れ同三十九年家督を相續す大正六年東京高等商業學校を卒業し現時東洋鑛伸銅會社監査役にして傍ら關西大學講師たり家族は尙長女比那子（大九、二生）弟憲治郎（明三八、一生）あり妹高子（同三二、五生、市岡高女出身）は靜岡縣人黑田雄平に嫁せりA一三一六（大阪市東區內淡路町二ノ一一電東二五一四）

田邊壯吉　日本製絨㈱專務取締役、日本ダイヤモンド㈱取締役、東京府士族
妻　かつ　明一九、一二生、大阪、香村英太郎妹
男　貞雄　明四三、九生、京大理學部在學
女　ふみ　大二、二生、日本女大出身
女　まさ　大八、八生、日本女大附屬高女在學
君は故東京高等工業學校長手島精一の二男にして明治

花江（明二二、九生）は分家し二女靜江（同二六、一一生）は東京府人柴田乙次郎に嫁せり（横濱市中區中村町一三四電本局四九七）
參照＝※金子角之助の項

田邊朔郎　正三位勳一等、工學博士、京都帝國大學名譽教授、京都商工會議所顧問、京都市名譽顧問
東京府士族
妻　靜　明五、三生、男爵北垣晉一伯母
男　多聞　明三一、二生、朝鮮鐵道局員、工學士、法學士
婦　美佐子　明四一、五生、三男多聞妻、長野有賀光豊長女、女子學習院出身
君は舊幕臣田邊孫次郎の長男にして文久元年十一月一日を以て生れ後家督を相續す明治十六年工部大學を卒業し京都府御用掛となり同二十一年米國に差遣せられ歸朝後琵琶湖疏水工事を擔任し本邦最初の水力電氣事業を創設す同二十三年帝國大學工科大學教授に任じ翌年工學博士の學位を受く同二十九年臨時北海道鐵道敷設部技師となり同鐵道部長に補せられ同三十三年四月學術研究の爲歐米諸國に漫遊し歸朝後京都帝國大學理工科大學教授に任じ內匠寮御用掛を兼ぬ大正二年歐米各國に出張を命ぜられ同五年同工科大學長となる現時同大學名譽教授にして京都商工會議所顧問京都市名譽顧問たり家族は尙孫陽一（昭九、三生、三男多聞長男）あり二男主計（明二八、四生、三井銀行員、同志社大學英文科出身）は故錦鷄間祗候田邊太一の養子となり四男亮吉（同三三、六生、慶大經濟學部出身）は分家し長女とし子（同三六、一生、府立第一高女及聖心女子學院出身）は長野縣人大藏省事務官湯本武雄に嫁し姉テル（安政六、一二生）は故工學博士片山東熊の未亡人たり（京都市左京區淨土眞如町電上一八六〇）
參照＝男爵北垣晉一、有賀光豊※下村孝太郎の項

田邊治一郎　横濱正金銀行㈱檢査人
京都府士族
妻　園子　明三二、三生、東京、色川武夫妹
男　一夫　大一三、一〇生
君は福岡縣人吉岡卯多右衛門の三男にして明治十四年十一月を以て生れ先代重太郎の養子となり同四十一年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し直に横濱正金銀行に入り爾來西貢里昂各支店支配人を經て現時同行檢査人たり家族は尙長女治子（大一二、五生）三女富美子（昭三、三生）二男正夫（同五、五生）ありA一〇二（東京市日本橋區本石町一ノ六横濱正金銀行東京支店內）

田邊茂一　紀伊國屋、書籍商
東京府在籍
妻　敏子　明四四、三生、和歌山、小笠原譽至夫五女
男　禮一　昭八、五生
君は東京府人田邊鐵太郎の長男にして明治三十八年二月十二日を以て生れ後家督を相續す紀伊國屋と稱し書籍商を營むA五〇一（東京市淀橋區角筈一ノ八二六電四谷一〇七）

田邊七六　衆議院議員（山梨縣選出）、山梨縣多額納稅者、姫川電力、三共電氣各㈱取締役、富士木材興業、京濱電力㈱常務取締役、富士紡績、東洋モスリン、富士身延鐵道、富士瓦斯、青森瓦斯、日滿亞麻紡織、東洋鐵道、飯山鐵道、共榮各㈱監査役、酒造業
妻　とし　明一八、八生、山梨、安藤由巳姉
男　達郎　明四一、七生
女　園　明四四、二生
男　政子　大二、九生
君は山梨縣人田邊七兵衛の長男にして明治十二年三月を以て生れ同二十六年家督を相續す酒造業を營み前記各會社の重役を兼ね直接國稅四百四十九圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙三男大八、一生）あり妹高子（同三二、五生、市岡高女出身）は靜岡縣人黑田雄平に嫁せりA一三一六（大阪市東區內淡路町二ノ一一電東二五一四）

田邊壯吉　日本製絨㈱專務取締役、日本ダイヤモンド㈱取締役、東京府士族
妻　かつ　明一九、一二生、大阪、香村英太郎妹
男　貞雄　明四三、九生、京大理學部在學
女　ふみ　大二、二生、日本女大出身
女　まさ　大八、八生、日本女大附屬高女在學
君は故東京高等工業學校長手島精一の二男にして明治

十二年十二月十二日を以て生れ後先代貞吉の養子となり大正十五年家督を相續す夙に東京帝國大學に學び米國に航し農場を經營す現時前記各會社の重役たり園藝謠曲に趣味を有す家族は尙四女よし（大一二、一生）あり養弟貞造（明一七、二生）同尙雄（同一六、二一生、東京、本岡龍雄二男）は各分家し養妹きよ（同一六、一一生、東京、神谷直儀長女）は東京府人奥居彦松に嫁せりA一七五四（東京市豐島區目白町一ノ一一四六電**大塚七六三**）

參照＝奥居彦松、香村英太郎※松江春次の項

田邊長助

妻　セキ　紀夫

明四四、五生、泰天醫大在學

君は宮崎縣出身にして明治十六年九月十一日を以て生れ同四十年廣島高等師範學校數物化學部を卒業し大正三年熊本縣玉名中學校教諭となり同十二年同縣第二師範學校教諭昭和三年德島縣女子師範學校長に任ぜられ同四年德島縣高等女學校を兼任し次で宮崎縣師範學校長に轉じ今日に至る家族は尙二男四女あり（宮崎市宮崎縣師範學校内）

田邊輝雄

妻　もと

明四〇、五生、芝浦製作所勤務、工學士

郷　初惠

明四三、七生、長男輝一郎妻、東京、鹿村美久長女

男　善人

千秋元、八生、横濱正金銀行員、高田邊家は舊丹波柏原藩士にして先代輝實は夙に官途に就き縣知事貴族院議員等に擧げらる君は其二男にして明治十年八月二日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時日華紡織會社々長の外前記各會社の重役にして推さ

上海日本商工會議所常議員、日華紡織、ラシー共販各株社長、上海印刷株取締役、泰天麻株監査役

養母　よね

明九、九生、東京、士、河瀨秀治二女

明二一、九生、東京、矢野石太郎妹、香、蘭女學校出身

男　輝一郎

明四〇、五生、芝浦製作所勤務、工學士

妻　チヨ

明二九、四生、神奈川、鈴木俊雄妹

男　儔

大一〇、八生

女　清美

大八、三生

君は神奈川縣人渡邊三左衛門の弟にして明治十八年二月一日を以て生れ先代德五郎の養子となり大正八年家督を相續し前名眞吉を改め養名す現時前記各銀行會社の重役にして神奈川縣多額納稅者に列し推されて横濱市會議員並に横濱商工會議所常議員たり家族は尙三女ヤス子（大九、五生）四女ヨシ（昭二、一一生）五女エツ子（同五、一〇生）六女ヱッ子（同一一、一一生）二男道夫（同一三、一〇生）四男道夫（同一三、一一生）あり長男文七（大五、三生）は神奈川縣人田邊亮の養子となれりA一五九八（横濱市中區中村町一〇八四電**本局七〇九**）

田邊友次郎

妻　文代

明三四、九生、養父勝太郎長女

男　純一

大一一、一〇生

君は石川縣人宮崎捨次郎の二男にして明治二十八年七月二十六日を以て生れ先代勝太郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正八年九州帝國大學工學部を卒業し現時住友伸銅鋼管會社研究部の技師たり昭和八年夏外遊し同九年春歸朝す曩に工學博士の學位を授けらる家族は尙長女久代（大一〇、四生）二男勝二（同一四、二生）三男政三（同一五、八生）二女幾代（昭五、八生）ありA五〇四（兵庫縣武庫郡精道村芦屋伊勢講田五四八電**芦屋三三七九**）

田邊德五郎

妻　チヨ

明二九、四生、神奈川、鈴木俊雄妹

男　儔

大一〇、八生

女　清美

大八、三生

君は神奈川縣人渡邊三左衛門の弟にして明治十八年二月一日を以て生れ先代德五郎の養子となり大正八年家督を相續し前名眞吉を改め養名す現時前記各銀行會社の重役にして神奈川縣多額納稅者に列し推されて横濱市會議員並に横濱商工會議所常議員たり家族は尙二男二女ヨシ（昭二、一一生）四男道夫（同一三、一一生）あり長男文七（大五、三生）は神奈川縣人田邊亮の養子となれりA一五九八（横濱市中區中村町一〇八四電**本局七〇九**）

横濱市會議員、横濱商工會議所常議員、神奈川縣多額納稅者、都南貯蓄銀行株頭取、藤澤自動車株社長、倉庫業、江ノ島電氣鐵道、湘南瓦斯長、神奈川縣農工銀行、横濱瓦斯、東海醬油各株取締役、横濱植木、横濱魚農藥各株監査役、神奈川縣在籍

田邊文四郎

養母　のぶ

妻　ミヨ

正五位勳三等、醫學博士、陸軍々醫監、東京第一衛戍病院長

鳥取縣在籍

明二、七生、廣島、柳生喜作長女

明二三、四生、德島、足立愛藏長女

君は鳥取縣人田邊爲藏の二男にして明治十五年八月を以て生れ大正五年同縣人田邊喜太郎の養子となり同十四年家督を相續す同二年陸軍二等軍醫に任じ習來累進して昭和九年同軍醫監に任ぜらる其間陸軍々醫學校教官兼同校部員陸軍々醫學校部員及陸軍省醫務局衛生課長等に歷補し現時東京第一衛戍病院長たり家族は尙妻弟重森（明三四、二生、鳥取、藤繩辰太郎二男）同妻知惠子（同一四、一一生、鳥取、長谷川儀太郎長女）及姪美智子（大一五、一生、養弟重森長女）同富美子（昭四、一生、同二女）弱稔美（同六、二生、同長男）同裕憲（同八、一生、同二男）あり（東京市澁谷區代々木初臺町四七五電**四谷五〇六六**）

田邊文之助

母　せん

妻　三保子

文一郎

大八、一一生

女　美津子

大一〇、五生

君は宮城縣人田邊文榮の長男にして明治二十五年三月二十六日を以て生れ大正十二年家督を相續す同四年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し日立製作所に入る現時上毛電力會社取締役兼支配人にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男啓二郎（大一二、一生）三男彰三郎（同一四、七生）二女正子（同一五、一一生）

上毛電力株取締役兼支配人、鞆川水電、東京瓦斯、ユレベーター各株取締役、積善社資田査社員

東京府在籍

明七、三生、亡祖父治兵衛長女

明三〇、三生、實業家田中榮八郎二女、跡見女學校出身

の外弟武次（明二八、三生、陶東銅鋼鐵道會社取締役、王子製紙、大川合名各會社員）同妻タカ（同三七、一生、埼玉、大川平三郎二女）及其子女弟芳郎（同三七、五生）同繁雄（同四三、二生）妹照（同四〇、八生）同ふみ（大七、四生）あり同千代（明三二、一生）は東京府人遠藤正臣に嫁せりA七四四（東京市品川區大井出石町五〇八一電**大森八二五**）

參照＝大川平三郎、田中榮八郎※子爵澁澤敬三※男爵萬里小路元秀の項

田邊政次郎

養子　善彦

大一三、七生、大阪、葉田利助二男

君は大阪府人葉田利三郎の庶子にして明治十七年九月二十四日を以て生れ同二十三年生母田邊カネの後を承け家督を相續す現時商記各會社の重役たり養子重子（明四〇、六生、亡父利三郎三女）は大阪府人山名清吉に嫁せりA四五六（大阪市西區幸町通四ノ五）

參照＝山名清吉の項

葉田利木材株社長、松太綿布株取締役、大阪府在籍

田邊益太郎

母　ゑき

妻　みち

男　耕太郎

大一三、一生

女　

明三五、八生、千葉、久我良平二

君は東京府人田邊金重郎の長男にして明治二十九年六月二十日を以て生れ大正六年家督を相續す地家主にして遷信官吏たり家族は尙二女美喜子（昭二、三生）二男光明（同四、三生）三女澄子（同六、二生）三男政義（同八、二生）弟中和（明三九、三生）妹田鶴（同四一、六生）同靜香（同四三、九生）同八重子（大四、一〇生）あり同喜久（明三五、九生）は福島縣人山崎庫太郎長男晃太郎に嫁せりA六九一（東京市淺草區清川町一ノ四電**淺草三五五**）

田邊增吉

妻　たけ

男　茂

明一七、二生、兵庫、村澤富三郎養子

明四五、一生

質商、大阪府在籍

田邊義太郎

妻　ふき

男　

明八、一〇生、千葉、古山榮治郎長女

明三五、八生、千葉、久我良平二

君は兵庫縣人田邊米吉の弟にして明治十三年一月一日を以て生れ先代ちよの養子となり同三十六年家督を相續す貿商を營む家族は尙孫浩（昭五、三生、養子湊長男）ありA一七九五B五三九（大阪市北區天神橋筋五ノ一三電**堀川一四一八**）

養子　湊

明三八、三生、長女玉枝夫、愛知黑川好次弟

女　玉枝

明四四、四生、養子湊妻

男　勇

大二、一二生

君は兵庫縣人田邊米吉の弟にして明治十三年一月一日を以て生れ先代ちよの養子となり同三十六年家督を相續す貿商を營む家族は尙孫浩（昭五、三生、養子湊長男）ありA一七九五B五三九（大阪市北區天神橋筋五ノ一三電**堀川一四一八**）

田邊又五郎

妻　きくの

男　元

明四二、七生

男　亨

大二、一二生

君は石川縣人田邊彌藏の長男にして明治十三年一月一日を以て生れ同二十二年家督を相續す現時能越石灰株取締役たり家族は尙三男利樹（大六、九生）あり庶子信子（明四一、一生、生母、石川、中村フク）は石川縣人吉見近義に姉さつ（元治元、三生）は同縣人藤本久平に嫁し庶子定（明四四、八生、生母、石川、中村フク）は同縣人喜多嘉太郎の養子となり弟又彌（同一二、一二生）同妻順（同二〇、四生、石川、淺野平二妹）は其一男を伴ひ分家し妹すい（同五、一〇生）も亦分家せり（石川縣羽咋郡中莊村）

能越石灰株取締役、尾張町キリンビヤホール經營主、東京府在籍

參照＝淺野平二の項

田邊宗英

妻　とみ

明二四、一生、山梨、結城禮一郎妹

男　宗達

大八、六生

君は山梨縣人田邊七六の弟にして同加多丸の兄なり明治十四年十二月十七日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立し前名五四三を改む現時尾張町キリンビヤホールを經營し傍ら前記各會社の重役たり曩に東京商業銀行三ツ引物產東京山手急行電氣東京灣汽船昭和火災保險各會社の重役たり家族は尙四男英藏（昭二、五生）あり三男鴻之助（大一四、二生）は東京府人古淵はつの養子となれりA一一五B一〇二（東京市四谷區伸町二ノ一二電**四谷二六五一**）

三ツ引同族株取締役、三ツ引紡糸株社長、尾張町キリンビヤホール經營主、東京府在籍

田邊元三郎

母　トミ

妻　いね

男　實

明四五、六生

男　倫

明四一、一生

君は東京府人先代元三郎の長男にして大正二年九月二十九日を以て生れ昭和三年家督を相續す前名英一郎を改め養名す藥種商を營み獨自の業容を以て知られ資產家たり家族は尙妹光枝（大七、六生）あり姉フサエ（明四〇、一〇生）は東京府人淺利鶴雄に同たね子（同四二、一〇生）は大阪府人小澤扶雄長男英一に嫁せりA四四五六（東京市本郷區駒込西片町一〇いの四六電**小石川六三三二**）

藥種商、東京府在籍

田邊元治

妻　あい

女　萬平

男　

明三八、一二生

婦　じゅん

長男萬平妻、福井、飯田廣助妹

男　清

明四一、八生

北越水力電氣株常務取締役、東京府在籍

明一七、八生、埼玉、平沼伊兵衛七女

君は石川縣人宮崎捨次郎の二男にして明治二十八年七月二十六日を以て生れ先代勝太郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正八年九州帝國大學工學部を卒業し現時住友伸銅鋼管會社研究部の技師たり昭和八年夏外遊し同九年春歸朝す曩に工學博士の學位を授けらる家族は尙長女久代（大一〇、四生）二男勝二（同一四、二生）三男政三（同一五、八生）二女幾代（昭五、八生）ありA五〇四（兵庫縣武庫郡精道村芦屋伊勢講田五四八電**芦屋三三七九**）

正五位勳三等、醫學博士、陸軍々醫監、東京第一衛戍病院長

鳥取縣在籍

明二、七生、廣島、柳生喜作長女

明二三、四生、德島、足立愛藏長女

君は鳥取縣人田邊爲藏の二男にして明治十五年八月を以て生れ大正五年同縣人田邊喜太郎の養子となり同十四年家督を相續す同二年陸軍二等軍醫に任じ習來累進して昭和九年同軍醫監に任ぜらる其間陸軍々醫學校教官兼同校部員陸軍々醫學校部員及陸軍省醫務局衛生課長等に歷補し現時東京第一衛戍病院長たり家族は尙妻弟重森（明三四、二生、鳥取、藤繩辰太郎二男）同妻知惠子（同一四、一一生、鳥取、長谷川儀太郎長女）及姪美智子（大一五、一生、養弟重森長女）同富美子（昭四、一生、同二女）弱稔美（同六、二生、同長男）同裕憲（同八、一生、同二男）あり（東京市澁谷區代々木初臺町四七五電**四谷五〇六六**）

田邊友次郎

妻　文代

男　純一

大一一、一〇生

君は石川縣人宮崎捨次郎の二男にして明治二十八年七月二十六日を以て生れ先代勝太郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正八年九州帝國大學工學部を卒業し現時住友伸銅鋼管會社研究部の技師たり昭和八年夏外遊し同九年春歸朝す曩に工學博士の學位を授けらる家族は尙長女久代（大一〇、四生）二男勝二（同一四、二生）三男政三（同一五、八生）二女幾代（昭五、八生）ありA五〇四（兵庫縣武庫郡精道村芦屋伊勢講田五四八電**芦屋三三七九**）

田邊輝一郎

妻　文代

男　純一

大一一、一〇生

君は石川縣人宮崎捨次郎の二男にして明治二十八年七月二十六日を以て生れ先代勝太郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正八年九州帝國大學工學部を卒業し現時住友伸銅鋼管會社研究部の技師たり昭和八年夏外遊し同九年春歸朝す曩に工學博士の學位を授けらる家族は尙長女久代（大一〇、四生）二男勝二（同一四、二生）三男政三（同一五、八生）二女幾代（昭五、八生）ありA五〇四（兵庫縣武庫郡精道村芦屋伊勢講田五四八電**芦屋三三七九**）

男　德三郎　大二、三生

君は福井縣人山西太右衛門の二男にして明治十二年十一月七日を以て生れ先代興平の養子となり大正五年家督を相續し前名雅樂を改め襲名す一獻春醸造元にして酒造業を營み福井縣多額納稅者に列し直接國稅六百六圓を納む傍ら前記各會社重役たり家族は尙五男秀雄（大八、一一生）四女みち子（同一四、二生）孫滿壽子（昭九、一生、長男萬平長女）あり二女とみを（明三一、三生）は福井縣人加藤繁に三女せつ（同四四、一生）は同縣人川中嘉志雄長男一雄に嫁し六男明（大一一、一〇生）は同縣人佐々木忠右衛門の養子となれり（福井縣丹生郡吉野村**電八五一**）

田邊良忠

正五位勳四等、地方技師、神奈川縣土木部長、京都府士族

妻　文子　明二一、一二生、福島、士、吉田勝吉長女

男　忠男　大五、三生

君は福井縣士族田邊政之助の長男にして明治十八年一月十六日を以て生れ同四十年家督を相續す同四十三年京都帝國大學理工科大學土木學科を卒業し京都市技師となり名古屋市を經て群馬縣に轉じ更に愛知滋賀栃木各縣技師を經て大正十三年地方技師として兵庫縣土木部長に補せられ昭和四年三月米國へ出張を命ぜられ同年八月前記現職に轉じ今日に及ぶ家族は尙亡叔父良成妻ヨシ（安政五、六生、埼玉、渡邊敏治長女）あり弟平學（明三一、一生、從六位、工學博士、東京工業大學教授）は分家し長女正子（大二、三生）は靜岡縣道路技師工學士中西幸男に妹敏子（明三八、八生）は茨城縣人志賀倉之助長男清に嫁せり（横濱市紅葉ヶ丘官舍**電長者町一八二一**）

參照＝※加賀山學の項

田邊隆二

正四位勳三等、京都電燈㈱副社長、比叡山鐵道、三國芦原電鐵、關西共同火力㈱各㈱取締役、大阪川水電㈱監査役、岡山縣在籍

父　彦太郎　嘉永元、一一生

母　歌　嘉永六、八生、岡山、横田美次郎三女

妻　靜子　明二四、二生、兵庫、士、八代則彦妹

田邊家は累代岡山縣下粒江村に定住せる地主農にして庄家を勤めたる家柄なり君は先代彦太郎の二男にして明治十七年一月二十三日を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業文官高等試驗に大正十年東京帝國來遞信監理局事務官遞信局副事務官同事務官臨時電信電話建設局書記官遞信省參事官遞信監察官等に歷任し大正十三年遞信局長に任じ札幌熊本大阪各遞信局長に歷補し簡易保險局長に陞任す昭和三年退官して京都電燈會社に入り現時同社副社長の外前揭諸會社の重役に擧げらる庭球に趣味を有す家族は尙長女裕子（昭五、五生）兄善太郎（明九、一〇生、現戶主）同妻利惠（同三〇、五生、岡山、田邊治三郎二女）及其子女あり姉久子（同七、一二生）は岡山縣人補戶友太郎弟多三に同縁野（同一一、三生）は同縣人星島和平治に妹勢喜（同一九、七生）は同縣人江原茂に同武雄（同二四、五生）は同縣人安田二美人に姪佳娜女（同三二、一二生、兄善太郎二女）は同縣人秋山武平に嫁せりA四二〇（京都市右京區桂木ノ下町一ノ四五**電下二二〇〇**）

參照＝八代則彦※木村德衛※伴野乙彌※吉川雄輔の項

田波芳三

正五位勳四等、遞信書記官、電氣局檢査課長、栃木縣在籍

母　ヤス　明三、一一生、栃木、山崎安平三女

妻　かう　明三〇、七生、東京、平野米吉長女

男　彌一郎　大一五、三生

君は栃木縣人先代松次郎の長男にして明治二十四年四月二十九日を以て生れ明和六年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學英法科を卒へ翌年文官高等試驗に合格し遞信局書記通信事務官補野戰福井各郵便局長を經て同十年遞信局事務官に任ぜらる爾來大阪遞信局庶務課長札幌遞信局規畫課長を歷任し昭和四年在外研究員として佛國に留學す同五年遞信書記官に轉任し同七年電氣局檢査課長となり今日に至る家族は尙二男宏（昭二、一二生）二女治子（同七、四生）弟延男（明三〇、六生）同妻サク（同三六、一生、栃木、熊倉長作長女）及其三子弟又男（同三四、四生）同妻孝（同四〇、二生、東京、梅野草苗妹）及其一子妹アサ（同四一、一一生）あり（東京市澁谷區羽澤町五八**電青山三〇〇八**）

田沼金造

正五位勳四等、判事、山形地方裁判所長、群馬縣在籍

妻　ます　明二二、七生、群馬、平田象吉孫

男　隆一　大六、八生

女　ちづ　明四三、一生

君は群馬縣人先々代田沼米藏の三男にして明治十二年四月を以て生れ後男米藏方より分れて一家を創立す同三十七年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し同三十九年判事に任ぜられ爾來長岡濱松各區裁判所判事宮崎地方裁判所判事宮崎地方裁判所部長甲府地方裁判所判事同地方裁判所部長靜岡地方裁判所部長土浦區裁判所監督判事及宇都宮釧路各地方裁判所長等に歷補し現時山形地方裁判所長たり（山形市旅籠町官舍**電一〇二**）

田沼義三郎

横濱工業㈱社長、東洋麻絲紡績㈱取締役、神奈川縣在籍

男　富士太郎　明三〇、三生

弟　次郎　明四一、一一生

女　春子　大五、三生

君は新潟縣士族田沼健の弟にして慶應三年一月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す夙に第一高等學校英法科を卒業し南滿洲鐵道會社總務部事務局員大連汽船酒匂砂利日本製綿各會社重役を經て現時横濱工業會社長外前記會社の重役たり曾て東京市長中村是公の下に助役たりし事あり長女峯子（明三四、一〇生）は新潟縣人神岡喜代司に二女ミチ子（同三六、八生）は高知縣人土居敏雄に養子シゲ（同一八、二生、神奈川、近藤勳夫養母）は神奈川縣人田中善助二男善三郎に嫁せりA八二五（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町亂橋村木座二一五**電二〇一**）

田畑清光

從四位勳四等、宇都宮高等農林學校教授、鹿兒島縣在籍

妻　シナ　明二一、九生、鹿兒島、郡山昌哉長女

男　靜男　大元、一〇生

女　モリ　大三、八生

君は鹿兒島縣人田畑佐央茂の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し靜岡縣農事試驗場技師となり次で盛岡高等農林學校教授に轉じ大正八年米英獨佛各國に留學を命ぜられ同十一年歸朝し同十二年宇都宮高等農林學校教授に任ぜられ現在に至る（宇都宮市宿郷町五二五）

田畑啓義

正五位勳三等、海軍大佐、佐世保海軍人事部長兼佐世保鎭守府人事長、東京府在籍

妻　てるよ　明二八、四生、群馬、直井三郎二女

女　淑江　大四、一〇生、三輪田高女出身

女　靜子　大八、三生、三輪田高女在學

君は群馬縣人田畑啓吉の三男にして明治十九年一月一日を以て生れ昭和三年甥福司方より分れて一家を創立す明治四十年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任じ昭和三年海軍大佐に累進す其間教育本部々員第一艦隊參謀聯合艦隊參謀海軍大學校教官等に歷補し海軍々令部出仕となり歐米各國に出張し昭和四年海軍省教育局第二課長兼技術會議々員に補せられ次で伊勢艦長を經て前記現職に轉ず家族は尙三女榮子（大一二、二生）あり（佐世保市佐世保鎭守府人事部內）

田畑茂

鐵工業、兵庫縣士族

妻　富　明一六、一生、兵庫、山崎友三郎三女

男　勝男　明三七、七生

婦　幸　明四三、六生、長男勝男妻、兵庫本間魁次七女

君は兵庫縣士族田畑有隣の四男にして明治五年八月二十三日を以て生れ大正四年兄孝正の後を承け家督を相續す鐵工業を營む家族は尙庶子榮（大八、三生、生母、三重、藤倉のぶ、〇）孫博茂（昭九、二生、長男勝男長男）あり長女芳枝（明三三、一二生）は同夫隆雄（同三二、六生、石川、中村三雄二男）と共に分家し二女君子（同四一、三生）は東京府人田口郷三郎に嫁せりA三一〇（神戶市兵庫區西出町一五八**電兵庫二四〇七**）

田畑繁藏

地主、大阪府在籍

妻　多壽枝　明一四、四生、大阪、堀吉十郎四女

男　芳雄　明三一、一〇生

婦　スエノ　明三六、六生、長男芳雄妻、大阪澤邊富三郎四女

女　しづ子　明四一、一生

女　ヒサ子　明四二、六生

男　敏郎　大三、四生

君は大阪府人田畑庄三郎の長男にして明治十一年九月十七日を以て生れ同二十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫恒彦（昭四、二生）あり（大阪府人堀吉十郎長男澤邊富三郎長男壽義三に嫁せりA四八五（大阪府三島郡春日村）

參照＝吉岡利兵衛、中島壽三の項

田畑大藏

東京三興㈱常務取締役、東京運河土地㈱取締役、三野村㈱主事

妻　かん　明二三、四生、山梨、淵田鶴吉三女

君は岡山縣人中村源藏の三男にして明治三年二月十八日を以て生れ同二十二年先代たけの入夫となり家督を相續す先是同十五年同志社に入り同十七年東京に出で二松學舍に學ぶ後日本郵船會社に入り更に日本銀行書業局に轉ず同四十一年富士製紙會社に入り倉庫部長に任ぜられしも後之を辭し現時前記各會社の重役たり日本音樂俳諧俳畫等に趣味を有す家族は尙孫美津子（大一一、七生、亡二男秀次郎長女）あり**A三四〇**（東京市深川區清澄町二ノ三ノ一**電本所一〇三七**）

田畑守吉

大牟田市會議員、大牟田商工會議所會頭、有明商事㈱社長、荒尾魚市場各㈱取締役、大牟田運送、日の出セメント各㈱相談役、海運、並石油業、熊本縣在籍

妻　わさ　明二六、二生、熊本、德岡卯之吉三女

養子　愛知　大七、三生、熊本、田畑傳一弟

君は熊本縣人田畑壽七の二男にして明治二十一年六月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す夙に熊本中學校を卒へ大牟田市に出で亡兄理吉經營の運送人夫請負業有明組に勤務し其の歿後經營の責を繼承し現に有明商事荒尾魚市場各會社々長の外前記諸會社重役を兼ね大牟田市會議員に當選する事三回昭和九年大牟田商工會議所會頭に擧げらる尙熊本縣滑石村長及大牟田消防組頭の公職に在り（大牟田市不知火町**電二〇一七・二五〇一**）

田端幸三郎

從四位勳三等、臺灣總督府專賣局長、和歌山縣在籍

妻　こま　明三〇、一生、東京、士、水口兵次郎二女

君は和歌山縣人田端幸七の二男にして明治十九年二月を以て生る同四十四年文官高等試驗に合格し翌四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す爾來神奈川縣大阪府各屬高知縣理事官臺灣總督府警視兼同府警務官臺灣總督府州事務官同府地方理事官臺北市長臺灣總督府州知事等に歷任し昭和七年臺灣總督府專賣局長に任ぜられ今日に至る家族は尙長女佐智子（大一〇、三生）二女尙子（同一二、一生）三女治子（昭二、一一生）四女道代（同六、六生）の外亡兄傳吉妻コイト（明一三、九生、和歌山、植山正雄養妹）同長男幸一（同三五、二生、現戶主）其妻ミチエ（同四四、五生、和歌山若野爲吉孫）及其弟妹あり姪富美子（同四一、四生、亡兄傳吉長女）は和歌山縣人鹽崎萬太郎甥德男に嫁せり（臺北市兒玉町官舍**電五七**）

參照＝植山正雄の項

田端重晟

北里研究所事務部長、養生園實計主幹、埼玉縣在籍

父　精三　天保一四、四生、虎槌州、書家

男　重一　明三四、六生、早大文學部出身

女　八重　明四三、六生、府立第三高女出身

君は埼玉縣人田端精三の長男にして元治元年四月十二日を以て生れ大正八年家督を相續す少壯にして東京に出で曙谷晩香塾に入り漢學を修め成瀨大城に就き書を學ぶ進んで慶應義塾に入り卒業後直に東京日日新聞記者となり更に中外商業新報の創刊に盡し同記者となり次で北海道炭礦鐵道會社員たりしが明治二十六年福澤諭吉の推擧に依り北里博士の養生園創立事務に從事し爾來會計主幹として勤續するの外大正三年北里研究所

設立せらるゝや入りて其事務部長となり今日に至る重厚なる人格を稱せらるA三二九（東京市芝區白金三光町八三）

田端要平

母　かよ　東京府在籍　田端商店㈱代表取締役、毛織物商
妻　てる　憲兄、一〇生、東京、山口熊次郎三女
男　正巳　明一九、一生、東京、小峯得次郎姉
養子　せいい　大六、一生
男　大五、七生、埼玉、武政彌之吉孫

君は東京府人田端貫三の長男にして明治十三年五月十二日を以て生れ昭和四年家督を相續す毛織物商を營み獨自の業容を展開し現に田端商店代表取締役として知らるる家族は伺四男章治（大一二、九生）愛子（同一一〇、六生、東京、野村精一郎長女）あり妹なか（明二二、一生）は東京府人上野金三郎に嫁せりA一三〇六B三三四（東京市神田區須田町二ノ一九ノ三電渡花五七三三）

參照＝山口熊次郎の項

田幡鉄太郎

妻　てい　總一郎　大五、三生、市立第二中學在學
男　昭二三、四生、東京、野口ちか姉

君は長野縣人田幡直温の長男にして明治七年五月を以て生れ同十三年家督を相續す日露戰役に從軍し兒玉參謀總長の幕下に屬し特殊書技として勤務勳功に依り勳七等青色桐葉章及功七級金鵄勳章を下賜せられ戰後引續き鐵嶺居留民團長を奉職せり後實業界に投じ縱橫の手腕を發揮して飛躍を試み漸次地歩を礎き現時王子製紙會社相談役秘書北海道電燈會社及大川田中事務所社長秘書役にして前記諸會社の重役として知らる性豪邁然諸を重んじ内外の信望篤し妹直（明一一、九生）は埼玉縣人中島大作に嫁せりA五五六八（東京市下谷區中根岸町一八電根岸二四〇）

田林喜三郎

妻　コト　明工業㈱取締役、東京府在籍
男　利郎　明二九、二生、栃木、鍋本清八姉
男　榮二　明四一、二生
女　君子　大四、五生

君は東京府人田林勝之助の三男にして同豊之助同菊三郎の弟なり明治十五年三月十六日を以て生れ同四十年家督を相續す夙に實業界に入り現時大北產業丸ノ内ホテル各銀行會社の重役たり家族は伺四男博（大九、一二生）あり父勝之助は母ヒテ兄豊之助今木山谷町一五二電四谷五七四）

參照＝田林豊之助、田林菊三郎の項

田林菊三郎

妻　千代　東京府多額納稅者、東京株式取引所取引員、東京府在籍
男　勝治郎　明三三、一生、東京、小倉正一妹
男　秀三　明四三、七生
女　喜代　大八、八生

君は和歌山縣人田林勝之助の二男にして同豊之助の弟同喜三郎の兄なり明治六年十月二十七日を以て生れ昭和九年長男巳之一方より分れて一家を創立す現時東京株式取引所株式一般短期實物國債取引員にして東京府多額納稅者たり家族は伺四男信行（大一二、九生）あり（東京市日本橋區兜町一ノ四電茅場町目三二二〇至三二二九）

參照＝田林豊之助、田林喜三郎の項

田林豊之助

母　ヒテ　大北產業、丸ノ内ホテル各㈱社長、田林商店㈱務取締役、帝國火藥工業㈱取締役、東京府農工銀行㈱監査役、東京府在籍
男　豊一　明三九、一一生、長男豊一妻、大阪、井上治兵衛二女
婦　春江　大三、一生
男　健三　大三、一生

君は大阪府人田林勝之助の長男にして同菊三郎同喜三郎の兄なり明治二年九月二十二日を以て生れ大正五年家督を相續す家主にして仲買業を營む家族は伺四男正吉（大五、三生）和夫（昭四、二生、長男豊一長男）同康子（同五、七生、同長女）同房子（同六、一〇生、同二女）あり二男善次（明三六、一二生）は分家せりA三八二（大阪市住吉區住吉六〇七ノ三電天下茶屋二一三七）

參照＝田林菊三郎、田林喜三郎の項

田原和男

母　トキ　從四位勳四等、元南洋廳長官　東京府士族
妻　榮子　安政二、八生、島根、石飛長太郎妹
男　節郎　明二五、五生、男爵若槻禮次郎長女、女子學習院出身
女　隆子　大三、一生、武藏高校在學　大五、九生、日本女大附屬高女出身

君は島根縣士族田原稻美の二男にして明治二十年四月を以て生れ大正七年家督を相續す同元年文官高等試驗に合格翌年東京帝國大學英法科を卒業し爾來稅務監督局屬兼大藏屬司稅官稅務監督局事務官臨時議院建築局事務官大藏事務官京都市助役内閣總理大臣秘書官兼内閣書記官拓殖書記官兼内閣書記官外務書記官等に歷任し昭和六年拓務省殖產局長に任ぜられ同年十月南洋廳長官に轉じ翌七年官を辭す爾に倫敦に於ける海軍々縮會議全權委員隨員を仰付けられ出張す家族は伺二男如矢（大八、一一生）あり（東京市本郷區上富士前町一四四四電大塚二八三）

參照＝男爵若槻禮次郎の項

田原吉太郎

母　たけ　地家主　東京府在籍
妾　サダ　明二、一一生、先々代祖父吉五郎長女
男　吉郎　明二四、一二生、東京、齋藤才助七女
男　鐵郎　明四四、九生
女　榮子　大三、一生
男　大八、一生

君は東京府人先代吉五郎の二男にして明治二十一年十二月を以て生れ同四十年家督を相續す地家主として知らるる家族は伺三男實郎（大一〇、四生）四男秀郎（同一二、六生）二女雪子（同一四、七生）三女清江（昭六、九生）あり弟信夫（明三八、一生）同妻イネ（同三八、一〇生、東京、柴田男二郎五女）は其一男を伴ひ分家せりA一四八一（東京市牛込區白銀町五電牛込二三四六）

參照＝※大澤吉義の項

田原久吉

妻　カヨ　田原製作所、機械製作業　島根縣士族
男　正夫　明一七、一生、島根、士、齋藤壽亮二女
婦　千代子　明四三、五生
女　清子　明四三、八生、長男正夫妻、島根、津守直近妹
男　房之助　大四、一生
男　大四、一二生

君は島根縣人澄川爲四郎の三男にして明治六年五月を以て生れ同三十五年先代カヨの入夫となり家督を相續す同三十四年東京高等工業學校機械科を卒業し田原製作所と稱し機械製作業を營む曩に久原鑛業會社伯島製作所長たりし事あり家族は伺七女愛子（大九、八生）あり長女節子（明三九、三生）は島根縣人經濟學士大谷庸介に二女藤（同四二、九生）は岡山縣人工學士宮島二郎に嫁せりA八〇八三B一五二〇（東京市小石川區高田豊川町三七電小石川二三〇四）

田原次郎

家主　大阪府在籍
母　その　明八、九生、大阪、松井吉助二女
君は大阪府人田丸太七の二男にして明治三十六年四月十四日を以て生れ大正十一年家督を相續す家主たり家族は伺姉チヨ（明三二、一〇生）弟三郎（同三九、二生）妹貞（同四一、一生）弟四郎（同四四、九生）妹道（大四、三生）ありA七四八（神戸市須磨區須磨浦通六ノ一二〇電須磨一七四三）

田原得三

妻　禮　海軍漢樓大佐、前横濱船渠㈱常務取締役、東京府在籍
男　正矩　明一九、六生、大分、賀來勝太郎長女
男　芳　明三九、一〇生
婦　芳　明四五、二生、長男正矩妻、東京
男　英夫　大二、三生
女　明　大八、一二生

君は兵庫縣士族田原正齋の二男同豊の弟同正人の兄にして明治十年十一月二十日を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す先是同三十四年東京帝國大學工科大學機械科を卒業す曩に横濱船渠會社常務取締役たり家族は伺四男裕（大四、一〇生）六男晴男（同一四、四生）三女奈川縣人安藝杏一二男悌一に嫁せりA一三〇（東京市澁谷區豊分町二電青山三八五）

參照＝田原正人、田原豊※大鳥義清の項

田原友輔

母　ナミ　住友製鋼所㈱副支配人　宮崎縣士族
妻　セツ　安政六、六生、宮崎、士、横山簀一長女
男　正邦　明二四、七生、宮崎、鬼東益三妹　大元、九生

君は宮崎縣士族田原億藏の長男にして明治十七年九月二十三日を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十年東京高等工業學校を卒業し直ちに住友製鋼所に入り昭和四年副支配人に擧げられ今日に至る曩に大正八年製鋼業視察の爲め米國に出張を命ぜらるる家族は伺二男正信（大四、三生）三男昇（同一二、二生）四男佑昭（昭三、二生）五男淳（同五、四生）あり弟友德（明二五、一生）同妻トミエ（同三七、三生、宮崎、渡邊嘉津馬二女）は其一女を伴ひ分家せりA三一一（西宮市清水町二電一〇五五）

田原正人

從四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勤務　東京府在籍
妻　菊　明二二、一生、東京、仁井田義昇長女、東京府士族
男　昭一一、一生、東京、仁井田義第一高女出身

君は兵庫縣士族田原正齋の三男同得三の弟にして明治十七年七月十三日を以て生れ大正二年兄豊方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し大正六年理學博士の學位を受け第八高等學校教授東北帝國大學助教授を歷任して同十年英米獨佛各國に留學を命ぜらる同十二年歸朝し東北帝國大學教授に任じ現に理學部勤務たり「植物形態學汎論」「細胞學總論」「一般植物學」等の著あり（仙臺市北一番丁一八）

參照＝田原得三、田原豊の項

田原豊

妻　たつ　三菱製紙㈱取締役會長、日本フエルト、日本窒素肥料、旭ベンベルグ絹絲、東京メタノール、朝鮮窒素肥料各㈱取締役、浪速製紙㈱相談役、東京府士族　江戸川工業所資有限責任社員
養子　保正　明一一、一〇生、元衆議院議員山口左一妹
養子　正子　明四一、一〇生、東京、田原得三二男
婦　喜久子　明四三、一一生、養子保正妻、兵庫、村上正輔長女
大元、一〇生、元衆議院議員山口左一六女

君は兵庫縣士族田原正齋の二男得三の兄にして明治四年三月十五日を以て生れ同三十六年家督を相續す同二十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時三菱製紙會社取締役會長にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は伺孫立夫（昭九、一生、養子保正長男）あり弟正人（明一七、七生）は同妻菊（同二二、一一生）と共に分家せりA九七三三（東京市澁谷區八幡通一ノ三六電青山三八五）

參照＝田原得三、田原正人の項

田原良郷

三井鑛山㈱技師　東京府士族
父　良純　安政二、七生、現戸主
妻　君子　明二七、五生、東京、笠井愛次郎三女
男　良男　大五、六生
女　梨枝子　大八、一生

君は東京府士族田原良純の長男にして明治十九年一月十二日を以て生る現時三井鑛山會社技師たり家族は伺二男良治（大一〇、三生）三女純子（昭二、四生）ありA四五八（東京市中野區仲町二〇電四谷六一一）

參照＝笠井愛次郎、田原良純※生野團六※石川文吾※齋藤恒一※齋藤恒三※立川龍の項

田原良純

正三位勳二等、藥學博士、帝國學士院會員、東京府士族
妻　ミノ　明二、一生、沖縄、士、青木德次郎長女
男　良郷　明一九、一生

君は舊佐賀藩士田原卯源次の長男にして安政二年七月

を以て生れ慶應二年家督を相續す明治十四年東京大學醫學部製藥學科を卒業し衞生試驗所技師兼内務技師東京衞生試驗所長等に歷任し同三十二年藥學博士の學位を受け大正十四年帝國學士院會員仰付けらる藝に日本藥學會幹事中央衞生會臨時委員日本藥局方調査會委員たり長女シゲ（明一七、一一生）は元東京市電氣局長生野閑六に四女フク（同二九、五生）は佐賀縣人工學士簑田愈吉に嫁せりA一八三（東京市中野區仲町二〇電四谷六一一）

參照＝生野閑六、田原良卿の項

田原良知

三菱銀行務經理課長
佐賀縣士族

妻　玉

男　良明

明二九、一〇生、高知、栗尾兎之助孫、高知縣立第一高女出身
大一一、二生、東京高師附屬中學在學

君は佐賀縣士族田原良則の長男にして明治二十二年三月を以て生れ後家督を相續す同四十五年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り營業部副長を經て現時同行經理課長たり藝に社命を帶び歐洲に航せし事あり謠曲釣魚に趣味を有す家族は尙二男良敏（昭六、一生）姉キヨツル（明一八、七生、佐賀縣立高女出身）弟邦三（同二五、一二生、海軍機關中佐、佐世保鎭守府附）同妻靜江（同三五、一生、神奈川、井林菊助長女、横須賀高女出身）及其三男一女ありA四二六（東京市淀野川區西ケ原町一〇〇九電王子三一四三）

田藤高輔

王子製紙㈱王子工場長
栃木縣在籍

妻　きく

明二三、九生、東京、士、小野基樹妹、成女高女出身

男　良輔

大三、三生、水戸高校在學

女　富美子

明四五、三生、共立女子專門學校

女　梳子

大六、一生、共立女子專門學校在學

君は茨城縣人古矢半三郎の二男にして明治十五年九月二十日を以て生れ先代良政の養子となり大正五年家督を相續す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し大阪商船會社に入り同四十四年王子製紙會社に轉じ同社苫小牧工場會計係長王子工場長代理王子工場長心得等を經て大正十一年同社王子工場長に擧げられ昭和八年他會社と合併後も引續き同職に在り弓道に趣味を有す家族は尙二男邦輔（大八、一生、武藏高校尋常科在學）あり A二六二（東京市王子區王子町一五電王子三二一四）

田淵勤

正八位、陸軍三等主計、東洋拓殖㈱理事、滿蒙毛織㈱取締役、朝鮮米穀㈱會庫、朝鮮運電、西鮮合同電氣、東拓鑛業各㈱監査役

妻　實乃

男　堯也

明二七年生、廣島、大石米吉二女廣島縣立第一高女出身
大三年生

女　茂子

大七年生、跡見女學校在學

君は廣島縣人田淵藤左衞門の末男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し直に東洋拓殖會社に入り爾來同社書記同參事大連支店長及本店金融係長京城各支店金融部貸付係主任同貸付課長朝鮮業務部金融主任同金融課長等に歷任し昭和六年監査課長となり次で理事に就任し同七年朝鮮駐在理事として現時前記各會社の重役を兼ね其他米穀生産費調査委員會委員朝鮮瘧豫防協會評議員鮮米協會顧問金剛山協會評議員朝鮮農會顧問等の名譽職に在り藝に昭和三年外務省囑託として南米に於ける在留邦人金融狀況調査の爲南アメリカへ出張し途次歐米各國を視察せり家族は尙二女圭子（昭二年生）あり（京城府西小門町七五電光化門一三二九）

田淵一郎

正五位勳五等、山口高等學校教授
香川縣在籍

妻　琴

明二二、八生、香川、守谷房之進長女

男　信夫

明四四、一一生、京都帝大在學

女　秀子

大六、一生、山口高女高等科在學

君は香川縣人田淵武次郎の二男にして明治十四年六月を以て生れ同三十九年兄友太郎方より分れて一家を創立す同三十四年香川縣立丸亀中學校を卒業し同三十八年築衛代數幾何三角法解折幾何の中等教員免許狀を得師に任じ秋田土木出張所勤務となり現在に至る家族は尙長女滿里子（大一一、九生）二男次郎（同一四、七生）三男誠（昭三、六生）兄直哉（明九、三生、現戸主）同妻ふさの（同一六、一生、兵庫、三宅敬治妹）及其一子ありA一七〇（東京市中野區本町通五ノ四二電中野三三四七）

參照＝神山閑次※内山安兵衞の項

田淵一郎

正五位勳五等、香川縣在籍
明二二、一生、兵庫、福尾永之助長女

妻　仁子

大六、一生

君は廣島縣人田淵藤左衞門の次男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し直に東洋拓殖會社に入り爾來同社書記同參事大連支店長及本店金融係長京城各支店金融部貸付係主任同貸付課長朝鮮業務部金融主任同金融課長等に歷任し昭和六年監査課長となり次で理事に就任し同七年朝鮮駐在理事として現時前記各會社の重役を兼ね其他米穀生産費調査委員會委員朝鮮瘧豫防協會評議員鮮米協會顧問金剛山協會評議員朝鮮農會顧問等の名譽職に在り藝に昭和三年外務省囑託として南米に於ける在留邦人金融狀況調査の爲南アメリカへ出張し途次歐米各國を視察せり家族は尙二女圭子（昭二年生）あり（京城府西小門町七五電光化門一三二九）

田淵壽

妻　實乃

男　堯也

明二七年生、廣島、大石米吉二女廣島縣立第一高女出身
大三年生

女　茂子

大七年生、跡見女學校在學

君は廣島縣人田淵藤左衞門の次男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し直に東洋拓殖會社に入り爾來同社書記同參事大連支店長及本店金融係長京城各支店金融部貸付係主任同貸付課長朝鮮業務部金融主任同金融課長等に歷任し昭和六年監査課長となり次で理事に就任し同七年朝鮮駐在理事として現在に至る尙現時前記各會社の重役を兼ね其他米穀生産費調査委員會委員朝鮮瘧豫防協會評議員鮮米協會顧問金剛山協會評議員朝鮮農會顧問等の名譽職に在り藝に昭和三年外務省囑託として南米に於ける在留邦人金融狀況調査の爲南アメリカへ出張し途次歐米各國を視察せり家族は尙二女圭子（昭二年生）あり（京城府西小門町七五電光化門一三二九）

田淵勤

正八位、陸軍三等主計、滿蒙毛織㈱取締役、朝鮮米穀㈱會庫、朝鮮運電、西鮮合同電氣、東拓鑛業各㈱監査役

妻　實乃

男　堯也

明二七年生、廣島、大石米吉二女廣島縣立第一高女出身
大三年生

女　茂子

大七年生、跡見女學校在學

君は廣島縣人田淵藤左衞門の末男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し直に東洋拓殖會社に入り爾來同社書記同參事大連支店長及本店金融係長京城各支店金融部貸付係主任同貸付課長朝鮮業務部金融主任同金融課長等に歷任し昭和六年監査課長となり次で理事に就任し同七年朝鮮駐在理事として現在に至る尙現時前記各會社の重役を兼ね其他米穀生産費調査委員會委員朝鮮瘧豫防協會評議員鮮米協會顧問金剛山協會評議員朝鮮農會顧問等の名譽職に在り藝に昭和三年外務省囑託として南米に於ける在留邦人金融狀況調査の爲南アメリカへ出張し途次歐米各國を視察せり家族は尙二女圭子（昭二年生）あり（京城府西小門町七五電光化門一三二九）

田淵一郎

正五位勳五等、山口高等學校教授
香川縣在籍

妻　琴

明二二、八生、香川、守谷房之進長女

男　信夫

明四四、一一生、京都帝大在學

女　秀子

大六、一生、山口高女高等科在學

君は香川縣人田淵武次郎の二男にして明治十四年六月を以て生れ同三十九年兄友太郎方より分れて一家を創立す同三十四年香川縣立丸亀中學校を卒業し同三十八年築衛代數幾何三角法解折幾何の中等教員免許狀を得師に任じ秋田土木出張所勤務となり現在に至る家族は尙長女滿里子（大一一、九生）二男次郎（同一四、七生）三男誠（昭三、六生）兄直哉（明九、三生、現戸主）同妻ふさの（同一六、一生、兵庫、三宅敬治妹）及其一子ありA一七〇（東京市中野區本町通五ノ四二電中野三三四七）

參照＝神山閑次※内山安兵衞の項

田淵京次郎

正五位勳四等、金澤高等工業學校教授、兵庫縣在籍

妻　綾瀨

明二七、一生、兵庫、西村幸之助長女

男　敬幸

大七、二生

女　清香

大五、五生

君は兵庫縣人田淵惣右衞門の弟にして明治十八年八月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正元年名古屋高等工業學校教授に任じ同八年英米佛各國に留學し歸朝後金澤高等工業學校教授に任じ現在に至る家族は尙三男久（大一二、一二生）四男蕃（同一五、三生）五男遜（昭二、八生）あり（金澤市本多町二番丁六ノ二七）

參照＝田淵榮次郎の項

田淵榮次郎

妻　壽賀惠

男　理一郎

明三三、一生

婿　文子

明三八、五生、長男理一郎妻、京都、佐々木藤吉長女

君は和歌山縣人田淵善兵衞の二男にして同卯三郎の甥同豊吉の兄なり明治六年十二月二十一日を以て生れ大正六年家督を相續す遺業酒造業を營み傍ら御坊臨港鐵道會社々長の外前記銀行會社の重役を兼ね直接國稅千四百圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫順一郎（昭二、三生、長男理一郎長男）同達二（同六、四生、同二男）同研三（同九、一生、同三男）あり（和歌山縣日高郡御坊町電二一）

參照＝田淵豊吉※植本吉治郎の項

田淵榮次郎

和歌山縣多額納稅者、御坊臨港鐵道㈱社長、日高物産㈱取締役會長、日高銀行、大分セメント各㈱取締役、南海信託㈱監査役、酒造業、白濱温泉土地㈱和談役

妻　壽賀惠

男　理一郎

明三三、一生

婿　文子

明三八、五生、長男理一郎妻、京都、佐々木藤吉長女

君は和歌山縣人田淵善兵衞の二男にして同卯三郎の甥同豊吉の兄なり明治六年十二月二十一日を以て生れ大正六年家督を相續す遺業酒造業を營み傍ら御坊臨港鐵道會社々長の外前記銀行會社の重役を兼ね直接國稅千四百圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫順一郎（昭二、三生、長男理一郎長男）同達二（同六、四生、同二男）同研三（同九、一生、同三男）あり（和歌山縣日高郡御坊町電二一）

參照＝田淵豊吉※植本吉治郎の項

田淵敬治

正五位勳五等、農林書記官、大臣官房會計課長、兵庫縣在籍

妻　絢子

明三二、一二生、東京、神山閑次二女

男　一郎

大九、八生

君は兵庫縣人田淵彦左衞門の五男にして明治二十一年十二月一日を以て生る大正五年文官高等試驗に合格し同六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業す爾來農商務屬臨時産業調査局事務官農商務事務官兼農商務省參事官等に歷任し昭和四年農林書記官に任じ農務局農政課長を經て現時大臣官房會計課長たり藝に歐米各國に出張す家族は尙長女滿里子（大一一、九生）二男次郎（同一四、七生）三男誠（昭三、六生）兄直哉（明九、三生、現戸主）同妻ふさの（同一六、一生、兵庫、三宅敬治妹）及其一子ありA一七〇（東京市中野區本町通五ノ四二電中野三三四七）

參照＝神山閑次※内山安兵衞の項

田淵幸三郎

釧路市會議員、釧路商工會議所議員、明治商會㈱專務取締役、釧路自動車㈱取締役、米穀雜貨並船具商、北海道在籍

妻　タケ

明二七、三生、北海道、神保盛三長女

男　玖一

大二、五生

君は和歌山縣人田淵嘉藏の二男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す米穀雜貨並船具商を營み傍ら前記各會社の重役にして現に推されて釧路市會議員並に釧路商工會議所議員たり家族は尙庶子秀二（大六、一二生、生母、北海道、小野スエ）あり（釧路市大町四ノ三電二八）

田淵史郎

從五位勳六等、判事、大阪控訴院判事、大阪府在籍

妻　壽榮

明二九、一生、大阪、市澤信五郎長女、金龍會高女出身

男　哲男

昭三、九生

君は大阪府人田淵乾三郎の弟にして明治二十四年七月十九日を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同八年判事に任じ爾來神戸山形各地方奈良區同地方京都地方各裁判所判事に歷任し現に大阪控訴院判事たり家族は尙長女千代子（大一二、一生）あり（大阪市東區内平野町二ノ四一）

田淵壽郎

正五位勳五等、内務技師、大阪土木出張所勤務、廣島縣在籍

妻　常代

明二七、五生、廣島、佐々木慈長女、東京女子美術學校出身

男　常太郎

大六、五生

君は廣島縣人にして明治二十一年三月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す爾來農商務屬臨時産業調査局事務官農商務事務官兼農商務省參事官等に歷任し昭和四年農林書記官に任じ農務局農政課長を經て現時大臣官房會計課長たり藝に歐米各國に出張す家族は尙長女滿里子（大一一、九生）二男次郎（同一四、七生）三男誠（昭三、六生）兄直哉（明九、三生、現戸主）同妻ふさの（同一六、一生、兵庫、三宅敬治妹）及其一子ありA一七〇（東京市中野區本町通五ノ四二電中野三三四七）

田淵順藏

御影屋、石材商
東京府在籍

妻　キミ

明二九、八生、東京、川崎原治長女

男　東

君は香川縣人田淵常藏の二男にして明治十五年一月十五日を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す御影屋と稱し石材商を營む（東京市本所區緑町二ノ一八ノ三電本所三七一〇）

田淵新一郎

兵庫縣多額納稅者、保證責任赤穗東濱信用購買利用組合長、製鹽業
地、兵庫縣在籍

母　たね

明二、八生、兵庫、小西牧太郎叔母

妻　幸子

大三、二生、兵庫、平尾源太夫長女、大阪樽屋高女家庭科出身

君は兵庫縣人田淵新作の男にして明治三十五年五月二日を以て生れ大正十四年家督を相續す昭和二年農應義塾大學法學部政治科を卒業し家業を繼ぎ製鹽業を營み所有し現に前記信用購買利用組合長に推さる直接國稅五千七十六圓を納め縣下の多額納稅者たり又公共事業に盡瘁する所尠からず昭和三年紺綬褒章を下賜せらる麻雀ピアノに趣味を有す家族は尙妹タミ（明四〇、三生、京都府立第一高女高等科出身）あり（兵庫縣赤穗郡新濱村三二九）

田淵豊吉

元衆議院議員
東京府在籍

妻　綾瀨

明二七、一生、兵庫、西村幸之助長女

男　敬幸

大七、二生

女　清香

大五、五生

君は兵庫縣人田淵惣右衞門の弟にして明治十八年八月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正元年名古屋高等工業學校教授に任じ同八年英米佛各國に留學し歸朝後金澤高等工業學校教授に任じ現在に至る家族は尙三男久（大一二、一二生）四男蕃（同一五、三生）五男遜（昭二、八生）あり（金澤市本多町二番丁六ノ二七）

田淵仁一郎

東播合同銀行、大志銀行各㈱取締役、兵庫縣在籍

妻　ちよう

明二一、一生、兵庫、福尾永之助長女

男　仁

大三、一二生

女　末子

大六、一生

君は兵庫縣人田淵吉太郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ同三十八年祖父仁兵衞の後を承け家督を相續す現時東播合同銀行大志銀行各取締役たり養に加茂村長に推さる家族は尙二男義之（大七、五生）五女禮（同一〇、三生）三男信三（同一三、一生）あり長女隆子（明四二、一一生）は兵庫縣人木戸達雄に縁いま（同二二、一一生）は同縣人田淵辨之助長男計治に嫁せり（兵庫縣加東郡加茂町電瀧野二七）

田淵春司

紡織用品商
大阪府在籍

母　たけ

明三、一〇生、大阪、大塚重兵衞長女、大阪樽屋高女家庭科出身

妻　ひさの

明二九、七生、兵庫、玉田庄左衞門四女

男　一

大七、二生

君は大阪府人田淵丑松の長男にして明治二十四年十月八日を以て生れ昭和三年家督を相續す紡織用品商を營む家族は尙長女澄榮（大九、三生）あり弟喜一（明三三、一生）同妻好子（同三七、一生、和歌山、中筋好之助三女）は其一女を伴ひ弟正雄（同三四、九生）同妻ひさ（同三七、七生、大分、森秀太長女）は其一男を伴ひ各分家し妹信枝（同四四、五生）は大阪府人門勝三郎三男

勝重に嫁せりA二四一B七五（大阪市西區立賣堀北町二一電新町一二七）

田巻七兵衛　玉木屋新橋支店、個査商
東京府在籍
妻　しま　明二〇、四生、養父七兵衛長女
和　大四、一生
君は東京府人後藤作右衛門の四男にして明治五年九月六日を以て生れ先代しまの入夫となり同四十三年家督を相續し前名榮五郎を改め襲名す個査商を營み玉木屋新橋支店を經營す養妹まさ（明二五、五生）は東京府人上村重松に嫁せりA八七八（東京市芝區新橋一ノ四電銀座二四七四）

田町正譽　正五位勳四等、九州帝國大學教授
兼農林技師、農學部勤務
東京府士族
妻　トキ　明三二、九生、長野、渡邊嘉平太長女
男　常夫　大一一、一〇生
君は東京府士族田町興三郎の三男にして明治二十五年六月を以て生れ大正十四年家督を繼ぐ同六年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し翌七年農商務技手となり爾來臨時産業調査局技師農商務技師九州帝國大學助教授兼農林技師等に歴任し昭和三年歐米各國に留學を命ぜらる歸朝後同五年前記現職に進み農林技師を兼ぬ家族は尚長女豊子（大一四、一生）同二男良夫（昭二、五生）弟以信男（明二九、一一生、北海道帝國大學助教授）同妻富子（同三七、一二生、男爵深尾隆太郎長女、九段精華高女出身）及其一子弟鐵志男（同三一、一生）同幸多見（同三三、一生）妹和子（同四一、六生）伯母エイ（安政六、七生）あり妹瓊子（明三九、五生）は宮城縣人松川敏胤四男五郎に嫁せり（福岡市城西橋通一七）

田丸市次郎　正八位、陸軍輜重兵少尉、京都府在籍
多額納稅者、地家主、京都府在籍
妻　操　明三一、二生、京都、植村德次郎長女、京都府立第一高女出身
君は京都府人田丸伊太郎の長男にして明治二十一年五月三日を以て生れ大正九年家督を相續す地家主にして直接國稅千八百七十九圓を納め京都府多額納稅者たり又能筆を嗜み大正九年能筆家元の春日家を繼承し斯道に於て春日市右衛門として知らる妹千榮（明二四、三生）は兵庫縣人中井利兵衛に嫁し弟三次郎（同三二、二生）は分家せり（京都市右京區太秦安井車道一七電西陣三一四六）

田丸龜吉　東光園、植木貸付業
東京府在籍
妻　はな　明二二、一生、東京、今井留吉長女
男　實　大五、二生
君は東京府人田丸巳之助の三男にして明治二十二年三月六日を以て生れ大正三年兄岩吉方より分れて一家を創立す東光園と稱し植木貸付業を營む家族は尚二男次郎（大八、一〇生）三男恒雄（同一〇、三生）四男博三郎（同一二、八生）ありA一八〇B一一二六（東京市澁谷區下通五ノ三五電高輪七六五三）

田丸正吉　保險代理業、地主
東京府在籍
妻　コヨ　明三一、五生、東京、田丸銀三郎四女
男　喜代春　大九、六生
君は東京府人田丸金太郎の二男にして同總一郎の叔父に當り明治三十五年四月四日を以て生れ大正五年分れて一家を　立す保險代理業を營み地主たり家族は尚長女松野（大一一、九生）二女八重梅（同一四、三生）三女富美子（昭六、六生）あり A八二一（東京市澁谷區新橋町二五電高輪七三七七）
参照‖田丸總一郎の項

田丸總一郎　地主
東京府在籍
妻　文久二、四生、東京、鎮本金三郎二女
組母　ミヨ　明二六、五生、神奈川、武笠文右衛門二女
母　ユキ
君は東京府人田丸金七の長男にして同正吉の甥なり大正六年二月八日を以て生れ同十五年家督を相續す地主たり家族は尚妹加代（大八、八生）同光野（同一二、八生）同豊（同一五、一生）叔母かね（明二八、三生）あり A一〇〇六（東京市澁谷區新橋町二五電高輪七三七七）
参照‖田丸正吉の項

田丸多滿吉　地主
東京府在籍
妻　つま　明一二、四生、東京、河野森之助長女
男　親男　大五、一〇生
女　富子　明四〇、三生
多喜子　明四三、一生
君は東京府人田丸吉三郎の長男にして明治八年五月二十三日を以て生れ同二十七年家督を相續す地主にして資産家たり A七八四（東京市澁谷區下通一ノ九電高輪七九二五）

田宮嘉右衛門　神戸製鋼所㈱社長、日本冶金、日本エヤブレーキ、東京無線電機紡機製造各㈱取締役、兵庫縣在籍
妻　かね　明八、二生、兵庫、井上たき妹
男　敏一　明三二、九生、生命保險代理店經營
明四一、九生、長男敏一妻、愛媛岡田悅三二女
婿　登美子
男　猛　明四二、一生、拓大在學
男　鐵四郎　明四四、九生、慶大在學
男　銅　巌　大二、一一生、關西學院在學
君は愛媛縣人田宮治助の三男にして明治八年八月二十九日を以て生れ同三十七年先伊平方より分れて一家を創立す現時神戸製鋼所取締役社長たる外前記各會社の重役たり家族尚六男直喜（大六、八生、關西學院在學）孫裕子（昭二、一一生、長男敏一長女）同正子（同四、五生、同二女）同澄子（同八、四生、同三女）あり二男豊治（明三五、三生、經濟學士）は同妻眞佐（同四一、四生、宮崎、士、四位眞助長女）と共に分家し長女滿壽子（同三七、一〇生）は高知縣人士族市川一郎に二女美代（同三九、一一生）は島根縣人小川熹弟醫學博士筌に嫁せりA二六九一（兵庫縣武庫郡精道村芦屋平田四二七電芦屋二五〇二）

田宮惣左衛門　地主
東京府在籍
母　けい　安政三、二生、祖父惣左衛門長女
妻　久子　明三八、九生、東京、冠樾四郎三女
女　まさ子　大八、一一生
當家は元祿時代より日暮里町に土着して代々農を以て渡世し名主等の公職に在りたり君は先代惣左衛門の四男にして明治二十八年十二月二十二日を以て生れ大正十一年家督を相續し前名美四瑠を改め襲名す地主たり
義に日暮里町長に擧げられしことあり謠曲を誤むA二八五七（東京市荒川區日暮里町四ノ二二電下谷五六八八）

田宮猛雄　正五位勳四等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、傳染病研究所員、大阪府士族
妻　佳子　明三二、二生、元宮城控訴院長清水一郎二女
男　春雄　大七、三生
君は大阪府士族田宮之春の三男にして明治二十二年一月を以て生れ大正二年家督を相續す同四年東京帝國大學醫科大學を卒業し翌年傳染病研究所技手に任じ同七年技師となり同十三年米獨各國に留學を命ぜられ同年醫學博士の學位を授與せらる昭和二年東京帝國大學教授に任じ現時醫學部勤務にして兼ねて傳染病研究所々員たり家族は尚長女政子（大九、三生）二男信男（同一一、七生）二女久子（同一三、八生）三女豊子（昭三、四生）四女昭子（同四、八生）あり姉サヨ（明一九、一二生）は大阪府人山田穩に妹寡佐（同二四、三生）は京都府人士族内山正行四男正也に同ミサ（同二七、八生）は醫學博士佐竹清に嫁し弟策郎（同二九、一〇生）は京都府人村田廣の入夫となり同博（同三六、一生、理學博士）は分家せりA二八三（東京市品川區上大崎中丸四四四電高輪三五七五）

田宮鐵太郎　日比谷商店員
東京府在籍
繼母　ふく　慶應三、一生、東京、三木鐵之助長女
妻　登美子　明三〇、一生
男　金次郎　大一五、八生
君は東京府人田宮孝三郎の長男にして明治十九年三月十八日を以て生れ大正二年家督を相續す現に株式會社日比谷商店に勤務す家族は尚二女富志（大一二、四生）三男滋夫（昭七、一生）ありA三七九（東京市下谷區上野櫻木町二）

田宮篤太郎　從四位、男爵
愛知縣華族
父　鈴太郎　文久元、八生、從三位
母　かゞ　明元、七生、愛知、江崎正一三女
男　康　大五、六生
女　靜子　大七、一生
當家は先々代如雲より家名を揚ぐ如雲は舊尾州藩士にして擢でられて城代となり維新の際藩主を佐けて勤王の功勞なからず長男兵治其後を享け先代鈴太郎に至る鈴太郎は兵治の長男にして夙に漢籍を佐藤牧山に學び明治三十年組父の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治二十年十一月十二日を以て生れ昭和七年家督を相續す同年東京帝國大學卒業し同年十一月二女禎子（大一〇、一一生）六男輝久（昭八、三生）あり五男長俊（昭五、九生）は愛知縣人士族内久吉の養子となり弟晉（明二八、七生）同妻とみえ（同三八、四生、愛知中村はる女）は其子女を伴ひ分家し叔母まさ（同二、一二生）は愛知縣人和田信一郎に同なを（同四、一二生）は同縣人加藤英二に嫁し叔父時彦（文久三、一〇生）は分家せり（名古屋市南區呼續町岩戸八）

田村市松　家主
大阪府在籍
妻　アサノ　明一六、二生、大阪、朝倉綾太妹
男　清一　明三九、九生
嬶　君子　明四一、一生、長男清一妻、東京、杉山絲長女
君は大阪府人田村清五郎の長男にして明治六年三月四日を以て生れ同三十年家督を相續す家主たり義に松竹合名會社理事松竹土地建物興業會社幕内部長たりし事あり家族は尚孫勝喜子（昭六、一生、長男清一長女）同富貴子（同七、三生、同二女）同市子（同八、一〇生、同三女）あり庶子太郎（大五、三生、生母、愛知、鵜飼とを）は大阪府人重春たけの養子となれりA九一二（大阪市南區餘谷仲之町三三電南一一三三）

田村市郎　日本汽船㈱社長、オリエンタルホテル、日本毛絲紡績日伯拓殖、昭和相談役、各㈱取締役、共同漁業㈱社長、兵庫縣在籍
妻　りゅう　明三、五生、兵庫、土田文次姉
養子　啓三　明二三、二生、近藤敬次郎二男
養子　浩之介　明三、九生、二女治子夫、岡山
父　鈴太郎　文久元、八生、從三位
母　かゞ　明元、七生、愛知、江崎正一三女
男　康　大五、六生
女　靜子　大七、一生
當家は先々代如雲より家名を揚ぐ如雲は舊尾州藩士にして擢でられて城代となり維新の際藩主を佐けて勤王の功勞なからず長男兵治其後を享け先代鈴太郎に至る鈴太郎は兵治の長男にして夙に漢籍を佐藤牧山に學び明治三十年組父の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治二十年十一月十二日を以て生れ昭和七年家督を相續す同年東京帝國大學卒業し同年十一月二女禎子（大一〇、一一生）六男輝久（昭八、三生）あり五男長俊（昭五、九生）は愛知縣人士族内久吉の養子となり弟晉（明二八、七生）同妻とみえ（同三八、四生、愛知中村はる女）は其子女を伴ひ分家し叔母まさ（同二、一二生）は愛知縣人和田信一郎に同なを（同四、一二生）は同縣人加藤英二に嫁し叔父時彦（文久三、一〇生）は分家せり（名古屋市南區呼續町岩戸八）

田村卯兵衛　農業並金融業
大阪府在籍
妻　カノ　文久三、一〇生、大阪、辻江文助長女
男　宏三郎　明一八、五生
嬶　ルイ　明二八、四生、長男宏三郎妻、大阪、宮下鐵五郎三女
孫　フサ　大元、八生、長男宏三郎長女
孫　ミツ　大二、一二生、長男宏三郎二女
孫　マス　大三、一一生、長男宏三郎三女
君は大阪府人先代卯兵衛の長男にして文久二年二月二十七日を以て生れ明治十三年家督を相續し襲名す農業並金融業を營み資産家として其名を知らる家族は尚孫卯一（大五、一一生、長男宏三郎長男）同桂市（同一二、一二生、同二男）同好子（同一四、二生、同四女）あり長女テイ（明一七、一生）は兵庫縣人谷川みの養子得次郎に二女エツ（同二二、一生）は大阪府人和久新三郎に四女タキ（同二五、四生）は同府人島田民美長男壽住に嫁し二男西三（同二九、五生）は同府人谷川得次郎に孫種三郎（大一一、八生、長男宏三郎庶子、生母、兵庫、西山たねゑ）は同府人上村彌五郎に各養子となれりA二〇三三B一六一（大阪市東淀川區宮原町電三國三一）

田村榮一　辯護士
青森縣在籍
母　よし　明六、一一生、小田桐久藏女
妻　キミ　明三二、六生、青森、小山忠次郎長女
男　群一　大一三、四生
君は青森縣人田村捨藏の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相續す同五年東京帝國大學

女　治子　明四二、二生、養子浩之介妻
君は元遞信大臣久原房之助の兄にして齋藤浩介の叔父なり慶應二年一月二十七日を以て生れ明治二十八年先代コウの養子となり家督を相續す現時日本汽船會社長たる外前記諸會社の重役たり A二八四四（神戸市湊區平野町天王谷西眼山三四二電長元町九八五）
参照‖久原房之助、齋藤浩介、田村啓三※青山士※山本忠興の項

田村啓三　農業並金融業
大阪府在籍
妻　カノ　文久三、一〇生、大阪、辻江文助長女
男　宏三郎　明一八、五生
嬶　ルイ　明二八、四生、長男宏三郎妻、大阪、宮下鐵五郎三女
孫　フサ　大元、八生、長男宏三郎長女
孫　ミツ　大二、一二生、長男宏三郎二女
孫　マス　大三、一一生、長男宏三郎三女
君は大阪府人先代卯兵衛の長男にして文久二年二月二十七日を以て生れ明治十三年家督を相續し襲名す農業並金融業を營み資産家として其名を知らる家族は尚孫卯一（大五、一一生、長男宏三郎長男）同桂市（同一二、一二生、同二男）同好子（同一四、二生、同四女）あり長女テイ（明一七、一生）は兵庫縣人谷川みの養子得次郎に二女エツ（同二二、一生）は大阪府人和久新三郎に四女タキ（同二五、四生）は同府人島田民美長男壽住に嫁し二男西三（同二九、五生）は同府人谷川得次郎に孫種三郎（大一一、八生、長男宏三郎庶子、生母、兵庫、西山たねゑ）は同府人上村彌五郎に各養子となれりA二〇三三B一六一（大阪市東淀川區宮原町電三國三一）

田村榮一　辯護士
青森縣在籍
母　よし　明六、一一生、小田桐久藏女
妻　キミ　明三二、六生、青森、小山忠次郎長女
男　群一　大一三、四生
君は青森縣人田村捨藏の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相續す同五年東京帝國大學

法科大學獨法科を卒業し辯護士たり養に日本活動寫眞會社總務部長の外明治漁業會社監査役たりし事あり家族は尙長女久美子(大一一、六生)弟修(明三七、二生)同貫(同四〇、一生)妹ケウ(大四、三生)あり弟實(明二六、三生)は分家し同豊(同二九、一生)も亦同妻である(同四〇、一一生、青森、櫻田銀次郎二女)を伴ひ分家し同除(三一、一一生)は東京府人井上井の樂子となり妹イク(同三四、三生)は福島縣人伊東俊實に嫁せり(東京市淀橋區戸塚町三ノ九五三電牛込四二五九)

田村於兎

妻　淑　明二一、九生、樂父玄泰二女
親　大五、九生
男　君は福島縣士族吉田扶の七男にして杉本五十鈴の弟吉田浩の兄なり明治十六年三月を以て生れ先代玄泰の養子となり大正八年家督を相續す明治四十二年東都帝國大學福岡醫科大學を卒業し助手として同大學に留り同四十四年九州帝國大學醫科大學助教授に任じ大正元年病理學研究の爲獨逸に留學す歸朝後同四年岡山醫學專門學校教授に任ぜられ同十一年岡山醫科大學教授兼同大學附屬醫學專門部教授に任じ昭和六年同大學長に陞進し教授を兼ね今日に至る家族は尙二男穣(大七、九生)三男潤(同九、一二生)四男正(同一四、一生)の外養弟晳二(明二七、七生)同妻てい(同二八、九生、千葉、安川尙妹)及其二子あり(岡山市門田一一五三電四一七九)

參照‖杉本五十鈴、吉田浩の項

田村貫一

男　通朗　大三、二生
女　和子　大六、一一生
君は東京府人田村英二の四男同彰一の弟にして明治十四年一月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十六年慶應義塾大學部理財科を卒業し現時東京電氣會社職員にして又日本放送協會監事たり尙二男泰男(大五、三生)三男禎男(同九、一生)二女京子(同一二、三生)あり(東京電氣株式會社東京府在籍　日本放送協會本部監事兼關西支部監事)

田村久八

妻　竹　明九、一生
男　潤太郎　明三九、一生
男　亮次郎　明四三、四生
男　續三郎　大二、八生
君は熊本縣人田村仙次郎の二男にして明治九年十一月二十九日を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記各會社の重役にし縣下の多額納稅者に列し直接國稅四千百四十七圓を納む家族は尙三女千代(大一〇、二生)の外亡兄仙次郎の子女及叔父甚三郎(嘉永五、二生)あり長女喜美(明三二、一〇生)は熊本縣人山内醫吉に嫁し四男康四郎(大四、七生)は同縣人玉城直太郎の養子となり甥朔(明四三、三生、亡兄仙次郎庶子)は分家せり(熊本市迎町三九電長八八〇)

熊本縣多額納稅者、昭和工業、熊本無盡、田村商店各(株)社長、熊本電氣軌道、東洋人造肥料各(株)取締役　熊本縣在籍

田村極

妻　榮　醫師
男　日出太郎　兵庫縣士族　明八、一生、兵庫、田村敬正長女
婦　千鶴　明二八、一〇生、長男日出太郎妻、高知、西本直太郎庶子
君は兵庫縣士族田村彦好の二男にして慶應三年十月十九日を以て生れ明治二十九年家督を相續す醫師たり家族は尙好子(大一〇、二生、長男日出太郎三女)同濟(昭二、三生、同二男)同穣(同四、六生、同三男)同悟子(同六、一〇生、同七女)同朗(同七、一二生、同四男)同貞(同八、一二生、同五男)ありA八九六九(神戸市神戸區中山手通四ノ八三電甚合三〇八九)

田村謹壽

妻　あさ　明三四、七生、埼玉、橋本喜助妹
男　謹一　大三、二生
女　絹子　明四五、四生、九段精華高女出身
君は東京府人田村利七の三男にして明治十七年十月を以て生れ同四十四年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時三野村合名會社業務擔當社員兼調査部長たり弟利輔(明二五、一生)同妻光(同三一、三生、東京、天野源七叔母)は共に分家し紡績子(同二〇、七生、跡見女學校出身)は父の生家宮島家を繼ぎ日清紡績會社々長宮島清次郎を入夫に迎へ同高(同二九、三生、御茶の水高女出身)は東京府士族成瀬隆藏長男日本生命保險會社取締役逝に嫁せりA二二〇七(東京市四谷區北伊賀町二一電四谷三六〇一)

參照‖天野源七、成瀬達、橋本喜助、宮島清次郎の項

田村庫一

家主　大阪府在籍
妻　シマ　明三四、二生、京都、吉川八十吉長女
男　逸三　大一二、九生
君は大阪府人田村源治の長男にして明治二十七年六月十七日を以て生れ大正十四年家督を相續す家主たり家族は尙長女廉子(大一〇、二生)あり妹智惠子(明四一六生)は分家せりA九九三(兵庫縣武庫郡精道村芦屋字ノ下八七ノ二電芦屋三三〇五)

田村啓三

養父　市郎　共同漁業、日本水産各(株)社長、神戸電氣製作所、朝日海上火災保險各(株)取締役
妻　信子　明三〇、七生、養父市郎長女　蓬萊水産、中央水産、水産販賣所、大連中央土地、新開地土地各(株)取締役
男　日出太郎　明二八、一生、長男　田村(名)代表社員、兵庫縣在籍
婦　千鶴　明二八、一〇生、長男日出太郎妻、高知、西本直太郎庶子
君は東京府人岸本順吉の三男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年兵庫縣人田村市郎の養子となる同二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し歐米を漫遊研究し現時共同漁業日本水産會社各社長たる外前掲各會社の重役たり家族は尙長女嘉子(大一二、六生)二女和子(昭二、一〇生)二男保夫(同四、五生)三女壽子(同六、八生)ありA二一八二(神戸市淡區平野町天王谷西服山三四二電長元町九八五)

田村謙治郎

妻　城子　從五位勳四等、遞信書記官、航空局監理課長、千葉縣在籍
男　信一　明二六、一〇生、東京、士、岡田學習院女學部出身
女　信一妹、立教高女出身
君は千葉縣人田村秋藏の二男にして明治二十二年六月五日を以て生れ大正六年兄倉吉方より分れて一家を創立す明治四十四年日本大學法科專門部正科を卒業し大正元年文官高等試驗に合格す同五年遞信事務官補に任じ爾來熊本鐵道郵便局長廣島郵便局長旭川郵便局長を經て同九年遞信局事務官に進み同十年關東廳遞信事務官に轉ず後遞信局經理課長逓信事務官盛岡郵便局長簡易保險局事務官第五原簿課長同司計課長等に歷任し昭和五年遞信書記官に任ぜられ電務局業務課長を經て同九年六月航空局監理課長を命ぜらる「官私事業管理論」等の著ありA一四三(東京市赤坂區田町二ノ一八電青山四八〇〇)

田村幸策

母　トミ　正五位勳五等、前總領事
妻　己代　明二六、一二生、長野、士、中澤
男　幸久　大三、四生、學習院高等科在學
女　富美子　大七、二生、跡見女學校在學
君は山口縣人田村熊之助の長男にして明治二十年三月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に山口高等商業學校を卒業し同四十三年文官高等試驗に次で大正三年外交官試驗に合格し爾來領事官補外務事務官大使館書記官總領事等に歷任し同十四年官を辭し日本生命保險會社に入り同社支配人兼東京支店長を務め昭和六年同社を退き現時閑地に在り家族は尙三男幸昭(昭四、九生)あり姉リツ(明一四、七生)は岡山縣士族秋山泰作に妹ユキ(同二一、七生)は石川縣士族島倉弁外に嫁し弟順三(同三一、七生)は山口縣人高田キミの入夫となり同一郎(同二七、八生)同英男(同三三、七生)は各分家せり(東京市世田谷區北澤一ノ一一二三)

田村耕

妻　三重　明三〇、三生、東京、岡田勝男長女
男　晨　大一〇、一生
君は東京府人田村勇の三男にして明治二十四年十一月十五日を以て生れ大正十五年家督を相續す醫師にして田村病院を經營す家族は尙二男男二(大一二、一生)三男三雄(同一四、八生)長女うた子(昭三、一生)弟豊(明二八、一生)同妻萬象(同四〇、三生、東京池上兎喜衛長女)及其子女弟腕(同三〇、二生)あり弟均(同二六、六生)同妻フミ(同三四、一生、香川、鴨居武長女)は其一子を伴ひ分家せりA四五〇(東京市深川區富岡町一ノ一三電本所五〇一六)

田村病院、同、醫師　東京府在籍

參照‖岡田勝男、鴨居武の項

田村駒治郎

妻　禮子　田村駒商店、太陽レーヨン各(株)社長、東洋毛絲紡績、新和絲各(株)取締役、田村(名)代表社員、大阪府在籍
男　嘉一郎　明三八、七生、東京、安田善助二女、府立第一高女出身
君は大阪府人先代駒治郎の長男平松德三郎の甥にして明治三十七年二月二十一日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名駒太郎を改め襲名す先代駒治郎は夙に毛織業に從事し大正七年組織を株式に改め其社長となり其他幾多會社の重役に就任し大阪府多額納稅者に列し貴族院議員大阪市會議員大阪商工中心會長等に推さる又實業界公共事業に盡瘁する所尠からず綬褒章紺綬褒章藍綬褒章を賜はり昭和三年日佛文化に貢獻せる廉に依り佛國大統領よりシュバリエヂン・ドラゴン・ダンヌ勳章を贈らる君は夙に天王寺商業學校を卒業し現時田村駒商店社長田村合名會社代表社員たる外前記各會社の重役たり趣味に寫眞野球謠曲等あり家族は尙長女知津子(昭六、一生)二女江津子(同八、一生)弟寛次郎(大三、二生、甲南高校在學)妹和子(同七、七生、大手前高女在學)あり妹光子(明四〇、一生、大手前高女出身)同夫陽(同三四、二生、三男朋作妻、群馬絲紡績會社員、京大出身)同悉三郎(同四〇、一生、京都、飯田新七五男、東洋毛絲紡績會社員、京大出身)同房子(同四四、一生、大手前高女出身)同夫悉三郎(同四〇、一生、男爵小原謙太郎、安田慶三、飯田新七、平松德三郎、安田善助、飯田慶三、飯田新太郎※飯田藤二郎※飯田直次郎※飯田政之助※小倉彦四郎※豊田喜一郎の項

田村周藏

妻　リウ　大正生命保險、新日本火災海上保險、王子電氣軌道、日本教育生命保險、日田金山各(株)取締役　東京府在籍
男　三、九生、福岡、酒井峯太郎養子

一ノ一三電本所五〇一六)

參照‖岡田勝男、鴨居武の項

田村駒治郎

妻　禮子
男　嘉一郎　明四〇、三生、東京、岡田勝男長女
君は大阪府人先代駒治郎の長男平松德三郎の甥にして明治三十七年二月二十一日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名駒太郎を改め襲名す先代駒治郎は夙に毛織業に從事し大正七年組織を株式に改め其社長となり其他幾多會社の重役に就任し大阪府多額納稅者に列し貴族院議員大阪市會議員大阪商工中心會長等に推さる又實業界公共事業に盡瘁する所尠からず綬褒章紺綬褒章藍綬褒章を賜はり昭和三年日佛文化に貢獻せる廉に依り佛國大統領よりシュバリエヂン・ドラゴン・ダンヌ勳章を贈らる君は夙に天王寺商業學校を卒業し現時田村駒商店社長田村合名會社代表社員たる外前記各會社の重役たり趣味に寫眞野球謠曲等あり家族は尙長女知津子(昭六、一生)二女江津子(同八、一生)弟寛次郎(大三、二生、甲南高校在學)妹和子(同七、七生、大手前高女在學)あり妹光子(明四〇、一生、大手前高女出身)同夫陽(同三四、二生、三男朋作妻、群馬絲紡績會社員、京大出身)同悉三郎(同四〇、一生、京都、飯田新七五男、東洋毛絲紡績會社員、京大出身)同房子(同四四、一生、大手前高女出身)同夫悉三郎(同四〇、一生、男爵小原謙太郎、安田慶三、飯田新七、平松德三郎、安田善助、飯田慶三、飯田新太郎※飯田藤二郎※飯田直次郎※飯田政之助※小倉彦四郎※豊田喜一郎の項

田村庄兵衛

妻　つま　明一三、六生、群馬、關口仲次郎養妹
男　正作　明三三、一一生
婦　靜子　明三九、一二生、長男正作妻、群馬、石川國太郎三女
朋作　明三七、四生
婦　シヅエ　明三八、二生、三男朋作妻、群馬設樂甚三郎四女
男　富作　明三九、一〇生
女　つね　明四二、二生
男　たけ　明四五、七生
女　惠作　大三、二生
君は群馬縣士族先代庄作の長男にして明治十三年二月四日を以て生れ大正十四年家督を相續し前名隆平治を改め襲名す農業を營み群馬縣多額納稅者にして直接國稅三千四百六十三圓を納む現時群馬大同銀行取締役たり家族は尙六男良作(大五、六生)孫和子(昭四、一生、長男正作長女)あり(群馬縣勢多郡桂萱村)

田村庄兵衛

養母　ゑつ　金箱屏風商　大阪府在籍
安政三、八生、大阪、馬場喜助二女
男　達士　明二九、八生
婦　ミネ子　明四〇、二男達士妻、福岡高木幸次郎長女
男　義夫　明三二、四生
婦　綾子　明四一、一生、三男義夫妻、東京西尾當七長女
男　博　明四四、一二生
女　ユキ　大三、一一生
君は福岡縣人田村吉藏の四男にして文久三年一月十六日を以て生れ明治四年分れて一家を創立す現時大正生命保險會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫美智子(大一五、九生、二男達士長女)同米子(昭三、三生、同二女)同一藏(同五、一生、同長男)ありA一六九(東京市豊島區西巣鴨二ノ二三九〇電大塚一八三一)

田村庄作

母　つま　群馬縣多額納稅者、群馬大同銀行(株)取締役、農業、群馬縣士族安政四、四生、群馬、關口惣右衛門長女
妻　やす　明一三、六生、群馬、關口仲次郎養妹
男　正作　明三三、一一生
婦　靜子　明三九、一二生、長男正作妻、群馬、石川國太郎三女
朋作　明三七、四生
婦　シヅエ　明三八、二生、三男朋作妻、群馬設樂甚三郎四女
男　富作　明三九、一〇生
女　つね　明四二、二生
男　たけ　明四五、七生
女　惠作　大三、二生
君は群馬縣士族先代庄作の長男にして明治十三年二月四日を以て生れ大正十四年家督を相續し前名隆平治を改め襲名す農業を營み群馬縣多額納稅者にして直接國稅三千四百六十三圓を納む現時群馬大同銀行取締役たり家族は尙六男良作(大五、六生)孫和子(昭四、一生、長男正作長女)あり(群馬縣勢多郡桂萱村)

妻　ヨネ　明一七、一生、養父庄兵衛三女
男　泰雄　明四二、一〇生
男　雄三　明四三、一二生
男　四郎　明四五、六生
女　糸　大三、三生

君は京都府人西村半兵衛の四男にして明治七年八月を以て生れ先代庄兵衛の養子となり同四十一年家督を相續し前名秀次郎を改め襲名す金箔畳風商を營む家族は尙八男八郎(大一〇、三生)あり長女秀(明三二、五生)は同夫常吉(同二五、四生、大阪、松田ハル男)と共に其一女を伴ひ分家し三女美根(同四〇、九生)は大阪府人田村庄商店代表取締役住中一義に嫁し五男正典(大四、一二生)は大阪府人西川きよに六男隆信(同六、五生)は同府人馬場弘三に各養子となれり(大阪市東區南久太郎町三ノ三〇電船場二一一五)

田村彰一

大同產業、田村洋行各㊞社長、鑛山業、東京府在籍

母　アキ　嘉永元、四生、京都、川島清兵衛妹
妻　マツエ　明二一、四生、東京、吉澤信吉長女
男　彰雄　明四四、一生

君は東京府人田村英二の三男同貫一の兄にして明治十一年九月一日を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十五年慶應義塾大學部理財科を卒業し直に三井物產會社に入り十有餘年勤務し大正二年歐米を視察す現に鑛山業を營み田村洋行社長にして大同產業會社々長を兼ぬ蠶に大島電氣南洋木材貿易各會社々長となり又東京市會議員に選ばれし事あり家族は尙三男彰三(大四、一〇生)あり二男彰二(同元、一〇生)は分家せり(東京市麻布區笄町一七〇電青山七六八三)

田村眞策

松澤商店㊞代表社員、香料輸出入並製造業、大阪府在籍

妻　ちよ　明二四、一生、東京、岡田宗一姉
男　範子　大三、五生
男　續造　大六、三生

君は栃木縣人橋本吉太郎の次男にして明治十八年一月二十四日を以て生れ先代伊之助の養子となり同三十七年家督を相續す香料輸出入並に製造業を營み傍ら住宅地の經營をなし合名會社松澤商店代表社員たり家族は尙二男二郎(大九、九生)三男一三(同一二、四生)三女富美子(同一五、二生)ありA一一四三B三〇八(大阪市東區淡路町二ノ三五電本局六六九)

田村新吉

勸業三等、議員、議所顧問、貴族院議員、神戸商工會加信託㊞社長、兵庫縣多額納稅者、日本精米㊞取締役、海上保險會社主、神戸火災海上保險會社主、日本精米㊞取締役、神戸實業組合會長、神戸日本協會會長、輸出協會々長、田村商會主、貿易商、兵庫縣在籍

妻　すて　明六、七生、石川、秋山甚作二女
男　亨　明三四、一二生、日本精米製粉㊞社長、日加信託㊞監査役、神戸商大出身
婦　富美子　明四〇、六生、長男亨妻、兵庫、本多一太郎二女、神戸女學院高等部出身

君は大阪府人田村多兵衛の二男にして文久三年十二月十七日を以て生れ明治十七年先代母とうの跡を承け家督を相續す夙に米國シヨトクワ文學會理文科を卒業し加奈陀晩香坡市に日加貿易業を開始し神戸に本店を大阪東京横濱及晩香坡に支店を設け現時歐米及支那貿易に從事し傍ら前記各會社の重役を兼ね直接國稅四千七百五十五圓を納め兵庫縣多額納稅者として神戸實業界に重きを爲し神戸商工會議所顧問に推され更に神戸實業組合聯合會長神戸日米協會長外幾多の公職に擧げらる議に加奈陀政府の名譽事務官となり第二回內國勸業博覽會に加奈陀館を主宰す曾て神戸實業家を代表し渡米實業團溢澤子爵一行に加はる大正四年神戸市より衆議院議員に擧げられ同六年神戸商工會議所會頭となり同七年臨時國民經濟調査會並戰時爲替調査會委員を被仰付同八年華盛頓に於ける國際勞働會議に資本家代表顧問として出席す同五年勳四等に敍せられ瑞寶章を同八年紺綬褒章を賜はり同十年中華民國より三等嘉禾章を贈らる同十五年多額納稅者として貴族院議員に互選せられ昭和七年再選現に同成會に屬す又大正十四年貴族院より臺灣及南支視察に派遣せられ同十五年倘敎に於ける萬國議院商事會議に參列す家族は尙孫一(昭三、二生、長男亨長男)同衛(同四、八生、同二男)同厚(同六、九生、同三男)同修(同八、七生、同四男)あり長女貞(明二八、四生)は兵庫縣人小玉源一に二女節(同三一、一生)は岡山縣人則武貞吾に三女濱(同四〇、一生)は岐阜縣人平塚正俊に嫁せり(神戸市神戸區榮町通六ノ二三電元町五〇一、東京市日本橋區吳服橋一ノ一電日本橋二五三〇)

參照‖本多一太郎の項

田村新藏

埼玉縣多額納稅者、農業並洋紙砂糖小麥粉販賣業、埼玉縣在籍

男　章四郎　明三二、從七位、陸軍二等主計、早大商科出身
婦　シゲ　明三一、一生、四男章四郎妻、栃木、上野松次郎長女、三輪田高女出身

君は埼玉縣人田村小左衛門の長男にして安政五年五月を以て生れ明治十七年家督を相續し前名源太郎を改む農業並に洋紙砂糖小麥粉販賣業を營み直接國稅千九百二十六圓を納め縣下の多額納稅者たり曾て紺壁銀行明治貯蓄銀行の頭取たり事あり家族は尙孫男子(大一〇、三生、四男章四郎二女)あり同幾子(明三八、一〇生、亡長男紺太郎長女、跡見女學校出身)三男竹三郎(同二三、二生)五男恒藏(同二七、一〇生、慶大出身)は各分家し長女くに(同二〇、九生)は同夫富次郎(同一七、一〇生、東京、守田保太郎弟)と共に妹ふく(元治元、一〇生)は同夫義三郎(安政六、三生、埼玉、柿沼佐七三男)と共に弟貫次郎(明六、一二生)は同妻れん(同一一、一〇生、埼玉、折原昌之助長女)と共に各其子女を伴ひ分家し二女よし(同二一、九生)は栃木縣人吉澤兵左に三女ちか(同二四、九生)は東京府人西岡幾次郎二男孝司に四女げん(同二九、四生)は同府人瀨田醇一に五女さだ子(同三三、七生)は栃木縣人上野松次郎三男三郎に嫁せり(埼玉縣南埼玉郡粕壁町電八)

參照‖上野松次郎、瀨田醇一、守田保太郎※上野房之助※渡邊勘左衛門の項

田村清次郎

栃尾銀行㊞頭取、新潟縣在籍

妻　スイ　明元、一一生、新潟、外山敬四郎三女
婦　ミユキ　明三二、七生、亡長男善三郎妻、新潟、諸橋茂吉孫、柏崎高女出身
孫　勝太郎　大一二、三生、亡長男善三郎長男
孫　貞子　大七、八生、亡長男善三郎長女

君は新潟縣人田村德平の長男にして文久三年八月を以て生れ明治二十五年家督を相續す現時栃尾銀行頭取たり家族は尙孫美惠子(大一〇、一生、亡長男善三郎二女)あり長女イヲ(明一七、一一生)は新潟縣人外山且正に二女シマ(同一九、一一生)は同縣人內山男吉長男豐作に五女ナヲ(同二九、二生)は同縣人疊張義平弟安平に六女喜榮(同三六、一二生)は同縣人那須山佐に妹ケイ(慶應三、七生)は同縣人羽賀牛松に同ブン(明五、三生)は同縣人清水征八に嫁せり(新潟縣古志郡栃尾町電三六)

田村盛吉

升屋、砂糖商、東京府在籍

妻　はる　明一一、二生、養父金松長女
男　盛一　明三六、七生
婦　佳枝子　明四二、二生、長男盛一妻、東京島村友三郎長女
女　房枝　大四、一生

君は東京府人西山藤次郎の二男にして明治七年七月を以て生れ田村金松の養子となり同三十四年家を創立す升屋と稱し砂糖商を營む四男正春(大三、二生)は東京府人藤谷金兵衛の二男銀次郎の養子となれりA二四〇九B五一六(東京市牛込區通寺町五九電牛込一〇〇九)

田村誠之

田村小兒科院長、醫師、大阪府在籍

妻　淺野　明一八、七生、岡山、岡本七五三吉二女
男　誠彥　明四四、一〇生
養子　暉次　明三四、一〇生、長女誠子夫、岡山、岩鮃猛弟
女　誠子　明四一、一生、養子暉次妻
女　貞子　明四二、二生
女　禮子　大四、一〇生

君は岡山縣人田村林作の二男にして明治十四年十二月十九日を以て生れ大正二年兄五藏方より分れて一家を創立す醫師にして田村小兒科院を經營す家族は尙二男珍彥(大七、九生)五女美和子(同一〇、八生)孫和也(昭五、八生、養子暉次長男)及妻母以志(元治元、七生)あり(大阪市浪速區惠美須町四ノ三〇電戎一九二三)

田村精

妻　千代子　明三七年生、和歌山、松井伊助二女

君は東京府人神谷喜一の三男にして明治十二年十一月十九日を以て生れ先代長兵衛の養子となり同四十年家督を相續し前名福次郎を改め襲名す家業を繼ぎ江島屋と稱し質業を營む譲に日本建物會社重役たりし事あり趣味に長唄あり二女實枝子(明四二、七生、三輪田高女出身)は東京府人加藤和作に嫁せりA五〇〇(東京市京橋區築地一ノ一八ノ二電京橋八〇五)

田村長兵衛

江島屋、質業、東京府在籍

妻　しづ　明一三、六生、養父長兵衛長女
男　長之助　明四四、九生、三井物產會社員
女　富美　明四〇、三生、三輪田高女出身

君は東京府人神谷喜一の三男にして明治十二年十一月十九日を以て生れ先代長兵衛の養子となり同四十年家督を相續し前名福次郎を改め襲名す家業を繼ぎ江島屋と稱し質業を營む譲に日本建物會社重役たりし事あり趣味に長唄あり二女實枝子(明四二、七生、三輪田高女出身)は東京府人加藤和作に嫁せりA五〇〇(東京市京橋區築地一ノ一八ノ二電京橋八〇五)

田村剛

日高銀行㊞頭取、滿洲工廠㊞取締役會長、土佐セメント、南海信託㊞社長、南滿ドロマイト工業、黑木材工業、南滿土地建物、合同莫大小紡績各㊞取締役、龍村商店㊞出資社員、大阪府在籍

妻　千代　明三七生、和歌山、松井伊助二女

君は岡山縣人にして明治二十三年九月を以て生れ大正四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し直ちに明治神宮造營局事務取扱を囑託せられ次で千葉縣立高等園藝學校講師陸軍大臣官房東京帝國大學農學部實科內務省衛生局事務取扱を各囑託せられ同九年林學博士の學位を授けらる同十二年造園學研究の爲歐米各國に留學し歸朝後宇都宮高等農林學校講師及內務省衛生局事務取扱囑託となり昭和八年七月內務技師に任じ農林技師を兼ね今日に至る現時衛生局に勤務し東京帝國大學工學部同農學部各講師たり先是同六年國立公園委員會委員兼幹事被仰付家族は尙長女貞(大一〇、四生、東京女學館在學)二女照(同一二、一生)三女清(明六、三生)あり(東京市麻布區本村町二二五電高輪四四七四)

田村貞治郎

正五位勳四等、總領事兼臺灣總督府事務官、新嘉坡在勤、滋賀縣在籍

妻　ひさ　明三〇、八生、廣島、朝倉久藏三女
男　秀世　大一四、一生
女　貞子　大七、一一生

君は滋賀縣人田村善九郎の四男にして明治十九年十二月を以て生れ大正十三年兄信太郎方より分れて一家を創立す明治四十二年北米合衆國華盛頓州ホワイトウオールスカレッヂ・アカデミーを大正二年華盛頓大學政治經濟科を各卒業し外務省雇外務屬領事官補外交官補支那公使館三等書記官米國大使館三等書記官同二等書記官市俄古領事等を經て現時前記の職にあり曩に羅州在勤たり家族は尙二女純子(大一〇、三生)あり(新嘉坡在新嘉坡總領事館)

田村貞馬

家主、東京府在籍

妻　久麻　明二七、五生、廣島、溝上吟作孫
養子　一郎　明三四、四生、養子一郎妻、東京金長善次郎四女
婦　シン

君は廣島縣人竹森忠有衛門の二男にして慶應元年九月四日を以て生れ先代いよの養子となり明治二十六年家督を相續す家主たり家族は尙孫道子(大一五、九生、養子一郎二女)同玲子(昭三、一一生、同三女)同悅子(同八、一一生、同四女)ありA三七一(東京市豐島區西巢鴨二ノ二〇六〇電大塚九三六)

田村鐵輔

三井㊞祕書課長、東京府在籍

妻　國　明二七、一一生、山口、逸綿介姉
男　豐　大七、八生
女　愛子　大五、一〇生、雙葉高女出身

君は東京府士族田村永治郎の三男にして明治二十二年六月十七日を以て生れ大正十年家督を相續す先是大正

三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時三井合名會社祕書課長たり家族は尙二男宏(大九、八生)ありA一〇三二(東京市赤坂區青山南町五ノ四五電青山二二五一)
参照‖進綜介※男爵斯波正夫※松岡洋右の項

田村藤四郎
妻　猪兎　千代田信託㊫常務取締役、臺灣鐵化學工業各㊫監査役、大日本製糖、大成安政三、九生、高知、士、前田案
養母　山子長女　朔一六、一一生、養母猪兎二女
男　花井正夫　大九、六生
君は福島縣士族下坂藤太郎の弟同八郎の兄にして明治十二年一月一日を以て生れ先代猪兎の養子となり同三十八年家督を相續す同三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時前記各會社の重役にして蠶に三菱會社員筑波高速度電氣鐵道會社監査役たり長女憲子(明三八、一二生、三輪田高女出身)は秋田縣人安達元之助養子祥三に二女章子(同四一、七生、田身校同上)は宮城縣人川村伊兵衛長男正一に從妹ゆき(同三一、一生)は東京府人八代重夫に嫁せりA八〇五(東京市小石川區武島町一四電小石川三二二)
参照‖下坂八郎、下坂藤太郎※大塚尙※深田養一の項

田村藤助
父　藤司　太陽電氣㊫取締役、奈良瓦斯㊫常務監査役、奈良縣在籍
母　ます　文久二、八生、奈良、岡本八十八三男、現戸主
妻　富榮　明一〇、一〇生
男　續　明三五、一二生、大阪、宮野庄太郎妹、綾屋川高女出身
男　大一一、九生
君に奈良縣人田村藤司の長男にして明治二十八年四月を以て生る大正六年慶應義塾大學部理財科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女惠美(大一三、九生)二女昌子(昭二、一一生)及び妹勝子(大五、三生、樟蔭女子專門學校在學)あり弟藤吉郎(明三二年生、大阪、加島郵便局長)は分家し同法學士經濟學士吉之助は兵庫縣人長田種藏の養子となり妹喜代子(同三八、一二生)は京都府人山田喜三に同實子(同四二、六生、奈良女高師附屬高女出身)は大阪府人鹽野元造長男善平に嫁せり(奈良市紀寺町下清水一八〇電六九)

田村藤兵衛
母　美起　江島屋、質業
妻　千代　東京府在籍
男　多喜男　元治元、一一生、東京、田村清助長女
養子　幸次郎　明二二、二生、亡養父藤兵衛二女
女　多滿子　昭三、三生
女　泰子　明三七、一生、二女多滿子夫、東京、野口源三郎二男
大元、八生、養子幸次郎妻
大五、四生
君は神奈川縣人萬田平治郎の弟にして明治十九年十一月二十八日を以て生れ先代藤兵衛の養子となり昭和六年家督を相續し前名牧之助を改め襲名す江島屋と稱し質業を營む家族は尙四女壽子(昭五、九生)孫元男(同八、一生、幸次郎長男)ありA四七一九(東京市京橋區銀座五ノ三ノ四電銀座三四六)

田村豐三郎
母　キス　資產家
妻　富子　大阪府在籍
男　造　明七、二生、大阪、赤井忠七長女昭五、二生
君は大阪府人田村龜吉の三男にして明治三十九年三月一日を以て生れ昭和九年家督を相續す資產家たり家族は尙弟仁三郎(明四四、一生)あり姉エイ(同三五、一〇生)は大阪府人原田鐵治郎に嫁せり(大阪市東區南本町四ノ四五)

田村半十郎
妻　サト　明二、一、京都、松山市兵衛五女
男　和一　明三一、九生
君は東京府人先代半十郎の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名保次郎を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記會社の重役を兼ぬ武陽銀行青梅電鐵會社創設の功勞者にして蠶に東京府多額納稅者に列す長女マス(明二八、一一生)は東京府人小澤太平長男重德に四女富子(同三六、九生)は同府人中村敬允に五女俊子(同三八、一二生)は埼玉縣人深井傳右衛門長男傳に六女芳子(同四一、三生)は東京府人小澤太平二男治郎に七女千嘉子(同四三、八生)は同府人石川彌八郎長男眞作に嫁せりA三三九六B八四(東京府西多摩郡福生村電福生二三)
参照‖田村和一の項

田村秀實
妻　久枝　三菱信託㊫常務取締役
男　正義　高知縣士族
女　英子　明一七、七生、高知、池知春水長女明四四、二生
大三、七生
君は高知縣士族田村孟逸の長男にして明治十二年十月八日を以て生れ同十七年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し更に同校專攻部に學ぶ同三十七年三菱合資會社銀行部に入り大正二年英國に渡航銀行業其他を視察し同四年歸朝上海神戸各支店長を經て同十五年三菱銀行取締役に擧げられ同年五月より十月迄歐米各國に於ける信託業視察に赴き昭和二年三菱信託會社の新設せらるゝや常務取締役となり現に其職に在り家族は尙四女君子(大一〇、二生)三男正久(同一二、五生)ありA六二四〇(東京市澁谷區代々木山谷町二四〇電四谷一五一八)

田村丕顯
妻　清　正三位勳三等功五級、子爵、海軍少將、岩手縣士族、海軍省囑託、舊陸中一關藩
男　良顯　明二七、一生、海軍中將寺垣猪三二女、學習院女學部出身
明四二、一〇生、從五位
當家は後漢靈帝の後胤坂上田村麿の後なり三十世を經て陸岐守宗良に至る宗良實は伊達政宗の孫にして奥州一關三萬石を領す夫より八世を經て邦榮に至り明治十七年子爵を授けらる君は其二男にして同八年十一月を以て生れ同二十年襲爵す夙に米國に留學し同三十三年同國海軍兵學校を卒業し歸朝後海軍少尉に任じ大正十三年同少將に累進す其間練習艦隊參謀東宮武官皇族附武官薩摩榛名各艦長横須賀防備隊司令官等に歷補し同十四年豫備役に編入せらる日露戰役に參加し功五級を賜ふ現時岩手縣立六原青年道場長にして海軍省囑託たり家族は尙三女正子(大一一、一二生)二男顯道(同一四、七生)三男顯榮(昭二、六生)あり長女順子(明三九、八生)は海軍大尉岡村於菟彥に二女峻子(同四〇、九生)嫁せり(奈良市紀寺町下清水一八〇電六九)

田村藤兵衛
母　美起　江島屋、質業
妻　千代　東京府在籍
男　多喜男　元治元、一一生、東京、田村清助長女
養子　幸次郎　明二二、二生、亡養父藤兵衛二女
女　多滿子　昭三、三生
女　泰子　明三七、一生、二女多滿子夫、東京、野口源三郎二男
大元、八生、養子幸次郎妻
大五、四生
君は神奈川縣人萬田平治郎の弟にして明治十九年十一月二十八日を以て生れ先代藤兵衛の養子となり昭和六年家督を相續し前名牧之助を改め襲名す江島屋と稱し質業を營む家族は尙四女壽子(昭五、九生)孫元男(同八、一生、幸次郎長男)ありA四七一九(東京市京橋區銀座五ノ三ノ四電銀座三四六)

田村豐三郎
母　キス　資產家
妻　富子　大阪府在籍
男　造　昭五、二生
君は大阪府人田村龜吉の三男にして明治三十九年三月一日を以て生れ昭和九年家督を相續す資產家たり家族は尙弟仁三郎(明四四、一生)あり姉エイ(同三五、一〇生)は大阪府人原田鐵治郎に嫁せり(大阪市東區南本町四ノ四五)

田村半十郎
妻　サト　是製絲㊫監査役、酒造業
男　和一　東京府在籍
明八、九生、東京、山口平太夫三女
明三一、九生
君は東京府人先代半十郎の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名保次郎を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記會社の重役を兼ぬ武陽銀行青梅電鐵會社創設の功勞者にして蠶に東京府多額納稅者に列す長女マス(明二八、一一生)は東京府人小澤太平長男重德に四女富子(同三六、九生)は同府人中村敬允に五女俊子(同三八、一二生)は埼玉縣人深井傳右衛門長男傳に六女芳子(同四一、三生)は東京府人小澤太平二男治郎に七女千嘉子(同四三、八生)は同府人石川彌八郎長男眞作に嫁せりA三三九六B八四(東京府西多摩郡福生村電福生二三)
参照‖田村和一の項

田村秀實
妻　久枝　三菱信託㊫常務取締役
男　正義　高知縣士族
明一七、七生、高知、池知春水長女明四四、二生
女　英子　大三、七生
君は高知縣士族田村孟逸の長男にして明治十二年十月八日を以て生れ同十七年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し更に同校專攻部に學ぶ同三十七年三菱合資會社銀行部に入り大正二年英國に渡航銀行業其他を視察し同四年歸朝上海神戸各支店長を經て同十五年三菱銀行取締役に擧げられ同年五月より十月迄歐米各國に於ける信託業視察に赴き昭和二年三菱信託會社の新設せらるゝや常務取締役となり現に其職に在り家族は尙四女君子(大一〇、二生)三男正久(同一二、五生)ありA六二四〇(東京市澁谷區代々木山谷町二四〇電四谷一五一八)

田村丕顯
妻　清　正三位勳三等功五級、子爵、海軍少將、岩手縣士族、海軍省囑託、舊陸中一關藩
男　良顯　明二七、一生、海軍中將寺垣猪三二女、學習院女學部出身
明四二、一〇生、從五位
當家は後漢靈帝の後胤坂上田村麿の後なり三十世を經て陸岐守宗良に至る宗良實は伊達政宗の孫にして奥州一關三萬石を領す夫より八世を經て邦榮に至り明治十七年子爵を授けらる君は其二男にして同八年十一月を以て生れ同二十年襲爵す夙に米國に留學し同三十三年同國海軍兵學校を卒業し歸朝後海軍少尉に任じ大正十三年同少將に累進す其間練習艦隊參謀東宮武官皇族附武官薩摩榛名各艦長横須賀防備隊司令官等に歷補し同十四年豫備役に編入せらる日露戰役に參加し功五級を賜ふ現時岩手縣立六原青年道場長にして海軍省囑託たり家族は尙三女正子(大一一、一二生)二男顯道(同一四、七生)三男顯榮(昭二、六生)あり長女順子(明三九、八生)は海軍大尉岡村於菟彥に二女峻子(同四〇、九生)

は兵庫縣人實業家市川誠次長男浩に妹鑛(同一三、六生)は男爵三井壽太郎に嫁し同邦(同一八、六生)は子爵杉七郎の母たり(岩手縣西磐井郡一ノ關町電三四五)
参照‖子爵杉七郎、男爵三井壽太郎、市川誠次、岡村於菟彥、寺垣猪三※涙原辰雄※木村修三※兒玉孝顯※白土琢三の項

田村寛貞
妻　菅　從四位勳四等、法政大學、東京女子大學各教授、東京帝國大學文學部講師、東京北帝國大學法文學部各講師、東京府士族
男　寛忠　明二六、一二生、秋田、菅原景忠四女、東京音樂學校出身
大一三、一一生
君は故陸軍中將田村寛一の二男にして明治十六年九月を以て生れ同三十二年家督を相續す同四十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同四十一年陸軍教授に任じ陸軍士官學校に勤務し大正五年東京音樂學校教授を兼任す大正十五年より昭和二年迄佛獨國へ出張を命ぜられ伯林大學に在學す現時官を辭し前記の職に在り著述に「ハンスリックの音樂美論」「リツヒアルト・ウーグネル」其他あり家族は尙長女富士子(大一〇、五生)二女貞子(昭四、三生)あり(東京市牛込區余丁町三五)

田村文吉
妻　沖見　北越製紙㊫專務取締役、新潟縣在籍
男　養之助　明二四、一〇生、新潟、佐々木與三太姉
女　節子　大三、一生
女　トミ子　大四、一生
女　トモ子　大八、八生
君は新潟縣人田村文四郎の四男にして明治十九年九月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治四十三年東京高等商業學校專攻部を卒業し越後鐵道會社經理部長となり後轉じて北越製紙會社支配人に擧げられ次で同社專務取締役に進み現に其任に在り家族は尙二男健吉(大六、九生)四女文子(同一〇、一生)四男孝吉(同一四、五生)あり(長岡市長町一六)

田村辨
妻　キヨ　醫師、東都府士族
明二一、五生、廣島、中山操太六女男　初禮　大四、八生
女　諏訪　大六、八生
君の祖父田村弘藏は濱州濱松町奉行を勤め父初太郎は第三高等學校教授濱松中學校長に歷任し育英の業に盡し母さくは東京府人維準夫人吉重の妹たり君は其長男にして明治十三年七月を以て生れ大正四年家督を相續す同三十五年醫を業とす家族は尙二女泰(大一一、一〇生)あり妹弘代(明三〇、六生)は東京府人小澤太郎に嫁せり(京都市上京區河原町通丸太町上鬱上五八〇八)

田村瑞穗
妻　元　正五位勳四等、前東京市保健局長高知縣在籍
男　高　明二二、一〇生、鈴木重熙二女
君は高知縣人田村耕一の長男にして明治七年二月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十年醫師となり後地方衛生技師內務省防疫官傳染病研究所技師に歷任し大正十年東京市に入り衛生課長本所日本橋浸草各區長を經て大正三年判事に任ぜられ爾來横濱地方福島水戸各區水戸横濱宇都宮各地方大田原區前橋地方高崎區東京區各裁判所判事に歷補し現時前記の官職に在り妻は栃木縣人關根氏の出にして養子醫學士雄次は杉本胃腸病院副院長たり(千葉縣君津郡木更津町木更津區裁判所內)

田村光顯
養子　弘武　從七位、陸軍二等軍醫、田村病院醫師、東京府士族
孫　靜子　明三一、一二生、孫靜子夫、靜岡山岡弘永三男
明四一、二生、養子弘武妻、分家養子旨達二女、跡見女學校出身
君は東京府士族石橋光賓の三男にして慶應三年十二月を以て生れ先代義質の養子となり明治三十一年家督を相續す同二十五年帝國大學醫科大學を卒業し同大學助手となり後醫を開業し田村病院を經營し今日に至る家族は尙孫義弘(昭三、二生、養子弘武長男)あり養子旨達(明一六、一生、東京、士、山崎精一弟)は分家し孫富美(同三九、二生、分家養子旨達長女、御茶の水高女專攻科出身)は庭球選手早大出身福田雅之助に嫁せり(東京市日本橋區室町三ノ一ノ六電日本橋七〇二)

田村實
養母　ゑ　衆議院議員(高知縣選出)、農業
妻　むめ　東京府在籍
女　花子　嘉永五、一生、島根、佐藤治之輔姉
明二、一生、養父、利貞二女
明三八、八生
君は千葉縣人座間美兵衛の二男にして明治五年六月を以て生れ同三十四年田村景福の養子となり前名芳藏を改む現に三井生命保險會社取締役付社員にして蠶に同社償收課長たり家族は尙三男靜子(大九、二生)孫幸夫(昭五、三生長男秀男長男)あり二男泰二(明三六、一

君は東京府人澤田豐成の五男にして慶應三年一月十六日を以て生れ先代利貞の養子となり明治四十一年家督を相續す夙に高知縣立農業學校を卒業し農業を營み昭和七年推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す蠶に高知市會議員同縣會議員に選ばれ又同縣水產會長同織物同業組合長等に擧げらる(高知市紺屋町)

田村八重
母　みね　大軒屋、質商
泰子　嘉永三、六生、兵庫、中西武右衛門二女
明四五、三生、現戸主
君は兵庫縣人先代善介の二女にして明治九年四月十一日を以て生る大軒屋と稱し質商を營むA四五二(西宮市鞍掛町四八電四一六)

田村興一
君は長野縣人にして明治十六年五月二日を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學を卒業し司法官試補を經て大正三年判事に任ぜられ爾來横濱地方福島水戸各區水戸横濱宇都宮各地方大田原區前橋地方高崎區東京區各裁判所判事に歷補し現時前記の官職に在り妻は栃木縣人關根氏の出にして養子醫學士雄次は杉本胃腸病院副院長たり(千葉縣君津郡木更津町木更津區裁判所內)

田村芳太郎
養父　景福　三井生命保險會社員
妻　安政六、一一生、現戸主
男　秀男　東京府士族
明三四、一一生
男　みつ子　明三八、六生、長男秀男妻、東京笠原嘉平長女
婦　三郎　明三九、二生
男　實　明四二、一四生
女　菊枝　大二、一一生
女　千代　大四、八生
君は千葉縣人座間美兵衛の二男にして明治五年六月を以て生れ同三十四年田村景福の養子となり前名芳藏を改む現に三井生命保險會社取締役付社員にして蠶に同社償收課長たり家族は尙三男靜子(大九、二生)孫幸夫(昭五、三生長男秀男長男)あり二男泰二(明三六、一

○生）は分家し妻妹かく（同一五、一生）は東京府人伊部喜作に嫁せりA二〇八（東京市中野區新井町六〇七 電中野二二六八）

田村和一　東京府在籍

明元、五生、現戸主
父　半十郎
明三四、七生、東京、石川彌八郎
長女　静
妻　昌
男　大一二、七生

君は東京府人田村半十郎の二男にして明治三十一年九月一日を以て生る大正九年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し現時武陽銀行監査役たり家族は尙二男弘二（大一四、二生）三男卓三（昭二、一〇生）長女治子（同四、六生）ありA九六七（東京府西多摩郡福生村六二六 電二三二）

田守太兵衛

石川縣多額納稅者、加賀製紙、金剛商會、金澤電氣軌道各㊟取締役
吳服商、石川縣在籍
妻　壽
男　昌三郎　明四二、四生
女　二
明一六、一生、石川、上野與所吉

君は石川縣人先代太兵衛の長男にして明治十四年四月二十八日を以て生れ同三十年家督を相續し前名太次郎を改め襲名す吳服商を營み傍ら前記各會社の重役にして石川縣多額納稅者に列し直接國稅千二百十六圓を納む曩に推されて金澤商工會議所常議員たり家族は尙二女外美子（大一四、八生）あり長女繁（明三三、七生）は同夫八郎（同二八、三生、富山、秋元良助弟）と共に其二子を伴ひ分家せり（金澤市下堤町四五 電一五一・二〇八）

田谷廣吉

親音劇場㊟監査役、シネマ銀座㊟專務取締役、常盤興業㊟監査役、書畫骨董商、東京府在籍、芳雲堂書畫骨董商
妻　よし
女　慶應元、五生、茨城、高松茂吉二

君は茨城縣人田谷槌松の二男にして慶應二年二月を以て生れ明治二十二年實家田谷氏を再興す芳雲堂と稱し書畫骨董商を營み傍らシネマ銀座經營主にして前記各會社の重役たり曩に東京美術倶樂部沼間保全各會社の重役たりしことありA三七〇（東京市淺草區田町一ノ五四 電浅草六六三二）

田山卓爾　東洋石鹼工業㊟監査役、辯護士、東京府在籍、辯理士

安政三、一二生、田山久次長女
母　まさ
明三五、六生、京都、東トミ女
妻　カヨ
男　卓郎　大元、九生
女　かつみ　明四三、五生

君は埼玉縣人田山嘉十郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正五年家督を相續す辯護士並に辯理士にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ曩に內外煙草材料會社監査役たりし事あり家族は尙三女隆子（昭三、七生）あり長女三千代（明四一、三生）は東京府人鵜飼廣太郎弟三郎に嫁せりA二四六（東京市澁谷區大向通二五 電青山二一七〇）

田山貢　縣勸業㊟監査役

妻　とし
女　楫子　大三、七生、日本女子大在學
君は茨城縣人にして明治十七年一月を以て生れ昭和八年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學農科大學農學實科を卒業し同年茨城縣農事試驗場技手兼茨城縣農事講習所技手となり爾來富山縣立農學校奈良縣立農林學校各教諭佐賀縣農事試驗場技師同縣技師同產業技師を經て大正十三年京都府小作官に任じ地方小作官となり現時埼玉縣勸業㊟監査役たり家族は尙二女良子（大一三、一二生）あり（浦和市岸町三〇二四 電五〇一）

多賀定男　屠物商　東京府在籍

妻　かね
男　健二　明三九、二生
婿　とき　明四一、六生、長男健二妻、愛知青山養三郎長女
姪子　八東　明三〇、九生、長女てふ夫、福島穗積與七四男
女　てふ　明三七、一一生、養子八東

君は東京府人多賀小四郎の四男にして明治十二年四月二十日を以て生れ同三十七年兄鐵太郎方より分れて一家を創立す屠物商を營む家族は尙二男達男（大四、一生）三男實（同七、三生）五女しま子（同九、五生）四男利雄（同一一、一一生）孫かず江（同一一、八生、養子八東長女）同保子（同一五、一生、同二女）同左知子（昭七、二生、同四女）同弘明（同九、三生、同二男）同恒夫（同四、一生、長男健二長男）同通子（同五、六生、同長女）同淳隆（同六、一〇生、同二男）同敬次（同八、六生、同三男）あり二女せい（明四二、二生）は東京府人淺岡吉太郎に三女桑子（同四四、一二生）は神奈川縣人小栗桐太郎に四女のぶ江（大三、一生）は靜岡縣人鈴木五六年に嫁せりA二〇三三B一三九（東京市荒川區日暮里町一ノ一八六四 電下谷六二六三）

多川一治　廣島縣多額納稅者、廣島瓦斯電軌㊟副社長、藝南電氣軌道㊟取締役、藝備銀行㊟監査役、農業

妻　政
男　元　明二六、五生、岡山、廣井宇平長女
女　治　大四、一生

君は廣島縣人多川熊次郎の長男にして明治二十四年十一月七日を以て生れ先代萬助の養子となり大正十三年家督を相續す農業を營み現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅三千六百四十二圓を納む曩に阿賀郡物問屋會社代表取締役たりし事あり家族は尙二男眞二（大五、一二生）三男庄次郎（同八、三生）二女美彌子（同一一、一〇生）三女慶子（同一三、四生）四女宜子（同一五、一〇生）あり（吳市阿賀町四五一〇）

多木久米次郎　勳三等、衆議院議員（兵庫縣選出）多木製肥所、多木農工具、別府輕便鐵道各㊟社長、阪神住宅土地㊟監査役、肥料商並山林業　兵庫縣在籍

妻　三良
男　一治　明一五、一生

君は兵庫縣人多木勝市郎の三男にして同文爾同正也の叔父なり安政六年五月二十八日を以て生れ明治六年分籍して一家を創立す夙に化學肥料を創製し多木肥料の名を著聞す現に朝鮮に於て模範農場を經營し山林業を兼ね傍ら前記諸會社の重役にして曾て山陽農具播磨銀行太平洋海上保險等各會社重役並に兵庫縣農會長同縣農政倶樂部會長等に選ばれ又歐米を視察す明治四十一年以來衆議院議員に當選する事六回立憲政友會に屬し曩に功に依り藍綬褒章及紺綬褒章同飾版を賜はるA二〇三〇六（兵庫縣明石郡別府町電一）

參照‖多木三良、多木文爾、多木正也の項

多木三良　多木製肥所㊟副社長、別府輕便鐵道㊟專務取締役、多木農工具各㊟取締役、肥料商、兵庫縣在籍

妻　ゆき
安政六、五生、現戸主
男　機太郎　明一四、七生、養父久米次郎長女
明三七、一二生、多木農工具、多木製肥所、別府輕便鐵道各㊟取締役、慶大出身
婿　道　明四二、九生、長男麟太郎妻、鎌田三郎長女
遠　征　明四二、七生、理學士
女　かつえ　明四四、三生、同志社女專在學
女　しかえ　大三、七生、同志社女專在學
男　英　勝　大二、四生、慶大經濟學部在學

君は兵庫縣人長鳥善右衛門の弟吉井庄左衛門の兄にして多木文爾同正也の養從兄なり明治十五年一月を以て生れ後現戸主久米次郎の養子となる夙に養父を扶けて肥料商を營み傍ら前記各會社の重役にして曩に兵庫縣多額納稅者たり家族は尙四男久泰（大四、一〇生）五男興國（同七、一〇生）六男光國（同一一、二生）六女政子（同九、一生）七男正義（同一三、八生）あり長女凱子（明三九、八生、神戸女學院出身）は同夫衛三（同三五、二生、京都、糸井市郎右衛門三男法學士）と共に分家し二女服子（同四〇、一二生、出身校同上）は大阪府人北村吉右衛門養子元一郎に嫁せりA一一三二〇（兵庫縣加古郡別府町電五二）

參照‖多木久米次郎、多木文爾、多木正也、鎌田三郎、兵衛※北村宗四郎の項

多木文爾　大阪帶革製造所㊟代表取締役　兵庫縣在籍

母　まさ
女　明七、二生、兵庫、橋本彰太郎長女
妻　かね
明三七、九生、兵庫、直木久兵衛二女
男　廉一郎　大一五、一一生

君は兵庫縣人にして多木千吉の四男同久米次郎の甥同正也の從兄弟にして明治三十一年十一月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正九年大阪高等工業學校應用化學科を卒業し英國リーツ大學に留學す現に大阪帶革製造所代表取締役たり家族は尙二男浩二（昭三、一二生）ありA八七五（兵庫縣武庫郡魚崎町魚崎一〇三 電御影二二二七）

參照‖多木久米次郎、多木三良、多木正也、直木久兵衛※直木太一郎※宮下貢次郎の項

多木正也　大阪帶革製造所㊟代表取締役　兵庫縣在籍

妻　フミ　明三四、一二生、大阪、北野種次郎長女
男　俊夫　大一四、六生

多木家は播州別府土着の商家にして代々醬油醸造業を以て渡世とす君は先代豐次の長男にして同久米次郎の甥同文爾の從弟同三良の養從弟なり明治三十一年五月を以て生れ同三十六年家督を相續す大正九年大阪高等商業學校を卒業し現時大阪帶革製造所代表取締役たり家族は尙長女康枝（大一一、四生）二女靜枝（生年月日同上）三女純子（同一二、一一生）弟透哉（明三三、一〇生）同克之（同三七、四生）ありA三七二（兵庫縣武庫郡精道村芦屋 電芦屋二二七四）

參照‖多木久米次郎、多木三郎、多木文爾の項

多久安信　正五位勳四等、岡山縣知事、東京府士族

妻　喜代子　明三八、七生、東京、藤堂都妹
男　安英　大一〇、九生
女　名賀子　大六、八生

君は東京府士族多久綱一郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ同二十四年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し三重縣屬となり爾來三重縣名賀郡長京都府加佐郡長京都市助役地方事務官愛知縣勸務富山縣書記官神奈川縣書記官學務部長警視廳書記官官房主事長崎縣書記官警察部長和歌山縣內務部長警視廳書記官內務部長等を歷任し昭和七年青森縣知事に任じ同九年前記現職に轉ず家族は尙三女安子（大一二、七生（四女明子（昭二、六生）五女智子（同八、一〇生）あり姉サチ（明一七、一一生）は東京府人熊谷儀七に同トシ（同二〇、一二生）は岡山縣人岡部喜三郎に嫁せり（岡山市弓町官舍電二一〇一）

多久龍三郎　正五位、男爵、織田信託㊟監査役　舊佐賀藩士老

妻　明子　明三九、五生、伯爵小笠原長幹長女、學習院女學部出身
當家は九州の豪族龍造寺政家の子長信の後にして世々多久一萬石を領し鍋島家の客老たり先々代茂尙戊辰の役手兵を率ひて白河口に向ひ大に軍功あり其子乾一郎夙に米國に留學し歸朝後大藏內務各省御用掛式部官東宮侍從等に歷任し明治三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其三男にして明治三十四年九月を以て生れ同年家督を相續し襲爵仰付けらる大正十一年學習院高等科を卒業す現に織田信託會社の監査役たり家族は尙長女美子（大一四、一二生）二女喜美子（昭二、八生）あり姉タカ（明一五、五生）は神奈川縣人梅原逸太郎に同ミツ（同一九、四生）は男爵鍋島綱麿に同秀子（同三一、七生）は東京府人織田昇次郎長男佐太郎に嫁せりA一二九一（東京市澁谷區穩田一ノ四 電青山三八五六）

參照‖伯爵小笠原長幹、男爵鍋島綱麿、織田昇次郎梅原逸太郎※侯爵尙裕※伯爵伊達興宗※伯爵津軽義孝※子爵小笠原忠幸※安田善助の項

多湖實夫　從五位、內務省社會局事務官、社會局保險部勤務、三重縣在籍

君は三重縣人にして明治三十一年六月を以て生る大正十一年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業同年文官高等試驗に合格し東京府屬內務省社會局を經て大正十二年奈良縣理事官同十三年地方事務官奈良縣勤務となり同十五年社會局事務官に轉任保險部勤務を命ぜられ現在に至る昭和七年第十六回國際勞働會議に政府側顧問として壽府に出張會議終了後歐米各國の社會事情を視察す（東京市澁谷區幡ヶ谷原町八七七 電四谷一四八）

多勢正平　横濱市街自動車㊟取締役、薄荷製造貿易商、神奈川縣在籍

母　カク　安政六、六生、神奈川、關口儀助二女
妻　マツ　明一九、八生、群馬、多加谷總象二女
男　正一郎　明四一、一生
女　美代　明四二、六生
幾代　明四五、五生

君は神奈川縣人多勢吉太郎の二男にして明治十一年八月二十八日を以て生れ同二十九年家督を相續す薄荷製

造賀易商を營み傍ら前記會社の重役たり妹千代（明一三、九生）は神奈川縣人大川良之助に嫁せりA一六八（横濱市中區住吉町一ノ六電長者町一二二七）

多田勇雄　正八位、彈壽銀行㊟頭取、朝倉軌道㊟社長、兩毛軌道㊟取締役、福岡縣在籍

織母　ツヤ　文久二、三生、福岡、多田德市養母

妻　カツエ　明一九、九生、佐賀、鹿毛良嘉長女

男　重敏　明四一、一二生

男　貞敏　明四四、二生

男　信敏　大二、一一生

女　春江　大五、五生

君は福岡縣人多田勇の長男にして明治十五年十月二十五日を以て生れ同四十三年家督を相續す現時前記銀行會社の重役として知らる議に推されて衆議院議員に當選し亦福岡縣會議員に選ばる家族は尚四男康敏（大七、一二生）五男光敏（同一〇、四生）二女芳枝（同一三、二生）六男秀敏（明二四、五生）七男威敏（昭四、一生）あり妹アサノ（明二四、五生）は同夫大吉（同一七、一生、福岡平田市三郎弟）及其一子と共に妹タツヨ（同二五、四生）は同夫作治郎（同一〇、一生、福岡、多田作兵衛三男）及其一子と共に各分家し妹シナ（同二九、三生）は福岡縣人大倉清周に同富佐子（同三九、六生）は同縣人廣石市に嫁せり（福岡縣朝倉郡三輪村）

多田卯吉　金物商　大阪府在籍

妻　ミツエ　明二四、五生、大阪、前川久兵衛三女

男　卯一　明四四、八生

男　秀夫　大二、一二生

女　久子　大八、九生

君は大阪府人多田卯平の二男にして明治二十八年五月二十五日を以て生れ大正九年家督を相續す金物商を營む家族は尚四男孝（同一二、一一生）二女澄子（同一五、八生）五男博（昭三、三生）三女千代子（同六、二生）あり妹ヨシ（明二六、一生）同夫一夫（同二七、一二生、德島、伊勢長十郎三男）は其四子を伴ひ分家せりA七三三B二〇四（大阪市南區順慶町二ノ一九電船場一一四三）

多田學三郎　從五位勳六等、醫學博士、多田小兒科醫院長、醫師、愛知縣在籍

妻　フク　明三九、一〇生、二男克巳妻、愛知女　元治元、五生、東京、信田平八三女

男　克巳　明二八、一〇生、醫學博士

婦　リと　日高度四女

君は栃木縣人多田眞祐の二男にして文久三年二月二十一日を以て生れ明治九年家督を相續す同二十二年帝國大學醫科大學を卒業し第二高等學校醫學部教授愛知縣立醫學專門學校教諭兼縣立愛知病院小兒部長等に歷任し同四十一年醫學博士の學位を受く現に小兒科醫として知らる家族は尚男省一（明三九、男）同恒夫（同四二、三生、同二男）ありC一六（同三、五生）は愛知縣人望月代二に三女晴（同三九、五生）は同縣人伊東祐吉二男秀雄に姉タニ（萬延元、一一生）は神奈川縣人熊谷直孝に嫁し妹ヤチ（慶應三、七生）は分家せりA一七七（名古屋市東區檀木町一ノ一三電東一二四）

參照‖望月代次※黑田三樹三の項

多田吉彌　從四位勳四等、公州地方法院長、朝鮮總督府判事、誉五郎妹

妻　トシ　明一九、一二生、長崎、士、鹿見

男　吉典　大四、一一生

女　富美子　大六、一一生

君は長崎縣士族多田吉甕の長男にして同吉鐘の兄なり明治十年六月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十七年京都帝國大學法科を卒業し判事となり同四十二年統監府判事に轉じ次で朝鮮總督府判事となり平壤地方群山區裁各判所判事平壤海州各地方法院判事大邱地方法院金縣支廳京城地方法院仁川支廳釜山地方法院馬山支廳各判事大邱地方法院長に補せられ今日に至る家族は尚和七年公州地方法院長に補せられ今日に至る家族は尚二男昇（大九、六生）五女靜子（同一二、九生）の外弟吉舒（明一九、一一生）同妻當子（同三三、五生、福岡林信平四女）弟吉郷（同二七、二生）同妻スイ（同二九、五生）長崎德永亨叔母との間に各其子女あり三女都子（同四四、七生）は長崎縣人北村勝晴に同貌子（同三二、五生）は同縣人山崎鐵雄に嫁せり（朝鮮忠淸南道公州旭町法院官舍）

多田源二郎　從五位勳六等、遞信技師兼遞信局技師、電氣局技術課勤務　東京府在籍

妻　久夫　昭三、六生

君は新潟縣人多田儀作の二男にして明治二十二年一月を以て生る大正十年九州帝國大學工學部電氣工學科を卒業し同年遞信技師に任じ後仙臺遞信局電氣課長を經て昭和八年遞信省電氣局に轉じ遞信技師にして遞信局技師を兼ね現時同局技術課勤務たり家族は妻セツ及び長女恒子（大一一、五生）あり（東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四七一）

多田耕象　日滿アルミニユーム㊟取締役、飯山鐵道㊟監査役、高知縣士族

妻　ひろ　明一八、四生、茨城、塚本太一郎叔母

男　正一　大二、二生、東大法學部在學

女　弘　大四、六生、三輪田高女出身

君は高知縣士族多田牧の二男にして明治十四年三月二十四日を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十七年京都帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し現時日滿アルミニユーム會社取締役にして飯山鐵道會社監査役を兼ぬ義に東京電燈會社理事發電計畫課長たりしことあり家族は尚三女八千代（大九、一生、府立第五高女在學）二男昭二（昭三、三生）妹名美（明二、一二生）ありA四二一（東京市世田谷區代田二ノ九二三電松澤二七六）

多田竹次郎　多田竹商店貴代表社員、板硝子商　大阪府在籍

妻　テイ　明二〇、九生、大阪、田中巳之助二女

君は奈良縣人中西寅次郎の兄にして明治十一年二月を以て生れ先代漣藏の養子となり同四十二年家督を相續す板硝子商を營み合資會社多田竹商店代表社員たり家族は尚養弟禦治郎（明二三、二二生）同妻靜子（同三〇、八生、大阪、樹下彌太郎妹）及其子女あり（大阪市東區安土町三ノ二八電本町一九二五）

多田常太郎　正四位勳二等、判事、名古屋地方裁判所長、長崎縣士族

妻　カツ　明一〇、八生、廣島、士、栗田歸一長女

男　登　明三二、四生

婦　ちづ　明四〇、二生、長男登妻、新潟、士、荒井賢太郎四女

男　清　明四二、四生

女　文　明四四、九生

君は舊對馬國嚴原藩士多田與善の長男にして明治五年九月を以て生れ大正十年家督を相續す明治二十五年東京法學院を卒業し代言人の免許を得同三十年判事に任ぜられ留來田邊大阪各區裁判所判事大阪地方裁判所部長長崎控訴院判事東京都區裁判所監督判事及び山口高知安濃津各地方裁判所長に歷補し現時名古屋地方裁判所長たり家族は尚孫宏（昭四、一二生、長男登長男）あり長女節（明三四、六生、京都市立第一高女出身）は陸軍砲兵大尉岸良四郎に二女久（同三八、一生、出身校同上）は住友合資會社員法學士妹城爾に姉滿知（同二、一生）は海軍大佐足立六藏に嫁せり（名古屋市東區長堀町一ノ四）

參照‖荒井賢太郎※倉富釣の項

多田藤吉　東洋製鋼商會㊟取締役、金物商　大阪府在籍

母　カメ　明一五、五生、奈良、上井清吉養妹

妻　八重子　明三七、一生、東京、米津松造二女

男　修造　昭二、一一生

君は大阪府人多田藤吉の長男にして明治三十四年三月を以て生れ昭和八年家督を相續し前名藤一郎を改め襲名す現に金物商を營み東洋製鋼商會取締役たり家族は尚弟貞治（明四一、二生）妹ヒデ（同四三、一生）弟保造（大元、九生）同セツ（同四、七生）弟尚平（同六、一一生）妹道子（同九、三生）あり妹チヨ（明三七、三生）は三重縣人廣瀨精一に嫁し弟謙三（同三九、二生）伯母スミ（同六、九生）叔父精七（同二二、四生）は各分家せりA六六五（大阪市天王寺區松ヶ鼻町二七電南一八八六）

參照‖※石井權藏※森友德兵衛の項

多田兵造　多田化學製品所工業原料製造業　兵庫縣在籍

養子　忠　明一、一〇生、長女賤子夫、東京、內藤寬治三男

女　賤子　明四五、三生、養子忠妻

君は兵庫縣人多田兵吉の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正八年家督を相續す多田化學製品所を經營し工業原料製造業を營む家族は尚孫寬（昭七、一〇生、養子忠長男）あり（神戸市林田區笠松通九ノ一五電兵庫八四八）

多田平五郎　住友ビルディング㊟宮務取締役　兵庫縣在籍

妻　中子　明一六、一〇生、富山、中谷隆彥妹

男　潤也　大二、一生

女　玉枝　明四四、二生

女　千枝　大七、一生

君は石川縣人多田左平の四男にして明治十四年一月を以て生れ同十九年兄三郎の跡を承けて家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時住友ビルディング常務取締役たり家族は尚二男靖也（大九、四生）あり（神戸市林田區笠松通九ノ一五電兵庫御影二四六一）

多田學　前淺野ブロツク㊟宮務取締役　東京府士族

妻　たき　明二二、九生、桑名寬長女

男　効　明四四、四生

女　春子　大七、三生

君は東京府人山口武良の三男にして明治十八年二月を以て生れ先代寬の養子となり大正七年家督を相續す養に淺野ブロツク大阪石綿工業金剛商會各會社の重役たり（東京市芝區琴平町一）

多田滿長　衆議院議員（千葉縣選出）、大日本通信社長、千葉縣在籍

妻　きわ　明三〇、二生、宮京、田島貞治妹

君は千葉縣人多田子之助の二男にして明治十九年四月十四日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す先是明治四十四年早稻田大學政治經濟科を卒業し大日本通信社を創設し其社長となり今日に至る千葉縣より選ばれて衆議院議員に當選する事二回にして現に立憲民政黨所屬たり妹トウ（明三二、三生）は千葉縣人石井恒之に嫁せり（東京市芝區今入町一〇電銀座四〇〇七）

多田宗泰　德島縣多額納稅者、阿南鐵道㊟社長、小松島信用組合長、農業　德島縣士族

妻　アサヲ　明二四、二生、德島、後藤田增三郎二女

男　友久　大七、一生

女　文子　明四〇、一二生

女　幸子　大元、一二生

君は德島縣士族多田昌正の長男にして明治二十年十二月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名宗近を改む農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千六百六十五圓を納め德島縣多額納稅者に列す又推されて小松島信用組合長たり義に縣會議員に選ばれしが現今は政界を離れ專心農村振興に力を盡し稻作の改良蔬菜園藝食用蛙の飼育等に努力しつゝあり寫眞を趣味とし友泉と號す家族は尚四女阿愛（大一〇、八生）五女水穗子（同一二、一一生）あり弟勢之助（明二七、二生）は德島縣人吉見宗二に同利雄（同二九、一〇生）は屬岡縣人古賀壯兵衛に同謙一（同三二、七生）は北海道人佐坂俊次に同直（同三九、三生）は德島縣人近藤久次郎に同宗正は同縣人工藤鷹助に各養子となり妹須惠子（同三五、九生）は法學士宮永倫平に嫁せり（德島縣勝浦郡小松島町電一四六）

多田吉鐘　從四位勳四等、朝鮮總督府判事、平壤地方法院長、長崎縣士族

妻　ツネ　明一六、九生、長崎、柳原英一郎二女

女　幸子　大元、一〇生

君は長崎縣士族多田吉甕の二男にして現戶主吉彌の弟なり明治十二年十二月を以て生る同三十九年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十一年海軍省主理試補となり次で海軍省主理吳鎭守府東京各軍法會議附兼海軍省司法局附に任ぜられ同四十二年朝鮮總督府判事となり爾來京城覆審法院判事光州地方法院全州支廳判事大邱地方法院判事大邱覆審法院判事海州平壤各地方法院部長朝鮮總督府高等法　判事京城覆審法院部長等に歷補し昭和七年現職に轉じ今日に至る同六年司法事

務調査の爲歐米各國に出張す(朝鮮平壤府東町官舎)
参照‖※志水寅次郎の項

多田隆之助　太田屋、質商
東京府在籍
妻　しづ子　明三四、五生、神奈川、山本宇之吉二女
男　祥太郎　昭二、九生

君は東京府人多田興子吉の三男にして明治三十一年三月を以て生れ大正九年家督を相續す祖業を繼ぎ質商を營み太田屋と稱す家族は尙長女米子(大一四、二生)弟英三(明三四、三生)同妻珪子(同四三、九生、東京、片岡赤三郎長女)及其二子ありA三〇三(東京市芝區三田二ノ三電三田七二九)

多田禮吉　正五位勳三等功五級、陸軍少將、工學博士、陸軍省兵器局長
靜岡縣在籍
養母　マサ　慶應元年生
妻　クニ　明二〇年生、養父鶴吉長女、三輪田高女出身
男　靖次　明四四年生、一高出ヶ
女　紹子　大元年生、府立五高女專攻科在學
女　文子　大五年生、三輪田高女在學

君は靜岡縣人鈴木與兵衛の二男にして明治十六年九月を以て生れ先代鶴吉の養子となり大正七年家督を相續す明治三十七年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任ぜられ昭和七年四月陸軍少將に累進す其間東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し陸軍技術本部員々陸軍科學研究所第一部長を經て同九年陸軍省兵器局長に補せらる曩に工學博士の學位を授くスポーツに趣味を有す家族は尙二男敬三(大六年生)三女光子(明二年生)あり(東京市淀橋區百人町三ノ三九三電四谷五一〇一)

多田和三郎　多田利商店、洋反物商
大阪府在籍
妻　ヤス　明二〇、一生、養父利重長女
男　芳郎　大三、七生
養子　光雄　明三八、三生、長女きみ夫、和歌山井關安吉三男
女　きみ　明四〇、四生、養子光雄妻
養子　安次郎　明三六、一二生、二女靜夫、大阪多田嘉一郎弟
女　靜　明四二、三生、養子安次郎妻
女　美代子　大六、四生

君は和歌山縣人金澤治三郎の弟にして麻布佃三郎の實弟なり明治十三年九月三日を以て生れ多田利重郎の養子となり大正十二年養弟利一郎方より分れて一家を創立す多田利商店と稱し洋反物商を營む家族は尙孫奉枝(昭四、三生、養子光雄長女)同昌世(同八、一生、同二〇六九(大阪市東區本町三ノ二〇ノ三電本町一五三七)
参照‖麻生仙三郎の項

多羅尾謙四郎　三和銀行㈱日比谷支店長
兵庫縣士族
慶應元、一二生、現戸主
養父　源三郎　明三三、九生、養父源三郎長女、神戸女學院出身
妻　光子　大一一年生、神戸一中在學
男　光一郎

君は陸軍大將中村覺の四男にして男爵同謙一の弟なり明治二十三年十月を以て生れ大正十年多羅尾源三郎の養子となる同六年麻布義塾大學理財科を卒業し古河鑛業會社に入り同社倫敦巴里各支店に勤務し歸朝後攝陽銀行に入り更に轉じ銀行合同に依り三和銀行の設立を見るや同行朝日橋支店に轉げられ現時同行日比谷支店長たり家族は尙長女宏子(大一五年生)ありA二〇九(東京市麹町區三年町一ノ二電銀座三〇六六)
参照‖男爵中村謙一、多羅尾源三郎の項

多羅尾源三郎　勳六等、加島信託㈱專務取締役、北日本汽船㈱取締役、帝國火災保險㈱監査役、兵庫縣士族
攝津保險㈱相談役
妻　勝　明一四、一生、滋賀、士、川澄田鶴二女
養子　謙四郎　明二三、一〇生
女　登美子　大七、一一生
女　壽美子　大七、一一生

君は舊作州津山藩士多羅尾一學の三男にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十四年同族多羅尾善治の養子となり後家督を相續す同十九年商船學校航海科を卒業し大阪商船會社に入る爾來累進して大正五年監査役に推され次いで大阪海上火災保險會社の創立と共に擧げられて其社長に就任す現時前記諸會社の重役たり曾て攝陽銀行山下コークス日本海軍工業櫻島土地各會社の重役たりしことあり圍碁寫眞を趣味とす二女揉子(明三五、一二生)は和歌山縣人中筋好之助長男義一に三女美代子(同三七、一一生、神戸高女出身)は三重縣人竹田直昌に四女文子(同四〇、八生、學習院女學部出身)は滋賀縣士族荒西鐘次郎長男義太郎に嫁せりA五五四(神戸市神戸區山本通三ノ一電葺合二三二六〇)
参照‖多羅尾謙四郎の項

多和田精一　日本金網㈱取締役、王子製紙㈱岩淵工場長兼淀川工場長代理
大阪府士族
妻　トメ　明二〇、七生、山口、瀧本政義妹
女　とよ　明四四、五生
女　はる子　大七、二生

君は東京府士族多和田豊吉の長男にして明治十七年九月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十九年東京高等工業學校電氣化學科を卒業し同四十三年歐洲に留學し後王子製紙會社に入り時岩淵工場長にして淀川工場長代理を兼ね傍ら前記會社の重役たり家族は尙五女敬子(大九、四生)六女多美子(同一三、八生)ありA二五八(靜岡縣庵原郡富士川町岩淵電岩淵七七)
参照‖※複本彌之助の項

多和田督太郎　鐘淵紡績㈱取締役
岐阜縣在籍
妻　くに　明一〇、九生、岐阜、栗本孝吉四女
養子　武男　明三七、四生、四女多美子夫、東京筑紫鶴三男、王子製紙會社員、慶大理財科出身
女　多美子　明一四、八生、養子武男妻、三輪田高女出身

君は岐阜縣人多和田誠二の長男にして明治三年十月三日を以て生れ大正五年家督を相續す明治二十五年慶應義塾を卒業し現時鐘淵紡績取締役たり家族は尙孫武晴(昭八、四生、養子武男長男)あり二女喜美子(明三六、五生)は東京府人筑紫三治に嫁せりA一四一九(東京市大森區田園調布三ノ三〇一)

胎中楠右衛門　衆議院議員(神奈川縣選出)、東京時計製造㈱取締役、鬼怒川水力電氣㈱顧問、大日本國粹會幹事長
神奈川縣在籍

君は高知縣人脇中彌平の二男にして明治九年九月を以て生れ同二十九年兄與三郎方より分れて一家を創立す夙に米國に渡航し彼地に在りて農業に從事する凡三十餘年現時大日本國粹會幹事長たる傍ら前記會社の重役並顧問にして昭和三年以來神奈川縣より推されて衆議院議員にして當選する事三回現に立憲政友會所屬たり曩に華族會議に議員として派遣され又萬國議院商事會議に參加し歐米各國を巡歷すA一〇〇(東京市世田谷區太子堂一六六電青山五五二五世田谷五四三)

大工原孝　從五位、東郡高等蠶絲學校教授、長野縣士族
祖母　たい　嘉永元、八生、長野中川富吉二女
母　ジュン　明一三、一生、大阪、淺井友太郎長女
妻　朝子　明三三、二生、東京、河上新太郎二女
男　襄　大一四、六生

當家は舊信州飯田藩の世臣にして代々鐵砲方を勤めたる家柄なり先代銀太郎は長野縣人鈴木兼太郎の弟にして入りて當家を嗣ぐ夙に帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同二十八年農事試驗場技師に任じ東京帝國大學講師特許局技師を兼任し肥料學研究の爲め英獨佛墺各國に留學し又華盛頓及紐育に於て開催の第八回應用化學萬國會議に參列し論文を提出して農學博士の學位を授けらる後朝鮮總督府勸業模範場長水原高等農林學校長九州帝國大學教授同大學總長を歷任す後退官し昭和五年同志社總長に學げらる君は其長男にして明治二十九年九月を以て生れ昭和九年家督を相續す東京帝國大學工學部冶用機關科に學び現時京都高等蠶絲學校教授たり家族は尙二男潮(大一五、一〇生)三男祐(昭四、六生)弟潔(明四一、一生)同妻邦子(同四三、四生、福島、八田吉平長女、東京女大出身)同博(同四二、八生)同妻ゝミ(大二、九生、京都、竹村清次郎二女、甲南高女出身)あり妹賤(明三二、一一生)は靜岡縣人土屋三平長男正三に同妙(同三八、九生)は熊本縣人武藤虎太二男智雄に嫁せり(京都市上京區今小路通御前西入ル)
参照‖竹村清次郎、八田吉平、武藤虎太の項

大宮司雅之助　童汽船㈱、宮城電氣、松島灣遊覽釜石㈱、昭和實業、鹽釜文化住宅、東北無盡㈱取締役、昭和土地、宮城縣在籍
妻　きく　明四、九生、宮城、志野九吉長女
男　勝五郎　明三三、六生、仙都ビル㈱取締役、早大學部出身
婦　イネ　明四一、一一生、二男勝五郎妻、福島、新狩庄平二女

君は宮城縣人武者圓藏の長男にして慶應三年二月十三日を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり(宮城縣宮城郡松島町電九)

大鄕彌太郎　養產家
東京府在籍
養母　ふさ　明六、一一生、東京、清水錄太郎長女
妻　としゑ　明四〇、四生、東京、星野謙一妹

君は東京府人大鄕三吉の長男にして明治三十五年十月二十五日を以て生れ先代彌太郎の養子となり大正十一年家督を相續し前名一郎を改め襲名す養產家たり家族は尙養弟頼之助(明四一、三生、養母ふさ養子)同妻ちよ(同四五、五生、東京、清水寅吉庶子)ありA八二六(東京市王子區船堀町一ノ九六〇電小石川七九六)

大同和藏　大阪港土地㈱監査役、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍
妻　きぬ　明二七、八生、岐阜、若山慶次郎長女
男　龍藏　明四三、八生
女　八重　大五、一二生
女　房子　大七、五生

君は京都府人大同和助の二男にして明治十三年三月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す二十三歳にして株式實物仲買業を開業し大阪北濱に營業所を設け現に大阪株式取引所短期取引員にして傍ら大阪港土地會社監査役を兼ぬ家族は尙五女照子(大一〇、二一生)六女光子(同一五、八生)あり二女時子(同一三、二生)七女久子(同一五、八生)は藤分定雄に嫁せりA四七六(大阪市住吉區阿倍野筋五ノ四一電天王寺二一〇九)

大道太助　昌榮堂印刷㈱常務取締役
大阪府在籍
妻　佐榮　明一四、一一生、大阪、齋藤作右衛門長女
男　舜造　大七、一二生

君は大阪府人先代太助の長男にして明治八年五月を以て生れ同十年家督を相續し襲名す夙に大阪市立商業學校に學び同三十年住友銀行に入り勤續二十八年に及ぶ現時昌榮堂印刷所常務取締役たり妹、キク(明一〇、一生)は大阪府人飯田恒次郎に嫁せり(兵庫縣武庫郡精道村芦屋古新田五七三ノ一電芦屋二八二四)

大道太郎　養產家
滋賀縣在籍
母　庄　明一五、一一生、高知、士、堀池末雄妹

當家は滋賀縣下の大地主にして先代良太は京都帝國大學法科大學を卒業して官界に入り內務大臣祕書官內務省參事官遞信大臣祕書官同省參事官帝國鐵道廳參事鐵道院參事同總裁祕書官鐵道院理事九州神戸東京各鐵道局長に歷任し大正十三年東京市參與に任じ電氣局長に擧げられ昭和二年辭職後東京電燈會社其他諸會社の重役並に東京商工會議所議員に推さる君は其二男にして明治四十五年四月二十七日を以て生れ東京高等學校を經て目下京都帝國大學經濟學部に在學す姉初子(明三三、一一生)は岐阜縣人山川淳一郎工學士小倉石油會社員に嫁せり(同已代子(同二八、二生)は奈良縣人東京日日新聞記者森川宗興に嫁せり(東京市牛込區原町一ノ五五電牛込二〇)

大丸三吉　地主
東京府在籍
妻　しな　明一五、一〇生、東京、士、濱田惣次郎二女
男　清藏　明四三、一〇生

君は石川縣人大丸清藏の三男にして明治五年十一月八日を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す地主たり二女タカ(明三七、一〇生)は同夫正雄(同三四、九生、千葉、座間清五郎二男)と共に分家せり(東京市澁谷區上通り四ノ一四電青山四六五二)

醍醐鵄郎　地主
東京府在籍
妻　きく　明三六、八生、東京、福室三五郎三女

男　春樹　大一三、四生

君は東京府人中村燕静の二男にして明治二十九年二月九日を以て生れ先代金太郎の養子となり昭和六年家督を相續す地主たり家族は尙長女昭子（昭元、一二生）三男兵衛（同三、六生）ありA三五二（東京市豐島區高田南町二ノ六二九電牛込四六三九）

醍醐惣之助

東京市豐島區會議員、地主
東京府在籍
父　福次郎　文久元、一〇生、現戸主
妻　ふみ　明二六、一一生、東京、長島しも養母
女　德子　大三、一〇生

君は東京府人醍醐福次郎の三男にして明治二十五年六月三十日を以て生る地主にして現時豐島區會議員に擧げられ東京市方面委員たりA七六四（東京市豐島區高田南町一ノ三四七電牛込二八六四）

參照＝醍醐福次郎の項

醍醐忠重

妻　顯子　明三一、二一生、公爵毛利元昭長女
男　忠宣　大一五、七生、學習院在學
男　清子　大七、六生、女子學習院在學

當家は攝政關白一條昭良の二男權大納言冬基の後なり冬基の父昭良實は後陽成天皇第九皇子たるの故を以て靈元天皇の詔を蒙り別に一家を創立し清華の列に加へられ醍醐と稱す爾より五世を經て先代從一位忠順に至り明治十七年侯爵を授けらる君は忠順の嗣子故從二位忠敬の三男にして明治二十四年十月十五日を以て生れ同三十三年祖父の後を承けて爵を襲ぐ夙に海軍兵學校を卒業し大正二年海軍少將に任じ海軍中佐に累進す其間金剛浦風第二十六潛水艇に乘務又海軍水雷學校を卒業し第十二潛水艇長兼吳防備隊付海軍潛水學校教官兼分隊長海軍水雷學校教官等に歷補し現に第十九潛水隊司令官たり家族は尙二女充子（大九、八生）三女和子（同一一、二一生）二男忠久（昭三、六生）あり姉爲子（明七、一生）は子爵小倉義季先代英季に叔母親子（慶應二、八生）は男爵鵜殿家勝先代忠善に嫁し姉信子（明一二、四生）は公爵一條實孝先代實輝の養子となり更に子爵水野忠泰先代忠亮に嫁し同靜子（同二〇、七生）も亦一條實輝の養子となり更に男爵木邊孝慈に嫁せりA二〇九（東京市品川區西品川四ノ九五一電高輪三二〇五）

參照＝公爵一條實孝、公爵毛利元昭、子爵小倉義季、子爵水野忠泰、男爵木邊孝慈、男爵鵜殿家勝、子爵愛宕通經※子爵戸田忠寛※男爵小早川四郎※男爵毛利元良※西園寺八郎の項

醍醐福次郎

地主
東京府在籍
妻　いね　慶應二、一生、東京、柳下六太郎妹
男　惣之助　明二五、六生、浴場經營

君は東京府人醍醐惣左衛門の長男にして文久元年十月十一日を以て生れ明治三十七年家督を相續す地主たり家族は尙孫正之（大五、九生、長男善内四男）同ケイ（同一〇、一〇生、同七女）同東吾（同一二、五生、同五男）同眞一（同七、一〇生、四男、鐵五郎長男）同正十（同一〇、三生、同二男）同謙三（同一三、五生、同三男）同啓次（同一五、七生、同四男）あり三男善之助（明一八、一二生）は山形縣人庄司芳太郎に養弟豐次（同一五、四生）は同縣士族山家セツに各養子となり長女ちう（同二〇、一二生）は同縣人菊地德次郎長男德一郎に二女こう（生年月日同上）は同縣士族山下壯橋長男精に三女むつ（同二八、一〇生）は同縣人佐藤新右衛門弟靈治に養妹みん（同八、一一生）は同縣人新野彌文次に嫁し叔父安五郎（安政元、五生）は分家せり（山形縣東置賜郡涂山村）

平賢吉

日本電附製鐵所監査役、高島屋
茨城縣在籍、參事、本店副支配人
妻　たい　明三〇、二生、茨城、小倉庄次郎長女
女　和子　大四、七生
孫　善二郎　明四一、七生、長男善内二男
孫　秀三郎　明四四、一一生、長男善内三男
孫　文子　大二、六生、長男善内四女
孫　喜惠　大四、一生、長男善内四女
孫　フジ　大八、一〇生、長男善内六女

君は山形縣人渡邊光藏の四男にして文久元年七月一日を以て生れ先代善兵衛の養子となり明治十六年家督を相續す酒造業を營み現時東銀行取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千二百圓を納む家族は尙孫正之（大五、九生、長男善内四男）同ケイ（同一〇、一〇生、同七女）同東吾（同一二、五生、同五男）同眞一（同七、一〇生、四男、鐵五郎長男）同正十（同一〇、三生、同二男）同謙三（同一三、五生、同三男）同啓次（同一五、七生、同四男）あり三男善之助（明一八、一二生）は山形縣人庄司芳太郎に養弟豐次（同一五、四生）は同縣士族山家セツに各養子となり長女ちう（同二〇、一二生）は同縣人菊地德次郎長男德一郎に二女こう（生年月日同上）は同縣士族山下壯橋長男精に三女むつ（同二八、一〇生）は同縣人佐藤新右衛門弟靈治に養妹みん（同八、一一生）は同縣人新野彌文次に嫁し叔父安五郎（安政元、五生）は分家せり（山形縣東置賜郡涂山村）

平敏孝

從五位、奈良縣書記官、內務部長
東京府在籍
妻　房子　明三六、一〇生、東京、藤田四郎二女

君は鹿兒島縣人平義光の三男にして明治二十六年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す同六年文官高等試驗に合格し翌七年東京帝國大學法科大學法科を卒業同八年警視廳警視に任ぜられ警視廳保安部保安課長谷中外神田各警察署長に歷補同十二年群馬縣理事官內務部地方課長學務課長となり同年帝都復興院事務官復興局事務官復興局經理部倉庫課長兼購買課長等を經昭和三年岡山縣學務部長に翌四年千葉縣學務部長に補せらる次で同五年三月歐米各國へ出張を命ぜられ歸朝後同六年六月山梨縣警察部長に同年十一月千葉縣警察部長に歷任し同六年十二月現官職に任せらるゴルフに趣味を有す家族は尙長女効子（昭六、六生）あり（奈良市登大路町五五電奈良一二）

高井幸次郎

砂糖及鰹節商
兵庫縣在籍
父　石松　明六、二生、現戸主
母　エイ　明八、四生、大阪、堺井久四郎長女

妻　綾子　明三三、一二生、大阪、尾能五兵衛二女
男　明　大一四、三生

君は兵庫縣人高井石松の長男にして明治二十七年五月を以て生る砂糖及鰹節商を營む家族は尙長女郁子（大一一、二生）二女陽子（同一三、一生）二男辰也（昭三、四生）あり妹峯子（明三四、四生）は廣島縣人遠藤和一に嫁し叔父庄吉（同一八、三生）は兵庫縣人八田たねの養子となれりA九八八B三四三（神戸市兵庫區江川町三ノ一二電兵庫一〇九〇）

高井幸三

大阪農工銀行、攝津銀行各役取締役、大阪府在籍
安政六、七生、大阪、好田幸次郎三女
妻　マス
養子　理作　明一二、一〇生、二女チズ夫、大阪一、池上政太郎二男、現戸主
女　チズ　明一九、五生、養子理作妻
孫　善一　明四〇、七生、養子理作長男
孫妻　アキ　明四二、二生、孫善一妻、大阪、井上元宏妹
孫　幸子　明四三、二生、養子理作二女
孫　善夫　大二、八生、養子理作二男

君は大阪府人高井善兵衛の長男にして安政三年十一月八日を以て生れ後家督を相續し大正七年退隱して家督を養子理作に讓る現時前記各銀行の重役たり家族は尙孫春子理作三女同善四郎（同一三、一一生、同四男）曾孫美和子（昭五、九生、孫善一長女）あり孫嘉代（明三七、七生、養子理作長女）は奈良縣人井上與增に嫁し同善三（大六、三生、同三男）は大阪府人池上政一の養子となれりA四三九（大阪府三島郡如是村電富田四二甲）

高井治兵衛

日本染色組合社長、磯田屋、東京株式取引所取引員、東京府在籍
妻　あい　明一二、四生、東京、小山岩次郎二女
養子　貞三　明二七、七生、長女つる夫、東京木村清太郎弟
女　つる　明三〇、二生、養子貞三妻
孫　房子　大七、八生、養子貞三長女
孫　てい子　大八、九生、養子貞三二女

君は東京府人藤澤藤吉の二男にして明治六年八月を以て生れ先代治兵衛の養子となり同三十七年家督を相續し前名芳次郎を改め襲名す磯田屋と稱し東京株式取引所一級實物國債取引員にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に東京府多額納稅者に列す家族は尙孫はる子（大一四、四生、養子貞三三女）同俊一郎（昭二、一一生）同賢治（同四、一二生、同二男）ありA六五〇一B九九七（東京市日本橋區茅場町一ノ一六電茅場町六〇一）

高井太郎

中外舍密工業、東洋倉庫各役取締役、ブランナーモンド社日本本店營業部長、兵庫縣在籍
妻　つね　明二三、四生、奈良、阪口滿津長女
男　孝純　大四、五生

君は兵庫縣人辯護士高井三和次郎の三男にして明治十五年八月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十七年同志社大學を卒業し現時ブランナーモンドコンパニーリミテッド日本本店營業部長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男正郎（大六、二生）三男清（同一三、八生）のりA四二二（神戸市神戸區中山手通七ノ五四八電長元町二七七三）

高井利平

五十六銀行社常務取締役
兵庫縣在籍
妻　ちか　明九、二八生、六生、養父利三郎長女
男　英一　明三三、一一生、長男英一妻、兵庫、小寺慶之助二女
婦　しげ　明四二、一二生

君は兵庫縣人白井庄吉の二男同吉次郎の弟にして明治元年十月五日を以て生れ高井利三郎の養子となり同三十一年養祖父利平の後を承け家督を相續し前名竹次郎を改め襲名す養に一族の創立に係る萬里銀行頭取三十五十六銀行監査役及明石商工會議所議員等に擧げられ現時生、長男英一長女（明三一、一生）同久仁子（昭四、一生、同二女）あり長女ちよ（明三一、七生）は兵庫縣人田淵一雄に養妹ふく（同一六、一生）は岡山縣人野田義夫に同はる（同一九、一〇生）は兵庫縣人米澤吉次郎長男政太郎に嫁し二男順二（同四一、四生）は兵庫縣人藤澤藤吉の二男にして明治六年八月を以て生れ先代治兵衛の養子となり同三十七年家督を相續し前名芳次郎を改め襲名す磯田屋と稱し東京株式取引所一級實物國債取引員にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に東京府多額納稅者に列す家族は尙孫はる子（大一四、四生、養子貞三三女）同俊一郎（昭二、一一生）同賢治（同四、一二生、同二男）ありA六五〇一B九九七（東京市日本橋區茅場町一ノ一六電茅場町六〇一）

高井利平

五十六銀行社常務取締役
兵庫縣在籍
妻　ちか　明九、二八生、六生、養父利三郎長女
男　英一　明三三、一一生、長男英一妻、兵庫、小寺慶之助二女
婦　しげ　明四二、一二生

君は兵庫縣人白井庄吉の二男同吉次郎の弟にして明治元年十月五日を以て生れ高井利三郎の養子となり同三十一年養祖父利平の後を承け家督を相續し前名竹次郎を改め襲名す養に一族の創立に係る萬里銀行頭取三十五十六銀行監査役及明石商工會議所議員等に擧げられ現時生、長男英一長女（明三一、七生）は兵庫縣人田淵一雄に養妹ふく（同一六、一生）は岡山縣人野田義夫に同はる（同一九、一〇生）は兵庫縣人米澤吉次郎長男政太郎に嫁し二男順二（同四一、四生）は兵庫縣人藤澤藤吉の二男にして明治六年八月を以て生れ先代治兵衛の養子となり同三十七年家督を相續し前名芳次郎を改め襲名す磯田屋と稱し東京株式取引所一級實物國債取引員にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に東京府多額納稅者に列す家族は尙孫はる子（大一四、四生、養子貞三三女）同俊一郎（昭二、一一生）同賢治（同四、一二生、同二男）ありA六五〇一B九九七（東京市日本橋區茅場町一ノ一六電茅場町六〇一）

高池和七

家主
東京府在籍
孫　市藏　明四四、四生
孫　和子　大八、一生

君は東京府人宮原市郎の伯父にして元治元年一月を以て生れ明治二十一年先代ふさの入夫となり家督を相續す家主にして資產家たりA三五四（東京市神田區一ツ橋通一四電九段二六七一）

高石眞五郎

大阪毎日新聞社社取締役、大阪毎日東京日日各新聞主筆兼大阪毎日新聞主幹、清交社理事長
妻　幸世　明二四、五生、東京、士、鈴木植次妹、學習院女學部出身
男　眞彌　大二、一生、慶大在學
女　濱子　明四五、一生、羽衣高女及大阪女子專門學校出身
女　眞利子　大三、六生、羽衣高女出身

君は千葉縣人高石四郎平の弟にして明治十一年九月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す明治三十四年慶應義塾大學法科を卒業し大阪毎日新聞社に入り現に同社取締役にして大阪毎日東京日日各新聞主筆兼大阪毎日新聞主幹たり又推されて清交社理事長を兼ぬ家族は尙三男覺三郎（大六、九生、慶應普通部在學）三女幸子（同九、七生、羽衣高女在學）ありA一二二三（大阪府泉北郡高石町羽衣四六八電濱寺一四八）

參照＝鈴木植次の項

參照＝白井吉次郎、米澤吉次郎の項

高池市藏

家主
東京府在籍
孫　和子　明四四、四生

君は東京府人宮原市郎の伯父にして元治元年一月を以て生れ明治二十一年先代ふさの入夫となり家督を相續す家主にして資產家たりA三五四（東京市神田區一ツ橋通一四電九段二六七一）

高石辨治

岡崎商工會議所副會頭、中部電力社長、東京電化、天龍電氣、三河水力電氣、濃電化、東京木電氣各社取締役
妻　アサヨ　明二七、八生、愛媛、松本託太郎妹
男　佐太郎　大一〇、一生
女　弓子　大五、六生
女　チル　大八、一生

君は愛媛縣人高石佐吉の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同三十年家督を相續す同四十二年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時中部電力會社

社長たる外前記各會社の重役にして推されて岡崎商工會議所副會頭たり家族は尙三女美枝(大一二、六生)二男佑次郎(同一四、一一生)四女多實子(昭三、一〇生)三男泰三(同一四、九生)の外弟菊次郎(明二一、一〇生)同妻は(同五、九生)の外弟菊次郎(明二一、一〇生)其二子あり姉ヨウ(同一三、六生)は愛媛縣人青木伊勢吉養子康太郎に嫁せり(岡崎市六供町西茶臼電六三九)

高石政次郎　正五位勳五等、地方技師、沖繩縣農事試驗場長、熊本縣在籍

妻　ミワ　大一五、三生
男　元一　明四四、九生
女　ミツ　大五、一二生
女　あい子　大八、九生
鈴子　明治十一年八月八日を以て生る同四十年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し直に福岡縣技師に任じ爾來福岡縣農事試驗場長朝鮮總督府技師地方農林技師靜岡縣立農業試驗場長沖繩縣農林技師等に任補し昭和九年地方技師に任じ現時沖繩縣立農業試驗場長たり家族は尙四女つね子(大一一、八生)五女けい(大一三、三生)二男悦二(昭三、七生)六女きく子(同五、一一生)七女トマト(同八、四生)あり A一一〇(沖繩縣島尻郡眞和志村與儀農事試驗場官舍)

高岩駿　金融業　東京府在籍

妻　と　く　明三〇、九生、茨城、渡邊吉太郎妹
君は福岡縣人高岩義政の庶子にして明治二十六年十月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す夙に大阪私立商業學校を卒業し能く理財に長じ大いに產を成し現時金融業者として知らるA五四〇(東京市神田區久右衛門町二電淺花六四六四)

高尾定七　高尾銅器㈱代表社員、烏定、銅器商、大阪府在籍

妻　マサ　明九、五生、大阪、小國長兵衛妹
男　幾太郎　明三二、二生
婦　美那　明三六、一二生、長男幾太郎妻、大阪、岡本壽英二女
君は大阪府人先代定七の長男にして明治五年六月三日を以て生れ大正七年家督を相續し前名米次郎を改め襲名す銅器商を營み屋號を烏定と稱し同地に於ける老舗にして現に高尾銅器合名會社代表社員たり曩に大阪銅器工業會社々長たりし事あり家族は尙孫定一(大一五、八生、長男幾太郎長男)あり弟光之助(明一四、三生)女を伴ひ弟定治郎(同八、三生)は同妻倭子(同二三、五生、大阪、猪戸恒次郎長女)を伴ひ弟松三郎(同一一、二生)は其妻子を伴ひ各分家し妹きく(同七、八生)は大阪府人西田久彌に同あい(同九、六生)は同府人井上嘉兵衛に嫁せり(大阪市東區道修町四ノ二九電本局二三八四)
参照‖高尾松三郎の項

高尾繁造　川西機械製作所㈱常務取締役、川西航空機㈱取締役、日本毛織㈱囑託、兵庫縣在籍

妻　壽惠　明三三、三生、岡山、大崎勘次長女
男　徹也　大五、一〇生、三高在學
君は兵庫縣人高尾要介の二男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十二年兄猪之介方より分れて一家を創立す同四年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し現時川西機械製作所川西航空機各會社重役にして日本毛織會社囑託を兼ぬ同八年同十四年再度外遊すA二〇〇二八(神戸市灘區大石町一二ノ一二電御影三二三四)
参照‖※岸本文二の項

高尾甚造　從五位、朝鮮總督府道事務官、慶尙北道警察部長、熊本縣在籍

妻　道子　明九、一二生
男　信造　昭七、四生
君は熊本縣人高尾武造の三男にして明治三十一年九月五日を以て生る大正十年文官高等試驗に合格同十一年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し同年朝鮮總督府屬に任じ警察官講習所教授を兼任す同十三年朝鮮總督府道理事官となり江原道學務課長兼官房主事同地方課長黃海道地方課長を經て昭和三年總督府專務官學務局勤務となり次で同四年警務局勤務に轉じ外務事務官を兼任し上海に駐在す同六年朝鮮總督府道事務官に任ぜられ忠淸南道咸鏡北道各警察部長を歷任し同九年六月現職に轉ず家族は尙長男春子(大一四年生)二女澤子(昭九年生)あり(朝鮮慶尙北道大邱府東雲町官舍)

高尾松三郎　雜貨貿易商　大阪府在籍

妻　アイ　明一九、八生、兵庫、田中太七郎姪子
姪子　德三郎　明三八、一〇生、兵庫、田中太七郎四男
婦　重子　大元、九生、姪子樫三郎妻、兵庫高見勝千代四女
君は大阪府人高尾定七の弟にして明治十一年二月十四日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す雜貨貿易商を營む歌澤に趣味を有す家族は尙庶子檜一(大九、一生、生母、和田くに)(同檜造(同一一、四生、生母同上)同檜三郎(同一四、一二生、生母同上)同檜雄(昭二、一〇生、生母同上)同敬之助(同五、七生、生母同上)同道之助(同六、一生、生母同上)あり A六一八(大阪市西區京町堀二ノ三電土佐堀三四六三)
参照‖高尾定七の項

高丘季昭　子爵　舊公卿家

母　美喜子　明三九、六生、男爵千秋季隆二女女子學習院出身
當家は藤原鎌足の孫武智麿の後裔參議中納言定の二男季起の後なり季起別に一家を創め高丘と稱す夫より八代禮季に至り明治十七年子爵を授けらる先代和季其後を繼ぎ早稻田大學英文科を卒業し文部省宗教制度調査會囑託仰付けらる君は其長男にして昭和四年一月十四日を以て生れ同五年家督を相續し襲爵被仰付家族は尙葉子(昭二、八生)あり大伯母紀子(安政六、七生)は男爵玉松公敏先々代眞幸に嫁し大叔父治季(明一九、一生)は分家せり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇千秋男爵方電青山一四〇一)
参照‖男爵千秋季隆、男爵玉松公敏の項

高岡熊雄　從三位勳二等、法學博士、農學博士、北海道帝國大學總長、帝國學士院會員、北海道在籍

妻　愛　明一八、一二生、東京、士、萩原清彦妹

男　道夫　明三九、一生、理學士
男　英夫　明四〇、九生、經濟學士
男　周夫　明四二、五生、經濟學士
女　汎子　明四四、六生
君は錦鷄間祇候高岡直吉の弟にして明治四年八月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同札幌農學校農學科を卒業し同三十年同校助教授に任じ同三十三年農業經濟學及農政學研究の爲獨逸に留學し同三十七年同校教授となり同四十一年東北帝國大學教授に進み同四十三年法學博士の學位を受く大正七年北海道帝國大學教授となり後農學部長に補せられ同八年農學博士の學位を受く同十一年北海道帝國大學附屬圖書館長に任ぜられ昭和八年同大學總長に就任し今日に至る同九年帝國學士院會員仰付けらる(札幌市北六條西一二ノ一電二〇八七)
参照‖高岡直吉、萩原清彦※青木芳彦※中谷秀※吉田靜致の項

高岡權治郎　地主　兵庫縣在籍

妻　ゑん　明二八、七生、兵庫、岸源藏長女
男　權一郎　大二、二生
君は兵庫縣人高岡權三郎の長男にして明治十六年二月八日を以て生れ同四十五年家督を相續す地主たり弟悅藏(明二二、三生)は分家せり A一一三四(尼崎市西灘波村三五〇ノ一)

高岡善右衛門　質商　兵庫縣在籍

妻　チク　明一五、三生、大阪、岸本久兵衛長女
男　善一　明四四、七生
女　米子　大五、二生
君は兵庫縣人先代善右衛門の長男にして明治六年一月一日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名英三郎を改め襲名す質商を營む家族は尙三男誠二(大八、三生)あり弟寗太郎(明一五、一生)同妻コスエ(同一七、九生、大阪、岸田庄右衛門長女)は共に分家せり A五七六B七七(尼崎市大物町二ノ二一七電二九四)
参照‖※岸本德藏※津田長右衛門の項

高岡直吉　從三位勳二等、錦鷄間祇候　東京府士族

妻　ウメ　慶應三、二生、島根、士、小柴正祐養妹
男　弘道　明二二、一一生、三菱鑛業㈱參事工學士
婦　操　明治一、六生、二男弘道妻、農學士中山斧吉二女
男　正道　明四一、一二生、北海道拓殖銀行員、經濟學士
君は舊石州津和野藩士高岡道敬の長男にして萬延元年一月二十二日を以て生れ明治十二年家督を相續す同十五年札幌農學校を卒業し北海道廳參事官北海道支廳長北海道廳事務官宮崎島根鹿兒島各縣知事に歷任し退官後門司市長及札幌市長に擧げらる錦鷄間祇候たり曩に歐米を視察す家族は尙孫直道(大一一、九生、二男弘道長男)あり長女キミ(明二六、三生)は陸軍砲工學校教授理學士青木芳彦に二女サカエ(同二九、八生)は島取縣知事中谷秀に五女幸(同三七、一〇生、女子英學塾出身)は三菱鑛業會社員菊地享に六女晴子(同四〇、七生、日本女大國文科出身)は海軍造機少佐工學士喜安貞雄に嫁し弟熊雄(同四、八生)は分家せり(東京市澁谷區櫻ヶ谷本町一ノ五六電四谷八五一)
参照‖青木芳彦、高岡熊雄、中谷秀の項

高岡齊　理學博士、化學工業顧問　大阪府在籍

妻　壽江　明二五、八生、三重、井阪鐵太郎二女
男　研一　大七、五生
君は三重縣人高岡佐市の二男にして明治二十一年一月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す同年東北帝國大學理科大學化學科を卒業し大阪市立工業研究所長兼大阪市技師たりしが昭和九年之を辭し實業界に入り現時化學工業顧問たり曩に理學博士の學位を授與せらる「染料化學」の著あり家族は尙二男二郎(大一〇、一〇生)三男昭(昭五、一〇生)あり A一四一(大阪市住吉區天王寺町三二五三電天王寺二七二)

高岡政治郎　勳八等功七級、家主　京都府在籍

姪舟　ナカ　安政四、六生、京都、川崎嘉兵衛二女

妻　まさ　明一二、四生、京都、岡本佐兵衛庶子
男　太三郎　明二八、八生
婦　マサ　明三五、八生、長男太三郎妻、京都、中川磯治郎妹
男　德太郎　明三一、一生
女　多壽　大三、六生
高岡家は先代太兵衛京都府下より出でて同市の絕家高岡家を再興したるに創まる初め煙草商を營みしが後土地建物に投資し以て今日の基を成す君は京都府人川崎七郎兵衛の長男にして明治十一年六月四日を以て生れ先代太兵衛の養子となり大正十三年家督を相續す曩に大阪市にて染料商を創め富を成し更に日ノ出護謨製造會社を創設して隆盛を極め又京都衣裳會社取締役社長八千代キネマ會社監査役たりしが現時專ら家屋の經營に從事す家族は尙孫泰治郎(大一三、一一生、長男太三郎二男)同榮造(同一五、四生、同三男)同茂雄(昭二、四生、同四男)同博一(大一四、一一生、二男德太郎長男)あり三男直治郎(明三五、二生)は分家し長女わさ(同三七、七生、親愛家政女學校出身)は大阪府人杉谷順三に三女千代(同四二、七生、第二府立高女出身)は同府人高城友吉郎長男茂一郎に嫁せり A五四二(京都市下京區五條堺町西入電下三〇三六)

高岡益藏　錢屋織信、菓子商　大阪府在籍

妻　芳子　明二二、一生、大阪、五十川盛三女
男　文一郎　明四四、五生
女　綾子　大三、八生
鈴子　大六、八生
君は京都府人吉田吉次郎の弟にして明治十九年四月二十八日を以て生れ先代キクの養子となり大正三年家督を相續す錢屋織信と稱し三百年來の祖業菓子商を營み今日に至る長女智惠子(明三九、三生、相愛高女出身)は京都府人松居亮三郎に二女敏子(同四〇、一〇生、出身校同上)は大阪府人久保田興市長男保次に嫁せり A七八二B二三八(大阪市西區土佐堀船町六電土佐堀一五一)
参照‖久保田興市、吉田吉次郎の項

高垣甚之助　丸八、東京株式取引所取引員
東京府在籍
妻　ふみ　明一五、一二生、和歌山、九鬼角兵衛二女
男　昇　明三八、九生
婦　あき　大二、八生、長男昇妻、茨城、石川鐵之介三女
養子　久米治　明二八、一二生、養子つや夫、岩手、小泉久米藏二男
養子　つや　明二九、六生、養子久米治妻、妻ふみ妹
女　美千代　明四五、六生
女　あや子　大三、六生
君は東京府人高垣甚助の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時丸八と稱し東京株式取引所一製紐期實物取引員たり家族は尚二男弘（大五、三生）八女赤子（同一〇、一二生）孫英丸（同九、八生、養子久米治長男）同尚久（同一一、一二生、同二男）同美帆子（同一五、一〇生、同二女）あり長女喜代子（明三七、二生）同夫信造（同三二、五生、東京、小沼長松五男）は其子女を伴ひ從弟八郎（同二六、三生、東京、九鬼角兵衛五男）同妻まさ（同三二、九生、和歌山木村勘九郎七女）は其一女を伴ひ各分家し二女巻子（同四〇、五生）も亦分家せり六女つた（大七、一生）は和歌山縣人崎山繁次郎の養子となり養子繊江（明二三、三生、東京、大國易興長女）は東京府人中尾光代の家籍に入れりA四八五六B八九〇（東京市日本橋區兜町五番茅場町三四九五）

高垣寅次郎　正五位勳三等、經濟學博士、東京商科大學教授、附屬圖書館長
廣島縣在籍
妻　ミサヲ　明二六、一二生、廣島、堀家好太郎長女
男　信六郎　大一三、三生
君は廣島縣人高垣豊太郎の三男にして明治二十三年二月を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す明治四十四年神戸高等商業學校を大正二年東京高等商業學校專攻部銀行科を各卒業し同四年東京高等商業學校助教授となり米國に留學す同八年歸朝し東京商科大學助教授兼同大學附屬商學專門部教授を經て現時東京商科大學教授にして同大學附屬圖書館長たり同十五年論文を提出して經濟學博士の學位を授けらる家族は尚二男玄吉郎（昭二、二生）あり長男文吉郎（大九、一〇生）は外祖父堀家好太郎の死跡を相續し姉エツ（明八、六生）は廣島縣人西崎與三長衛に同タキヨ（明一五、一二生、和歌山、九鬼角兵衛二女）は姪イチ（同三六、一生）は同縣人野村豊之進長男盛一に嫁せり（東京市大森區市野倉町二一電池上二一二）

高木市之助　從四位勳三等、京城帝國大學教授
附屬圖書館長、法文學部勤務
愛知縣在籍
妻　文　明二八、七生、愛知、内田勝起二女、實踐女學校家政科出身
男　清之助　大六、五生
女　ちよ　大八、三生
君は愛知縣人高木六郎の長男にして明治二十一年二月五日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學學國文學校教授文部省圖書監修官浦和高等學校教授兼第五高等大學文學部講師等を經て大正十三年文學研究の爲米英佛獨に留學を命ぜられ次で同十五年京城帝國大學教授に任じ法文學部勤務となり現在に至り昭和九年附屬圖書館長に補せらる義に法文學部長たり家族は尚二男令二（昭七、一生）あり（京城府三坂通一一七ノ一電龍山一四五六）

高木逸雄（トシヲ）　從五位勳三等、京城帝國大學教授
東京府在籍
妻　愛　明三〇、八生、靜岡、米山梅吉長女、聖心女學院出身
男　磐　大七、七生
君は京京府人高木豊三の二男にして明治十九年十月を以て生れ大正十一年兄健方より分れて一家を創立す同二年東京帝國大學醫科大學を卒業し現に宮内省侍醫たり先是同十一年醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女花枝（大九、一〇生）あり（東京市赤坂區青山南町六ノ一四七電青山二四五〇）
參照‖米山梅吉※荒川昌三※平沼亮三の項

高木乙熊　從五位勳四等、醫學博士、地方技師、福岡縣警察部衛生課長
妻　鎮子　明一六、四生、山口、士、室本開之助二女
君は山口縣長門の出身にして明治十四年七月二十一日を以て生る同四十一年醫師となり同四十三年茨城縣々醫を命ぜられ茨城縣北海道廳靜岡縣各警察醫靜岡群馬埼玉各縣衛生課長を經て現時福岡縣警察部衛生課長たり義に醫學博士の學位を授けらる（福岡市西新町百道電二七三一）

高木嘉平治　地主
東京府在籍
妻　利　明三〇、一生、埼玉、大澤驍二四女
女　延子　大七、九生
君は東京府人高木信吉の長男にして明治十五年七月を以て生れ昭和五年家督を相續す地主たり家族は尚二女房子（大九、九生）三女光子（同一二、六生）四女良子（昭三、一二生）ありA五五五（東京市本郷區駒込神明町六電小石川八〇二）

高木喜三郎　從四位勳三等、京城帝國大學教授
愛知縣在籍
妻　さと　明二八、七生、愛知、内田勝起二女、實踐女學校家政科出身
養子　つや　明二九、六生、養子久米治妻、妻ふみ妹
女　美千代　明四五、六生
女　あや子　大三、六生
君は東京府人高垣甚助の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時丸八と稱し東京株式取引所一製紐期實物取引員たり家族は尚二男弘（大五、三生）八女赤子（同一〇、一二生）孫英丸（同九、八生、養子久米治長男）同尚久（同一一、一二生、同二男）同美帆子（同一五、一〇生、同二女）あり長女喜代子（明三七、二生）同夫信造（同三二、五生、東京、小沼長松五男）は其子女を伴ひ從弟八郎（同二六、三生、東京、九鬼角兵衛五男）同妻まさ（同三二、九生、和歌山木村勘九郎七女）は其一女を伴ひ各分家し二女巻子（同四〇、五生）も亦分家せり六女つた（大七、一生）は和歌山縣人崎山繁次郎の養子となり養子繊江（明二三、三生、東京、大國易興長女）は東京府人中尾光代の家籍に入れりA四八五六B八九〇（東京市日本橋區兜町五番茅場町三四九五）

高木市之助　從四位勳三等、京城帝國大學教授
附屬圖書館長、法文學部勤務
愛知縣在籍
妻　文　明二八、七生、愛知、内田勝起二女、實踐女學校家政科出身
男　清之助　大六、五生
女　ちよ　大八、三生
君は愛知縣人高木六郎の長男にして明治二十一年二月五日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學學國文學校教授文部省圖書監修官浦和高等學校教授兼第五高等大學文學部講師等を經て大正十三年文學研究の爲米英佛獨に留學を命ぜられ次で同十五年京城帝國大學教授に任じ法文學部勤務となり現在に至り昭和九年附屬圖書館長に補せらる義に法文學部長たり家族は尚二男令二（昭七、一生）あり（京城府三坂通一一七ノ一電龍山一四五六）

高木逸雄（トシヲ）　從五位勳三等、京城帝國大學教授
東京府在籍
妻　愛　明三〇、八生、靜岡、米山梅吉長女、聖心女學院出身
男　磐　大七、七生
君は京京府人高木豊三の二男にして明治十九年十月を以て生れ大正十一年兄健方より分れて一家を創立す同二年東京帝國大學醫科大學を卒業し現に宮内省侍醫たり先是同十一年醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女花枝（大九、一〇生）あり（東京市赤坂區青山南町六ノ一四七電青山二四五〇）
※荒川昌三※平沼亮三の項

高木乙熊　從五位勳四等、醫學博士、地方技師、福岡縣警察部衛生課長
妻　鎮子　明一六、四生、山口、士、室本開之助二女
君は山口縣長門の出身にして明治十四年七月二十一日を以て生る同四十一年醫師となり同四十三年茨城縣々醫を命ぜられ茨城縣北海道廳靜岡縣各警察醫靜岡群馬埼玉各縣衛生課長を經て現時福岡縣警察部衛生課長たり義に醫學博士の學位を授けらる（福岡市西新町百道電二七三一）

高木嘉平治　地主
東京府在籍
妻　利　明三〇、一生、埼玉、大澤驍二四女
女　延子　大七、九生
君は東京府人高木信吉の長男にして明治十五年七月を以て生れ昭和五年家督を相續す地主たり家族は尚二女房子（大九、九生）三女光子（同一二、六生）四女良子（昭三、一二生）ありA五五五（東京市本郷區駒込神明町六電小石川八〇二）

繼母　りせ　慶應三、二生、長崎、濱崎彌助姉
妻　嘉壽子　明三三、六生、長崎、福田雅太郎養子
紹夫　大九、一生
男　かほる　明四二、一二生、府立第三高女出身
女　壽子　大三、一生、青山女學院出身
女　慶子　大五、一二生、フレンド高女出身
君は長崎縣士族高木武夫の長男にして明治十七年一月二十四日を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正七年朝鮮總督府醫院副醫官に任ぜられ同八年同府技師を兼任後獨逸に留學を命ぜらる昭和二年歸朝同年東京帝國大學教授兼防疫官に任じ傳染病研究所員に補せられ現時東京市立駒込病院長を兼ぬ家族は尚三男喬（大一一、六生）四女須磨子（昭五、一二生）五女敏江（同八、五生）あり（東京市品川區上大崎長者丸二八二電高輪一八四〇）
參照‖※風間武三郎の項

高木喜三郎　從五位勳四等、醫學博士、東京帝國大學教授兼防疫官、傳染病研究所員、東京市立駒込病院長
妻　ゆき　明三、二生、愛知、士、中尾慶治六女
男　保一　大七、三生
女　みち　明四五、四生
女　き　大三、四生

高木喜太郎　家主
大阪府在籍
妻　すう　明三七、一一生
男　喜義　明三八、二生、長男喜義妻、大阪伊東岩太郎妹
婦　はる

高木勝治郎　伊勢米、酒類食料品商
東京府在籍
父　利兵衛　文久三、八生
妻　敬子　明三八、四生、東京、鬼塚通德妹
男　一雄　昭二、一生
君は東京府人高木利兵衛の四男にして現戸主利八の弟なり明治二十六年八月を以て生る伊勢米と稱し酒類食料品商を營む家族は尚長女八重子（大一四、五生）二男勇（昭五、一生）ありA二二八B一五二（東京市淺橋區西大久保二ノ二八九電四谷一一七九）

高木兼五郎　尾張商店、魚問屋業
東京府在籍
妻　カメ　明八、二生、東京、白石キン姪
養子　長次　明三七、一一生、二女たみ夫、東京、岩野光次弟
女　たみ　明三六、二生、養子長次妻
君は靜岡縣人高木啓助の二男にして明治八年十月十三日を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す魚問屋業を營み尾張商店と稱す家族は尚孫喜久子（昭六、七生、養子長次長女）同雅雄（同八、五生、同長男）ありA四六〇B二三〇（東京市京橋區築地二ノ一一ノ二電京橋三六四六）

高木喜一　資産家
東京府在籍
父　兵助　安政六、四生
繼母　とよ　明四、一二生、東京、堀江市太郎姉
妻　ちか　明二〇、七生、東京、濱田艷次郎長女
男　賢三郎　明四五、七生
君は東京府人高木兵助の長男にして明治十六年十月を以て生れ昭和七年家督を相續す資産家たり家族は尚三男貞三（大六、五生）四男隆司（昭五、三生）弟吉之助（明五、九生）ありA二二七（東京市王子區下十條町八七五）

高木喜三郎　資産家
東京府在籍
妻　さと　明二五、二生、愛知、士、中尾慶治六女
男　保一　大七、三生
女　みち　明四五、四生
女　き　大三、四生
君は東京府人高木喜三郎の長男にして明治十六年十月を以て生れ同三十五年家督を相續す資産家たり家族は尚二男貞三（大六、五生）四男隆司（昭五、三生）弟吉之助（明九、九生）同平八郎（同四三、一九、九生）同七三（同三九、七生）同平八郎（同四三、九生）ありA二二七（東京市王子區下十條町八七五）

高木喜太郎　家主
大阪府在籍
妻　すう　明三七、一一生
男　喜義　明三八、二生、長男喜義妻、大阪伊東岩太郎妹
婦　はる

高木市郎　名古屋商工會議所議員、加商㊟取締役、高木貿易商會、貿易業
愛知縣在籍
妻　さと　明二五、二生、愛知、士、中尾慶治六女
男　保一　大七、三生
女　みち　明四五、四生
女　き　大三、四生

高木克敬　醫師
東京府在籍
妻　多津　明一三、四生、京都、藤村元張姉
男　敬一　明三八、一一生、京都府立醫大出身
女　鷹子　明三四、四生
女　幸子　明四一、一〇生
女　房子　明四四、一二生
君は京都府人醫師高木隆伯の長男にして明治四年八月を以て生れ大正三年家督を相續す夙に醫學を修め京都府立療病院に勤務し傍ら同府立醫學專門學校講師たりしが明治三十二年京都帝國大學醫科大學醫學院の創立事務に從事し次で同大學内科に後小兒科教室に勤務す同三十七年之を辭し小兒科專門を以て開業し今日に及ぶ家族は尚三男忠敬（大四、九生）四男貞敬（同八、三生）あり長女藤子（明三一、一生）同夫耕三（同二五、三生、大阪、岡田嘉一弟、正七位、醫學博士）は分家し弟信敬（同九、一一生）同妻コウ（同一八、三生）は亦分家せりA一四九四（京都市中京區東洞院通御池上ル電本局五四四五）
參照‖高木義敬、藤村元張の項

高木勝治郎　伊勢米、酒類食料品商
東京府在籍
父　利兵衛　文久三、八生
妻　敬子　明三八、四生、東京、鬼塚通德妹
男　一雄　昭二、一生
君は東京府人高木利兵衛の四男にして現戸主利八の弟なり明治二十六年八月を以て生る伊勢米と稱し酒類食料品商を營む家族は尚長女八重子（大一四、五生）二男勇（昭五、一生）ありA二二八B一五二（東京市淺橋區西大久保二ノ二八九電四谷一一七九）

高木兼五郎　尾張商店、魚問屋業
東京府在籍
妻　カメ　明八、二生、東京、白石キン姪
養子　長次　明三七、一一生、二女たみ夫、東京、岩野光次弟
女　たみ　明三六、二生、養子長次妻
君は靜岡縣人高木啓助の二男にして明治八年十月十三日を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す魚問屋業を營み尾張商店と稱す家族は尚孫喜久子（昭六、七生、養子長次長女）同雅雄（同八、五生、同長男）ありA四六〇B二三〇（東京市京橋區築地二ノ一一ノ二電京橋三六四六）

高木喜一　資産家
東京府在籍
父　兵助　安政六、四生
繼母　とよ　明四、一二生、東京、堀江市太郎姉
妻　ちか　明二〇、七生、東京、濱田艷次郎長女
男　賢三郎　明四五、七生
君は東京府人高木兵助の長男にして明治十六年十月を以て生れ昭和七年家督を相續す資産家たり家族は尚三男貞三（大六、五生）四男隆司（昭五、三生）弟吉之助（明九、九生）同平八郎（同四三、一九、九生）同七三（同三九、七生）同平八郎（同四三、九生）ありA二二七（東京市王子區下十條町八七五）

高木喜三郎
妻　さと　明二五、二生、愛知、士、中尾慶治六女
男　保一　大七、三生
女　みち　明四五、四生
女　き　大三、四生
君は愛知縣人高木安次郎の長男にして明治十六年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す貿易業を營み高木貿易商會と稱し傍ら前記會社の重役を兼ね推されて名古屋商工會議所議員に列す家族は尚四女きよ（大九、一〇生）五女よね（同一二、四生）六女とよ子（同一五、一一生）ありA二八六B一二六（名古屋市中區大池町六ノ二〇電南二〇五二）

高木喜三郎
妻　マツヨ　明二八、二生
婦　要蔵　明三四、一一生、長男要蔵妻、福岡、熊谷周平二女
女　露子　明二五、八生
女　イキヨ　明四一、一二生
女　マキ　明四四、一一生
男　良太郎
女　サヨ　大四、六生
君は福岡縣人高木伊三郎の長男にして明治七年十月二十九日を以て生れ同二十三年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千四百圓を納む家族は尚五女ヨ（大一一、八生）孫喜久子（同一三、七生、長男要蔵長女）同榮三郎（昭二、四生、同長男）同清三郎（同四、一生、同二男）あり二女テイ（明三二、一生）は大分縣人森山瀧次に姉イマ（同四、三生）は福岡縣人足立藤市に妹イシ（同一六、五生）は同縣人諫山次三郎甥龍太郎に嫁し弟秀吉（同一二、七生）は分家し二男智明（同三四、一一生）は其養子となり三男時之助（同三六、一二生）同妻タイ（同四〇、一二生、福岡、高原光二女）も亦其一子を伴ひ分家せり（福岡縣浮羽郡御幸村）

高木喜太郎　家主
大阪府在籍
妻　すう　明三七、一一生
男　喜義　明三八、二生、長男喜義妻、大阪伊東岩太郎妹
婦　はる

男　孝治　大三、三生

君は岐阜縣人高木忠左衛門の二男にして明治十四年十月二十一日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す家主たり家族は尙三女富子(大九、二生)六男慶一(昭三、九生)ありA三五四(大阪市住吉區橋本町二ノ二二)

参照‖伊東岩太郎の項

高木儀兵衛

正八位、神奈川縣多額納稅者、砂糖卸商、神奈川縣在籍

繼母　サキ　明一七、三生、祖父儀兵衛四女

妻　しけ　明三一、一二生、茨城、藤貫ノ久太郎長女

君は神奈川縣人先代儀兵衛の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名儀三郎を改め襲名す砂糖卸商を營み直接國稅千二百七十八圓を納め縣下の多額納稅者に列す養に選ばれて神奈川縣會議員たり家族は尙長女富美子(大一二、七生)弟貞助(明三六、三生)同滝雄(同三八、八生)妹タカ(同四三、九生)同菊江(大一〇、一生)あり弟堅治(明三三、三生)は分家せり(横濱市神奈川區青木町二五電太局一二六三)

高木菊松

地主

東京府在籍

母　とふ

妹　明一一、一一生、三重、岡崎正也

君は東京府人高木益太郎の二男にして大正二年四月十三日を以て生れ昭和四年家督を相續し地主たり家族は尙兄菊太郎(明三六、五生)弟四郎(大八、五生)あり姉とく子(明四四、四生)は東京府人佐久間定吉長男勝雄に嫁し弟正己(大五、九生)は分家せりA二〇八二(東京市芝區三田功運町三一電高輪九七二)

参照‖岡崎正也の項

高木清

東神倉庫㈱取締役兼神戸支店長、大正運輸、新港相互各㈱取締役、岡山縣在籍

母　りゆう　嘉永元、六生、岡山、林芳平二女

妻　シゲ　明二一、一一生、東京、南須原卷五郎長女

君は岡山縣人高木久右衛門の三男にして明治十六年十二月十日を以て生れ大正十一年兄久太郎の後を承け家督を相續す明治四十二年東京高等商業學校を卒業し現時東神倉庫會社取締役兼神戸支店長たる外大正運輸新港相互各會社の取締役に擧げらる家族は尙亡兄久太郎妻テイ(明元、四生、岡山、藤野儀平長女)あり(兵庫縣武庫郡住吉村魚手下一六五九ノ一電御影四一九二)

高木清彦

日本寶藥、應用製藥各㈱取締役

養子　興兵衛　明一八、一二生、現戸主

君は東京府人永塚茂助の長男にして萬延元年十一月二十八日を以て生れ四代目高木興兵衛の養子となり明治三十八年家督を相續し養名して五代目高木興兵衛となり昭和六年退隱して清彦と改名す現時前記各會社の重役たり養に大正三年以降三期間日本橋區會議員に擧げらるA三〇七(東京市日本橋區芳町一ノ八ノ五電湯花七〇五)

高木熊次郎

家主

愛知縣在籍

妻　きやう　安政四、八生、愛知、高木林七長女

養子　義正　孫豐子夫

孫　豐子　明三一、一〇生、養子熊太郎長女

君は愛知縣人小川源藏の二男にして安政二年十二月十二日を以て生れ先代藤七の養子となり明治十七年家督を相續す家主たりA四一七(名古屋市西區木挽町一ノ一〇電本局二九六四)

高木藏吉

神戸又新日報社㈱社長、辯護士

大阪府在籍

妻　シウ　明一九、三生、京都、三木米吉長女

男　保昌　大六、九生

女　定子　大二、三生

女　道子　大四、七生

君は千葉縣人高木政四郎の二男にして明治十年四月二十四日を以て生れ大正六年兄政次方より分れて一家を創立す明治三十一年中央大學を卒業し現時大阪市に於て辯護士を開業し傍ら神戸又新日報社長たり家族は尙二男達夫(大九、八生)あり二女愛(明四三、一二生)は大阪府人正司芳兵衛長男博美に嫁せりA八〇九(大阪市北區老松町三ノ一六電北一三六八)

高木慶三郎

黑磯興業㈱社長、鐵道用枕木商

栃木縣在籍

妻　テウ　明六、四生、栃木、松本金七姪

男　信太郎　明二一、一二生

婿　クニ　明二五、五生、長男信太郎妻、福島、橋本藤左衛門妹

男　榮二　明二七、四生

婿　佐多　明三三、三生、二男榮二妻、茨城荒井三輪藏六女

孫　敬　大元、七生、長男信太郎長女

孫　慶太郎　大三、一〇生、長男信太郎長男

孫　英子　大五、八生、長男信太郎二女

君は栃木縣人高木佐平太の二男にして文久二年五月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す鐵道用枕木商を營み傍ら黑磯興業會社長たり養に黑磯銀行頭取たりしことあり家族は尙孫佐登子(大九、一一生、二男榮二長女)同榮(同一三、一生、同長男)同和賀子(昭二五生、同二女)同新(同五、四生、同二男)あり長女ウタ(明二九、一一生)は栃木縣人森純に二女喜代(同三五、一一生)は同縣人村上英男に嫁し三男堅(同三二、六生)四男慶(同三八、二生)は各分家せり(栃木縣那須郡黑磯町電九)

参照‖※横田治右衛門の項

高木健吉

三菱銀行㈱取締役兼本店營業部長

東京府士族

妻　靜子　明二六、一〇生、長崎、莊清次郎二女

男　健一郎　大二、一生

男　讓二　大三、二生

女　茂子　大四、一〇生

君は東京府士族高木修一の長男にして明治十九年六月三十日を以て生れ大正十一年家督を相續す先是三菱合資會社に入り後三菱銀行に轉じ營業部副長神戸大阪各支店長を經て現時取締役兼本店營業部長たり家族は尙二女泰子(大一三、九生)あり弟茂夫(明二六、一二生)は其妻こと(同三一、九生、東京、根本重松長女)と共に分家し妹とし(同三五、三生)は東京府士族邦畫家荒木十畝二男寛に嫁せりA一五一五(東京市小石川區原

町一二六電大塚四四二六)

参照‖荒木十畝※男僧西村敬三の項

高木謙

資産家

東京府在籍

妻　けい　明一八、四生、養父和平養子、愛知、高木清次郎長女

男　和男　明四二、三生

女　富喜　大二、五生

君は東京府人小山庸太郎の弟にして明治十年十一月を以て生れ同四十一年先代和平の養子となり大正六年家督を相續す資産家たり家族は尙四男正男(大八、一生)ありA四五五(東京市牛込區二十騎町二三電牛込三二二一)

高木源之助

從五位、建築設計士

東京府在籍

男　敏之　大一四、八生

女　田鶴子　大七、六生、女子學習院在學

君は京都府人高木鶴吉の二男にして明治二十一年二月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す同二年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し建築設計に從事し農商務省及農事試驗場より農工業關係建物の調査設計工事を囑託せらる同十年工場監督官兼農商務技師に任じ專ら社會局技師に轉じ工場監督官に補せられ後官を辭し東洋紡績會社に入社し營繕課長たりしも現時之を退き建築設計に從事す(東京市杉並區馬橋四ノ五六二)

高木古六

漆器商

大阪府在籍

妻　シヤウ　明一八、一〇生、養父庄助長女

男　義一　明四一、一生

婦　文子　明四三、四生、二男義一妻、大阪寺澤覺兵衛長女

男　義三郎　大四、三生

君は大阪府人佐藤新次郎の四男にして明治八年五月を以て生れ先代庄助の養子となり同四十五年分れて一家を創立す漆器商を營む家族は尙長女正子(大九、七生)七男七郎(同一二、六生)二女幸子(昭二、一生)三女靜子(同六、四生)孫昭子(同七、四生、二男義一長女)同貞子(同八、七生、同二女)あり八男義治(大一三、六生)は大阪府人阪上松一の養子となれりA五二一B一四九(大阪市東區唐物町三一八電船場二二八)

高木孝太郎

高木鐵工所、自轉車製造業

母　アサ　明二二、四生、佐野久助二女

君は福岡縣人高木純一の長男にして明治四十一年九月六日を以て生れ大正十三年家督を相續す高木鐵工所を經營し自轉車製造業を營む家族は尙妹御代(大三、一生)ありA五二八B二三〇(堺市柳之町四四電六〇二)

高木剛三

從四位勳四等、松江高等學校教授

東京府士族

妻　まき　明三〇、三生、石川、五得仁三郎長女

男　誠　大五、九生

女　彌生　大八、三生

君は東京府士族高木復の長男にして明治十二年十月を以て生れ同四十五年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業東京瓦斯會社に入り技師たりしが大正六年第四高等學校教授に任じ同十年松江高等學校教授に轉じ今日に及ぶ家族は尙四女まつゑ(大一一、四生)五女愛(同一三、一生)六女寛(同一四、五生)七女美恵(昭二、七生)八女眞理子(同四、九生)あり(松江市北田町四二)

高木佐兵衛

俵屋、木具折箱製作業

東京府在籍

養母　とよ　明二、一一生、茨城、五十畑易太郎妹

妻　ひな　明二三、一〇生、東京、長谷川久七四女

男　爲吉　大八、四生、芝中學在學

女　喜く　大二、五生

君は先々代高木佐兵衛の四男にして明治十八年三月を以て生れ同四十四年先代佐兵衛の養子となり大正十二年家督を相續し前名兼次郎を改め襲名す當家は俵屋を屋號となし古く元祿時代より木具折箱製作を業とし現生に是を營み其の名顯はる家族は尙三女花子(大一五、一生)二男昇(昭二、一二生)あり長女ふじ(明四五、二生)は東京府人山分彌三郎に嫁せりA四六四(東京市日本橋區通鹽町一電湯花一五六三)

高木作太郎

高木商會、百合根輸出商

東京府在籍

妻　喜世　明一五、二生、東京、大館龜吉長女

男　茂助　明三九、二生

婿　澤子　明三九、九生、長男茂助妻、東京八代幸之助三女

男　常治　明四一、一生

男　福之助　明四三、一生

女　ゆり　大二、七生

女　久美子　大五、三生

女　喜久　大六、一〇生

君は東京府人高木福太郎の長男にして明治十年五月二十五日を以て生れ大正四年家督を相續す高木商會と稱し百合根輸出商を營む家族は尙孫宏(昭六、一生、長男茂助長男)同曉(同八、一生、同長女)同亮司(同九、三生、同二男)あり妹よし(明二九、一一生)は東京府人大藪保夫に嫁せりA三八七B八七(東京市豐島區駒込一ノ一六〇電大塚五〇八七)

高木貞衛

萬年社㈱社長、廣告代理業

大阪府士族

男　貞二　明二六、一二生

君は舊德島藩士高木眞藏の長男にして安政四年二月二十六日を以て生れ明治四年家督を相續す夙に大阪日報社に入り新聞事業に從事し後廣告代理業萬年社を興し現に其代表取締役たり又大阪基督教會執事日本組合教會理事等に擧げらる妹カタ(安政六、五生)は大阪府人中川秀吉に嫁し同エイ(明九、一生)は分家せりA一三七七(兵庫縣武庫郡精道村芦屋字平足一〇〇四電芦屋二三四五)

参照‖高木貞二※佐竹次郎の項

高木三平

鹿本鐵道㈱取締役、日本生命保險會社代理店主、熊本縣在籍

妻　ミキジュ　明二、七生、熊本、栗原三次郎妹大元、九生

君は熊本縣人高木熊太の二男にして明治五年十一月を以て生れ昭和六年甥亮之輔方より分れて一家を創立す現に日本生命保險會社代理店を經營し傍ら鹿本鐵道會社取締役たり養に山鹿水力電氣會社長たる外熊本製氷

會社監査役たりしことあり長女初枝(明三四、五生)は熊本縣人中滿義夫に三女静枝(同三七、六生)は同縣人松本喜六に四女タヅ(同三九、一生)は同縣人黒田一誠に嫁せり(熊本縣鹿本郡山鹿町電二〇六)

高木三郎

養母　かね　安政元、一〇生、長野、山下代三郎妹

妻　ハナ　明治三〇、六生、北海道、並河新吾長女、道立札幌高女出身

養子　弘　明三五、四生、養子ツヤ夫、長野田村嘉輔四男

養子　ツヤ　明四三、一〇生、養子弘妻、東京佐野透長女、實踐女學校出身

君は岡山縣人和氣與市の三男にして明治二十五年三月二十九日を以て生れ先代清太郎の養子となり大正十五年家督を相續す夙に中央大學英法科を卒業し同五年逓信事務官補に任じ弘前郵便局長を命ぜられ爾來札幌郵便局長貯金局證券課長内閣恩給局書記官等に歴任し大正十三年宮内事務官内藏寮財務課長兼任宮内省參事官宮内書記官兼宮内大臣祕書官式部官宮内省參事官兼大臣官房祕書課勤務を經て昭和九年四月現職に轉ず(東京市中野區大和町七〇電中野二三四九)

高木繁

妻　トク　明四三、三生

女　男　健太郎　鶴子　明四五、一生

君は福岡縣人高木しまの男にして明治十四年七月を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十一年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し同大學助手を拜命し大正二年九州帝國大學醫科大學教授に任ぜられ同五年米國に留學し歸朝後同九年醫學博士の學位を受く現時九州帝國大學教授にして附屬醫院長たり家族は尙二女正子(大一〇、一生)あり(福岡市春吉町六六四電一四九七)

從四位勳三等、醫學博士、九州帝國大學教授、附屬醫院長、醫學部勤務、福岡縣在籍

高木静馬

妻　トク　明一九、七生、大阪、牧野梅太郎妹

妹　明四三、三生

東京府多額納稅者、地主

東京府在籍

高木重兵衛

妻　むめ　明治五、八生、高木銀行員、早大姉

男　重一　明四一、二生、長男重一妻、兵庫專門部出身

婦　重　明四四、七生　水田慶三郎長女

男　尙二　高木家は代々京都府下福知山町に在り紺重と稱して染物商を渡世とせしが先代重兵衛に至り印刷業を創め更

高木銀行㊞頭取、福知山美術倶樂部㊞長、郡是製絲㊞監査役、太平洋海上火災保險各㊞監査役、京都府在籍

高木

妻　喜代子　明三七、五生、東京、久米伊豫太郎長女、御茶の水高女出身

養子　利　子　大一一、一生、和歌山、伊藤博妹

君は東京府人高木弘の弟にして明治二十六年を以て生れ昭和六年分家して一家を創立す大正八年東京帝國大學醫學部を卒業す醫師にして現に高木耳鼻咽喉科醫院長として其名聞ゆ曩に醫學博士の學位を授けらるA四八九(東京市神田區錦河臺二ノ三ノ五電神田一五二九)

繼母　まん　元治元、一一生、東京、野崎安兵衛二女

妻　まさ　明一一、七生、東京、石井國次郎姪

男　義敦　明三一、六生

なつ　明三七、七生、長男義敦妻、東京

婦　明三五、一一生　大岡秀雄妹

男　壽夫　明四二、四生、府立第一高女出身

女　愛　大元、一一生、東洋高女出身

女　壬三子　大五、一生、府立第一高女出身

女　薫　君は東京府人高木義範の長男にして明治六年十二月二十八日を以て生れ同三十八年家督を相續す地主にして直接國稅六千六百十五圓を納め東京府多額納稅者に列す家族は尙四男寛(大一一、四生)孫義長(昭二、一生、長男義敦二男)同新子(同七、一生、同長女)同三郎(同九、一生、同三男)あり弟光範(明一四、九生)は東京府人長谷川ふきに同聟長(同二四、五生)は同府人桂川竹に各入夫となり同顯三(同一〇、一一生)は同府人大岡亭に同武範(同三〇、一生)は前記弟光範に各養子となり同廣範(同三一、一生)は同府人岩田友次郎の養子となり襲名し當主にして妹鍼(同一七、八生)は同府人横山美津喜大熊仁三郎に同澄(同一九、六生)は同府人岡本善二に同昭(同三六、一二生)は同府人大草直好に嫁せり(東京市王子區上十條町一ノ二四六)

參照‖石井國次郎、大熊仁三郎、岡本善二の項

高木銀行

妻　喜代子　明三七、五生、東京、久米伊豫太郎長女、御茶の水高女出身

養子　利　子　大一一、一生、和歌山、伊藤博妹

君は東京府人高木弘の弟にして明治二十六年を以て生れ昭和六年分家して一家を創立す大正八年東京帝國大學醫學部を卒業す醫師にして現に高木耳鼻咽喉科醫院長として其名聞ゆ曩に醫學博士の學位を授けらるA四八九(東京市神田區錦河臺二ノ三ノ五電神田一五二九)

高木慎

妻　きく　大七、四生

男　實　大五、一〇生

女　重子　君は東京府人高木信吉の二男にして明治二十年一月二十四日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す地主たり家族は尙三男邦夫(大一〇、一〇生)四男玄(同一二、八生)二女幸子(同一四、二生)三女泰子(同一五、七生)五男正(昭四、二生)四女信子(同五、一〇生)ありA三五九(東京市本郷區駒込動坂町二四七電小石川六八一六)

醫學博士、高木耳鼻咽喉科醫師、東京府在籍　明三七、五生、東京、久米伊豫太郎長女、御茶の水高女出身

高木順治郎

妻　きく　明二九、五生、東京、加藤德次郎長女

男　實　大五、一〇生

女　重子　大七、四生

君は東京府人高木信吉の二男にして明治二十年一月二十四日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す地主たり家族は尙三男邦夫(大一〇、一〇生)四男玄(同一二、八生)二女幸子(同一四、二生)三女泰子(同一五、七生)五男正(昭四、二生)四女信子(同五、一〇生)ありA三五九(東京市本郷區駒込動坂町二四七電小石川六八一六)

地主　東京府在籍

に呉服商に轉じ漸次發展せり君は其長男にして明治五年十一月一日を以て生れ同三十三年家督を相續し前名米吉を改め襲名す夙に父業を嚴して高木銀行を創立し爾來其頭取となりて今日に及ぶ傍ら前記會社の重役を兼ぬ曩に京都府會議員に擧げらる書畫骨董に趣味を有す家族は尙孫邦子(昭五、五生、長男重一長女)あり長女きよ子(明二八、六生、京都府立第一高女出身)同夫武治(同一七、三生、京都、佐藤勘兵衛三男)は其子女と共に二女春野(同三二、二生、福知山高女出身)は同夫正(同三三、一生、京都、衣川林助二男)と共に亡弟周藏妻静枝(同一三、三生、高知、中西盾雄三女)は其一子と共に各分家し三女千代子(同三九、六生)は和歌山縣人先代松村雄吉の養子となれり(京都府天田郡福知山町)

參照‖松村雄吉※滑川秀平の項

高木順治郎

地主　東京府在籍

妻　きく　明二九、五生、東京、加藤德次郎長女

男　實　大五、一〇生

女　重子　大七、四生

君は東京府人高木信吉の二男にして明治二十年一月二十四日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す地主たり家族は尙三男邦夫(大一〇、一〇生)四男玄(同一二、八生)二女幸子(同一四、二生)三女泰子(同一五、七生)五男正(昭四、二生)四女信子(同五、一〇生)ありA三五九(東京市本郷區駒込動坂町二四七電小石川六八一六)

參照‖久米伊豫太郎の項

高木季熊

丸龜市長　長野縣在籍

妻　久子　明三四、二生、神奈川、後藤一二長女

男　襄　大一二、五生

君は長野縣人河西東雄の三男同健次の弟にして明治二十二年十二月八日を以て生れ先代たみの養子となり大正四年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に東京府屬となり陸軍理事試補横濱市主事等を經て同十一年辯護士を開業三生製藥株式會社監査役に就任し後之を辭し現時丸龜市長たり家族は尙二男厚(大一四、四生)三男修(昭八、九生)あり(丸龜市地方町一四四)

高木清兵衛

仙臺商工會議所議員、宮城縣多額納稅者、酒造業、宮城縣在籍

母　かき　文久元、四生、愛知、水谷仁左衛門二女

妻　もと　明二二、七生、宮城、石川助妹

男　清一　明四四、一一生

女　きよ　大二、五生

女　みつ　大四、九生

女　とみ　大六、八生

君は愛知縣人先代清兵衛の長男にして明治十五年四月五日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名清太郎を改め襲名す家業を繼ぎ酒造業を替み銘酒鳳山の醸造元にして推されて宮城縣酒造組合仙臺支部長たり現に宮城縣多額納稅者に列し直接國稅千五百五十六圓を納む家族は尙四女のぶ(大九、二生)二男謙次郎(同一一、四生)五女せつ(同一四、五生)の外妹すゞ(明一七、一生)同夫錢之助(同一八、九生、愛知、水谷仁兵衛弟)及其子女弟善治郎(同二六、一〇生)同妻さか子(同三五、五生、宮城、高橋三藏二女)及其子女あり妹とよ(同二三、五生)は宮城縣人佐竹清五郎長男清太郎に同千代(同三二、一生)は愛知縣人水谷峰七に嫁せり(仙臺市新傳馬町五二電一七〇)

高木太右衛門

地主　東京府在籍

妻　よね　明九、一生、東京、平岩千太郎養妹

養子　昇作　明四三、一生、東京、鈴木文平叔父

婦　静子　明四五、四生、養子昇作妻、亡妹ふゆ長女

君は東京府人高木六兵衛の長男にして明治十一年二月を以て生れ同三十八年家督を相續す地主として知らる家族は尙甥六義(大三、六生、亡妹ふゆ長男)ありA五七二(東京市王子區上十條町一二八一)

高木第四郎

九州新聞社㊞社長、弘乳舍、牛乳搾取業、熊本縣在籍

妻　與　明五、五生、熊本、士、松原勘次三女

男　亮　明二二、八生、九州新聞社㊞取締役主幹

婦　那珂上　明二八、六生、長男亮妻、熊本、士、古城貞吉姪

男　德　明二八、六生

婦　壽美子　明三五、五生、三男德妻、兵庫、神原春太郎長女

男　潮　明三四、八生

婦　ヨシノ　明三九、一生、五男潮妻、熊本、松本雅喜二女

男　凱人　明三九、一生

男　力　明四〇、六生

男　公　明四二、四生

女　綾　明四五、六生

君は熊本縣士族宮崎眞雄の三男にして文久二年八月二十日を以て生れ先代茂吉の養子となり後家督を相續す弘乳舍と稱し牛乳搾取業を替み傍ら九州新聞社長たり曾て衆議院議員に選ばれ又肥後農工銀行取締役に擧げらる家族は尙九男眞(大六、二生)孫亮一郎(同六、九生、長男亮長男)同進(同一〇、二生、同二男)同豊(同一四、一生、同三男)同宏(同一五、一〇生、三男德長女)同恒子(昭二、六生、五男潮長女)あり二男統(明二五、三生)は分家し長女須磨(同三二、一〇生)は熊本縣人村中米吉に嫁し庶子トシエ(同三六、一一生)は同縣人秀島三熊の養子となり(熊本市本庄町一八七電一六四)

參照‖古城貞吉※古城鴻一の項

高木辰五郎

地主　東京府在籍

妻　和夫　明四三、一二生

女　かつ　大二、一一生

君は東京府人高木庄次郎の長男にして明治九年六月七日を以て生れ同三十七年家督を相續す地主たり家族は尙二女れい子(大一〇、六生)ありA三〇四(東京市麹町區五番町六)

高木千尋

正五位勳四等、專賣局參事、水戸地方專賣局長、群馬縣在籍

母　ため　慶應元、八生、現戸主

女　森之助　慶應二、二生、群馬、武井傳吉長女

君は群馬縣人高木森之助の長男にして明治十九年十一月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し專賣局に入り爾來書記參事補副參事を經て參事に任ぜられ坂出德島熊本各地方專賣局長に歴任現時專賣局參事にして水戸地方專賣局長たり勅任官を以て待遇せらる家族は尙弟基作(明二五、一生)同妻シマ(同三三、八生、群馬、漆田三十郎二女)及其二男四女弟勇一(同二九、一二生)同妻はな(同二八、四生、群馬、漆田三十郎長女)及其五男二女弟愛之助(同三五、一一生)同妻たま江(同三八、六生、群馬、高松千春姉)及其一男一女弟貞(同三八、一二生)同妻八重子(同四五、五生、群馬、井上米三郎長女)及其一男妹のぶ(同四二、五生)あり姉せい(同一七、四生)は群馬縣人武井三代十二男健重に妹まさ(同四四、一二生)は埼玉縣人内田興一に嫁せり(水戸市南三ノ九一〇五電三七二)

高木貞幹

日本釀造工業㊞取締役

母　じやつ　安政三、一生、岐阜、士、小島鎌雄母

妻　コト　明一二、一生、東京、士、山西春根長女

男　茂　大二、九生

男　馨　大三、二生

女　秀　大六、二生

君は岐阜縣士族高木貞一の長男にして文久三年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に實業界に入り

岐阜縣士族工業㊞取締役

東京綾會會社取締役大日本麦酒會社副支配人庶務課長等となり次で接銅工作所社長森永製菓會社監査役等に就任し現時前記會社重役たり養に厭米各國を視察す家族は尙二男貞男(大一〇、二生)ありA一〇三三(東京市大森區田園調布四ノ一四二電田園調布二六八)

高木貞二　從五位勳六等、東京帝國大學助教授、文學部勤務、大阪府士族

父　貞衛　安政四、二生、現戸主

妻　カヱ　明三二、二生、東京、伊丹二郎長女、神戸女學院出身

男　眞一　大一三、七生

君は大阪府士族高木貞衛の二男にして明治二十六年十二月三日を以て生る大正十年東京帝國大學文科大學心理學科を卒業し歐米諸國に留學の後第三高等學校教授に任じ後現官東京帝國大學助教授に任ぜらる家族は尙二長女和子(大一二、三生)二女寶子(昭八、七生)ありA二五五(東京市赤坂區青山高樹町三電青山二二九四)

參照‖高木貞衛、伊丹二郎※佐竹次郎の項

高木貞治　從三位勳一等、理學博士、名譽ドクトル(オスロ大學)、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、理學部勤務、學術研究會議會員、東京府在籍

妻　とし　明一六、一〇生、東京、士、谷國之助四女、府立第一高女出身

男　伊佐夫　明四二、二生、日清製粉會社員、法學士

男　志郎夫　大三、五生、浦高在學

男　佐知夫　大五、五生、一高在學

女　きよ子　大七、六生、御茶の水高女在學

君は岐阜縣人高木勘助の長男にして明治八年四月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し同三十一年數學研究の爲巴逸に留學し歸朝後直に東京帝國大學理科大學助教授に任じ同三十六年理學博士の學位を授與せられ翌年同教授に進む現に理學部勤務にして又帝國學士院會員學術研究會議會員たり昭和七年歐米へ出張を命ぜられ巴黎オスロ大會より名譽博士の學位を贈らる家族は尙五女あや子(大九、一一生、御茶の水高女在學)(明一八、一二生)は岐阜縣人高木つねの養子となり長女千枝(同三六、八生、御茶の水高女出身)は工學士黑田祝に二女美枝(同三八、一二生、同校專攻科出身)は理學士川奥郎に嫁す次八重(同四、三生、出身校同上)は理學士黑田成勝に嫁せりA二八九(東京市本郷區駒込曙町二四電大塚四八二三)

高木銕二　滿洲中央銀行理事奉天分行員、東京府在籍

妻　重　明三〇、六生、千葉、齋藤洲司妹

男　哲夫　大八、八生

女　幸　大四、三生

君は神奈川縣人高木兵助の二男にして明治十八年七月を以て生れ昭和九年兄市太郎方より分れて一家を創立す同四十四年東京高等商業學校專攻部を卒業し臺灣銀行に入り漢口漢濱香港神戸各支店支配人整理部第二課長を經て同行本店調査課長兼檢査課長たりしも後轉じて滿洲中央銀行に入り現時同行奉天分行員たり養に昭和製糖共益不動產各會社取締役に擧げらる家族は尙二男勇(大九、一二生)三男玄(同一一、八生)四男慶四郎(同一四、五生)五男正義(昭二、三生)二女美枝子(同四、二生)あり(奉天大北門裏滿洲中央銀行奉天分行內)

高木陶藏　家主　東京府在籍

妻　ちか　明六、一〇生、長野、唐澤儀十郎妹

男　靜男　明二九、三生

男　秀三郎　明三九、二生

君は東京府人高木秀範の四男にして元治元年十一月八日を以て生れ明治二十九年明繁雄方より分れて一家を創立す家主たり三女ふゆ(明三六、一一生)は岐阜縣人平井明に四女俊(同四一、一生)は神奈川縣人吉村誠に五女きく江(同四二、九生)は東京府人松本市三郎庶子末吉に六女まつ(同四四、七生)は北海道人廣島豐太郎長男正道に嫁せりA四〇九(東京市京橋區新富町二ノ三電京橋六五九七)

高木得三　白峰電氣株式會社長、矢作工業、矢作水力各株式會社常務取締役、大北工業株式會社取締役、東京府在籍

妻　とみ　明一六、一二生、福井、士、宮崎茂妹

男　亨一　大六、一生

女　靜枝　大二、九生

女　芳枝　大四、一生

君は東京府士族高木範之丞の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し臺灣銀行に入り東京頭取席支店課長を經て現時同行理事にして東京支店に勤務す養に帝絹會社代表取締役に就任し昭和九年之を辭す家族は尙三女三枝子(大九、一生)姉フミ(明一五、一〇生)同夫忠次郎(同一二、七生、東京、久保田桑藏二男)あり姪トシ子(同三六、四生、兄忠次郎長女)は島根縣人江田亨次郎長男元一郎に嫁せりA一九四(東京市中野區昭和通二ノ一一電中野二三八八)

高木復亭　臺灣銀行理事、東京府在籍

慶應元、五生、島根、士、荒木錠太郎妹

母　エヱ　明二五、七生、東京、士、岡本金太郎三女

妻　輝子　大六、一生

男　亨一　大二、九生

女　靜枝　大四、一生

君は東京府士族高木範之丞の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學政治學科を卒業し臺灣銀行に入り東京頭取席支店課長を經て現時同行理事にして東京支店に勤務す養に帝絹會社代表取締役に就任し昭和九年之を辭す家族は尙三女三枝子(大九、一生)姉フミ(明一五、一〇生)同夫忠次郎(同一二、七生、東京、久保田桑藏二男)あり姪トシ子(同三六、四生、兄忠次郎長女)は島根縣人江田亨次郎長男元一郎に嫁せりA一九四(東京市中野區昭和通二ノ一一電中野二三八八)

高木正明　大阪府會議員、高木運送店、運送業、大阪府在籍

妻　きやう　明一六、六生、養父正明長女

君は大阪府人林吉平の二男にして明治十二年十月十日を以て生れ先代正明の養子となり大正八年家督を相續し前名海一郎を改め襲名す高木運送店と稱して運送業を營む又推されて大阪府會議員たり從妹アイ(明一四、六生)は分家せりA七九二(大阪市此花區今開町一ノ八〇〇電土佐堀五九九四)

高木正得　從四位、子爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、舊河內丹南藩

妻　邦子　明三四、六生、子爵入江爲守二女學習院女學部出身

當家は源經基の裔兵庫助基弘の後なり其子藏人信光高木判官と稱す十六世を經て主水清秀に至り德川氏に仕へて功あり相州鎌倉の地五千石を賜ふ其子正次赤戰功あり河內國丹南一萬石に封ぜらる夫より十一世を經て先代正義に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に當選する事二回に及び君は其二男にして明治二十七年一月二十日を以て生れ大正九年襲爵す學習院高等科を經て東京帝國大學學部に入り同十一年勤物學科を卒業す現時貴族院議員に選ばれ東京府多額納稅者に列し直接國稅五千四百五十六圓を納む家族は尙長女衣子(大一〇、一二生)二女百合子(同一二、六生)三女桃子(昭二、三生)四女小夜子(同五、三生)あり姉糸子(明一四、一〇生)は群馬縣人細谷藤吉弟工學士源四郎に嫁し養叔父正亨(同元、九生)は子爵堀田家を繼ぎ弟正光(同三四、九生)は分家せり(東京市赤坂區青山高樹町一四電青山三八一)

參照‖子爵入江爲守※伯爵坊城俊良の項

高木正年　勤三等、衆議院議員(東京府選出)、東京府士族

養子　重太郎　大七、一〇生、群馬、角田清作五男、茫原中學在學

養子　善四郎　明四三、六生、養子トク夫、茨城塙龜之助四男

養子　トク　明三三、三生、養子善四郎妻、群馬、角田清作三女

君は東京府人細井半兵衛の三男にして安政三年十二月九日を以て生れ伯父以善の養子となり明治十二年家督を相續す夙に木村芥舟の門に入り和漢の學を修め又子爵金子堅太郎に就き法律經濟を研究す明治十五年東京府會議員同常置委員に擧げられ同二十六年憲法講習會を起し東海法政雜誌を發行す同二十三年國會開設せらるゝや推されて衆議院議員となり以來當選十三回に及び現に立憲民政黨所屬たり財政に通じ日本フォーセットの稱あり家族は尙孫美智子(昭八、三生、養子善四郎長女)あり庶子ため(明二六、三生)は東京府人長谷川留五郎長男孝太郎に嫁せり(東京市品川區東品川町一ノ三電高輪三一〇)

高木又次郎　高木商店株式會社長、大日本證券株式會社監査役、大阪府在籍

妻　邦子　明三四、六生、子爵入江爲守二女學習院女學部出身

高木家は廣島縣尾道より出で先々代又次郎に至り大阪に轉住し株式仲買業を創め今日に至る君は其孫にして未判官と稱す十六世を經て主水清秀に至り德川氏に仕へて功あり相州鎌倉の地五千石を賜ふ其子正次赤戰功あり河內國丹南一萬石に封ぜらる夫より十一世を經て先代正義に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に當選する事二回に及び君は其二男にして明治二十七年一月二十日を以て生れ大正九年襲爵す學習院高等科を經て東京帝國大學學部に入り同十一年勤物學科を卒業す現時貴族院議員に選ばれ東京府多額納稅者に列し直接國稅五千四百五十六圓を納む家族は尙長女衣子(大一〇、一二生)二女百合子(同一二、六生)三女桃子(昭二、三生)四女小夜子(同五、三生)あり姉糸子(明一四、一〇生)は群馬縣人細谷藤吉弟工學士源四郎に嫁し養叔父正亨(同元、九生)は子爵堀田家を繼ぎ弟正光(同三四、九生)は分家せり(東京市赤坂區青山高樹町一四電青山三八一)

參照‖子爵入江爲守※伯爵坊城俊良の項

高木半兵衛　福知山町長、京都府多額納稅者、福知山銀行理事、福知山瓦斯株式會社取締役、酒造業、京都府在籍

妻　ふさ　明元、一〇生、養父半兵衛長女

男　繁太郎　明二〇、七生

婦　なを　明二一、二生、長男繁太郎妻、兵庫、蓬萊茂雄妹

男　亨　明四三、六生

孫　幸太郎　明四三、一〇生、長男繁太郎長男

孫　正平　大元、一二生、長男繁太郎二男

君は京都府人岡野卯兵衛の二男にして慶應三年二月を以て生れ先代半兵衛の養子となり明治二十五年家督を相續し前名精太郎を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして京都府多額納稅者に列し直接國稅千八百四十五圓を納め福知山町長に擧げらる家族は尙孫安治郎(大七、九生、長男繁太郎四男)同泰三(同一〇、一生、同五男)同修造(昭二、八生、同六男)及養妹たか(明七、九生、亡養弟房之助妻)あり長女うめ(同二五、九生)同夫雄三郎(同二〇、七生、兵庫、西田儀三郎弟)は其子女と共に分家し二女ハツ(同二九、一一生)は兵庫縣人西垣勘次郎に三女千代子(同三七、三生)は京都府人安野郁太郎長男吉郎に嫁し甥憲太郎(同三六、三生、養妹たか長男)は兵庫縣人小島友吉の養子となれり(京都府天田郡福知山町電一)

高木彦七　高木彦七商店理事代表取締役、吳服商、京都府在籍

妻　まつ　明九、五生、京都、伊藤嘉兵衛長女

男　千代　明三七、二生、京都、家壽多松治郎長女

男　彦一　昭七、一二生

君は京都府人先代彦七の長男にして明治三十三年十二月を以て生れ昭和六年家督を相續し前名彦一を改め襲名す吳服商を營み高木彦七商店代表取締役たり家族は尙長女黎子(昭四、一二生)弟公三郎(明四〇、一〇生)同まち(同七、一一生)あり叔父重三郎(明一五、二生)同季治(同二三、五生)は各分家し同伊太郎(同一七、二生)は京都府人大西八十の養子となり叔母セイ(同一九、三生)は同府入津田藤次郎に嫁せり(京都市下京區五條烏丸通東入電園下五四五)

高木復亭　臺灣銀行理事、東京府在籍

慶應元、五生、島根、士、荒木錠太郎妹

母　エヱ　明二五、七生、東京、士、岡本金太郎三女

妻　輝子　大六、一生

男　亨一　大二、九生

女　靜枝　大四、一生

女　芳枝　大四、一生

君は東京府士族高木範之丞の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し臺灣銀行に入り東京頭取席支店課長を經て現時同行理事にして東京支店に勤務す養に帝絹會社代表取締役に就任し昭和九年之を辭す家族は尙三女三枝子(大九、一生)姉フミ(明一五、一〇生)同夫忠次郎(同一二、七生、東京、久保田桑藏二男)あり姪トシ子(同三六、四生、兄忠次郎長女)は島根縣人江田亨次郎長男元一郎に嫁せりA一九四(東京市中野區昭和通二ノ一一電中野二三八八)

高木正明　大阪府會議員、高木運送店、運送業、大阪府在籍

妻　きやう　明一六、六生、養父正明長女

君は大阪府人林吉平の二男にして明治十二年十月十日を以て生れ先代正明の養子となり大正八年家督を相續し前名海一郎を改め襲名す高木運送店と稱して運送業を營む又推されて大阪府會議員たり從妹アイ(明一四、六生)は分家せりA七九二(大阪市此花區今開町一ノ八〇〇電土佐堀五九九四)

高木正得　從四位、子爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、舊河內丹南藩

妻　邦子　明三四、六生、子爵入江爲守二女學習院女學部出身

當家は源經基の裔兵庫助基弘の後なり其子藏人信光高木判官と稱す十六世を經て主水清秀に至り德川氏に仕へて功あり相州鎌倉の地五千石を賜ふ其子正次赤戰功あり河內國丹南一萬石に封ぜらる夫より十一世を經て先代正義に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に當選する事二回に及び君は其二男にして明治二十七年一月二十日を以て生れ大正九年襲爵す學習院高等科を經て東京帝國大學學部に入り同十一年勤物學科を卒業す現時貴族院議員に選ばれ東京府多額納稅者に列し直接國稅五千四百五十六圓を納む家族は尙長女衣子(大一〇、一二生)二女百合子(同一二、六生)三女桃子(昭二、三生)四女小夜子(同五、三生)あり姉糸子(明一四、一〇生)は群馬縣人細谷藤吉弟工學士源四郎に嫁し養叔父正亨(同元、九生)は子爵堀田家を繼ぎ弟正光(同三四、九生)は分家せり(東京市赤坂區青山高樹町一四電青山三八一)

參照‖子爵入江爲守※伯爵坊城俊良の項

高木又次郎　高木商店株式會社長、大日本證券株式會社監査役、大阪府在籍

妻　邦子　明三四、六生、子爵入江爲守二女學習院女學部出身

高木家は廣島縣尾道より出で先々代又次郎に至り大阪に轉住し株式仲買業を創め今日に至る君は其孫にして未判官と稱す十六世を經て主水清秀に至り德川氏に仕へて功あり相州鎌倉の地五千石を賜ふ其子正次赤戰功あり河內國丹南一萬石に封ぜらる夫より十一世を經て先代正義に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に當選する事二回に及び君は其二男にして明治二十七年一月二十日を以て生れ大正九年襲爵す學習院高等科を經て東京帝國大學學部に入り同十一年勤物學科を卒業す現時貴族院議員に選ばれ東京府多額納稅者に列し直接國稅五千四百五十六圓を納む家族は尙長女衣子(大一〇、一二生)二女百合子(同一二、六生)三女桃子(昭二、三生)四女小夜子(同五、三生)あり姉糸子(明一四、一〇生)は群馬縣人細谷藤吉弟工學士源四郎に嫁し養叔父正亨(同元、九生)は子爵堀田家を繼ぎ弟正光(同三四、九生)は分家せり(東京市赤坂區青山高樹町一四電青山三八一)

參照‖子爵入江爲守※伯爵坊城俊良の項

八五四(大阪市西區阿波座中通一ノ一三)電新町五六〇)

高木光敎　東華土地建物㈱專務取締役　東京府在籍

妻　富　明二七、一二生、養父高木與兵衛三女

男　孝太郎　大四、一生、慶應義塾在學

君は栃木縣人菊地三郎の三男にして明治十八年六月を以て生れ大正三年先代與兵衛の養子となり同九年分れて一家を創立す先是明治四十三年早稻田大學商科を卒業し實業界に入り現に東華土地建物會社專務取締役たり義に日本勸業銀行に勤務す家族は尙二男彦次郎(大五、一〇生)三男慶三郎(同九、六生)長女清子(昭二、七生)ありA七二〇(東京市芝區白金今里町八九電高輪二六九四)

參照‖高木與兵衛の項

高木百行　磐城セメント㈱常務取締役　東京府士族

父　幸次郎　文久元、九生、埼玉、遠山莊司二男、現戸主

妻　チヤウ　明一九、一二生、埼玉、須永留吉二女

男　一郎　大三、三生

君は東京府士族高木幸次郎の長男にして明治十四年三月を以て生る夙に實業界に入り北海製粉會社三信商會各取締役となり現時磐城セメント會社常務取締役たり家族は尙二男次郎(大四、六生)三男三郎(同六、一生)四男四郎(同八、一生)五男五郎(同一〇、五生)六男六郎(同一四、九生)あり弟武(明一六、八生)は同妻鶴江(同二二、一生、兵庫、伽仁兵衛二女)及其子女を伴ひ分家し妹基子(同二三、一〇生)は埼玉縣人鈴木庸三弟醇に嫁せりA四四八五(東京市澁谷區代々木山谷町一三二電四谷一三六〇)

高木門三郎　日本生命保險會社員　大阪府在籍

母　ムラ　文久三、七生、大阪、高木儀兵衛二女

妻　初枝　明三〇、二生、兵庫、長谷川博見長女

男　義博　大一二、七生

女　關子　大七、九生

君は東京府人高木熊太郎の長男にして明治二十四年八月六日を以て生れ大正十四年家督を相續す現時日本生命保險會社員たり家族は尙二女千代子(大九、一生)三女籐美子(同一〇、九生)二男勳(同一四、五生)三男修(昭二、一生)四男實(同四、一生)ありA九二〇(大阪市東淀川區豐崎東通五ノ四七)

參照‖高木儀兵衛の項

高木八尺　正五位勳四等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務　佐賀縣士族

男　英　明三三、一一生、東京、川田正雄姉、女子學習院出身

妻　子　誠　昭五、九生

君は故男爵神田乃武の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ外戚佐賀縣士族高木キミカの養子となり大正五年先代秀臣の後を承け家督を相續す同四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時東京帝國大學教授にして法學部勤務たり養に法學博士の學位を授けらる家族は尙長女綾子(大一〇、九生)二女靜子(同一一、九生)三女信子(同一五、二生)あり養祖母クラ(弘化元、五生)は養叔父祐吉(明一〇、六生)同妻大を伴ひ分家し養妹美須代(同三一、一一生)は海軍大佐岩村清一に嫁せりA一二九(東京府北多摩郡砧村字奈根上ノ臺八二四電砧三四)

參照‖岩村清一、川田正雄、高木祐吉の項

高木祐吉　日本洗染㈱社長、綿、東京府在籍　明一九、七生、神奈川、野口こう母　妻　大　養母　昭二、四生、東京、岩村清一二男

君は東京府人高木秀臣の二男同八尺の養叔父にして明治十年六月六日を以て生れ大正九年家督を相續す現時日本洗染會社々長にして範多商店顧問技師たりA一七一(東京市澁谷區櫻丘町七七電青山一四四八)

參照‖高木八尺の項

高木與太郎　資産家　兵庫縣在籍

妻　ナカ　明一一、一生、大阪、木村正義姉

男　一郎　明二八、六生、横濱正金銀行神戸支店員、關西學院高等商業部出身

君は山口縣萩町の舊酒造家宮野善次郎の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治十七年先代龜齡の死跡を相續す夙に實業界に投じ財界の巨頭故藤田傳三郎男に知られ合名會社藤田組理事たる外同社傍系數會社の重役たりしが大正九年隱退して關東開地に在り家族は尙孫周一(大一三、四生、長男一郎長男)同良二(同一五、五生、同二男)同昭子(昭三、七生、同長女)あり二男二郎(明三一、一二生、朝日海上火災保險會社大阪營業所員、關西學院文學部英文科出身)は父の生家宮野家を相續し三男三郎(同三七、一生、慶大經濟學部出身)は實弟河口忠次郎の養子となり四男四郎(同四一、一生、高木家秘書、關西學院高等商業部出身)は分家し長女貞(同三四、四生、兵庫縣立第一高女出身)は絶家宮原家を再興し滋賀縣人青木新左衛門二男孝次(同二八、七生、大阪商船會社東京支店員、法學士)を夫に迎へ二女敏子(同三八、二生、出身校同上)は日本銀行員經濟學士大久保太三郎に三女孝子(同四五、三生、甲南高女出身)は三井銀行大阪支店員東京高商出身柴田三四治に嫁せりA五九一(兵庫縣武庫郡魚崎町横尾七七一電御影五四八八)

參照‖木村正義、河口忠次郎の項

高木與八郎　東華土地建物㈱監査役、大東大藥房、靜靖丸本鋪、賣藥商　東京府在籍

妻　ます　明三四、八生、養父與八郎長女

男　明　夫　大一三、八生

君は栃木縣人菊池次郎の弟にして明治二十五年一月を以て生れ大正十年先代與八郎の養子となり同十四年家督を相續し前名五郎を改め襲名す大正九年早稻田大學商科を卒業し家藥を繼ぎ賣藥商を營み大東大藥房と稱す靜靖丸本鋪たり傍ら現時前記會社の重役を兼ねA三一六(東京市日本橋區藥研堀町四三電浪花二九三〇)

參照‖菊池次郎、高木與兵衛※白石甚兵衛※初見謄助の項

高木與兵衛　東京府多額納稅者、三清堂、高木清心丹本鋪、賣藥商、東京府在籍　養父　清彦　萬延元、一一生

妻　ノブ　明二三、九生、養父與兵衛長女

君は東京府士族大木良輔狩野宗三の弟にして明治十八年十二月二十八日を以て生れ先代與兵衛の養子となり昭和六年家督を相續し前名豐勝を改め襲名す第一高等學校を經て明治四十一年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し賣藥商を營み三清堂と稱し高木清心丹本鋪にして直接國稅四千六百六十五圓を納め東京府多額納稅者たり養妹富(明二七、一二生)は同夫光敎(同一八、六生、栃木、菊池次郎弟)と共に其四子を伴ひ分家せり(東京市日本橋區芳町一ノ八ノ五電浪花七〇五)

參照‖大木良輔、狩野宗三、菊池次郎、高木光敎※白石甚兵衛※高木與八郎※手塚五郎平※初見謄助の項

高木好彦　大正製藥所㈱專務取締役、日本微生物研究所常務理事、東京府在籍　明三七、六生、北海道、豊島伊勢松四女、札幌成美女學校出身

妻　アサノ　幹夫　昭八、九生

君は東京府人高木利吉の二男にして明治三十一年六月二十五日を以て生れ昭和五年家督を相續す現時大正製藥會社專務取締役にして日本微生物研究所常務理事を兼ぬ家族は尙二女雅子(大一四、一〇生)三女信子(昭三、一二生)弟正雄(明四一、四生)同七郎(同四四、六生、明治藥專出身)同登(大三、三生)妹八十子(同七、四生、東洋高女在學)あり(東京市豊島區池袋一ノ八三三電大塚三二二一)

高木喜寛　正四位、男爵、醫學博士、貴族院議員、東京慈惠會理事、同醫科大學教授、同醫院長、東京病院長、帝國生命保險㈱監査役　東京府華族

妻　シマ　明一七、二生、東京、士、有馬行光叔母、華族女學校出身

男　秀寛　明三九、六生、建築家、鹿橋大學出身

女　美代　大六、一二生、女子學習院在學

當家は先代兼寛より其名を揚ぐ兼寛は舊庇見島藩士にして夙に醫學を修め藩立開成學校に入り蘭英の學を學ぶ明治元年鹿兒島藩兵隊附醫師となり東北征討軍に從ひ同五年海軍中軍醫に任じ後英國に留學し累進して海軍々醫總監に陞り醫學博士の學位を受く其間東京海軍病院長醫務局長兼醫務本部長海軍中央衛生會議長等に歷補し貴族院議員に勅選せられ同三十八年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる又東京慈惠醫院を創立し東京病院を經營し東京慈惠會理事同醫院長同醫學專門學校長東京病院長となる君は兼寛の長男にして明治七年十一月十日を以て生れ大正九年家督を繼ぎ爵を襲ぐ夙に學習院に學び次で英國に留學しキングスカレヂ・セントトーマス醫科大學を卒業して遍く歐米を巡遊す歸朝後東京病院副院長東京慈惠會醫院外科部長同醫學專門學校教授となり醫學博士の學位を受け貴族院議員に擧げらる現に東京慈惠會理事同醫科大學教授同醫院長の職に在り又東京病院長にして傍ら帝國生命保險會社監査役を兼ね大日本ラグビー協會長たり家族は尙二男兼光(大四、一一生、慶大在學)あり長女園子(明三八、四生、女子學習院出身)は東京府人田中幾之助に嫁し亡弟兼二妻百合(明二五、七生、東京、神田金樹妹)亡弟舜三妻多都雄(同一九、一一生、東京、三井高修姉)は各其子女を伴ひ分家せり六三三一(東京市麻布區東鳥居坂町一三電赤坂一六五(病院)芝區田村町五丁目電芝二六〇)

參照‖有馬行光※男爵神尾行三※有馬生馬※川崎守之助※里見淳※山本直良の項

高木善行　從五位勳五等、千葉醫科大學庶務課長會計會長、東京府士族

妻　まつ代　明一三、三生、文久元、九生

男　正　行　大元、九生

女　叔　子　大四、三生

君は山梨縣人澤登隆信の弟にして明治五年六月十一日を以て生れ高木まつ代の養子となり同四十二年先代種の後を承け家督を相續す同二十五年東京法學院を卒業し同三十八年文官高等試驗に合格し翌年三重縣屬となり爾來文部屬兼帝國圖書館司書千葉醫學專門學校書記兼助教授千葉醫科大學事務官等に歷任し現時前記の職に在り家族は尙二男善貫(大六、七生)三男三郎(同九、五生)あり長女米子(明四二、一二生)は東京府人星合正治に嫁せり(千葉醫科大學內)

高木義賢　大日本雄辯會講談社理事　東京府在籍

妻　操　明二二、九生、德島、服部定吉二女

男　義　正　大六、一〇生

君は德島縣人高木操の三男にして明治十年十一月八日を以て生れ昭和四年明太郎方より分れて一家を創立す現時大日本雄辯會講談社理事たり家族は尙五女茂(大一二、三生)六女みね子(同一三、一一生)七女和子(昭二、一生)三男雄三(同四、四生)あり二女幹子明四四六生)は群馬縣人大須賀四郎多長男瑛司に三女美枝子(大二、一一生)は長崎縣人高橋兼太郎二男良麿に四女辰子(同五、二生)は靜岡縣人高木磯吉長男三吉に嫁し二男賢次(同一〇、一生)は東京府人佳永ツネの養子となれりA三五四八(東京市澁野川區田端町一〇三電小石川三二六〇)

高木義敬　醫學博士、高木小兒科病院、醫師　京都府在籍

妻　たみこ　明二四、一一生、京都、足立慶三郎長女

男　正　一　大九、九生

女　百合子　大四、一一生

女　子　大七、九生

君は京都府人高木隆伯の三男にして明治十七年八月二十九日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同年京都帝國大學醫科大學を卒業し高木小兒科病院を經營し醫師たり養に醫學博士の學位を授けらる家族は尙四男孝敬(大一二、一生)五男五郎(同一三、一生)三女はるみ(昭七、四生)ありA一二二六(京都市中京區堺町通二條下ル電上六三一)

高木陸郎　中日實業㈱副總裁、東亞通商、南滿鑛業、南滿自働車交通各㈱社長、滿洲槍花、東洋製鐵、滿洲鐵山藥日興商事各㈱取締役、滿蒙毛織百貨店㈱監査役、南滿大興、南滿火工品各㈱相談役、滿洲大興、南滿員、東京府在籍　高木㈱代表社

妻　たみ　明二三、八生、東京、野一色慈二女

男　惟　常　明四四、六生、三井物產會社員、慶大出身

君は新潟縣士族高木惟矩の四男にして明治十三年十月十九日を以て生れ大正三年兄眞木音方より分れて一家

を創立す先是東京商工中學を卒業し三井物産會社に入る明治三十二年同社第一期支那留學生に選ばれて渡清し北清事變に際し陸軍通譯官となり從軍す事變終りて三井物産會社に復し上海及漢口に在勤す同四十一年漢口に於て高昌號を次で同四十二年凸印刷會社を各創立し同四十三年漢陽鐵廠大冶鐵鑛山萍鄕炭鑛の三社合併成りて漢冶煤萍鐵廠鑛有限公司となるや日本商務代表者に擧げられ三井を辭す大正二年同公司の日本代理店として東亞通商會社の設立せらるゝや其社長となり同十一年以降選ばれて日支合辦中日實業會社日本側代表たる副總裁に就任し傍ら前記諸會社の重役たり曩に中華民國より一等大綬嘉禾章を授けらる家族は尙二男惟次郎（大一〇、五生）三男三郎（同一一、七生）四男四郎（同一三、九生）五男洋伍（昭三、一二生）あり長女淑子（明四三、五生、三輪田高女出身）は福井縣人辻岡利夫に嫁せりA二七七（東京市芝區高輪南町二八電高輪八三二）

高木隆吉　勤六等、三井銀行經證券課長　愛知縣在籍

父　久兵衛　文久二、五生
母　くめ　慶應二、二生、愛知、伊藤九郎助三女
妻　とよ　明二三、一〇生、愛知、佐野方敏妹
女　ふじ子　大五、八生、紐育ホレースマン・ハイスクール及雙葉高女出身
女　千枝子　大八、六生、紐育ホレースマン・ハイスクール出身、聖心女子學院在學

君は愛知縣名古屋の舊家高木久兵衛の長男にして明治十九年三月十二日を以て生れ昭和九年家督を相續す同四十年早稻田大學商科を卒業後米國ペンシルヴァニア大學に學びマスター・オヴ・アーツの稱號を得歐洲諸國を見學し同四十二年三井合名會社に勤務大正六年三井銀行に轉じ同十三年本店外國營業部長に進み同十五年紐育支店長に轉じ昭和七年歸朝本店證券課長となり今日に及ぶ家族は尙季麿（明四〇、七生、南米拓殖會社員）あり同銀一（同二四、九生）は愛知縣人大島太平に同定助（同二九、三生）は大阪府人中直七に各養子となり同勝雄（同三八、一〇生）も亦愛知縣人三輪嘉兵衛の養子となり絶家名和氏を再興し長女田鶴子（大元、六生、紐育美術學校出身）は故武藤山治二男絲治に妹治子（明三四、二生）は同縣人服部賢治郎に同澄子（同四三、六生）は同縣人富田重助で喜四郎に嫁せりA二五四四（東京市芝區白金三光町四五一電高輪三七四七）

參照‖※山田英太郎の項

高木良一　日本銀行員　愛知縣在籍

母　だい　明五、七生、岐阜、西川雄二妻母
妻　晴子　大四、一生、高瀨虎子四女、横濱フェリス和英女學校出身

君は愛知縣人高木隣吾の五男にして明治四十一年八月以て生れ大正十五年家督を相續す昭和八年東京商科大學を卒業し日本銀行に入り本店勤務を以て今日に至る姉せい（明二八、三生）は岐阜縣人渡邊磯水に妹ていは（大元、一一生）は岐阜縣多額納稅者谷金吾四男庫之助に嫁せりA四四一（東京市大森區山王二ノ一八四九）

參照‖高濱虛子※男爵新田義美の項

高木林次郎　製絲業、長野縣在籍

妻　きんよ　明二八、九生、亡長男清妻、長野林金治郎長女
孫　榮一　大一一、八生、亡長男清長男

君は長野縣人高木龜藏の二男にして明治二年十月を以て生れ同三十六年兄卯之助方より分れて一家を創立す高木製絲場を經營し製絲業を營み傍ら前記會社の重役たり曩に岡谷製絲會社の監査役にして長野縣多額納稅者に列す家族は尙孫芳子（大九、一〇生、亡長男清長女）同久雄（同一三、一〇生、同二男）同照子（昭三、七生、同二女）あり（長野縣諏訪郡平野村）

高城新助　大阪府在籍

妻　たか　明三、一生、榮父新助二女
男　奈良三　明四四、七生、三男奈良三妻、大阪、寺田三五平長女
婦　理子　明四四、七生、天王寺高女出身
女　愛子　明四四、七生、天王寺高女出身

君は大阪府人神田嘉平の二男にして元治元年八月二十日を以て生れ先代新助の養子となり明治三十八年家督を相續し前名鶴松を改め襲名す家族は尙孫欣子（昭八、五生、三男奈良三長女）あり長女ツタ（明二五、一生）同夫正雄（同一八、九生、奈良、木田佐平四男）は其三男一女を伴ひ三女鶴江（同三五、二生、相愛高女出身）同夫啓次郎（同三六、五生、奈良、今西秀三郎二男、國大出身）は其一男二女を伴ひ各分家せりA四六三四（大阪市浪速區新川町三ノ六一九電戎二一三六）

高樹宇一　正五位、勳六等、前水原高等農林學校教授、山口縣在籍

母　ユキ　明元、六生、山口、田村道之助三女
妻　スエ　明二二、五生、廣島、山口良造姉

君は山口縣人高樹淳良の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正十三年家督を相續す同三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同四年朝鮮總督府農商工部屬員となり次で同府勸業模範場技手水原農林專門學校教授水原高等農林學校教授となり同十二年歐米各國に出張し同十五年水原高等農林學校教授兼朝鮮總督府視學官に任ぜられしが後退きて現時閑地に在り家族は尙弟嘉一（明二三、三生）同妻須惠子（同三四、一〇生、山口、米澤菊五郎三女）あり妹ミヤ（同三二、一一生）は山口縣人石和田信作に同キヨ（同四〇、四生）は同縣人藤田章一に嫁せり（廣島市東觀音町二ノ三二二）

高久馨　日支炭礦汽船、昭和礦業各㈱專務取締役、群馬縣士族

妻　ミツ　明一三、二生、山口、士、岡守節五女
男　肇　明四一、六生
男　乙彥　明四二、九生
男　秀夫　明四五、一生

君は群馬縣士族高久逸象の三男にして同敏男同融の兄なり明治七年九月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十年東京高等商業學校を卒業し大倉組に入り倫敦支店員横濱支店長本店輸出部長營業部次長等を經て總務長に擧げらる大正三年辭するに及び自ら日支炭礦汽船會社を興し其の專務取締役となる先是明治三十七年以來朝鮮群山附近に高久農場を經營し傍ら大日本遠洋漁業會社日本天然瓦斯會社鄕川無煙炭礦會社を創設して其の重役を兼ぬ現時前揭各會社の專務取締役たり家族は尙四男吉清（大四、三生）あり弟讓吉（明二五、一生、三井物産會社員、法學士）は分家し長女濱子（同三八、

一生、菩蓮土女學校出身）は神奈川縣人瀧川虎藏長男大日本製糖會社員純三に二女三保子（同四〇、一生、出身校同上）は男爵西西乙に妹はる（同二二、二生）は海軍大將井出謙治弟日本銀行株式局長勝に嫁せりA一五七（東京市大森區新井宿一ノ二六八五電大森八）

參照‖男爵西西乙、井出勝、高久融、高久敏男の項

高久幸作　コークス商　東京府在籍

妻　セイ　明二六、四生、東京、高久清吉二女
男　德太郎　明四五、六生
婦　愛子　大元、八生、長男德太郎妻、東京井桁平三郎長女
男　孝三郎　大三、一二生

君は栃木縣人淺見惣松の三男にして明治十年十月十三日を以て生れ先代トクの養子となり大正九年家督を相續すコークス商を營む家族は尙四男四郎（大五、九生）五男惠五郎（同九、五生）六男錄郎（同一一、二生）七男耕七郎（同一三、九生）二女富久子（昭二、二生）八男昌八郎（同七、三生）ありA四二一（東京市淺草區石濱町三ノ四電淺草一三四一）

高久敏男　昭和礦業㈱監査役　群馬縣士族

妻　ふく　明二四、五生、東京、村山彌七四女
男　逸郎　明四四、一生
女　壽子　明四五、四生
男　重雄　大二、一二生
女　夏代　大五、七生
女　菊代　大七、一〇生

君は群馬縣士族高久逸象の二男にして現戸主同馨の弟同融の兄なり明治十二年三月を以て生る同三十七年慶應義塾大學理財科を卒業し渡鮮日賀田財政顧問の下に朝鮮の財政整理に當り同四十三年朝鮮銀行に入り大正八年朝鮮殖產銀行に轉じ同行調査課長貯蓄課長を經て同行理事たりしも後之を辭し現時昭和礦業會社監査役たり家族は尙四女藤枝（大九、五生）三男和男（同一一、七生）あり（東京市品川區六井麓島町二九九四電大森七六七）

參照‖高久馨、高久融※男爵西西乙※井出勝の項

高久彥一郎　古滿金商事㈱監査役、東京米穀商品取引所取引員、栃木縣在籍

妻　眞佐龜　明一九、五生、長野、柳澤浩叔母
女　敏子　大二、一生

君は栃木縣人高久藤三郎の四男にして明治八年三月十二日を以て生れ同三十三年家督を相續す現に東京米穀商品取引所一部二部正米部入綿部取引員にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女光世（大九、一一生）あり長男幸平（明三五、二生）養弟幸四郎（同一九、二生、栃木、相田豐次養子）は各分家し妹イク（同二二、五生）は東京府人西川幸太郎養子鳳三郎に嫁タカ（同二三、八生、亡兄敎一郎長女）は栃木縣人茂木瀧藏二男義一に嫁せりA五〇〇B一八〇（東京市日本橋區蠣殼町一ノ一五電茅場町一四五〇）

高久融　千代田火災保險㈱京都支店長　群馬縣士族

妻　眞　明二四、一一生、東京、柴崎京三郎妹
男　一郎　大一〇、七生
女　初子　大五、四生
女　幸子　大七、二生
女　信子　大八、九生

君は群馬縣士族高久逸象の四男にして現戸主同馨及同敏男の弟なり明治十九年二月を以て生る大正二年慶應義塾法律科を卒業し現時千代田火災保險會社京支店長たり家族は尙四女篤子（昭三、八生）二男健二（同五、九生）ありA一七八（京都市上京區相國寺北門前町下ノ町六九五電上三三九）

參照‖高久馨、高久敏男※男爵西西乙※井出勝の項

高草平助　前日本銀行㈱新潟支店長　岡山縣在籍

妻　ミツコ　明二三、三生、廣島、二階堂三郎左衛門四女
男　洋太　大一一、一生
女　嶺代　大八、一生

君は岡山縣人先代平助の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名太久之助を改め襲名す夙に京都帝國大學法科大學を卒業し日本銀行に入り同行調査役を經て新潟支店長たりしも昭和九年四月同行を退き現時閑地に在り妹愈久（明一五、八生は兵庫縣人梶原健次郎に同安喜世（同二一、一〇生）は大阪府人久保田美英に同揖枝（同三〇、二生）は同府人久保田光男に嫁し弟讓（同二四、一〇生）は前記梶原健次郎の養子となれり（東京市小石川區大塚坂下町四〇）

參照‖二階堂三郎左衛門の項

高草朴介　從四位勳四等、小倉石油㈱常務取締役、岡山縣在籍

妻　フミ　明二八、五生、神奈川、金崎七藏長女
男　徹　大五、九生

君は岡山縣人高草喜謙の三男にして明治十九年二月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業文官高等試驗に合格同年鐵道院に奏職し大正元年鐵道院副參事となり同參事同書記官を經て同十二年歐洲に出張を命ぜらる歸朝後仙臺鐵道局經理課長鐵道局參事東京鐵道局經理課長鐵道書記官等に補任し後官を辭して實業界に入り開墾鹽業會社支配人を經て現時小倉石油會社常務取締役たり家族は尙二男清史（大一〇、三生）亡兄納助長男禮介（大五、三生、戸主）あり東京市杉並區天沼一ノ一〇六電荻窪二九三八）

高草美代藏　正五位、朝鮮瓦斯電氣㈱監査役　岡山縣在籍

妻　支多　明一一、三生、榮父小太郎長女
男　賢　明四一、八生、東北帝大出身
女　幹子　明四三、一〇生、東京女大及東京音樂學校出身

君は岡山縣人元代議士小橋藻三衛の弟にして明治三年九月を以て生れ先代小太郎の養子となり同四十一年家督を相續す同二十六年東京水產講習所を卒業し爾來佐賀縣中學校教諭同山農事講習所教師福井縣立小濱水產學校長等を經て後岡山縣會議員同參事會員兒島電氣鉄道中電氣各會社專務取締役陸軍參與官等に歷任し衆議院議員に當選すること三回に及び現時朝鮮瓦斯電氣會社監査役たる外岡山縣水產會長同清涼飲料水工業組合長同除蟲菊同業組合長大日本水產會常務理事帝國水產會評議員南洋水產協會理事長等に推さる（岡山市一番町三三電三〇七七「別宅」東京市神田區須田町一ノ八電神田三三〇）

高楠榮

從四位勳三等、醫學博士、海軍醫中將、京城帝國大學教授、醫學部長、東京府在籍

妻　鶴　明二八、一生、故貴族院議員大澤謙二四女、御茶の水高女出身

男　洵　明四四、三生、明大在學

男　恒　大二、二生

君は兵庫縣人竹本壽人の弟にして明治十三年十一月を以て生れ後文學博士高楠順次郎の養子となり昭和二年分れて一家を創立す明治四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し海軍中軍醫に任じ次で東京帝國大學醫科大學副手同助手壓路加病院醫員等に歴任し大正九年瑞獨に留學し同十二年歸朝醫學博士の學位を授けられ同年朝鮮總督府醫官に任じ京城醫學專門學校教授朝鮮總督府醫院産科婦人科長を兼任す現時京城帝國大學教授にして同大學醫學部長たり昭和三年六月歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚三男昭（大七、二生）あり（京城府本崇洞二〇一）電光化門九一二）

參照‖高楠順次郎の項

高楠順次郎

正三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、貴族院議員、國際文化協會理事、兵庫縣士族

養父　孫三郎　慶應三、一一生、養父孫三郎長女

妻　しも　明三〇、一二生

男　正　男　明三九、一一生、新潟、中村直次郎二女

養子　ヒ　ロ

君は實島縣人澤井親三の長男にして慶應二年五月を以て生れ舊名を順と云ふ明治二十三年高楠孫三郎の養子となり大正十五年家督を相續す明治二十七年英國オックスフォード大學を卒業し次で佛獨に留學し東京外國語學校長東京帝國大學文科大學講師同教授等に歴任す曩に佛領東京英佛獨等に差遣せられ希臘印度歐洲等に出張し明治三十三年文學博士の學位を受け同十五年帝國學士院會員に列す現時東京帝國大學教授を辭し同大學名譽教授の稱號を授けられ武藏野女子學院長にして昭和六年六月東洋大學長に推され同九年之を退く梵文學の權威として知らる養子榮（明一三、一一生）は分家せりA一〇八（東京府北多摩郡國分寺村上谷保新田電境七七）

參照‖高楠榮の項

高窪喜八郎

從四位勳三等、醫學博士、中央大學教授兼理事、法律評論社長兼主幹、貴族院議員、東京府在籍

妻　てう　明二三、三生、東京、平井長太郎五女

養子　治郎左衛門　明三九、一〇生、養子治郎左衛門長女靜江夫、陸軍科學研究所勤務工學士

女　靜　江　明大女子部英語教員、女子英學塾及明大女子部出身

君は東京府人高窪宗吉の長男にして明治六年八月十日を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十一年東京法學院を卒業し大正十一年法學博士の學位を受く現時辯護士にして法律評論社長兼主幹たる傍ら中央大學教授兼理事たり著書に「商法論」「民法學說判例總覽」「商法學說判例總覽」「社會生活ノ法則」「神代ノ國史」「神國實證論」等あり家族は尚幾弟正（大元、八生）ありA七一七（東京市赤坂區青山南町五ノ八ノ二電青山四五三）事務所」同市神田區小川町三ノ二八ノ二電神田二七二〇二

高倉卯三麿

正四位勳三等、東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授、貴族院議員、東京帝國大學名譽教授、東京府華族

妻　ツネ　明四一、三生、佛英和高女出身

男　盛雄　明三三、一二生、府立第二高女出身

婦　喜久子　明三五、二生、長男盛雄妻、神奈川、上村輔世妹

男　周雄　明三五、一生

男　紀雄　明四一、二生

君は子爵高倉永則の弟にして慶應三年二月を以て生る大三、一二生、府立第二高女出身

君は子爵高倉永則の弟にして慶應三年二月を以て生る明治二十七年帝國大學理科大學動物學科を卒業し東京高等師範學校教授に任じ昭和五年東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授に任じ今日に至る（東京市小石川區小日向臺町三ノ一〇六）

參照‖子爵高倉永則※伯爵島津久範※子爵小倉義季の項

高倉作太郎

海軍造船中佐、大阪鐵工業會館監査役、兵庫縣在籍

妻　ツネ　明七四生、岐阜、士、古屋懷四女

男　盛雄　明二九、七生

婦　喜久子　明三五、二生、長男盛雄妻、神奈川、上村輔世妹

男　周雄　明三五、一生

男　紀雄　明四一、二生

君は新潟縣人高倉孫作の弟にして文久三年六月を以て生れ明治二十六年分れて一家を創立す同二十一年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し海軍々籍に入り海軍造船中佐に陞る明治三十九年豫備役となり後實業界に入り現時大阪鐵工業會館監査役たり曾て大阪製鎖所社長大阪機械工作所專務取締役たりし事あり家族は尚孫慈子（大一二、二生、長男盛雄長女）同達雄（同一四、一生、同長男）あり長女智（明一六、四生）は福岡縣士族濱一磨に二女和（同二八、二生）は兵庫縣人木村省三に三女佳子（同三六、一生）は沖繩縣人川上喜棟長男喜光に四女保子（同三七、一生）は新潟縣人丸山佐門長男憲治に嫁せりA二四三（兵庫縣武庫郡本庄村青木三五電御影二三〇八）

高倉永則

從二位勳二等功四級、子爵、陸軍歩兵大佐、舊公卿家

男　永輝　明三三、九生、正五位

婦　良子　明四二、三生、長男永輝妻、侯爵黑田長成二女、女子學習院出身

女　元子　大七、一生

當家は藤原鎌足七代權大納言長良の次男參議清經の後なり夫より十五世を經て參議永季に至り姓を高倉と稱す更に十二世を經て永秀に至り實暦の議奉に左遷し罪譴を蒙り落飾して常山と號す明治二十四年從二位を贈らる夫より三代を經て先代永祐に至る世々衣紋道を司る君は其長男にして元治元年四月十一日を以て生れ慶應二年家督を相續し明治十七年子爵を授けらる同二十一年陸軍歩兵少尉に任じ果進して大正三年大佐に陞り京都聯隊區司令官に補し同六年豫備役に入る日露戰役の功に依り功四級金鵄勳章を賜ふ後貴族院議員に當選し研究會に所屬せしも現時閑地に在り家族は尚弟卯三麿（慶應三、二生）及其三女あり長女則子（明三〇、四生、京都府立第一高女出身）は出雲路派管長藤光曜に二女久子（同三一、八生、出身校同上）は伯爵島津久範に三女勝子（同三九、一一生、出身校同上）は子爵小倉義孝に嫁し弟良興は南坊城家を繼げり（京都市左京區永觀堂町一一電上二五〇二）

參照‖侯爵黑田長成、伯爵島津久範、子爵小倉義季※侯爵鍋島直映※子爵黑田長敬※男爵黑田長和の項

高倉寛

衆議院議員（福岡縣選出）東京府在籍

妻　た　け　明一九、一〇生、靜岡、伊又市二女

君は福岡縣人高倉壽八の三男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十五年甥八百吉方より分れて一家を創立し前名寛次を改む朝鮮新聞社大阪朝日新聞社各社員となり雜誌拓殖新報朝鮮支局長を勤め次で政敎社及組國會に入り雜誌日本及日本人組國各記者となる福岡縣より選ばれ衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す家族は尚長女貞子（大一三、八生）二女節子（昭二、一生）あり（東京市麻布區森元町三ノ一五電赤坂一二七四）

高桑確一

合同電氣㈱副社長、高野山電氣鐵道、合同瓦斯、信貴生駒電鐵各㈱取締役、東大阪電氣鐵道、新潟電力、德島水力電氣各㈱監査役、石川縣在籍

父　戟二郎　安政六、五生、石川、士、市村義三郎二男、現戸主

繼母　酉　文久元、一二生、石川、士、土師雙他郎妹

妻　かつら　明二七、一〇生、石川、士、土師他郎二女

君は石川縣人高桑戟二郎の長男にして明治十一年八月を以て生る同三十六年東京帝國大學工科大學を卒業し夙に實業界に入り現に合同電氣會社副社長の外前記諸會社の重役たり家族は尚長女和子（大九、四生）二女寛子（昭四、五生）ありA二九三九（大阪市住吉區阿倍野筋三ノ七電天王寺一六五）

高桑謙二

正五位勳六等、鐵道局技師、仙臺鐵道局運輸課長、石川縣士族

父　準一　萬延元、一〇生、現戸主

母　しげ　明二、八生、二羽忠四郎長女

妻　よね　明三一、四生、杉本榮太郎長女

男　謙一郎　大九、一生、東北學院中學部在學

女　敏　大六、五生、仙臺第二高女在學

君は石川縣士族高桑準一の長男にして明治二十四年十二月十三日を以て生る大正四年京都帝國大學工科大學機械科を卒業し鐵道院雇となり鐵道院技手を經て同技師に任じ東京鐵道管理局に勤務し同九年鐵道局技師に任じ爾來東京神戸各鐵道局勤務札幌鐵道局運輸課列車掛長長崎に歴補し昭和三年在外研究員を命ぜられ歸朝後東京鐵道局運輸課列車掛長兼同課庶務掛長を經て同八年鐵道技師に任ぜられ運輸局運輸課勤務となり次で同年鐵道局技師に任じ仙臺鐵道局運輸課長に補せられ現在に至る家族は尚二男二女あり（同一五、七生）弟讓（明二八、三生）あり（仙臺市仙臺鐵道局運輸課内）

高桑迪曹

勳八等、城東機業㈱常務取締役、城端醬油㈱取締役、富山縣在籍

妻　た　め　明二二、六生、米原右衛門三女

男　長雄　明四一、一二生

男　外茂次　大二、五生、高岡高商出身

君は富山縣人高桑長兵衛の二男にして明治十六年一月を以て生れ同四十年兄哲史郎方より分れて一家を創立す現時商記會社の重役たり（富山縣東礪波郡城端町電五八）

高桑藤代吉

正五位勳六等、桐生高等工業學校教授、新潟縣在籍

妻　菊　明二一、八生、千葉、永井謙藏長女、日本女大國文科出身

男　東作　大六、三生

養子　絢子　明四五、三生、東京、增井六郎長女

君は新潟縣人高桑茂三郎の長男にして明治十三年三月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し中外石油アスファルト會社支配人兼技師長たりしが後之を辭し大正八年桐生高等染織學校教授に任じ英米佛各國に留學を命ぜられ同十年歸朝同校の後身たる桐生高等工業學校教授となり今日に至る（桐生市光明寺前電二八五六）

高坂德三郎

米市商店㈱社員、青果商京都府在籍

妻　ゆう　明四、四生、京都、畑藤七二女

男　儀三郎　明三八、五生

婦　富美子　明四〇、一二生、三男儀三郎妻、和歌山、田島直吉三女

君は京都府人米田市右衛門の二男にして明治三年十月を以て生れ後家督を相續す同四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し同四十二年長崎縣壹岐郡立病院長となり大正八年海軍醫官として臨時南洋群島防備隊民政部に勤務し後南洋廳醫院長兼南洋廳技師たりしも昭和四年退官歸朝し現時大阪市笠原小兒保健研究所員たり同二年醫學博士の學位を受く導攻の小兒科以外に熱帶病を研究し明治三十六年分れて一家を創立す同二十一年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し海軍々籍に入り海軍造船中佐に陞る明治三十九年豫備役となり後實業界に入り現時大阪鐵工業會館監査役たり曾て大阪製鎖所社長大阪機械工作所專務取締役たりし事あり家族は尚孫慈子（大一二、二生、長男盛雄長女）同達雄（同一四、一生、同長男）あり長女智（明一六、四生）は福岡縣士族濱一磨に二女和（同二八、二生）は兵庫縣人木村省三に三女佳子（同三六、一生）は沖繩縣人川上喜棟長男喜光に四女保子（同三七、一生）は新潟縣人丸山佐門長男憲治に嫁せりA二四三（兵庫縣武庫郡本庄村青木三五電御影二三〇八）

高倉永則

從二位勳二等功四級、子爵、陸軍歩兵大佐、舊公卿家

男　永輝　明三三、九生、正五位

婦　良子　明四二、三生、長男永輝妻、侯爵黑田長成二女、女子學習院出身

女　元子　大七、一生

當家は藤原鎌足七代權大納言長良の次男參議清經の後なり夫より十五世を經て參議永季に至り姓を高倉と稱す更に十二世を經て永秀に至り實暦の議奉に左遷し罪譴を蒙り落飾して常山と號す明治二十四年從二位を贈らる夫より三代を經て先代永祐に至る世々衣紋道を司る君は其長男にして元治元年四月十一日を以て生れ慶應二年家督を相續し明治十七年子爵を授けらる同二十一年陸軍歩兵少尉に任じ果進して大正三年大佐に陞り京都聯隊區司令官に補し同六年豫備役に入る日露戰役の功に依り功四級金鵄勳章を賜ふ後貴族院議員に當選し研究會に所屬せしも現時閑地に在り家族は尚弟卯三麿（慶應三、二生）及其三女あり長女則子（明三〇、四生、京都府立第一高女出身）は出雲路派管長藤光曜に二女久子（同三一、八生、出身校同上）は伯爵島津久範に三女勝子（同三九、一一生、出身校同上）は子爵小倉義孝に嫁し弟良興は南坊城家を繼げり（京都市左京區永觀堂町一一電上二五〇二）

參照‖侯爵黑田長成、伯爵島津久範、子爵小倉義季※侯爵鍋島直映※子爵黑田長敬※男爵黑田長和の項

高崎佐太郎

正五位勳六等、醫學博士、笠原小兒保健研究所員、福岡縣在籍

父　末吉　萬延元、四生、福岡、上田金吉二男

妻　チヨ　明三〇、二生、京都、國松伊兵衛妹

男　浩　明四一、一生、岡山醫大在學

君は福岡縣人高崎末吉の長男にして明治十四年七月を以て生れ後家督を相續す同四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し同四十二年長崎縣壹岐郡立病院長となり大正八年海軍醫官として臨時南洋群島防備隊民政部に勤務し後南洋廳醫院長兼南洋廳技師たりしも昭和四年退官歸朝し現時大阪市笠原小兒保健研究所員たり同二年醫學博士の學位を受く導攻の小兒科以外に熱帶病を研

究し「小兒科學」「熱帶病學」の著述あり雨城と號しホトヽギス系俳人たり（京都市上京區小山大野町七一ノ四電西陣五八七九）

高崎新三郎

妻　チヨノ
男　三郎
婿　カヨ

久留米商工會議所顧問、福岡縣多額納稅者、森新吳服店名代表社員吳服商、福岡縣在籍
明二、七生、養父新兵衛二女
明三七、二生、長崎高商出身
明四一、一生、長男三郎妻、熊本清水嘉一姉、日本女大家政科出身

君は福岡縣人黑木文吾の二男にして明治六年六月十三日を以て生れ先代新兵衛の養子となり同三十一年家督を相續し前名三郎を改む吳服商を營み森新吳服店代表社員にして福岡縣多額納稅者に列し推されて久留米商工會議所顧問たり長女トミ（明三四、二生）は福岡縣人黑木眞澄に嫁せりA一三四六八（久留米市三本松町電一二〇）

高崎正光

東京府華族　從四位勳六等、男爵、海軍少佐

當家は先代正風より顯る正風は豐後國高崎城主高崎彌太郎景直の後なり十世を經て親兵の時島津氏に仕へ後數代を經て五郎右衛門忠恭に至り主に仕へて盡忠の稱あり正風は其長男にして勤王の志厚く戊辰の役官軍の參謀となり雄輜に參じ後宮中に奉仕する事多年抵密顧問官兼御歌所長に任ぜられ明治二十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる父元彦は其長男にして夙に海軍に入り日露戰役の際海軍少佐を以て決死陸戰隊に加はり名譽の戰死を遂ぐ君は其長男にして明治三十一年五月十二日を以て生れ同四十五年祖父正風の後を承けて家督を繼ぎ襲爵仰付けらるゝ父の海軍少尉に任じ少佐に累進す其間海軍水雷學校同砲術學校を卒業し同十二年自費を以て英國に留學し劍橋大學に入り歐洲英文學軍事學を專攻同十五年バチエラー・オヴ・アーツの學位を受け歸朝し現在に及ぶ叔父茂雄（明二三、五生）は分家し同益彦（同一三、一生）は祖母の生家山田家を繼ぎ叔母竹子（同九、一生）は子爵田中阿歌麿に同松子（同一七、二生）は子爵芝山孝豊に嫁せり（横濱市中區山手町二一七電本局四〇〇九）

高崎木兵衛

祖母　ふみ
白粉製造業
東京府在籍

明二、一〇生、曾祖父木兵衛二女

君は大阪府人先代木兵衛の長男にして大正十二年四月十日を以て生れ昭和五年家督を相續し前名祐正を改め襲名す白粉製造業を營む家族は尙姉タエ子（大九、一生）叔父敬三（明三一、三生）同妻澄子（同四〇、三生）叔父純三（同三九、一一生）は大阪府人高崎なをの死跡を相續し叔母惠以子（同四四、一生）は兵庫縣人鈴木友三に嫁せりA一二九一（大阪市東區北久太郎町二ノ六四電船場六八六）

高崎弓彦

妻　滿
男　秀博
女　紀美子
　　千代子

正四位勳四等、男爵、神奈川縣華族
明二一、七生、東京、貴族院議員學習院女學部出身
大三、一〇生、早大出身
明四五、二生、大進高女出身
大五、四生、女子學習院出身

當家は先々代五六より家名を揚ぐ五六は舊鹿兒島藩士にして故男爵高崎正風の從弟なり夙に開港論を唱へ維新後置賜縣參事岡山縣令參事院議官元老院議官東京府知事等に歷任し明治二十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代安彦は其長男にして米國に留學し歸朝後式部官貴族院議員に歷任す君は五六の三男にして生れ同四代安彦の弟なり明治十三年八月十一日を以て生れ同四十四年家督を相續し襲爵す夙に學習院東京帝國大學法科大學に學び歐米を視察す大正七年以來貴族院議員に當選する事三回現に其任に在り公正會に屬す音樂ゴルフに趣味を有す家族は尙五女家壽榮（大九、一一生）子學習院在學）妹ヨノ（明一八、七生）あり長女米子（同四〇、三生、鎌倉高女出身）は岡山縣人醫學博士木畑辰夫に嫁せり（東京市芝區白金猿町六一）

高崎利三郎

妻　茂
妹　明三八、七生、愛知、伊藤庄兵衛

高崎洋紙店、紙商
愛知縣在籍

君は愛知縣人武田辰次郎の六男にして明治三十年十二月九日を以て生れ先代利三郎の養子となり大正十三年家督を相續し前名藤之助を改め襲名す高崎洋紙店と稱し紙商を營む家族は尙長女和子（昭三、八生）二女昭子（同六、六生）ありA三七一B一〇〇（名古屋市西區傳馬町一ノ一二電本局一九六）

高崎達之助

妻　いと
男　芳郎
女　矢佐子

臺灣風製栽培業、代表取締役、東洋製鑛株常務取締役、戸畑製鑛、東洋船株昭和工船漁業各株取締役
大阪府在籍
明二七、一〇生、神奈川、神谷金之助二女
大八、八生
大六、九生

君は大阪府人高崎松之助の二男にして明治十八年二月を以て生れ後家督を相續す同三十九年水產講習所を卒業し同四十四年渡米し同國に於ける製鑛及鑛詰業を研究すること五ヶ年大正六年歸朝し現時東洋製鑛會社常務取締役たる外兩記各會社の重役たり家族は尙三女昌（大一四、一〇生）あり姉サヨ（明八、四生）は大阪府人菅眞隨に同タネ（同一〇、五生）は同府人岩田榮吉長男一次郎に同マサ（同一六、三生）は同府人岩田榮吉長男一に妹ハルエ（同二四、二生）は同府人尾野清左衛門二男勇次に同たか（同四三、六生）は同府人勝田新六孫直一に嫁し弟長知（同二八、四生）は同府人畑中秀治郎に妹靜子（同四五、二生）は同府人竹田高次郎に弟讓吉（大六、三生）は同府人宮田駒吉に各養子となり同菊之助（明二〇、一生）同妻ツル（同二四、一〇生、大阪、岩田榮吉三女）は其子女を伴ひ分家せりA一五九五（兵庫縣川邊郡西谷村電池田二四一八）

高澤喜太郎

祖母　てい
父　誠三
母　美爾
妻　節子

資產家
東京府在籍
安政四、八生、遠藤勝藏二女
明二五、二生、祖父喜太郎四男
明四一、五生、埼玉、巢子三郎妹
明四一、五生、群馬、森平友次三女

君は群馬縣人高澤長太郎の長男にして明治三十七年六月を以て生れ大正三年祖父喜太郎の後を承け家督を相續し前名英一を改め祖名を襲ぶ資產家たり家族は尙弟知司（明四一、六生）妹實村子（大三、四生）同貞子（同

四、一〇生）同佐伊子（同一〇、六生）同登志江（同一三、一〇生）あり姉きみ（明三五、二生）は埼玉縣人田村四郎に嫁せりA四二六（東京市麴町區一番町四二電九段三四二〇）

高鹽武

勳六等功五級、陸軍歩兵中尉、質商並醬油醸造業、栃木縣士族
嘉永六、一〇生、栃木、士、高橋三省四女
妻　ハナ
養母　アサ
男　三郎
婿　佐以
男　明
妻　隼人
女　トク

明一二、四生、養父武二女
明三三、五生
明三六、一〇生、三男三郎妻、栃木、五月敬次郎四女
明四五、二生、早稻田大學在學
大三、二生、慶應大學在學
大七、五生、宇都宮高女在學

君は栃木縣人釜井孫一郎の三男にして明治五年十一月を以て生れ先代武の養子となり大正五年家督を相續し前名清を改め襲名す日清日露の役に參加し陸軍歩兵中尉に陞り功五級を賜ふ質商並醬油醸造業を營む養に日光銀行片岡銀行下野中央銀行宇都宮ビルブローカー各銀行會社の重役たり家族は尙孫武一（大一四、九生、三男三郎長男）同錠二（昭二、四生、同二男）同和巳（同四、一生、同三男）あり長女キヨ（明三五、一生）は栃木縣人阿久津均長男義夫に二女榮（同三七、八生）は同縣人田中秀作長男欣作に養妹ヒロ（同五、九生）は茨城縣人兩情野口英吉に嫁せり（栃木縣鹽谷郡喜連川町喜連川）

高芝羆

妻　春江
妹　

日本生命保險㈱仙臺支店長
高知縣在籍
明二九、二生、福井、坂本鐵之助

君は高知縣人高芝改作の長男にして明治十八年七月を以て生れ大正六年家督を相續す夙に實業界に志し日本生命保險會社に入り大に手腕を發揮して頗りに業績の向上に努め着々社業を展開せしむるところあり京都支店長を經て現時仙臺支店長の任に在り闊熟せる手腕德望を稱せらる（仙臺市東一番丁日本生命保險會社仙臺支店內電鹽一三九）

高島菊次郎

妻　光子
男　寧久馬
　　泰二
女　淑子

日露木材、日本人絹パルプ、東洋製紙各㈱社長、王子製紙㈱副社長、日本染絹、南樺鐵道、雨龍電力、日本金網、工樺太木材、日本フエルト、日本加工製紙各㈱取締役、三都合同、新聞、樺太鐵道、各中井商店、富士洋紙監査役、東京府在籍
明二〇、二生、東京、士、青木元五郎長女
明四一、一〇生
明四五、二生
大四、六生

君は福岡縣人高島菊藏の長男にして明治八年五月十七日を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十三年東京高等商業學校を卒業し現時東洋製紙會社長王子製紙會社副社長の外兩記諸會社の重役たり弟壽作（明一三、五生）同妻チヨ（同一五、一二生、福岡、隈田林之助妹）は其子女を伴ひ分家し妹キミ（同一七、二生）は福岡縣人廣瀨源治に嫁せりA八二四四（東京市麴町區十六番町一四電九段一一六一）

參照※山中良樹の項

高島佐一郎

母　たつ
妻　はな
妹　

安政三、五生、茨城、士、酒泉新三郎三女
明二七、一〇生、東京、佐野善作大二、一一生

君は茨城縣人高島常十郎の長男にして明治十七年四月七日を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十二年東京高等商業學校本科を同四十四年同校專攻部を各卒業し中央日本明治合大學の講師を經て大正四年小樽高等商業學校教授に任じ同五年歐米諸國に留學を命ぜらる同十年名古屋高等商業學校教授に轉じ現在に至る「金融統制論」「新貨幣金融論」外數種あり家族は尙二男常二（大五、一二生）あり弟良助（明三〇、九生）同妻さだ（同二九、一〇生、千葉、內田忠義長女）は其二女を伴ひ分家し弟良次（同一九、八生、醫師）も亦分家せり（名古屋市中區丸屋町二ノ七）

參照※佐野善作の項

高島三郎

妻　操
男　善郎
女　光
　　來

正五位、農林技師兼遞信技師、水產局勤務、東京帝國大學農學部講師、福岡縣士族
明三〇、一生、東京、士、飯尾鎮
大八、一二生
大六、七生

君は福岡縣高島賢太の弟にして明治十六年九月二十九日を以て生れ同四十三年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し同年長崎三菱造船所技師となり大正二年造船研究の爲英獨兩國に出張す同六年東京山一汽船會社に入り同社船舶艦督主船部長同常務取締役兼神戸支店長となり同十二年農商務省技師に任ぜられ米國加奈陀メキシコ國に冷藏事業調査の爲出張す歸朝後鳥林技師として水產局に勤務し昭和三年伊太利に於ける國際冷凍會議帝國政府代表として出席す同七年東京帝國大學農學部講師を囑託せられ漁船論を擔當す同八年遞信技師を兼任し今日に至る能樂を趣味とす家族は尙二女澄（大一一、四生）二男仁郎（同一二、一二生）三女純（昭五、一生）兄賢太（明一三、八生、現戸主）同妻サダ（同二三、九生、福岡、士、眞木勤四郎三女）及其子女弟彌壽（同二三、八生）あり（東京市品川區大井鰐町三六二九）

高島俊助

母　すぎ
妻　靜江
男　俊一
　　昭七、一二生

第一銀行㈱牛込支店長
東京府士族
明八、一一生、埼玉、會田巳之吉姉
明三一、八生、德島、大川完治長女

君は東京府士族高島季一の長男にして明治十七年四月十日を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十二年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時第一銀行牛込支店長にして義に同行室蘭支店長たり家族は尙長女富（大一〇、一生）二女トヨ（同一四、七生）三女愛（昭四、二生）ありA二〇七（東京市豐島區駒込二ノ二六一電大塚五六六八）

高島孝

母　つる

土木建築請負業
神奈川縣在籍
明一〇、一一生、神奈川、士、土屋靜祐養母

君は神奈川縣士族高島嘉兵衛の孫にして明治四十二年三月三十日を以て生れ昭和二年家督を相續す先々代嘉右衛門幼少江戸に出で材木商の僮となり後自ら斯業を營み南部侯に隨て濃澤鑛山の採掘をなし成功明治三年東京横濱間鐵道工事起工に際し官命に依り海面を埋築鐵道及國道開通に便す後高島學校を起し人材養成に努め公共事業に盡す所拠からず又各種の會社重役として知らる易學に精通し呑象と稱し著書「高島易斷」あり曾て喪章を賜り大正三年特旨を以て正五位に陞叙せらる君民に關東學院高等科を經て明治大學に學ぶ土木建築業を營み又土地の經營をなす家族は尙弟正直（明四四、一〇生）叔父幸一（同四四、八生、慶大在學）叔母房子（大三、四生、神奈川高女出身）あり大叔父長政（明九、一二生）は分家し姉泰（同三九、三生、神奈川高女出身）は岐阜縣人西松寅次郎に同千代（同四〇、八生、出身校同上）は東京府入笹輪信可に叔母喜代子（同三六、九生、東京女學校出身）は神奈川縣人浮島仁郎に同登代子（同三九、一生、出身校同上）は同縣人丸山新作に同美代子（同四一、一生、神奈川高女出身）は同縣人淺野通に大叔母トミ（同二八、九生）は男爵内海勝二に嫁せりA三〇四七（横濱市神奈川區臺町六二電本局一〇五）

參照‖男爵内海勝二、高島長政の項

高島つる　地主　東京府在籍

君は故實業家大倉喜八郎の三女にして男爵大倉喜七郎の姉に當り明治十年八月を以て生る同二十六年士族高島小金治に嫁し其歿後昭和八年長男直一郎方より分れて一家を創立す地主たりA三七六五（東京市麴町區永田町二ノ七）

參照‖大倉喜七郎、高島直一郎※大倉桑馬の項

高島敏造　日瑞貿易㈱代表取締役　兵庫縣在籍

妻　すゑ　明一九、一二生、兵庫、石原源十郎四女

女　敏子　大七、八生

君は三重縣人高島劍助の五男にして明治十五年五月を以て生れ同四十年兄兵三郎方より分れて一家を創立す現時日瑞貿易會社代表取締役たりA一二八〇（兵庫縣武庫郡本山村一〇一）

高島友武　正三位勳一等功三級、子爵、陸軍中將、京都府華族

妻　多嘉　明六、六生、養父朔之助長女

養子　友春　明二七、八生、伯爵百井男弟、從五位

婦　初子　明三六、九生、養子友春妻、妹愛子長女

當家は先代朔之助より顯る朔之助は舊紀伊島藩士にして島羽伏見より北越奥羽の野に轉戰し功あり明治四年侍從に任じ後陸軍中將に累進す其間教導團長征討軍軍大佐に任じ後陸軍中將に累進す其間教導團長征討軍圖參謀兼本大阪鎭臺司令官西部鎭軍都長第四師團長等に歷補し同十七年華族に列し子爵を授けらる後陸軍大臣（二回）臺灣副總督拓殖務大臣樞密顧問官に歷任す君實は伯爵吉井勇の叔父にして慶應三年三月一日を以て生れ先代朔之助の養子となり大正五年家督を相續し襲爵仰付けらる夙に軍籍に入り明治二十一年陸軍歩兵少尉に任じ累進して大正七年陸軍中將に陞る其間臺灣總督府近衛歩兵第二聯隊同第一旅團第三師團令閣官歩兵第六第八近衛歩兵第一第二各聯隊長歩兵第十九旅團長第十九師團長等に歷補し日清戰役の功に依り功五級を賜ふ大正十年依願豫備役に編入せらる家族は尙養妹愛子（明一八、二生）あり同球磨子（同一四、一生）は貴族院議員樺山資英に嫁せり（東京都府紀伊郡深草町電伏見四七二）

參照‖伯爵吉井勇、樺山資英の項

高島直一郎　資產家　東京府士族

妻　花　明三一、七生、東京、山田順太姉

男　三郎　昭三、七生

君は東京府士族高島小金治の長男にして同久雄の從兄なり明治二十七年六月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に慶應義塾に學び資產家として知らる家族は尙長女慶子（大一〇、二生）二女康子（同一四、七生）あり母つる（明一〇、八生）は分家し妹豊子（同二九、九生）は東京府人又木周夫に嫁せりA三九七四（東京市麴町區永田町二ノ七）

參照‖高島つる、高島久雄、又木周夫の項

高島仲右衛門　福井縣多額納稅者、農業　福井縣在籍

妻　久子　明八、二生

男　正　明二七、九生

婦　富美子　明三一、二生、長男正妻、福井、藤野貫長女

男　龍雄　明四四、九生、早大在學

君は福井縣人高島仲右衛門の長男にして明治六年三月十四日を以て生れ同三十二年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅五百八十七圓を納む關恭旅行讀書を趣味とす三女うら（明三六年生）は福井縣人塚崎六兵衛に四女まさ子（同四一年生）は同縣人内田清に嫁せり（福井縣丹生郡立待村）

參照‖内田清の項

高島長政　地主　神奈川縣在籍

妻　知　明一六、九生、東京、宮田城之輔姉

女　正子　大五、五生

君は故正五位高島嘉右衛門の三男同孝の大叔父にして明治九年十二月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す地主たり妹トミ（明二八、九生）は男爵内海勝二に嫁せり（横濱市神奈川區高島臺八電本局七八）

參照‖高島孝の項

高島彦太郎　壽生命保險㈱東京支店長　京都府在籍

妻　マチ　明二四、一二生、渡邊孝七長女

男　一男　大一一、一一生

女　春子　大二一、四生

貞子　大八、二生

君は京都府人高島桑治郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す同四十三年日本生命保險會社に入り大正十三年壽生命保險會社に轉じ現時同社東京支店長たり家族は尙三女英子（昭三、七生）あり弟增治郎（明二六、七生）は京都府人荒木吉之助の養子となり同竹次郎（同二八、九生）は分家せり（東京市麴町區有樂町一ノ一二壽生命保險會社東京支店内）

高島久雄　高島㊟商事　東京府在籍

妻　輝子　明三七、一一生、愛媛、山之内重馬長女

男　利光　大一五、二生

君は東京府人高島鍍橋の長男にして同直一郎の從弟な

り明治三十二年九月を以て生れ大正十四年家督を相續す慶應義塾幼稚舍同普通部を卒へて米國に留學歸朝後同塾大學部に入り大正十四年理財科を卒業後新高製糖會社に入り當時の社長たりし伯父故高島小金治に隨行再度米國に遊び歸朝後大倉喜七郎男等後援の下に本邦創始事業たる自動車保險會社の創設を計り遂に昭和三年商工大臣の認可を獲得して之を創立し同時に推されて專務取締役に就任し尙前記會社の重役たり家族は尙二男英郎（昭五、一〇生）あり（東京市麴町區麴町一ノ一電九段一二七二）

參照‖高島直一郎※濱田道之助の項

高島平三郎　東洋大學、立正大學各教授、女子高等學園長、立正高等女學校長　東京府在籍

妻　はつ　明一三、一〇生、愛知、榊原由平姉

男　文雄　明二八、八生

婦　すみ　明三六、一〇生、長男文雄妻、兵庫、近藤賢二女、東京女學館出身

男　武雄　明四〇、八生

男　忠雄　大二、三生

君は廣島縣士族高島泰三の三男にして文久二年十月を以て生れ明治三十九年兄金次郎の跡を承け家督を相續す夙に育英界に入り現時前記教職に關する著書多し家族は尙孫信之（昭二、二生、長男文雄長男）あり長女ユリ（明三三、一生）は東京府人村上純一郎に二女すみれ（同三六、五生）は福島縣人山崎吉平長男一郎に三女若菜（同四三、二生）は廣島縣人佐藤拾三に嫁せりA一〇四（東京市本郷區駒込西片町一〇電小石川二二二二）

參照‖近藤賢二※佐々木道雄の項

高島平介　兵庫縣多額納稅者、味淋燒酎釀造業、兵庫縣在籍

妻　しか　明一七、九生、兵庫、平木德治郎妹

男　榮二　大二、五生

女　裕子　大八、二生

君は兵庫縣人先代平介の長男にして明治九年三月二十七日を以て生れ大正二年家督を相續し前名政吉を改め業名す味淋燒酎釀造業を營み其製品は阪神間に好評あり現に縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千七百十二圓を納む君は三位勳一等功三級、子爵、陸軍中將、京都府華族

妻　多嘉　明六、六生、養父朔之助長女

養子　友春　明二七、八生、伯爵百井男弟、從五位

婦　初子　明三六、九生、養子友春妻、妹愛子長女

當家は先代朔之助より顯る朔之助は舊紀伊島藩士にして島羽伏見より北越奥羽の野に轉戰し功あり明治四年侍從に任じ後陸軍中將に累進す其間教導團長征討軍軍大佐に任じ後陸軍中將に累進す其間教導團長征討軍圖參謀兼本大阪鎭臺司令官西部鎭軍都長第四師團長等に歷補し同十七年華族に列し子爵を授けらる後陸軍大臣（二回）臺灣副總督拓殖務大臣樞密顧問官に歷任す君實は伯爵吉井勇の叔父にして慶應三年三月一日を以て生れ先代朔之助の養子となり大正五年家督を相續し襲爵仰付けらる夙に軍籍に入り明治二十一年陸軍歩兵少尉に任じ累進して大正七年陸軍中將に陞る其間臺灣總督府近衛歩兵第二聯隊同第一旅團第三師團令閣官歩兵第六第八近衛歩兵第一第二各聯隊長歩兵第十九旅團長第十九師團長等に歷補し日清戰役の功に依り功五級を賜ふ大正十年依願豫備役に編入せらる家族は尙養妹愛子（明一八、二生）あり同球磨子（同一四、一生）は貴族院議員樺山資英に嫁せり（東京都府紀伊郡深草町電伏見四七二）

參照‖伯爵吉井勇、樺山資英の項

高島基江　三池窒素工業、東洋高壓工業各㊟常務取締役、三井鑛山㈱參事　福岡縣在籍

妻　サイ　明二三、一〇生、佐賀、士、伊丹彌太郎二女

男　節男　大四、五生

君は福岡縣士族高島智の二男にして明治十五年二月十八日を以て生れ同十三年分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に三井鑛山會社に入り大正十四年同社三池鑛業所次長在職中歐米各國視察の爲出張を命ぜられ同十五年歸朝同社總務部長に就任し本店參事たる外前記各會社の重役たり家族は尙長女アツ子（大一〇、一二生）ありA二一七二（東京市豊島區巣鴨六ノ一五三八電大塚一七七〇）

參照‖※伊丹彦次郎の項

高島彌三　正五位勳四等、檢査官、會計檢査院第三部第二課長、佐賀縣在籍

妻　マサ　明三四、三生、佐賀、士、高島九郎三女、縣立佐賀高女出身

男　彌彦　昭四、一二生

君は佐賀縣士族南里彌六の三男にして明治十七年十二月を以て生れ先代九郎の養子となり同二十七年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し會計檢査院に奉職書記副檢査官を經て檢査官に任じ現時同院第三部第二課長たり家族は尙長女美津子（大九、五生、實踐高女在學）二女志津子（同一三、三生）三女伊津子（同一五、二生）四女滿津子（昭八、一生）あり（東京市淀橋區上落合二ノ六一九電大塚三五四〇）

高洲謙一郎　正五位勳四等、醫學博士、高洲病院顧問、醫師、佐賀縣士族　明一〇、五生、佐賀、士、江副義郎長女

妻　スカ　明三九、三生

男　基　明四一、六生、二男基妻、佛國、ジャン・カモン長女

婦　カモン・マリー　明四四、六生、東京醫專在學

男　齊　大元、一一生、東京醫專在學

男　新洋　大三、三生、早大在學

君は佐賀縣士族高洲康純の長男にして同鐵一郎岡本達三の兄なり明治二年四月を以て生れ同三十三年家督を相續す同二十九年帝國大學醫學科大學を卒業し縣立鄭路病院副院長同大阪府立醫學校教諭兼同府立病院小兒科醫長大阪監獄醫務長府立大阪醫科大學教授同附屬醫院小兒科醫長等に歷任し後之を辭し高洲病院を經營現時同病院顧問たり曾て獨逸に出張し又大正三年歐洲に遊學す我邦小兒科の權威たり養に醫學博士の學位を受く書畫漢詩に趣味を有す長女節子（明三六、二生）は兵庫縣人肥爪廣吉四男醫學博士貫三郎に二女幸子（同四〇、九生、同志社女子醫專出身）は愛知縣人小島末次郎三男秋に三女令子（同四二、三生、出身校同上）は東京府人遠水滉長男建一に妹シゲ（同九、三生）は佐賀縣士族原田隆一に同アキ（同一七、五生）は同縣士族眞島大三郎に同サタ（同一九、七生）は大阪府人西田宗一に嫁し弟達三（同一四、一一生）は同縣士族島内タマに養子となり同榮次郎（同三、一二生）同妻チヨ（同一一、九生、佐賀、鳥内新吾二女）は其子女を伴ひ分家せりA二〇〇三（大阪市南區北桃谷町三五電東一一三一）

參照‖岡本達三、高洲鐵一郎の項

高洲清二　正四位勳三等、工學博士、發動機製造㈱社長、日本エーヤーブレーキ㈱相談役、東京府士族

妻　チサト　明一八、八生、山口、桑原實貫二女

男　紀雄　大二、五生、二男紀雄妻、岡山、藤波幸一妹

婦　春枝

男　政藏　明四〇、九生

女　靜子　大三、八生

泰子　大五、一二生

君は山口縣士族高洲正輔の長男にして明治六年六月十二日を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し日本鐵道會社に入る同三十九年帝國鐵道作業局雇となり帝國鐵道廳技師鐵

道院技師東部鐵道管理局工作課長等を經て大正七年工作局長心得に榮進し後官を退き現に發動機製造會社々長にして傍ら日本エーヤーブレーキ會社相談役たり家族は尙四男敬亮（大九、一生）五男友五郎（同一一、七生）あり長女菊子（明三五、一一生）は東京府人矢板豊一に二女栂子（同四三、九生）は新潟縣人遠藤吉四男博に嫁せりA七九六（東京市赤坂區青山南町五ノ四五電青山六八〇）

参照＝遠藤藤吉の項

高洲鐵一郎

妻　静　明一二、三生、大阪、士、工學博士、牧田環妹

男　九郎　明三九、一生

男　八郎　明四二、七生

君は佐賀縣士族高洲康純の三男岡本達三の兄にして明治七年六月十七日を以て生れ大正九年兄謙一郎方より分れて一家を創立す明治三十一年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役にして推されて札幌商工會議所顧問たり（北海道夕張郡鹿ノ谷九四九電六二〇）

参照＝岡本達三、高洲謙一郎、牧田環※市田太郎の項

高須健三郎

母　勢以　明二二、八生、東京、内田保次郎長女

妻　錦　明二二、八生、東京、士、小河錄郎姉

男　實　大七、七生

君は東京府人高須喜兵衛の三男にして明治十七年一月を以て生れ大正七年母勢以の後を承け家督を相續す資産家として知らるA二〇六四（東京市四谷區愛住町五四電四谷六五三）

高須鴻三

母　いか　安政六、一〇生、高須忠四郎二女

妻　ゆき　明二二、一生、茨城、阿久津正男妹

男　忠彦　明四三、八生

君は茨城縣人高須彦助の長男にして明治十四年十一月

資産家　東京府在籍

岩船村長、茨城鐵道㈱常務取締役　茨城縣在籍

を以て生れ昭和四年家督を相續す現時茨城鐵道會社常務取締役にして岩船村長たり傍ら同村農會長東茨城郡農會議員日本赤十字會社相談役たり家族は尙四男敬亮（大九、一生）五男友五郎（同一一、七生）四男唐彦（同七、一〇生）六男邦彦（同一三、六生）七男康彦（昭二、二生）八男秀彦（同四、一生）弟武次郎（明一六、一生、從五位勳四等陸軍歩兵中佐）同妻ゑい（同二二、一生、從五位勳四等池原熙二女）及其子女弟三男（同三八、五生）あり長女てる（同四〇、九生）は茨城縣人大西克夫に嫁せり（茨城縣東茨城郡岩船村電水戸八三二）

高杉儀平

母　モト　姉　明三二、四生、桑父儀平三女

妻　キミ　明八、一一生、新潟、光田仁平治女

女　キサ　大六、八生

君は福島縣人中村幸二の二男にして高杉石藏の桑郎なり明治二十三年十二月七日を以て生れ先代儀平の養子となり大正十年家督を相續し前名貢吉を改め製名す海産物商を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅二千九百二十八圓を納め縣下の多額納稅者に列す妻妹ネチ（明三六、四生）は東京府人中村龍吉に嫁せり（新潟市入船町電二三六）

高杉晋

妻　たき　明一〇、一〇生、東京、士、小河錄郎姉

男　茂　明三五、三生、三菱信託會社員、慶應義塾大學出身

男　榮　明三九、一〇生、大倉商事會社員、早大理工學部電氣科出身

君は岡山縣人高杉彦太夫の二男にして明治元年十月を以て生れ同三十年兄幸之助方より分れて一家を創立す夙に東都に遊學し專ら法制經濟學を修め同三十一年故後藤伯の知遇を得て品川馬車鐵道會社に入り其支配人となり大正十年家督を相續し直接國稅二千百二十八圓を納め縣下の多額納稅者に列す妻妹ネチ（明三六、四生）は東京府人中村龍吉に嫁せり（新潟市入船町電二三六）

大日本麦酒、帝國ホテル、神中鐵道各㈱取締役、東京府在籍

高瀬助三郎

妻　やへじ　明二二、二生、宮城、阪元不二男妹

男　禮二　大五、八生

君は山形縣人高瀬助松の三男にして明治九年八月を以て生れ大正十年甥助太郎方より分れて一家を創立す明治三十四年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格し司法官試補となり大正元年判事に任ぜられ盛岡地方同區鶴岡區仙臺地方兼同區大河原區各裁判所判事禎手區監督判事兼秋田地方同支部々長郡山裁判所判事等

（※印は姻族關係）

日本麦酒會社の設立を見るや拔擢されて營業部長となり商務課長を兼任す後專務取締役に擧げられ現時前記各會社重役たり長女須磨（明三二、三生、東京第三高女出身）は宮內省侍醫濟生會乳兒院長醫學博士小山武夫に二女綾子（同三三、六生、出身校同上）は文部書記官男爵山川建に三女登美子（同三六、一〇生、出身校同上）は警視廳警察病院小兒科部長東京帝大醫學部講師醫學博士田章吾に嫁せりA三二〇七（東京市澁谷區永住町四一電渋谷四五四一）

参照＝男爵山川建、小河錄郎の項

高杉新一郎

妻　セイ　明二二、九生、東京、齋藤有記二女

男　宏一　明四四、三生

君は岡山縣人高杉良太郎の五男にして明治十三年一月二十一日を以て生れ大正二年兄得八郎方より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し直に海軍に入り海軍中軍醫に任ぜられ爾來進して昭和八年海軍々醫中將に陞る其間陸奥軍醫長軍樞學校教官醫務局々員吳海軍病院長兼吳鎭守府軍醫長横須賀海軍病院長兼横須賀鎭守府軍醫長等に歷補し昭和七年現職に補せらる幾に大正九年佛國に駐在し又同十年ジュネーヴ開催第十回萬國赤十字會議委員として派遣されて同年醫學博士の學位を授與さるA一四一（東京市淀橋區西大久保一ノ五〇四）

従四位勳三等、醫學博士、海軍々醫中將、海軍々醫學校長　岡山縣在籍

高瀬武次郎

妻　カツ　明三五、一生、京都、士、鈴村榮一弟

養子　安貞　明三七、一一生、養子安貞妻、故士學博士比企忠三女

婦　信

君は香川縣人佐々木彌三八の四男にして明治元年十二月を以て生れ先代二郎の養子となり同四十四年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學漢文學科を卒業し大學院に入り陽明學を專攻し同三十八年文學博士の學位を受け京都帝國大學助教授に任じ同四十四年支那哲學研究の爲清英獨米各國に留學し歸朝後同大學教授に進む昭和四年宮中御講書始に漢書進講仰付けらる同年十二月官を辭し現時京都帝國大學名譽教授たり愷軒と號し著書に「支那哲學史」「陽明學新論」「老莊哲學」「揚雄哲學」「陸象山」等十餘種あり家族は尙孫隼彦（昭五、四生、養子安貞長男）同鞠子（同八、一生、同長女）あり妻從妹サダ（明二一、一〇生）は工學博士青木保に嫁せり（京都市上京區出雲路內川原町四三電西陣四一一）

従三位勳三等、文學博士、京都帝國大學名譽教授、京都府士族

高瀬富三郎

妻　ヤス　明一一、一〇生、高瀬貞正長女

男　順次　明三七、一二生、高瀬商店㈱常務取締役

婦　ミサオ　明四一、一二生、二男順次妻、扇島、降矢松五郎長女

男　義郎　大二、一〇生、東京商大在學

君は京都府人松岡逸の三男にして明治元年十一月十三日を以て生れ同三十一年先代ヤスの入夫となり家督を相續すネクタイ製造業を營み現に高瀬商店社長たり家族は尙五男鎭夫（大四、八生、東京外語在學）孫昭子（昭四、一〇生、二男順次長女）あり三男進三（明四〇、六生、高瀬商店大阪支店員、東京商大出身）は分家し長女敏子（同三三年生、實科高女出身）は阿部家に二女政子（同四二、七生、家政學院出身）は東京府人三井銀行員加藤爲吉に嫁せりA三七四（東京市淀橋區戸塚町三ノ三二九電牛込六〇一）「店舗」荒川區日暮里町三ノ七七二電下谷四三五四）

参照＝青木保※鈴木哲郎の項

高瀬寅昌

日本興業㈱專務取締役　東京府在籍

養子　七郎　明二八、三生、長女昌子夫、神奈川、對木左務郎弟

女　昌子　明三四、一〇生、養子七郎妻

君は岩手縣士族高瀬新八郎の三男にして慶應二年十一月を以て生れ大正二年兄農從の跡を承け家督を相續す大正六年法政大學を卒業し現に日本興行會社專務取締役たり家族は尙孫久子（大一一、一生、養子七郎長女）同隆昌（同一五、一生、同長男）ありA二六四（東京市下谷區中根岸町七二電根岸二五二）

高瀬行雄

母　トク　明二四、七生、神奈川、扇田新太郎四女

妻　東京府在籍　明二四、七生、養子昌子夫、神奈川、對木左務郎弟

君は東京府人高瀬政吉の長男にして大正六年九月十一日を以て生れ同十三年組父彌五郎の後を承け家督を相續す資産家たりA四三二（東京市淀橋區蓮沼町三六）

資産家　大阪府在籍

高瀬義次

君は大阪府人高瀬種次郎の二男にして明治四十二年四月十三日を以て生る家主たりA三八三八（大阪市北區澤上江町八ノ一五電東一五四）

高田石松

妻　そと　明二八、三生、石川、田島太三郎女

男　豊種　大五、一二生

君は石川縣人高田清三郎の四男にして明治二十四年二月を以て生れ大正四年兄市松方より分れて一家を創立す日本アルミニユーム製造所を經營しアルミニユーム製造業を營み家族は尙二男貞之助（大九、二生）長女登美子（昭三、一生）ありA二〇九六B五九四（大阪市浪速區惠美須町三ノ一五六電戎一三六八「工場」西淀川區野里町六一六ノ七電土佐堀二三九〇）

日東アルミニユーム製造所主　大阪府在籍

参照＝高田市松の項

高田市松

妻　とく　明四二、九生

女　勝治　明四四、九生

女　正美　大二、一〇生

君は石川縣人高田清三郎の長男同石松の兄にして明治十三年五月二十日を以て生れ同三十一年家督を相續すアルミニユーム鑄造業を營む家族は尙庶子利子（大一二、一〇生、生母、石川、中川利世）同保正（昭二、三生、生母同上）あり弟清吉（明二六、四生）は分家し同清八（同三一、一一生）同妻みよ（同三六、七生、石川、田島太三郎五女）も亦其三男一女を伴ひ分家せりA三四八五B七九六（大阪市西成區鶴見橋通一ノ二電鶴見五八二）

アルミニユーム鑄造業　大阪府在籍

参照＝高田石松の項

高田耘平

妻　さた　明三三、七生、長男一妻、栃木、平野篤夫二女

男　一　明二八、一一生、辯護士、法學士

婦　雪枝

君は栃木縣人高田啓三郎の長男にして明治六年十二月

従四位勳三等、衆議院議員（栃木縣選出）　栃木縣士族

（※印は姻族關係）

夕之部　高（洲、田）

に歷補し現時前記の官職に在り家族は尙二男義郎（大八、七生）三男德郎（昭二、一二生）あり（青森市青森區裁判所內）

参照＝阪元不二男の項

高瀬莊太郎

妻　冨美　明三九、二生、東京、下坂藤太郎四女、東京女大附屬高女出身

男　公一郎　昭四、一二生

君は明治二十五年三月九日を以て生る大正三年東京高等商業學校本科を經同五年同校專攻部銀行科を卒業し同六年同校教授に任ぜらる同七年米英佛獨に留學し同九年東京商科大學附屬商學專門部教授となり同十一年歸朝す同十二年同大學助教授に任ぜられ昭和二年教授に進み現時前記の官職に在り同八年商學博士の學位を受く著書に「グッドウヰルの研究」ありA六六〇（東京市杉並區井荻二ノ一五〇電井荻二四〇三）

正五位勳四等、商學博士、東京商科大學教授兼同大學附屬商學專門部教授、靜岡縣在籍

参照＝下坂藤太郎の項

高瀬壽夫

妻　ヒサ　明一一、一生、高瀬貞正長女

男　順次　明三七、一二生、高瀬商店㈱常務取締役

君は岩手縣人高瀬新八郎の三男にして明治元年十一月十三日を以て生れ大正二年兄農從の跡を承け家督を相續す資産家として知らるA二〇六四（東京市四谷區愛住町五四電四谷六五三）

高須鴻三

母　いか　安政六、一〇生、高須忠四郎二女

妻　ゆき　明二二、一生、茨城、阿久津正男妹

男　忠彦　明四三、八生

君は茨城縣人高須彦助の長男にして明治十四年十一月

岩船村長、茨城鐵道㈱常務取締役　茨城縣在籍

一日を以て生れ同三十五年先代和父文四郎の後を承け家督を相續す夙に郡會議員縣會議員縣參事會員に擧げられ大正四年以來衆議院議員に當選すること七回にして立憲民政黨に屬し現に同黨栃木縣支部長たり蠶に農林參與官同政務次官に擧げられ滿洲及支那を視察す又議會に於ける農政家として知られ現に農林省米穀部顧問米穀統制調査會委員馬政調査會委員たり家族は尙孫文四郎(大一四、七生、長男)長男正光(明一二、一〇生、青森、士、高倉盛光七男)あり養子セ(同三八、二生、栃木、高田重次郎二女)は栃木縣人荒井健四郎に妹マキ(同一一、二生)は同縣人高久邁に同タネ(同二〇、七生)は同縣人星準藏二男產藏に嫁し弟稻造(同一六、一一生)は分家せり(栃木縣那須郡荒川村)

高田榮治郎

田村駒商店㊞專務取締役、納完染工場、太陽レーヨン各㊞取締役
大阪府在籍

妻　八重　明三〇、一〇生、大阪、代田種藏三女
朝子　大六、一〇生
女

君は京都府人高田恒治郎の弟にして明治二十一年四月八日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す現時株式會社田村駒商店專務取締役にして傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二女泰子(大九、七生)三女裕子(同一三、三生)四女禎子(昭二、九生)ありA一二四六(兵庫縣武庫郡本庄村電青屋三二八三)

高田悅三

高田悅三商店、東京株式取引所取引員、東京府在籍
妻　たけ　明二四、一生、東京、相澤英吉養妹
男　增太郎　大二、四生

君は東京府人高田滿之助の弟にして明治十八年四月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す同三年より高田悅三商店と稱し現に東京株式取引所一般短期實物取引員たり家族は尙二男敏夫(大六、四生)ありA一六四八B五六八(東京市日本橋區坂本町一八電淺花四三一店舗日本橋區兜町一ノ一三電茅場町五〇六)

高田嘉介

養產家
兵庫縣在籍
妻　マスコ　明三一、一生、廣島、三鼓久次郎長女
男　昌保　大一一、七生
女　貞子　大六、九生

君は兵庫縣人山本乙藏の長男にして明治十八年八月二十日を以て生れ同四十二年先代嘉介の養子となり同四十四年家督を繼ぐと共に前名惣次郎を改め襲名す資產家たり家族は尙四女俊子(大一、三六生)五女幸子(同一五、一〇生)三男實(昭三、一生)あり弟嘉男(明四三、七生)は分家せりA七七四(神戸市須磨區山下町一ノ四五電須磨一〇九五)

高田勘治郎

高田屋乾店、酒類商
兵庫縣在籍
妻　りく　明一一、六生、生田只藏二女
男　一　明二七、三生

君は兵庫縣人濱田喜三左衛門の三男にして明治八年一月十八日を以て生れ後高田家に入り同三十八年養兄三郎方より分れて一家を創立す高田屋乾店と稱し酒類商を營む家族は尙孫英之輔(大一一、二生、養子爲一長男)同續二(昭二、八生、同二男)あり二女秋子(明三四、一〇生)は兵庫縣人川鍋藤三郎に四女貞子(大二、六生)は大阪府人西山卯之助男卯二郎に嫁せりA七二六B一五九(神戸市中山手通一ノ一八五ノ一電甚合四四八五)

參照‖高田爲一の項

高田義一郎

醫學博士、仁壽生命保險㈱醫務課長囑託、著述業、東京府在籍
妻　嘉代　明三八、一二生、長野、飯田實治妹
男　天　大五、八生

君は滋賀縣人高田傳助の長男にして明治十九年六月を以て生れ先代茂是の養子となり同三十六年家督を相續す大正元年京都帝國大學醫科大學を卒業し同十二年醫學博士の學位を授けらる著述家にして「閾性癌」其他主要著書多し現時仁壽生命保險㈱に勤務し家族は尙二男及び三男且(大一一、一生)あり(東京府北多摩郡國立大學都市西三條通電國立五一)

高田久右衛門

伊藤萬商店㊞監査役
大阪府在籍
母　ミツ　嘉永六、一生、大阪、原嘉助三女
妻　ます　明一九、三生、大阪、伊藤万助長女
男　久三郎　明四〇、八生、法學士
嫁　フク　大二、一〇生、長男久三郎妻、京都、細井恒次郎四女
男　祐　明四四、九生、北大農學部在學
男　英　大三、九生
女　睦子　大六、三生、清水谷高女在學

君は大阪府人高田久太郎の長男にして明治九年十一月二日を以て生れ同二十五年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時伊藤萬商店の監査役たり長唄を好み書畫骨董に趣味を有す長女配子(明四二、一〇生、清水谷高女出身)は大阪府人原嘉一郎の養子となりA一〇三九八(大阪市東區道修町一ノ一五電本局一二三四)

參照‖伊藤萬助※伊藤藤治郎　伊藤豊四郎※伊藤萬治郎※伊藤良三の項

高田清

正五位勳六等、鐵道技師、工務局改良課兼計畫課勤務、新潟縣士族
養父　元治郎　明三一、五生、佐賀、士、宮崎代元治郎
妻　喜美　大一〇、一生
男　忠一

君は東京府人高田爲之進の二男にして現戶主貞彌の從弟に當る明治二十三年九月四日を以て生れ同四十三年高田元治郎の養子となる大正五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道院雇となり爾來同技手同技師鐵道局技師門司東京各鐵道局勤務鐵道技師工務局勤務等を經て大正十五年再び鐵道局技師に任ぜられ東京鐵道局土野保線事務所長仙臺鐵道局改良課長札幌鐵道局改良課長を經て昭和六年工務局改良課兼計畫課勤務となり今日に至る大正十三年在外研究員として英米各國に滯在す家族は尙長女愛子(大一一、八生)二男誠二(昭三、三生)二女治子(同七、六生)ありA一〇六(東京市荏原區中延町九七五電荏原三七八六)

高田景

從四位勳四等、京都市土木局長、區劃整理課長事務取扱
石川縣在籍
妻　しと　明二四、一生、兵庫、河野美雄妹
男　誠之　大九、三生
女　嘉子　大元、九生

女　和子　大三、七生

君は京都府人山岡景命の三男にして明治十四年六月を以て生れ先代井の養子となり同三十二年家督を相續し前名景三を改む同四十年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し京都府工部同技師神奈川縣技師等を經て復興局技師に任じ横濱出張所長たりしが昭和三年之を辭し京都市に入り現時土木局長にして區劃整理課長事務取扱たり家族は尙三女正子(大一一、五生)ありA五〇一(京都市上京區小山上總町七電西陣二六〇〇)

高田鍵次郎

八百鍵、青物商
愛知縣在籍
養子　富次郎　明一七、四生、長女ぢやう夫、愛知、布垣藤次郎弟
女　ぢやう　明二〇、一〇生、養子富次郎妻
養子　藤二郎　明三四、九生、二女しげ夫、愛知神邊藤太郎二男
女　しげ　明三〇、二生、養子藤二郎妻
孫　鈴子　明四四、四生、養子富次郎長女
孫　千代　明四五、七生、養子富次郎二女
孫　よし　大六、五生、養子富次郎四女

君は愛知縣人高田辰次郎の弟にして慶應元年十月十五日を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す八百鍵と稱し青物商を營む家族は尙孫富三(大八、一一生、養子富次郎二男)同敏雄(同一三、一二生、同四男)同鍵三(昭六、七生、同五男)同勉(大一〇、八生、養子藤二郎繼子)同鎌子(同一四、六生、同長女)同美代子(昭六、八生、同二女)ありA五三三B一四七(名古屋市中區住吉町一ノ二五電中一四六八)

高田源四郎

貝塚銀行㊞常務取締役
大阪府在籍
母　ます　嘉永四、六生、大阪、相野惣兵衛二女
妻　志尾　明元、一二生、大阪、畠上又一姉
男　源一郎　明二七、二生、大阪、源一郎妻、大阪、八木林作姪
嫁　敦子　明三三、七生、長男源一郎妻

君は大阪府人先代源四郎の長男にして明治三年六月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名德太郎を改め襲名す現時貝塚銀行常務取締役たり家族は尙孫治(大一四、三生、長男源一郎長男)同和(昭四、五生、同二女)同久(同七、一生、同三女)ありと長女とし(同三三、一生)は大阪府人河盛茂兵衛長男鐵造に二女とよ(同三五、三生)は同府人栗山善兵衛に妹のぶ(同二八、三生、泉南高女出身)は同府人松井末次郎に嫁し弟源治郎(同一一、五生)は同府人野吉壽郎に同源十郎(同二〇、一二生)は同府人岡田伊平に各養子となり同和一郎(同五、八生)は分家せり(大阪府泉南郡貝塚町電二一九)

參照‖岡田伊平、栗山善兵衛の項

高田畊安

醫學博士、東洋內科醫院、南湖院各院長、京都府在籍
妻　テル　明三、一一生、東京、士、疋田正善長女、故勝海舟孫
男　安正　明二六、三生、東京農大出身
男　正仲　明三〇、一生、長男安正妻、東京戶川潑男妹
嫁　眞善　明三五、五生、慈惠醫大出身
男　善　明三八、二生、慈惠醫大出身
男　美正　明四九、一二生、北里養生園勤務慈惠醫大出身

君は京都府士族增山守正の二男にして文久元年八月十九日を以て生れ後實母竹子の生家を相續す父守正は丹後國舞鶴の醫師にして元綾部藩の典醫を勤め丹藩と號す君亦祖業を繼ぎ明治二十三年帝國大學醫科大學を卒業し東洋內科醫院及南湖院を開き呼吸器科專門の大家として名あり大正五年醫學博士の學位を授けらる家族は尙孫三太(大一二、三生、長男安正長男)同花子(同一三、一二生、同長女)同十治(同一五、一〇生、同二男)同華三(昭四、八生、同三男)あり二男軍正(明二八、六生、醫學博士、東京內科醫院、南湖院各院長)同妻ヒロ(同三一、四生、東京、士、小崎弘道四女)は其子女を伴ひ分家し三男守道(同三〇、九生、醫學士)も亦分家せりA五八八五(東京市麴町區九段四ノ一五ノ一二電九段六三)

參照‖小崎弘道、戶川潑男の項

高田權二郎

鷄卵商
京都府在籍
妻　ハナ　明六、四生、京都、岩崎道太郎長女
養子　直孝　明三一、九生、長女あさ夫、京都渡邊庄太郎三男
女　あさ　明三六、四生、養子直孝妻

君は京都府人高田權四郎の二男にして明治十二年三月十五日を以て生れ後分れて一家を創立す鷄卵商を營む家族は尙孫孝子(大一三、三生、養子直孝長女)同權四郎(同一五、九生、同長男)同朝朗(昭三、九生、同二男)同節夫(同七、七生、同三男)同禮治郎(同九、四生、同四男)あり二女イソヱ(明三八、四生)三女品子(同三九、一一生)は各分家せりA三五七B一七九(京都市下京區千本通七條下ル電下四二二五)

高田早苗

正四位勳一等、法學博士、貴族院議員、帝國學士院會員
東京府在籍
妻　ふじ　明二、三生、男爵前島彌姉
孫　清雄　大一〇、九生、亡養子勇雄長男
養子　珠子　明四三、一生、東京、中沼清藏三女

君は東京府人高田貞平の三男にして萬延元年三月を以て生れ後家督を相續す夙に共立學校に英學を學び明治九年大學豫備門に入り同十五年東京大學文學部を卒業す同年故大隈侯の東京專門學校を創設するや入りて其教鞭を執り爾來同校の發展に努力し學長として多年在職す早稻田大學の今日ある君の力與つて大なり同二十三年國會開設の際埼玉縣より推されて衆議院議員となり爾後當選する事六回に及ぶ同三十年外務省通商局長に任ぜられ尋で文部省參與官となり高等學務局長を兼ぬ同三十四年法學博士の學位を受け大正三年學事觀察の爲歐米に渡航す同四年大隈內閣に入りて文部大臣に親任し同年貴族院議員に勅選せらる現時帝國學士院會員にして久しく早稻田大學總長の要職に在りき嘗に日獨事件の功に依り勳一等に叙し瑞寶章を賜ふ亡養子勇雄妻きぬ(勝又佐一妹)は其一女を伴ひ分家し養子たつ子(同三九、四生、工學博士市瀨恭次郎三女)は故早稻田大學教授二木保幾に同圭子(同四一、五生、東京、中沼清藏二女)は神奈川縣人清水勵吾長男一に嫁せりA九一〇(東京市豐島區駒込一ノ二八電大塚五二六〇)

參照‖男爵前島彌の項

高田定秀

愛知縣多額納稅者、名古屋株式取引所取引員、愛知縣在籍
母　よしの　安政二、四生、高田甚助二女

妻　せつ　明一四、一二生、愛知、駒田九左衛門長女
男　皆義　明三二、四生
嬶　いつを　明四〇、五生、長男皆義妻、岐阜渡邊新次郎長女
女　定子　明四五、一生
女　豊子　大六、一生、生母、愛知、花村たま
庶子　豊子

君は愛知縣人高田定右衛門の長男にして明治八年五月二日を以て生れ大正十一年母よしのの後を承け家督を相續す名古屋株式取引所短期取引員にして縣下の多額納稅者に列す現時推されて名株組合副委員長たり家族は尚孫一(昭二、一一生、長男皆義長男)同美奈子(同四、二生、同長女)同二郎(同六、一二生、同二男)あり二男富皆(明三四、四生)三男早苗(同四〇、四生)は各分家せりA四五五四B九九九(名古屋市中區南伊勢町一ノ八電中二七六)

高田貞男

正五位勳五等、判事、大審院判事東京府在籍
妻　文子　明二七、八生、愛知、森壬五郎長女、府立第三高女出身
男　寛治　大一三、五生
女　登代子　大六、二生、府立第三高女高等科在學
女　志津子　大八、九生、淑徳高女在學

君は東京府人高田泰藏の長男にして明治十九年十二月を以て生れ同四十年母とみの後を承け家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に司法官試補となり判事に任ぜらる爾來大阪地方裁同區裁判所判事大阪地方裁判所部長大阪東京各控訴院判事東京地方裁判所部長等に歷補し昭和四年東京控訴院部長に補し現時大審院判事たり家族は尚三女房子(大一〇、三生、實踐高女在學)四女加壽子(明三、一生)あり母とみ(慶應元、一一生、東京、高田久三郎長女)は東京府人重藤悦造に姉よしを(明一五、五生)は青森縣士族加賀秀雄に嫁せり(東京市四谷區坂町五)
參照‖加賀秀雄の項

高田三郎

兵庫縣多額納稅者、本高田商店、酒造業、兵庫縣在籍
妻　きし　明九、一生、兵庫、高田多三郎長女
男　四郎　明三九、四生
養子　善次郎　明二四、一二生、二女清子夫、兵庫、大原吉太郎弟
女　清子　明三〇、一〇生、養子善次郎妻
男　律郎　明四二、一〇生
節子　明四四、四生
女　喜美子　大三、一生

君は兵庫縣人高田梅吉の長男にして明治三年二月六日を以て生れ後前名德三郎を改め同三十七年家督を相續す本高田商店と稱し酒造業を營み銘酒金盃の醸造元に して縣下多額納稅者に列す曩に神戸實業銀行頭取三十八銀行取締役に就任し神戸市會議員神戸商工會義所議員等に擧げらる家族に尚孫惠美子(大九、三生、養子善次郎長女)同須美子(同一〇、八生、同二女)同裕子(同一三、一生、同三女)同嘉子(同一四、九生、同四女)同一(昭二、二生、同二男)あり繼母りせ(天保一三、四生、兵庫、豊岡藤藏叔母)は分家せりA一四四〇二B一四六七(神戸市葺合區御幸通七ノ七ノ一電葺合二四四〇)

高田茂

母　テル
君は京都府人先代茂の長男同義男の養嗣なり明治四十年四月を以て生れ大正七年家督相續と共に前名紳治を改め襲名す夙に立教大學を卒業し高田茂裝東店取締役にして裝東織物商を營み京都府立第一高女出身)同信子(同四四、八生、同志社高女出身)ありA四九五(東京市麹町區中六番町二九電九段二〇二六・二〇二七)
參照‖高田義男の項

高田茂裝東店(亟)取締役、裝東織物商、京都府在籍
妻　あくり　明三三、一生、京都、長村太七長女
男　小四郎　大一一、三生

君は東京府人高田龜次郎の長男にして明治二十一年月十八日を以て生れ昭和八年家督を相續す地主にして現に荒川區會副議長たり家族は尚二女茂子(昭四、四生)二男信次郎(同六、二生)三男健吉(同八、二生)妹てい(明四〇、一生)弟國藏(同四二、八生)ありA三四四(東京市荒川區千住町一〇八〇)

高田信吉

東京市荒川區會副議長、地主東京府在籍
妻　富貴子　明三三、九生、埼玉、澁谷傳太郎長女
男　方彦　昭二、七生

君は岡山縣士族高田源次郎の長男にして明治二十一年七月を以て生る夙に關西商工學校を卒業し住友銀行に

高田眞治

正五位勳六等、東京帝國大學助教授、文學部勤務、大分縣在籍
妻　ユキ　明三五、三生、新潟、皆川正藤長女
男　淳　大一四、五生

君は大分縣人高田豊市の三男にして明治二十六年八月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す同六年東京帝國大學文科大學を卒業し水戸高等學校教授京城帝國大學助教授兼同大學豫科教授を經て昭和三年東京帝國大學助教授に任ぜらる同年獨米支各國に留學し同五年歸朝す家族は尚長女千波(大一二、八生)二女ミツ(昭二、三生)あり(東京市杉並區大宮前六ノ三五七)

高田新一郎

金融業兵庫縣在籍
父　元吉　明七、一〇生、現戸主
母　たね　明一〇、三生、大阪、中井福之助三女
妻　小ふじ　明三五、九生、兵庫、齋藤喜藏二女
男　喜章　昭二、三生

君は東京府人高田元吉の長男にして明治二十八年三月七日を以て生る金融業を營む家族は尚三男元盛(昭九、二生、弟和男(大八、一生)あり弟謙次(明四三、三生)叔父福藏(同二〇、一二生)は各分家せり(西宮市濱町一一〇電一〇七六)
參照‖高田謙次の項

高田慎一

住友銀行(亟)牛込支店長岡山縣士族
父　源次郎　慶應三、三生、現戸主
母　恒　明四、八生、岡山、士、佐々十代男養叔母
妻　富貴子　明三〇、一一生、東京、酒井政助長女
男　方彦　昭二、七生

君は岡山縣士族高田源次郎の長男にして明治二十一年

入り本所支店長を經て現時同行牛込支店長たり家族は尚長女禎子(大一〇、六生)あり弟猛男(明二四、一〇生)同妻コウ(同二五、二生、廣島、速見十九槌妹)は其二子を伴ひ分家し弟信一(同二八、五生)同牛三郎(同三九、一一生)も亦各分家し妹ふみ(同三二、八生)は岡山縣人安田數太に同正江(同三七、一生)は同縣人原田充に嫁せりA一一六(東京市牛込區南榎町一五電牛込一八二九)

高田末次郎

模紙商大阪府在籍
妻　みき　明二五、一生、大阪、井上繁太郎五女
男　吉次郎　昭四、一〇生

君は大阪府人高田佐兵衛の長男にして明治十九年一月三十日を以て生れ大正十三年母ナカの後を承け家督を相續す模紙商を營む家族は尚三女秀子(大一二、五生)四女芳子(同一四、四生)ありA一六五二B七一(大阪市西區靱南通一ノ二三電土佐堀一九三〇)

高田仙次郎

高田屋、質商大阪府在籍
妻　千代　明二九、四生、奈良、森田米三郎二女
養子　種雄　大一三、一二生、大阪、辻田竹治郎甥

君は大阪府人高田重五郎の三男にして明治十九年三月二十九日を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す高田屋と稱し質商を營む家族は尚長女敏子(昭四、三生)ありA九〇二B三一五(大阪市北區野田町五八電東八七)

高田善九郎

家主愛知縣在籍
妻　しづ　明三二、九生、愛知、高羽房次郎三女
男　善夫　大九、九生
女　和子　大七、一〇生

君は愛知縣人高田善之助の二男にして明治二十五年六月二十四日を以て生れ大正九年家督を相續す家主たり家族は尚二男緣(大一二、一二生)弟稔(明三三、一〇生)同章(同三五、九生)あり(名古屋市中區西日置町中田一五電西六三)

高田善次郎

川崎第百銀行(亟)青山支店長埼玉縣在籍
妻　美知　明三一、一一生、埼玉、白石松之輔二女
女　幸子　大三、一生、府立第三高女出身
女　珠子　大六、一生、實踐高女出身、府立第三高女高等科在學

君は埼玉縣士族高田善敎の二男にして明治十六年一月十六日を以て生れ同二十一年先代游哉の死跡を相續す同四十一年東京高等商業學校を卒業し川崎銀行に入り營業部長代理となり次で川崎第百銀行日本橋支店長代理を經て現時同行青山支店長たり家族は尚母四女錦子(大一三、八生)あり(東京市麻布區北日ケ窪町三七)

高田太一

正五位勳四等、富山縣在籍人口課長、富山縣在籍
母　めつる　元治元、六生、富山、開田助七郎二女
妻　つよ　明二八、一一生、富山、開田助七郎三女、富山縣立高岡高女出身
男　壽史　大八、九生

君は富山縣人高田太郎助の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格直に大藏省に入り稅務監督局屬兼大藏屬大藏省臨時調査局屬となり次で副司稅官和歌山稅務署長司稅官横須賀稅務署長を歷任し更に內閣に轉じて國勢院書記官第一部國際統計課長となり大正十三年內閣統計局書記官に任じ庶務課長を經て現時內閣統計局人口課長たり又中央統計委員會農業調査委員會各幹事資源局事務官たり家族は尚三男健史(大一五、一生)長女恭子(昭三、一生)四男康史(同六、一生)ありA一八四(東京市牛込區矢來町九六電牛込五九七〇)

高田他家雄

醫學博士、明治生命保險(亟)醫務長東京府在籍
妻　京　明三二、一〇生、岐阜、神田禮治養子
男　雄治　大四、一〇生

君は東京府人高田波門の三男にして明治十五年四月二日を以て生れ同四十三年兄壽方より分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學醫科大學を卒業し現時明治生命保險會社醫務長たり曩に醫學博士の學位を授けらる家族は尚二男敏雄(大六、九生)長女治子(同一四、七生)ありA四〇四(東京市澁谷區代々木山谷町一五九電四谷三六六八)
參照‖神田禮治の項

高田辰次

勳七等、高田(名)代表社員、金物商大阪府在籍
養母　ヒサ　安政六、一一生、大阪、吉川源助妹
妻　フサ　明二一、一一生、大阪、高田菊松三女
男　廣太郎　大二、四生、高松高商在學

君は兵庫縣人福本太兵衛門の弟にして明治十四年四月を以て生れ先代廣吉の養子となり大正十年家督を相續す金物商を營み高田合名會社代表社員たり(大阪市西區阿波座中通二ノ三〇電新町一〇〇五)

高田爲一

家主兵庫縣在籍
養父　勘治郎　明八、一生、現戸主
妻　靜榮　明三一、一二生、養父勘治郎長女
男　英之輔　大一一、二生

君は兵庫縣人森田槌松の長男にして明治二十七年三月一日を以て生れ大正十年高田勘治郎の養子となる家主たり家族は尚二男賢二(昭二二、八生)ありA五四六(神戸市神戸區中山手通一ノ一八五ノ一)
參照‖高田勘治郎の項

高田鎚次

金融業兵庫縣在籍
君は兵庫縣人高田元吉の三男にして同新一の弟なり明治四十三年三月二十一日を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す金融業を營むA三六〇(西宮市濱町一一〇)
參照‖高田新一の項

高田哲三郎

家主大阪府在籍
養母　トミ　明六、一生、大阪、石橋孫一姉
男　邦夫　明四三、四生
男　茂夫　大二、九生
女　敏子　大四、八生
女　弘子　大七、二生

君は兵庫縣人上原利八の三男にして明治十四年八月十七日を以て生れ先代トミの養子となり大正二年家督を相續す家主たり家族は尙三女和子(大九、八生)あり(大阪市西區立賣堀北通六ノ七五電新町八四)

參照‖石橋孫一の項

高田德佐

妻　キワ　正六位、東京府立第一中學校教諭東京府在籍

男　一德　明二〇、一〇生、石川、坂本平兵衛二女、金澤第一高女出身

女　德江　大六、一〇生、府立高等學校在學

女　稜威子　大四、九生、府立第三高女出身、津田英學塾在學

大八、一一生、府立東京家政女學校在學

君は石川縣人高田仕右衛門の五男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同三十八年東京高等師範學校物理化學科を卒業し現時東京府立第一中學校教諭たり教育に關する多數の著書あり又謠曲に趣味を有す家族は尙六女裕子(大一〇、一一生)七女八千代(同一四、一生)二男樹德(同一五、一生)三男德溥(昭三、七生)あり三女美千代(大二、一生、東京女子英學塾出身)は東京府人生沼正義に嫁せりA二〇〇(東京市世田谷區北澤三ノ八八五)

高田壽譽

家主　兵庫縣在籍

妾　ま　慶應元、二生、大阪、山內萬助長女

養子　八郎　明三七、三生、兵庫、南榮太郎弟

婦　正枝　大二、一生、養子八郎妾、兵庫、龍田降曉長女

君は兵庫縣人高田與士郎の二男にして安政五年九月二十八日を以て生れ明治十八年分れて一家を創立す同四十四年其名久吉を壽譽と改む家主たりA一一七〇(神戸市神戸區中山手通七ノ四〇ノ一六電元町二三四六)

高田友吉

妻　ツヤ　大連商工會議所會頭、滿和商會社長、大連機械製作所社長、滿洲水產、中央ホテル各株取締役、滿洲銀行、大連工業各株取締役、日滿實業會常務理事

福岡縣在籍

明二〇、一〇生、廣島、關本勇次郎長女

男　庄次郎　大七、七生

明四三、三生、廣島、吉野熊吉四男

養子　勇太郎

女　マス子　大二、四生

女　ムメ子　大四、二生

女　タカ　大五、一〇生

君は福井縣人高田庄助の三男にして明治十三年二月を以て生れ同四十四年兄庄助方より分れて一家を創立す現時遞和商會社長の外同記銀行會社の重役を兼ね推されて大連商工會議所議員にして日滿實業協會常務理事たり家族は尙四女キク(大一〇、八生)五女マサ(同一二、八生)二男三郎(同一五、六生)六女セツ(昭三、六生)あり(大連市薩摩町一一三電六八一三)

高田友助

妻　松　正五位勳二等功五級、陸軍少將、近衛歩兵第一旅團長、福岡縣在籍

男　弘　明二三、一二生、德島、山本悌三郎長女

女　千穗子　大八、一一生

君は福岡縣人高田彌右衛門の四男にして明治十五年八月十日を以て生れ昭和六年兄磯太郎方より分れて一家を創立す明治三十六年陸軍少尉に任じ昭和六年陸軍少將に累進す其間陸軍省人事局員京都聯隊區司令部々員同司令官歩兵第二十聯隊長陸軍省人事局恩賞課長歩兵第二十九旅團長等に歷補し昭和九年三月前記現職に補せらる家族は尙三女美穗子(大一二、五生)あり(東京市澁谷區永住町四六)

高田知一郎

妻　なみ　京城日報社主筆編輯局長

男　憲政　大二、三生、慶大在學

妹　ふみ　兵庫縣士族

明一八、八生、京都、玉置榮次郎長女

君は兵庫縣士族高田秀吉の長男にして明治十三年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し報知新聞社に入り累進して取締役兼編輯局長たりしが現時京城日報主筆兼編輯局長たり嚢に關西中央新聞社編輯顧問たりし事あり家族は尙三男改造(大九、二生、弟克明(養子)四男幸雄(同一一、二生)三女きた子(昭二、七生)弟克明(明一六、一生)同妻たか(同二〇、七生、大阪、士、富本林三郎二女)あり長女秀子(同四二、二生)は栃木縣人渡邊宗一に嫁せり(京城府光化門通光化門ホテル內)

參照‖玉置榮次郎の項

高田豐樹

正四位勳二等功五級、陸軍中將東京府士族

妻　明子　明一五、五生、東京、中澤文治長女

男　豐成　明三八、一一生、東京電氣會社員工學士

男　豐德　明四四、九生、長男豐成妻、京都府立第一高女出身

婦　登美子　明四二、三生、日本窒素火藥會社員、慶大經濟學部出身

男　豐三　大三、一二生、明治藥專在學

君は東京府士族高田嘉平の三男にして明治八年七月を以て生れ大正三年先代兄種郷の後を承け家督を相續す明治二十九年陸軍士官學校を卒業翌年陸軍少尉に任じ同三十六年陸軍大學校を卒業大正十五年陸軍中將に陞進す其間朝鮮軍參謀第四師團參謀參謀本部々員陸軍大學校教官支那駐屯軍司令部附第十一師團參謀歩兵第六十六聯隊長青島守備軍陸軍本部課長青島守備歩兵隊司令官歩兵第三十二旅團長第九師團司令部附支那駐屯軍司令官參謀本部附等に歷補し又大正十一年歐米各國視察を命ぜられ昭和二年豫備役に編入さる日露戰役に近衛歩兵第三中隊長として出征す家族は尙四男芳雄(大五、九生)五男豐嘉(同七、八生)あり長女豐美子(明四五、六生、府立第三高女出身)は理學士藤田文太郎に嫁せり(東京市澁谷區大山町一一電青山六三三〇)

參照‖※松澤卓規の項

高田虎之助

トタン板商

大阪府在籍

母　きん　安政四、一二生、大阪、志水萬七長女

妻　ふく　明一四、五生、大阪、笹川萬次郎二女

男　新太郎　明三三、二生

婦　タマ　明三八、九生、長男新太郎妻、大阪、河合治兵衛二女

女　壽子　明四〇、六生

君は大阪府人先代虎之助の長男にして明治十二年十二月二十八日を以て生れ同四十一年家督相續と共に前名與吉を改め襲名すトタン板商を營む家族は尙五男誠造(大六、八生)孫耕造(昭二、二生、長男新太郎長男)同良造(同六、六生、同二男)あり二男祥治郎(明四四、六生)弟建三郎(同一六、一〇生)妹スヱ(同二〇、一〇生)は各分家せりA六五九(大阪市住吉區田邊東町五ノ三三電長崎船場四三八七)

參照‖※長澤芳太郎の項

高田直屹

妻　ヒデ　北海水力電氣、雨龍電力各株取締役、南樺鐵道株監査役

男　秀實　明三二、五生、王子製紙會社員、工學士

婦　千嘉子　明四〇、一〇生、長男秀實妻、岡本英太郎長女

男　直道　明四二、一二生、三井鑛山會社員東京工大出身

君は舊福岡藩士高田俊雄の二男にして明治三年十一月を以て生れ同三十九年兄正甚方より分れて一家を創立す同二十六年東京高等工業學校機械科を卒業し直に王子製紙會社に入り同三十一年英米各國に留學す同三十五年歸朝し同社工務課長となり北海道に着目し苫小牧工場開設に盡瘁す同三十九年再度歐米に出張歸朝後苫小牧工場長に擧げられ同四十五年三度歐米各國を視察す大正二年樺太最初の紙料工業たる三井紙料工場の企畫を完成し同三年王子製紙會社常務取締役に擧げられ次で同社專務取締役たりしも後之を辭し現時北海水力電氣會社の外前記各會社の重役たり嚢に大日本工業學會を興して全國民的工業知識の普及に努め又母校東京高等工業學校講師を囑託せらる家族は尙孫淳士(大一二、八生、長女富士長女)あり長女富士(明三六、九生、東京高女出身)は新潟縣士族陸軍歩兵大佐歩兵第一聯隊長本間雅晴に二女雪子(同三八、一二生、出身校同上)は陸軍大將尾野實信長男信太郎に嫁せりA六五八八(東京市小石川區丸山町六電大塚六九八)

參照‖尾野實信、岡本英太郎の項

高田昇

妻　キミ　從五位勳六等、醫學博士、朝鮮道立醫院醫官、咸鏡南道立咸興醫院長、石川縣士族

男　全　明三一、一生、富山、高松宗作長女、富山高女出身

大一二、四生

君は石川縣士族池田謙昇の四男にして明治二十五年十一月二十七日を以て生れ先代甲三二の養子となり大正十四年家督を相續す大正六年東京帝國大學醫科を卒業し副手囑託となり財團法人泉橋慈善病院に勤務同九年朝鮮仁川府立仁川病院副院長に轉ず同十年朝鮮總督府道慈惠醫院醫官に任じ全羅北道全州慈惠醫院長道立醫院醫官大邱醫院勤務を經て昭和二年歐米各國に出張を命ぜられ現時前記の職に在り家族は尙長女順子(大九年生)二女道子(同一〇年生)の外一女あり(朝鮮咸鏡南道立咸興醫院內)

高田兵次郎

妻　トミ　不二興業株監査役

熊本縣士族

明一三、一〇生、姜父義丸長女

君は京都府人稻田定七の長男にして明治十三年八月を以て生れ先代義丸の養子となり大正十三年家督を相續す現時不二興業會社監査役にして嚢に肥後運輸會社取締役社長たり家族は尙長女朝惠(大九、二生)養弟逸喜(明二五、九生、熊本、小濱博志弟、横濱正金銀行員)商學士)同妻ムメ(同三五、一生、熊本、糸永祐順三女)及其子女ありA四三一B五二(熊本市中唐人町電四三)

高田松次郎

資產家　愛知縣在籍

妻　すき　明一九、一生、愛知、田中幸七二女

男　英一　明四一、一〇生

女　しすえ　明三六、一二生

女　光子　明四三、九生

女　君子　大三、八生

君は愛知縣人高田治兵衛の三男にして明治十二年一月十日を以て生れ同三十六年家督を相續す土地の名望家にして資產家たり家族は尙二男豐(大五、八生)あり妹かき(明一九、一生)は愛知縣人犬飼吉四郎長男常次郎に嫁せりA六一八(名古屋市中區西日置町中田一〇電西三七八〇)

高田松太郎

麻糸商

大阪府在籍

妻　きめ　明四、一生、滋賀、宮村少助二女

男　三郎　明三三、一一生

婦　ミネヲ　明三三、一〇生、長野、中村不折三女

男　武四郎　明三八、九生

女　富美子　明四一、一〇生

君は兵庫縣人高田直次の次男にして慶應三年八月二十四日を以て生れ明治三十年分れて一家を創立す麻糸商を營む長女ふさ(明三〇、七生)は東京府人菊地鈴太郎に嫁せりA六九六B二三七(大阪市西區阿波座上通一ノ五五電新町八一八)

參照‖菊地鈴太郎、中村不折の項

高田松美

熊本縣多額納稅者、雜貨商

熊本縣在籍

父　磯次郎　明元、二生、現戶主

妻　キリエ　明三三、八生、福岡、平田延次郎四女

男　健一　大一四、二生

君は熊本縣人高田磯次郎の長男にして明治二十七年一月二十八日を以て生る雜貨商を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尙長女富美子(昭二、二生)二男健二郎(同四四、二生)あり弟千年(明三三、一一生)は同妻文子(同四一、二生、福岡、古賀新吾五女)と共に其二女を伴ひ分家し妹ミチエ(同三七、三生)は福岡縣人高田包に嫁せりA八四九B五一七(熊本市新屋敷河電三七五四「店舗」同市紺屋町一丁目電一〇一六)

高田元吉

酒造用水運送業

兵庫縣在籍

妻　たね　明一二、三生、大阪、中井福之助三女

男　新一郎　明二八、三生

婦　小ふじ　明三五、九生、長男新一郎妻、兵庫、齋藤喜藏二女

君は兵庫縣人高田辰藏の長男にして明治七年十月を以て生れ同二十四年家督を相續す酒造用水運送業を營む家族は尙孫喜章(昭二、三生、長男新一郎二男)同元盛

（同九、六生、同三男）庶子和男（大八、一生、生母、香川橋本ムネ）あり父辰藏（天保一四、一一生）母まつ（嘉永元、七生、兵庫、岡田吉兵衛長女）は共に弟福藏（明二〇、一二生）を伴ひ分家し三男鍵次（同四三、三生）も亦分家せりA五三〇B一一八（西宮市濱ノ町一一〇電西宮一〇七六）

高田保馬

妻　キヌ　明二五、三生、佐賀、士、大石忠一叔母

從四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授　佐賀縣士族　兼九州帝國大學教授

君は佐賀縣士族高田清人の二男にして明治十六年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十三年京都帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正八年廣島高等師範學校教授同十年東京商科大學教授兼廣島高等師範學校教授に歷任し同年文學博士の學位を授けらる同十四年九州帝國大學教授に轉じ昭和五年現職に任ぜらる論索に長け「社會學原理」を初め社會學經濟學に關する著書十數種あり家族は尙長女秋子（大九、一〇生）三女ちづ子（昭三、二生）あり亡兄清俊妻ふさ（明元、一〇生、北村與七女）は分家せり（佐賀縣小城郡三日月村金田電三五）

參照‖大石忠一※北島俊行の項

高田豐

妻　カク　女　豐太郎　大五、七生

正五位勳五等、判事、札幌地方裁判所部長、山形縣在籍　明三一、七生、栃木、上野幸吉五

君は山形縣人高田休烈の三男にして明治十八年三月を以て生れ大正四年兄休文方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任ぜられ幾許もなく臺灣總督府法院判官に轉じ臺南臺中各地方法院判官高等法院覆審部判官等に歷補す大正十二年再び判事に任じ上田栃木各區字都宮地方各裁判所判事を經て現時札幌地方裁判所部長たり家族は尙二男成（大七、七生）長女美代（同九、一〇生）二女幸子（昭三、一一生）弟休廣（明二八、五生、文部書記官）同妻みち（同四〇、一生、岡山、野中勝明長女）及其二子あり（札幌市札幌地方裁判所內）

高田美明

繼母　ウシ　文久三、二生、德島、武田鶴藏姉

從四位勳三等功五級、陸軍少將、德島縣士族

妻　コト　明二二、一〇生、德島、鹿兒島、宮之原市二長女

女　文子　明四五、四生

女　登美子　大四、一生

君は德島縣士族高田烏三郎の長男にして明治十五年九月を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十六年陸軍士官學校を卒業翌年歩兵少尉に任じ大正元年陸軍大學校を卒業昭和六年陸軍少將に累進す其間日露戰役に從軍し第十三第十六各師團參謀歩兵學校教官教導隊長歩兵第三十七聯隊長第八師團參謀長歩兵第三十六旅團長第十二師團司令部附等に歷補し昭和九年八月待命被仰付同八年滿洲事變に際し旅團長として熱河及河北の作戰に從事す叢に英佛兩國に出張を命ぜらる（久留米市東町一）

高田善彥

正四位勳三等、福岡縣士族　員

君は福岡縣士族高田善一の長男にして明治十年二月十一日を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十六年陸軍士官學校を卒業翌年歩兵少尉に任じ大正元年陸軍大學校を卒業昭和六年陸軍少將に累進す其間日露戰役に從軍し第十三第十六各師團參謀歩兵學校教官教導隊長歩兵第三十六旅團長第十二師團司令部附等に歷補し昭和九年八月待命被仰付同八年滿洲事變に際し旅團長として熱河及河北の作戰に從事す叢に英佛兩國に出張を命ぜらる（久留米市東町一）

高田義男

妻　ちか　女、立教高女出身

高田茂裝東店代表取締役　京都府在籍

男　敏男　大一二、九生

君は東京府人長岡六兵衛の長男にして明治三十年六月二日を以て生れ高田秀成の養子となり大正十年養男茂方より分れて一家を創立す現時高田茂裝東店代表取締役たり家族は尙二男晉男（大一三、一〇生）三男和男（同一四、一〇生）四男倭男（昭四、九生）五男建男（同六年生）ありA二一〇〇（東京市麴町區上六番町七店舗）同區中六番町二九電九段二〇二六）

參照‖高田茂の項

高田利八

妻　ふみ子　清水庄平二女

男　良介　明四〇、九生、長男良介妻、群馬大五、八生

女　精子

前橋倉庫株代表取締役、前橋合同運送、前橋印刷所各株取締役　群馬縣在籍

君は群馬縣人先代八の長男にして明治七年四月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名耕作を改め襲名す現時前記各會社の重役にして叢に群馬貯蓄銀行前橋織物會社等の重役たり家族は尙孫靖子（昭四、二生、長男良介長女）同茂（同五、一一生、同長男）あり弟柳三（明一〇、一二生）は同妻たつ（同一三、九生、群馬辻織平二女）と共に其子女を伴ひ分家せり（前橋市堅町電二六）

高田利兵衛

妻　たね　女久二、三生、幾父利兵衛長女

家主　兵庫縣在籍

明四四、二生、生母、兵庫、高田あい、神戸海上運送火災保險會社員、法學士

養子　昌一

君は兵庫縣人三木彌介の二男にして安政二年八月十三日を代て生れ先々代利兵衛の養子となり明治十九年養母もとの後を承け家督を相續し前名利兵衛を改む家主たり家族は尙三女あい（明二四、七生）同夫順三（同二二、九生、奈良、小川久三郎三男）は其子女を伴ひ分家せりA五七〇（西宮市鞍掛町四七電五七）

高多久兵衛

妻　とみ　明四二、一〇生、現戶主

北陸企業銀行株專務取締役　石川縣在籍

男　嘉久　明四二、一〇生、石川、黑田太兵衛二女

君は石川縣人先々代久兵衛の長男にして明治八年八月二十一日を以て生れ後家督を相續し前名信久を改め襲名し昭和五年隱退す夙に縣立農學校を修業し現時北陸

企業銀行專務取締役にして叢に北陸貯蓄銀行常務取締役德田銀行取締役たりし事あり家族は尙四男信久（大四、六生）の長女久子（明四三、一一生）は石川縣人田村治雄に妹仙（同三一、一一生）は同縣人乾健多郎に嫁せりA一四八（石川縣石川郡安原村）

高千穗宣麿

妻　芳子　明二、六生、伯爵室町公藤叔母

舊三位勳四等、男爵舊家

男　俊麿　明二〇、一生、正五位、官幣中社英彥山神社宮司

婦　ユキエ　明二八、一生、長男俊麿妻、福岡角銅朝太郎長女

男　福麿　明三一、六生、三井銀行員、經濟學士

婦　道子　明四四、一二生、三男福麿妻、東京、筧正太郎長女

庶子　明子　明四一、九生、生母、福岡、岡田セツ

庶子　建子　大七、九生、生母、中谷シズ

當家は後伏見天皇の皇子長助法親王の後なり夫より十六代の間世々彥山の座主として僧正の位を繼ぎ權僧正敎有に至る敎有維新の際勤王の功あり從四位を贈らる明治元年僧正を返上して復飾し更に英彥山神社宮司に任ぜられ同二年姓を高千穗と稱す其子有綱家を繼ぎ同六年特旨を以て華族に列せらる君實は公爵德大路公弘の弟男爵德大寺則麿の兄にして公爵西園寺公望の甥に當る元治元年十二月十五日を以て生れ敎有の養子となり明治十六年家督を相續し英彥山神社宮司となり同十七年男爵を授けらる昆蟲學研究に趣味を有し農商務省農事試驗場帝室博物館囑託となり又貴族院議員に擧げらる事二回に及ぶ家族は尙孫有孚（大四、八生、長男俊麿長男）同有智（同七、九生、同二男）同篤子（同一〇、五生、同二女）同有英（同一三、七生、同三男）あり長女喜已子（明二六、一〇生）は愛知縣人栗田安吾に庶子幸子（同四二、一〇生、生母、福岡、岡田セツ）は福岡縣人水谷楮造長男光治に各養子となり二女小松（同三三、八生）は同縣人高松岩根に庶子喜久子（同三五、八生、生母、福岡、岡田セツ、東洋高女出身）は同縣人伊津見直次郎に同若子（同四〇、一生、生母同上）は山口縣人安藤茂に嫁せり（福岡縣田川郡彥山村）

參照‖公爵西園寺公望、公爵德大寺公弘、伯爵室町公藤、男爵德大寺則麿、篤正太郎※公爵島津忠重※公爵鷹司信輔※侯爵佐竹義春※伯爵中院享※子爵松平頼季※男爵芝亭公同※男爵佐友吉左衛門※三井源右衛門の項

高津伊兵衛

妻　倫子　明四三、三生、東京、淺田政吉妹

高津、高津商店各株代表取締役、東京府在籍　にんべん鰹節商

當家は文化年間より日本橋に住し伊勢屋と稱し鰹節問屋を營みにんべんと通稱して同名を襲ぐ諸曲音樂關係に趣味を有す姉婦なり君は先代伊兵衛の長男にして同四十年家督を相續し前名を改め襲名す慶應義塾政治經濟科に學ぶ組合事業を繼ぎて鰹節商を營む諸曲音樂關係に趣味を有す姉あさ（明三二、九生、跡見女學校出身）は分家して埼玉縣人松本農夫也を迎へ（從弟清一（同四一、一生）も亦分家し姉とく（同三四、七生、田身校同上）は神奈川縣人茂木武雄に同英（同三六、八生、山脇高女出身）は東京府人菅原浩に嫁し從弟孝忠（同四二、一一生）は分家從弟清一の家籍に入れりA八六一二（東京市赤坂區新坂町二三電青山三一〇三「營業所」同市日本橋區室町二ノ八ノ一電話日本橋一〇一九・四五六八）

參照‖菅原浩、高津清一、高津六平、茂木武雄※淺田玄太郎の項

高津久右衛門

妻　よね　明二、一〇生、大阪商工會議所常議員、日本砂糖貿易株社長、大阪砂糖取引所株理事長、日本住宅、沖繩製糖、南米拓殖各株取締役、大阪府在籍

男　久次　明三三、二生

男　豐久　明四一、六生、大阪高商出身

君は大阪府人八丈八十助の長男にして明治元年四月を以て生れ先代久右衛門の養子となり同三十八年家督を相續す大正十年歐洲に遊び各地取引所を視察し朝鮮後大阪砂糖取引所を創設し其理事長に推さる現時日本砂糖貿易會社長たる外前記諸會社の重役にして又大阪商工會議所常議員に擧げらる二男八三郎（明三七、七生、慶大理財科出身）は實妹波多野イシの養子となり三男久四郎（同三九、三生、京大經濟學部出身）四男俊久（同四〇、六生、京大工學部出身）は各分家し長女品子（同三一、七生）は醫學博士藪添宗雄に嫁せりA三八三三〇（大阪市住吉區天下茶屋三ノ一三〇電茂三二〇）

參照‖高津久次の項

高津久次

妻　君子　明四〇、七生、大阪、岡田惣吉長女

父　久右衛門　明元、四生、現戶主

日本砂糖貿易株取締役兼大阪支店長、高津製代表社員、大阪府在籍

君は大阪府人高津久右衛門の長男にして同久四郎の兄なり明治三十三年二月を以て生る大正八年渡米ニューヨーク州ローレンスビル高等學校に入學後ペンシルバニア大學に入學同十四年卒業の上歸朝す現時日本砂糖貿易會社取締役兼大阪支店長にして高津合資會社代表社員たり趣味としてゴルフ庭球登山等あり家族は尙長女米子（昭三、二生）ありA一八〇六（大阪市西成區松原町一ノ一電茂三二〇）

參照‖高津久右衛門※岡田定信の項

高津清

妻　愛　明二一、四生、東京、玉江文雄姉

正四位勳二等、工學博士、電氣試驗所技師兼特許局技師、電氣試驗所長、山形縣士族

男　清一　明四三、一一生

女　孝子　明四二、二生、成女高女出身

女　智子　大四、四生、三輪田高女出身

君は山形縣士族高津肥富の長男にして明治十四年二月十四日を以て生れ同年家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し電氣事業研究の爲歐米各國に留學す歸朝後電氣試驗所技師兼特許局技師に任ぜられ大正十三年工學博士の學位を授けらる現時電氣試驗所長にして特許局抗告審判官たり長女靜子（明四一、一生、九段精華高女出身）は經濟學士英健三に姉とと（同九、一生）は山形縣士族畔柳朶清に嫁せり（東京市杉並區天沼一ノ二二八電荻窪一〇五）

高津金兵衛

妻　チイ　明二一、一生、大阪、高津彥七二女

家主　大阪府在籍

養子　敬次郎　明四二、一生、長女フジ夫、大阪、豊野久吉三男

女　フジ　明三三、二生、榮子敬次郎妻
女　千代子　明四四、九生
女　つる子　大八、一〇生

君は奈良縣人八尾伊三郎の五男にして明治六年四月八日を以て生れ先代金兵衛の養子となり後家督を相續す家主たり家族は尚孫金一（大一三、一一生、榮子敬次郎長男）同二郎（同一四、一一生、同二男）同實喜（昭二、七生、同三男）同美子（同五、三生、同長女）あり二女きく（明三六、一〇生）は大阪府人兒玉兵三郎長男謙三に嫁し三女操（同三九、一〇生）同夫滿（同三一、三生、岐阜、野口愛一弟）は其子女を伴ひ分家せりA七〇四（大阪市北區天滿橋筋四ノ八一電土佐堀一七四〇）

高津清一

前高津商店㊞監査役
東京府在籍

君は東京府人高津善紹の庶子同六平の甥にして明治四十一年一月を以て生れ大正十年從兄伊兵衛方より分れて一家を創立す養に高津商店監査役たりし事あり家族は弟孝忠（明四二、一一生）あり（東京市神田區駿河臺二ノ三ノ七電神田八四四）

參照＝高津伊兵衛、高津六平の項

高津仙介

神戸元町郵便局長
兵庫縣在籍

妻　かね　明一六、一一生、兵庫、中谷藤五郎三女
男　定七　明四二、一生

君は兵庫縣人西脇重兵衛の二男にして明治十年八月二日を以て生れ先代仙介の養子となり大正十一年家督を相續し前名槌松を改め襲名す現時神戸元町郵便局長たり家族は尚四男泰信（大五、三生）あり二女奈良子（明四〇、二生）は兵庫縣人高橋龍一に嫁せりA六四二（神戸市神戸區元町一ノ九八電三宮三八八三）

高津奈良男

日本漁網船具、神戸衞生實驗所各㊞監査役、兵庫縣在籍

妻　菊子　明四三、八生、東京、伊達知次郎妹
男　鐵朗　昭四、一〇生

君は兵庫縣人高津英馬の三男にして明治三十六年五月七日を以て生れ大正十年祖父柳太郎の後を承け家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚二男康（昭六、九生）三男登（同八、七生）あり妹富子（同四三、一一生）は京都府人井内四郎に嫁せりA七五二四（神戸市神戸區三宮町二ノ九電三宮九五）

高津マツエ

地主
大阪府在籍

女　ヒサ　大五、八生、阿倍野高女出身

君は大阪府人高津滿津平の長女にして明治十九年四月二十七日を以て生れ同三十二年家督を相續す地主たり妹ミノル（明二三、九生）は分家せりA二五九二（大阪市住吉區天下茶屋三ノ一三〇電茂三二〇）

高津六平

品川白煉瓦㊞專務取締役、大日本炭鑛、帝國冷藏、京城電氣各㊞監査役、東京府在籍

妻　ふく　明一四、一生、東京、數井彦太郎三女
男　良一　明三四、四生
姉　ヒサ　明四〇、八生、長男良一妻、東京中西清一長女
男　雄二　明三六、九生、早大出身
男　眞三　明四二、五生
男　泰　明四四、八生
男　欽五　明四四、八生
男　利貞　大二、九生

君は東京府人高津伊兵衛同清一の叔父なり明治三年六月一日を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す大正七年高津商店を株式組織となし其專務取締役たりしが現時品川白煉瓦會社專務取締役たる外大日本炭鑛帝國冷藏京城電氣各會社の重役にして兼に日本橋區會議員に舉げらるゝ家族は尚七男正七（大四、一二生）長女きく（同九、一生）孫元子（昭三、一生、長男良一長女）同房子（同五、二生、同二女）同太平（同八、四生）ありA三九三（東京市日本橋區室町二ノ八電日本橋二四六九）

參照＝高津伊兵衛、高津清一※菅原浩※三宅德藥※

高辻奈良造

工學博士
京都府在籍

妻　ミネ　明九、九生、奈良、橋本平三長女
榮子　幸之助　明二五、一二生、榮子ちゑ夫、福岡、古賀和一四男、元鐘淵紡績會社技師、工學士

榮子　ちゑ　明二九、三生、榮子幸之助妻、大阪、高辻楢一三女

君は大阪府人高辻猶作の二男にして慶應元年五月を以て生れ明治十五年家督を相續す同二十二年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し金巾製織會社技師大阪柴島紡績會社囑託工務長となり後三井家同族會管理部技師となり尋で鐘淵紡績會社取締役に擧げられしが現時職を辭し閑地にあり養に工學博士の學位を受く家族は尚孫紹子（大一二、八生、榮子幸之助長女）同安子（同一三、一二生、同二女）同幸一（同一五、二生、同長男）同照造（昭二、二生、同三男）ありA二七八（京都市上京區烏丸通今出川上ル西入岡松町二五四電西陣二八九〇）

高辻宜麿

從三位勳三等、子爵
舊公卿家

妻　重　明一二、七生、伯爵上杉憲章妹、御茶の水高女出身
男　正長　明三六、二生、正五位、貴族院議事課勤務、法學士
男　明四〇、四生、長男正長妻、男爵三井高公妹、女子學習院出身
婦　群子
男　盛長　明三八、六生、文學士
女　友子　明四四、一二生、女子學習院出身

君は右大臣菅原道眞六代の孫大學頭是綱の後なり是綱姓を高辻と稱す二十六世を經て先代修長に至り明治十七年子爵を授けられ侍從宮內書記官東宮侍從長宮中顧問官等に歷任す君は其二男にして明治四年八月三日を以て生れ大正十年家督を相續し襲爵す夙に米國に留學し電氣工學を修め歸朝後逓信技師試補に任ぜられ後宮內省に轉じ式部官を經て現時侍從たり家族は尚孫光長（昭六、一生、長男正長長男）同元子（同九、二生同長女）あり長女總子（明三四、一二生、女子學習院出身）は男爵金子有道妻子吉三郎に二女和子（同四一、六生、出身女子學校同上）は東京府人高田太郎弟次郎に嫁し三男邦長（同四〇、二生、海軍造兵中尉、吳水交社勤務、東大出身）は子爵羽太眞城の養子となり弟廣長（同一二、八生）同妻梅子（同二三、二生、男爵壬生泰正叔母）は其子女を伴ひ分家せりA三二七（東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺一八三六電吉祥寺四一四）

參照＝伯爵上杉憲章、子爵羽太眞城、男爵金子有道、男爵三井高公、男爵壬生泰正※伯爵龜井玆常※伯爵眞田幸治※子爵上杉勝昭※子爵大給近孝※子爵細川立興※子爵松平忠壽※子爵松平直幹※男爵池田勝吉※男爵鷹司信熙※男爵林權助※男爵三井壽太郎※三井高昶※三井元之助※三井守之助の項

高頭龍吉

正五位勳四等、判事、高田區裁判所監督判事兼新潟地方裁判所高田支部々長、新潟縣在籍

妻　ふでこ　明二五、二生、茨城、大和田三笑長女
男　健八　大一三、三生
女　みさ子　大六、一二生、高田高女出身

君は新潟縣人高頭二八郎の四男にして明治十一年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續す同三十五年明治法律學校を卒業し後明治大學高等研究科に學び同四十一年判檢事登用試驗に合格司法官試補となり同四十四年判事に任ぜらる爾來旭川區小樽區盛岡地方大館區兼秋田地方大館支部々長三條區新潟地方各裁判所判事に歷補し昭和三年高崎區裁判所監督判事兼前橋地方裁判所高崎支部々長に補せられ現時前記官職に在り家族は尚二女てい子（大九、五生）二男祥八（昭六、一生）妹カウ（明一四、八生）は新潟縣人高頭强造に同マス（同一九、五生）は同縣人吉野喜三太長男毅一に嫁せり（高田市高田區裁判所內）

高島久次郎

從五位勳六等、樺太廳內務部長
福井縣在籍

妻　千代子　明二八年生、長野、田中甲子次郎長女、松本高女出身
男　通　大五年生
女　たみ子　大七年生、豐原高女在學

君は福井縣人高島清左衞門の二男にして明治十八年一月を以て生れ後ち分れて一家を創立す同三十七年福井縣師範學校を卒業し江名田尋常高等小學校上中高等小學校各訓導となり後ち東京高等師範學校に學び同四十三年同校本科博物科を卒業す爾來教職に就き鳥山中學校三田中學校六川實科高等女學校栃木縣師範學校各數職を歷任大正十一年文官高等試驗行政科試驗に合格す同十二年樺太廳視學兼高等女學校教諭同廳屬同廳事務官太泊支廳長同廳內務部常務課長博物館長等に歷任昭和六年六月同廳豐原高等女學校長兼任ぜられ現在に至る庭球に趣味あり（樺太豐原町樺太廳官舍）

高鳥順作

動三等、貴族院議員、新潟縣多額納稅者、能生銀行㊞頭取、早川電氣、中央電氣、魚沼水力電氣、日本ステレンス各㊞取締役
新潟縣在籍

妻　セツ　慶應三、一〇生、新潟、笠原牛九郎長女
男　博　明二〇、三生

君は新潟縣人高島牛五郎の長男にして明治元年四月十三日を以て生れ同二十五年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役にして新潟縣多額納稅者に列し直接國稅二千百二十四圓を納む大正四年以來衆議院議員に當選する事四回昭和七年貴族院議員に互選せられ現に其任に在り養に支那各地を視察し又歐米各國を漫遊す長女ハル（明二二、五生）は新潟縣人渡邊甚太郎母シカの養子となり二男登（同二七、一生）同妻ナル（同三一、二生、新潟、田邊增五郎六女）は其一男を伴ひ分家せり（東京市四谷區右京町二一電四谷四三七三、新潟縣西頸城郡能生町）

參照＝高鳥博の項

高鳥博

長岡市會議員、長岡商工會議所議員、能生銀行㊞取締役、長岡合同運送㊞監査役、土木建築請負業
新潟縣在籍

父　順作　明元、四生、現戸主
妻　ヤイ　明二七、三生、新潟、井崎久八三女
男　一　大六、一〇生
女　英子　大四、九生

君は現貴族院議員高島順作の長男にして明治二十年三月を以て生る土木建築請負業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして長岡市會議員長岡商工會議所議員所得稅調査委員等の公職に在り家族は尚二男正夫（大一一、一一生）三女信子（同一四、六生）四女洋子（昭二、一〇生）五女精子（同五、八生）三男三郎（同七、二生）ありA三六〇三（長岡市旭町電二九九）

參照＝高鳥順作の項

高梨慶三郎

正五位勳三等功五級、陸軍少將、國華㊞專務取締役、日本ビヤデング㊞取締役
千葉縣在籍

妻　アイ　明一一、一生、東京、金子仙之助妹
男　壯夫　明三五、一〇生、日本銀行勤務、法學士
婦　文子　明四一、七生、長男壯夫妻、東京井出勝長女
男　正夫　大元、九生、府立高校在學

君は千葉縣人高梨金兵衛の四男にして明治六年五月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十七年陸軍士官學校を卒（陸軍步兵少尉に任ぜられ同三十六年陸軍大學校を卒業す爾來累進して大正七年陸軍少將に陞り同八年豫備役に編入さる其間教育總監部參謀第二部關參謀陸軍士官學校教官無谷騎隊司令官步兵第四十五聯隊長等に歷補す養に日露戰役の功に依り功五級金鵄勳章を賜ふ現時前記會社の重役たり長女三和子（明三三、三生）は東京府人井上勝治に二女芳枝（同三八、一〇生）け熊本縣人森本德次長男軍藏に嫁せり（東京市澁谷區原宿二ノ一七〇電青山二九四六）

參照＝井出勝の項

高梨耕幣

王子製紙㊞參事
東京府在籍

男　正俊　大五、四生
女　富美　大三、九生

君は靜岡縣人高梨直吉の六男にして明治十五年五月一日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し直に鐵道廳神戸管理局に勤務せしが大正六年之を辭し樺太工業會社に入り理事並びに泊居工場長となり同十三年恵須取工場長を兼務す同十五年同社取締役に擧げられ昭和二年山林炭礦部長同五年理事山林課長となり同八年王子製紙會社に合併と共に入社し參事に擧げられ今日に至るA三一四（神奈川縣高座郡藤澤町鵠沼二三七五電一一一）

（※印は姻族關係）

高梨新次郎　地主　東京府在籍
妻　きさ　明一五、六生、埼玉、大山辰五郎二女
男　彦三郎　明四三、一〇生
男　重吉　大二、六生
君は東京府人先代惣次郎の長男にして明治十年三月十九日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙六女春子（大一三、四生）及明一子あり四女トり（明四二、一生）は同府人鈴木敬藏に嫁し弟黃太郎（同一六、二生）同妻しち（同二四、八生、埼玉、大山辰五郎五女）は其子女を伴ひ分家せりA六〇六（東京市荒川區町屋町二ノ五七）

高梨宗一　地主　東京府在籍
母　はる　明四、一生、東京、松原國藏長女
妻　すみ　明三〇、三生、東京、横山新藏二女
男　芳久　大一四、一一生
女　久子　大八、一〇生
君は東京府人高梨吉兵衛の長男にして明治二十六年七月九日を以て生れ大正九年家督を相續す地主たり家族は尙二女艷子（昭三、六生）五男和彦（同七、六生）ありA三四六（東京市蒲田區町一〇一六）

高梨惣五郎　地主　東京府在籍
妻　なみ　明一八、四生、東京、玉木角次郎三女
男　喜三郎　明三七、八生
婿　志津　明三八、一二生、長男喜三郎妻、埼玉、石關健一妹
男　善四郎　明四五、二生
女　ゆき　大四、一生
君は東京府人高梨勘五郎の長男にして明治十三年十月二十二日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙五男重雄（大八、九生）六男秋藏（同一〇、一一生）二女とみ子（同一三、五生、孫弘康（昭四、八生、長男喜三郎長男）同忠彥（同七、二生、同二男）同利男（同八、一二生、同三男）あり二男佐吉（明四〇、八生）は東京府人萩原きんの入夫となり三男皆吉（同四三、一生）は同府人戸澤德之助長女德子の養子となり弟政吉（同二七、一一生）は分家せりA四九四（東京市荒川區町屋町二ノ三九）

高梨仁三郎　小綱商店資無限責任社員、醬油問屋業、東京府在籍
君は千葉縣人高梨兵左衛門の二男にして明治三十七年四月十二日を以て生れ先代松之助の養子となり同三十八年家督を相續し前名茂二郎を改め襲名す昭和二年東京外國語學校伊太利語貿易科を卒業す醬油問屋業を營み合資會社小綱商店無限責任社員たり園碁芝居を趣味とす養父松之助（明一二、一生）は父高梨兵左衛門の家籍に入れりA一三八三（東京市日本橋區小綱町三ノ二九電茅場町五三九）
参照＝高梨兵左衛門の項

高梨兵左衛門　千葉縣多額納稅者、野田商誘退行總武鐵道、野田醬油、高梨本家各㊣取締役、小綱商店資無限責任社員、千葉縣在籍、千秋社㊣理事無限責任社員
妻　うた　明三五、八生
男　小一郎　明四二、三生
男　賢三郎　明四四、三生
男　武四郎　明四四、三生
男　五郎　大三、二生
君は千葉縣人先代兵左衛門の長男にして明治十一年三月十六日を以て生れ同十五年家督を相續す義に岩崎營油北總鐵道萬上味淋各會社の重役たりしが現時野田商誘銀行取締役たる外前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙六男義郎（大八、一一生）長女和子（同一五、九生）叔父松之助（明一二、一生）あり二男茂仁三郎と改名し叔母ツネ（同一四、五生）は東京府人中井半三郎長男菊太郎に嫁せりA六五八一（千葉縣葛飾郡野田町電三三）
参照＝高梨仁三郎、中井半三郎、茂木七左衛門※㊣取締役千秋社㊣理事無限責任社員田傳左衛門の項

高梨博司
父　金次郎　明五、五生、千葉、杉田玉次郎妹
母　ふみ　明三一、九生、千葉、千年太郎三郎長女
妻　ヤス　大七、一生
男　博常　大二、一生
君は千葉縣人高梨金次郎の長男にして明治二十年十月二十八日を以て生る同四十三年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尙長女珠子（大一二、一生）二男博昭（昭三、九生）あり叔父繁之助（明八、九生）同妻はま（同二三、四生、千葉堀半兵衛四女）は共に分家せりA六〇一〇（東京市麻布區三河臺町二五電赤坂五六七）

高西敬義　髮四位勳三等、工學博士、內務技師、大阪土木出張所長、茨城縣在籍
母　もと　明二三、二生、福島、秋山義一長女、若松高女出身
妻　津馬　文久元、四生
男　正義　大二、一二生、第三高校在學
男　薫　大七、一一生
君は千葉縣人桑田弘毅の弟にして明治十六年九月を以て生れ先代正平の養子となり大正七年家督を相續す明治四十年京都帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大藏省臨時建築部技手同技師を經て大正八年內務技師に任じ同十三年神戸土木出張所長に補せられ勅任官を以て待遇せらる昭和九年現職に轉ず義に工學博士の學位を授けらる家族は尙四男彰雄（大一一、六生）二女幸子（同一三、一生）三女美津子（昭四、六生）ありA六五五一（大阪市西區土佐堀二）

高野一歩　廣島土地建物㊣社長、辯護士、廣島縣在籍
妻　ヨネ　明元、八生、廣島、士、長崎三郎三女

男　一成　明二六、一生、現戸主
婿　初子　明三三、一生、長男一成妻、廣島森島權太郎長女
君は廣島縣人高野祿一の長男にして萬延元年十二月を以て生れ後家督を相續し昭和四年退隱す辯護士にして現時廣島土地建物會社々長たり家族は尙孫芳枝（大一〇、二生、長男一成長女）同茂（同一一、五生、同長男）同喜代（同一四、一生、同二女）同昭三（昭三、七生、同二男）あり（廣島市堀川町九九電二）

高野岩三郎　正四位勳三等、法學博士、帝國學士院會員、大原社會問題研究所長、大阪府在籍
母　ます　明一七、三生、獨逸人フェジナンド・ムツゲンターラー女
妻　パルバラ　ガロリナ　大二、五生
男　一郎　明四二、一〇生
女　ゆり　大四、二生
女　マサ
君は東京府人高野仙吉の二男にして明治四年九月を以て生れ大正十年姪みよの後を承け家督を相續す先是明治二十八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し更に大學院に學び獨逸に留學しミュンヘン大學に入りて社會統計學及社會問題を專攻し歸朝後同三十二年同大學助教授に任じ次で統計學研究の爲め獨佛米各國に留學を命ぜられ歸朝後同四十二年三度歐米へ差遣さる大正十年同大學教授を退き大原社會問題研究所に入り現時同所長にして帝國學士院會員たり「社會統計學及研究」「本邦人口の現在及將來」其他著書數十種あり本邦社會統計學の權威たり長女マリア（明三六、三生）は岡山縣人宇野和一郎二男弘藏に嫁せり（大阪市天王寺區伶人町二四大原社會問題研究所電天王寺八五四）
参照＝宇野和一郎の項

高野馬二郎　高野金屬品製作所、金屬品製作業、愛知縣在籍
妻　はま　明一九、一一生、岐阜、高野伊三郎養子
男　小一郎　明三九、一生
女　もよ子　大三、三生
女　とめ子　大五、一一生
君は愛知縣人先代小太郎の長男にして明治十五年五月一日を以て生れ大正十年家督を相續す金屬品製作業を營み高野金屬品製作所主たり家族は尙四女初子（大九、三生）二男鐵八郎（大一四、五生）弟時次（明三七、一〇生、養子定右衛門長女）同千枝子（昭三、一生同二女）及其子女を伴ひ分家せりA五二〇（名古屋市中區三田町七五電南八六五）

高野繁吉　葛西屋、醬麥粉商、東京府在籍
妻　サト　明一六、六生、東京、小倉精一三女
女　とし　明三〇、七生、長女とし夫、埼玉高橋元治郎三男
女　富貴子　明三七、六生、養子定右衛門妻
女　三枝　大二、三生
君は東京府人高野繁吉の長男にして明治八年五月六日を以て生れ後家督を相續す同七年十二月前名龜吉を改め繁吉を襲名す葛西屋と稱して醬麥粉商を營む家族は尙七女澄子（大一一、四生）孫千嘉子（同一四、一〇生、養子定右衛門長女）同千枝子（昭三、一生同二女）同喜代子（同五、六生、同三女）ありA四六九B七〇（東京市中野區本町通四ノ三〇電四谷七九八）

高野寛治　髮四位勳三等、判事、判所長、長野縣在籍
妻　多賀　安政六、九生、現戸主
男　英夫　明三三、一〇生、長野、丸山廣美長女
君は長野縣人若林甚衛の二男にして明治十五年二月一日を以て生れ同三十年叔父高野兼吉郎の養子となる同三十六年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十八年判事に任じ辰野區東京地方富山地方同區金澤地方同區七尾區同崎區豐橋區名古屋區高山區名古屋地方各裁判所判事名古屋地方裁判所部長同控訴院判事同部長公證人懲戒委員宮城控訴院部長等に歷補し昭和九年現職に轉ず（鳥取地方裁判所內）
衆議院議員（福岡縣選出）、筑豐自動車運輸㊣代表取締役、海老津炭礦㊣取締役、福岡縣在籍

高野喜六
妻　とみ　明四二、二生
婿　峯子　大二、七生、長男幸太郎妻、大阪木村安藏養子
君は大阪府人先代幸助の長男にして明治五年四月三十日を以て生れ同十六年家督を相續し前名幸次郎を改め襲名すみの幸と稱し琴三絃商を營む二女登喜子（明三六、六生）は大阪府人高野ミヨの死跡を相續し妹なか（同一〇、一生）弟豐三郎（同一八、七生）叔母ミヨ（天

妻　ハツ　明二〇、五生、福岡、市橋勝太郎妹
男　寅男　大三、二生
君は福岡縣人高野藤吉の庶子にして明治十四年十月一日を以て生れ後一家を創立す福岡縣清德炭抗飯塚炭抗各抗長となり殖產礦業會社顧問海老津礦業所相談役上山炭抗顧問福岡縣礦工聯合會評議員等に推され嘉穗清涼飲料嘉穗炭業筑豐自動車各會社長にして亦福岡縣會議員に擧げらる現時筑豐自動車運輸海老津炭礦各會社の重役にして昭和七年福岡縣より選ばれ衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す家族は尙三男大六（大一〇、三生）あり（福岡縣嘉穗郡二瀨村）

高野吉太郎　東京府多額納稅者、果物商、東京府在籍
母　とし　安政六、五生、神奈川、伊藤喜兵衛二女
妻　とり　明三〇、四生、東京、小宮きく姉
男　芳雄　大一三、一〇生
君は東京府人先代吉太郎の長男にして明治二十二年七月十三日を以て生れ大正八年家督を相續し前名芳之助を改め襲名すタカノフルーツパーラーと稱し果物商を營み直接國稅五千三百二十九圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙長女廣子（大一〇、二生）二女葬子（昭二、九生）三女美惠子（同四、三生）二男英彥（同六、一生）あり妹とよ（明二七、八生）は東京府人浦生哲に嫁し同フク（同二九、一二生）は分家せり（東京市淀橋區角筈一ノ一三電四谷一〇三七）
参照＝※齋藤洲司の項

高野幸助　みの幸、琴三絃商、大阪府在籍
妻　とみ　明九、六生、大阪、川田勘兵衛三女
男　幸太郎　明四二、二生
婿　峯子　大二、七生、長男幸太郎妻、大阪木村安藏養子
君は大阪府人先代幸助の長男にして明治五年四月三十日を以て生れ同十六年家督を相續し前名幸次郎を改め襲名すみの幸と稱し琴三絃商を營む二女登喜子（明三六、六生）は大阪府人高野ミヨの死跡を相續し妹なか（同一〇、一生）弟豐三郎（同一八、七生）叔母ミヨ（天

保一三、一生）は各分家し四女倉子（明四四、七生）は大阪府人藤川類藏長男重五郎に妹末野（同一四、三生）は同府人千田多助に同久（同二六、九生）は同府人右田延藏長男茂助に嫁し養妹房子（同三三、一生）同琴（同三六、七生）は同府人高野太右衛門の家籍に入れりA七二九B二〇四（大阪市西區北堀江通鄰池一ノ二二**電新町三二七〇**）

参照＝藤川類藏※菱川庄五郎の項

高野佐三郎

正五位勳五等、東京高等師範學校教授、創道範士、東京府在籍

妻　とみ　明一一、一生、東京、山田正禮姉
男　良夫　明二三、六生
婿　キミ　明三四、一生、長男良夫妻、群馬大塚鹿造三女
女　佐代　明三〇、九生
男　甲子雄　明三三、一〇生
婿　文世　明三九、一生、二男甲子雄妻、東京、牧野茂助長女

君は埼玉縣人高野芳三郎の長男にして文久二年六月を以て生れ明治三十三年家督を相續す同十三年大宮町立學校を卒業し同二十一年埼玉縣警察本部撃劍教授に任じ同縣警部を經て大正五年東京高等師範學校教授に轉じ現に其職に在り先是明治三十八年大日本武德會教士となり大正二年範士に進む家族は尙孫一子（大九、一〇生、長男良夫長女）同萬里子（同一四、七生、同二女）同壽子（昭四、一生、同三女）あり三女圭子（明三七、一〇生）は東京府人中島紋右衛門に四女玲代（同四〇、二生）は埼玉縣人淺賀藤之助孫幾之助に嫁し養弟芦義（同一〇、一生、茨城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野重秋

從六位、判事、東京區裁判所判事

母　里子　明一三、四生、子爵奥田直元叔母

君は愛媛縣士族高野金重の長男にして明治三十六年九月を以て生れ後家督を相續す大正十五年中央大學を卒業す現時東京區裁判所判事たり妹春子（明四〇、二生）は東京府人市村頼次郎に嫁せり（東京市大森區調布鶴ノ木町一三六）

参照＝子爵奥田直元※子爵奥田直紹※識村立太郎の項

高野省三

奈天造兵所主常務取締役、東京府士族

妻　濱　明二〇、七生、東京、長谷川貞次郎長女
男　省一　明四五、七生
女　清　大三、一二生
女　貞子　大八、一生

君は東京府士族高野清一の長男にして明治五年二月二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り後之を辭し現時寒天造兵所會社常務取締役にして蠟に昭和製鋼所帝國製麻各會社常務取締役帝國商業銀行東洋汽船東京電力各會社取締役たりしことあり（東京市澁谷區松濤町七七**電青山六二〇**）

高野清次郎

日本加工、中央理化工業各㈱社長、硝子製造業、東京府在籍

妻　なみ　明六、二生、滋賀、脇傳九郎二女
男　武雄　明二九、二生、離縁、妻子芳之助妻
女　貞子　大六、六生
妻　きん　亡兄久吉二女

君は京京府人高野文藏の二男にして慶應三年三月十九日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す硝子製造業を營み傍ら前記各會社々長たり家族は尙亡兄久吉妻はる（安政二、一生、東京、矢澤作兵衛長女）あり養姪むら（明三三、七生、東京、村田藤助孫）は三重縣人上田宗次郎二男次郎に嫁せりA二〇九二（東京市城東區龜戸町三ノ三二〇**電墨田六二五**）

高野善助

㈱員、長野市會議員、長野商工會議所議㈱取締役、長野縣多額納稅者、信濃銀行㈱取締役、酒類商、長野縣在籍

妻　さい　明一七、一〇生、長野、高野善助二女
男　一雄　明四三、一〇生
男　武雄　大二、一生
女　貞子　大六、六生
妻　多喜　明三、三生

君は山口縣士族中村嘉添の二男にして明治八年十二月を以て生れ先代喜久の入夫となり同三十六年家督を相續す養に東京電氣會社工業部副長たりし事あり長女夏及其一子同勝正（同三八、七生）ありA三七四（大阪市住吉區住吉町一八二**電住吉二〇五四**）

高野穂積

前東京電氣㈱工業部副長、東京府在籍

妻　喜久　明一八、九生、東京、高野政吉長女
男　榮一　大二、一生
女　富美　明四〇、三生
女　多喜　明三、三生

君は兵庫縣人高野誠彌の三男にして明治十六年七月を以て生れ同二十年分れて一家を創立す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十三年判事に任ぜられ神戸地方同區京都區同地方各裁判所判事及び大阪控訴院判事奈良地方裁判所都長等に歷補し現時大阪控訴院判事の職に在り（大阪市北區若松町大阪控訴院內）

参照＝※中村一造の項

高野常藏

東京府多額納稅者、地主、東京府在籍

妻　たみ　明一五、三生、東京、鈴木惣右衛門三女
男　榮一　明三四、一〇生
女　よね子　明三七、八生
男　滝治郎　明三九、三生
男　良三郎　明四二、五生
女　愛子　明四三、九生

君は東京府人高野常治の三男にして明治九年十一月二十一日を以て生れ同四十一年家督を相續す地主として知られ直接國稅八千百六十圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙四男長四郎（大五、九生）あり（東京市牛込區中町三六**電牛込二七一**）

高野寅吉

歌物製造業、大阪府在籍

母　トク　慶應二、八生、大阪、上田久吉妹
妻　ヨシエ　明二三、一生、大阪、和田兵太郎長女
女　英子　明四五、七生

君は大阪府人先代寅吉の長男にして明治二十一年五月三日を以て生れ大正六年家督を相續し前名房太郎を改め襲名す歌物製造業を營む家族は尙弟民三（明三二、三生）同妻美代同（三四、六生、石川、小倉小七長女）同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野重秋

從六位、判事、東京區裁判所判事

母　里子　明一三、四生、子爵奥田直元叔母

君は愛媛縣士族高野金重の長男にして明治三十六年九月を以て生れ後家督を相續す大正十五年中央大學を卒業す現時東京區裁判所判事たり妹春子（明四〇、二生）は東京府人市村頼次郎に嫁せり（東京市大森區調布鶴ノ木町一三六）

参照＝子爵奥田直元※子爵奥田直紹※識村立太郎の項

高野省三

奈天造兵所主常務取締役、東京府士族

妻　濱　明二〇、七生、東京、長谷川貞次郎長女
男　省一　明四五、七生
女　清　大三、一二生
女　貞子　大八、一生

君は東京府士族高野清一の長男にして明治五年二月二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り後之を辭し現時寒天造兵所會社常務取締役にして蠟に昭和製鋼所帝國製麻各會社常務取締役帝國商業銀行東洋汽船東京電力各會社取締役たりしことあり（東京市澁谷區松濤町七七**電青山六二〇**）

高野清次郎

日本加工、中央理化工業各㈱社長、硝子製造業、東京府在籍

妻　なみ　明六、二生、滋賀、脇傳九郎二女
男　武雄　明二九、二生、離縁、妻子芳之助妻
女　貞子　大六、六生
妻　きん　亡兄久吉二女

君は京京府人高野文藏の二男にして慶應三年三月十九日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す硝子製造業を營み傍ら前記各會社々長たり家族は尙亡兄久吉妻はる（安政二、一生、東京、矢澤作兵衛長女）あり養姪むら（明三三、七生、東京、村田藤助孫）は三重縣人上田宗次郎二男次郎に嫁せりA二〇九二（東京市城東區龜戸町三ノ三二〇**電墨田六二五**）

高野善助

㈱員、長野市會議員、長野商工會議所議㈱取締役、長野縣多額納稅者、信濃銀行㈱取締役、酒類商、長野縣在籍

妻　さい　明一七、一〇生、長野、高野善助二女
男　一雄　明四三、一〇生
男　武雄　大二、一生
女　貞子　大六、六生
妻　多喜　明三、三生

君は長野縣人宮崎梅治の三男にして明治十六年五月三日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す前記各會社々長たり家族は尙孫一子（大九、一〇生、長男良夫長女）同萬里子（同一四、七生、同二女）同壽子（昭四、一生、同三女）あり三女圭子（明三七、一〇生）は東京府人中島紋右衛門に四女玲代（同四〇、二生）は埼玉縣人淺賀藤之助孫幾之助に嫁し養弟芦義（同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野穂積

前東京電氣㈱工業部副長、東京府在籍

妻　喜久　明一八、九生、東京、高野政吉長女
男　榮一　大二、一生
女　富美　明四〇、三生
女　多喜　明三、三生

君は山口縣士族中村嘉添の二男にして明治八年十二月を以て生れ先代喜久の入夫となり同三十六年家督を相續す養に東京電氣會社工業部副長たりし事あり長女夏及其一子同勝正（同三八、七生）ありA三七四（大阪市住吉區住吉町一八二**電住吉二〇五四**）

高野常藏

東京府多額納稅者、地主、東京府在籍

妻　たみ　明一五、三生、東京、鈴木惣右衛門三女
男　榮一　明三四、一〇生
女　よね子　明三七、八生
男　滝治郎　明三九、三生
男　良三郎　明四二、五生
女　愛子　明四三、九生

君は東京府人高野常治の三男にして明治九年十一月二十一日を以て生れ同四十一年家督を相續す地主として知られ直接國稅八千百六十圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙四男長四郎（大五、九生）あり（東京市牛込區中町三六**電牛込二七一**）

高野寅吉

歌物製造業、大阪府在籍

母　トク　慶應二、八生、大阪、上田久吉妹
妻　ヨシエ　明二三、一生、大阪、和田兵太郎長女
女　英子　明四五、七生

君は大阪府人先代寅吉の長男にして明治二十一年五月三日を以て生れ大正六年家督を相續し前名房太郎を改め襲名す歌物製造業を營む家族は尙弟民三（明三二、三生）同妻美代同（三四、六生、石川、小倉小七長女）同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野重秋

從六位、判事、東京區裁判所判事

母　里子　明一三、四生、子爵奥田直元叔母

君は愛媛縣士族高野金重の長男にして明治三十六年九月を以て生れ後家督を相續す大正十五年中央大學を卒業す現時東京區裁判所判事たり妹春子（明四〇、二生）は東京府人市村頼次郎に嫁せり（東京市大森區調布鶴ノ木町一三六）

参照＝子爵奥田直元※子爵奥田直紹※識村立太郎の項

高野省三

奈天造兵所主常務取締役、東京府士族

妻　濱　明二〇、七生、東京、長谷川貞次郎長女
男　省一　明四五、七生
女　清　大三、一二生
女　貞子　大八、一生

君は東京府士族高野清一の長男にして明治五年二月二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り後之を辭し現時寒天造兵所會社常務取締役にして蠟に昭和製鋼所帝國製麻各會社常務取締役帝國商業銀行東洋汽船東京電力各會社取締役たりしことあり（東京市澁谷區松濤町七七**電青山六二〇**）

高野清次郎

日本加工、中央理化工業各㈱社長、硝子製造業、東京府在籍

妻　なみ　明六、二生、滋賀、脇傳九郎二女
男　武雄　明二九、二生、離縁、妻子芳之助妻
女　貞子　大六、六生
妻　きん　亡兄久吉二女

君は京京府人高野文藏の二男にして慶應三年三月十九日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す硝子製造業を營み傍ら前記各會社々長たり家族は尙亡兄久吉妻はる（安政二、一生、東京、矢澤作兵衛長女）あり養姪むら（明三三、七生、東京、村田藤助孫）は三重縣人上田宗次郎二男次郎に嫁せりA二〇九二（東京市城東區龜戸町三ノ三二〇**電墨田六二五**）

高野善助

㈱員、長野市會議員、長野商工會議所議㈱取締役、長野縣多額納稅者、信濃銀行㈱取締役、酒類商、長野縣在籍

妻　さい　明一七、一〇生、長野、高野善助二女
男　一雄　明四三、一〇生
男　武雄　大二、一生
女　貞子　大六、六生
妻　多喜　明三、三生

君は長野縣人宮崎梅治の三男にして明治十六年五月三日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す前記各會社々長たり家族は尙孫一子（大九、一〇生、長男良夫長女）同萬里子（同一四、七生、同二女）同壽子（昭四、一生、同三女）あり三女圭子（明三七、一〇生）は東京府人中島紋右衛門に四女玲代（同四〇、二生）は埼玉縣人淺賀藤之助孫幾之助に嫁し養弟芦義（同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野穂積

前東京電氣㈱工業部副長、東京府在籍

妻　喜久　明一八、九生、東京、高野政吉長女
男　榮一　大二、一生
女　富美　明四〇、三生
女　多喜　明三、三生

君は山口縣士族中村嘉添の二男にして明治八年十二月を以て生れ先代喜久の入夫となり同三十六年家督を相續す養に東京電氣會社工業部副長たりし事あり長女夏及其一子同勝正（同三八、七生）ありA三七四（大阪市住吉區住吉町一八二**電住吉二〇五四**）

高野常藏

東京府多額納稅者、地主、東京府在籍

妻　たみ　明一五、三生、東京、鈴木惣右衛門三女
男　榮一　明三四、一〇生
女　よね子　明三七、八生
男　滝治郎　明三九、三生
男　良三郎　明四二、五生
女　愛子　明四三、九生

君は東京府人高野常治の三男にして明治九年十一月二十一日を以て生れ同四十一年家督を相續す地主として知られ直接國稅八千百六十圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙四男長四郎（大五、九生）あり（東京市牛込區中町三六**電牛込二七一**）

高野寅吉

歌物製造業、大阪府在籍

母　トク　慶應二、八生、大阪、上田久吉妹
妻　ヨシエ　明二三、一生、大阪、和田兵太郎長女
女　英子　明四五、七生

君は大阪府人先代寅吉の長男にして明治二十一年五月三日を以て生れ大正六年家督を相續し前名房太郎を改め襲名す歌物製造業を營む家族は尙弟民三（明三二、三生）同妻美代同（三四、六生、石川、小倉小七長女）同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野重秋

從六位、判事、東京區裁判所判事

母　里子　明一三、四生、子爵奥田直元叔母

君は愛媛縣士族高野金重の長男にして明治三十六年九月を以て生れ後家督を相續す大正十五年中央大學を卒業す現時東京區裁判所判事たり妹春子（明四〇、二生）は東京府人市村頼次郎に嫁せり（東京市大森區調布鶴ノ木町一三六）

参照＝子爵奥田直元※子爵奥田直紹※識村立太郎の項

高野省三

奈天造兵所主常務取締役、東京府士族

妻　濱　明二〇、七生、東京、長谷川貞次郎長女
男　省一　明四五、七生
女　清　大三、一二生
女　貞子　大八、一生

君は東京府士族高野清一の長男にして明治五年二月二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り後之を辭し現時寒天造兵所會社常務取締役にして蠟に昭和製鋼所帝國製麻各會社常務取締役帝國商業銀行東洋汽船東京電力各會社取締役たりしことあり（東京市澁谷區松濤町七七**電青山六二〇**）

高野清次郎

日本加工、中央理化工業各㈱社長、硝子製造業、東京府在籍

妻　なみ　明六、二生、滋賀、脇傳九郎二女
男　武雄　明二九、二生、離縁、妻子芳之助妻
女　貞子　大六、六生
妻　きん　亡兄久吉二女

君は京京府人高野文藏の二男にして慶應三年三月十九日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す硝子製造業を營み傍ら前記各會社々長たり家族は尙亡兄久吉妻はる（安政二、一生、東京、矢澤作兵衛長女）あり養姪むら（明三三、七生、東京、村田藤助孫）は三重縣人上田宗次郎二男次郎に嫁せりA二〇九二（東京市城東區龜戸町三ノ三二〇**電墨田六二五**）

高野善助

㈱員、長野市會議員、長野商工會議所議㈱取締役、長野縣多額納稅者、信濃銀行㈱取締役、酒類商、長野縣在籍

妻　さい　明一七、一〇生、長野、高野善助二女
男　一雄　明四三、一〇生
男　武雄　大二、一生
女　貞子　大六、六生
妻　多喜　明三、三生

君は長野縣人高野仲右衛門の長男にして明治九年四月を以て生れ明和四年家督を相續す明治三十年長野師範學校を卒業し同三十三年同校教諭となり同三十七年文部屬となり文部省圖書官を經て現時東京帝國大學文學部講師として日本演劇史を講ずと大正十四年文學博士の學位を授けられ昭和三年帝國學士院賞を受く「歌舞音曲考說」「日本演劇の研究」「古

締役にして又前記公職にあり直接國稅三百八十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男正雄（大四、一生）四男久雄（同七、八生）三女かつ子（同一〇、一〇生）四女鶴子（同一三、二生）あり長女よし（明四〇、一〇生）は長野縣人宮尾五郎に嫁せり（長野市三輪**電三〇六**）

高野竹次郎

印刷用インキ製造及直輸出入業、東京府在籍

妻　ちゑ　明一九、五生、茨城、岡田熊太郎妹
男　清太郎　明四四、一〇生

君は茨城縣人花田惣吉の三男にして明治四年九月を以て生れ同三十五年高野喜兵衛の養子となり同四十五年前戸主喜兵衛の跡を承けて家督を相續す現時彩雲堂と稱し印刷用インク商を營む家族は尙三男秀男（大一〇、七生）ありA六六四B二九五（東京市神田區佐久間町四ノ一八**電下谷一五〇四「工場」**同市荒川區三河島町一ノ二九八八**電下谷七一一八**）

高野辰之

從四位勳四等、文學博士、東京帝國大學文學部講師、長野縣在籍

父　伸右衛門　嘉永三、六生
妻　つるえ　明一三、八生、長野、井上寂英三女
養子　資紀　明一九、一二生、養子くに夫、父伸右衛門三男
養子　くに　明二三、一〇生、養子資紀妻、長野、小林唯右衛門長女
養子　正巳　明三八、三生、養子弘夫、鳳鳥、荒井市太郎二男
養子　弘　明四二、二生、養子正巳妻、長野井上弘圓三女
孫　助之　明四五、四生、養子資紀長男
孫　とし　大三、九生、養子資紀長女
孫　まさえ　大六、八生、養子資紀二女

君は長野縣人高野仲右衛門の長男にして明治九年四月を以て生れ明和四年家督を相續す明治三十年長野師範學校を卒業し同三十三年同校教諭となり同三十七年文部屬となり文部省圖書官を經て現時東京帝國大學文學部講師として日本演劇史を講ずと大正十四年文學博士の學位を授けられ昭和三年帝國學士院賞を受く「歌舞音曲考說」「日本演劇の研究」「古

文學踏査」其他の著書あり家族は尙孫茂治（大九、一二生、養子資紀二男）同保夫（同一五、七生、同三男）同たか（昭四、五生、同四女）同文子（同五、一二生、養子正巳長女）あり妹のぶ（明一四、一〇生）は長野縣人遠山龜作長男喜惣治に同よし（同二五、一一生）は同縣人古田嘉太郎長男源一郎に嫁し弟舒泰（同一七、四生）は同縣人高野つなの養子となりA三五〇（東京市澁谷區代々木山谷一六七**電四谷七六二**）

高野綱雄

正五位勳四等、判事、大阪控訴院判事、兵庫縣在籍

妻　マツエ　明七、三生、愛媛、山路勝之妹

君は兵庫縣人高野誠彌の三男にして明治十六年七月を以て生れ同二十年分れて一家を創立す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十三年判事に任ぜられ神戸地方同區京都區同地方各裁判所判事及び大阪控訴院判事奈良地方裁判所都長等に歷補し現時大阪控訴院判事の職に在り（大阪市北區若松町大阪控訴院內）

参照＝※中村一造の項

高野常藏

東京府多額納稅者、地主、東京府在籍

妻　たみ　明一五、三生、東京、鈴木惣右衛門三女
男　榮一　明三四、一〇生
女　よね子　明三七、八生
男　滝治郎　明三九、三生
男　良三郎　明四二、五生
女　愛子　明四三、九生

君は東京府人高野常治の三男にして明治九年十一月二十一日を以て生れ同四十一年家督を相續す地主として知られ直接國稅八千百六十圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙四男長四郎（大五、九生）あり（東京市牛込區中町三六**電牛込二七一**）

高野寅吉

歌物製造業、大阪府在籍

母　トク　慶應二、八生、大阪、上田久吉妹
妻　ヨシエ　明二三、一生、大阪、和田兵太郎長女
女　英子　明四五、七生

君は大阪府人先代寅吉の長男にして明治二十一年五月三日を以て生れ大正六年家督を相續し前名房太郎を改め襲名す歌物製造業を營む家族は尙弟民三（明三二、三生）同妻美代同（三四、六生、石川、小倉小七長女）同一〇、一生、芙城、千種義輝弟）は同妻すみ（同一五、二生、埼玉、野坂勝三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六〇（浦和市大字浦和二五五五**電四七五**）

高野重秋

從六位、判事、東京區裁判所判事

母　里子　明一三、四生、子爵奥田直元叔母

君は愛媛縣士族高野金重の長男にして明治三十六年九月を以て生れ後家督を相續す大正十五年中央大學を卒業す現時東京區裁判所判事たり妹春子（明四〇、二生）は東京府人市村頼次郎に嫁せり（東京市大森區調布鶴ノ木町一三六）

参照＝子爵奥田直元※子爵奥田直紹※識村立太郎の項

高野省三

奈天造兵所主常務取締役、東京府士族

妻　濱　明二〇、七生、東京、長谷川貞次郎長女
男　省一　明四五、七生
女　清　大三、一二生
女　貞子　大八、一生

君は東京府士族高野清一の長男にして明治五年二月二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り後之を辭し現時寒天造兵所會社常務取締役にして蠟に昭和製鋼所帝國製麻各會社常務取締役帝國商業銀行東洋汽船東京電力各會社取締役たりしことあり（東京市澁谷區松濤町七七**電青山六二〇**）

高野清次郎

日本加工、中央理化工業各㈱社長、硝子製造業、東京府在籍

妻　なみ　明六、二生、滋賀、脇傳九郎二女
男　武雄　明二九、二生、離縁、妻子芳之助妻
女　貞子　大六、六生
妻　きん　亡兄久吉二女

君は京京府人高野文藏の二男にして慶應三年三月十九日を以て生れ明治二十九年兄久吉の後を襲ひ家督を相續す硝子製造業を營み傍ら前記各會社々長たり家族は尙亡兄久吉妻はる（安政二、一生、東京、矢澤作兵衛長女）あり養姪むら（明三三、七生、東京、村田藤助孫）は三重縣人上田宗次郎二男次郎に嫁せりA二〇九二（東京市城東區龜戸町三ノ三二〇**電墨田六二五**）

高野善助

㈱員、長野市會議員、長野商工會議所議㈱取締役、長野縣多額納稅者、信濃銀行㈱取締役、酒類商、長野縣在籍

妻　さい　明一七、一〇生、長野、高野善助二女
男　一雄　明四三、一〇生
男　武雄　大二、一生
女　貞子　大六、六生
妻　多喜　明三、三生

君は長野縣人高野仲右衛門の長男にして明治九年四月を以て生れ明和四年家督を相續す明治三十年長野師範學校を卒業し同三十三年同校教諭となり同三十七年文部屬となり文部省圖書官を經て現時東京帝國大學文學部講師として日本演劇史を講ずと大正十四年文學博士の學位を授けられ昭和三年帝國學士院賞を受く「歌舞音曲考說」「日本演劇の研究」「古

月を以て生れ同四十一年家督を相續す大正三年早稻田大學を卒業同五年安田銀行に入り同行天草支店長たりしも昭和七年四月同系統肥後銀行に合併に依り引續き同行支店長たり家族は尙男靖也（昭九、五生）弟壽雄（明三九、一生）あり妹喜代（同二七、七生）は熊本縣人松見巻次長男一男に同喜美（同三〇、四生）は同縣人村岡丈平長男精一に嫁し叔父貴（同八、八生）同妻ツメ（同一、九生、池邊文龍長女）は其子女を伴ひ分家し叔父半三（明四一、二生）も亦分家せり（熊本縣天草郡本渡町**電二七**）

高野與吉

地主、東京府在籍

妻　ヒテ　明三一、一一生、千葉、鈴木史妹
女　はな　大四、八生
女　久子　大七、五生

君は東京府人高野榮次郎の二男にして明治二十一年四月二十日を以て生れ大正元年家督を相續す地主たり家族は尙三女よ（大一〇、一生）あり姉とり（明一七、一一生）は東京府人小池清一に嫁せりA五五六（東京市杉並區高圓寺一ノ一七**電中野二六四一**）

高野康雄

肥後銀行㈱天草支店長、熊本縣士族

母　マキ　明七、四生、熊本、南瀛三代次二女
妻　エイ　明三一、一二生、熊本、藤本儀三郎四女
男　跡也　昭四、七生

君は熊本縣士族高野萬都の長男にして明治二十五年三月を以て生れ同四十一年家督を相續す大正三年中央大學を卒業し同年分家し同年東京帝國大學法科大學を卒業し同年判事に任ぜられ同年三月判事に任ず爾來大阪地方築路區各裁判所判事を歷任し昭和三年再び大阪地方裁判所判事を命ぜられ次で同七年四月大阪控訴院判事に轉じ現在に至る（大阪市住吉區松虫通一ノ五一）

高野正保

從五位勳六等、判事、大阪控訴院判事、長野縣在籍

妻　のり　明三一、六生、縣立和歌山高女出身
男　榮一　大二、一生
女　富美　明四〇、三生
女　多喜　明三、三生

君は長野縣人高野豊司の二男にして明治二十五年五月二十六日を以て生れ兄幸雄方より分れて一家を創立す大正六年東京帝國大學法科大學を卒業し司法官試補を經て同九年三月判事に任ず爾來大阪地方築路區各裁判所判事を歷任し昭和三年再び大阪地方裁判所判事を命ぜられ次で同七年四月大阪控訴院判事に轉じ現在に至る（大阪市住吉區松虫通一ノ五一）

高野康雄

肥後銀行㈱天草支店長、熊本縣士族

母　マキ　明七、四生、熊本、南瀛三代次二女
妻　エイ　明三一、一二生、熊本、藤本儀三郎四女
男　跡也　昭四、七生

君は熊本縣士族高野萬都の長男にして明治二十五年三月を以て生れ同四十一年家督を相續す大正三年中央大學を卒業し同年分家し同年東京帝國大學法科大學を卒業し同年判事に任ぜられ同年三月判事に任ず爾來大阪地方築路區各裁判所判事を歷任し昭和三年再び大阪地方裁判所判事を命ぜられ次で同七年四月大阪控訴院判事に轉じ現在に至る（大阪市住吉區松虫通一ノ五一）

高野與吉

地主、東京府在籍

妻　ヒテ　明三一、一一生、千葉、鈴木史妹
女　はな　大四、八生
女　久子　大七、五生

君は東京府人高野榮次郎の二男にして明治二十一年四月二十日を以て生れ大正元年家督を相續す地主たり家族は尙三女よ（大一〇、一生）あり姉とり（明一七、一一生）は東京府人小池清一に嫁せりA五五六（東京市杉並區高圓寺一ノ一七**電中野二六四一**）

高野六郎

正五位、醫學博士、防疫官兼內務技師、衞生局豫防課長、日本赤十字社衞生顧問、慶應義塾大學醫學部講師、東京府在籍

妻　ハル　明二二、四生、東京、重田辰吉二女
男　宏一　大一二、一〇生

君は茨城縣人高野藤平の五男にして明治十七年九月三日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正三年北里研究所副部長となり同六年歐米各國に留學し同七年醫學博士の學位を受く後慶應義塾大學醫學部教授北里研究所部長を經て同十二年防疫官兼內務技師に任じ衞生局豫防課長の傍ら前記の職に在り家族は尙三女小枝（大九、一一生）二男伸二（同一五、七生）あり長女千枝（明四五、五生）は東京府人叔本德太郎に嫁せり（東京市四谷區南寺町二三**電四谷三〇五一**）

高羽憲次

母　よし　嘉永六、一生、千葉、鈴木與四郎妹
妻　藤枝　明二七、一〇生、東京、後藤績妹
養子　謙吉　大一五、八生、東京、酒井らく孫

當家の先代惣四郎は名古屋出身にして糸屋商より身を起して毛織物商を營み後組織を株式に變更し其專務取締役として社務を主宰す君は其長男にして高羽惣兵衛の從弟に當る明治二十二年二月を以て生れ昭和三年家督を相續す夙に慶應義塾を卒業し英國に留學歸朝後組織を繼ぎ現に高羽商店專務取締役たり家族は尙國良（明二三、一〇生、早大商科出身、高羽商店監査役）同妻さち（同三一、一二生、神奈川、豊田讓三女）及其一子弟春芳（同二六、一生）同妻愛子（同三七、五生、東京、小林愛雄長女）及其一女あり妹イヨ（同二八、五生）は愛媛縣人飯野忠常長男逸平に同安喜子（同三一、一〇生）は東京府人宮本央五男幸吾に嫁せりA八一六（東京市麹町區紀尾井町三電九段六三一・一〇二六）

參照＝飯野逸平、後藤績、高羽惣兵衛、宮本央※子爵橋本長俊※大倉保五郎※後藤廣志※西郷豊二の項

高羽惣兵衛

妻　さく　高羽商店㊫社長、大黒屋、毛織物並洋服商、東京府在籍
男　達太郎　明七、二生、東京、伊藤源太郎妹婿、慶大出身
婿　シツ　明三二、九生、長男達太郎妻、東京、松村清吾三女
男　義治　明三七、一二生、高羽商店勤務、法學士
婿　けふ子　明四三、八生、二男義治妻、東京田中幸吉孫
男　信雄　明四一、四生、鐘ヶ淵紡績會社、朝鮮分工場勤務、法學士
女　知津　大元、九生

君は名古屋出身たる先代惣兵衛の長男にして同靈次の從兄なり慶應三年七月十二日を以て生れ明治三十一年家督を相續し前名惣次郎を改め襲名す大黒屋と稱し毛織物及洋服商を營みしが業務の進展に從ひ組織を株式に改め高羽商店と稱し現時其社長たり義に麹町區會議員に選ばれ同副議長に推さる又嘗て東京商工會議所議員たりし事あり家族は尙孫榮子（大一五、四生）長男達太郎二女）同和子（昭四、八生、同三女）同朝子（同六、一〇生、同四女）同裕子（生年月同上、二男義治長女）同泰子（同八、六生、二男義治二女）あり二女登志（明二八、一二生、三輪田高女出身）は侯爵西郷從德弟豊篠野乙次郎長男秀雄に嫁せりA一五七六（東京市麹町區麹町五ノ二電九段三一三）

參照＝西郷豊二、高羽靈次、松村清吾※新井義武※宮本央の項

高場節吾

母　トモ　防石鐵道、協和證券、廣島瓦斯電軌名㊫取締役、廣島縣在籍
妻　ヒデ　慶應二、七生、細父十兵衛長女
男　正也　明二二、三生、廣島、河相三郎二女
女　美和　大二、三生
　　大八、九生

君は廣島縣人高場唯一郎の長男にして明治十八年五月五日を以て生れ同三十年家督を相續す明治四十年東京帝國大學農科大學農學實科を卒業爾來大正六年迄約十ケ年間滋賀廣島新潟各縣農學實科教師を歷任し同八年廣島縣外五縣の海外協會聯合會囑託に依り海外移民狀況視察研究の爲帝國練習艦隊常盤に便乘し支那臺灣ヒリツピン群島印度濠洲カロリンマーシヤル群島を歷訪す同十一年海外貿易會社の一事業として支那青島に本邦唯一のアニマル・インダストリーとして中華畜產工業所を起し青島還付の國策變更に依り之を中止す爾來内地の諸會社に關係するに到れり現時前記各會社の重役にして養蚕廣島海外貿易廣島乘合自動車各會社重役たりし事あり家族は尙四男浩（大六、五生）五男敏（同一一、四生）六男博（同一三、一〇生）あり（廣島縣安佐郡祇園村電一四）

參照＝大原五一の項

高橋阿久利

妻　つや　家主東京府在籍
女　長女三、七生、埼玉、富岡根之助
　　長女久、明三七、五生、東京、松田喜太郎二女

君は東京府人先代甚右衛門の四男にして明治三十年十月を以て生れ昭和五年家督を相續す家族は尙長女悅子（大一五、五生）二女浩子（昭五、三生）ありA二四三二（東京市小石川區宮下町三九電大塚三五四）

高橋愛三

妻　テイ　下方屋、麻雀並骨牌商東京府在籍
　　平　明二〇、九生、奈良、高橋一蔡姉
男　壽　明三八、七生
　　子　明四三、六生、長男平妻、東京、池田慶三郎長女
婿　弘二　明四〇、三生
男　千代子　大三、六生、二男弘二妻、東京、池田鶴子妹
婿　壽　明四五、七生
男　　　明四五、七生

君は廣島縣人村上鶴太郎の弟にして明治十四年十二月一日を以て生れ同三十八年先代ツルの養子となり大正二年家督を相續す下方屋と稱し麻雀骨牌商たり家族は尙孫公敏（昭三、二生、長男平長男）同美代子（同八、一二生、二男弘二長女）あり長女武子（明四二、一一生）は東京府人田井中爲次郎二男淵に嫁せりA六四六（東京市淺草區南元町一）

高橋明

男　菊枝　從四位勳三等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部部長、山梨縣在籍
　　博元　明二六、一〇生、東京、木下藤一二女
女　喜代　大六、二生
　　大三、三生

君は愛知縣人高橋元幹の四男にして明治十七年十一月を以て生れ兄定碩の養子となり大正十三年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學醫學科大學を卒業し大學院に入る大正二年獨逸に留學を命ぜられ後英國に轉じ同四年東京帝國大學醫科大學副手となり同五年新潟醫學專門學校教授に任ぜられ翌六年醫學博士の學位を授けらる爾來新潟醫科大學教授兼同附屬醫學專門部教授同大學附屬醫院皮膚科醫長同大學教授同學生監に歷任し現時東京帝國大學教授にして醫學部勤務たり家族は尙二女久美（大一一、九生）從弟東介（明三八、五生）あり兄貞良（同一二、一生）同妻こと（同二一、五生、

愛知、川合金兵衛三女）は其子女を伴ひ分家し兄貞三（同一四、八生）も亦分家し姪初子（同四〇、一生、兄貞三長女）は愛知縣人柿原忠一の養子となれり（東京市本郷區駒込千駄木町五〇電小石川二四八〇）

參照＝※渡會纖藏の項

高橋皙

妻　なを　從四位勳四等、東伏見宮附別當、日本大學、拓殖大學各講師
　　明二二、六生、茨城、士、金子詔
　　長女、水戸高女出身
茨城縣士族

君は茨城縣士族高橋諸隱の二男にして櫻田事件の首謀贈正四位高橋多一郎の嫡孫に當る明治十年四月を以て生れ大正五年家督を相續す君在學中既に中等科英語教員免許狀を受け後赤高等學校法制經濟科及高等學校英語科の教員免許狀を受く明治三十六年學習院大學を卒業するや成績優等を以て恩賜の銀時計を拜受す直に都下私立各大學に教鞭を執り研鑽年あり同四十一年宮内省に入り同四十二年德大寺内大臣の下に秘書官となり大正三年東伏見宮附宮内事務官兼式部官に轉じ同七年官命を以て英國に航し翌年歸朝す又英佛白伊各國より勳章を授與さる昭和八年勳任式部官に任じ次で本官を免じ別當被仰付東伏見宮附を命ぜられ現に日本大學拓殖大學各講師を兼ぬ今日に至る著書に「倫敦より東京へ」あり（東京市目黒區上目黒七ノ一〇二二電青山一〇八七）

高橋勇

妻　　新興商船㊫副社長、東洋海運㊫社長、東洋商事㊫專務取締役、山下汽船、東洋商事㊫專務取締役、東洋證券㊫正監査役、安田銀行各㊫取締役、寒天製藻㊫正監査役、安田保善社㊫參事、遞信省海事協會評議員、宮城縣在籍
父　景次　從五、九生、現戸主、鹽釜港製米㊫社長
母　よしの　慶應二、七生、宮城、士、松岡昌吉二女
妻　ふみよ　明一八、二生、養父景次長女、宮城縣立第一高女出身
男　達郎　大五、八生、成城高校在學
女　勝子　大八、二生、御茶の水高女在學

君は宮城縣士族高橋景信の二男にして明治十五年六月を以て生れ同三十八年高橋景次の養子となる同年拓殖大學を卒業し日本郵船會社に入り臺灣出張所長たりしが後ち東洋汽船會社に聘せられて同社總支配人となり常務取締役を經て專務取締役に擧げられ今日に至る傍ら新興商船會社長たる外前記銀行會社の重役たり狩獵柔道に趣味を有し現に講道館東京有段者會日本橋支部長たり二女節子（大三、六生）三女都子（昭五、男爵内閣總理大臣田中義一長男爵龍夫に嫁せり）

高橋　臻

妻　　日本銀行㊫特別融通整理部主事
　　大分縣在籍
　　明二四、一生、男爵富岡明雄妹
　　大二、一二生、府立第三高女出身
女　利　慶　明二四、一生、男爵富岡明雄妹
　　江　大二、一二生、府立第三高女出身

君は大分縣人高橋爲吉の二男にして明治十七年四月一日を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本銀行に入り秋田松本熊本金澤各支店長を經て現に同行特別融通整理部主事たり家族は尙二女洋子（大一〇、一二生、御茶の水高女在學）三女都子（昭五、九生）亡兄令一妻キミ（明一九、九生、大分、沼口正行二女）弟順一（同二四、一一生、現戸主）同妻シヲ（同二九、九生、大分、永田稔妹）及其子女あり弟章一（同二〇、二生）同妻包（同二八、一〇生、大分、河村萬平二女）は其子女を伴ひ分家せり（東京市牛込區北町三一電牛込五九四八）

參照＝男爵富岡明雄※安滿欽一の項

高橋一郎

妻　　從五位、和歌山縣書記官、學務部長、長野縣在籍
　　みすず　明三六、二生
　　明治二十九年四月を以て生る大正十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業同年高等文官試驗に合格し直ちに群馬縣屬に任ぜらる同十二年愛媛縣喜多郡長となり愛媛縣理事官及事務官三重縣事務官工場監督官山形縣事務官を經て昭和七年和歌山縣書記官に轉じ學務部長に補せられ現在に至る（和歌山市北河岸五丁目官舍電一八三八）

高橋榮四郎

妻　　東海トラック取締㊫役、大同電力㊫技師、大阪變電所長
　　益子　明三七、一一生、愛知、岡本仁三郎二女
　　茂富　大一二、五生
男　　愛知縣在籍
君は愛知縣人大矢勘之助の四男にして明治二十七年三月三十日を以て生れ大正十二年先代民次郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正七年東京帝國大學工科大

高橋市太郎

　　岐阜縣多額納稅者、岐阜醬油醸造㊫監査役、農業、岐阜縣在籍
母　けい　慶應二、一生、岐阜、伊藤十郎平長女
妻　ます　明二九、六生、岐阜、高橋慶太郎四女
男　俊也　大八、一〇生
女　千代子　大五、一生

君は岐阜縣人高橋才市の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み現時前記會社の重役にして直接國稅六百七十七圓を納め岐阜縣多額納稅者に列す家族は尙三女妙子（大〇、一生）弟四郎明三六、一二生）あり（岐阜市本莊一六九九）

高橋　逸夫

　　從四位勳三等、前京都帝國大學教授、岐阜縣在籍
繼母　さわの　明一一、五生、岐阜、並河甚八二女
　　明二八、一一生、京都、士、岸田菊郎妹
妻　美枝
男　修　大七、五生、京都府立一中在學
女　道子　大五、一生、京都府立第一高女出身

君は岐阜縣人高橋安吉の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同二年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し同四年同大學助教授に任じ同九年歐米諸國を巡遊後同十一年彼地に留學を命ぜられ同十四年歸朝同大學教授に進み昭和九年七月之を辭す先妣同五年支那に出張す家族は尙二男敬（大九、九生）二女信子（同一二、五生）三男精（同一五、二生）三女博子（昭四、一生）（同六、六生）弟義雄（明三六、三生）あり（京都市左京區北白川小倉町五〇ノ二一電上一六〇三）

參照＝岸田菊郎※男爵深尾隼太郎※岸田幸雄の項

高橋榮四郎

妻　　東海トラック取締㊫役、大同電力㊫技師、大阪變電所長
　　益子　明三七、一一生、愛知、岡本仁三郎二女
　　茂富　大一二、五生
男　　愛知縣在籍
君は愛知縣人大矢勘之助の四男にして明治二十七年三月三十日を以て生れ大正十二年先代民次郎の養子となり昭和六年家督を相續す大正七年東京帝國大學工科大

學電氣工學科を卒業し大同電力會社技師となり現に同社大阪變電所長にして傍ら東海トラック輸出會社取締役たり圍碁ゴルフ歌舞伎に趣味を有す家族は尙二男榮雄(大一四、一二生)三男洋(昭九、六生)長女艶子(同七、三生)ありA八八四(名古屋市東區東片端三ノ一四電東二九七三)

高橋榮治　從四位勳三等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勳務、北海道北海道士族

母　りき　安政元、九生、北海道、士、安齋眞藤妹

妻　惠美　吉長女　明二五、二生、愛媛、士、西村保

男　靖明　大三、七生

女　富貴　大三、一生

君は北海道士族高橋良昌の長男にして明治十六年八月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十年札幌農學校を卒業し廣東省中央農林業牧場技師となり清國政府に招聘せられ現時北海道帝國大學教授にして農學部に勤務す大正八年農學博士の學位を授與せらる家族は尙二男達男(大一一、一生)三男凌三(同一四、一一生)弟惟誠(明三〇、三生、從五位、農學博士、岐阜高等農林學校教授)同妻チヨ(同三八、二生、佐賀、草場榮喜長女)及其二子あり妹ヨシ(同二六、二生)は北海道人內藤義章に嫁し亡從兄宜妻光(同一一、一生、東京、士、宮部美勳三女)は同道人高橋良一の家籍に入れり(札幌市北十五條西二丁目電四六六九)

參照＝西村保吉、草場榮喜※草場茂一※宮部金吾の項

高橋於菟丸　正四位勳二等功五級、陸軍中將、著述業、滋賀縣士族

妻　アイ　明一七、五生、德島、鎌田宣正二女、熊本尙綱女學校出身

養子　三代司　明三八、八生、長女靜子夫、千葉岩名次郎叔父

女　靜子　明三九、一生、養子三代司妻、三輪田高女出身

君は滋賀縣士族高橋勇の二男にして明治四年三月二十三日を以て生れ同二十七年家督を相續す夙に陸軍士官學校及び陸軍大學校を卒業し大正十二年陸軍中將に累進す其間日露戰役中大本營陸軍參謀第三師團參謀等を經て陸軍大學校兵學教官札幌聯隊區司令官歩兵第二十三聯隊長中支那派遣隊司令官第三師團參謀長歩兵第二旅團長第十五師團司令部附等に歷補し同十二年豫備役に編入被仰付著述業たり家族は尙弟長信(明二〇、二生)同妻久惠(同三二、三生、滋賀、士、村田文三二女)及其子女あり姪やす(同二七、八生、亡兄斧吉長女)は東京府人中村泰一に嫁せり(東京市世田谷區世田谷二ノ一三三一)

高橋嘉津美　岐阜日々新聞社長

妻　あい　岐阜縣在籍　明一七、五生、岐阜、棚橋善吉妹

君は岐阜縣人高橋瀨一郎の二男にして明治十四年二月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に慶應義塾法律科を卒業し父瀨一郎の遺業たる岐阜日々新聞社を繼承し現時其社たり家族は尙叔父卯(明三、六生)は北米加洲に移住し叔母とめ(同六、一二生)は京都府人田中梅吉に姪一枝(同二九、六生)は岐阜縣人醫學士長村佐盛に嫁せり(岐阜市秋津町一七)

高橋戒三　神奈川縣多額納稅者、地主、神奈川縣在籍

妻　べん　明一九、九生、愛媛、矢野宗五郎五女

男　越夫　明四〇、一一生、經濟學士

男　康夫　明四五、四生、東京帝大在學

君は愛媛縣人戶田吉助の長男にして明治八年十一月を以て生れ先代德藏の婿子となり同四十五年家督を相續す夙に慶應義塾法律科を卒業し曾て横濱市會議員に當選し現に方面委員日枝教育奬勵會長等を勤む地主にして直接國稅千九百二十三圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙四男良夫(大四、八生、水戶高校在學)あり二女靜枝(明三七、七生、横濱高女出身)は神奈川縣人浦川龍之助に三女幸枝(同四三、七生、縣立第一高女出身)は神奈川縣人山下信庸に嫁せり(横濱市中區日枝町二ノ三八電長者町二五八八)

高橋勝一　從五位勳五等、兵庫縣明石女子師範學校長、茨城縣士族

母　くら　元治元、一生、茨城、五來東左衛門長女

妻　なほ　明二一、一生、茨城、小塙幸之介長女

男　明　明四三、七生、法學士

女　喜美代　大三、一生、京都府立女子專門學校出身

君は茨城縣士族高橋安の長男にして明治十七年十一月十日を以て生れ昭和三年家督を相續す先是明治四十年廣島高等師範學校本科地理歷史部を卒業し同年滋賀縣師範學校教諭に任じ同四十四年愛媛縣師範學校教諭に轉じ同校附屬小學校主事を兼任し更に愛媛縣立今治高等女學校長同縣立松山高等女學校長を經て大正十三年兵庫縣明石女子師範學校長に任ぜられ現在に至る家族は尙二男進(大六、一二生、鐵路高校理科在學)三男陽(明一〇、五生、縣立明石中學在學)弟勝清(明二八、七生)あり同七郎(同四〇、七生)は他家の婿子となれり(明石市忠榎町五〇)

高橋龜太郎　高龜商店㈱社長、羅紗並洋服既製品商、東京府在籍

父　定五郎　安政六、九生

妻　はる　明二四、九生、東京、鈴木半藏長女

男　敏郎　明四五、二生

女　喜美　大二、一〇生

女　信子　大四、七生

君は東京府人高橋定五郎の長男にして明治十九年六月十七日を以て生れ昭和三年家督を相續す高龜商店社長にして羅紗並洋服既製品商を營む家族は尙二男健二(大六、一〇生)三男正三(同一〇、一生)四男英男(同一三、九生)あり弟豊(明三九、一〇生)は東京府に於て絕家松川氏を再興せりA六一四B二五六(東京市神田區豊島町三四電淺花五三三二)

高橋久治　從四位勳四等、前林業試驗場技師、新潟縣在籍

妻　コウ　明二四、一二生、鳥取、中野留五郎姪

男　越民　明四五、七生、東京帝大醫學部在學

君は新潟縣人高橋與治平の三男にして明治十七年一月三日を以て生る同四十一年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手林務技手同技師山林技師等に歷任

大正十三年營林局技師に任じ青森秋田各營林局造林課長を經て昭和七年熊本營林局利用課長に轉じ同九年林業試驗場技師に任じ退官す家族は尙長女ゆきゑ(昭二、一一生)ありA一一三(東京市本郷區東片町一三五)

高橋恭二　南滿洲鐵道株式會社技師、鐵路總局機務處工作課長、愛媛縣在籍

妻　タミ　明三八、一一生、愛媛、春日俊三郎二女

男　欣一　昭七、一生

君は愛媛縣人高橋仁三郎の三男にして明治二十七年一月十五日を以て生れ昭和九年分れて一家を創立す大正四年旅順工科學堂機械科を卒業し滿鐵に入り遼陽工場沙河口工場等に勤務し昭和四年歐米に留學一ヶ年半餘にして歸朝す現時技師にして鐵路總局機務處工作課長たり家族は尙長女泰子(大一二、一二生)二女恵子(昭三、二生)あり(奉天鐵路總局內)

高橋金次郎　高橋組、土木建築請負業、埼玉縣在籍

妻　トク　明三一、一二生、東京、伊藤清兵衛長女

男　庄司　大三、九生、立教大學在學

養子　三次郎　明二八、五生、二女とり夫、山形菅野小治郎四男、高商出身

女　とり　明三六、一生、養子三次郎妻

女　たけ　明四二、一一生

君は埼玉縣人先代勇藏の長男にして明治八年十月六日を以て生れ大正十一年家督を相續す高橋組と稱し土木建築請負業を營む家族は尙孫昇(昭三、一生、養子三次郎長男)同宗司(同五、五生、同二男)あり弟倉藏(明一七、五生)同妻じゆう(同二三、二生、埼玉、押田志滿私生子)は其三子女を伴ひ同國藏(同二二、五生)同妻ふく(同二九、一二生、東京、矢島千代吉四女)は其三子女を伴ひ各分家し長女津多(同三二、一〇生)は神奈川縣人山田伊三郎二男英三に嫁し五女たつ子(大九、六生)は前記山田伊三郎の養子となれりA三七一B二一〇(東京市淺草區新谷町一五電淺草五六二一)

高橋金治郎　勳四等、衆議院議員(新潟縣選出)、農業、新潟縣在籍

妻　栂　明三〇、五生、新潟、近藤久吉妹

男　義治郎　明四三、八生

男　正　大三、一生

君は新潟縣人先代金治郎の三男にして明治十二年二月二十六日を以て生れ同四十二年家督を相續し後前名武夫を改め襲名す農業を營み推されて衆議院議員に當選すること四回現に其任に在り立憲政友會所屬たり曩に報社長等に擧げらる二男義三郎(明四四、一一生)は新潟縣人山後喜內の養子となり妹サヲ(同一五、一一生)は分家せり(新潟縣三島郡西越村)

高橋金太郎　東京府在籍

妻　とよ　明二三、九生、千葉、山田政吉妹

男　金之輔　明三九、二生、長男金之輔妻、東京、大野作次郎長女

婿　むら

君は東京府人先代金太郎の長男にして明治十五年九月十一日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名長太郎を改め襲名す家主たり家族は尙孫鐵朗(昭三、一二生、長男金之輔長男)同博(同七、七生、同二男)ありA一一二〇九(東京市豊島區西巢鴨二ノ一九八六電大塚三〇一九)

高橋欽哉　別府商工會議所會頭、大分縣農工銀行㈱頭取、別府製材㈱代表取締役、大分合同銀行、大分貯蓄銀行各㈱取締役、泉孫竟代表社員、旅館業、大分縣在籍

妻　アイ　明三、一一生、養父孫三郎長女

養子　豊之進　明三二、三生、養子アキ夫、大分岡平三男、慶大出身

養子　アキ　明三四、九生、養子豊之進妻、大分、甲斐アイ女

君は大分縣人佐藤豊彥の二男にして慶應二年六月を以て生れ先代孫三郎の養子となり大正八年家督を相續す現に泉孫合資會社代表社員にして旅館業を營み傍ら前記銀行會社の各重役たり曩に縣下の多額納稅者に列し昭和五年郷黨より推されて衆議院議員に當選す又別府商工會議所會頭別府市會議員大分縣會議員に擧げらる家族は尙欽一(昭三、一生)同昭二(同五、九生、同三男)再從弟豪三(明四二、一一生、生母大分、甲斐アイ)は分家せり(別府市濱脇四〇八三電八〇五・八)

高橋熊次郎　正五位、衆議院議員(山形縣選出)、太陽產業㈱取締役、高橋農園主、農業、山形縣在籍

妻　やす　明四二、一生、養父宰橋長女

男　隆太郎　明二二、八生、三浦銀行員、中央大學商科出身

男　惠次郎　明四四、二生、日本商科醫專出身

君は鶴島縣人宍戶榮太郎の二男にして明治十三年九月二十四日を以て生れ先代宰橋の養子となり大正四年家督を相續す夙に東京高等商業學校を卒業し直に米國に渡りブライアント・ストラットン商業大學に學び歸朝す農業を營み高橋農園を經營し傍ら前記會社の重役を兼ぬ曾て上山電氣會社長外數會社の重役たり專あり大正十三年以來衆議院議員に當選すること四回現に立憲政友會に屬し曩に外務參與官に任ぜらる長女清子(明四一、四生)は山形縣人柏倉九左衛門長男信彌に養子くに(同四三、八生、山形、堺戶銳壽三女)は同縣人大場庄次郎二男鐵男に二女房子(大元、一〇生、山形高女出身)は東北帝大附屬病院勤務醫學士多田慎吾に嫁せり(東京市赤坂區青山南町六ノ一七電青山二六四六)

高橋熊三　相生無盡㈱取締役會長、東京倉庫帝國冷藏、日本ドライアイス各㈱社長林鐵工所、日本火災保險、北海道鐵道各㈱取締役、千葉合同銀行、東洋物產、東洋製罐、川崎製各㈱監査役、佐原蔬市場㈱相談役、大日本水產會監事

妻　なか　明一一、八生、東京、田中民三郎姉

男　秀男　明四一、一一生

君は宮城縣士族高橋兵三郎の三男にして明治四年九月を以て生れ同三十六年兄虎太方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男三郎(大六、七生)孫健彥(同一五、二生、長女節子長女)あり長女節子(明二八、一一生)は東京府人吉武源雄に嫁せりA五三〇七(東京市目黑區上目黑八ノ五三二電青山二八五)

高橋鍬次郎　地主　東京府在籍
妻　ふじ　明八、一〇生、養父勘次郎長女
男　寛一　大二、四生
女　きく　明四三、一一生
女　すゞ　大六、三生
君は東京府人中井清五郎の次男にして明治七年二月十日を以て生れ先代勘次郎の養子となり大正七年家督を相續す地主たりA九〇〇（東京市荏原區中延町四八七）

高橋敬吉　昭和銀行逗下谷支店長
東京府在籍
妻　温子　明二六、一二生、愛媛、坪内猶之進妹、府立第一高女出身
男　徹夫　大七、一〇生、府立第八中學在學
君は東京府人高橋正法の三男にして明治十八年一月を以て生れ大正七年兄直吉より分れて一家を創立す慶應義塾大學理財科を卒業し現時昭和銀行下谷支店長にして叢に同行日本橋三田各支店長たりし事あり家族は尚二男寡三生（大一二、一〇生）三男和雄（昭二、三生）長女淑子（同四、三生）あり（東京市大森區雪ヶ谷町七二六）

高橋敬視　正五位勲五等、松江高等學校教授
宮城縣在籍
妻　應三、八生、宮城、渡邊金三郎長女
母　しん　明三二、一〇生、島根、坪倉甚次郎長女、奈良女高師出身
男　哲夫　大一〇、七生
君は宮城縣人高橋敬喜の長男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四年京都帝國大學文科大學哲學科を卒業し第二高等學校教授を經て大正十二年松江高等學校教授に任じ同十四年英米獨佛に留學し翌年歸朝現在に至る「科學と宗教」「ニコライハルトマン倫理學綱要」「西洋哲學史講義」「西洋倫理學」の著あり家族は尚二女百合子（大一二、六生）三女文子（同一三、一〇生）二男知常（昭五、八生）三男正立（同七、九生）弟弘視（明二八、四生）あり同正視（同二七、三生）は他家の養子となり同省視（同三四、六生）は分家せり（松江市北堀町一四七）

高橋慶太郎　岐阜商工會議所顧問、岐阜縣多額納稅者、濃飛倉庫㈱社長、美濃信金㈱取締役、岐阜不動產各㈱取締役、縮緬絹細問屋業、岐阜縣在籍
妻　むめ　文久二、九生、養父慶三郎長女
男　健太郎　明二八、一生
婦　千代　明三七、一生、長男健太郎妻、愛知、森田清助七女
君は岐阜縣人高橋忠三郎の三男にして野口寅之助の養子兄なり元治元年十月五日を以て生れ先代慶三郎の養子となり明治三十一年家督を相續す縮緬絹細問屋業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして岐阜商工會議所顧問に擧げられ岐阜縣多額納稅者に列し直接國稅一千八十三圓を納む叢に岐阜絹織物濃飛倉庫岐阜絹紬精練各會社の代表取締役たりしことあり長女とら（明二一、四生）岐阜縣人小坂三十郎に同女ます（同二九、六生）同縣人高橋才市長男市太郎に嫁し五女花子（同三〇、一〇生）同二五、七生、岐阜、高橋市太郎弟）は其三子を伴ひ六女あい（同三三、五生）は同夫榮三（同二九、三生、岐阜、高橋源三郎）に從ひ妹しも（同九、一二生）は共一女と共に各分家し姪かね（同三二、一生、妹しも私生子）は岐阜縣人松野多市の養子となれり（岐阜市美園町四ノ五電三〇三〇八三）
參照＝小坂三十郎、野口寅之助、森田清助※角田錄次郎の項

高橋健二　新潟縣多額納稅者、土木建築請負業、新潟縣在籍
妻　ソヤ　明三七、一一生、三男健三郎妻、新潟、武石銀平長女
男　健三郎　明三六、三生
婦　ハツ　明四三、五生
女　ムツ　大五、一一生
君に新潟縣人高橋健藏の長男にして明治八年十月二十四日を以て生れ大正五年家督を相續す土木建築請負業を營み直接國稅九百三十六圓を納め新潟縣多額納稅者に列す家族は尚孫和子（大一四、一生、亡長男健太郎長女）同富子（昭二、一生、三男健三郎長女）同禮三（同三、八生、三男健二郎長男）同啓平（同七、八生、同二男）あり（東京市小石川區丸山町一九電大塚五八一）

高橋研三　高橋耳鼻咽喉科病院長、醫師
東京府在籍
妻　ふみ　明二三、二生、東京、男全三郎長女、府立第一高女出身
女　幸子　大五、九生、櫻蔭高女出身
君は福井縣人谷內與左衛門の三男にして明治八年六月二日を以て生れ北海道人高橋直治の養子となり大正七年分れて一家を創立す夙に歐米に留學する事約十八年專ら醫學を修め米國フォートウォールス大學埃國ウィンナ大學を卒業し歸朝後更に滿二ヶ年の研鑽を遂げ四十歲にして初めて開業し現に高橋耳鼻咽喉科病院長たり斯界の一權威を以て稱せらる家族は尚二女月子（大一一、八生）三女星子（昭四、三生）ありA四二九（東京市下谷區西黑門町二電下谷八五八）

高橋健治　長野縣多額納稅者、食料品商
長野縣在籍
妻　ウメ　明一八、四生、長野、高橋留八郎長女
男　光雄　大二、一生
君は長野縣人坪井和太郎の二男にして明治十五年三月十二日を以て生れ後高橋休三郎の養子となり同四十四年分れて一家を創立す食料品商を營み直接國稅三百八十八圓を納め長野縣多額納稅者に列す家族は尚五男良男（大一一、一一生）あり二女文子（明四三、八生）は分家せり（長野市南長野北石堂町）

高橋堅　正四位勲三等、第一高等學校教授
青森縣在籍
妻　斐子　明二五、七生、長野、北村英一郎女、學習院女學部出身
男　正　明四四、七生
君は青森縣人高橋正一の長男にして明治八年八月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し大學院に入り更にシカゴ大學にて動物學を專攻しドクトル・オヴ・フィロソフィ

ーの學位を受く歸朝後學習院教授に任じ同四十三年第一高等學校教授に轉じ爾來引續き其職にあり家族は尚二男修（大五、一一生）三男鷹（同八、九生）二女英子（同一一、一生）三女良子（同一三、八生）四男信（昭二、五生）四女和子（同五、三生）五女博子（同八、一一生）あり妹得（明三九、一生）は青森縣人川波一龜に同育（同四〇、一二生）は同縣人加藤總吉に同泰（同四三、七生）は同縣人野呂末太郎三男救助に嫁せり（東京市澁谷區神山町五五電青山三九二九）

高橋源七　地主
東京府在籍
妻　しま　明一二、六生、東京、關口善吉二女
男　源之助　明三〇、二生
婦　シマ　明三四、七生、東京、秋元六太郎妹
女　シズ　明四五、四生
女　君子　大四、一生
君は東京府人先代高橋源七の長男にして明治八年四月を以て生れ大正九年家督を相續し同十一年前名常吉を改め襲名す地主たり家族は尚三男善四郎（大七、一生）六女スエ（同九、九生）孫傳男（同一一、一〇生、長男源之助長男）同千鶴子（同一、四、四生、同長女）同雪子（同一五、一二生、同二女）同知子（昭五、一生、同三女）同好子（同七、一生、同四女）同順子（同八、一〇生）姪千代（明四四、四生）あり二女マス（同三七、二生）は東京府人小田切秀に三女ハル（同四二、九生）は同府人關口鐵治に嫁し三男喜一（同三四、九生）は分家せりA四一五（東京市中野區仲町二二電中野二八三〇）

高橋源太郎　地主
東京府在籍
妻　セイ　明一四、二生、東京、小池廣太郎女
男　文太郎　明三六、一生、武藏野鐵道㈱取締役、明大政治經濟學部出身
婦　幸子　明四二、一生、長男文太郎妻、東京、櫻井信四郎二女、聖心女學院出身
君は東京府人高橋文平の長男にして明治九年六月三日を以て生れ同二十七年家督を相續す地主にして養に武藏野鐵道東京セメン會社取締役たり事あり家族は尚孫美津子（昭五、四生、長男文太郎長女）同文彥（同八、二生、同長男）あり長女美代（明三八、一一生、結華高女出身）は元大審院判事尾吉初一郎二男春男に二女喜美（同四二、八生、府立第二高女出身）は富本保に嫁し二男正雄（大元、一一生）は東京府人高橋よしの死跡を相續せりA四七一（東京府北多摩郡保谷村下保谷二六五電保谷二）
參照＝櫻井信四郎の項

高橋鉉太郎　從三位勲三等、第三高等學校名譽教授、大阪府在籍
妻　彥　明二二、二生
婦　吉　明三一、三生、長男健彥妻、京都山上德治郎長女
君は大阪府人高橋篤敬の長男にして萬延元年八月を以て生れ明治三十一年弟悌郎の後を承け家督を相續す同十四年東京大學理學部を卒業し大阪中學校教諭第三高等學校教授たりしが後之を辭し現時同校名譽教授たり家族は尚孫初子（大九、三生、長男健彥長女）同文彥（同八、二生、同長男）同博宣（同一五、一一生、同二男）同倚俊（明二九、一二生、同二女）あり二男倚俊（明二九、一二生）は大阪府人大井ヒサの入夫となり二女富美（同三一、一一生）は同府人富樫芳治郎に三女照（同三四、九生）は群馬縣人阿部順三弟政五郎に嫁し弟悌郎（同一一、二生）は分家せり（京都市上京區岡崎東福ノ川町二一）
參照＝富樫芳治郎の項

高橋五郎　三菱商事㈱雜貨部副長
東京府在籍　士族
母　悅　嘉永四、四生、山形、士、石倉三右衛門三女
妻　千代　明三三、六生、長崎、武川盛次長女
男　龍雄　大一一、一〇生
君は山梨縣士族高橋宏勤の五男にして明治二十二年三月を以て生る大正三年東京高等商業學校專部を卒業し直ちに三菱合資會社に入り同七年三菱商事會社に轉じ同十五年同社シドニー支店長に進み昭和六年本社農產部長となり現時同社雜貨部副長たり家族は尚長女英子（大一〇、一生）二男康雄（同一四、一〇生）二女晴子（昭三、五生）兄安一（明一〇、一〇生、現戶主）同妻富（同一七、二生、東京、士、三橋孝一姉）及其子女の外兄四郎（同一九、一二生）同妻芳江（同二九、八生、東京、白石市次郎長女）及其子女あり兄次郎（同一四、七生）同妻菊井（同一九、一〇生、山形、士、山口信正姉）は共に分家し姪禎子（大八、五生、兄四郎長女）は東京府人高橋久郎の養子となれりA二二八（東京市小石川區丸山町一九電大塚五八一）

高橋功　正五位勲五等、海軍大尉、高等海員審判官兼遞信技師、所理事官兼遞信局技師、東京高等商船學校教授、東京帝國大學工學部講師
妻　靜子　明二五、八生、東京、矢野漸妹
男　寛　大二、一二生
君は愛媛縣人高橋元萬の二男にして明治十八年三月十三日を以て生れ大正六年兄元吉方より分れて一家を創立す明治四十三年商船學校航海科を卒業し鳥羽商船學校教諭兩滿洲汽船會社其他の汽船會社に勤務し大正八年遞信局技師兼地方海員審判官に任ぜられ地方海員審判所審判官兼遞信局技師を經て昭和七年高等海員審判所理事官兼遞信技師兼遞信局技師に任ぜられ同九年東京高等商船學校教授を兼ね東京帝國大學工學部講師を囑託せらる倫敦に開催の萬國船舶信號書改訂會議に帝國委員として參列昭和三年十月より同五年十月迄同地に滯在せり家族は尚二男晃（大九、五生）長女千惠（同一一、八生）三男理（同一四、九生）四男達（昭二、五生）あり（東京市大森區馬込町東二ノ一一三四電大森四〇〇七）

高橋幸吉　昭和製鋼所長野縣多額納稅者、洋物商
長野縣在籍
妻　よし　明二六、二生、東京、河野梅之助長女
養子　忠雄　大五、八生、長野、宮原幸藏二男
君は長野縣人高橋豊吉の三男にして明治十七年十月十

日を以て生れ同四十三年兄熊太郎方より分れて一家を創立す洋物商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙妹いわ(明二三、一生)ありA五五一B一三六(長野市大字長野岩石町三四二)

高橋幸三

妻　龍　明二一、四生
庶子　春雄　大五、四生、庄母、大阪、森川ハル
君は大阪府人高橋隈二の四男にして明治十六年十一月十六日を以て生れ兄豊次郎方より分れて一家を創立す現時高橋商店代表社員にして前記各會社の重役を兼ぬ曩に長谷川石油興業東洋工業各會社重役たり昭和五年歐洲及南洋を視察す庶子ナツ(明四五、七生)同マサ枝(大八、二生)同ィチ子(同一二、一生)は共に其生母大阪府人森川秀雄母ハルの養子となれりA二八二一(大阪市東區本町三ノ二〇ノ一電本町四七六)

高橋興一

母　キン　十八銀行㈱取締役兼大阪支店長大阪府士族　萬延元、九生、長崎、永見得十郎二女
妻　ケイ　明二四、四生、長崎、淺田勝次郎二女
男　貞一　大元、一二生
女　智惠子　大八、三生
君は大阪府人高橋守太郎の長男にして明治十九年八月十四日を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治四十二年慶應義塾理財科を卒業し現時十八銀行取締役兼大阪支店長たり家族は尙二男次郎(大四、九生)二女喜代子(同一一、二生)三女榮子(昭三、一〇生)ありA四五五(大阪市西區江戸堀下通三ノ七電土佐堀一二九一)

參照‖※桐山一男の項

高橋是賢

妻　愛子　明二一、一二生、伯爵黑木三次妹
男　賢一　大三、三生
女　照　大元、一二生
　　豔　大五、一二生
君は元内閣總理大臣高橋是清の長男にして高橋是福の兄たり明治十年三月を以て生れ大正十三年父是清退隱分家に依り家督を相續し學爵被仰付現時日本酸素會社生)三男康三(同八、一生)四女多恵子(同一〇、一〇生)あり妹和喜子(明二四、五生)は侯爵大久保利武弟利賢に嫁せりA五七一六(東京市麻布區笄町一〇九電青山六六八〇)

參照‖伯爵黑木三次、大久保利賢、高橋是清、高橋是福※公爵伊藤博精※伯爵黑田清※川田正雄の項

高橋是清

妻　しな　從二位勳一等、内閣總理大臣禮遇東京府在籍　慶應元、九生、鹿兒島、士、原田金左衛門長女
男　是彰　明三四、一生
婦　賴　明四三、一生、六男是彰妻、栃木菊地武彦姪
養子　美代　大四、七生、東京、高橋是一三女東洋英和女學校出身
　　榮　大六、一生、東京、高橋是一四女
君は舊仙臺士高橋是忠の長男にして安政元年七月を以て生る君實は舊幕臣川村庄右衛門の子にして乳兒の時當家の養ふ所となり其姓を襲ふ慶應年間藩命を奉じ横濱に出で英學を修め米國に留學せしも維新の驟變に際し學資の途を絶たれ其に辛苦を嘗め歸朝して開成學校に入り後大學少數授に任じ尋で文部省十等出仕となる爾來大阪英語學校長農商務省調査課長特許局長東京農林學校長等に歷任明治二十三年勸業銀山事件に全權委員となり同地に航し折衝頗る勉む同二十五年日本銀行に入り建築事務主任となり漸次昇進して同行副總裁に推さる大正二年山本内閣に入り大藏大臣に親任せられ原内閣の時再び大藏大臣に重任宰相原氏横死の事あるや大命を拜して總理大臣に任じ立憲政友會總裁に推さる先是日露の役に財務官として歐米諸國に差遣せられ又平和克復後外債處分に當り功あり男爵を授けられ大正九年日獨戰役の功により子爵に陞され貴族議員に勅選せらる同十三年總選擧に方り分家して一平民となり盛岡市より衆議院議員に當選加藤内閣に列し農商務大臣に任じ次で農林大臣に任じ商工大臣を兼ぬ同十四年政友會總裁を故田中義一男に讓り閒居す昭和二年四月財界の危機に際し若槻内閣に代り田中内閣の組織さるゝや大藏大臣に任じ鈴意財界の安定を計り同年六月辭し安田保善社顧問たりしが同六年十二月犬養内閣に入り再び大藏大臣に任じ同七年七月齋藤内閣の組織と共に引續き大藏大臣に親任せられ同九年七月辭して野に下る家族は尙孫是養(昭四、二生、六男是彰長男)同順次(同五、一二生、同二男)あり長男是賢(明一〇、三生)は子爵を襲ひ二男是福(同一四、六生)五男是孝(同二六、六生)は各分家し養子眞喜(同四二、八生、東京、高橋是利長女、雙葉高女出身)及同喜美(大二、六生、同二女、田身校同上)は他家に嫁せり(東京市赤坂區表町三ノ一〇電青山三八〇〇)

參照‖子爵高橋是賢、菊池武彦、高橋是福※伯爵黑木三次※兒玉謙次の項

高橋是福

妻　多美　帝都座㈱社長、銀座興業㈱代表取締役、日本酸素㈱專務取締役東京府在籍　明一四、八生、東京、守安瀧次郎姉
男　祐一　大三、一一生
女　元　明四三、二生
君は元内閣總理大臣高橋是清の二男にして子爵高橋是賢の弟なり明治十四年六月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す夙に横濱商業學校を卒業し三井物產會社に入り米國紐育に赴き歸朝後大正五年之を罷め日本酸素會社を創立し現時其專務取締役にして帝都座社長及銀座興業會社代表取締役を兼ぬ釣魚を趣味とす家族は尙二男良二(大七、一〇生)五女立(同一〇、八生)六女正(同一一、六生)三男俊夫(昭七、二生)七女光(同八、八生)あり長女恭(明三五、九生)は名倉謙藏長男醫學博士重雄に二女福(同三七、二生)は公爵伊藤博精に嫁せりA一五五〇(東京市麻布區三番町六ノ一二電九段三八〇五)

參照‖公爵伊藤博精子、爵高橋是賢、高橋是清、名

倉謙藏、守安瀧次郎の項

高橋佐一郎

旅館業　兵庫縣在籍
養父　芳松　安政六、七生
妻　なみ　明二〇、九生、養父芳松二女
男　善吉　明四一、一〇生
婦　きしゑ　明四二、九生、長男善吉妻、兵庫安富清吉四女
女　加壽子　大五、七生
君は兵庫縣人中川吉次郎の二男にして明治二十一年八月六日を以て生れ同四十年先代芳松の養子となり大正十年家督を相續す現に旅館業を營む家族は尙孫三惠(昭七、二生、長男善吉長女)妹やす(明三二、九生)同夫飯(同三二、四生、兵庫安本久平五男)及其四子ありA八五〇(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋樋口新田)

高橋才治郎

高橋才治郎商店㈲無限責任社員、佛具金物商、京都府在籍
男　佐次郎　明三一、一一生
婦　みつ　明三三、一二生、長男佐次郎妻、京都、栗山庄次郎養子
女　タマ　明三〇、八生
君は京都府人土田佐兵衛の二男にして慶應元年五月十二日を以て生れ先代クマの養子となり明治十五年家督を相續す夙に櫻田佛具店に勤務し同二十年獨立して同業を創む爾來剿苦經營して遂に今日の隆盛を見るに至る現時高橋才治郎商店の無限責任社員にして義に京都府多額納稅者たり家族は尙孫喜美(昭四、一生、長男佐次郎二女)あり長女タカ(明二三、七生)は京都府人長谷川治郎吉に嫁し三女ふく(同二八、一生)二男貞三(同三三、二生)三男才三(同三五、六生)は各分家せりA三一〇(京都市下京區寺町通佛光寺下ル稟美須之町電下三二九)

高橋貞夫

從四位勳二等功五級、陸軍中將、東京府在籍
養父　義章　明二五、一〇生、養父義章長女、女子學習院出身
妻　節子　大二、二生、慶大在學
男　義昭

君は廣島縣士族森本粲祐の三男にして明治十六年三月十四日を以て生れ同四十三年高橋義章の養子となる同三十五年陸軍士官學校を卒業し翌年砲兵少尉に任じ昭和九年八月陸軍中將に累進す其間明治三十七八年日露戰役に於て第四軍に從軍し同四十五年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し東京砲兵工廠に來職大正七年歐洲に於ける英國出征軍に從軍續いて平和條約實施委員として獨逸に駐在す同十年歸朝再び東京砲兵工廠に奉職し昭和二年遞繼に派遣せられ同三年陸軍技術部附に補せられ米國に駐在を命ぜらる昭和五年歸朝同七年陸軍造兵廠東京工廠長を經て小倉工廠長に補せられ現に其任にあり實兄佐伯惠眼は大僧正にして京都醍醐寺三寶院門跡醍醐派管長を勤む家族は尙二男弘(大四、一二生、北大豫科在學)三男譲(同一一、七生)あり長女靖子(明四四、五生、成蹊高女出身)は工學士丹羽良彦に嫁せりA一四八(戸畑市東本町二〇四電小倉一九六九)

高橋里美

從四位勳三等、東北帝國大學教授法文學部勤務、山形縣在籍
妻　まり　明一九、一生、東京女高師文科出身
男　雄一郎　大三、七生、東北學院高等部在學
女　ふさ子　大四、一生、宮城縣立女子專門學校在學
君は山形縣人にして明治十九年十一月二十八日を以て生れ同四十三年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正五年第六高等學校教授同八年新潟高等學校教授同十年東北帝國大學助教授に歷任同十四年獨逸へ留學し歸朝後昭和三年東北帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙二男譲治(大六、八生、縣立仙臺一中在學)三男越郎(同八、一一生)四男俊(同一〇、一一生)あり(仙臺市花壇町一)

高橋三吉

從四位勳二等功五級、海軍中將、第二艦隊司令長官、東京府在籍
妻　豔　明二一、九生、山口、士、佐伯胤貞長女
男　信一　明四二、八生
婦　祝　大三、一生、長男信一妻、東京、藤原英三郎養子
男　健二　明四四、九生
女　尙子　大三、四生
女　照子　大六、八生
君は東京府人高橋信孝の三男にして明治十五年八月二十四日を以て生れ大正四年兄豐太郎方より分れて一家を創立す明治三十四年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍中將に累進す其間扶桑艦長軍令部參謀兼參謀本部技術會議々員第一艦隊參謀長兼聯合艦隊參謀長第一航空戰隊司令官海軍大學校長に歷補し昭和八年軍令部次長に補せられ同年十一月第二艦隊司令長官に轉じ今日に至る(東京市芝區白金今里町八三電高輪四五四〇)

參照‖藤原英三郎の項

高橋三省

從四位勳四等、阪神電氣鐵道㈱土木技師長、長野縣在籍
母　ゆき　嘉永三、一二生、長野、士、眞田稔妹
妻　せつ　明一六、一一生、岐阜、西松喬妹
男　公　明三六、一一生、大軌電鐵會社員法學士
男　貞雄　明三九、三生、廣島高等師範學校教授、農學士
男　重雄　明四四、三生、南海鐵道會社員、法學士
男　良雄　大二、七生、早大理工學部在學
女　俊子　大八、二生
君は長縣人高橋綱紀の長男にして明治六年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道技師山陽鐵道會社技師鐵道省技師東部鐵道管理局工務課改良掛長仙臺神戸各鐵道管理局工務課長神戸改良事務所長等に任補し大正十年歐米各國に出張を命ぜられ翌十一年歸朝す現時阪神電氣鐵道會社土木技師長たり家族は尙五男秀雄(大五、四生、三高在學)あり長女きよ(明四一、九生、縣立第一神戸高女出身)は住友信託會社員池内義國に嫁せりA四八八(神戸市灘區王子二ノ二五五電葺合二二五四)

高橋三郎

從七位勳六等、日本生命濟生會事務部長、兵庫縣在籍

妻　琴　明一七、五生、滋賀、西川勝太郎妹　大六、二生
男　克己　明四二、一生
女　貞子　明四四、六生
女　富美子

君は東京府士族北川正武の弟にして明治十二年三月を以て生れ先代たけの養子となり同二十二年家督を相續す東都帝國大學法科大學選科を卒業し明治四十年日本生命保險會社に入り同社祕書局長調査局長祕書部長總務部次長に累進し現時財團法人日本生命濟生會事務部長たり(兵庫縣武庫郡甲東村段上東新田**電西宮九一二**)

高橋三郎

正五位勳五等、逓信技師、電氣局技術課勤務、東京府在籍
妻　卯多子　明三六、三生、福岡、蓮尾與道四女
男　守雄　大六、五生

君は東京府人高橋良鳳の三男にして明治二十三年八月を以て生れ大正十二年兄勘二方より分れて一家を創立す同四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し直ちに鐵道院に入り同技手に任じ後逓信省に轉じ臨時調査局技師兼逓信技師に任ぜられ同八年專任逓信技師となり昭和八年獨瑙二ヶ國(出張を命ぜらる現に逓信技師にして電氣局技術課勤務たり家族は尚二男正昭(昭二、四生)三男三雄(同七、一生)あり(東京市杉並區和泉町三五六)

高橋次助

羅紗洋服商　東京府在籍
養母　トミ　文久二、一二生、東京、岡本鎌之逓四女
妻　はる　明二一、二生、靜岡、高島菊次長女
男　孝　明四五、四生

君は東京府人高橋甚右衛門の二男にして明治十六年三月十日を以て生れ同四十年弟侍郎方より分れて一家を創立す羅紗洋服商を營む家族は尚二男馨(大四、九生)三男逸(同七、一生)四男明(同一〇、六生)あり(A九三三)(東京市京橋區銀座西四ノ五ノ一**電京橋四二八八**)

高橋次郎八

博多商工會議所常議員、貿商　福岡縣在籍

妻・ノブ　明一八、四生、福岡、高橋藤兵衛三女
男　渡　明三三、五生
婦　カヨ　明四〇、五生、長男渡妻、福岡、矢野鎮吉二女

君は福岡縣人樋口喜一郎の長男にして明治十一年七月五日を以て生れ先代藤兵衛の養子となり大正六年家督を相續す質商を營み現時博多商工會議所常議員に擧げらる家族は尚孫昭太郎(昭二、一一生、長男渡長男)あり姉メイ(明一六、七生)は分家せりA四〇七B八八(福岡市千代町**電一七二八**)

高橋鹿之助

袋物卸商　京都府在籍
妻　ノブ　明九、一二生、京都、士、三崎義祥長女
養子　陶四郎　明二九、五生、長女秀夫、長崎、小曾根均治郎弟
女　秀　明三五、一〇生、養子陶四郎妻

君は京都府人高橋新助の長男にして明治五年四月十八日を以て生れ同十七年家督を相續す十數代連綿として袋物卸商を營む「印紙稅法」『賣買仕切書要義』の著述あり家族は尚孫昭太郎(昭二、一一生、長男渡長男)あり弟正治郎(明九、一一生)は分家せりA五七七B一〇〇(京都市下京區寺町通松原下ル

高橋茂太郎

三井物產㈱京城支店長　京都府在籍
妻　ヤスコ　明二三、一生、廣島、福岡文雄叔母
男　哲　大五、六生
女　千代子　大二、五生

君は京都府人高橋利器の長男にして明治九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治三十七年東亞同文書院を卒業し直に三井物產會社に入り上海支店に在勤後漢口支店長大連支店次長を經て同社木材部長兼小樽支店長となり現時京城支店長たり家族は尚三男宣之(大七、八生)二女直子(同九、七生)四男玄(同一〇、九生)弟昌次(明一ヵ、九生)同妻シヅ(同二五、五生、栃木、印南義勝姉)あり(京城府黃金町一ノ六三三井物產會社京城支店內)

高橋繁子

金融業　神奈川縣在籍
母　たけ　明一一、一二生、東京、西田兼治姉

君は東京府人高橋髮次郎の三女にして明治四十二年十一月一日を以て生れ昭和五年先代姉たまの後を承け家督を相續す金融業を營む姉たまに嫁せりA九二一(横濱市中區山王町二ノ一四**電長者町二六四二**)

高橋壽太郎

從四位勳二等功四級、海軍少將、衆議院議員(岩手縣選出)　岩手縣在籍
妻　ミネ　明一五、九生、岩手、小笠原半平妹
男　三郎　大一〇、二生
女　彌壽子　明四四、九生

君は岩手縣人高橋福彌の三男にして明治十二年一月を以て大正十年分れて一家を創立す明治三十五年海軍少尉に任じ大正十三年海軍少將に累進す其間富士分隊長海軍々令部參謀海軍大學校教官兼陸軍大學校兵學教官海軍大學校教頭海軍砲術學校長第一水雷戰隊司令官等に歷補し日露日獨兩戰の功に依り功四級を賜はり昭和三年豫備役に編入さる同五年衆議院議員に當選し同七年再選す國民同盟所屬たり家族は尚四女球磨子(大一、七生)あり長女フジ(明四〇、八生)は大分縣人舟橋喜一長男諍一に嫁せりA一七一(東京市目黑區自由ヶ丘一二一)

参照＝舟橋喜一の項

高橋周而

從四位勳三等、文學博士、侍醫、新潟縣士族
母　セキ　安政六、三生、新潟、士、山本廣長妹
妻　すて　明二七、一生、福井、阿部士作姉
男　弘一　大一一、六生

君は新潟縣士族高橋周清の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學文科大學獨文學科を卒業し第四高等學校教授學習院教授等に歷任し現時大阪外國語學校教授たり家族は尚弟清(明二一、九生)同妻ミヨ(同二六、八生、

東京、蒲生庄七三女)及其二子弟浩(同二六、一生)同妻梅子(同三五、一生、奈良、保井憎造長女)及其子女あり(大阪市住吉區天王寺町三一七三電天王寺一二六〇)

参照＝※見波定治の項

高橋周三

正五位勳五等、專賣局參事、高崎地方專賣局長、東京府在籍
妻　彊　明二八、一一生、神奈川、押野貞次郎長女
男　慣一　大五、五生

君は北海道人高橋兼次郎の五男にして明治二十四年一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す同四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格す司法官試補稅務監督局屬兼大藏屬を經て同七年副司稅官水濱稅務署長となり司稅官稅關事務官內閣拓殖局書記官兼大藏書記官拓務書記官等に歷任し昭和七年專賣局參事に任ぜられ函館地方專賣局長より轉じて現在に至る家族は尚二男謙二(大七、一生)あり(東京市杉並區高圓寺四ノ五五七電**中野二九二四**)

高橋純一

從四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勤務
妻　ゆき　明二五、一二生、東京、武宮一長女
男　隆一　大二、七生

君は岩手縣人高橋惠琨の三男にして明治二十年八月を以て生れ大正十三年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し翌三年新潟縣立長岡中學校教諭に任じ爾來縣立長崎中學校教諭第四高等學校教授等を經て同十年東北帝國大學助教授に轉じ同十二年理學博士の學位を受け歐米各國に留學を命ぜらる現時同大學教授理學部勤務にして石油礦床學講座を擔任し學術研究會議地理學本邦委員たり昭和九年歐米各國に出張を命ぜらる著書に「石油礦床新論」「地理通論」等あり家族は尚二男研(大七、一生)三男洋(同一三、一生)あり(仙臺市東二番丁一五〇**電二二四**)

高橋庄之助

東京府會議員、岡田商店㈱取締役　飛州木材㈱監査役、東京府在籍
妻　き く　明一六、六生、東京、山口吉太郎妹

男　新太郎　明四三、九生
男　正之助　大元、一〇生

君は東京府人高橋德太郎の弟にして明治十三年三月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして又東京府會議員たり養に東京市會會員に擧げられ莊川木材日本木工大和海運富士漁業東京木材市場大日本林業各會社の重役たりしことあり家族は尚四男德三郎(大四、九生)五男龜之助(同五、一二生)三女捨子(同九、四生)あり長女さだ(明四〇、三生)は宮城縣人菅原勝五郎二男忠治郎に嫁せり(東京市深川區龜住町七**電本所三四七一**)

高橋昇之助

横濱正金銀行㈱東京頭取席檢査課員、和歌山縣士族
妻　今子　明二二、八生、和歌山、山東岩五郎養子

君は和歌山縣人薗村紋右衛門の二男にして明治十六年七月を以て生れ同三十八年叔父高橋華陽の死跡を相續す同三十九年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り大正七年同行羅府分店支配人代理同店副支配人本店副支配人を經て現時横濱正金銀行東京頭取席檢査課員たり家族は尚長女菊榮(大一一、九生)ありA二八三(横濱市鶴見區東寺尾町東臺二二四一**電鶴見一五六二**)

高橋章臣

從三位勳二等、奈良女子高等師範學校名譽教授、東京府在籍
妻　うら　明二、八生、宮城、今泉傳吉二女
男　勝枝　明三二、二生
女　よしの　明三三、三生、奈良女高師附屬高女出身
男　善治　明三九、一一生、理學士
男　貞松　明四一、三生、東京帝國大學在學
女　なつ子　明四二、六生、奈良女高師附屬高女出身

君は東京府人高橋和吉の長男にして慶應元年五月六日を以て生れ明治四十年家督を相續す同二十三年東京高等師範學校博物學部を卒業し同校助教諭同教授に歷任し同三十四年理科教授法及植物學研究の爲め三ヶ年獨逸に留學す同四十二年奈良女子高等師範學校創立に際し同校首席教授に轉じ生徒主事を兼ねしも昭和七年退官し現時同校名譽教授たり(東京市目黑區洗足町一四四九)

高橋信

從四位勳三等、醫學博士、侍醫、侍醫寮醫事課長、大分縣士族
母　タカ　文久二、二生、大分、島本良左衛門二女
妻　清　明二六、一生、故海軍々醫中將本多忠夫長女、學習院女學部出身
男　忠義　大八、八生
女　英子　大五、六生、東洋英和女學校出身

君は大分縣士族高橋義信の長男にして明治十六年十二月を以て生る同四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入り故青山胤通博士の下に內科醫學を專攻し大正二年獨英各國に留學同五年侍醫を拜命し昭和七年侍醫寮醫事課長を兼務して今日に至る蘇に大正六年醫學博士の學位を受く家族は尚二男好文(大一〇、八生)四男建春(昭三、一一生)あり三男明知(大一四、四生)は東京府人本多はるの養子となれり(東京市麻布區霞元町一ノ二七電**赤坂一八二三**)

参照＝※菊地武彥※橋本喜助の項

高橋眞八

從四位勳三等功五級、陸軍中將、陸軍衆城本部長、香川縣在籍
妻　愛子　明二九、五生、故陸軍中將落合豐三郎二女

君は香川縣人高橋愛三郎の男にして明治九年七月を以て生れ同二十八年家督を相續す同三十三年陸軍工兵少尉に任じ昭和七年陸軍中將に累進す其間工兵第一大隊長築城本部々員佐世保要塞司令官陸軍砲工學校工兵科長等に歷補し昭和七年現職に轉ず陸軍々需審議會委員たり家族は尚二女保子(大一一、四生)の外弟恒次郎(明一二、七生)同妻シケ(同二三、七生、香川、植松榮從姉)及其子女あり長女照子(同三九、九生)は愛媛縣人二宮篤三郎二男義清に妹ヨシエ(同一三、八生)は香川縣人伊賀專藏長男專一に嫁し弟清七(同一六、六生)は分家せり(東京市淀橋區上落合二ノ六〇四**電大塚二三五五**)

参照＝※伯爵園基久の項

高橋新一　家主　兵庫縣在籍
母　はる　明一六、一生、兵庫、橋本重作長女
君は兵庫縣人高橋甫太郎の長男にして明治三十五年一月十八日を以て生れ昭和二年家督を相續す家主たり家族は尚弟英三(明四一、一二生)同良雄(同四五、七生)ありA五六〇(神戸市須磨區櫻木町二ノ一五電須磨九七)

高橋新二　男爵　東京府華族
母　延　明二五、六生、伯爵伊東靖祐妹
當家は先々代新吉より家名を揚ぐ新吉は薩鹿兒島藩士にして夙に英學を修め薩摩字典を編輯し明治三年米國に留學歸朝後租稅寮に出仕し爾來神戸大阪各稅關長紐育領事農商務書記官同商務局長九州鐵道會社長日本勸業銀行總裁に歴任し大正七年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる先代新八は其の長男にして東京帝國大學工科大學を出で神戸川崎造船所技師となり後盛田川造船所を起し其社長に推され其他諸會社の重役たり君は其の長男にして大正七年三月を以て生れ同十二年家督を相續し爵位仰付けらる家族は尚姉壽美(明四五、二生)妹廣子(大一〇、五生)ありA二九七(東京市麻布區富士見町二八電高輪三〇一一)
参照＝伯爵伊東靖祐※子爵伊東二郎丸※伊藤一二の項

高橋甚藏　横濱商工會議所議員、神奈川縣多額納稅者、山城屋本店、茶及紙問屋業、神奈川縣在籍
母　うた　元治元、四生、神奈川、白崎藤次郎長女
妻　よし江　明四〇、五生、靜岡、上村才一郎長女、日本女大附屬高女出身及日本女大家政科修學
君は神奈川縣人高橋甚藏の長男にして明治三十三年七月八日を以て生れ昭和五年家督を相續し前名甚太郎を改め襲名す先是同二年早稻田大學を卒業し山城屋と稱し茶及紙問屋業を營み縣下の多額納稅者に列し帝國稅二千二百八十八圓を納む又横濱商工會議所議員たり家族は尚長女千枝子(昭四、二生)妹みさを(明四〇、五生、錺倉高女出身)あり姉ツル(明二四、九生)は東京府人鈴木善五郎長男彦太郎に同スエ(同二九、五生)は山形縣人海軍少佐三菱重工業會社長崎造船所參事佐々木得定に嫁ウタ(同三三、八生)は神奈川縣人相原富次郎の養子となり同たか(同一四、一一生)同いと(同二六、九生)同すゑ(同三〇、四生)は各分家せり(横濱市中區石崎町一ノ三電長者町一七〇六、別宅)神奈川縣高座郡茅ヶ崎町上町四八一七(舊眞人館)
参照＝楊瀾信平の項

高橋末治郎　從五位勳六等、鐵道技師、大阪改良事務所勤務、京都府在籍
妻　千代　明二六、二生、京都、佐治常治郎長女
男　正郎　大八、一主、兵庫縣立第一神戸中學在學
女　チエ子　大六、一生、神戸女學院在學
君は京都府人高橋正博の弟にして明治二十三年九月十一日を以て生れ先代ことの養子となり同四十五年家督を相續す大正六年京都帝國大學工科大學土木工學科を卒業後鐵道技手に任じ同九年鐵道技師に進み教習所講師を命ぜらる同十四年在外研究員として歐米各國に出張昭和二年歸朝し大阪改良事務所勤務を命ぜられ現在に及ぶ家族は尚二男吉郎(大一四、二生)あり(兵庫縣武庫郡盧屋驛構内官舍)

高橋佐記　地家主　東京府在籍
繼母　ます　明一七、三生、東京、增山寺次郎三女
妻　みさきち　明二四、三生、東京、片岡久太郎大五、二生
男　卯佐美　大七、三生
女　喜久子　大五、二生
君は東京府人高橋卯源次の長男にして明治十八年十月十九日を以て生れ昭和四年家督を相續す地家主たり家族は尚二男健彦(大九、一一生)三男壯介(同一二、三生)ありA一〇三六(東京市品川區大井立會川町五〇〇を高輪四一五二)

高橋清三郎　家主　大阪府在籍
妻　ハナ　明一四、四生、新潟、漆原直次郎姉

君は大阪府人高橋清次郎の長男にして明治十四年六月二日を以て生れ同三十九年家督を相續す家主たり家族は尚妹イマ(明二一、七生)ありA五五七(大阪市北區高垣町一一六電北八三四八)

高橋清助　名古屋新世界毬取締役、愛知縣在籍
妻　富由子　明三五、一一生、愛知、小川善三郎妹
君は愛知縣人高橋房次郎の三男にして明治二十七年十一月二十七日を以て生れ先代清助の養子となり大正十年家督を相續し前名力次郎を改め襲名す現時株式會社名古屋新世界取締役たり家族は尚長女基子(大一二、二生)ありA八一三(名古屋市西區木挽町一ノ一七電本局二五)
参照＝小川善三郎の項

高橋清三　自石甚兵衛商店毬取締役、東京府在籍
妻　八重子　明三三、五生、東京、高橋友次郎長女
男　忠夫　大二、一二生、京都帝大在學
君は栃木縣人齋藤清一の二男にして明治十九年四月五日を以て生れ先代忠治の養子となり大正十四年家督を相續す現時白石甚兵衛商店取締役たり家族は尚四男寅夫(大一一五、五生)長女小美子(明三、一〇生)五男鐵郎(同六、二生)二女星江(同八、九生)ありA八五三(東京市芝區三田四國町二ノ五電三田三九六八)

高橋清藏　高橋製帽所毬取締役、日本帽子工場組合聯合會理事長、大阪府在籍
母　ワキ　明元、八生、和歌山、三尾卯之市妹
妻　千代　明三一、一生、和歌山、酒井武兵衛五女
男　章　大一〇、三生
高橋家は先々代清五郎泉州岸和田より大阪に出で一家を創立したるに創まる先代富三郎の後を承け夙に金鶴香水本舗大崎組に入り支配人に進みしが明治二十八年獨立して帽子製造業を創むこれ現時鷹印のマークを以て知られたる高橋製帽所の濫觴なり君は其長男にして明治廿四年二月五日を以て生れ大正十五年家督を相續す同三年神戸高等商業學校を卒業し之が社長たる外日本帽子工業組合聯合會理事長として業界に重きをなし又島田硝子製造所重役たり家族は尚二男淳二(大一一、一生)四男照夫(同一四、二生)の外弟孝次(明二六、一一生、高橋製帽會社專務取締役、大阪高工出身)同妻ツナ(同三二、八生、大阪、鷹森武兵衛三女)及び其子女弟益雄(同三五、二生、三菱會社技師、工學士)妹あき子(同四三、一生、樟蔭高女出身)同富子(大元、一〇生、金蘭高女出身)あり同ユキ(明三〇、一一生)は大阪府人吉崎卯之助長男百藏に同マキ(同三二、四生)は同府人島田孫市三男三郎に同ミキ(同三七、七生)は同府人西松とめ襲二郎に嫁せりA三五八(大阪市北區善源寺町九ノ五〇電東二四一一)
参照＝鷹森武兵衛、吉崎卯之助の項

高橋清太郎　養產家　東京府在籍
君は東京府人高橋清七の長男にして明治三十八年一月十六日を以て生れ大正三年家督を相續す養產家として知らる家族は尚弟實(明四二、五生)及叔父鋹之助(同一五、七生)同妻はつ(同二二、一〇生、神奈川、君田久次郎長女)從妹恒子(大五、七生、叔父鋹之助長女)あり叔母岡子(明二四、一〇生)は分家すA一六五三(東京市芝區神谷町一二電芝一三八五)

高橋誠一郎　慶應義塾大學經濟學部及法學部教授、經濟學科大學講師、同圖書館監督、東京文理科大學講師、神奈川縣在籍
母　フデ　明二、一生、新潟、須田勝十郎四女
君は神奈川縣人高橋次太郎の長男にして明治十七年五月九日を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十一年慶應義塾大學部政治學科を卒業し直に同塾普通部教員となる翌四十二年大學部豫科教員に轉じ同四十四年より大正三年に至る間英國に留學し歸朝後大學部理財學科教授に進む大正九年經濟學部教授兼法學部教授となり昭和八年圖書館監督を兼務同九年四月經濟學部長に擧げらる(神奈川縣中郡大磯町五城山五二九電八八)

高橋誠三　安田銀行毬井原支店長、岡山縣在籍
以久代　明一一、八生、岡山、渡邊玄敬二女
男　憲　明四一、八生
男　敏郎　明四四、三生
女　蕃滿子　大六、四生
君は岡山縣人高橋良平の二男にして明治十四年二月二十三日を以て生れ同四十一年家督を相續す大正十年安田銀行に入り現時同行井原支店長たり(岡山縣後月郡井原町安田銀行支店内)

高橋誠之輔　金十三金酒店、酒類商　東京府在籍
榮父　金一　明三五、三生、東京、高橋金七長男
母　くに　明三、一一生、栃木、高藤要藏妹
君は東京府人高橋金七の二男にして明治三十六年七月を以て生れ昭和二年兄金一の榮子となり同年二月金一隱居に因り家督を相續す明治元年金七の創業せし酒商を繼承し現時金十三金酒店主たり妹御代(明三九、一生)は新潟縣人雜波又三郎長男又作に嫁せりA三八一(東京市神田區東松下町五三電濱花一九〇八)

高橋節雄　從四位勳二等、功五級、海軍少將　東京府在籍
妻　ヤス　明一五、四生、島根、朝日千助長女
男　武雄　明三九、一二生、
榮子　靜江　明四五、七生、島根、高橋亮二女
男　元雄　大元、九生
君は島根縣人高橋傳藏の二男にして明治十一年二月を以て生れ大正二年兄慶太郎方より分れて一家を創立す夙に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ累進を負うて松江少將に陞る後豫備役に編入され養に衆望を負うて松江市長に就任せしことあり長女博子(明四一、八生)は島根縣人木村猛男に嫁せり(東京市品川區上大崎一ノ五〇八電高輪六五七四)

高橋惣太郎　大阪條式取引所取引員、愛知縣在籍
庶子　由雄　明四五、六生、生母、岐阜、正村まさ
君は岐阜縣人高橋惣平の長男にして明治八年一月三日を以て生れ大正十二年家督を相續す現時大阪條式取引所取引員たり家族は尚庶子眞臣(大四、三生、生母、岐阜、正村まさ)あり同ちよ(明三三、八生、生母同上)は愛知縣人近藤鍬吉に嫁せりA二六一八B七〇三(京都市中京區錦小路通高倉西入電本局三三四六)

高橋牲　從四位勳三等、廣島文理科大學生主事兼教授、廣島高等師範學校生徒主事、岡山縣在籍
父　榮三郎　安政六、七生、細父彌十郎長女
母　加那　明一九、二生、岡山、守屋立民二女
妻　壽　明四一、九生
女　紀子　明四五、一生
女　桂子　大三、七生
君は岡山縣人高橋榮三郎の長男にして明治十年六月を以て生れ前名嘉四郎を改め昭和四年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し大學院に入る同三十八年廣島高等師範學校教授に任ぜられ大正四年マーシャルカロリン群島に出張し同九年動物學研究の爲歐米に留學す現時廣島文理科大學學生主事兼教授廣島高等師範學校生徒主事たり家族は尚四女洋子(大一〇、六生)あり妹美(明一八、一〇生)は前記守屋立民二男第三に同久(同二二、九生)は同縣人黑川重吉三男精一郎に嫁し弟彌男(同二九、二生)は兵庫縣人村島正清の養子となれり(廣島市白島町一二一電三三五二)

高橋其三　正四位勳三等、宮中顧問官兼宮別當、長野縣在籍
妻　シゲ　明二七、一〇生、福井、武長佑叔母、日本女大附屬高女出身
男　常道　明四二、七生、大藏省勤務、法學士
女　佐代　大三、一〇生、日本女大附屬高女出身
女　フミ　大五、一二生、日本女大附屬高女出身
君は長野縣士族山崎就正の二男にして明治二十一年十

二月を以て生れ先代佐次郎の養子となり同四十四年家督を相續す同三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し夙に宮内官となり宮内事務官内匠寮會計課長帝室林野局次長等に歴任し現時宮中顧問官兼久邇宮別當たり家族は尙四女道子（大一〇、一生）二男昂（同一三、七生）五女朝子（同一五、一〇生）あり（東京市小石川區駕籠町一四四電大塚六三）

高橋泰次　豊國火災保險會社大阪督業部長

妻　つな　敏夫　大二、一〇生

男　敏夫　大二、一〇生

君は東京府人高橋甚三郎の三男にして明治十三年一月十二日を以て生れ大正十五年兄種吉方より分れて一家を創立す現に豊國火災保險會社大阪督業部長たりA三八二（大阪市天王寺區勝山通四ノ八電天王寺一四二八）

高橋隆　正五位勳五等、州立臺北第一中學校長、靜岡縣在籍

男　靜雄　明三七、六生
婦　貞子　明四五、三生、長男靜雄妻、東京鈴木善吉長女
男　信留　明四二、五生

君は靜岡縣人高橋喜太郎の長男にして明治十三年七月十九日を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し新潟縣立佐渡中學校授業囑託同校教諭香川縣立丸亀中學校教諭北海道廳立濃川中學校臺南第二中學校同第一中學校各校長を經て現時臺北第一中學校長たり家族は尙三男道夫（大八、一一生）長女愛子（明三九、七生）は大阪府人岩田赳夫に二女雪子（同四五、一生）は愛知縣人前田鍵次に嫁せり（臺北市錦町四三）

高橋琢也　正四位勳三等、貴族院議員　廣島縣在籍

男　秀雄　明一〇、六生
婦　靜江　明一四、六生、二男秀妻、島根石倉敎之助姪
男　牛太郎　明一二、一〇生
婦　セツ　明一七、二生、三男牛太郎妻、新潟、大瀧龜五郎長女
男　靜人　明三二、五生
庶子　正八　大元、一一生
庶子　ナハ子　大二、一一生
庶子　藤代　大四、六生
孫　啓子　大五、一二生、三男牛太郎長女

君は廣島縣人高橋久次の長男にして弘化四年十二月を以て生れ後家督を相續す明治三年大學出仕となり東京農林學校教授青森高知各大林區署長農商務技師山林局長沖繩縣知事等に歴任し大正八年貴族院議員に勅選せらる昭和三年巴里に於ける萬國議院商事會議に列席す家族は尙庶子安藝子（大九、一生）孫定芳（同六、一生、三男牛太郎長男）同和雄（同七、一〇生、同二男）あり長女タミ（明八、五生）は故法學博士戸田海市の未亡人にして二女マリ（同一一、一一生）は福岡縣人豊田源一郎に七女北子（同三六、五生）は大阪府人佐々木直一に嫁し四男律人（同一三、八生）同妻はる子（同一三、六生、愛媛、鷄飼碧六二女）は其一男一女を伴ひ分家し四女初枝（同二一、八生）は東京府人玉橋佐重郎に五女登喜（同二三、三生）は千葉縣人寺内松太郎に各養子となり六女カナエ（同二五、四生）も亦山口縣人竹下滿藏の養子となり同人養子文隆と婚姻せりA一六〇（東京市淀橋區柏木一ノ五三電四谷三六五六）

高橋竹藏　越竹商店、朝子問屋業　東京府在籍

祖母　イト　元治元、一一生、德島、安宅義久雄妹
養父　ひで　明一五、一〇生、埼玉、伊丹三省女
妻　たま　明三四、六生、養父竹藏長女
男　太郎　昭五、一一生

君は北海道人若狭德兵衛の叔父にして明治二十九年八月を以て生れ先代竹藏の養子となり昭和三年家督を相續し前名勝德を改め襲名す越竹商店と稱し朝子問屋業を營む家族は尙長女洋子（大一五、九生）二男建二（昭二、一生）の外妹龜代（明四〇、六生）同奉子（同四五、七、一生）同千枝子（大五、四生）同ひさ子（同七、四生）あり同梅子（明四二、三生）は東京府人川田左門次四男文平に嫁せりA一一六四B二〇六（東京市芝區新橋六ノ一二電芝二三三三九）

高橋武美　正五位勳四等、農林省畜産局長　山口縣在籍

祖母　トヨ　天保二、二生、山口、森山七郎右衛門長女
父　清助　安政二、三生、現戸主
母　ヒナ　元治元、四生、山口、下村文次郎長女
妻　美代　明三〇、一一生、東京、松本留吉長女、跡見女學校出身
男　良知　大七、三生

君は山口縣人高橋清助の長男にして明治二十五年二月を以て生る大正二年神戸高等商業學校を卒へ文官高等試驗に合格し更に東京高等商業學校專攻部に入り同四年是を卒業す爾來農商務軍務官農商務書記官農林局事務官兼農商務軍務官農商務書記官農林局産業組合課長營林局事務官東京營林局長等に任補し昭和八年農林省畜産局長に轉ず襲に關領東印度ヒリツピン及漆洲に出張し又歐米各國を視察す家族は尙長女輝子（大一〇、九生）二女昌代（同一三、二生）三女富美子（同一五、四生）二男幹明（昭三、三生）あり弟昊（明二七、一一生）は分家して現に醫を開業し妹幸子（同三六、二生）は山口縣人高崎保介に嫁せり（東京市四谷區傳馬町一ノ四六電四谷三〇三八）

参照＝松本留吉※岡田顯三※中内鉞一郎の項

高橋忠男　青果卸商　京都府在籍

母　テル　明二七、七生、京都、高橋寅吉四女

君は京都府人高橋忠太郎の二男にして大正九年九月を以て生れ昭和九年家督を相續す青果卸商を營む家族は尙二女ヒデ子（大六、六生）三男金次郎（同一二、五生）同四男英次（昭五、六生）ありA一五四四B二八三（京都市下京區七條通猪熊東入電下一七二一）

高橋辰次郎　從三位勳三等、工學博士、大蒸興業株式會社長、東京灣土地株式會社取締役、大倉土木株式會社顧問、東京府士族

妻　みつ　明八、九生、東京、士、櫻本武興二女
男　政一　明三一、一〇生、慶大經濟學部出身、三井銀行員

婦　千鶴子　明四〇、一生、長男政一妻、東京山田馬次郎長女
男　武二　明三三、四生、早大商學部出身、三共株式會社紐育出張所勤務
婦　美枝　大元、一一生、二男武二妻、神奈川、猪俣昌藏長女
男　省三　明三四、九生、慶大經濟學部出
婦　秀子　明四二、九生、三男省三妻、長野丸山浦治郎三女
男　晋吾　明三八、一生、大倉スマトラ農場勤務、農學士

君は東京府士族高橋亘の長男にして明治元年八月一日を以て生れ同三十八年家督を相續す同二十四年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し夙に臺灣總督府技師に任じ同府土木局技師作業所長土木局長等に歴補し大正八年工學博士の學位を授與せらる後辭して實業界に投じ現時大湊興業會社長たる外前記會社の重役にして大倉土木會社顧問たり襲に臺灣電力會社顧問たりし事あり家族は尙孫美千子（昭四、九生、長男政一長女）同孝一（同七、四生、三男省三長男）あり長女美枝（明四二、三生、聖心女子學院出身）は東京府人吳祐吉に妹せき（同一五、六生）は同府人片山徹吉に嫁せりA四〇〇（東京市荏原區中延町一一〇〇電高輪一八二二）

参照＝片山徹吉、山田馬次郎の項

高橋龍造　愛知銀行、愛知物産組各株監査役　三重縣在籍

男　龍雄　明二六、八生
婦　富美代　明三六、七生、長男龍雄妻、東京七海兵吉二女

君は舊米澤藩士高橋孝次の二男にして明治元年十月を以て生れ同四十四年兄盛藏方より分れて一家を創立す現時愛知銀行及株式會社愛知物産組等の重役たり家族は尙孫泰雄（昭四、九生、長男龍雄二男）同孫豊（同七、一一生、同三男）ありA三八二（名古屋市東區主税町三ノ一五電聚二二三九）

高橋保　衆議院議員（長野縣選出）、高橋商事株式會社長、信濃水電株式會社專務取締役、東信電氣、昭和鋼管、昭和肥料各株式會社常務取締役、畢川電力、長野電燈、梓川電力、東洋水力電氣、諏

高橋千代造　家主　大阪府士族

妻　ムラ　明一七、四生、大阪、米田重太郎女
女　和歌子　明四二、二生

君は大阪府人高橋義輝の長男にして明治三年十二月二十日を以て生れ大正四年家督を相續す家族は尙二女雛子（大九、二生）ありA四八五（大阪市東區寺町相山町一四〇）

高橋長次郎　材木商、家主　東京府在籍

妻　たけ　明一二、七生、茨城、大矢金太郎二女
養子　三之助　明二八、五生、長女とく夫、埼玉矢島浦吉三男
女　とく　明三一、九生、養子三之助妻

君は栃木縣人高橋善次郎の長男にして明治七年一月十八日を以て生れ同三十一年兄善太郎方より分れて一家を創立す村木商にして家主たり家族は尙孫長一（大一二、四生、養子三之助長男）同保二（同一三、四生、同二男）同兌子（昭三、五生、同長女）同秀幸（同七、二生、同三男）同璋子（同九、一生、同二女）ありA九三〇（東京市本所區柳原町三ノ二〇電本所一三八七）

高橋定一　家主　大阪府在籍

祖父　定治郎　安政四、二生、現戸主
父　峯三郎　明一〇、九生、大阪、高橋作兵衛二男
母　キノ　明一七、一生、祖父定治郎長女

君は大阪府人高橋定治郎の孫にして大正二年十二月三日を以て生る家主たり家族は尙姉貞子（明四三、一生）あり同きよ（同三六、一〇生）叔母チヨ（同二四、六生）は各分家し同トセ（同一九、一一生）は大阪府人高橋伊三郎に同サト（同二七、一一生）は同府人大音彌吉に各嫁し同末野（同三四、三生）は同府人中井虎藏の養子となれりA一一五六（大阪市東淀川區木川東之町二ノ三〇電北三八六一）

高橋貞二　盛文館、大同書院各株式會社取締役、高橋尙文堂、書籍商、大阪府在籍

庶子　貞郎　明三六、一生、生母、大阪、水野運動具店勤務、大倉高等商業出身
婦　寛代子　明四五、一生、庶子貞郎妻、兵庫大橋延次郎長女
孫　恒夫　昭七、一二生

君は岐阜縣人先代藤七の二男にして明治十一年六月五日を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す高橋尙文堂と稱し書籍商を營む現時盛文館大同書院の重役たり庶子君子（明三三、八生、生母、大阪、水野ゆき）同繁子（同三八、一二生、生母同）は大阪府人水野利八の養子となるA八九五B二五二（大阪市北區芝田町七〇電北二四〇三）

高橋貞太郎　復興建築助成株式會社技師　滋賀縣在籍

父　安吉　明元、一一生、現戸主
母　貞　明一八、一〇生、東京、渡邊直貞長女
妻　富貴　明三六、七生、福島、太田豊造二男
男　敏夫　大一四、四生

君は滋賀縣人高橋安吉の長男にして明治二十五年六月二十六日を以て生る復興建築助成會社技師たり家族は尙三男英夫（昭四、一一生）ありA三四〇（東京市赤坂區

檜町一二電青山一七三九）

高橋　偵造　正四位勳三等、農學博士、東京帝國大學教授、農學部勤務、長野縣在籍

妻　と　せ　明二一、一生、山梨、加賀美美恒二女
男　智　廣　明三九、一一生
男　茂　廣　明四二、四生
男　康　廣　大元、一〇生
女　ミチ子　大四、一〇生

君は長野縣人高橋茂右衛門の長男にして明治八年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同三十九年東京帝國大學農科大學助教授に任じ同四十年農學博士の學位を受く大正十一年同教授に陞任し今日に至る曾て滿國及米國に歴遊せられし事あり家族は尚四男雅弘（大八、八生）あり弟周兒（明一六、二生）同妻とく（同二〇、八生長野、高橋雄次郎三女）は其子女と共に分家し弟篤（同二二、三生）も亦分家せりA二七五（東京市本郷區駒込動坂町三二十電小石川五二五二）

高橋　禎二　正五位勳六等、第四高等學校教授、東京府在籍

養母　ひで　明三一、八生、養祖父宗八長女
妻　ふ　み　明一二、五生、養祖父宗八長女、御茶の水高女出身
男　駒　大八、七生

君は千葉縣人鈴木稔の弟にして明治二十三年五月を以て生れ先代織之助の養子となり昭和五年家督を相續す大正四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同八年第四高等學校教授に任じ今日に及ぶ同十三年歐米各國に留學を命ぜらる「文學原論」等數種の著あり家族は尚三男泰（大一二、三生）長女眞理子（同一三、九生）四男邁（昭二、一生）二女惠美子（同三、二生）三女ちづ子（同四、一二生）紫貴美（明三四、一生）ありA一四六〇（金澤市百々女木町七六〇「別宅」東京市品川區上大崎中丸四四九電高輪一〇三〇）

高橋　鑑五郎　中村屋、砂糖商、東京府在籍

妻　ヒデ　明一五、二生、東京、高見澤茂吉二女
男　榮　一　明四四、三生
養子　謙　吉　明三六、一〇生、三女富夫、東京足立和市六男
女　富　明四〇、四生、養子謙吉妻

君は埼玉縣人小山磯太郎の弟にして明治八年五月一日を以て生れ同三十三年高橋蘇兵衛の養子となり大正五年分れて一家を創立し中村屋と稱し砂糖商を營む家族は尚孫恭一（昭五、七生、養子謙吉長男）同二男千元（同八、一生）ありA四八九（東京市淺草區北清島町七電下谷七二二・七八九）

高橋　鐵次郎　金魚商、東京府在籍

妻　さ　ん　明一四、一生、東京、三浦清治郎四女
男　藏　二　明三四、一一生
婦　よ　ね　明四一、五生、東京、町山孫右衛門二女

君は東京府人先代高橋鐵次郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名勝之助を改め襲名す金魚商を營む家族は尚孫直一（昭五、一一生、長男藏二長男）同英雄（同七、一二生、同二男）同和子（同四、一生、同長女）二女けい（明四〇、七生）三女利（同四二、四生）あり長女惠美（同三六、一〇生）は千葉縣人齋藤新次郎養子義也に嫁せりA五八〇B七〇（東京市深川區深川西町三ノ一一電本所二二七七）

高橋　亨　從四位勳三等、文學博士、京城帝國大學教授、法文學部勤務、新潟縣在籍

父　茂一郎　安政元、六生、新潟、士、長澤金太郎二男、現戸主
母　セ　イ　文久二、一〇生、新潟、士、九里美津平養妹
妻　ゆ　う　明一二、一二生、岐阜、塚原はな長女
男　槙太郎　明三八、一二生
男　洋次郎　明四〇、三生
男　鳳三郎　明四二、一一生
男　龍四郎　大二、九生

君は新潟縣人高橋茂一郎の長男にして明治十一年十二月三日を以て生る同三十五年東京帝國大學文科大學支那哲學科を卒業し京北中學校早稻田大學各講師京城官立中學校教諭漢城高等學校教授京城高等普通學校教諭大邱高等普通學校長朝鮮總督府視學官京城專修學校教授法學專門學校京城帝國大學豫科各教授に歴任し大正十五年京城帝國大學教授に任じ現に法文學部勤務たり曩に同八年文學博士の學位を受け同十年歐米に出張を命ぜらる家族は尚五男麟五郎（同八、三生）三女菊江（同一四、一一生）六男坤六郎（昭二、六生）あり妹ジュン（明一四、九生）は新潟縣人高橋權次郎に同ムラ（同一七、七生）は同縣人近藤勘治郎弟潤治郎に嫁せり（京城府宮井洞五五電光化門一六六七）

參照‖近藤勘治郎の項

高橋　德三　質商、東京府在籍

妻　か　ね　明一九、一〇生、千葉、澤田象三郎三女
男　彦太郎　明三八、三生
婦　ぎん子　明四四、八生、群馬、飯野寅造四女
男　林之助　明四一、一一生、慶應普通部出身
女　て　う　明四二、一二生、山脇高女出身
女　て　い　明四五、三生、山脇高女出身
女　久　子　大八、五生

君は東京府人高橋治兵衛の二男にして明治十一年十一月を以て生れ先代治郎八の養子となり明治十七年家督を相續す同三十四年質商を創め今日に及べり家族は尚三男信平（大六、一一生）五女治子（同一五、九生）ありA四四八B一〇五（東京市京橋區越前堀三ノ三ノ六電京橋三六八四）

高橋　利喬　九州電力株式會社常務取締役、大淀川水力電氣株式會社監査役、東京府在籍

妻　榮　明二五、六生、東京、松永讓長女
養子　祐　二　大一二、八生、福島、高橋信將從弟

君は福島縣人高橋信將の叔父にして明治十四年二月を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す明治四十年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役にして麗に

電氣化學工業會社常務取締役たり（東京市淀橋區十二社四〇四）

高橋　俊雄　千代田生命保險（互）庶務課長、東京府在籍

妻　み　つ　明三〇、六生、東京、倉橋覺太郎長女

君は山形縣人高橋義兵衛の長男にして明治十九年八月を以て生れ大正七年家督を相續す同三年慶應義塾理財科を卒業し千代田生命保險會社に入り庶務課長金澤支店長第二徴收課長を經て再び庶務課長となれり家族は尚弟務一（明三七、九生）同妻晴子（同三六、九生、靜岡、太田泰雄姉）及其一男一女あり弟中（同二〇、九生）は神奈川縣人杉山鉦次郎長女いとの婿養子となれり（東京市目黒區中目黒三ノ一二〇）

高橋　竈三郎　久原用地部、永樂土地建物各株式取締役、東京府士族

妻　と　み　明一三、一〇生、兵庫、士、谷野遠二女
男　恕　明四一、四生、横濱正金銀行勤務
男　敏　行　慶大經濟學部出身、明四二、七生、大日本鹽業會社勤務、明大商科出身

君は神奈川縣士族高橋米藏の長男にして明治三年四月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり長女和（明三六、一一生）は長野縣人相馬愛藏長男安雄に嫁せりA一六一（東京市澁谷區金王町一一電青山七五七七）

參照‖相馬愛藏の項

高橋　友二郎　新潟縣多額納稅者、神谷銀行株式頭取、六十九銀行株式取締役、農業、新潟縣在籍

母　マサノ　安政四、八生、新潟、相馬一郎妹
妻　滿知子　明三二、七生、新潟、樋口良助二女
男　友　一　大六、五生
女　尚　大八、五生

君は新潟縣人故衆議院議員高橋九郎の長男にして明治二十七年十月七日を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に實業界に入り現時神谷銀行頭取の外兩記銀行の重役にして傍ら農業を營み新潟縣下の多額納稅者に列す

高橋　寅之介　地家主、兵庫縣在籍

妻　た　ね　明一八、二生、兵庫、高橋くめ私生子

君は兵庫縣人高橋安太郎の長男にして明治十一年四月二十三日を以て生れ同十七年家督を相續す地實家たり家族は尚榮子（大一〇、三生、兵庫、高橋芳藏孫）あり母つた（安政二、六生）は分家せりA三〇六（兵庫縣武庫郡精道村蘆屋辰新田）

高橋　仁作　鎭南浦商工會議所常議員、鎭南浦水產株式會社專務取締役、運送業、岡山縣在籍

男　鎭　夫　明四〇、一〇生
女　す　み　明四五、三生
女　綾　子　大四、一〇生

君は岡山縣人高橋鶴次郎の四男にして明治十二年六月を以て生る運送業を營み傍ら前記會社の重役にして推されて鎭南浦商工會議所常議員たり嘗に神戸郵便局外國課員朝鮮運輸聯合會評議員及幹事金融組合評議員鎭南浦果實會社重役等の職に在り又鎭南浦商工會議所副會頭に擧げらる家族は尚榮男夏右衛門（明一三、三生、岡山、澤谷豐藏三男、現戸主）同妻小佐登（同二一、六生、岡山、丸山莊松長女）及其二子あり男興一（同三三、七生、姉さつ私生子）は分家し兄興次郎（安政五、一〇生）同妻りつ（明元、九生、岡山、戸尻淑三郎長女）及姉さつ（慶應二、四生）は某家籍に入り再姪つね（明三九、七生、榮男夏右衛門長女）は岡山縣人田鍋敏吉長男寛治に嫁せり（朝鮮鎭南浦府三和町）

高橋　信美　從四位勳三等、醫學博士、千葉醫科大學長兼教授、長野縣在籍

妻　福　子　明二七、一生、故醫學博士大澤岳太郎二女、跡見女學校出身
男　信　一　大二、八生、千葉醫科大學在學

君は長野縣人高橋吉十の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學に入り外科學を研究し大正六年千葉醫學專門學校教授に任じ同九年より十一年迄歐米に留學し同十年醫學博士の學位を受く同十二年千葉醫科大學教授に任ぜられ昭和二年より三年迄歐米に再遊し同四年同大學長兼教授に進み今日に至る家族は尚二男秀夫（大五、一一生）長女富美子（同

一三、八生)三男健男(同一五、八生)あり(千葉市千葉町一〇二電千葉七〇二)
参照＝※乾政彦の項

高橋ひさ　高久洋服店、洋服商
東京府在籍
男　久雄　明三八、一生
婦　静子　明四五、七生、長男久雄妻、大阪信本吉次郎長女

君は東京府人高橋傳兵衛の長女にして明治七年一月を以て生れ同三十三年弟傳兵衛方より分れて一家を創立す洋服商を營み高久洋服店と稱す家族は尚孫貞江(昭七、一二生、長男久雄長女)あり長女はま(明三四、四生)は東京府人深野英二に嫁し二女千代(同三六、一生)は分家せりA三二五B一二〇(東京市神田區須田町一ノ五ノ一電神田七二八)

高橋久衛　正五位勳四等、検事、濱松區裁判所兼静岡地方裁判所濱松支部検事
千葉縣在籍
妻　絹子　明三〇、八生、群馬、原澤仁齋妹
男　健一　明四四、二生
女　久子　大元、九生
女　栄子　大三、二生

君は千葉縣人高橋嘉兵衛の二男にして明治十六年二月を以て生る同四十年法政大學法律科を卒業し判検事登用試驗に合格大正元年判事に任ぜられ横濱地方同區長野區同地方各裁判所判事を經て検事に轉じ爾來長野區同地方東京區同地方福岡區同地方前橋區同地方安濃津地方兼同區各裁判所検事を歴任現に前記の官職に在り家族は尚四女鶴子(大一〇、一二生)二男嘉久(同一五、一〇生)三男道久(昭四、四生)兄萬彌(明一〇、六生、現戸主)同妻住(同一四、五生、東京、服部榮吉妹)及其子女弟一夫(同二〇、一一生)同妻ハナ(同二五、四生、栃木、木村初吉三女)及び其子女弟不二雄(同二三、四生)同妻すゑ(同二八、一〇生、東京、吉田まさ私生子)及其子女あり姉さく(同四、一一生)は分家し妻妹すゑ(同八、九生、千葉、高橋與市妹)は千葉縣人伊藤彌五郎に姪いく代(同三六、八生、兄萬彌長女)は栃木縣人秋葉豐一に嫁し甥滿壽雄(昭二、一二生、弟不二雄三男)は東京府人吉田まさの妻子となれり(濱松市濱松區裁判所検事局内)

高橋秀臣　東京市會議員
愛媛縣士族
慶應二、一二生、愛媛、菅龜吉長女
妻　イク　明三〇、一二生、子爵松平頼和家職、京華中學校出身
男　忠臣　明二五、一〇生、二男忠臣妻、福岡、渡邊武臣長女
婦　春枝

君は愛媛縣士族高橋村三郎の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十三年家督を相續す夙に明治法律學校に學び進歩黨以來の闘士として知らる現に東京市會議員たり養に東京市參事會員兼議院議員に擧げらる曾て市之川鑛山會社取締役又進歩黨々報盡政黨々報記者北陸タイムス社長兼主筆に就任し日本帝國之宮力「急務檄言」外十數種の著述あり家族は尚孫良臣(大一二、四生、二男忠臣長男)あり弟武臣(明元、八生)は壽川縣人渡邊太龜の養子となれり(東京市神田區錦町一ノ一二電神田四〇三七)

高橋秀人　從五位勳六等、臺灣總督府事務官
警務局衛生課長、廣島縣在籍
父　静人　安政二、一生、現戸主
母　ムラ　元治元、四生、島根、廣兼昌作養子
妻　嘉子　明三七、九生、山形、加藤信平長女、日本女大附屬高女出身
男　弘人　大一四、三生

君は廣島縣人醫師高橋静人の長男にして明治二十七年二月二十日を以て生る大正七年高等文官試驗行政科に合格し同八年東京帝國大學法學部法律科を卒業し廣島縣屬鳥取縣警視臺灣總督府警視臺北州警務課長同州地方課長臺灣總督府警務局長等に任ぜられ北各州警務部長等に任補し昭和六年同府事務官に任じ總督官房會計課長に補となり翌年歸朝直に官房審議室兼務を命ぜられ文教局社會課長兼附屬博物館長を經て同八年現職に轉ず家族は尚長女霓子(大一五、五生)二女玲子(昭二、七生)二男豊次郎長男(同三、一〇生)三女節子(同五、一二生)妹清子(明四〇、一生)あり(臺北市千歳町二ノ三八電話一二六九)

あり四男文四郎(明三七、一〇生)は金光教管長金光家邦妹榮子の養子となり孫悦(同四三、三生、養子悦治長女)は大阪府人井上又兵衛四男静太郎に嫁せりA二一五〇B一七一(京都市中京區堺町通丸太町下ル電上九九六)
参照＝澤村萬吉※淺田美之助の項

高橋福太郎　高橋保全組取締役、鳥屋、鶏卵問屋業、東京府在籍
母　りよ　安政六、六生、東京、遠藤三七十妹
妻　きよ　明四〇、一一生、茨城、加倉田茂姉

君は東京府人高橋福次郎の三男にして明治三十一年十一月二十三日を以て生れ大正九年家督を相續す鳥屋と稱し食鳥鶏卵問屋業を營み傍ら高橋保全會社取締役たり姉しき(明二一、一〇生)は分家し同ぱん(同一七、七生)は東京府人古川繁治郎に嫁せりA三七八(東京市足立區千住仲町二四電浅草一五二)

高橋房吉　中村屋、金物商
東京府在籍
妻　さは　明一六、五生、東京、矢澤儀三郎姉
姪子　貞次郎　明三八、一〇生、姪子静江夫、埼玉、闘棋勢太郎弟
姪子　静江　明四一、五生、姪子貞次郎妻、東京、矢澤儀三郎姪

君は神奈川縣人高橋榮次郎の四男にして明治十六年七月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す中村屋と稱し金物商を營む家族は尚孫榮一(昭三、一〇生、姪子貞次郎長男)ありA三四三(東京市下谷區仲御徒町三ノ一三電下谷五〇六一)

高橋文三　愛知縣多額納税者、八木文、メリヤス商、愛知縣在籍
妻　ゑい　明一六、一生、愛知、山田仙之助妹
男　秀一　明四三、一〇生

君は愛知縣人高橋秀雄の長男にして元治元年三月五日を以て生れ明治三十五年家督を相續す八木文と稱しメリヤス商を營み現時愛知縣多額納税者にして直接國税五千九十五圓を納む家族は尚六男嘉三(大四、八生)七女定子(同一二、二生)七男清一(同一五、二生)あり弟爲次郎(明二、一一生)同妻はる(同一二、五生、愛知、早瀬長兵衛長女)は共四男三女を伴ひ分家し二女ひさ(同三〇、六生)妹さつ(同七、一生)も亦各分家し六女静子(大八、七生)は愛知縣人高橋春二の養子となり三女いち(明三二、二生)は同縣人下村鉄三郎に妹もん(同一四、同四二、二生)は同縣人石濱三之助に五女良子(大一五、五生)は同縣人高橋三郎に妹ゑい(同一四、亦夫々他家に嫁せりA五一七三B八四五(名古屋市中区鐵砲町一ノ四電中五三七)

高橋孫十郎　資産家
大阪府在籍
母　りさ　安政三、六生、兵庫、岡本八郎平長女
妻　浪子　明一二、一〇生、兵庫、士吉井良秀三女
男　要人　明四四、二生
女　かつ　明四〇、二生

君は大阪府人高橋藤太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ同三十六年家督を相續す資産家たり家族は尚二男保夫(大七、四生)あり長女マス(明三〇、一二生)同夫利三(同三一、一〇生、兵庫、櫻井房二郎)二女をゆひ分家し二女いし(同三二、七生)は大阪府人長右衛門弟正男に嫁せりA二一八五(兵庫縣武庫郡本庄村青木一〇三電御影四三八四)

高橋方雄　住友銀行検査役補
栃木縣在籍
父　富太郎　文久三、二生、現戸主
母　トク　慶應三、三生、栃木、篠原彦左衛門三女
妻　英次郎　大一一、一生
女　悦子　大六、四生

君は栃木縣人高橋富太郎の長男にして明治二十三年八月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し住友銀行に入り淺草新橋各支店長を經て現時同行検査役補たり家族は尚二女京子(大一三、一生)三女幸子(昭二、一一生)三男正恒(同五、七生)ありA一八八(兵庫縣武庫郡魚崎町川西七三二)

高橋正衛　東京株式取引所常務理事兼市場監督、東京府在籍
妻　いく　明二七、八生、静岡、中村伊左衛門二女
女　治子　大二、七生
女　常子　大七、四生

君は東京府人青木次三郎の長男にして明治十九年十二月二十日を以て生れ同二十五年高橋家を再興し前名幸太郎を改む現時東京株式取引所常務理事兼市場監督たり家族は尚四女幸子(大九、九生)五女初江(同一四、七生)六女淳子(昭三、六生)ありA四五三一(東京市杉並區東荻窪四一電荻窪二四〇八)

高橋正忠　從四位勳五等、高松商工會議所議員、四國水力電氣株式會社專務取締役、香川縣在籍
母　アヤノ　慶應元、一〇生、香川、香川丑三郎長女
妻　みさほ　明二四、一一生、群馬、井上補三長女
男　正博　大一三、八生
女　信子　大七、三生

君は香川縣人高橋彌三郎の長男にして明治十七年六月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格し直に遞信局屬となる爾來遞信局事務官補遞信事務官補仙臺郵便局長遞信局副事務官仙臺遞信局監察課長遞信局事務官東京遞信局庶務課長同監督課長等を歴任し大正十三年遞信局書記官となり廣島熊本各遞信局監督課長を經て昭和二年遞信書記官に任じ大臣官房勤務を經て遞信省電氣局長となり後之を辭す義に歐米に出張を命ぜらる現時四國水力電氣會社專務取締役たり家族は尚弟利雄(明二〇、四生)同妻やゑ(同二六、六生、宮城、西城伊左衛門長女)及其一女同勝廣(同四〇、七生)あり同忠勝(同二三、一〇生)同妻静子(同三〇、四生、岡山、小枝正雄姉)は共一女を伴ひ香川縣人請川定吉の養子となり同寅勝(同二九、二生)は分家し妹ヨシエ(同二七、二生)は香川縣人高城今治長男忠義に嫁せり(高松市四番町一四電一六八八)

九)

高橋英夫　家主
大阪府在籍
母　エイ　明一三、七生、大阪、先代高橋又七二女

君は大阪府人吉田松三郎の庶子にして大正五年九月三日を以て生れ昭和三年家督を相續す家主たりA四三一(大阪市天王寺區上汐町五ノ一二電南七九七四)

高橋不次三郎　京都府多額納税者、貿商
京都府在籍
妻　よね　文久三、六生
男　増太郎　明二六、一二生
婦　賀與　明三二、八生、長男増太郎妻、京都、澤村萬吉四女
婦　春枝　明一四、一二生、長女光夫、京都淺田幸次郎弟
養子　悦治　明二一、三生、榮子悦治妻
女　光　明一七、六生、二女繁夫、京都、堀口長富弟
養子　太一　明二三、九生、榮子太一妻
女　繁　明三〇、四生
男　豊次郎　明三九、一一生、二男豊次郎妻、岡山、森定藤四郎長女
婦　千鶴
男　秀三郎　明三三、九生、三男秀三郎妻、京都、野田豊藏三女
孫　光榮　明四五、一生、榮子悦治二女
孫　政子　大二、二生、榮子太一長女
孫　常子　大四、一生、榮子太一二女
孫　萬壽榮　大六、六生、榮子悦治三女
孫　久子

君は京都府人唐橋忠兵衛の二男にして安政六年十一月十九日を以て生れ先代まさの養子となり明治二十一年家督を相續す貿商を營み京都府多額納税者に列し直接國税二千三百九十八圓を納む家族は尚孫正立(大七、三生、養子太一二男)同喜一郎(同一二、一〇生、養子悦治長男)同成治(同一五、四生、同二男)同一男(同一四、一〇生、長男増太郎長男)同行照(昭二、七生、二男豊次郎長男)同正照(同四一、一生、同二男)同修義(同七、六生、三男秀三郎長男)同嘉惠(同七、一一生、同長女)

高橋秀臣　東京市會議員
愛媛縣士族
慶應二、一二生、愛媛、菅龜吉長女
妻　イク　明三〇、一二生、子爵松平頼和家職、京華中學校出身
男　忠臣　明二五、一〇生、二男忠臣妻、福岡、渡邊武臣長女
婦　春枝

君は愛媛縣士族高橋村三郎の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十三年家督を相續す夙に明治法律學校に學び進歩黨以來の闘士として知らる現に東京市會議員たり養に東京市參事會員兼議院議員に擧げらる曾て市之川鑛山會社取締役又進歩黨々報盡政黨々報記者北陸タイムス社長兼主筆に就任し日本帝國之宮力「急務檄言」外十數種の著述あり家族は尚孫良臣(大一二、四生、二男忠臣長男)あり弟武臣(明元、八生)は壽川縣人渡邊太龜の養子となれり(東京市神田區錦町一ノ一二電神田四〇三七)

高橋秀人　從五位勳六等、臺灣總督府事務官
警務局衛生課長、廣島縣在籍
父　静人　安政二、一生、現戸主
母　ムラ　元治元、四生、島根、廣兼昌作養子
妻　嘉子　明三七、九生、山形、加藤信平長女、日本女大附屬高女出身
男　弘人　大一四、三生

君は廣島縣人醫師高橋静人の長男にして明治二十七年二月二十日を以て生る大正七年高等文官試驗行政科に合格し同八年東京帝國大學法學部法律科を卒業し廣島縣屬鳥取縣警視臺灣總督府警視臺北州警務課長同州地方課長臺灣總督府警務局長等に任ぜられ北各州警務部長等に任補し昭和六年同府事務官に任じ總督官房會計課長に補となり翌年歸朝直に官房審議室兼務を命ぜられ文教局社會課長兼附屬博物館長を經て同八年現職に轉ず家族は尚長女霓子(大一五、五生)二女玲子(昭二、七生)二男豊次郎長男(同三、一〇生)三女節子(同五、一二生)妹清子(明四〇、一生)あり(臺北市千歳町二ノ三八電話一二六九)

高橋正彦

母　ゑい
妻　ひさ
男　正義　明四五、七生
女　とし子　明四五、七生
女　喜代子　大六、一一生

君は愛知縣人高橋彦次郎の二男にして明治二十一年五月十五日を以て生れ昭和七年家督を相續す先是明治四十四年慶應義塾理財科を卒業し實業界に入り現時各會社の重役にして推されて名古屋米穀取引所常務理事たり傍ら名古屋商工會議所議員日本放送協會東海支部監事を兼ぬ家族は尙三男正藏(大七、一二生)四男守彦(同九、七生)四女美津子(同一一、九生)五女喜久子(同一三、一〇生)五男重彦(同一五、二生)弟富彦(明二九、三生)同妻たき(同三五、九生、愛知、後藤正太郎二女)其一男一女弟吉彦(同三二、七生)同妻ハナ(同四〇、一〇生、東京、平野勇造四女)其一女弟彦藏(同三八、六生)同豊彦(同四〇、二生)あり同正平(同二二、一二生、濱崎商店取締役)は大阪府人濱崎永三郎の同彦吉(同二七、一一生)は愛知縣人夏目直一の養子となり妹たか(同二四、一一生)は愛知縣人田中德次郎に同てる(同二六、九生)は三重縣人諸戸清六に嫁せり(名古屋市西區和泉町一ノ二二**電本局三一**)

参照‖諸戸清六の項

高橋眞男

滿洲參酒㊟監査役、伊勢電氣鐵道㊟專務取締役、愛媛縣在籍

妻　益子　明三一、二生、東京、渉間眞學二女
男　吉亮　昭五、七生

君は愛媛縣人高橋三保の二男にして明治二十年十一月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學法科を卒業し直に北海道拓殖銀行に入り函館札幌樺太各支店の勤務を經て同七年七十四銀行に轉じ横濱本店詰東京支店支配人代理たりしが同九年戰後財界視察の爲歐洲各國を歴遊し歸朝後同十年愛知銀行に入り同行東京支店長たりしも現時伊勢電氣鐵道會社專務取締役たり兼て東京支店長たりしも現時伊勢電氣鐵道會社專務取締役たり兼て東京銀行集會所監事たりし傍ら名古屋商工會議所議員日本放送協會東海支部監事あり家族は尙長女和子(大一一、一二生)二女富美子(同一四、七生)三女久子(昭二、九生)ありA一六五(東京市四谷區東信濃町二八**電四谷三五六〇**)

参照‖高橋龍太郎の項

高橋本枝

吉河**電氣工業㊟**社員
宮城縣士族
安政五、五生、宮城、士、勅使河原泰長女
明九、一二生、養父易直長女
妻　よし　明三二、三生
男　正人　明三五、五生、長男正人妻、東京
婿　ゆき　高山清五郎長女
男　次郎　明三四、七生
婿　まさ　明四〇、五生、二男次郎妻、東京
島甲子二女
男　三男　明三六、一二生
婿　惠子　明三七、八生、三男三男妻、淺野房次郎二女
君は宮城縣士族阿千俣の二男にして同百世の弟なり明治十年五月十七日を以て生れ先代易直の養子となり同二十八年家督を相續す同三十四年京都帝國大學理工科大學電氣工業科を卒業し現に古河電氣工業會社々員たり家族は尙孫正彦(大一一、一生、長男正人長男)同和彦(昭三、七生、同二男)同元夫(同三、一二生、二男次郎長男)同秀夫(同五、一生、同二男)同輝彦(昭五、三生、同三男)ありA四三九(東京市大森區田園調布三ノ二六ノ一**電田園都市二一九**)

参照‖岡百世、島甲子二の項

高橋守雄

從四位勳三等、前警視總監
熊本縣在籍
母　キツ　安政六、一〇生、熊本、士、渡邊源內四女
妻　雅　明二一、一二生、東京、士、松南千秋妹
男　時中　明四四、二生
男　通敏　大三、三生
女　郁子　大六、五生

君は熊本縣士族高橋彌八郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格し同四十二年警視廳警視に任ぜられ爾來佐賀石川各縣事務官岐阜新潟各縣警察部長新潟縣京都府各內務部長內務事務官兼內務監察官熊本市長滋賀長野兵庫各縣知事を經て昭和六年臺灣總督府總務長官に任じ同年四月警視總監に任ぜられ同年十二月退官し現時閑地に在り義に大正九年支那に出張を命ぜらるる家族は尙三男直養(同八、一二生)叔父直記(慶應二、一二生)同妻トク(明三、七生、熊本、士、間部英藏長女)及其二男一女あり從妹綾女(同一三、三生、叔父直記三女)は熊本縣人松本伊之吉に同ヨシ(同三九、七生、同四女)は同縣人狩野昇に養子シヌ(同三六、一生、熊本、日野喬姉)は鹿兒島縣人立國榮造に同コト(同四〇、五生、同上)は滋賀縣人中野武に嫁し從弟光雄(同四一、一生、叔父直記三男)は熊本縣人間部トミの養子となれり(東京市目黒區上目黒一ノ一二〇**電青山八二三五**)

参照‖松南千秋※松南健彦の項

高橋守平

妻　ふさ　明二八、一生、埼玉、飯田徹長女
男　周長衛　大四、七生
女　愛子　大六、五生
女　信子　大八、五生

君は埼玉縣人高橋周平の長男にして明治二十七年十月十三日を以て生れ同三十五年家督を相續す埼玉縣師範學校を卒業し小學校訓導に任ぜられ後農業を繼承し傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅九百二十九圓を納む義に郡農會長其他の公職を勸めまた昭和三年以來衆議院議員に當選すること三回立憲民政黨に屬し列國議會同盟會議に參列し歐米各國を歴遊す昭和九年岡田內閣の商工參與官に就任して現在に到る家族は尙二男守次(大一一、七生)あり姉ツネ(明一七、一〇生)は廢家高橋氏を再興し同賢(同二四、七生)は埼玉縣人田中友二男義治に叔母スエ(同一二、

(※印は姻族關係)

一二生)は同縣人吉田儀一郎に嫁せり(埼玉縣兒玉郡丹莊村「東京別宅」牛込區筑土八幡町三四**電牛込二一七〇**)

高橋門兵衛

東京府多額納稅者、洋酒食料品商
東京府在籍
妻　巳代　明二六、四生、東京、齋藤辨之助五女、三輪田高女出身
孫　喜久雄　大二、四生、亡養子卯三郎長男

君は東京府人先代門兵衛の長男にして明治元年九月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名門次郎を改め襲名す洋酒食料品商を營み直接國稅一萬六千三百四十八圓を納め現時東京府多額納稅者に列す曩に京橋區會議員に擧げられ又紺綬褒章を賜ふ二女敬子(明二六、五生)は其夫調藏(同一八、一生、芙蓉、丸山義一弟)と共に分家せり(東京市澁谷區南平臺五一**電青山七七三五**)

参照‖齋藤辨之助※男爵押小路忠雄※齋藤鶴之助※村林專太郎の項

高橋紋兵衛

東洋青物市場㊟監査役
東京府在籍
妻　はつ　明一八、五生、東京、並木國五郎長女
男　季明　明四〇、七生
男　鶴雄　明四四、一生
女　いと　大元、一一生

君は東京府人高橋周藏の長男にして明治十三年二月二十二日を以て生れ大正三年家督を相續し明治四十二年前名伊三郎を改む現時東洋青物市場監査役たり妹キノ(明二〇、六生)は福島縣人鈴木多治に同ユキ(同二六、七生)は東京府人倉橋律に嫁し弟慶次郎(同二八、二生)男義雄(同四一、一一生、妹キノ私生子)は各分家せりA八九〇(東京市中野區橋場町三八**電中野二七一五**)

高橋八東

千代田生命保險(互)代理店課長
東京府士族

君は東京府士族高橋正信の長男にして明治二十五年十二月を以て生れ昭和五年家督を相續す夙に千代田生命保險會社に入り現時同社代理店課長たり姉玉家(明三二、二生)は滋賀縣人森八郎助弟謙治に嫁せり(東京市芝區新堀町二四**電三田三九〇一**)

参照‖森八郎助の項

高橋安太郎

妻　キン　明二一、一生、東京、武田精擂長女
男　隆二　大四、七生
女　敏子　大七、三生

君は千葉縣人高橋常次郎の四男にして明治十四年七月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立すいわしやと號し醫療器械商を營む家族は尙三男賢三(同九、一一生)ありA八三六B二五五(東京市本郷區春木町二ノ二二**電小石川六二八・四〇一七**)

高橋泰雄

勵和七等、衆議院議員(埼玉縣選出)
浦和市長、弁護士、埼玉縣在籍
繼母　ナツ　明五、五生、福島、士、土屋員安姉
妻　あい　明三三、一生、靜岡、北弁波治目長女
男　幸男　明二一、一生、東京、士、松南千秋妹
婿　嘉與子　大七、三生

君は埼玉縣人高橋安爾の長男にして明治二十年二月十日を以て生れ大正十二年家督を相續す先は大正二年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士たり推されて浦和町長埼玉縣會議員となり昭和九年四月浦和市長に擧げられ又衆議院議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙弟幸雄(大三、一生)あり(浦和市二二六**一電一〇九**)

高橋祐治

高橋眼科醫院、醫師
大阪府在籍
養父　江春　安政二、一一生
養母　あい　安政二、四生、兵庫、野村金七二女
妻　あきの　明一二、一生、養父江春長女
男　幸男　明四〇、五生
孫　嘉與子　大四、一〇生、長男幸男妻、兵庫田村正三女

君は新潟縣人藤田セイの長男にして明治三年三月十九日を以て生れ先代江春の養子となり大正四年家督を相續す高橋眼科醫院を經營其院主たり長女好子(明三七、五生)は滋賀縣人澤純三に妹泰子(同三六、六生)は大阪府人高垣良藏三男秀雄に嫁せりA二五〇(大阪市東區島町一ノ一八**電東七四二**)

高橋雄材

從四位勳五等、讀賣新聞社主筆兼外報部長、愛媛縣在籍
父　岩吉　慶應二、八生
母　リン　明三、三生、愛媛、瀬尾百藏二女
妻　タネ　明二六、一〇生、愛媛、高木秀吉長女
男　宏　明四三、三生
男　大二、三生

君は愛媛縣人高橋岩吉の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十二年警視廳巡査を拜命し爾來巡査部長警視廳警部補となり大正四年警察官練習所を修業し內務屬となり同年文官高等試驗に合格し爾來靜岡縣警視同縣理事官內務事務官兼鐵道事務官兼警察講習所教授兼帝都復興院書記官內務書記官警保局警務課長兼臨時震災共護事務局事務官靜岡縣書記官內務部長警視廳書記官警務部長香川縣知事等に歴任せしも昭和六年退官し現時讀賣新聞主筆兼外報部長たり義に大正九年警察制度研究の爲二年間歐米に留學す一警察法大綱等著書多し家族は尙三男正大八、九生)三女道子(明一二、八生)四男信雄(昭三、六生)弟鶴一妻ナカ(明三四、五生、愛媛、能知篤太郎妹)及其子女あり妹英(同二六、七生)は愛媛縣人越智篤太郎に嫁せり(東京市澁谷區宇田川町二五**電青山二四五**)

高橋義章

從四位勳二等功四級、退役陸軍中將、東京府在籍
妻　ユフ　明七、九生、子爵立見尋丸姉
養子　貞夫　明一六、三生、長女セツ夫、廣島士、森本瀧一弟
女　セツ　明二五、一〇生、養子貞夫妻
孫　靖子　明四四、五生、養子貞夫長女
孫　義昭　大二、二生、養子貞夫長男

君は廣島縣士族高橋紋三郎の弟にして文久二年一月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立し前名桑太郎を改む同十九年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ明治二十七八年戰役に中尉として出征し第四師團參謀となり爾來參謀本部第二部員同調査部々員陸軍大學校兵學教官臺灣總督府陸軍幕僚參謀等に歴補し日露戰役には留守第九師團參謀長として勤務し尋で第十四師

(※印は姻族關係)

閣參謀長として出征し功に依り功四級金鵄勳章を賜ふ同三十九年侍從武官となり次で軍事參議院幹事に歷補し同四十二年近衛歩兵第四聯隊長に補せられ同四十四年陸軍少將に陞任歩兵第十四第三十四各旅團長に歷補し大正五年陸軍中將に進む家族は倚孫弘（大四、一二生、養子貞夫二男）あり同諒（同一一、七生、同三男）は廣島縣人森本クラの養子となれりA七〇（東京市豐島區目白町三ノ三六〇〇電大塚五二五八）

參照＝子爵立見豐丸※鈴木孝雄の項

高橋義次　衆議院議員（東京府選出）、日本辯護士協會理事、辯護士

妻　梅　明三二、一二生、島根、安達盛市二女

男　義郎　大一三、一生

君は宮城縣人高橋良治の二男にして明治十五年八月二十三日を以て生れ大正七年家督を相續す同二年日本大學英吉利法律科を卒業し辯護士試驗に合格後辯護士を開業す東京辯護士會常議員となり芝區會議員同議長東京市會議員等に擧げられ又日本辯護士協會理事たり義に東京府より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す家族は倚長女曄子（大一〇、一一生）二男義人（同一五、八生）二女典子（昭三、一二生）三男義也（同六、五生）四男明雄（同八、一二生）の外姉きみ子（明一二、九生）妹みよし（同一八、九生）同夫永七（同一九、二生、宮城、那須俊之助弟）其一男一女及弟義浸（同二九、一〇生）あり甥幸治（同三七、一〇生、桑弟永七養子、宮城、安部右一郎四男）は分家せりA一四〇（東京市芝區西久保八幡町八電芝三〇九四）

高橋理一郎　從四位勳五等、文部技師、大臣官房建築課長、東京府在籍

妻　子　明四〇、二生、東京、奥原和喜女

男　一雄　大一二、一一生

君は千葉縣人高橋藤三郎の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正九年兄喜重方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學建築學科を卒業し大正四年文部技師に任ぜられ臨時營繕局技師を兼務せし事あり現時文部技師にして大臣官房建築課建築係長たり家族は倚長女日出子（昭二、二生）あり

高橋龍太郎　宮島ホテル組取締役會長、麥酒共同販賣、大日本麥酒各㊫專務取締役、朝鮮麥酒、滿洲麥酒各㊫取締役、新大阪ホテル㊫監査役、帝國麥酒輸出㊫合理事長、愛媛縣在籍

母　ミチ　安政二、七生、愛媛、武井泉造三女

妻　光子　明一七、一一生、大阪、生田耕一妹

男　吉隆　明四一、四生、住友銀行員、法學士

男　敏夫　大二、六生、京都帝大在學

君は愛媛縣人高橋吉衡の二男にして明治八年七月十五日を以て生れ同四十一年家督を相續す先是第三高等學校に入り工科卒業後獨逸に留學し麥酒釀造業を研究す現時大日本麥酒會社專務取締役にして倚前記諸會社の重役たり趣味は圍碁謠曲家族は倚五男彦也（大七、一〇生、府立一中在學）あり長女アイ（明三九、一生、大手前高女出身）は廣島縣人醫學博士佐々木松節に二女セツ（同四〇、三生）は兵庫縣人秋山廣太長男大輔に嫁

（東京市下谷區谷中眞島町一ノ五電下谷六〇四〇）

高橋隆造　從四位勳三等、藥學博士、富山藥學專門學校長、兼教授、東京府在籍

妻　志津　明二一、一二生、埼玉、島田俊夫妹

男　幸太郎　大三、七生

女　恒子　大元、九生

女　信子　大五、六生

女　節子　大七、一〇生

君は埼玉縣人高橋喜之助の四男にして明治十五年五月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し長崎醫學專門學校教授同十一年在外研究員を命ぜられ歐米各國に出張歸朝後同十四年富山藥學專門學校長兼教授に任ぜられ今日に至る昭和元年藥學博士の學位を授與せられ同四年再度歐米に出張を命ぜらる家族は倚四女恭子（昭二、八生）あり（富山市七軒町七七電富山五一〇七）

參照＝島田俊夫の項

高橋龍造　從四位勳三等、藥學博士、富山藥學專門學校長、兼教授、東京府在籍

妻　志津　明二一、一二生、埼玉、島田俊夫妹

男　幸太郎　大三、七生

女　恒子　大元、九生

女　信子　大五、六生

女　節子　大七、一〇生

君は埼玉縣人高橋喜之助の四男にして明治十五年五月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し長崎醫學專門學校教授同十一年在外研究員を命ぜられ歐米各國に出張歸朝後同十四年富山藥學專門學校長兼教授に任ぜられ今日に至る昭和元年藥學博士の學位を授與せられ同四年再度歐米に出張を命ぜらる家族は倚四女恭子（昭二、八生）あり（富山市七軒町七七電富山五一〇七）

參照＝島田俊夫の項

高橋義郎　衆議院議員（東京府選出）、日本辯護士協會理事、辯護士

妻　梅　明三二、一二生、島根、安達盛市二女

男　義郎　大一三、一生

君は宮城縣人高橋良治の二男にして明治十五年八月二十三日を以て生れ大正七年家督を相續す同二年日本大學英吉利法律科を卒業し辯護士試驗に合格後辯護士を開業す東京辯護士會常議員となり芝區會議員同議長東京市會議員等に擧げられ又日本辯護士協會理事たり義に東京府より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す家族は倚長女曄子（大一〇、一一生）二男義人（同一五、八生）二女典子（昭三、一二生）三男義也（同六、五生）四男明雄（同八、一二生）の外姉きみ子（明一二、九生）妹みよし（同一八、九生）同夫永七（同一九、二生、宮城、那須俊之助弟）其一男一女及弟義浸（同二九、一〇生）あり甥幸治（同三七、一〇生、桑弟永七養子、宮城、安部右一郎四男）は分家せりA一四〇（東京市芝區西久保八幡町八電芝三〇九四）

高橋理一郎　從四位勳五等、文部技師、大臣官房建築課長、東京府在籍

妻　子　明四〇、二生、東京、奥原和喜女

男　一雄　大一二、一一生

君は千葉縣人高橋藤三郎の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正九年兄喜重方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學建築學科を卒業し大正四年文部技師に任ぜられ臨時營繕局技師を兼務せし事あり現時文部技師にして大臣官房建築課建築係長たり家族は倚長女日出子（昭二、二生）あり

同哲（同三八、八生）も亦分家せりA四三九（東京市麴町區九段三ノ四ノ三電九段二四七三）

參照＝木喜德郎※尾崎元次郎※杉村七太郎※竹山純平の項

高橋錬逸　三菱商事㊫取締役、日魯漁業㊫監査役、東京府士族

妻　とき　明一四、四生、東京、士、吉川辰太郎妹

男　繁夫　明三三、九生、三菱信託會社員、慶大法學部出身

嫁　ミワ　明四〇、七生、長男繁夫妻、大分、永島榮吉三女

男　喜彦　明四三、七生、中央氣象臺勤務、理學士

高橋家は舊幕時代旗本井上河内守の用人を勤めたる家柄なり君實は舊信州飯田藩士小木曾卯治の二男にして明治八年五月を以て生れ先代繁太郎の養子となり同四十一年家督を相續す同二十七年東京高等商業學校主計科を卒業し直に三菱銀行に入る爾來日本生絲北洋商會日本ソリデチット大北漁業清住製材所昭和工船漁業三菱倉庫三菱製紙菱華倉庫等三菱系統の諸會社に關係し日清製粉會社其他の重役を勤めし事あり現に三菱商事會社取締役たる外前記會社の重役たり圍碁及書畫骨董に趣味を有す家族は倚孫和夫（昭三、二生、長男繁夫長男）同厚（同六、三生、同二男）同學（同八、四生、同三男）あり三女貞衛（大二、二生）は長野縣人新村千春に妹ヤス（明二四、八生）は群馬縣人飯島ゆく長男繁作に嫁せりA二〇三四（東京市麴町區隼町六電九段四三一八）

高橋涉　從五位、醫學博士、鐵道省、名古屋鐵道病院長、宮城縣在籍

父　孝哉　文久元、二生、現戸主

母　こん　明元、三生、宮城、士、佐藤信二女

妻　いわ　明三一、一生、山形、後藤勘藏二女

男　鐵雄　大九、九生

君は宮城縣人高橋孝哉の長男にして明治二十一年十月を以て生る大正三年東京帝國大學醫科大學醫學部を卒業し仙臺鐵道病院副院長札幌鐵道病院長兼外科醫長等を經て現時名古屋鐵道病院長たり義に醫學博士の學位を授けらる家族は倚二男道雄（大一二、四生）三男孝雄（同一五、一一生）長女千代子（昭三、三生）妹きくす（明二四、四生）弟務（同二七、二生）同妻藤子（同三七、二九、八生）は山形縣人安達熊四郎に嫁せり（名古屋市東區大曾根町鐵道官舍一四號電東三六三三五）

參照＝岡本桂次郎の項

高畑誠一　鈴木商店、日商、太陽曹達各㊫取締役、日本火災保險㊫監査役、日本ゴルフ協會理事、廣野ゴルフ倶樂部キャプテン、愛媛縣在籍

妻　千代子　明三四、八生、鈴木岩次郎長女

男　一　明治二十年三月二十一日を以て生

君は愛媛縣人高畑誠一郎の二男にして明治十七年九月十二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し第五第四各高等學校教授を經て現時松江高等學校教授兼同校生徒主事たり家族は倚二女喜代子（昭四、五生）あり（松江市北堀町官舍電九二五）

高畠清　從四位勳四等、前長崎醫科大學附屬藥學專門部教授、東京府在籍

妻　靜枝　明二五、八生、靜岡、内田令太郎長女

男　茂　大五、八生

君は富山縣人高畠次郎右衛門の孫にして明治十七年十月一日を以て生れ先代信貫の養子となり大正七年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し大正二年長崎醫學專門學校教授となり同十二年長崎醫科大學附屬藥學專門部教授に任じ大正十四年文部書記官、同三八、八生）も亦分家せりA四三九（東京市麴町區九段三ノ四ノ三電九段二四七三）

參照＝木喜德郎※尾崎元次郎※杉村七太郎※竹山純平の項

高橋錬逸　三菱商事㊫取締役、日魯漁業㊫監査役、東京府士族

妻　とき　明一四、四生、東京、士、吉川辰太郎妹

男　繁夫　明三三、九生、三菱信託會社員、慶大法學部出身

嫁　ミワ　明四〇、七生、長男繁夫妻、大分、永島榮吉三女

男　喜彦　明四三、七生、中央氣象臺勤務、理學士

高橋家は舊幕時代旗本井上河内守の用人を勤めたる家柄なり君實は舊信州飯田藩士小木曾卯治の二男にして明治八年五月を以て生れ先代繁太郎の養子となり同四十一年家督を相續す同二十七年東京高等商業學校主計科を卒業し直に三菱銀行に入る爾來日本生絲北洋商會日本ソリデチット大北漁業清住製材所昭和工船漁業三菱倉庫三菱製紙菱華倉庫等三菱系統の諸會社に關係し日清製粉會社其他の重役を勤めし事あり現に三菱商事會社取締役たる外前記會社の重役たり圍碁及書畫骨董に趣味を有す家族は倚孫和夫（昭三、二生、長男繁夫長男）同厚（同六、三生、同二男）同學（同八、四生、同三男）あり三女貞衛（大二、二生）は長野縣人新村千春に妹ヤス（明二四、八生）は群馬縣人飯島ゆく長男繁作に嫁せりA二〇三四（東京市麴町區隼町六電九段四三一八）

高橋涉　從五位、醫學博士、鐵道省、名古屋鐵道病院長、宮城縣在籍

父　孝哉　文久元、二生、現戸主

母　こん　明元、三生、宮城、士、佐藤信二女

妻　いわ　明三一、一生、山形、後藤勘藏二女

男　鐵雄　大九、九生

君は宮城縣人高橋孝哉の長男にして明治二十一年十月を以て生る大正三年東京帝國大學醫科大學醫學部を卒業し仙臺鐵道病院副院長札幌鐵道病院長兼外科醫長等を經て現時名古屋鐵道病院長たり義に醫學博士の學位

高畑誠一　從四位勳五等、文部技師、大臣官房建築課長、東京府在籍

妻　千代子　明三四、八生、鈴木岩次郎長女

男　一　明治二十年三月二十一日を以て生

君は愛媛縣人高畑誠一郎の二男にして明治十七年九月十二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し第五第四各高等學校教授を經て現時松江高等學校教授兼同校生徒主事たり家族は倚二女喜代子（昭四、五生）あり（松江市北堀町官舍電九二五）

高畠喜市　從四位勳三等、松江高等學校教授兼生徒主事、石川縣在籍

妻　金　明二三、四生、石川、士、野治佐八郎二女

男　良雄　明四一、五生

女　喜美子　明四五、三生

君は石川縣人松尾伊助の三男にして明治十四年五月を以て生れ先代鈴晉の養子となり同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し第五第四各高等學校教授を經て現時松江高等學校教授兼同校生徒主事たり家族は倚二女喜代子（昭四、五生）あり（松江市北堀町官舍電九二五）

高畠清　從四位勳四等、前長崎醫科大學附屬藥學專門部教授、東京府在籍

妻　靜枝　明二五、八生、靜岡、内田令太郎長女

男　茂　大五、八生

君は富山縣人高畠次郎右衛門の孫にして明治十七年十月一日を以て生れ先代信貫の養子となり大正七年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し大正二年長崎醫學專門學校教授となり同十二年長崎醫科大學附屬藥學專門部教授に任じ大正十四年文

都省在外研究員として渡歐瑞西獨逸及米國に在留一ケ年半にて歸朝す現時官を辭して開地にあり家族は尙三男平（大九、二生）ありA二五〇（長崎市樂馬場町九三）

高畠惟一　丸三貿出資社員、地主　東京府在籍

祖母　タマ　安政六、五生、東京、菊間キン長女

妻　晴子　明四〇、四生、東京、高畠猪吉二女

男　弘　昭六、一生

君は東京府人高畠新吉の孫にして明治四十一年五月十九日を以て生る地主にして丸三合資會社出資社員たり家族は尙弟誠二（明四五、五生）ありA二二三六（東京市小石川區上富坂町二五電小石川七九一九）

參照＝※小立鉦四郎の項

高畠肇　三井銀行㊞京都支店次長　岡山縣在籍

妻　秋　明三一、八生、千葉、仲田慶三郎長女、東京府立第一高女出身

男　成一　昭二、八生

君は岡山縣人高畠多七郎の四男にして明治二十一年一月十四日を以て生れ幾分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し直ちに株式會社三井銀行に入り名古屋支店次長を經て現時京都支店次長たり家族は尙二女幸（大一〇、一生）三女信子（同一三、二生）四女安子（同一四、六生）五女好（昭八、二生）あり長女和（大八、九生）は亡祖父仲田慶三郎の家督を相續すA六六二（京都市上京區寺町通今出川下ル扇町二七八電上二六四五）

高濱盧子（淸）　ホトトギス發行所主、俳人　神奈川縣士族

妻　いと　明一二、一〇生、群馬、大畠豐水二女

男　年尾　明三三、一二生

姉　きみ　明四〇、二生、長男年尾妻、東京上田群遊妹

女　晴子　大四、一生

女　章子　大八、六生

君は舊松山藩士池田信夫の四男にして明治七年二月二十二日を以て生れ先代ミネの養子となり同十五年家督を相續す俳人として知られホトトギス發行所を主宰す著書に「風流懺法」其他あり家族は尙孫中子（昭三、五生、長男年尾長女）同汀子（同六、一生、同二女）ありA二五〇（長崎市樂馬場町九三）

高畠惟一　丸三貿出資社員、地主　東京府在籍

安政六、五生、東京、菊間キン長女

妻　晴子　明四〇、四生、東京、高畠猪吉二女

男　弘　昭六、一生

君は東京府人高畠新吉の孫にして明治四十一年五月十九日を以て生る地主にして丸三合資會社出資社員たり家族は尙弟誠二（明四五、五生）ありA二二三六（東京市小石川區上富坂町二五電小石川七九一九）

參照＝※小立鉦四郎の項

高畠肇　三井銀行㊞京都支店次長　岡山縣在籍

妻　秋　明三一、八生、千葉、仲田慶三郎長女、東京府立第一高女出身

男　成一　昭二、八生

君は岡山縣人高畠多七郎の四男にして明治二十一年一月十四日を以て生れ後分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し直ちに株式會社三井銀行に入り名古屋支店次長を經て現時京都支店次長たり家族は尙二女幸（大一〇、一生）三女信子（同一三、二生）四女安子（同一四、六生）五女好（昭八、二生）あり長女和（大八、九生）は亡祖父仲田慶三郎の家督を相續すA六六二（京都市上京區寺町通今出川下ル扇町二七八電上二六四五）

高濱盧子（淸）　ホトトギス發行所主、俳人　神奈川縣士族

妻　いと　明一二、一〇生、群馬、大畠豐水二女

男　年尾　明三三、一二生

姉　きみ　明四〇、二生、長男年尾妻、東京上田群遊妹

女　晴子　大四、一生

女　章子　大八、六生

君は舊松山藩士池田信夫の四男にして明治七年二月二十二日を以て生れ先代ミネの養子となり同十五年家督を相續す俳人として知られホトトギス發行所を主宰す著書に「風流懺法」其他あり家族は尙孫中子（昭三、五生、長男年尾長女）同汀子（同六、一生、同二女）ありA二五〇（長崎市樂馬場町九三）

高畠惟一　丸三貿出資社員、地主　東京府在籍

安政六、五生、東京、菊間キン長女

妻　晴子　明四〇、四生、東京、高畠猪吉二女

男　弘　昭六、一生

君は東京府人高畠新吉の孫にして明治四十一年五月十九日を以て生る地主にして丸三合資會社出資社員たり家族は尙弟誠二（明四五、五生）ありA二二三六（東京市小石川區上富坂町二五電小石川七九一九）

參照＝※小立鉦四郎の項

高畠肇　三井銀行㊞京都支店次長　岡山縣在籍

妻　秋　明三一、八生、千葉、仲田慶三郎長女、東京府立第一高女出身

男　成一　昭二、八生

君は岡山縣人高畠多七郎の四男にして明治二十一年一月十四日を以て生れ後分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し直ちに株式會社三井銀行に入り名古屋支店次長を經て現時京都支店次長たり家族は尙二女幸（大一〇、一生）三女信子（同一三、二生）四女安子（同一四、六生）五女好（昭八、二生）あり長女和（大八、九生）は亡祖父仲田慶三郎の家督を相續すA六六二（京都市上京區寺町通今出川下ル扇町二七八電上二六四五）

高濱盧子（淸）　ホトトギス發行所主、俳人　神奈川縣士族

妻　いと　明一二、一〇生、群馬、大畠豐水二女

男　年尾　明三三、一二生

姉　きみ　明四〇、二生、長男年尾妻、東京上田群遊妹

女　晴子　大四、一生

女　章子　大八、六生

君は舊松山藩士池田信夫の四男にして明治七年二月二十二日を以て生れ先代ミネの養子となり同十五年家督を相續す俳人として知られホトトギス發行所を主宰す著書に「風流懺法」其他あり家族は尙孫中子（昭三、五生、長男年尾長女）同汀子（同六、一生、同二女）ありA二五〇（長崎市樂馬場町九三）

高畠惟一　丸三貿出資社員、地主　東京府在籍

安政六、五生、東京、菊間キン長女

妻　晴子　明四〇、四生、東京、高畠猪吉二女

男　弘　昭六、一生

君は東京府人高畠新吉の孫にして明治四十一年五月十九日を以て生る地主にして丸三合資會社出資社員たり家族は尙弟誠二（明四五、五生）ありA二二三六（東京市小石川區上富坂町二五電小石川七九一九）

參照＝※小立鉦四郎の項

高畠肇　三井銀行㊞京都支店次長　岡山縣在籍

妻　秋　明三一、八生、千葉、仲田慶三郎長女、東京府立第一高女出身

男　成一　昭二、八生

君は岡山縣人高畠多七郎の四男にして明治二十一年一月十四日を以て生れ後分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し直ちに株式會社三井銀行に入り名古屋支店次長を經て現時京都支店次長たり家族は尙二女幸（大一〇、一生）三女信子（同一三、二生）四女安子（同一四、六生）五女好（昭八、二生）あり長女和（大八、九生）は亡祖父仲田慶三郎の家督を相續すA六六二（京都市上京區寺町通今出川下ル扇町二七八電上二六四五）

高濱盧子（淸）　ホトトギス發行所主、俳人　神奈川縣士族

妻　いと　明一二、一〇生、群馬、大畠豐水二女

男　年尾　明三三、一二生

姉　きみ　明四〇、二生、長男年尾妻、東京上田群遊妹

女　晴子　大四、一生

女　章子　大八、六生

君は舊松山藩士池田信夫の四男にして明治七年二月二十二日を以て生れ先代ミネの養子となり同十五年家督

高濱信男　東洋モスリン㊞監査役、安田銀行㊞貸付課長兼金融課長、營業部長代理、東京府在籍　嘉永六、一一生、現戸主

父　逸次　明三一、七生、東京、武川忠司長女

妻　都留子　大八、一生

男　洋一

君は東京府人高濱逸次の四男にして明治二十三年十二月二日を以て生る現時東洋モスリン會社監査役にして安田銀行貸付課長兼金融課長營業部長代理たり家族は尙長女敏子（大一〇、八生）二男哲郎（昭二、七生）兄孝造（明一一、九生）同妻ショ（同二一、五生、香川、横田大宜養子）及其三子同忠男（同一五、三生）（同一六、二生、兵庫、山本儀助二女）及其一子ありA二〇三一（東京市品川區大井鹿王子町四四九四電大森一九九三）

高林次郎　資產家　東京府在籍

母　ヤエ　明二、三生、東京、松原房吉姉

妻　かな　明二七、一〇生、東京、高林忠七長女

男　定吉　大四、四生

君は東京府人高林金次郎の二男にして明治二十三年三月十日を以て生れ昭和三年家督を相續す資產家たり家族は尙二男橋次（大六、三生）三男治三郎（同八、一生）四男忠七（同九、一二生）ありA四六六（東京市品川區東大崎町三ノ一八三）

高林寅吉　建築請負業　大阪府在籍

養母　美知　嘉永六、一生、大阪、田中幸吾長女

妻　サキ　明一〇、一一生、大阪、井上福松長女

男　幸太郎　明三四、一一生

婿　ミツエ　明四一、六生、長男幸太郎妻、奈良、樫根幸太郎二女

男　榮應　明四〇、一二生

婿　文代　大二、一生、二男榮應妻

君は和歌山縣人山本吉衛門の二男にして明治五年四月十八日を以て生れ同三十年高林清七の養子となり大正十一年家督を相續す建築請負業を營む家族は尙孫正子（昭四、一生、長男幸太郎長女）同鄰（同八、一生、二男榮應長男）同昌盛（同八、一二生、同二男）ありA七〇〇（大阪市北區中崎町一一七電北五八四四）

高原吉藏　酒類商　東京府在籍

母　せん　明七、八生、東京、友田重三郎長女

男　尙義　大一四、一〇生

君は東京府人高木吉藏の長男にして明治二十六年九月二十三日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名菊太郎を改め襲名す酒類商を營む家族は尙長女璋子（大一一、六生）二男篤興（昭五、三生）ありA二五七B八七（東京市京橋區霊岸島二ノ一電京橋一〇九五）

高原匠　正五位勳四等、鐵道技師、運輸局運輸課長、三重縣士族　慶應二、八生、三重、士、東間順三長女

養母　せい　明二三、一〇生、三重、士、高松範重三女、横濱フェリス高女英語師範科出身

妻　靜　明四四、一生

男　周　明四五、二生

女　幸子　昌　大三、一生

男　榮　大四、四生

女　孜子　大七、一〇生

君は三重縣士族吉成鈴太の三男にして明治十二年九月二十日を以て生れ先代徹也の養子となり明治四十年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學造兵科を卒業し直ちに鐵道院技師に任じ各地に轉職後大正七年宇都宮運輸事務長となり鐵道局技師に轉じ東京鐵道局運輸課

機械掛長上野運輸事務所長新橋運輸事務所長となり此の間歐米各國へ一ケ年出張歸朝の上名古屋鐵道局運輸課長及鐵道技師監督局技術課勤務を經て昭和七年滿洲へ出張を命ぜられ歸朝後勅任官を以て遇せらる同八年運輸局運轉課長となり同時に高等官二等に昇叙現在に至る家族は尙三男健（大九、一〇生）五男豪（同一三、八生）六男尙（昭二、七生）あり（東京市淺橋區百人町三ノ三三九電四谷五四〇八）

參照＝※石井光雄の項

高原照之　丸玉商會㊞常務取締役、賣酒造㊞取締役、千葉縣在籍　嘉永五、二生、齋藤傳九郎五女

母　とめ　明一八、一〇生、東京、外山角次郎三女

妻　あい　明四五、二生、丸玉商會勤務、早稻田實業學校出身

男　信太郎　大二、六生

女　淑子　大七、一一生

女　啓子　大四、一生

君は千葉縣人高原辰五郎の長男にして明治十一年十月十六日を以て生れ同十六年家督を相續し前名一郎を改む現時前記各會社の重役たり家族は尙二男章次（大五、二生、早稻田實業學校在學）あり長女優子（明三九、六生）は東京府人宮崎宇之助に嫁し弟達三郎（同二八、一生）は前記宮崎宇之助の養子となれりA五七〇、東京市牛込區若松町一〇二電牛込一六五九）

高原操　朝日新聞社㊞常務取締役、大阪朝日新聞主筆、大阪府在籍　明一八、八生

妻　トキ　大元、一〇生

男　正　大七、八生

女　幸子　大四、一生

君は福岡縣人高原神洞の長男にして明治八年十二月十三日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業同三十九年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し朝日新聞社に入り同社の組織を株式會社となすに當り取締役に擧げられ現時同社常務取締役兼大阪朝日新聞主筆たり家族は尙二男怒（大四、二生）長女マリ子（同一二、七生）あり長女靜子（明三七、五生）は兵庫縣士族廣瀨貞之助長男義忠に嫁し二女知惠子（同三九、二生）は東京府人窪田卯之助の間歐米各國へ一ケ年出張歸朝の上名古屋鐵道局運輸課長及鐵道技師監督局技術課勤務を經て昭和七年滿洲へ出張を命ぜられ歸朝後勅任官を以て遇せらる同八年運輸局運轉課長となり同時に高等官二等に昇叙現在に至る家族は尙三男健（大九、一〇生）五男豪（同一三、八生）六男尙（昭二、七生）あり（東京市淺橋區百人町三ノ三三九電四谷五四〇八）

參照＝※石井光雄の項

高原照之　丸玉商會㊞常務取締役、賣酒造㊞取締役、千葉縣在籍　嘉永五、二生、齋藤傳九郎五女

母　とめ　明一八、一〇生、東京、外山角次郎三女

妻　あい　明四五、二生、丸玉商會勤務、早稻田實業學校出身

男　信太郎　大二、六生

女　淑子　大七、一一生

女　啓子　大四、一生

君は千葉縣人高原辰五郎の長男にして明治十一年十月十六日を以て生れ同十六年家督を相續し前名一郎を改む現時前記各會社の重役たり家族は尙二男章次（大五、二生、早稻田實業學校在學）あり長女優子（明三九、六生）は東京府人宮崎宇之助に嫁し弟達三郎（同二八、一生）は前記宮崎宇之助の養子となれりA五七〇、東京市牛込區若松町一〇二電牛込一六五九）

高原操　朝日新聞社㊞常務取締役、大阪朝日新聞主筆、大阪府在籍　明一八、八生

妻　トキ　大元、一〇生

男　幸子　正　大七、八生

君は福岡縣人高原神洞の長男にして明治八年十二月十三日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業同三十九年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し朝日新聞社に入り同社の組織を株式會社となすに當り取締役に擧げられ現時同社常務取締役兼大阪朝日新聞主筆たり家族は尙二男怒（大四、二生）長女マリ子（同一二、七生）あり長女靜子（明三七、五生）は兵庫縣士族廣瀨貞之助長男義忠に嫁し二女知惠子（同三九、二生）は東京府人窪田卯之助の長男敏夫に三女迪子（同四一、八生）は長崎縣士族黑板勝美長男庚一に四女子子（同四三、一生）は東京府人内野仙一長男仙一郎に緣せりA九七九（大阪府豐能郡池田町一〇五五ノ三電池田一五二）

參照＝内野仙一、黑板勝美の項

高原道生　正五位勳五等、前臺灣總督府技師　岡山縣在籍

父　平三郎　萬延元、九生、現戸主

母　喜佐　明二五、二生、岡山、寺見壽次二女

妻　たみ　明二五、二生、兵庫、山本了祐二女

男　治生　明四五、三生

女　薩　大四、七生

君は岡山縣人高原平三郎の長男にして明治十五年十二月を以て生る同三十九年盛岡高等農林學校農學科を卒業し直に茨城縣耕地整理技術員囑託となり農技手同技師廣島縣農業技師廣島縣技師復興局技師整地部技術課勤務同整地課技術主任等を經て昭和二年臺灣總督府技師內務局土木課勤務に轉じ現時開地に在り家族は尙弟眞三男（明二二、一一生）同妻かね（同二九、九生、兵庫、岸本安次郎三女）及其三男一女あり弟次雄（同一九、一二生）同登四穂（同二六、一一生）は各分家せり（東京市世田谷區若林町五五一）

高原道生　正五位勳五等、前臺灣總督府技師　岡山縣在籍

父　平三郎　萬延元、九生、現戸主

母　喜佐　明二五、二生、岡山、寺見壽次二女

妻　たみ　明二五、二生、兵庫、山本了祐二女

男　治生　明四五、三生

女　薩　大四、七生

君は岡山縣人高原平三郎の長男にして明治十五年十二月を以て生る同三十九年盛岡高等農林學校農學科を卒業し直に茨城縣耕地整理技術員囑託となり農技手同技師廣島縣農業技師廣島縣技師復興局技師整地部技術課勤務同整地課技術主任等を經て昭和二年臺灣總督府技師內務局土木課勤務に轉じ現時開地に在り家族は尙弟眞三男（明二二、一一生）同妻かね（同二九、九生、兵庫、岸本安次郎三女）及其三男一女あり弟次雄（同一九、一二生）同登四穂（同二六、一一生）は各分家せり（東京市世田谷區若林町五五一）

高平小太郎　從四位、男爵　岩手縣華族

繼母　キヨ　慶應二、七生、東京、西山眞平二女

當家は先代小五郎より顧る小五郎は舊一關藩醫田崎三徹の三男にして先々代眞藤の養子となり家督を繼ぐ夙に藩黌に學び後藩の貢進生として開成黌に入る明治六年工部省に出仕し同十四年外務省三等書記生に任じ爾來公使館書記官上海領事駐育總領事駐蘭辨理公使駐伊太利駐墨各特命全權大使貴族院議員等に歷任し日露平和條約締結の功に依り明治四十年華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして菅原恒覽の從弟なり明治十八年十二月二十二日を以て生れ大正十五年十一月家督を相續し昭和二年三月襲爵仰付

高廣次平　前貴族院議員、高岡銀行㊞頭取、山又機業㊞社長、立山貿易㊞社長、北陸信託㊞取締役、高岡米穀取引所、高岡新聞社各㊞監査役、農業　富山縣在籍

母　さつ　明元、四生、富山、二見伊勢長長女

妻　多美　明二七、五生、富山、佐藤助九郎長女

男　榮一　明四四、九生

女　芳　大六、九生

君は富山縣人先代次平の長男にして明治十八年八月三日を以て生れ大正九年家督を相續し前名欣藏を改め襲名す現時立山貿易會社長高岡銀行頭取たる外前記銀行會社の重役にして富山縣多額納稅者に列し直接國稅三千二百十八圓を納む大正十四年貴族院議員に互選せられ貴族院より伯爵に於ける商事會議に參列す義に紺綬章を賜る家族は尙二女信（大九、五生）あり弟政之助（明二四、五生）同三郎（同二九、六生）同正治（同三一、九生）は各分家し妹たみ（同二二、八生）は富山縣人井上清孝に同常（同三四、一生）は石川縣人米谷半平に同さき（同三八、五生）は工學博士片岡安長男銓太郎に嫁せり（富山縣西礪波郡福岡町）

參照＝井上清孝、片岡安、佐藤助九郎、米谷半平※藤波敬の項

高倍權太郎　太洋海運、日加信託各㊞監査役、辯護士、兵庫縣在籍

繼母　ため　元治元、六生、兵庫、船越吉作妹

妻　ふさ　明一四、一生、兵庫、片山市之介四女、神戸女學院出身

男　正彥　明三八、八生、關西學院文學部修業

婿　八重　明四五、三生、長男正彥妻、愛媛御手洗忠孝五女、私立松山女學校出身

男　義男　明四一、一一生、同志社大學在學

君は兵庫縣人高倍代門の長男にして明治二年五月を

けらる義に內外煙草材料會社取締役たり妹せい（明二二、七生、女子學習院出身）は故醫學博士樋口榮次に嫁し弟隆雄（同二四、三生、法學士）同蘭一（同二六、四生）は各分家せり（東京市大森區山王一ノ二四五四）

參照＝菅原恒覽の項

以て生れ大正三年家督を相續す明治二十七年東京帝國大學法科大學法律科を卒業して司法官となり同三十四年大阪地方裁判所判事を辭し神戸に事務所を設け辯護士を開業し今日に至る曩に神戸商業會議所特別議員に擧げられ現時前掲各會社の重役にして横濱正金第一蓙灣住友各銀行三井物産三菱造船三菱倉庫各會社の法律顧問たり古美術を愛玩す家族は尙三男德雄（大五、八生）四男健（同一一、五生）あり長女幸（明三二、一一生、縣立神戸高女出身）は兵庫縣人法學士鈴木智一郎に三女道（同三七、一生、神戸女學院出身）は東京府人法學士辯護士山田作之助に妹喜久（同三〇、七生は兵庫縣人船越庶人に嫁せりA一九三〇（神戸市中山手通五ノ三三電元町六一三）

高松敬治

高德商店、玩具商
大阪府在籍

妻　光子　明三八、一生、京都、野原正兵衛孫

男　博太郎　昭四、一生

君は大阪府人高橋德三郎の二男にして明治三十五年八月六日を以て生れ昭和八年家督を相續す高德商店と稱し玩具商を營み現時市内一流の店舗たり家族は尙長女和子（昭五、一二生）弟恭三（大三、二生）ありA八二六B二〇九（大阪市東區住吉町四三電東二六八六）

高松公春

正五位勳三等、子爵、海軍中佐
舊公卿家

男　貫忠　大四、七生、逗子開成中學校出身

當家は右大臣三條西實條の三男右中將實說の後なり後三世重季に至り分れて一家を立て高松と稱す夫より五代を經て先々代實村に至り七卿を扶けて維新の際大に功勞あり明治十七年子爵を授けらる先代公秋は其六男官綬政本部員海軍大學校教官等に歷補し水雷術の造詣深く斯界の權威たりき日露戰役の功に依り功五級に敍せらる君は實村の七男にして明治十七年一月を以て生れ大正十五年兄公秋の家督を相續し昭和二年强爵被仰付夙に海軍に入り累進して海軍中佐に陞る日露戰役世界大戰に從軍し砲術學校教官軍令部附等に歷補し海軍砲術に關し造詣最も深し家族は尙二男實典（大六、七生、關東學院在學）姪千歲子（明三二、八生、亡兄公冬長女）同愛子（大二、二生、亡兄公秋長女）あり（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町材木座字上河原五五）

高松四郎

正五位勳六等、櫻原神宮々司
福島縣士族

養父　泰助　慶應三、六生
養母　壽々　明四、八生、東京、尾崎忠照長女
男　忠清　明四〇、一二生、神宮皇學館出身
男　孝清　明四二、七生
男　友清　明四四、五生
男　和子　大三、六生
女　恭子　大七、八生

君は福島縣人高松重巽の四男にして明治八年八月二十九日を以て生れ先代兄泰介の養子となり昭和五年家督を相續す明治三十一年神宮皇學館本科を卒業し官幣大社平野神社同松尾神社各彌宜國幣中社彌彌神社別格官幣社東照宮官幣大社朝鮮神宮各宮司を經て昭和六年官幣大社櫻原神宮々司に任じ今日に至る家族は尙四男信清（大六、七生）三女愛子（同一一、七生）伯母シゲ（文久三、一生）あり（奈良縣高市郡畝傍町櫻原神宮社務所）

高松重兵衛

玩具商
大阪府在籍

母　リキ　明三、一〇生、大阪、中村喜兵衛長女
妻　淑子　明三六、二生、
男　隆一郎　昭四、八生

君は大阪府人先代重兵衛の二男にして明治三十一年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す玩具商たり家族は尙長女房江（大一四、一一生）ありA一〇九七B一五三（大阪市東區博勞町二ノ三四電船場一〇六三）

高松長左衛門

地主
大阪府在籍

母　ミチ　文久元、五生、細父長左衛門長女
安　福子　明四五、三生
女　壽子　大四、二生

高松家は世々白粉製造を業とせる舊家にして代々長左衛門を襲名す先代長左衛門は大阪府伸井氏より出でゝ先々代の養子となり細業を繼ぎ白粉商を營みし、大正三年之を廢業して地主として知られ大阪府多額納稅者に列せり君は先代の長男にして明治十五年二月十七日を以て生れ昭和七年家督を相續し前名林之助を改め襲名す夙に關西大學法律科を卒業す地主たり家族は尙弟檜太郎（明二三、七生）妹檜江（同三二、三生）あり同コウ（同一九、三生）は大阪府人松本彌三に嫁せり（大阪市東區北久太郎町一ノ一三電船場八五六）

高松定一

愛知縣多額納稅者、名古屋商工會議所常議員、鄙定商店、肥料商、愛知縣在籍

母　としし　慶應三、八生、愛知、糟谷綱右衛門妹
妻　ちか　明三三、一〇生、滋賀、松居久右衛門四女

君は愛知縣人先代定一の二男にして明治二十二年十一月十一日を以て生れ大正八年家督相續と共に襲名して前名鈴吉を改む同四年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し肥料商を營み師定商店と號す現に愛知縣多額納稅者にして直接國稅七千九百六十三圓を納め推されて名古屋商工會議所常議員たり家族は尙二女千枝子（大一二、三生）三女萬喜子（同一三、九生）弟靜男（明二九七生、早大商科出身）同妻和子（同三八、七生、愛知伊藤由太郎三女、相山高女出身）あり妹壽子（同四〇、六生）は愛知縣人岡谷惣助弟順之助に嫁し弟秀三郎（同二六、六生）は三重縣人九鬼紋十郎長女里子を迎へ外戚鈴木家を繼げり（名古屋市中區納屋町一ノ一二電西二八〇〇）

參照＝岡谷惣助、九鬼紋十郎、鈴木秀三郎※無義郎の項

高松豐吉

從三位勳二等、工學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、科學協議會々長、理化學研究所理事、大日本織物協會顧問
東京府在籍

妻　タツ　明三、一一生、東京、士、今泉一美姉
男　誠　明二〇、二生、工學士
男　壽　明三〇、二生、長男誠妻、醫學博士鳥居武雄妹
婿　スガ道　明二一、一〇生、法學士

婿　千代子　明三三、三生、二男道雄、東京、美術院長正木直彥二女
男　敦　明三七、三生、叢學士
孫　眞佐　明四三、七生、三男敦雄
孫　愛　大六、一二生、長男誠長女

高松家は淺草阿部川町に住し代々名主役を勤めたる家柄なり君は先代喜兵衛の二男にして嘉永五年九月を以て生れ後家督を相續す明治十一年東京大學理學部化學科を卒業し同十二年化學修業の爲め滿三ヶ年英國へ留學を命ぜられ次で獨逸に轉じ同十五年歸朝後文部省御用掛囑で東京帝國大學工科大學教授に任じ東京高等工業學校教授を兼任し同二十一年工學博士の學位を受け後特許局審判官を兼ね同三十六年貴族院議員に入り東京瓦斯株式會社專務取締役及社長として瓦斯事業の發達に努む大正三年辭して再び官界に入り東京工業試驗所長の職に就任し同十三年辭任す現に東京帝國大學名譽教授及び帝國學士院會員に擧げらる家族は尙孫祿（大一二、四生、長男誠長男）同倫（同一三、一〇生、同二男）同育（昭四、三生、同三男）同昭子（大九、九生、二男）同道長女）同絢子（同一一、一一生、同二女）同順（同一四、三生、同長男）同規子（昭三、七生、同三女）あり長女靜江（明二六、一〇生、御茶の水高女出身）は東京府人醫學士井上吉之助に次女美憲（同三八、九生、雙葉高女出身）は東京府人篠田せい養子醫學博士篠田弘に嫁せり（東京市本郷區駒込西片町一三）

參照＝今泉一、篠田せい、鳥居武雄、正木直彥の項

高松博

從四位勳四等、農林技師、農商務省勤務、東京府士族

妻　吉　明二六、九生、東京、内田萬次郎三女
男　千秋　大一三、九生
女　孝子　大三、六生

君は東京府士族高松雲の三男にして明治十五年九月十七日を以て生る同四十三年東京帝國大學農學科大學農學科を卒業し佐賀縣農林技師に任ぜられ次で兵庫縣技師農商務技師等に歷任し現時農林技師にして農務局勤務たり家族は尙二女二葉（大一一、八生）あり姉榮（明四一〇生）は千葉縣人三輪德寬に嫁せりA一二〇（東京市杉並區天沼一ノ二一六）

高松福三郎

高松商店、取締役、洋品雜貨商
大阪府在籍

妻　モト　明二〇、一一生、和歌山、平松福次郎二女
男　龍一　大五、一生

君は和歌山縣人高松豐太郎の弟にして明治十六年四月十五日を以て生れ大正三年分れて一家を創立し後前名梅松を改む高松商店取締役にして洋品雜貨商を營む家族は尙二男秀二（大一〇、二生）あり長女みよ子（明四三、一生）は同夫濟美（同三六、三生、和歌山、星崎能孝弟）と共に分家し二女正子（大元、一〇生）は大阪府人金山八重藏子周利に嫁せりA五二三（大阪府東區南本町四ノ五三電船場三六三二）

高松正信

從四位勳三等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務
東京府士族

母　ゆさ　文久三、八生、神奈川、大久保善海五女
妻　むつ子　明三二、七生、長野、岩波伯太妹
男　信夫　大一〇、五生

君は現役海軍造兵大佐高松敬馬の長男にして明治十六年四月十五日を以て生れ明治四十年家督を相續す明治四十年札幌農學校を卒業し同年東北帝國大學農科大學助手となり更に同四十二年助教授に任じ同年寄產學研究の爲獨英米諸國に留學し歸朝後同大學教授に任ぜられ現時北海道帝國大學教授にして農學部勤務たり大正八年農學博士の學位を受け昭和六年中華民國に出張を命ぜらる弟修治（明一九、七生）同兵馬（同三〇、八生）は各分家し同進三（同二三、一生、東京高商出身）は大阪府人武内才吉に同仁吉（同二四、一二生、出身校同上）は鹿兒島縣人田中省吾先代省三に各養子となり妹登勢（同二一、五生）は海軍々醫大佐牛田桂次郎に同はや（同二七、一生）は東京府士族杉浦義泰に同うめ（同四三、二生）は千葉縣人宇賀山金次郎三男遜に三女あい（同三五、七生）は横濱正金銀行員關嘉行に嫁せり（札幌市北三條西十三丁目）

參照＝田中仁吉の項

高松林之助

家主
大阪府在籍

母　ミチ　文久元、五生、細父長左衛門長女
女　福子　明四五、三生
女　壽子　大四、二生

高松家は代々長左衛門を襲名し世々白粉製造を業とせる舊家にして先々代長左衛門に至り之を廢業す君は故多額納稅者先代長左衛門の長男にして明治十五年二月十七日を以て生れ昭和七年家督を相續す家主たり家族は尙弟檜太郎（明二三、七生）妹檜江（同三二、三生）あり妹コウ（同一九、三生）は大阪府人濱田熊三郎に叔母きし（慶應二、八生）は同府人津田松之助に嫁せりA六九九七（大阪市東區北久太郎町一ノ一三電船場八五六）

高見岩太郎

家主
兵庫縣在籍

妻　ぬい　慶應元、六生、兵庫、熊田岩吉妹
男　熊太郎　明一九、六生
婿　ふい　明二一、一生、長男熊太郎妻、兵庫、笠松萬次郎養妹
孫　林八　明四一、一二生、長男熊太郎三男
孫妻　つる子　明四三、一〇生、孫林八妻、兵庫鬼谷市松長女

君は兵庫縣人神原幾右衛門の三男にして先代や𡚁の養子となり後家督を相續す家族は尙曾孫久壽子（昭四、一二生、孫林八長女）ありA四〇七（神戸市須磨區磯馴町一ノ二六）

高見之通

從四等、衆議院議員（富山縣選出）、辯護士、富山縣士族
政友會總務

妻　ヨネ　明二三、三生、富山、阿部眞太郎妹
男　之忠　明二一、一生、富山高女出身
女　君子　大二、一生

君は富山縣士族高見之寬の長男にして明治十三年三月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現に辯護士にして衆議院議員に當選する事五回現に其任にあり立憲政友會に所屬し總務たり尙推されて縣實業組合長其他の公職を帶ぶ曾て岩瀨町長に選ばれ米國及支那に漫遊せる事あ

り現時印度濠洲地に一大記念塔の建設を發願し著々進行中にあり家族は尙二男之元（大五、二生、富山高校在學）三男巽通（同八、五生）四男之威（同一二、九生）五女慎子（同一五、五生）あり弟義次郎（明一六、一二生）同妻直枝（同二六、六生、富山、鹿岡邦憲長女）は其一男を伴ひ分家し弟喜四郎（同二三、八生）も亦分家せり（東京市小石川區西江戸川町一〇電小石川三五二〇）

高見和平

元三菱重工業會社囑託技師
長崎縣在籍

妻　ヨマ　明二〇、三生、樊父和平二女
男　宏　大三、三生
樊母　チホ　安政五、二生、長崎、若杉卯之吉妹

君は和歌山縣人愛宕直三郎の三男にして明治十二年四月を以て生れ先代和平の養子となり昭和五年家督を相續し前名復三郎を改め襲名す明治三十八年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し後三菱重工業長崎造船所囑託技師となり昭和六年辭職す義に三菱造船所參事たり一男一女あり（大五、一二生）二女綱子（同九、二生）あり（長崎市燈籠町一〇電一四三一）

參照‖※鶴田善重の項

高嶺俊夫

從六位、理學博士、理化學研究所研究主任、東京府士族
明三三、一〇生、東京、井關鹿彥二女

妻　須磨子　大四、一二生
男　秀一　明四五、四生
女　信子　大二、一一生
女　孝子　大八、四生
女　貞子

君は舊會津藩士高嶺秀夫の二男にして同昇の兄たり明治十八年九月五日を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十三年東京帝國大學理科大學を卒業し大正五年理學博士の學位を受く義に東京帝國大學理學部教授たりしも辭して現時理化學研究所研究主任たり家族は尙二男泰夫（大一四、五生）四女雪子（同一五、一一生）三男時夫（昭四、五生）弟昇（明二一、六生）同妻周（同三一、二生、京都、中島力造長女）及其五子あり妹誠子（同二六、九生）は富山縣人清水與七郎に嫁し同敬子（同三一、八生）は秋田縣人土田誠一に嫁し叔父秀四郎（文久元、九生）同妻美津（元治元、一一生、愛知、士、阪井敬之助姉）は其三子を伴ひ分家せり A九一三（東京市小石川區大塚窪町四三電大塚五六〇〇）

參照‖高嶺昇、土田誠一の項

高嶺昇

正五位勳六等、第八高等學校教授
東京府士族
明三一、二生、京都、中島力造長女
周　大七、三生
浩

君は舊會津藩士高嶺秀夫の三男にして現戸主俊夫の弟なり明治二十一年六月を以て生る大正三年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し現時第八高等學校教授たり家族は尙長女淳子（大一〇、九生）二女靖子（同一三、一生）二男潔（昭五、七生）三男尙（同七、七生）あり（名古屋市中區山脇町一ノ四一）

參照‖高嶺俊夫※土田誠一の項

高宮虎太郎

高宮本店、綿布商
大阪府在籍
明二八、三生、大阪、納谷安治郎長女
母　かう　慶應元、一生、大阪、納谷安治郎姉
妻　屋壽
男　一雄　大九、一生

君は大阪府人高宮虎之助の長男にして明治二十六年八月七日を以て生れ昭和三年家督を相續す綿布商を營み高宮本店と稱す妻に大五商店監査役高宮本店出資社員たりし事あり弟辰三郎（明三一〇、九生）二女泰行（同三四、三生）は各分家し叔母スエ（同五、七生）は大阪府人酒井榮吉に嫁せり A七五九（大阪市東區備後町一ノ五電本町一七一）

高村國策

筑後鐵道社長、東京府在籍
明三三、九生、埼玉、宍倉光太郎三女、跡見高女出身
妻　阿久利　慶應義塾大學經濟學部助手
男　象平　明四二、四生、貴族院議員男爵淺田良逸三女、女子學習院出身
男　孝二　明四〇、一二生、青山學院高等學部商科出身

君は長野縣人高村新平の三男にして慶應二年十二月を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す現時前記會社の社長たり家族は尙二女光（昭四、二生）あり（東京市本郷區本郷一ノ七電小石川二七一）

高村光太郎

彫塑家
東京府在籍
明一九、五生、福島、長沼今朝吉長女
妻　チエ
姉　薫　明四二、四生、女、女子學習院出身

君は舊會津藩士高嶺秀夫より顯る光雲幼時彫刻の名家佛師高村東雲の門に入り二十三歲にして龍池會の觀古美術會に出品して識者の賞讃を博す東京彫工會成るや推されて其常務委員となる後東京美術學校教授となり明治二十三年帝室技藝員に任じ帝室の御用命を拜すること一再ならず又賞顯の御前に於て其卓技を上覽に供し恩賜を蒙ること數回其他內外の博覽會審査員を囑託せらる彼の補公銅像信州善光寺仁王は其の代表的傑作なりと云ふ東京美術學校名譽教授國寶保存會委員に舉げらる君は其長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和九年家督を相續す明治三十五年東京美術學校彫刻科を卒業す彫塑家にして一面詩人洋畫家として知らる曾て歐洲に遊び彫刻界の五擘ロダンに會して學ぶ所あり洋畫家としては大正元年岸田劉生等とフューザン會を創立し斯界の尖端を行き其畫風迎へられしも現時畫筆に親まず「ロダンの言葉」「童貞」等の著書あり家族は尙弟道利（明一九、四生）同豐周（同二三、七生、東京美術學校助教授、同校工藝科出身）同妻君江（大四、三生、東京、藤居寧助長女）及其一子妹喜子（明二七、一二生）あり妹靜（同一九、四生）は東京府人山鍋寅三に嫁し弟孟彥（同二五、一〇生、農學士）は同府人藤岡福三郎の養子となれり（東京市本郷區駒込林町二五電小石川一一八二）

高村庄助

貴產家
山形縣在籍
妻　わか　明二、四生、山形、士、澁谷林右衛門妹
男　庄太郎　明二二、一生、醫學博士、醫師

婦　光惠　明三〇、二生、長男庄太郎妻、岡山、松岡豐五郎三女
男　英藏　明三五、三生、二男英藏妻、石川島定保長女
婦　純子　明二六、一二生
男　弘平　明三四、九生

君は山形縣人高村圭助の二男にして文久三年十二月十二日を以て生れ明治十年分れて一家を創立す資產家として知らる家族は尙六男杏平（大六、七生）孫和子（同五、一生、長男庄太郎長女）同正雄（同九、一生、同長男）同道子（同一三、一〇生、同二女）同英樹（昭二、五生、二男英藏長男）同襄二（同四、五生、同二男）あり長女りほ（明二四、九生）は山形縣人高橋吉三郎二男國藏に二女さの（同二九、一生）は同縣人高村嘉藏に三女智憲（同三九、一〇生）は同縣人川崎久藏弟久吉に嫁し三男郁三（同三一、八生）は東京府人饗庭治平の養子となれりA三一五（大阪市東區北濱四ノ一八電東一五〇六）

高村善太郎

函館商工會議所常議員、函館青汽船、函館魚商市場各株社長、函館水產取賣、三輪運送店、長、立運輸、函館運送店各株取締役、三海運倉庫各株取締役
妻　さと　明一四、一生、富山、大船市次郎妹
樊子　新次郎　明二八、二生、石川、宮崎彌三郎弟
婦　よし　明二九、一一生、樊子新次郎妻、富山、大船市次郎二女

君は石川縣人高村興三郎の甥にして明治五年四月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す海陸物產商を營み現時函館魚商市場會社長にして傍ら前記會社の重役を兼ね推されて函館商工會議所常議員たり（函館市本町二九電三六九七）店舗（同市豐川町五七電一六三八）

高谷英城

青森縣多額納稅者、津輕銀行株頭取、弘前商業銀行株取締役、農業
青森縣在籍
妻　まゆ　明二四、一生、青森、清藤盛美孫
男　正二　大二、五生

君は青森縣人高谷貞助の長男にして明治十八年八月一日を以て生れ後家督を相續す同四十二年早稲田大學文科を卒業し現時津輕銀行頭取たる外前記銀行の取締役にして直接國稅九百八十六圓を納め縣下の多額納稅者たり趣味に圍碁謠曲等あり家族は尙二男逸三（大六、二一生）三男哲夫（同九、三生）四男欣治（同一〇、五生）二女良子（同一二、一〇生）同妻おみ（文久元、四妹しげ（明二九、二生）同夫健策（同二六、一一生、青森、熊谷萬之三男）弟貞夫（同四三、一生）あり妹まさ（同二四、三生）は青森縣人中村鐵之助長男吉郎に同いと（同二五、四生）は同縣人山內藏五郎二男政五郎に同て る（同二七、五生）は同縣人高谷嘉男長男耕一に同クニ（同三三、三生）は同縣人柾馬章夫に同きくよ（同四一、五生）は福島縣人薩山常雄に嫁し弟英稔（同三〇、一一生、同妻クニ（同三五、四生、青森、士、齋藤熊五郎妹）は其二女を伴ひ叔父貞次郎（同三、三生）同妻とく（同元、一二生、青森、士、山田源次郎妹）は其一女を伴ひ大叔父宮太郎（嘉永五、一二生）同妻おみ（文久元、四生、青森、太田權左衛門二女）は其一男を伴ひ各分家せり（弘前市鹽分町一四）

高安慎一

正五位、醫學博士、九州帝國大學教授、溫泉治療學研究所員
東京府在籍
明一九、三生、石川、高安右人長女
妻　梅子　明三五、五生、石川、高安右人二男
樊子　晃　明四二、九生、樊子晃妻、熊本、大谷國吉長女
婦　富美　明四〇、一二生、京都帝大醫學部在學
男　國世　大二、八生、甲南高校在學
男　正夫

君は東京府人高安綱太郎の長男にして明治十七年六月を以て生る同四十一年同府人高安知明の養子となり大正六年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し大正九年醫學博士の學位を受け熊本縣立醫學專門學校教授に任ぜられ後ち熊本醫科大學教授となる昭和二年歐米に留學し同六年九州帝國大學教授に任じ現時同大學溫泉治療學研究所員たり家族は尙孫源一（昭七、一二生、樊子晃長男）あり（別府市市原區）

參照‖秋谷國吉、高安右人の項

高安道成

醫學博士、大阪府在籍、高安病院長、醫師
妻　やす　明一六、八生、靜岡、清野謙次姉
男　彰　明四〇、一二生、京都帝大附屬病院勤務、醫學士
男　正夫　明四二、七生、京都帝大醫學部在學

當家は古くより大阪に在り中祖高安理平光近天滿に於て針術導引を爲し爾來世々醫を業とす君は先代道純の二男高安六郎の實兄にして明治五年七月六日を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に第三高等學校を卒業し英國に留學し醫科卒業後獨逸に轉じブレスラウ大學に於て外科學を專攻しドクトルメヂチーネの學位を受け明治三十二年歸朝獨逸病院を設立し同四十二年醫學博士の學位を受く現時高安病院長たり又大阪府衞生會副會頭大阪市弘濟會評議員結核豫防協會副會頭等の要職

妻　みとり　慶應二、四生、高安知明長女、勳五等
男　貞明　明二七、一生、醫學士
婦　敏子　明三六、一二生、長男貞明妻、男爵永山武敏長女

君は佐賀縣士族武岡岩祖の二男にして萬延元年七月を以て生れ先代みとりの入夫となり明治十七年家督を相續す同二十年帝國大學醫科大學を卒業し大學院に入り爾來第四高等中學校醫學部教諭金澤醫學專門學校長兼教授金澤醫科大學長兼教授等に歷任し大正十三年之を辭し開業す明治三十二年眼科學研究の爲獨逸に留學し同三十六年醫學博士の學位を授けらる後再び歐米視察を命ぜられ金澤醫科大學名譽教授に推さる家族は尙孫毅（大一三、五生、長男貞明長男）同明彥（同一五、五生、同二男）同有夫（昭三、一生、同三男）あり二男晃（明三五、五生）は高安慎一の養嗣子となり長女梅子（同一九、三生）は醫學博士高安慎一に二女長子（同二二、一一生）は佐賀縣士族武岡俶に三女惟子（同二三、八生）は辯護士法學士廣瀨嘉一に四女文子（同二八、七生）は長野縣士族醫學士今井政二に五女美代子（同三八、三生）は醫學士岡島義彥に各嫁せりA一六四（金澤市下百々女木町七〇電一五九六）

參照‖男爵永山武敏、高安慎一※吉武鶴次郎の項

高安右人

正三位勳二等、醫學博士、金澤醫科大學名譽教授、眼科醫師
石川縣在籍

を兼ね斯界の一權威たり圍碁語曲に趣味を有す夫人は大阪社交界に名あり家族は尙妹スエ(明九、九生)及其一男あり長女綾子(同三五、四生)は大阪府人理學士島五郎に二女美佐保(同三七、六生)は東京府人理學博士石本已四雄に三女英子(同三九、五生、相愛高女出身)は大阪府人嚴又兵衛長男榮一に嫁し弟六郎(同一一、一二生)は同妻きぬ子(同二〇、一〇生、復並直五郎三女)と共に分家せりA六〇二(大阪市東區道修町四ノ二)

電本局一四四)

參照‖嚴又兵衛、清野謙次、高安六郎※赤星鐵馬※川西清兵衛※福島行信の項

高安六郎

醫學博士、高安病院內科醫長、醫師、大阪府在籍

男　薫　大二、一〇生

君は醫學博士高安道成の弟にして明治十一年十二月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し後京都醫科大學大學院に入學し傍ら同醫科大學病理學教室副手を勤め同三十八年渡歐し獨逸ミュービンゲン大學內科教授ロムベルグ氏の下に同病院助手として勤務すること三年其後諸大學を歷訪して同四十二年歸朝す爾來兄と共に大阪高安病院に於て診療に從事す同四十四年論文提出によつて醫學博士の學位を受く大正五年コレラ流行の際大阪衛生會の爲に同病豫防活動映畫を立案す是れ本邦に於る衛生活動寫眞の嚆矢なりとす(大阪市西區京町堀上通五ノ四一**電土佐堀五七四)**

參照‖高安道成※嚴又兵衛の項

高柳覺太郎

勤四等、濱松市長、靜岡縣在籍

妻　はま　彰　明九、一生

男　彰　明二八、四生

婦　まさ　明三二、七生、長男彰妻、靜岡、山內清一郎姉

男　凰　明三二、三生

婦　はつ　明三六、一一生、二男凰妻、靜岡菅沼良助長女

男　三郎　明三四、一一生

婦　ミヨ　明三六、七生、三男三郎妻、新潟若本德太郎妹

女　みどり子　明四一、三生

君は靜岡縣人先代源四郎の長男にして慶應三年十月三日を以て生れ明治三十年家督を相續す同二十三年東京法學院を卒業し代言人の免許を受く爾來濱松市會議員同參事會員に當選すること數回共間靜岡縣より舉げられ衆議院議員に當選すること五回昭和八年推されて濱松市長に就任現在に至る家族は尙孫義子(大一二、六生、同長男)同正(昭二、一一生、同二男)同公(同一四、七生、同長男)同信子(同七、三生、同三女)同良太郎(大一五、七生、一男愿長男)同省三(昭二、一一生、同二男)同秀子(同四、七生、同長女)同弘(同七、三生、三男三郎長女)同麗子(同七、一生、同二女)同葉子(同九、六生、同三女)弟博次(明二〇、五生)同妻富く(同一九、九生、長野、丸山圓衛長女)及其四子あり弟龍太郎(同三、九生)は其妻さだ(同九、一生、靜岡、後藤市平長女)と共に同八郎左衛門(同一一、一〇生)は其妻と(同一六、一一生、靜岡、栗野源四郎養妹)と共に其子女を伴ひ各分家し同慶四郎(同九、三生)五男義治(同一〇、五生)六男茂雄(同一二、一〇生)七男多(同一五、七生)あり長女秀(明四一、一生)は山形縣人横山良太郎長男大治に嫁し四男士郎(同三七、五生)は靜岡縣人高柳龍太郎に姪常磐(大八、一二生、弟博次三女)は長野縣人丸山鏡郎に同光(明四〇、五生、弟慶四郎庶子)は靜岡縣人小杉元造に各養子となれり(濱松市鴨江町一五〇ノ一**電四四〇)**

高柳賢三

正五位勳四等、東京帝國大學教授、法學部勤務、東京帝國大學評議員、埼玉縣在籍

妻　ふみ　明三五年生、東京、小杉爲藏長女、聖心女子學院出身

君は埼玉縣人高柳金右衛門の二男にして明治二十年五月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す大正元年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年同大學法科大學助教授に任じ同四年英米佛伊瑞各國(留學を命ぜらる同九年歸朝し東京帝國大學教授に任ぜられ今日に至る昭和八年加奈陀(出張を命ぜらる旅行に趣味あり(神奈川縣三浦郡逗子町久木二五三**電一六四)**

高柳錠太郎

正五位勳四等、外務省書記官、大臣官房翻譯課勤務、愛知縣在籍

女　みどり子　明四一、三生

君は靜岡縣人先代源四郎の長男にして慶應三年十月三日を以て生れ明治三十年家督を相續す同二十三年東京法學院を卒業し代言人の免許を受く爾來濱松市會議員同參事會員に當選すること數回共間靜岡縣より舉げられ衆議院議員に當選すること五回昭和八年推されて濱松市長に就任現在に至る家族は尙孫義子(大一二、六生、同長男)同正(昭二、一一生、同二男)同公(同一四、七生、同長男)同信子(同七、三生、同三女)同愿(昭二、一一生、同二男)同省三(昭二、一一生、同二男)同秀子(同四、七生、同長女)同弘(同七、三生、三男三郎長女)同麗子(同七、一生、同二女)同葉子(同九、六生、同三女)弟博次(明二〇、五生)同妻富く(同一九、九生、長野、丸山圓衛長女)及其四子あり弟龍太郎(同三、九生、靜岡、後藤市平長女)と共に同八郎左衛門(同一一、一〇生)は其妻と(同一六、一一生、靜岡、栗野源四郎養妹)と共に其子女を伴ひ各分家し同慶四郎(同九、三生)五男義治(同一〇、五生)六男茂雄(同一二、一〇生)七男多(同一五、七生)あり長女秀(明四一、一生)は山形縣人横山良太郎長男大治に嫁し四男士郎(同三七、五生)は靜岡縣人高柳龍太郎に姪常磐(大八、一二生、弟博次三女)は長野縣人丸山鏡郎に同光(明四〇、五生、弟慶四郎庶子)は靜岡縣人小杉元造に各養子となれり(濱松市鴨江町一五〇ノ一**電四四〇)**

高柳直兵衛

大日本製帽株式會社長、日本製鐵株式會社取締役、東京麻絲紡績、神中鐵道各取締役、東京蓙織株式會社代表取締役、高柳商店代表者、高柳保財會社員、綿絲人絹毛糸商、東京府士族

妻　ふく　明一二女

男　康夫　明四三、一一生

男　新次郎　明四五、六生

女　綾子　大七、六生

君は東京府人大森熙吉の二男にして明治十三年十二月十九日を以て生れ同三十五年先代直兵衛の家督を相續し前名辰三郎を改む綿絲人絹毛糸商を營み現に大日本製帽會社々長たる外商記各會社の重役を兼ね家族は尙男敏治(大五、二生)五女尙子(同九、三生)五男義治(同一〇、五生)六男茂雄(同一二、一〇生)七男多(同一五、七生)あり長女秀(明四一、一生)は山形縣人横山良太郎長男大治に嫁し四男士郎(同三七、五生)は靜岡縣人高柳龍太郎に姪常磐(大八、一二生、弟博次三女)は長野縣人丸山鏡郎に同光(明四〇、五生、弟慶四郎庶子)は靜岡縣人小杉元造に各養子となれり(濱松市鴨江町一五〇ノ一**電四四〇)**

高柳松一郎

勤六等、法學博士、大阪商工會議所理事、靜岡縣在籍

妻　タネ　明一七、二生、大阪、小林作五郎三女、府立梅田高女出身

女　豊子　大七、六生、小林聖心女子學院在學

君は靜岡縣人高柳和佐治の三男にして明治十年一月七日を以て生れ大正四年兄和三郎方より分れて一家を創立す明治三十年京都同志社卒業の後大阪毎日新聞支那海關等に來職し大正六年歸朝同九年「支那海關制度論」と題する論文を東京帝國大學に提出し法學博士の學位を授けらる同十一年六月以來大阪商工會議所理事たり現時臨時產業合理局委員大阪府貿易振興調査委員等を兼ね又歐米を歷遊すること三回ポーランド及チェックスロバキア國の四等勳章を有す趣味に圍碁テニス讀書等ありA一一三七(兵庫縣武庫郡御影町城前一四五八**電三〇七八)**

高柳保太郎

正四位勳二等功二級、陸軍中將、マンチュリヤ、デーリー、ニウス社長、石川縣士族

妻　ませ　明一二、二生、山梨、渡邊良平長女

男　保　明三九、一一生、滿鐵社員

君は石川縣士族三浦賢高の二男にして明治二年十二月九日を以て生れ先代文吉の養子となり同二十年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同二十六年陸軍少尉に任じ後陸軍大學校を卒業し巢鴨して陸軍中將に任ぜられ日清戰役以後に於ける凡ての戰役に從ひ其後關東軍司令部附として滿鐵に入り次で豫備役に入り昭和六年滿鐵其他滿洲日報盛京時報等の關係を絕ち同九年後備役となり現時マンチュリヤ、デーリー、ニウス社長及び滿洲軍用犬協會々長其他若干の公共事業に携る長女雅子(明三〇、三生)は故陸軍中將落合豐三郎長男工兵中佐鎭彥に二女文子(同三三、一〇生)は靜岡縣人歩兵中佐圓誠一に三女俊子(同三五、三生)は東京府人横瀨正金銀行孟買支店長中井男に四長英子(同四三、八生)は東京府人滿鐵社員横山重起に各嫁せり(大連市初音町一九**電五五四五)**

高山市平

近江屋寫眞用品類取締役、伊勢屋質商、東京府在籍

妻　ハル　明一二、三生、栃木、野口新藏養子

男　一郎　明二七、七生

婦　よし　明三五、一一生、長男一郎妻、千葉、和田義雄二女

男　亮　明四四、四生

女　安子　大三、一一生

君は栃木縣人高山一平の長男にして元治元年八月十五日を以て生れ明治十六年家督を相續す伊勢屋と稱し質商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙五男宗平(大六、一二生)孫靜子(同一五、一生、長男一郎長女)同實枝子(昭二、二生、同二女)同和子(同三、九生、同三女)同壽美子(同五、三生、同四女)同彌生(同九、四生、同五女)あり三女さだ(明三二、一生)は東京府人野呂彥太郎養子五夫に四女包子(同四〇、一一生、跡見女學校出身)は同府人宏虎に姉きよう(文久元、一生)は同府人染谷八十吉に妹あき(明七、九生)は神奈川縣人鎌田與五兵衛長男豊吉に嫁し三男龍三郎(同四二、二生)は分家し孫林太郎(大元、九生、離緣養子留吉長男)同眞佐子(同三、一〇生、同長女)は共に東京府人田島榮之助の家籍に入れりA五五七B一七〇(東京市本郷區駒込林町七**電小石川三九七)**

高山開治郎

東京美術館巻代表取締役、東京商業新聞社附屬商機倶樂部、出版業、宮城縣在籍

君は宮城縣人高山庄吉の長男にして明治九年四月を以て生れ同十五年家督を相續す夙に出版業を營み東京美術館代表取締役として知られ東京商機新聞社附屬商機倶樂部を主宰す姉きみ(明七、二生)は東京府人篠田彌市に嫁し叔父龜藏(元治元、九生)は宮城縣人八百やを經て入夫となり同龜治郎(慶應二、六生)及び同妻つめよ(明一四、二生、宮城郡野蒜助二女)は其子女を伴ひ分家せり(東京市日本橋區蠣殼町一ノ三**電茅場町三四五〇)**

高山公通

從三位勳一等功四級、陸軍中將、鹿島縣士族

妻　スミ　明四、四生、鹿兒島、士、押川市之丞三女

男　武　明三九、一〇生、千葉、馬場傳吉二男、陸軍砲兵中尉

婦　マサ子　大元、一生、養子信武妻、鹿兒島士、白井國長女

君は鹿兒島縣士族永井藤兵衛の三男にして慶應三年八月八日を以て生れ先代新助の養子となり明治二十九年家督を相續し前名源之進を改む同二十二年陸軍少尉に任じ大正七年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し步兵第二十五旅團東都督府陸軍部參謀長獨立守備隊司令官第十八師團長に歷補し後備役被仰付現在に至る家族は尙孫公武(昭八、五生)養子信武長男ゥりA一一八(東京市澁谷區櫻ヶ丘四**電青山八六四)**

高山三平

正五位勳四等、拓務省拓務局長、大臣官房祕書課長、靜岡縣在籍

妻父　伊勢吉　明三一、二生、靜岡、山本千藏弟現戶主

妻　節子　明二六、二生、滋賀、三津川好照妹

女　貞子　大七、九生

君は靜岡縣人森下壽平の三男にして明治二十五年八月を以て生れ同三十年高山伊勢吉の養子となる大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し山林屬山林事務官補山林事務官叙任商務事務官商工事務官神戸出張所事務官特許局事務官特許局抗告審判官總務部登錄課長拓務書記官殖產局第一課長兼第三課長等を經て現時前記の職に在り傍ら朝鮮總督府總督官房審議室に兼務す(東京市本郷區駒込林町一八一**電小石川四四一五)**

高山治助

東京市淀橋區會議員、共立土地建物株式取締役、東京府在籍

妻　よし　明二九、八生、東京、羅室松藏叔母

男　隆之　大五、八生

君は東京府人高山牛之助の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正十五年祖父鍋太郎の後を承け家督を相續す現に共立土地建物會社取締役にして推されて淀橋區會議員たり家族は尙二男雄次(大八、一〇生)長女いわ子(同一五、三生)三男了一(昭三、八生)亡伯父直次郎妻フサ(明一三、八生、高山治兵衛長女)及其三男一女あり養子はる(同四二、二生、亡伯父直次郎長女)は東京府人岩崎萬吉長男賢吉に嫁せりA一二七〇(東京市淀橋區上落合二ノ五七七**電大塚一九九一)**

高山重行

家主、大阪府在籍

妻　朝子　明三一、一生、羅井、小島甚右衛門三女

男　重雄　大七、三生

女　千代子　明四四、九生、樺藤高女出身

君は羅井縣人高山藤左衛門の四男にして明治十一年一月二十八日を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す家族は尙七女房子(大一二、一〇生)あり(大阪市天王

寺區國分町一二九電天王寺一四四五)

高山新太郎 從五位勳五等、專賣局技師、福岡地方專賣局製造課長、京都府在籍 明二四、七生、京都府立第一高女出身

妻　うた

男　幸三　大九、七生

女　ます榮　大七、六生、福岡縣立筑紫高女在學

君は明治十七年十二月を以て生る同四十一年大阪高等工業學校機械科を卒業し直に專賣局に入り技手となり大正十年專賣局技師に任ぜられ大阪廣島各地方專賣局勤務を經て昭和二年金澤地方專賣局製造課長を命ぜられ同八年福岡地方專賣局製造課長に轉じ今日に至る家族は尙四男恒四郎(大一一、一〇生)五男正太郎(同七、三生)三生)四女文榮(昭三、一二生)あり(福岡市住吉花園町一六六五)

高山清五郎 質商 東京府在籍

母　もと　安政三、一一生、東京、高山平右衛門四女

妻　はな　明二二、三生、東京、西川定五郎長女

男　喜久雄　大元、一一生

君は東京府人先代九八の長男にして明治十年五月二日を以て生れ同三十四年家督を相續し質商を營む家族は尙二男登美雄(大五、四生)九女清子(同一一、八生)十女信子(同一二、七生)三男晴雄(明六、一生)弟茂吉(明二三、六生)同妻花(同四一、一生)及び其二子あり長女ゆき(同三五、五生)は宮城縣人高橋本校長男正人に二女ふぢ(同三七、三生)は東京府人須山亮一叔父忠次に妹とと(同一三、五生)は東京府士族秋山茂八に嫁し庶子壽美子(同四四、二生、生母、東京、渡邊とき)は東京府人田中外之助に同高滿江(明四二、二生、生母同上)は生母ときの養子となれりA八〇六B一〇〇(東京市品川區北品川二ノ六四)

高山善次郎 みとや、汁粉商 東京府士族

養父　武雄　明一二、一一生、元花柴溫泉電氣鐵道㈱監査役

妻　静子　明四二、二生、東京、岩田由太郎孫

男　正太郎　昭三、一一生

君は埼玉縣人尾熊森太郎の二男にして明治二十五年五月を以て生れ先代武雄の養子となり昭和八年家督を相續す大正六年東京音樂學校本科を卒業し更に同十三年ベルリン大學校を卒業し歸朝後學校數授新聞記者となり現時みとやと稱し汁粉商を營む家族は尙長女英子(昭五、九生)三男三郎(同八、五生)ありA四二八B九四(東京市下谷區上野廣小路町九)

高山大三郎 家主 東京府在籍

母　はつ　元治元、六生、東京、淺井五郎右衛門二女

妻　つ　明二三、二生、東京、田村新吉二女

男　大次郎　大二、六生

君は東京府人先代高山大三郎の長男にして明治十六年三月二十日を以て生れ大正二年家督を相續し前名仙三郎を改め襲名す家主として知らる家族は尙二男直清(大四、一〇生)あり弟松藏(明一八、一二生)は同妻さと(同二七、八生、東京、加藤權長衛長女)甥嚴(大二、一〇生、弟松藏長男)を伴ひ弟芳次郎(明二三、一二生)は各分家せりA三五六(東京市淀橋區柏木四ノ九二七)

高山忠三郎 莫大小商 大阪府在籍

妻　タマ　枝　明八、一生、大阪、池永千代子母

女　芳子　大二、一二生

君は大阪府人竹内庄兵衛の長男にして明治七年八月一日を以て生れ同三十二年家督を相續す莫大小商を營む姉タネ(明四、一生)は分家し六女龍(大五、九生)は姉タネ(明四、一生)は分家し六女龍(大五、九生)は東京、加藤權長衛長女)と結婚し(大二、一〇生)あり弟松藏(明一八、一二生)は同妻さと(同二七、八生、東京、西川定五郎長女)あり(東京市淀橋區柏木四ノ九二七)

高山長幸 東洋拓殖株式會社總裁 愛媛縣士族

妻　よし　明一二、六生、故貴族院議員江原素六二女、靜岡女學校出身

男　慶一　明三四、二生、慶大經濟學部出身

妻　静子　明四二、七生、長男慶一妻、埼玉齋藤誠之丞六女

男　登　明四三、一二生

君は愛媛縣士族高山文長衛の長男にして慶應三年七月二十八日を以て生れ後家督を相續す明治二十二年慶應義塾別科を卒業し三井銀行に入り本店副支配人函館深川大津長崎各支店長となり又大日本製糖會社常務取締役帝國商業銀行取締役會長那須溫泉土地蓬萊生命兩龍券嚴會社取締役に擧げられ明治四十一年以來議院議員に當選する事六回に及びしも現時東洋拓殖會社總裁たり家族は尙孫鳳介(昭四、三生、長男慶一長男)あり養子タミ(明四一六生、愛媛、清家直男九女、雙葉高女出身)は島根縣人佐渡善一郎二男宏に嫁せりA二一三四(東京市麻布區霞町二三電青四三九八〇)

參照‖※嘉山幹一※鷹井菊三郎の項

高山昇 正五位、官幣大社稻荷神社宮司 群馬縣在籍

妻　久滿　明一五、五生、神奈川、岡部彌兵衛妹

養子　彌兵衛　明三六、六生、群馬、劍持嘉三郎五男

婿　みち　明三三、八生、養子彌兵衛妻、群馬、高山榮吉五女

君は群馬縣人高山茂樹の長男にして元治元年一月二十八日を以て生れ明治二十九年家督を相續す尙に東京皇典講究所を卒業し育英の事に從ふ後神職となり富士淺間大社廳權本社各宮司神宮神部署長嚴島神社宮司等を經て現時稻荷神社宮司たり嘗て國學院大學教授神職會幹事たり家族は尙孫嚴(昭五、一生、養子彌兵衛二男)同幸子(同六、七生、同長女)あり(東京都市伏見區稻荷神社官舍電伏見七七〇)

高山正雄 正三位勳二等、醫學博士、長崎醫科大學長、九州帝國大學名譽教授 東京府在籍

妻　いと　明一五、一〇生、醫學博士、中濱東一郎長女

男　文雄　明三六、四生、新潟醫大出身

男　忠雄　明四二、五生、京都帝大法科在學

君は長野縣人高山源三郎の二男にして明治四年五月を以て生れ同三十一年先代なをの養子となり家督を相續す同三十年東京帝國大學醫科大學法學科を卒業し第四高等學校教授に任じ同三十二年東京帝國大學醫科大學助教授同三十六年京都帝國大學福岡醫科大學助教授となり歐米に留學し同三十九年歸朝京都帝國大學福岡醫科大學教授となり同年醫學博士の學位を授けられ尋で九州帝國大學教授となり醫學部長たりしが昭和六年退官し同年九州帝國大學名譽教授に擧げられ同八年九州醫學專門學校長となり同九年長崎醫科大學長に就任し今日に至る傍ら都市計畫長崎地方委員會委員たり長女房(明四〇、八生)は新潟縣人醫學博士高橋操三郎に二女みね(明四四、一〇生)は大分縣士族今永幸生長男九州帝國大學醫學部外科講師醫學博士一に嫁せり(長崎市長崎醫科大學內)

參照‖今永幸生、中濱東一郎※小寺謙吉※小寺又吉※渡邊祿太郎の項

高山松之助 地主 東京府在籍

妻　みよ　明元、七生、東京、本橋彌八妹

男　彦太郎　明三〇、七生

婿　春　明三八、四生、東京、鹿寺忠次郎二女

男　慶次郎　明四四、六生

君は東京府人高山伊兵衛の長男にして慶應二年十一月十九日を以て生れ大正五年家督を相續す地主として知らる家族は尙孫松雄(大一五、二生、長男彦太郎長男)同誠(昭五、四生、同二男)同三郎(同八、四生、同三男)弟伊三郎(明九、一生)同妻わが(同一八、三生、東京、恩田藤十郎三女)あり長女きよ(同二五、七生)は東京府人岩本阿三郎に三女力子(同三三、六生)は同府人市川廣吉長男新藏に四女とく(同三七、二生)は同府人高山萬太郎弟末吉に嫁し二女フク(同二八、五生)は分家せりA五八二(東京市淀橋區上落合二ノ五五九電大塚三五七七)

高山光德 醫師 大阪府在籍

妻　八重子　明三四、九生、新潟、玉川ナルニ女

君は大阪府人先代高山玄祐の二男にして明治二十三年九月二十九日を以て生れ大正七年家督を相續す醫師たり家族は尙長女佳子(大一四、二生)二女美也(同一五、九生)四女郁子(昭五、四生)あり(大阪府豐能郡豐中町一四七電岡町一五六)

高山雄次 高山耕山化學陶器㈱常務取締役 京都府在籍

妻　エイ　明二二、一二生、養父幸次郎長女

男　幸雄　明四〇、二生、早大出身

男　邦次　大三、六生

君は京都府人高谷作太郎の二男にして明治十八年一月を以て生れ高山家に入り大正五年分れて一家を創立す弟泰造(明三二、三生)は分家せりA一三二九(京都市東山區本町一電祇園三九五〇)

高山與三吉 京都市會議員、京染呉服悉皆業 京都府在籍

男　與四郎　明四二、八生、京都府立醫科大學在學

養子　喜久藏　明二九、三生、三女節子夫、兵庫長砂喜太郎二男

妻　節子　明四〇、七生、養子喜久藏妻、第一高女出身

女　操　大元、一二生、京都二商出身

君は京都府人高山宇八の四男にして明治九年四月を以て生れ同三十一年兄宇一郎方より分れて一家を創立す京染呉服悉皆業を營み推されて京染呉服悉皆同業組合長に四度選ばれ又京都市會議員たる事六回曾て巴里河內露都聖路易刺榮壽ポートランド日英の七大萬國博覽會に友禪染を出品し名譽大賞牌及金牌を受領す蘇に京都府市各參事會員に擧げられ在職二十三年に及び京都市有功者として飾版の表彰を受く京都府會議員都市計畫專門學校同美術工藝學校商議員たりし事あり家族は尙孫禮藏(昭三、一〇生、養子喜久藏長男)同喜美子(同五、三生、同二女)あり長女美都(明三三、九生、第一高女出身)は山口縣人長井龜助長男陸軍一等主計彌一に四女淑子(明治四三、九生、第一高女出身)は主重縣人宮崎新造六男藥剤士新平に嫁し六女千代子(大一三、一生)は京都府人岡村留吉の養子となれり(京都市中京區蛸藥師通西洞院西入ル電本局二八五八)

鷹岡滿壽子 大阪府在籍 羅紗商

母　ふさ　明二三、一生、大阪、田中太右衛門伯母

君は大阪府人鷹岡曼之助の二女にして大正四年十一月二十五日を以て生れ昭和八年家督を相續すコメカクと稱し羅紗商を營む亡父曼之助は養に大阪府多額納稅者にして推されて大阪商工會議所議員たりし事あり家族は尙妹和子(大九、五生)ありA一二二六五B一七九五(大阪市東區淡路町四ノ一四電長本局九七三)

參照‖田中太右衛門※久保田與市※莊保英三郎の項

鷹司信輔 正三位勳四等、公爵、貴族院議員 舊公卿家

母　順子　明四、五生、公爵德大寺公弘妹

妻　綏子　明三〇、一〇生、公爵德川家達二女、學習院女學部出身

男　平通　大一二、八生

當家は內大臣藤原鎌足十八世の嫡孫關白基實の孫家實の次男禎政關白太政大臣兼平の後なり兼平京都鷹司に邸せしを以て鷹司と稱し世々三公の位に上り五摂家の一として二十三世を經て先代熙通に至り明治十七年公爵を授けらる夙に獨逸に留學し後軍籍に入り陸軍少將に進み侍從武官東宮武官侍從長內大臣府御用掛等に歷任す君は其長男にして明治二十二年四月二十九日を以て生れ大正七年家督を相續し爵位仰付けらる學習院を經て同三年東京帝國大學理科大學動物科を卒業す蘇に皇子傳育官を拜命し現時貴族院議員にして火曜會に屬す又櫻の會々長に擧げられ「倒ひ島集成」の著あり家族は尙長女幸子(大一一、二生)二女章子(同一三、八生)三女量子(同一五、七生)四女庸子(昭三、三生)五女光子(同八、一生)弟信敬(明二八、三生)同妻敦子(同四〇、一〇生、子爵水野忠亮二女、女子學習院出身)其一女あり弟信熙(同二五、一生)は分家して男爵を授けられ弟信淳(同二六、一〇生)は男爵松岡治忠の後を繼げり

（東京市目黒區上目黒三ノ一七三二**電青山三二四〇**）
參照＝公爵德川家達、公爵德大寺公弘、子爵水野忠泰、男爵鷹司信熙、男爵松園信淳※公爵西園寺公望※公爵烏津忠重※侯爵佐竹義春※侯爵中山輔親※伯爵中院亨※伯爵松平直亮※子爵上杉勝昭※子爵相良頼綱※子爵松平保男※子爵松平頼孝※子爵水野勝邦※男爵有馬正頼※男爵澁谷隆敬※男爵住友吉左衛門※男爵高千穂宣麿※男爵德大寺則麿※德川家正の項

鷹司信熙

正四位勳五等、男爵、陸軍砲兵少佐、皇族附武官、永久王附屬
鷹司公爵家分家
明三〇、二生、男爵三井八郎右衛門妹

妻　裕子
男　信秉
大九、四生

當家は鷹司公爵家の分家なり君は公爵鷹司信輔の弟にして男爵松園信淳の兄なり明治二十五年一月七日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる陸軍士官學校を卒業し大正元年陸軍砲兵少尉に任じ果過して同少佐に陞る其間陸軍士官學校教官野戰重砲兵第八聯隊附及近衛野砲兵大隊長陸軍砲工學校教官等を經て現職に轉ず家族は尚三男信通（大一〇、一一生）長女勝子（同一三、一生）二女靖子（昭五、一生）五男信完（昭六、四生）あり（東京市麻布區西町二二**電麻布五八六五**）

參照＝公爵鷹司信輔、男爵松園信淳※侯爵中山輔親※伯爵香川樫男※子爵高辻宣麿※男爵澁谷隆敬※男爵三井高公※男爵三井高太郎※三井高親※三井元之助※三井守之助の項

鷹取嘉三郎

長七位勳七等、富山縣滑川郵便局
富山縣多額納稅者、滑川銀行
富岩鐵道各重取締役、富山縣在籍

男　嘉就
大一一、二生

君は富山縣人先代嘉三郎の長男にして明治六年六月七日を以て生れ大正八年家督を相續し後前名政次郎を改め襲名すと現時前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅七百七十七圓を納む又推されて富山縣滑川郵便局長たり家族は尚三男昊（大一二、一二生）四男梅雄（同一四、五生）五男洋吾（昭二、三生）六男操六（同四、五生）孫近子（大一五、三生）二長女）あり妹ノブ（明二二、五生）は北海道人遠藤一郎に嫁し養子初二（明三〇、一二生、養子篠枝夫、富山寺公望※公爵烏津忠重※侯爵佐竹義春※侯爵中山輔親※伯爵中院亨※伯爵松平直亮※子爵上杉勝昭※子爵相良頼綱※子爵松平保男※子爵松平頼孝※子爵水野勝邦※男爵有馬正頼※男爵澁谷隆敬※男爵住友吉左衛門※男爵高千穂宣麿※男爵德大寺則麿※德川家正の項

鷹司信熙

正四位勳五等、男爵、陸軍砲兵少佐、皇族附武官、永久王附屬
鷹司公爵家分家
明三〇、二生、男爵三井八郎右衛門妹

妻　裕子
男　信秉
大九、四生

當家は鷹司公爵家の分家なり君は公爵鷹司信輔の弟にして男爵松園信淳の兄なり明治二十五年一月七日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる陸軍士官學校を卒業し大正元年陸軍砲兵少尉に任じ果過して同少佐に陞る其間陸軍士官學校教官野戰重砲兵第八聯隊附及近衛野砲兵大隊長陸軍砲工學校教官等を經て現職に轉ず家族は尚三男信通（大一〇、一一生）長女勝子（同一三、一生）二女靖子（昭五、一生）五男信完（昭六、四生）あり（東京市麻布區西町二二**電麻布五八六五**）

參照＝公爵鷹司信輔、男爵松園信淳※侯爵中山輔親※伯爵香川樫男※子爵高辻宣麿※男爵澁谷隆敬※男爵三井高公※男爵三井高太郎※三井高親※三井元之助※三井守之助の項

鷹取嘉三郎

長七位勳七等、富山縣滑川郵便局
富山縣多額納稅者、滑川銀行
富岩鐵道各重取締役、富山縣在籍

男　嘉就
大一一、二生

君は富山縣人先代嘉三郎の長男にして明治六年六月七日を以て生れ大正八年家督を相續し後前名政次郎を改め襲名すと現時前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅七百七十七圓を納む又推されて富山縣滑川郵便局長たり家族は尚三男昊（大一二、一二生）四男梅雄（同一四、五生）五男洋吾（昭二、三生）六男操六（同四、五生）孫近子（大一五、三生）二長女）あり妹ノブ（明二二、五生）は北海道人遠藤一郎に嫁し養子初二（明三〇、一二生、養子篠枝夫、富山寺公望※公爵烏津忠重※侯爵佐竹義春※侯爵中山輔親※伯爵中院亨※伯爵松平直亮※子爵上杉勝昭※子爵相良頼綱※子爵松平保男※子爵松平頼孝※子爵水野勝邦※男爵有馬正頼※男爵澁谷隆敬※男爵住友吉左衛門※男爵高千穂宣麿※男爵德大寺則麿※德川家正の項

鷹松龍種

從四位勳四等、朝鮮總督府京城法學專門學校長兼教授
岐阜縣士族
文久二、七生、岐阜、次石重吾二女長女

母　まち
妻　きた
男　周一
大二、一生
男　桂一
大三、二生

君は岐阜縣士族鷹松重明の二男にして明治十五年十二月十日を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十一年韓國內部主事となり朝鮮總督府屬京城專修學校教諭同教授を經て大正十一年京城法學專門學校教授に任じ昭和六年同校長に任ぜられ同教授を兼任す大正八年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚三男吉郎（大六、一二生）四男和郎（同一二、八生）二女僖子（同一三、八生）三女宮子（同一四、一二生）四女重子（昭二、六生）あり（京城府大和町官舍**電本五九四**）

鷹見久太郎

子供の天地社々長
茨城縣士族

妻　乙女
明三一、二生、山形、塚本英三妹
明三一、七生、二女蝶子夫、茨城平井良賢二男
養子　安二郎
女　蝶子
明三四、九生、養子安二郎妻、三輪田高女出身

鷹見家は世々舊古河藩に臣事す四代前の組忠當時の藩主土井利位に仕へて功あり又和漢の學に通じ蘭學の造詣深く泉石と號して世に聞ゆ大正七年其勳功に依り特旨を以て從四位を贈らる君は先代又藏の二男にして明治八年十二月を以て生れ同十五年家督を相續す夙に東京專門學校文學部に學び日露戰爭當時近時畫報社に入る後東京社を興して婦人畫報を發行す現時子供の天地社々長にして文筆に長じ又油繪を能くす夫人乙女は奈良女子高等師範學校の出身にして芝香と號し傳名の書方研究會明星書塾を主宰す家族は尚孫良子（大一四、二生、養子安二郎長女）同久美子（昭二、九生、同二女）同本雄（昭八、一生、同長男）あり長女環（明三一、三生、三輪田高女出身）は山形縣士族佐藤吉雄に三女田鶴（明四一、二生、日本女大國文科出身）は海軍大尉江原晃に四女芳枝（明四三、九生、日本女大英文科出身）は靜岡師範學校教諭早川義貫に妹さと（同一四、七生）は茨城縣士族藤縣傳八郎長男靜也に嫁せり（東京市本郷區駒込曙町一一**電大塚五三六〇**）

寶井善次郎

大善、魚商、料理業
東京府在籍

母　さと
妻　幸枝
明四四、八生、東京、三須光吉姉

君は東京府人先代善次郎の長男にして明治四十一年十一月二十六日を以て生れ昭和四年家督相續と共に襲名し前名善雄を改む屋號を大善と稱して魚商を營み料理業を兼ぬ家族は尚妹壽子（明四四、五生）同りつ（大三、九生）同幸子（同四、一一生）同まり子（同一一、一二生）弟晋（同七、四生）同得雄（同九、八生）あり妹みほ（同二、三生）は東京府人杉田ひさの死跡を相續せりA三三四B一二六（東京市日本橋區室町一ノ一八ノ五**電日本橋七〇四**）

寶田與一

資產家
東京府在籍

母　はま
長女　まさ子
妻
男　巌
女　大一四、一生

君は東京府人寶田兼次良の二男にして明治三十五年八月二十三日を以て生れ昭和七年家督を相續す資產家たり家族は尚二男惣平（昭二、八生）長女弘子（同四、九生）二女良子（同六、八生）妹梅子（大二、六生）ありA七九〇（東京市品川區大井倉田町三ノ三七九）

財部倉吉

東京地方瀧業㈱取締役
東京府在籍

養子　健次
郎弟
明三八、九生、神奈川、岡田豐次郎

妻　秀
明三八、九生、養子健次妻、東京牧田長三郎妹

君は神奈川縣人岡田豐次郎の弟にして明治二年四月を以て生れ財部藤助の養子となり同二十九年分れて一家を創立す現に東京地方瀧業會社取締役にして東京再生瀧業會社代表取締役たりし事あり家族は尚孫和子（昭七、二生）ありA六五〇（東京市深川區佐賀町二ノ六ノ一**電本所一九三五**「工場」**電本所四〇九二**）

財部靜治

從三位勳二等、法學博士、京都帝國大學教授、經濟部學勸務
鹿兒島縣在籍

男　均
明四一、九、三生、農學士
女　美子
明四三、一二生、京都高女出身
女　佐知子
女子高等專門學校出身

君は鹿兒島縣士族和田直右衛門の二男にして明治十四年一月を以て生れ財部差の養子となり同四十三年養弟三郎方より分れて一家を創立す同三十七年京都帝國大學法科大學を卒業し同法科大學助教授同教授となり同大學經濟學部教授同部長等に歷任し現時京都帝國大學教授經濟學部勸務たり蘊に法學博士の學位を授けらる統計學研究の爲獨英米各國に留學せる事あり家族は尚二男直典（大四、一一生）三男篤人（同七、四生）三女直枝（同九、一一生）四女晶江（同一二、六生）あり（京都市右京區淨土眞如町五眞如堂前**電上八三二**）

財部彪

從二位勳一等功三級、海軍大將、前宮禮遇（國務大臣）
宮崎縣士族

妻　いね
明一二、一〇生、伯爵山本清姉
男　武雄
明三四、九生
婿　マリ
明三七、一二生、長男武雄妻、神奈川、中川嘉一郎妹
男　實
明四一、五生
男　貞幸
明四三、一〇生
男　四郎
明四四、一一生

君は宮崎縣人財部實秋の二男にして慶應三年四月を以て生れ明治三十年家督を相續す同二十二年海軍兵學校を卒業し同二十三年海軍少尉に任じ同二十六年海軍大將に累進す其間驅逐艦長軍令部參謀大本營海軍參謀宗谷富士各艦長第一艦隊參謀長海軍次官軍令部參謀長海軍次官第三艦隊司令官旅順要港部司令官海軍將官會議々員鄭鎮守府司令長官軍事參議官等に歷補し明治四十年貞愛親王の隨行として英國に出張し大正十二年加藤友三郎內閣に入り海軍大臣に就任し後軍事參議官に補せられ昭和三年特命檢閱使被仰付同年議定官となる同四年濱口內閣成立するや三度海軍大臣に親任し同年倫敦海軍會議全權委員として參列す歸朝後海軍大臣の職を退き軍事參議官たり特に前官禮遇を賜る昭和六年勳功に依り旭日桐花大綬章を授けらる家族は尚孫男五郎（大四、七生）六男辰彥（同五、一生）孫毅（同一四、二生、長男武雄長男）同範子（昭五、七生、同長女）亡兄節妻ツネ（安政六、一二生、宮崎、士、彌寢重邦長女）姉ユミ（文久三、五生）あり二女喜代（明三八、五生）は千葉縣人木村政次郎長男政司に三女豐子（同三九、八生、準心女學院出身）は男爵佐藤達次郎の長男健に妹ケイ（同五、三生）は島根縣士族渡部豐に嫁せりA一四四（東京市芝區白金三光町五一**九電高輪三〇〇三**）

參照＝伯爵山本清※男爵上村從義※男爵佐藤達次郎※松方乙彥※山路一善※山本盛正の項

瀧信四郎

名古屋商工會議所顧問、愛知縣多額納稅者、瀧商店㈱社長、愛知縣中央信託㈱代表取締役、帝國搗絲織物㈱取締役、日本共立火災保險㈱監査、從愛知縣在籍、稻本利右衛門妹

妻　はる
長女　大四、一一生、愛知、武山純造長女

君は愛知縣人瀧右兵衛門の四男にして明治元年七月十五日を以て生れ同三十八年家督を相續す現時名古屋商工會議所顧問瀧商店社長たる外商銀各會社の重役にして直接國稅一萬二千七百九十五圓を納め縣下の多額納稅者たり蘊に紺綬褒章を賜はる（名古屋市中區南鍛冶屋町二ノ九**電中三八四〇**）

君は愛知縣人瀧右兵衛門の四男にして明治元年七月十五日を以て生れ同三十八年家督を相續す現時名古屋商工會議所顧問瀧商店社長たる外商銀各會社の重役にして直接國稅一萬二千七百九十五圓を納め縣下の多額納稅者たり蘊に紺綬褒章を賜はる（名古屋市中區南鍛冶屋町二ノ九**電中三八四〇**）

瀧精一

從三位勳三等、陸軍歩兵少尉、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、東京府在籍

妻　マツ
男　澄一
明三七、一〇生、東京帝大出身
女　その
明四〇、二生、東京女學館出身

君は東京府人故瀧和亭畫伯の長男にして明治六年十二月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十年帝國大學文科大學を卒業し大學院に入り美學專攻後東京帝國博物館囑託東京美術學校京都帝國大學文科大學東京帝國大學文科大學各講師同大學教授に歷任し東宮御學問所御用掛仰付らる歐米各國に出張すること三回文學博士の學位を授與され東京帝國大學文學部長に補せられしも昭和九年退官す現に東京帝國大學名譽教授帝國學士院會員たり家族は尚三男孝吉（大七、一一生）ありA三〇〇（東京市品川區上大崎四ノ二二六**電高輪二二七六**）

瀧富太郎

瀧富商店㈱社長、瀧富㈱代表社員
織物問屋業、東京府在籍

妻　房
明二八、八生、愛知、吉川彥三郎長女
男　富一郎
大元、一二生、瀧富㈱社員

君は滋賀縣人瀧利平次の長男にして明治十八年六月を以て生れ同二十八年家督を相續す織物問屋業を營み前記各會社の重役たり家族は尚二男眞次郎（大四、一〇生）三男敞一（同七、一生）あり（東京市日本橋區大傳馬町二ノ四ノ四**電長濱花三三四**）

瀧秀一郎

松坂屋㈱名古屋榮町支店營業部長
愛知縣在籍

妻　たね
明三一、八生、伊藤正太郎長女
男　秀夫
大一四、七生
女　歌子
大七、九生

君は愛知縣人瀧仙之右衛門の長男にして明治十九年一月二日を以て生れ同三十七年家督を相續す現時松坂屋名古屋榮町支店營業部長の職にあり家族は尚三女俊子（大九、八生）四女富美子（同一二、四生）五女信子（昭三、七生）六女照子（同六、一生）ありA一六三（名古屋市南區中山町一ノ一六）

瀧廣三郎

瀧定㊟代表社員、野上式自動織機㊟取締役、愛知縣在籍

妻　まつの　明一九、一生、岐阜、長尾元太郎妹

男　潤次郎　明四一、二生、經濟學士

男　隆朗　明四五、七生、八高文科在學

女　ひろ子　大四、一生、愛知縣立第一高女出身

君は中京財界の俊傑愛知縣人先代定助の弟にして當代瀧定助の實父に當り小出庄兵衛瀧六郎同義郎の兄なり明治九年三月三十日を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す義に名古屋商業學校を了へ直ちに家業たる呉服卸商の業務に服す先考の逝去に遭ふや兄弟克く一心協力して家業を守り明治三十九年瀧定合名會社に改組し長兄定助を中心として結束して其經營に當れり其後定助は出でて二十有の各關係會社銀行の社長若くは重役として活躍し君は專ら内に在りて瀧定合名會社の業務を總攬し其發展擴張に努め其名愈ち國内に揚がる又貿易部を設立して大阪に本據を置き外國貿易に伸展し引續き現今一般織物輸出入商を營み全世界に取引して貿易業者として亦盛名を博す兄弟の情誼稀に見る所にして定助深く君を信賴し君の長子を養ひて繼嗣となす今や後嗣先代を襲ふと雖も尚内外の事專ら君の後見指導に俟つ君亦前記野上式自動織機株式會社取締役たる外一切他に關與せず先代の遺業に專念す義に社會公共事業に貢獻せし功勞に對し紺綬褒章を授與せらる又昭和七年先代定助逝去するや其追善の爲名古屋市社會事業鉱産業奬勵費として金壹萬圓を寄附せり家族は尚五男保夫（大八、三生）六男時夫（同一〇、四生）三女ふゆ子（同一三、二生）七男季夫（昭五、五生）あり長男憲藏（明三八、九生）は出でて宗家を嗣ぎ先代定助を襲名し長女明子（同四二、一一生）は愛知縣人富田重郎に嫁せり（名古屋市西區長島町二ノ七電本局六九一〇）

参照＝小出庄兵衛、瀧義郎、瀧六郎、富田重郎、長尾元太郎※中村與右衛門の項

瀧正雄

正五位勳三等、衆議院議員（愛知縣選出）、愛知縣在籍

母　てふ　明二、二生、愛知、瀧常四郎三女

妻　秀子　明二七、八生、佐藤孫七妹、名古屋市立第一高女出身

男　正明　大二、五生、東京帝大經濟學部在學

君は愛知縣人瀧鼎の長男にして明治十七年四月を以て生れ同二十六年家督を相續す同四十四年京都帝國大學法科大學政治經濟學科を卒業し大學院に入り京都帝國大學講師關西大學講師等となる原内閣に高橋内閣に内務大臣書記官となり齋藤内閣成るに及び擧げられて外務政務次官に任じ同九年七月之を辭す衆議院議員當選五回にして政友會所屬たりしも政務次官辭任と共に之を脱退す家族は尚二男隆明（大一〇、二生）三男道雄（同一一、九生）長女君子（同一五、一生）あり（東京市麻布區笄町一〇六電青山一〇六）

瀧義郎

瀧定㊟無限責任社員兼大阪支店貿易部業務執行社員、大阪府在籍

妻　稻子　明三三、九生、愛知、伊藤利彦妹

君は愛知縣人瀧定助同廣三郎同六郎小出庄兵衛の弟にして明治二十二年三月十一日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現に瀧定合名會社無限責任社員にして大阪支店貿易部の業務を擔當す（大阪府豐能郡豊中町櫻塚一五〇〇電岡町二一）

参照＝伊藤利彦、小出庄兵衛、瀧廣三郎、瀧六郎※生島敏治※高松定一※富田重郎※中村與右衛門の項

瀧六郎

圓書土地㊟代表取締役、野上式自動織機、豊榮土地㊟取締役、瀧定㊟無限責任社員、呉服太物卸商愛知縣在籍

妻　ら　明二五、八生、愛知、中村與右衛門妹

女　ゝ　大五、五生

女　豊子　大六、九生

君は愛知縣人瀧定助同廣三郎小出庄兵衛の弟にして瀧義郎の兄なり明治二十七年七月十日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し呉服太物商を營み傍ら前記各會社の重役たりA四七〇家族は尚二男英二（大一四、一一生）あり（名古屋市中區大池六ノ五電中二二五六）

瀧井金五郎

藤井豊藏商店員、大阪府在籍

妻　アイ　明一五、三生、大阪、鈴木平兵衛三女

男　誠一　明三九、九生

男　俊二　大二、一一生

女　嘉代　大六、三生

君は滋賀縣人堀金藏の弟にして明治九年四月を以て生れ明治十六年瀧井豊吉の養子となり同時に家督を相續す現時藤井豊藏商店員たり家族は尚三男尚三（大一五、三生）あり長女はな（明三六、八生）は同府人茂野勝に二女秀（同四三、七生）は同府人金井榮一に嫁せりA一〇八（大阪市東區高麗橋詰町四九）

瀧川いと

家主、大阪府在籍

君は大阪府人瀧川伊之助の長女にして明治六年一月一日を以て生れ同三十三年兄伊之吉方より分れて一家を創立す家主たりA一〇九〇（大阪市東區北久寶寺町二ノ四九）

参照＝瀧川伊之助

瀧川伊之助

大阪電氣軌道㊟取締役、神戸稜橋㊟監査役、大阪府在籍

妻　コト　明二五、四生、大阪、山口幸太郎妹

男　伊太郎　大二、八生

女　トヨ　大四、一生

君は大阪府人先代伊之助の長男にして明治十四年四月二十一日を以て生れ同二十五年家督を相續し前名伊之吉を改め襲名す同三十三年大阪高等商業學校を卒業し現時大阪電氣軌道會社取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚三女かづ（大一一、一一生）あり姉いと（明六、一生）は分家せりA三五〇一（大阪市東區久寶寺町二ノ六〇電船場三三四）

参照＝瀧川いとの項

参照＝小出庄兵衛、瀧廣三郎、瀧義郎、中村與右衛門※富田重郎の項

瀧川英一

ペルペット石綿㊟代表取締役、山陽皮革、播磨瓦斯、神戸瓦斯各㊟取締役、瀧川中學校常務理事、愛代表社員、瀧川中安政六、七生、山口井上也二三二女明一九、七生、兵庫、志賀元英長女

母　きち

妻　静江　明四五、四生

男　武　明四五、四生

君は山口縣人瀧川辨三の長男にして同雄二同節三同五郎の兄同儀作の養弟なり明治十六年十一月十三日を以て生れ大正十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり先代辨三は夙に神戸に出で擁寸製造業を創め神戸有力の實業家となり貴族院議員に擧げられたり家族は尚二男慶作（大四、七生）三男芳郎（同五、一〇生）あり妹きよ（明二五、五生）は大阪府人平瀬愛雄に嫁せりA七七六六（神戸市湊東區浦町四ノ二八電元町一一一）

参照＝瀧川儀作、瀧川五郎、瀧川雄二、平瀬愛雄※公爵伊藤博精の項

瀧川儀作

神戸商工會議所顧問、兵庫縣多額納税者、神戸取引所㊟理事長、朝鮮土地㊟社長、東洋電氣工業、新興建物㊟取締役、名倉庫各㊟代表社員、瀧川中大阪海上保險、兵庫大同信託日本綿花、南洋護謨拓殖各㊟監査役、ボルビヤ共和國名譽領事

妻　とよ　明一四、九生、養父辨三長女、神戸高女出身

男　清一　明三三、三生、神戸高商出身

婦　壽江　明三六、三生、長男清一妻、兵庫八馬象介妹

男　勝二　明四七、八生、經濟學士

婦　治子　明四三、一〇生、二男勝二妻、京都大谷楚亮長女

女　信　大二、九生、兵庫縣立第一高女出身

君は奈良縣下の豪家梶岡磯松の弟にして瀧川英一同雄二同節三同五郎の養兄なり明治七年十二月八日を以て生れ後舊長州豊浦藩士瀧川辨三の養子となり同三十二年分れて一家を創立す同二十九年大阪高等商業學校を卒業し岳父を扶けて幾多の事業に參畫し現に神戸取引所理事長たる外前記各會社の重役を兼ね關西實業界の重鎮にして直接税一萬三千二百七十五圓を納め兵庫縣多額納税者に列し神戸駐在ポルビヤ共和國名譽事たり義に神戸商業會議所會頭に擧げらる事前後二回現時同商工會議所顧問として同市の發展に盡瘁す家族は尚孫辰雄（昭三、四生、長男清一長男）同亨（同五、三生、同二男）同智嘉子（同六、七生、同長女）同博司（同八、四生、二男勝二長男）あり長女美津（明四〇、九生、甲南高女出身）は公爵伊藤博精弟博通に二女壽滿子（同四三、八生、兵庫縣立神戸第一高女出身）は奈良縣人山邊誠一弟論吉に嫁せり（神戸市須磨區關守町二ノ五電須磨五九）

参照＝公爵伊藤博精、瀧川英一、瀧川五郎、瀧川清一、瀧川雄二※平瀬愛雄の項

瀧川五郎

綿糸綿布商、山口縣在籍

妻　静子　明四〇、一二生、兵庫、曾野安次郎二女

男　繁　昭三、一二生

君は兵庫縣人瀧川辨三の五男同英一同節三同雄二の弟同儀作の養弟にして明治三十四年六月五日を以て生れ先代たかの養子となり大正十年家督を相續す綿糸綿布商を營む義に瀧川合資會社々員たりA四二九五B五九四（神戸市須磨區鍋馴町七ノ一ノ一電須磨七九）

参照＝瀧川英一、瀧川儀作、瀧川雄二※平瀬愛雄の項

瀧川清一

青島燐寸㊟取締役、瀧川儀作商店㊟監査役、東洋商事㊟監査役、兵庫縣在籍

妻　壽江　明三六、三生、兵庫、八馬象介妹

男　清　親和高女及同志社女子專門部出身

雄　昭三、四生

君は兵庫縣人瀧川儀作の長男にして明治三十三年三月を以て生る夙に神戸高等商業學校を卒業し日本綿花會社に入り孟買支店在勤たりしも現時前記各會社の重役たり義に大同燐寸株式會社取締役たりし事あり家族は尚二男亨（昭五、三生）長女智嘉子（昭六、七生）あり（神戸市兵庫區水木通二ノ一電湊川八〇）

参照＝瀧川儀作、八馬象介※公爵伊藤博精※大澤穂太郎※中原繁之助※八馬安二良※早瀬太郎三郎の項

瀧川秀雄

從四位勳三等、檢事、神戸地方裁判所檢事正、東京府士族

妻　文子　明二七、七生、神奈川、鈴木俊夫長女

男　幹雄　大七、一生

女　かよ子　大五、一生

君は東京府士族瀧川重太郎の長男にして明治十八年四月五日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正二年檢事に任ぜられ東京横濱各地方裁判所檢事臨時震災救護事務局事務官並に司法書記官兼務等を經て現時神戸地方裁判所檢事正たり家族は尚二女あい子（大一一、一〇生）三男隆雄（同一四、一一生）三女ゑみ子（昭三、一二生）あり（神戸市湊東區浦町六ノ二六五電元町八七八）

瀧川雄二

瀧川㊟無限責任社員、兵庫縣在籍

妻　きくゑ　明二三、三生、兵庫、小西豊次郎二女

男　隆治　大七、二生

君は兵庫縣人瀧川辨三の二男同英一の弟節三同五郎の兄同儀作の養弟にして明治二十年四月二十四日を以て生る現に瀧川合資會社無限責任社員たり家族は尚二男元男（大一二、一生）ありA一八八〇（神戸市葺合區野崎通三ノ一四電葺合一三〇）

参照＝瀧川英一、瀧川儀作、瀧川節三※平瀬愛雄の項

瀧口彦四郎

天龍木材㊟常務取締役、天龍製鋸㊟監査役、静岡縣在籍

母　きく　嘉永二、一一生、細父藤五郎長女

妻　みち　明一四、四生、静岡、河合甚兵衛妹

男　五郎　明四四、五生

女　よし　明四二、五生

女　季　大三、一一生

男　元次　大元、一二生

女　ろく　大六、一生

君は静岡縣人瀧口久太郎の三男にして明治七年九月を

以て生れ同三十七年家督を相續す現時天龍木材會社常務取締役の外天龍製鋸會社監査役たり義に永世銀行監査役に擧げらる家族は尙三男貞雄（大七、一二生）七女とよ（同九、一一生）あり長女よね（明三四、二生）は靜岡縣人齋藤喜一に二女秀（同三六、八生）は同縣人氣賀俊雄に嫁し弟隆平（同一四、九生）同妻あさ（同二三、五生、靜岡、內藤大作三女）は其子女を伴ひ分家し弟量平（同二〇、八生）は靜岡縣人林幸平の養子となれり（靜岡縣濱名郡北濱村）

參照＝鈴木寬剛※川上精一の項

瀧澤吉三郎

瀧澤地業㊞代表社員
東京府在籍

妻　しま　明三、四生、東京、半田庸太郎妹
男　高彌　明二九、一〇生

當家は累代埼玉縣入間郡金子村に住し農を以て業とし同地に於ける素封家として知らる君は瀧澤吉吉の二男にして慶應元年一月を以て生れ明治二十五年兄芳三郎方より分れて一家を創立す同二十三年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り關東石材會社日本海陸保險會社三井銀行三井吳服店住友銀行に勤務し後株式仲買人となりしが同四十五年之を擲ち日新護謨會社常務取締役に擧げられしも現時瀧澤地業會社代表社員たり義に小穴製作所南洋殖產會社各取締役東京キャリコ東京麻絲紡績の各監査役たりし事あり趣味として謠曲を能くし又書畫の鑑定に一隻眼を有す長女よし（明二六、一二生、御茶の水高女出身）は神奈川縣人橋本富藏長男榮三に二女富美江（同三二、三生、出身校同上）は東京府人舞出長五郎に嫁せり（神奈川縣中郡吾妻村電一六六）

參照＝舞出長五郎の項

瀧澤条太郎

地主
東京府在籍

母　とり　明六、一一生、東京、鈴木小三郎二女
妻　りき　明三三、一一生、東京、山崎坦藏長女
男　治久　大一二、一〇生

君は東京府人瀧澤米藏の長男にして明治三十年十二月三日を以て生れ大正八年家督を相續す地主たり家族は尙三男和久（昭二、一生）長女美登里（同七、二生）あり妹いと（明三四、一〇生）は東京府人高田勝に嫁すA四六九（東京市向島區吾嬬町西一ノ四五電墨田一九四）

瀧澤高彌

地主
東京府在籍

父　吉三郎　慶應元、一生、現戶主
母　しま　明三、四生、東京、半田庸太郎妹
妻　八重子　明三六、一〇生、北海道、大塚助吉六女、日本女子大出身

君は東京府人瀧澤吉三郎の長男にして明治二十九年十月二十六日を以て生れ同二十五年家督を相續し前名清市を改め（昭四、八生）二女久美子（同六、二生）三女知惠子（同七、九生）ありA一四三一（東京市麴町區富士見町三ノ一電九段一六六）

瀧澤トミ

家濱加、陶器商
東京府在籍

女　キク　明二二、三生

君は東京府人鈴木八の長女にして慶應元年十一月五日を以て生れ大正七年長男正太郎の後を承けて家督を相續す濱加と稱し陶器商を營むA六六二B二二二（東京市日本橋區人形町二ノ一電茅場町六五六）

瀧澤文造

日英自動車製造、丸石商會、丸石染料、大洋商會、太陽自動車各㊞監査役、神奈川縣在籍

妻　フキ　明一四、九生、新潟、相澤善太郎長女
男　博　明四〇、四生
男　忠　大元、一一生
女　美代　大四、八生

君は新潟縣人瀧澤平次郎の弟にして明治六年六月二十一日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時前揭各會社の重役たり家族は尙三男篤（大七、三生）四男清等商業學校を卒業し更に專攻部に入り同三十六年之を終へ直に臺灣銀行に入り同行新嘉坡支店長東京營業部支配人等に歷任し大正十年同行理事に擧げらる後之を辭し二本松電氣會社代表取締役に推され又安田信託會社常務取締役たりし事あり現時職を辭して閑地にあり家族は尙三男健吉（大一〇、一〇生）四男義介（同一二、明二〇、一一生、兵庫、柴原甚十郎長女）

妻　加壽　明二〇、一一生、兵庫、柴原甚十郎長女
男　達二郎　明四五　六生
男　清之助　大三、二生
庶子　敏夫　明四三、七生、生母、京都、池田ぬい
庶子　妙子　大二、五生、生母、京都、池田ぬい
養子　つな　明一八、八生、兵庫、佐伯昌造二女

君は兵縣庫人先代清兵衛の長男にして明治十二年五月一日を以て生れ同二十五年家督を相續し前名清市を改め彌名す現時前記銀行會社の重役にして兵庫縣多額納稅者に列し直接國稅一千八百四十七圓を納む家族は尙庶子陸夫（大五、一一生、生母、京都、池田ぬい）あり養子千代（明三三、九生、兵庫、神野源太郎妹）は兵庫縣人瀧田順一に庶子壽江（同三九、一〇生、生母、京都、瀧田ぬい）は同縣人瀧田慣二に妹しか（同一七、五生）は同縣人西村莊兵衛に同千鶴（同二三、九生）は同縣人片岡平八郎二男都三に嫁し弟虎之助（同二一、一生）同妻靜惠（同二八、一一生、兵庫、上坂衞門二女）は其養子を伴ひ分家し養兄礒太郎（同八、一〇生、兵庫、士、服部節長男）も亦分家し弟元藏（同一四、一生）は兵庫縣人佐伯昌造に同謙助（同二二、七生）は京都府人遠藤三郎兵衛に各養子となれり（兵庫縣城崎郡豐岡町中）

參照＝遠藤三郎兵衛の項

瀧田傳吉

前安田信託㊞常務取締役
福島縣在籍

妻　長　明一九、七生、滋賀、士、藤居二郎姉
男　信義　大六、一生

君は福島縣人瀧田龜右衞門の弟にして明治十二年十月十九日を以て生れ同三十四年家督を相續す同年東京高等商業學校を卒業し更に專攻部に入り同三十六年之を終へ直に臺灣銀行に入り同行新嘉坡支店長東京營業部支配人等に歷任し大正十年同行理事に擧げらる後之を辭し二本松電氣會社代表取締役に推され又安田信託會社常務取締役たりし事あり現時職を辭して閑地にあり家族は尙三男健吉（大一〇、一〇生）四男義介（同一二、

六生）あり長女章子（明四〇、一生）は福岡縣人水野與市長男薫に三女澄子（同四五、三生）は大阪府人岸本五兵衞弟貞次郎に嫁せり（東京市淀橋區百人町三ノ三四電四谷六五六）

瀧田文之助

瀧田紙器㊞代表取締役、文德社々主、兵庫縣在籍

妻　さく　明二五、三生、三重谷村彬姉
男　文雄　明三三、一〇生、瀧田紙器會社監査役、高千穗商業出身
婦　初枝　明三七、一生、長男文雄妻、兵庫森埴利助長女

君は兵庫縣人先代與左衞門の長男にして明治四年六月六日を以て生れ同九年家督を相續す現に瀧田紙器會社代表取締役たり家族は尙孫婦美子（大一三、三生、長男文雄長女）同順子（同一五、四生、同二女）同文一郎（昭三、四生、同長男）同文二郎（同七、九生、同二男）あり姉くま（慶應二、一一生）は兵庫縣人新兔晉次郎に同ふさ（明元、一二生）は同縣人村尾松太郎に妹みね（同八、一〇生）は東京府人渡邊六藏に同たね（同一〇、一一生）は京都府人牛田國造に嫁せりA二二〇（東京市芝區金杉川口町二二電三田三六三三）

瀧波欽也

福井銀行㊞取締役
福井縣在籍

男　與六　明三三、一一生
妻　貞子　明三九、二生、長男與六妻、福井松村直吉姪

君は福井縣人瀧波與八郎の長男にして明治五年七月十三日を以て生れ同三十八年家督を相續す現時福井銀行取締役たり義に大七銀行龜城銀行頭取たりし事あり家族は尙三男錄二郎（大六、一〇生）叔母しん（安政二、一生）あり二女千代子（明三一、七生）は福井縣人松田たけに四女愛子（同四一、六生）は同縣人瀧波茂に各養子となり五女ゑい（大三、八生）は醫師鈴木成憲に嫁し叔父榮助（嘉永四、九生）は分家し養從弟篤男（明二九、四生、叔母しん養子、福井、北山靜弟）は前記愛子の入夫となれり（福井縣大野郡下庄村）

瀧波文平

雜貨直輸出商
兵庫縣在籍

妻　みち　明一五、三生、長野、小野龜雄姉庶子　文夫　明三六、三生、生母、尾崎ことの婦　逸子　明四三、五生、貴子文夫妻、兵庫

君は福井縣舊大野藩士瀧波昇の三男同宗藏の弟にして明治四年二月三十日を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す雜貨貿易商を營む家族は尙庶子榮子（大九、三生、生母、兵庫、大平明榮）孫徹（昭五、三生、庶子文夫長男）あり長男清（明三四、八生）は分家せりA三九八（神戶市神戶區北長狹通三ノ五四電萬合一九一）

瀧野勇

藥學博士、大日本製藥㊞社長
京都府在籍

妻　しん　明二〇、一〇生、長野、關屋愛藏妹
男　博　大一三、四生
女　和子　大五、四生
女　壽子　大七、四生

君は京都府人瀧野孝之輔の長男にして明治十六年五月を以て生れ同二十九年家督を相續す同四十二年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し現時大日本製藥會社長にして藥學博士たり父孝之輔（安政元、八生）母まさ（元治元、五生、京都、井上傳之丞長女）は共に分家し妹てい（明一八、一二生）は和歌山縣人吉田政補弟熊次郎に嫁せりA一三八五（大阪府豐能郡池田町七二六）

瀧野德右衞門

京都府多額納稅者、京都取引所取引員、有價證券現物賣買業
京都府在籍

妻　ひろ　明二一、九生、京都、桑村傳右衞門三女
男　德太郎　大六、一生
養子　直三郎　明四一、六生、二女靜子夫、京都小田達二郎弟
養子　靜子　明四四、一生、養子直三郎妻、同志社高女出身
女　花子　大二、一一生、府立第一高女研究科出身
女　房子　大七、二生、二條高女出身

君は京都府人瀧野又右衞門の二男にして明治十七年十二月十四日を以て生れ分れて一家を創立す夙に綿綢商を營み現時京都取引所取引員たり現に京都府多額納稅者にして曾て紺綾褒章及之に付すべき飾版を下賜せられる義に支那滿洲西比利亞を巡遊す家族は尙二男德三郎（大一五、九生）孫平八郎（昭五、七生、分家養子孫二長男）あり長女豐子（明四一、七生）は同夫孫二（明三一、二生）と共に其二男一女を伴ひ分家せりA四九一九B四九〇（京都市右京區花園巽南町電西陣二一五九）店舗同市中京區錦小路烏丸東入元法然院町六九電本局九七四・九七五）

瀧野鼎慶吾

大日本ミシン㊞社長、柳津溫泉土地㊞監査役、三重縣士族
明一八、一〇生、三重、佐田松三郎庶子

君は三重縣士族瀧鼎一郎の長男にして明治八年二月十二日を以て生れ同三十七年家督を相續す現時大日本ミシン會社々長の外前記會社の重役たり義に玉川水道株式會社の重役を兼ぬ家族は尙弟保造（明一九、八生、村上商會監査役）及其三男ありA五〇七（東京市淀橋區西大久保二ノ二二〇電四谷一〇九九）

瀧村立太郎

從四位勳四等、東京外國語學校教授、東京府士族

妻　三子　明二五、七生、子爵奧田直元妹
養子　清次　大一〇、八生、東京、石井政吉四男

君は東京府士族瀧村短通の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正十年家督を相續す明治三十三年東京外國語學校佛語科を卒業し現時母校教授たり家族は尙弟岑司（明一八、一〇生）ありA一一四（東京市杉並區西高井戶二ノ二六電荻窪三四一七）

參照＝子爵奧田直元※高野金秋の項

瀧本久兵衞

八州商事㊞取締役、家主
東京府在籍

妻　エン　明二二、一〇生、京都、梅村雷吉五女
男　武久　明四五、七生

君は富山縣人瀧本吉右衞門の四男同竹次郎の弟にして明治十五年十一月二日を以て生れ同三十五年先代久左衞門の養子となり大正六年家督を相續す家主にして現時八州商事會社の取締役たり家族は尙三男友次郎（大六、七生）ありA五三〇（東京市淺草區小島町一ノ一五）

※印は姻族關係）

瀧本丈太郎

岡山縣多額納稅者、笠岡瓦斯㈱取締役社長、笠岡鐵道、井笠鐵道各㈱取締役、岡山縣醬油釀造同業組合副長、醬油釀造業、岡山縣在籍

繼母　シゲヨ
妻　カメ
男　忠男　明四一、四生
女　仁子　大四、二生
女　文子　大六、一一生

君は岡山縣人瀧本丈太郎の長男同得之の甥にして明治十八年六月二十七日を以て生れ昭和五年家督を相續し前名深策を改め襲名す明治四十年大阪高等工業學校醸造科を卒業し醬油釀造業を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅五百九十三圓を納む家族は尙五女晴子（大一〇、一生）六女典子（同一二、一一生）あり長女智子（明四五、七生）は廣島縣人石井峯吉二男武に嫁せり（岡山縣後月郡井原町**電六**）

參照‖瀧本得之の項

瀧本昂

安田銀行㈱本店考査課員
東京府在籍

父　砂猛雄叔父
母　たよ　明四、七生、東京、渡邊仁作二女
妻　ハル　明三四、四生、長野、神山平次郎二女
男　信雄　昭二、二生

君は東京府人瀧本砂の長男にして明治二十七年三月七日を以て生る現時前記安田銀行本店考査課員たり家族は尙長女美代子（昭四、一生）二女久二子（同四、一生）姉きみ（明二四、一二生）弟巖（同三〇、一一生）同亮（同三六、一生）同妻稻子（同四五、三生、東京、片岡芳平長女）及其一子妹讃美（同三八、一〇生）弟末喜雄（同四一、一一生）同睦雄（同四五、五生）あり同三男（同三三、七生）は東京府人苅谷富美子の入夫となれりA一三二（東京市牛込區南榎町五七）

瀧本得之

探口土地㈱取締役、關西信託㈱監査役、岡山縣在籍

男　義一　明三三、一二生、東京市技師、工學士

瀧谷善一

從四位勳三等、神戸商業大學教授
大阪府在籍

妻　郁子　明二六、七生、和歌山、南川親區長女
男　善衛　大二、二生

君は大阪府人瀧谷善吉の二男にして明治十六年六月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十一年東京高等商業學校專攻部を卒業し同四十三年神戸高等商業學校教授となり大正二年商業學研究の爲屬英米に留學し更に同十二年官命を帶びて歐米諸國に出張す昭和四年神戸商業大學の設立せらるゝに及び同大學教授となり且つ同大學附設の商業研究所調査部長たり家族は尙三男善三郎（大七、八生）あり二男善雄（同六、一生）は和歌山縣人南川しげの養子となれり（神戸市葺合區熊内町四ノ一六**電葺合一四〇六**）

瀧山清治

地主
東京府在籍

妻　シツ　明三〇、一一生、東京、安川七郎妹
男　昇　大八、三生

君は東京府人瀧山甚太郎の二男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十三年家督を相續す地主として知らる家族は尙ほきく及長女千代（大一二、四生）あり弟藤吉（明三八、四生）は分家せりA六〇三（東京市下谷區龍泉寺町三一五**電浅草五四一五**）

瀧山與

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、京都帝國大學教授、工學部勤務
大阪府在籍

妻　喜久榮　明一九、一〇生、京都、士、六人部是慶長女、京都府立第一高女出身
男　榮　明四三、二生、織道省東京改良事務所勤務、工學士
男　和　大三、九生、陸軍士官學校在學
女　倚子　大七、一〇生、京都府立第一高女在學

君は大阪府人瀧山瑄の長男にして明治十年八月を以て生れ同十二年家督を相續す同三十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し國有鐵道に就職し鐵道技師たりしも大正十三年京都帝國大學教授に任じ現時工學部勤務たり家族は尙三男周（大九、五生）四女直子（同一五、三生）あり長女節子（明四〇、七生）は株式會社藤田組社員法學士森田虎男に妹貞子（同二〇、七生）は大阪府人中島從三郎に嫁せり（京都市上京區小山堀池町三七**電上三八八〇**）

瀧山敏夫

從五位勳六等、遞信局技師兼遞信技師、東京遞信局勤務

君は明治二十六年七月を以て生る大正八年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業後遞信局技手香港總領事館附熊本遞信局海事部等に勤務し昭和三年英國倫敦に於て開催の國際海上人命安全條約改訂會議に帝國委員隨員として參列し又ジュネーヴに於ける第十二回國際勞働總會に政府代表委員隨員を命ぜらる次いで獨逸丁抹の二ヶ國へ出張す現時前記の官職に在り（東京市中野區打越町六**電中野四九〇二**）

瀧山米太郎

後藤野スレート㈱取締役會長、大阪石綿工業、旭コンクリート工業、肥田商店各㈱專務取締役、淺野セメント㈱取締役、三技商店日本ヒューム管各㈱取締役、淺野セメント㈱監査役、東京府在籍

母　クマ
庶子　守　大一一、三生、生母、齋藤安吉
妻　ツル　明三五、一一生、長男義一妻、神戸商業學校教諭、笠岡瓦斯㈱取締役社長、笠岡鐵道、井笠鐵道各㈱取締役、岡山縣醬油釀造同業組合副長、醬油釀造業、岡山縣在籍
男　石郎　明四四、三生
男　盛夫　大三、一〇生

君は岡山縣人瀧本淺五郎の四男にして同丈太郎の叔父なり明治二年三月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す同二十五年分れて一家を創立す現時塚口土地會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙孫隆子（昭四、五生、長男義一長女）同義正（同五、四生、同長男）あり長女多嘉子（明四二、一生）は岡山縣人竹下金吾長男茂文の妻子となれりA二五四（大阪市住吉區阿倍野筋一ノ九**五電残一五〇五**）

參照‖瀧本丈太郎の項

瀧谷善一

從四位勳三等、神戸商業大學教授
大阪府在籍

妻　郁子　明二六、七生、和歌山、南川親區長女
男　善衛　大二、二生

君は大阪府人瀧谷善吉の二男にして明治十六年六月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十一年東京高等商業學校專攻部を卒業し同四十三年神戸高等商業學校教授となり大正二年商業學研究の爲屬英米に留學し更に同十二年官命を帶びて歐米諸國に出張す昭和四年神戸商業大學の設立せらるゝに及び同大學教授となり且つ同大學附設の商業研究所調査部長たり家族は尙三男善三郎（大七、八生）あり二男善雄（同六、一生）は和歌山縣人南川しげの養子となれり（神戸市葺合區熊内町四ノ一六**電葺合一四〇六**）

瀧山清治

地主
東京府在籍

妻　シツ　明三〇、一一生、東京、安川七郎妹
男　昇　大八、三生

君は東京府人瀧山甚太郎の二男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十三年家督を相續す地主として知らる家族は尙ほきく及長女千代（大一二、四生）あり弟藤吉（明三八、四生）は分家せりA六〇三（東京市下谷區龍泉寺町三一五**電浅草五四一五**）

瀧山與

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、京都帝國大學教授、工學部勤務
大阪府在籍

妻　喜久榮　明一九、一〇生、京都、士、六人部是慶長女、京都府立第一高女出身
男　榮　明四三、二生、織道省東京改良事務所勤務、工學士
男　和　大三、九生、陸軍士官學校在學
女　倚子　大七、一〇生、京都府立第一高女在學

君は大阪府人瀧山瑄の長男にして明治十年八月を以て生れ同十二年家督を相續す同三十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し國有鐵道に就職し鐵道技師たりしも大正十三年京都帝國大學教授に任じ現時工學部勤務たり家族は尙三男周（大九、五生）四女直子（同一五、三生）あり長女節子（明四〇、七生）は株式會社藤田組社員法學士森田虎男に妹貞子（同二〇、七生）は大阪府人中島從三郎に嫁せり（京都市上京區小山堀池町三七**電上三八八〇**）

瀧山敏夫

從五位勳六等、遞信局技師兼遞信技師、東京遞信局勤務

君は明治二十六年七月を以て生る大正八年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業後遞信局技手香港總領事館附熊本遞信局海事部等に勤務し昭和三年英國倫敦に於て開催の國際海上人命安全條約改訂會議に帝國委員隨員として參列し又ジュネーヴに於ける第十二回國際勞働總會に政府代表委員隨員を命ぜらる次いで獨逸丁抹の二ヶ國へ出張す現時前記の官職に在り（東京市中野區打越町六**電中野四九〇二**）

瀧山良一

大阪市助役
東京府士族
萬延元、二生、千葉、士、櫻井義則三女

妻　てる　明三〇、一〇生、滋賀、横野靜姉
男　啓治　大八、三生
女　眞佐　大六、一〇生

君は東京府士族瀧山廸の長男にして明治十六年八月十九日を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十七年早稻田大學英語政治科を卒業し大阪市吏員となり現時大阪市助役たり家族は尙二女茂登（大一〇、六生）三女美和（昭二、九生）あり妹美惠（明三四、一一生）は東京府人金子民三郎長男光郎に嫁せりA八三〇（大阪市東淀川區十三東之町三ノ六〇**電北四一二〇**）

瀧脇宏光

從四位勳四等、子爵、辯護士、舊上總櫻井藩
養母　鏈子　明三、一二生、東京、士、宮崎笹雄妹

當家は德川家康四代の胤松平左京亮親忠の三男乘清の後なり乘清三州瀧脇に住し瀧脇公平と稱す數世を經て但馬守信孝に至り一萬石を賜ひ諸侯に列す夫より世々駿州小島藩主として九世を經て信敏に至り繼新の際上總國櫻井に移り明治四年姓を瀧脇と改む弟信成其後を享け同十七年子爵を授けられ信廣及信倫を經て君に至る君實は男爵古市六三の弟にして明治二十一年十二月十三日を以て生れ當家の指定相續人となり大正十二年先代信倫隱居の後を承けて襲爵仰付けられ前名强哉を改む同四年東京帝國大學法科大學を卒業し鐵道省に入り同省參事官兼大臣祕書官兼總理大臣祕書官となり同十四年貴族院議員に選ばる夙に實業界に入り辯護士業の傍ら帝國電氣會社取締役會長の外關東綱索鐵道日本映畫劇場武州瓦斯上毛電氣軌道新日本火災保險櫻麥酒松竹鐵道各會社の重役に就任せしも悉く之を辭して開地にあり先代信倫（明二六、三生）は別居し養妹甚子（同二八、一生）は子爵蒔田廣城の養子となれり（東京市杉並區清水町二二七）

參照‖子爵蒔田廣城、男爵古市六三※桂秀三※濱川昌世※野田俊作※福原信辰の項

宅德平

日本工業所、大牟田電氣軌道各㈱取締役、山中運輸㈱監査役、名古屋社員、銘酒澤龜醸造元、酒造業、大阪府在籍

妻　はな　明一六、八生、愛知、奥田正吉妹
男　昌一　明三五、六生
男　邦子　明三二、一生、長男昌一妻、滋賀野崎舜三長女
婦　孝二　明三七、三生、巴里音樂學校在學二男孝二妻、京都、山本トラ三女
婦　閑子　明四三、五生、堺高女出身
女　喜子　大元、一〇生、早大在學
男　博夫　大三、六生
男　和彦

當家の祖は古くより堺に定住したる町人にして累代清酒醸造業を營み銘酒澤龜醸造元として知らる現時同地に於て宅姓を稱する十餘の資產家は皆其一族なり先代德平は家業の傍ら堺瓦斯大阪貯蓄銀行南海鐵道大日本麥酒各會社の重役にして又堺商業會議所特別議員たり俳句を嗜み醸春軒九堂と號せり君實は其二男にして明治十一年六月を以て生れ昭和七年家督を相續し前名萬次郎を改め襲名す祖業たる酒造業を繼ぎ現に宅合名會社代表社員にして傍ら前記各會社の重役を兼ね義に各工會議所議員に擧げられ又琴平參宮電鐵男山鐵道關西電球各會社の重役たりし事あり家族は尙六男六男（大五、六生）孫瞭一（昭二、一一生、長男昌一長男）同克子（同四、三生、同長女）あり長女增（明三三、七生）は石川縣人早川忠吉に二女久子（同三九、三生）は三井銀行員崎川幸雄に養妹とめ（同二一、三生、愛知、奥田正吉妹）は大阪府人肥塚源次郎長男源一郎に嫁し三男德治（同四一、九生）は廢家宅氏を再興し姉美代（同八、七生）同夫檜貞（同三〇、一生、奈良、富和宜弟）は共に其一女を伴ひ分家せり（堺市九間町西一ノ五**電二二〇**）

參照‖※後藤仁兵衛※肥塚源次郎の項

卓昌河

正七位、新義州府會議員、平安北道會議員、辯護士、平安北道在籍

君は平安北道博川郡卓秉鋼の三男にして明治二十九年十月を以て生る大正七年京城專修學校を卒業朝鮮總督府裁判所書記となり同九年總督府檢事に就任平壤地方法院新義州地方法院に在勤を命ぜられ同十二年職を辭す同十三年より新義州府辯護士を開業今日に及ぶ義に新義州協議員たりしことあり現に平安北道各會官選議員新義州府會議員の公職にあり讀書を趣味とす（新義州府眞砂町**電園三三一**）

詫摩武彦

文部省學校衛生調査會委員、市立青山小學校醫、詫摩醫院、青山師範學校醫、醫師、東京府在籍

妻　直機　明五、一一生、濃本、石光眞俊妹
男　武人　明二七、一生、醫學博士、千葉醫科大學教授
婦　和子　明三九、九生、長男武人妻、貴族院議員赤池濃長女
男　武臣　明三一、一生、京大出身、法學士
婦　清　明四一、一生、二男武臣妻、東京田中清妹
男　武麿　明三八、三生、醫學士、愛知醫大出身
婦　貞子　大三、一生、三男武麿妻、奈良、兢貞吉長女
男　武範　明四〇、一生、昭和醫專出身
男　武元　明四二、一一生、醫學士

君は熊本縣人詫摩之武の長男にして慶應元年二月一日を以て生れ明治二十八年家督を相續す夙に醫學を修め醫療に從事す現に文部省學校衛生調査會委員にして青山師範學校及市立青山小學校々醫を兼ぬ義に東京市參事會員同市會議員たり家族は尙孫武俊（昭二、六生、長男武人長男）同武英（同六、六生、同二男）同道子（同七、一〇生、二男武臣長女）同はるみ（同八、五生、三男武麿長女）あり二女眞壽代（明三五、三生）は東京府人醫學博士岡部剛二に三女眞壽寛（同四四、六生）は同府人醫學士澤田昌三に嫁せりA五一〇（東京市赤坂區青山南町二ノ六二**電二五九五**）

參照‖赤池濃、石光眞俊の項

竹泉的　福岡縣多額納稅者、竹泉貿易商社員、金融業、地主、福岡縣士族
母　ヤス　明四、一生、福岡、北京小次郎長女

君は福岡縣士族竹泉小三郎の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す同九年明治大學法科を卒業し金融業を營み地主にして直接國稅千二百七十九圓を納め縣下の多額納稅者として知られ又竹泉合資會社代表社員たり家族は尙弟正久（明三九、一生）妹滿美惠（同四四、一一生）あり同タツエ（同三五、一一生）は熊本縣人中澤成基同コヤミ（同四一、八生）は福岡縣人農學士石橋靜男に嫁せり（福岡市大字春吉）

竹内淺吉　竹内組、運送業　大阪府在籍
妻　ヨネ　明三、三生、大阪、石田清五郎長女
男　爲吉　明二六、二生
婦　アヤ　明三五、九生、長男爲吉妻、大阪杉本ヤチ孫
男　貞一　明三二、四生
婦　元　明三六、三生、二男貞一妻、大阪佐原忠次郎妹
男　博　明三六、六生
婦　キヨエ　明四四、一〇生、三男博妻、奈良伊豆谷淺吉三女
男　甑一　明三八、五生
婦　フユ　明四一、一生、四男[illegible]二妻、新潟玉木正平妹
男　光　明四〇、五生

君は大阪府人竹内太長門の二男にして明治五年三月二十二日を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す竹内組と稱し運送業を營む家族は尙孫美代子（大一四、一生、長男爲吉長女）同桂子（同一五、一二生、同二女）同昭雄（昭二、四生、同長男）同芳郎（同五、一生、同二男）同明（同五、一〇生、二男貞一二男）同茂子（同八、一生、四男甑一長女）同直（同九、四生、同長男）あり長女多滿（明三四、四生）は愛媛縣人川甚一郎に二女秀子（同四四、一一生）は愛媛縣人川又綾之助弟清忠に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内清　正五位勳四等、醫學博士、長崎醫科大學教授、兵庫縣在籍
妻　章　明三二、七生
男　和之　昭四、二生

君は兵庫縣士族山澤松太郎の四男にして明治二十四年七月十六日を以て生れ先代秀之祐の養子となり同四十年家督を相續す大正四年九州帝國大學醫科大學を卒業し同八年同大學助教授に任じ同十二年長崎醫科大學助教授に轉じ同年獨英米各國に留學同十四年歸朝同十五年長崎醫科大學教授に任ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女敬子（大一〇、二生）二女正子（同一一、一〇生）三女よし子（同一五、一〇生）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内薫兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内清　正五位勳四等、醫學博士、長崎醫科大學教授、兵庫縣在籍
妻　章　明三二、七生
男　和之　昭四、二生

君は兵庫縣士族山澤松太郎の四男にして明治二十四年七月十六日を以て生れ先代秀之祐の養子となり同四十年家督を相續す大正四年九州帝國大學醫科大學を卒業し同八年同大學助教授に任じ同十二年長崎醫科大學助教授に轉じ同年獨英米各國に留學同十四年歸朝同十五年長崎醫科大學教授に任ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女敬子（大一〇、二生）二女正子（同一一、一〇生）三女よし子（同一五、一〇生）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内薫兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内清　正五位勳四等、醫學博士、長崎醫科大學教授、兵庫縣在籍
妻　章　明三二、七生
男　和之　昭四、二生

君は兵庫縣士族山澤松太郎の四男にして明治二十四年七月十六日を以て生れ先代秀之祐の養子となり同四十年家督を相續す大正四年九州帝國大學醫科大學を卒業し同八年同大學助教授に任じ同十二年長崎醫科大學助教授に轉じ同年獨英米各國に留學同十四年歸朝同十五年長崎醫科大學教授に任ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女敬子（大一〇、二生）二女正子（同一一、一〇生）三女よし子（同一五、一〇生）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内薫兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内蔦兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内蔦兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内慶吉　地家主　大阪府在籍
妻　し　明七、九生、兵庫、赤木彌平四女
男　けい　明三四、七生
婦　英雄　明三四、五生、二男英雄妻、兵庫、赤木久右衛門姉
美　津　明三七、一生、兵庫、赤木彌平四女
婦　ヤス　明四四、一生、福岡、北京小次郎長女

君は福岡縣士族竹泉小三郎の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す同九年明治大學法科を卒業し金融業を營み地主にして直接國稅千二百七十九圓を納め縣下の多額納稅者として知られ又竹泉合資會社代表社員たり家族は尙弟正久（明三九、一生）妹滿美惠（同四四、一一生）あり同タツエ（同三五、一一生）は熊本縣人中澤成基同コヤミ（同四一、八生）は福岡縣人農學士石橋靜男に嫁せり（福岡市大字春吉）

竹内淺吉　竹内組、運送業　大阪府在籍
妻　ヨネ　明三、三生、大阪、石田清五郎長女
男　爲吉　明二六、二生
婦　アヤ　明三五、九生、長男爲吉妻、大阪杉本ヤチ孫
男　貞一　明三二、四生
婦　元　明三六、三生、二男貞一妻、大阪佐原忠次郎妹
男　博　明三六、六生
婦　キヨエ　明四四、一〇生、三男博妻、奈良伊豆谷淺吉三女
男　甑一　明三八、五生
婦　フユ　明四一、一生、四男[illegible]二妻、新潟玉木正平妹
男　光　明四〇、五生

君は大阪府人竹内太長門の二男にして明治五年三月二十二日を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す竹内組と稱し運送業を營む家族は尙孫美代子（大一四、一生、長男爲吉長女）同桂子（同一五、一二生、同二女）同昭雄（昭二、四生、同長男）同芳郎（同五、一生、同二男）同明（同五、一〇生、二男貞一二男）同茂子（同八、一生、四男甑一長女）同直（同九、四生、同長男）あり長女多滿（明三四、四生）は愛媛縣人川甚一郎に二女秀子（同四四、一一生）は愛媛縣人川又綾之助弟清忠に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）

竹内穆夫　日本貿易商社、輸出入商　兵庫縣在籍
妻　とめと　明二八、三生、兵庫、四井彙次郎四女
男　豊　大六、六生

君は兵庫縣人竹内正彦の二男にして明治十九年四月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す日本貿易商社と稱し輸出入商を營む業に兵庫縣多額納稅者たりし事あり家族は尙二男吉次郎（大八、二生）長女はま（同一〇、八生）三男三郎（同一二、九生）四男四郎（同一四、六生）五男五郎（昭三、一二生）ありA一四七B一一三（神戸市葺合區野崎通七ノ一電[illegible]三宮一九九三）

竹内榮藏　動七等、功七級、京都府多額納稅者、京都商會取締役、京都證券各組合監事、京都取引所取締役、京都取引所取引員　京都府在籍
妻　たみ　明一六、三生、京都、森脇文吉長女
男　榮一　明三八、一生
婦　とし　明四二、三生、長男榮一妻、滋賀勝村德次郎長女
男　泰次　明四四、一生
女　靜子　大三、一生
女　イサヲ　大八、一生

君は滋賀縣人竹内八十八の二男にして明治十二年十月生れ大正五年兄八十八方より分れて一家を創立す京都取引所證券米穀取引員にして前記會社重役を兼ね又繁榮組合監事たり直接國稅三千四百六十九圓を納め府下の多額納稅者に列す家族は尙三男俊三（大五、五生）孫榮之輔（昭五、六生、長男榮一長男）あり長女エミ（明四〇、四生）は滋賀縣人西田太郎に嫁せりA四二五三B七九六（京都市上京區藪屋町通上長者町上ル南俵町三四一電本局四六六〇）

竹内乙吉　米穀肥料商　愛知縣在籍
妻　ふく　明三一、三生、愛知、杉原善七姉
女　とし子　大七、三生

君は愛知縣人竹内久吉の三男にして明治十九年九月十五日を以て生れ大正五年家督を相續す米穀肥料商を營む家族は尙長女ふく（明三一、三生、愛知、杉原善七姉）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内薫兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内清　正五位勳四等、醫學博士、長崎醫科大學教授、兵庫縣在籍
妻　章　明三二、七生
男　和之　昭四、二生

君は兵庫縣士族山澤松太郎の四男にして明治二十四年七月十六日を以て生れ先代秀之祐の養子となり同四十年家督を相續す大正四年九州帝國大學醫科大學を卒業し同八年同大學助教授に任じ同十二年長崎醫科大學助教授に轉じ同年獨英米各國に留學同十四年歸朝同十五年長崎醫科大學教授に任ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女敬子（大一〇、二生）二女正子（同一一、一〇生）三女よし子（同一五、一〇生）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内蔦兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内慶吉　地家主　大阪府在籍
妻　し　明七、九生、兵庫、赤木彌平四女
男　けい　明三四、七生
婦　英雄　明三四、五生、二男英雄妻、兵庫、赤木久右衛門姉
美　津　明三七、一生、兵庫、赤木彌平四女

（※印は姻族關係）

竹内穆夫　日本貿易商社、輸出入商　兵庫縣在籍
妻　とめと　明二八、三生、兵庫、四井彙次郎四女
男　豊　大六、六生

君は兵庫縣人竹内正彦の二男にして明治十九年四月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す日本貿易商社と稱し輸出入商を營む業に兵庫縣多額納稅者たりし事あり家族は尙二男吉次郎（大八、二生）長女はま（同一〇、八生）三男三郎（同一二、九生）四男四郎（同一四、六生）五男五郎（昭三、一二生）ありA一四七B一一三（神戸市葺合區野崎通七ノ一電[illegible]三宮一九九三）

竹内榮藏　動七等、功七級、京都府多額納稅者、京都商會取締役、京都證券各組合監事、京都取引所取締役、京都取引所取引員　京都府在籍
妻　たみ　明一六、三生、京都、森脇文吉長女
男　榮一　明三八、一生
婦　とし　明四二、三生、長男榮一妻、滋賀勝村德次郎長女
男　泰次　明四四、一生
女　靜子　大三、一生
女　イサヲ　大八、一生

君は滋賀縣人竹内八十八の二男にして明治十二年十月生れ大正五年兄八十八方より分れて一家を創立す京都取引所證券米穀取引員にして前記會社重役を兼ね又繁榮組合監事たり直接國稅三千四百六十九圓を納め府下の多額納稅者に列す家族は尙三男俊三（大五、六生、長男榮一長男）あり長女エミ（明四〇、四生）は滋賀縣人西田太郎に嫁せりA四二五三B七九六（京都市上京區藪屋町通上長者町上ル南俵町三四一電本局四六六〇）

竹内乙吉　米穀肥料商　愛知縣在籍
妻　ふく　明三一、三生、愛知、杉原善七姉
女　とし子　大七、三生

君は愛知縣人竹内久吉の三男にして明治十九年九月十五日を以て生れ大正五年家督を相續す米穀肥料商を營む家族は尙長女ふく（明三一、三生、愛知、杉原善七姉）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内薫兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内清　正五位勳四等、醫學博士、長崎醫科大學教授、兵庫縣在籍
妻　章　明三二、七生
男　和之　昭四、二生

君は兵庫縣士族山澤松太郎の四男にして明治二十四年七月十六日を以て生れ先代秀之祐の養子となり同四十年家督を相續す大正四年九州帝國大學醫科大學を卒業し同八年同大學助教授に任じ同十二年長崎醫科大學助教授に轉じ同年獨英米各國に留學同十四年歸朝同十五年長崎醫科大學教授に任ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女敬子（大一〇、二生）二女正子（同一一、一〇生）三女よし子（同一五、一〇生）あり織母りう（明四、一生、兵庫、藤田喜三右衛門長女）は同縣人藤田ゆきゑの家籍に入れり（長崎市上西山町一五五電[illegible]）

竹内蔦兵　醫學博士、日本小兒科學會理事、日本兒童養育會幹事、小兒科竹内病院長、醫師、東京府在籍
養母　ツネ　文久二、一一生、東京、今村亀養子
妻　蝶　明二七、一生、東京、懽林文吾長女、日本女大附屬高女出身
男　正　大三、八生

君は靜岡縣人鈴木良平の長男にして同登の兄なり明治十六年十一月十二日を以て生れ後先代元正の養子となり大正十二年家督を相續す現時日本建物會社專務取締役たり家族は尙三男昭（大九、五生）四男孝一（同一二、二生）あり長女喜代（明四一、一生）は東京府人守屋善輝に二女喜美（同四五、五生）は同府人小川松次郎長男敬次に嫁せりA一一七九（東京市京橋區銀座二ノ三ノ八電京橋五二一八）
參照＝守屋善輝の項

竹内久四郎　地主　東京府在籍
妻　てつ　明一一、一二生、東京、宇田川源兵衛三女
養子　德次郎　明二〇、一二生、長女志津夫、東京、波多野萬次郎弟
女　志津　明二九、一二生、養子德次郎妻

君は東京府人竹内清吉の長男にして慶應二年十二月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫清（大六、三生、養子德次郎長男）同多美子（同九、一一生、同長女）同壽子（昭三、九生、同二女）同久（同八、七生、同二男）あり二女りよ（明三一、一二生）は東京府人守屋銀次郎に嫁し三女美※（同三五、一生）は同府人前田屋惠に四女せつ（同三七、一一生）は同府人竹内加年の養子となれりA三六九九（東京市淺原區戸越町八〇七電淺原三三三一）

竹内慶吉　地家主　大阪府在籍
妻　し　明七、九生、兵庫、赤木彌平四女
男　けい　明三四、七生
婦　英雄　明三四、五生、二男英雄妻、兵庫、赤木久右衛門姉
美　津　明三七、一生、兵庫、赤木彌平四女

君は大阪府人竹内貫一郎の三男にして明治七年七月二日を以て生れ同十一年家督を相續す地家主たり家族は尙孫靜子（昭二、一二生、二男英雄長女）あり四男鑑之進（明四二、一一生）は分家せりA一三〇三（大阪市東淀川區本庄中二ノ一二電北五六八四）

竹内健次　海陸運送業　兵庫縣在籍
母　宇良　元治元、四生、兵庫、三宅類五郎長女
妻　久子　明二九、一二生、岡山、清水藤作長女
男　幸一　大五、九生

君は兵庫縣人先代竹内鶴藏の長男にして明治三十一年十月二十五日を以て生れ昭和六年家督を相續す海陸運送業を營む家族は尙養女芳子（大一五、八生、藍田はな私生子）姉ときく（明二二、一二生）ありA五三四B一三七（神戸市兵庫區南逆瀬川二ノ三五電兵庫一一八〇）

竹内惟斌　從四位、子爵、陸軍騎兵大尉、騎兵第一聯隊附、舊ノ卿家　東京府在籍
母　絢子　明五、四生、久邇宮朝融王御伯母
妻　喜代子　明三九、一生、伯爵大村純毅姉女子學習院出身
男　惟貞　昭二、一〇生

當家は甲斐守源義光の孫毅河守義信の後なり祖傳へて正三位季治に至り將軍綱吉の傳奏に依り堂上の列に加へられ竹内を姓とす十世を經て治則に至り明治十七年子爵を授けらる先々代惟忠其後を享け貴族議員に列す君は其二男にして男爵藤堂高伸の從兄なり明治三十三年九月十五日を以て生れ大正十年先代兄惟治の家督を相續し襲爵仰付けらる軍籍に入り陸軍士官學校を卒業同十二年陸軍騎兵少尉に任じ昭和八年同大尉に進み現に騎兵第一聯隊付たり家族は尙二男惟義（昭四、四生）長女英子（同六、一一生）二女紳子（同八、八生）叔父茂（明一六、一生）同妻文子（同二二、一生、男爵今岡國貞妹）及其三男あり妹千代子（同三七、四生）は東京府人長谷川久四郎に叔母田鶴子（同三七、一一生）は爵島津忠承先代忠濟に同うた子（同一二、二生）は男爵本堂親雄に同ハルコ（同一八、九生）は石川縣人岡川慶國に嫁せり（東京市中野區住吉町一六四二）

竹内可吉　從四位勳三等、商工省工務局長、鹿兒島縣在籍
父　才次郎　文久二、一一生、現戸主
妻　悦　明三二、二生、石川、米谷半平妹
男　夏郎　大六、七生
女　萬里子　大八、九生

君は鹿兒島縣人竹内才次郎の二男にして明治二十二年二月二十八日を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し農商務省屬に任じ同五年文官高等試驗に合格同省事務官農商務省參事官食糧局調査課長農務局農務課長農商務書記官工務局工政課長商工書記官等に歷任し臨時產業合理局事務官第一部長を經て現時商工省工務局長たり嘗に大正十年ジュネーブに於ける國際勞働會議に政府代表顧員として出席し次で歐米各國に出張を命ぜられ同十一年伊太利羅馬に於ける萬國農事協會第六回總會に委員として參列せり家族は尙二男冬郎（大一〇、二生）三男震（同一二、一〇生）四男明（同一四、一二生）あり（東京市芝區三田功運町三九電三田八八一）
參照＝米谷半平※小林敏※中村三之丞の項

竹内寛二　江戸勛、酒造業　愛知縣在籍
父　彌七　萬延元、一二生、現戸主
妻　きぬ　明三六、五生、愛知、竹内彙吉六女
男　醇　大一五、四生

君は愛知縣人竹内彌七の長男にして明治二十九年七月二十八日を以て生る江戸勛と稱し酒造業を營む父彌七は愛知農商及農商貯蓄銀行の重役たり家族は尙長女ちよ（大一一、一〇生）妹あや（明四一、七生）あり姉こう（明二六、七生）は愛知縣人平野助三郎長男貞造に嫁し養伯母とう（嘉永三、八生）は分家し其養子彙吉當主たりA三四一B一二六（名古屋市南區熱田白鳥町一一三電南一三三六）

竹内喜太郎　日本建物會社專務取締役　東京府在籍
妻　たき　明二一、三生、東京、鈴木新次郎六女

（※印は姻族關係）

参照＝久邇宮家、公爵鳥津忠承、伯爵大村純毅、子爵今園國貞、男爵蘆堂高伸、男爵本堂親雄、長谷川久四郎※侯爵久邇邦久※伯爵尺谷光暢※伯爵三條西實義※伯爵壬生基義※子爵加藤克明※子爵長岡護孝※子爵東園基文※男爵大村純之※男爵紀俊秀※伯爵東伏見邦英の項

竹内維彦　工學博士
東京府在籍
妻　芳子　明四二、五生、山口、長屋正妹
男　常彦　明四五、二生、東北帝國大學理學部在學
女　董子　大五、五生、聖心女子學院在學

君は愛媛縣士族横田維倫の二男にして明治七年三月を以て生れ先代貴殿の養子となり同十一年家督を相續す同三十三年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し藤田組に入り小坂鑛山に勤務す其間歐米巡洲諸國を視察し同四十年久原鑛業會社前身久原鑛業所に轉じ日本鑛業日立電力日立製作所日本產業各會社の重役たりしも悉く之を辭して閑地にあり先是大正四年工學博士の學位を授與せらる家族は尚二男敏雄(大九、一生、東京高師附屬中學在學)四女道子(同一〇、三生、聖心女子學院在學)三男維英(同一二、三生、東京高師附屬小學校在學)四男維茂(同一四、一生、同上校在學)あり

三女章子(同七、二生、聖心女子學院在學)は東京府人岩田作兵衛の養子となれりA八四五〇(東京市澁谷區代々木初臺町六三八)電話麻布四二八二〇)

竹内定一郎　丹定、米穀商
京都府在籍
妻　しけ　明一六、一〇生、滋賀、北村拾吉
母　美根長女
男　貞太良　明三四、一二生
婿　貞　明三六、八生、長男貞太郎妻、京都、樋口源治二女
女　菊　明四〇、三生
男　英三　大三、三生

君は京都府人竹内定八の長男にして明治五年十月二十八日を以て生れ同十六年家督を相續す丹定と稱し米穀商を營む家族は尚母(明昭五、三生、長男貞太郎長女)あり父定八(嘉永五、五生)は母こま(同五、六生、京都、稻岡傳右衛門二女)と共に分家し二男孝二郎(明四三、三生)はその養子となり長女チヨ(同三六、一〇生)は京都府人羽鳥藥に妹やす(同一〇、八生)は京都府人北岡幾次郎に嫁せりA四二三B一六五(京都市中京區東川鳥丸西電入上二〇六二)

竹内實敏　鑛業正金銀行
鹿兒島縣士族名古屋支店支配人
妻　タケ　明二六、一生、海軍中將山田彦八三女
男　實雄　明四一、一〇生、京都帝國大學法學部出身
女　ミヨ　明三九、一一生、梅光女學院卒攻科出身
女　千鶴　明四三、八生、梅光女學院出身

君は鹿兒島縣士族併集院新六の三男にして明治九年六月五日を以て生れ先代實知の養子となり前名岩熊を改め同四十一年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り大阪支店支配人下關支店長等を經て現時同行名古屋支店支配人たりA九一三(名古屋市東區橦木町一ノ三電東二一〇)八

参照＝山田彦八※侯爵大久保利武※伯爵牧野伸顯※佐藤讀一※山田三次郎※山田直矢の項

竹内三一　土佐商船㈱取締役、大阪商船㈱大阪支店長、富山縣在籍
妻　タネ　明二四、五生、佐賀、義田助之允長女
男　嘉一　大六、一生
女　百合子　大八、九生

君は富山縣人竹内下間の三男にして明治十五年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大阪商船會社に入り新嘉坡タコマ各在勤員天津香港支店長等を經て現時大阪支店長にして傍ら土佐商船會社取締役たり家族は尚二男潤二(大七、六生)三男省三(同九、一二生)四男直彦(同一一、三生)五男直正(同一二、五生)二女香代子(同一四、一〇生)三女和榮(昭二、四生)あり(兵庫縣武庫郡本庄村青木中ノ内一六)

竹内治右衛門　家主
東京府在籍
母　ヤス　明五、九生、東京、榎本平四郎妹

君は東京府人竹内治右衛門の二男にして明治三十五年三、三生)はその養子となり長女チヨ(同三六、一〇生)は東京府人羽鳥藥に妹やす(同一〇、八生)は京都府人北岡幾次郎に嫁せりA四二三B一六五(京都市中京區東川鳥丸西電入上二〇六二)

竹内實敏　鑛業正金銀行
鹿兒島縣士族名古屋支店支配人
妻　タケ　明二六、一生、海軍中將山田彦八三女
男　實雄　明四一、一〇生、京都帝國大學法學部出身
女　ミヨ　明三九、一一生、梅光女學院卒攻科出身
女　千鶴　明四三、八生、梅光女學院出身

君は鹿兒島縣士族併集院新六の三男にして明治九年六月五日を以て生れ先代實知の養子となり前名岩熊を改め同四十一年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り大阪支店支配人下關支店長等を經て現時同行名古屋支店支配人たりA九一三(名古屋市東區橦木町一ノ三電東二一〇)八

参照＝山田彦八※侯爵大久保利武※伯爵牧野伸顯※佐藤讀一※山田三次郎※山田直矢の項

竹内三一　土佐商船㈱取締役、大阪商船㈱大阪支店長、富山縣在籍
妻　タネ　明二四、五生、佐賀、義田助之允長女
男　嘉一　大六、一生
女　百合子　大八、九生

君は富山縣人竹内下間の三男にして明治十五年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大阪商船會社に入り新嘉坡タコマ各在勤員天津香港支店長等を經て現時大阪支店長にして傍ら土佐商船會社取締役たり家族は尚二男潤二(大七、六生)三男省三(同九、一二生)四男直彦(同一一、三生)五男直正(同一二、五生)二女香代子(同一四、一〇生)三女和榮(昭二、四生)あり(兵庫縣武庫郡本庄村青木中ノ内一六)

竹内治右衛門　家主
東京府在籍
母　ヤス　明五、九生、東京、榎本平四郎妹

君は東京府人竹内治右衛門の二男にして明治三十五年十一月を以て生れ大正七年十二月家督を相續す家主たり家族は尚妹勇子(明四四、四生)あり妹榮子(明三七、一二生)は岐阜縣人戸村田憲治弟準二に嫁せりA八一三(東京市京橋區銀座一ノ三ノ六電京橋四二九)

竹内重利　正四位勳二等功四級、海軍中將
東京府在籍

君は愛媛縣人竹内實太郎の長男にして明治四年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉候補生となり累進して海軍中將に任ぜらる其間日清北清日露世界戰爭に從軍し艦隊參謀軍令部參謀米國大使館附武官吾妻薩摩扶桑各艦長横須賀鎮守府參謀長第五戰隊司令官等に補せられ大正十二年豫備役に編入被仰付弟勝吉(明一一、一〇生)は同妻茂枝(同二二、八生、京都、松本堅太郎妹)及其の二子を伴ひ分家せりA一五四(東京市赤坂區檜町三電青山五四六六)

竹内茂代　醫學博士、井出產科婦人科醫院、醫師、東京府在籍
夫　甲平　明一八、一〇生、現戶主
女　美子　大七、六生

君は長野縣人井出喜重の長女にして明治十四年八月を以て生れ大正八年現戶主千葉醫科大學講師及同愛記念病院病理部長竹内甲平に嫁せり醫師にして現に井出產科婦人科醫院長として其名高し蓋に醫學博士の學位を授けらる日本女子の體質に關する研究を畢世の事業とす又日本醫學術の發達を除米に紹介せんと努力し結核療養所洋風閑病院の設立其他社會公共事業に盡す所大なり(東京市四谷區三光町一電四谷一四六〇)

竹内正一　竹屋商店、硝子商
東京府在籍
母　明一七、五生、東京、猪田喜三郎
繼母　たね
妻　美子
婿　光　明三八、二生、滋賀、廣瀨德三郎
男　清一　大一五、二生

君は東京府人竹内正七の長男にして明治三十二年九月二十四日を以て生れ大正十五年家督を相續す竹屋商店と稱し硝子商を營む家族は尚二男清二(昭二、三生)三男清三郎(同四、六生)弟正二(明三四、一生)同妻春子(同四〇、四生、東京、下山貞三長女)及其二子女弟正四郎(同四二、一生)同正五郎(同四五、三生)同六郎(大七、七生)同七郎(同一〇、八生)妹かず(同一三、三生)あり同みつ(明四三、一〇生)は東京府人松野安藏長男貞一郎に嫁せりA九五七B一二六(東京市日本橋區橋町二ノ一電濱花六六三〇)

参照＝猪田喜三郎の項

竹内庄七　履物商
大阪府在籍
妻　スガ　明三六、一〇生、大阪、竹内新次郎妹

君は大阪府人先代竹内庄七の二男にして明治三十五年十二月十七日を以て生れ大正五年家督を相續し同十年前名吉次郎を改め襲名す履物商を營む姉タツ(明二三、一一生)は其一子と共に分家し同モト(同三〇、五生)は大阪府人竹内松之助に嫁せりA四八六(大阪市東區南久太郎町四ノ四五五電船場一五一〇)

竹内新之丞　陸軍歩兵少尉、農業
母　ヨシ　明一一、七生、京都、今井德藏長女
京都府在籍

君は京都府人先代新之丞の二男にして明治四十一年九月二十日を以て生れ大正五年家督を相續し前名道三を改め襲名す夙に紫野中學校を卒業し現時農業を營み兼に大内銀行員たり家族は尚弟嘉次(明四四、二生)ありあ姉秀(同三三、三生)は京都府人增田德兵衛の長男信一に同久江(同三四、七生)は同府人海老恒吉長男恒治に妹政野(同四二、一〇生)は奈良縣人下店榮次郎長男靜市に嫁し姉安什(同三六、一〇生)は分家せりA九四七(京都市下京區八條源町戶二九一電下三六五四)

竹内新平　從五位、大藏事務官、理財局勤務
靜岡縣在籍
妻　ぎん　明三八、一生、靜岡、中村陸平四女、山脇高女出身

君は靜岡縣人にして明治二十七年五月を以て生る大正十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大藏屬司稅官を經て昭和四年稅務監督局事務官に任ぜられ大阪稅務監督局經理部長を命ぜらる同七年稅務監督局書記官東京稅務監督局間稅部長となり同五年大藏事務官に任じ英佛駐在仰付けられ在英大藏省出張所勤務たり(留守宅)濱松市天神町中村陸平方)

参照＝中村陸平の項

竹内蓁次　三越㈱取締役兼本店營業部次長
大阪府在籍
妻　龍　明二九、一一生、神奈川、須賀甚藏長女
男　弘　大六、一生

君は香川縣人水野正義の二男にして明治十四年二月十三日を以て生れ先代ナヲの養子となり同二十六年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し三越大阪支店長を經て現時同社取締役兼本店營業部次長たり家族は尚二男淳(大一〇、二生)長女靖子(同一三、一生)二女二美子(昭二、五生)ありA一四八七(東京市大森區山王町二ノ二一五一)

参照＝須賀甚藏の項

竹内季一　從四位勳四等、工學博士、武藏高等工科學校長、清水組技術顧問、竹内土木事務所主、東京府在籍
妻　孝　明一四、七生、東京、松尾清次郎長女
男　雄一　明三八、七生、京成電氣鐵道會社員、法學士
男　武　明四〇、五生、不二屋商店員
男　清　明四四、一生、立大商科在學

君は大阪府人小野玄仲の二男にして明治九年十月を以て生れ先代セイの養子となり同十九年家督を相續す同三十三年東京帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し鐵道技師帝國鐵道廳技師鐵道廳技師東京市道路局技術長等に歷任し大正九年工學博士の學位を受く義に歐米に留學す現時竹内土木事務所を經營す傍ら前記諸職を兼ぬ曾て東京鐵骨橋梁製作所常務理事たりし事あり長女和(明三四、一二生)は秋田縣人宇佐美榮次郎長男文夫に二女恭子(大元、八生)は鳥取縣人内務技師早田英夫に嫁せりA三三一(東京市淀橋區百人町二ノ四二電四谷三一九六)

竹内栖鳳(恒吉)　正五位勳四等、帝室技藝員、帝國美術院會員、京都府在籍
妻　ナミ　慶應三、三生、京都、高山定七長女
男　逸三　明二四、一生
婿　チイ　明二五、七生、長男逸三妻、佐賀、伊藤喬長女
男　四朗　明三三、四生、京都繪畫專門學校出身
婿　菊江　明三九、九生、二男四朗妻、京都小西伊兵衛三女
男　三雄　明四〇、一〇生、早大出身
孫　承　大七、一一生、長男逸三二女

君は京都府人竹内致七の長男にして元治元年十一月二十二日を以て生れ明治三十年分れて一家を創立す夙に土田英林幸野棋嶺等に師事し繪畫を修得し傍ら吉田惡助に就き漢學を修む又京都府畫學校に學び栖鳳と號し本邦畫壇の巨擘にして帝室技藝員仰付けられ又帝國美術院會員たり曾て京都市立美術工藝學校同市立繪畫學門學校各教諭に就任す又義に美術視察の爲佛國及歐洲各國に出張を命ぜられ大正十三年佛國政府より勳章を贈らる發表作品の重なるものに「雨霽」「餌はれたる猿と兎」あれタ立に「雨」「繪になる最初」「日蝕」「川口」等あり家族は尚孫晴一(大六、一〇生長男逸三長男)同武二(同九、三生、同二男)あり長女園(明二六、七生)は京都府人伊藤爲次郎に嫁せりA五七三(京都市東山高臺寺畔樹屋町電話園一三八・三七一三)

竹内清次郎　前橋商工會議所顧問、竹内撚綴㈱取締役、上州絹紡績、廣瀨川電力各㈱監査役、撚絲業
妻　てつ　明三、二生、竹内勝藏姉
男　金一郎　明三〇、六生、慶大出身
婿　益女　明三八、七生、二男金一郎妻、群馬縣在籍
男　孝　明四一、六生

君は群馬縣人宮崎源吉の弟にして文久二年十一月を以て生れ同縣人竹内勝藏の養子となり明治三十四年分れて一家を創立す撚絲業を營み傍ら前記各會社の重役にして推されて前橋商工會議所顧問たり蓋に同會議所會頭に擧げらる家族は尚孫俊夫(昭三、一生、二男金一郎長男)同英夫(同五、二生、同二男)あり二女はる(明二八、三生)は群馬縣人法學士澁澤金藏に三女英子(同三七、一二生)は東京府人法學士菊地勇夫に嫁し三男德治(同三二、一一生、法學士)は分家し四男秀(同三五、八生、慶大出身)は群馬縣人三品やすの養子と

なれり(前橋市本町一五電五一五)
参照＝澁澤金造、竹内勝藏の項

竹内仙太郎　丸竹商店、厚司商
大阪府在籍
妻　タケノ　明二九、九生、德島、吉岡佐平姉
男　美晴　大七、一〇生
庶子　藤太郎　大三、四生、母、大阪、竹澤しげ
君は和歌山縣人先代藤三郎の庶子にして明治十八年八月十日を以て生れ大正十四年家督を相續す丸竹商店と稱し厚司商を營む家族は尙長女百合子(大一一、一生)二女靜江(同一三、九生)ありA五五六(大阪市西區江戸堀南通リ三ノ三〇電土佐堀四三八)

竹内善次郎　竹内金庫店賣無限責任社員、金庫商、東京府在籍
母　クメ　明元、四生、千葉、石井勝次郎養叔母
妻　クラ子　明四〇、一生、大分、士、牟田貫三女、香蘭女學校出身
君は東京府人先代善次郎の三男にして栗山善之助の弟なり明治三十四年七月二十三日を以て生れ大正元年家督を相續し前名善輔を改め襲名す先代善次郎鍛冶職より金庫製造業に轉じ漸次發展して今日の基を作れり君その後を承けて竹内金庫店無限責任社員となり金庫商として斯界に名あり家族は尙長女範子(昭四、八生)二女愛子(同五、一二生)あり兄善太郎(明二八、八生)は分家し姉テル(同二九、八生)同夫太郎(同二二、七生、佐賀、佐々間十造弟)も亦分家し姉ツヤ(同三〇、八生)は東京府人島田善介に嫁せりA二八五四(東京市日本橋區馬喰町二ノ一電話濃花五一六〇)
参照＝栗山善之助、島田善介、竹内善太郎、牟田貫の項

竹内善造　第一銀行京城支店長
香川縣在籍
妻　リン　明二四、八生、香川、栗谷松之助長女
男　修一　明四四、二生
君は香川縣人竹内龜造の長男にして明治十七年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し第一銀行に入り漸次業進し同行福岡支店支配人を經て現時同行京城支店長たり家族は尙二男明(大五、六生)長女養子(同一一、一生)二女富子(同一四、一〇生)あり(京城府本町四ノ一二五電本局四五四)

竹内善太郎　竹内金庫店賣代表社員、金庫商
東京府在籍
妻　クミ　明四〇、一〇生、北海道、小鈴桑三郎長女
男　彌太郎　昭七、一一生
君は東京府人竹内善次郎栗山善之助の兄にして明治二十年八月二十一日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す同年早稻田大學商科を卒業し金庫商を營み現時竹内金庫店代表社員たり同店は本邦金庫業の老舗として知られる家族は尙長女ふき(大一一、三生)二女なつ(同一五、六生)二男善哉(昭九、三生)ありA六三五(東京市日本橋區馬喰町二ノ一電話濃花五一六〇)
参照＝栗山善之助、竹内善次郎※島田善介の項

竹内辰次郎　下關瓦斯株式會社專務取締役
山口縣在籍
妻　良　明九、三生、竹内甚平長女
姪子　政雄　明三七、一二生、二女美彌子夫、山口、西島茂次郎四男
女　美彌子　明四〇、九生、姪子政雄妻、下關市立高女出身
女　さち子　明四四、三生、下關市立高女出身
君は岐阜縣人吉田彌太郎の三男にして明治元年三月を以て生れ同二十八年先代良の入夫となり家督を相續す現時下關瓦斯會社專務取締役たり庶子たま子(大元、一一生、生母、山口、丸山アイ)は兵庫縣人吉田アイの姪子となれり(下關市關後地村電話五六八)

竹内種造　大阪府多額納稅者、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍
妻　ノブ　明二〇、七生、大阪、光川善七長女
男　新吉　明四〇、六生
女　辰子　明四二、四生
男　久雄　明四五、三生
君は大阪府人竹内與藏の男にして明治十五年五月十三日を以て生れ同二十四年家督を相續す現に大阪株式取引所理事たり家族は尙二男新吉(大元、一一生)二女辰子(同四、一生)ありA六三五(東京市日本橋區馬喰町二ノ一電話濃花五一六〇)

竹内善太郎　竹内金庫店賣代表社員、金庫商
東京府在籍
妻　クミ　明四〇、一〇生、北海道、小鈴桑三郎長女
男　彌太郎　昭七、一一生
君は東京府人竹内善次郎栗山善之助の兄にして明治二十年八月二十一日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す同年早稻田大學商科を卒業し金庫商を營み現時竹内金庫店代表社員たり同店は本邦金庫業の老舗として知られる家族は尙長女ふき(大一一、三生)二女なつ(同一五、六生)二男善哉(昭九、三生)ありA六三五(東京市日本橋區馬喰町二ノ一電話濃花五一六〇)
参照＝栗山善之助、竹内善次郎※島田善介の項

竹内千代　鐵材商
京都府在籍
姪子　泰次郎　明四〇、八生、京都、竹内エン養子
君は京都府人竹内佐兵衛の二女にして元治元年十一月四日を以て生れ明治三十四年姪キヨの後を承け家督を相續す鐵材商を營む家族は尙亡弟佐次郎妻エン(明一一、一二生、京都、清水市兵衛長女)あり姪キヨ(同一二、一一生)は其子女を伴ひ分家せりA一一七九B八七(京都市東山區鞘町通正面上ル電話關一一七七)

竹内常三郎　別珍コール天問屋業
大阪府在籍
妻　ふく　明一五、一二生、大阪、實野熊太郎五女
男　常信　明四二、九生
姪子　祐弘　明三一、一二生、二女靜枝夫、愛媛、亀井栄綱弟
女　靜枝　明三九、四生、姪子祐弘妻
女　俊子　明四一、二生
君は兵庫縣人竹内常次郎の長男にして明治十年十月十日所定期取引員にして直接國稅五千四百三十一圓を納め大阪府多額納稅者たり(大阪市東區北濱一ノ一六電本局五〇七)

竹内端三　從四位勳四等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部勤務
東京府士族
母　きく　明二、九生、細父保邦長女
妻　よふ　明三四、四生、山形、塚田正美妹
男　端夫　大一一、五生
君は東京府士族竹内保三の長男にして明治二十年六月二十三日を以て生れ大正八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し第五第八各高等學校教授を經て大正八年第一高等學校教授に任じ次で同十一年東京帝國大學教授となり現時理學部勤務たり同五年理學博士の學位を授與さる家族は尙ほ三男端彌(昭三、一生)四男端美(同五、一〇生)あり妹奈子(明三四、六生)は山形縣人柴田吉兵衛に嫁せりA五四〇(東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺八三六電吉祥寺六五七)

三日を以て生れ同三十六年妹たみの後を相續す別珍コール天問屋業を營む傍て埼玉工業會社取締役たりしことあり家族は尙孫芳子(昭三、九生、養子祐弘長女)同多美江(同四、一二生、同二女)同祐之(同七、一生、同長男)妹うた(明一八、九生)ありA三三八一B八二六(大阪市東區淡路町五ノ三五電話本局一七〇四)

竹内悌三　東京火災保險會社員
東京府在籍
母　トシ　明一五、一一生、秋田、七條平六二女
當家の先代悌三郎は夙て實業界に入り安田銀行日本酸素淺野セメント安田保善社等の重役に擧げらる君は其二男にして明治四十一年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す現時東京火災保險會社員たり家族は尙兄幸策(明三八、二生)弟節郎(同四五、一生)同重正(大一〇、二生)妹里子(同一二、三生)あり姉幸子(明三五、一一生)は大分縣人河崎精一に同信子(同三九、一一生)は東京府人原三雄に嫁せりA一四五(東京市豐島區駒込一ノ二八電大塚四七三五)

竹内東彦　三井物產株式會社務課穀肥部長
東京府在籍
妻　すか　明二五、二生、養父專之助養子、新潟、銀林綱雄八女
男　正雄　大八、一生
女　和　大五、五生
女　久子　大六、七生
君は山口縣人山根秀介の四男にして明治十八年一月十八日を以て生れ大正四年先代專之助の養子となり昭和六年家督を相續す先是三井物產會社に入り現に本店業務課穀肥部長たり家族は尙二男英彦(大一〇、六生)三男敏也(同一二、九生)ありA一〇〇〇(東京市赤坂區新坂町九電青山三五〇三)

竹内德亥　從四位勳四等、滿洲國民政部總務司長、青森縣在籍
妻　芙蓉　明三五、二生、青森、士、佐藤要一二女
男　伸太郎　大九、一二生
君は青森縣士族竹内宋吉郎の二男にして明治二十一年一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し翌年文官高等試驗に合格す爾來樺太廳屬同事務官兼專賣局副參事關東廳理事官兼同事務官大連民政署總務課長關東廳內務局學務官旅順警察署長關東廳學務課長旅順民政署長和三年歐米各國に出張を命ぜらる現時滿洲國民政部總務司長の要職に在り家族は尙二男仲吉郎(大一二、一生、一五、一二生)三男德郎(昭五、三生)あり(新京市錦町四ノ二五電三六九七)

竹内篤志　京華社株式會社專務取締役、京都日出新聞社株式會社取締役、福井縣士族
母　はな　嘉永四、一二生、福井、藤岡觀了長女
妻　たか　明一三、九生、福井、平田太一妹
男　修一　明三五、一一生、海軍大尉
男　明四〇、一〇生、京大工學部出身
君は福井縣士族竹内瀧門の長男にして明治六年十二月を以て生れ明治四十二年家督を相續す現時前記各會社の重役たり大正十五年事業視察の爲歐米各國を漫遊す講曲釣魚寫眞に趣味あり家族は尙三男髮三(大七、一生)一に二女千代子(同三七、一〇生)は福井縣人法學士井上定雄に嫁し弟寬(同一〇、三生、海軍少將)同妻芳(同二一、一生、兵庫、小泉又一長女)弟琢磨(同一三、四生、醫學博士)同妻貞子(同二六、八生、東京、戶塚庄次郎長女)は各其子女を伴ひ分家し甥宏一(同四三、一〇生、分家弟寬長男)は兵庫縣人小泉又一の養子となれりA一八五(京都市上京區室町通一條上電西陣六〇九〇)

竹内友治郎　從四位勳三等、衆議院議員、(山梨縣選出)
妻　きく　明一四、五生、山梨、菊島生宜妹
男　猛太郎　明四〇、一生、京都帝大出身
男　乙彥　明四二、一生、東北帝大出身
男　丙吉　明四四、一〇生、大阪帝大工學部在學
君は山梨縣人竹内幸左衛門の三男にして明治五年十月二日を以て生れ同三十七年別厚方より分れて一家を創立す同三十一年文官高等試驗に合格し遞信省通信事務官一等郵便局長棒太廳第二部長同拓殖部長東部選信局長東京東選信局長朝鮮總督府遞信局長臺灣總督府警務局長農商務次官等に歷任し其間歐米各國及支那に出張す衆議院議員に當選すること四回立憲政友會所屬たり「議會制新論」「東眠西視錄」の著書あり長女とら(明三七、一二生)は東京府人谷津庄兵衛長男庄一郎に嫁せり(東京市牛込區市谷仲ノ町四一電牛込四九〇三)
参照＝菊島生宜※相澤喜兵衛※稻村和次※小林金重の項

竹内豐陸　住友銀行株式會社天滿支店長
京都府士族
妻　スミ　明二二、九生、大阪、家村新七妹
男　有一　大二、六生
女　歌　大四、一生
君は京都府士族芝本豐延の二男にして明治十六年十二月を以て生れ竹内フキの養子となり同四十二年家督を相續す夙に住友銀行に入り西陣支店長を經て現時天滿支店長たり家族は尙二男知次(大五、九生)ありA一五八(京都市上京區鞍馬口寺町西入ル新御靈口町二八五ノ四七電上四八六六)

竹内虎雄　臺灣鐵工所、昭和產業各株式會社監査役
東京府在籍
妻　美代　明二九、六生、高知、士、清水成之妹
男　雄二　大五、一〇生
君は高知縣士族竹内虎也の弟にして明治十七年十一月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す先是專修學校を卒業し現時前記會社の重役にして義に鈴木商店臺北支店長臺灣鳳梨罐詰會社取締役たり一寧あり家族は尙三男正八(大八、六生)長女元子(同一〇、一生)二女登美子(同一三、八生)あり(榮中市室町)

竹内虎治郎　從五位勳六等、檢事、岡山區裁判所檢事、岡山縣在籍
妻　愛　明二九、一一生、大阪、矢谷徹姉清水谷高女出身
男　榮　昭五、三生
君は岡山縣人にして明治十八年一月二十日を以て生る同三十九年關西大學法科を卒業し大正七年十二月判檢事試驗に合格同九年檢事に任ず爾來大阪地方下關區大

阪區神戸區札幌區小樽區網走區及西條區各裁判所檢事に歷補し現時福山區裁判所檢事たり讀書と野球に趣味を有す（福山市天神町一ノ一電一六三）

竹内長正　琴平參宮電鐵㈱取締役、實業無盡㈱監査役、香川縣在籍
明二二、一生、故農學博士外山龜太郎長女
妻　堯子
男　長治　大七、一〇生
女　光子　大三、七生、同志社女學校出身

君は香川縣人竹内傳三郎の長男にして明治十三年七月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名虎太を改む同四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し大日本紡績會社に入り庶務課長となり更に山口合資會社に轉じ支配人たりしも後之を辭し現時前記各會社の重役たり家族は尙四男長弘（大一一、九生）あり（京都市上京區小山堀池町一五電上七九九）
參照‖青木黨の項

竹内彦太良　千日前いろは南店、料理業
大阪府在籍
妻　慶應二、六生、千葉、竹内くら姉
　　はつ　明二三、七生、東京、三宅熊五郎
　　ちく　庶子
男　辰三　明四一、二生
男　清兵衛　明四四、一一生
男　末一　大三、一一生

君は滋賀縣人一守彦兵衛の二男にして明治十二年十二月七日を以て生れ先代はつの養子となり同四十四年家督を相續す千日前いろは南店と稱し料理業を營む三男彦三郎（大元、一二生）は滋賀縣人一守彦左衛門に五男七五三（同五、九生）は大阪府人相馬トクに各養子となれりA七五三（大阪市南區阪町五一電南四〇「別宅」天王寺區細工谷町六〇電天王寺三七〇〇）

竹内廣吉　愛知縣多額納稅者、竹廣、材木商
妻　愛知縣在籍
　　ひな　明一五、二生、愛知、鵜飼泰次郎二女
男　鐵一郎　明四二、五生
婦　文子　長男鐵一郎妻

君は愛知縣人竹内勇藏の四男にして明治十二年十二月一日を以て生れ同四十一年兄林次郎方より分れて一家を創立す農業に從事せしも後材木商に轉じ現に愛知縣多額納稅者に列し直接國稅一千六百四十九圓を納む家族は尙三男清吉（大七、七生）四男益吉（同九、一生）あり（名古屋市中區下堀川町二八電南四八一）

竹内廣次　竹内屋、菓子商
兵庫縣在籍
妻　よし　明一五、九生、兵庫、西角政太郎妹
男　久　大一二、二生
女　知惠子　大六、一一生

君は兵庫縣人竹内彙藏の二男にして明治十五年八月二十日を以て生れ大正六年兄繁次郎方より分れて一家を創立す竹内屋と稱し菓子商を營む家族は尙五女キヌエ（大一四、二生）八男弘行（昭二、六生）ありA一三五四（神戸市湊東區楠町一ノ二六四電元町三七六二）

竹内孫兵衛　京都府多額納稅者、山崎屋本店、佛具商、京都府在籍
母　せい　嘉永元、六生、京都、中安喜助長女
妻　あい　明二二、一〇生、京都、笹井德三郎妹

君は京都府人先代八代目孫兵衛の長男にして明治二年一月十五日を以て生れ同十七年家督を相續し襲名す山崎屋本店と稱し佛具商を營み京都府多額納稅者に列し京都府人北村利一郎に同壽江妹あい（明六、六生）は京都府人山田定七長男定之助に嫁し同あき（同一六、五生）は分家せりA一六二八B一四五（京都市下京區七條通新町西入ル電下二一九）

竹内正三　海軍造機大佐、浦賀船渠㈱取締役
兼浦賀工場長、東京府在籍
妻　雅子　明二〇、二生、東京、士、野々村鐵雄姉
男　能忠　明四二、一生
女　萬喜子　明四五、二生
女　耐子　大三、一二生

君は島根縣士族竹内平太郎の養弟にして明治十年一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學工科大學船舶工學科を卒業海軍に奉職し現時浦賀船渠㈱取締役兼浦賀工場長たり家族は尙二男醒（大六、五生）三女陽子（同一三、一二生）四男元（同一五、一二生）四女澄子（昭四一一生）ありA三九四（東京市淀橋區諏訪町一七四）
參照‖野々村鐵雄※蓮見義隆の項

竹内松次郎　從五位勳四等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務
妻　俊子　明三九、二生、福岡、早川祖彥長女
男　公基　大五、八生

君は福岡縣人久野春吉の三男にして明治十七年十二月二日を以て生れ竹内喜代松の養子となり大正十三年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を受く現時帝國大學教授にして醫學部勤務たり家族は尙二男公威（大一一、九生）四男公英（昭三、一〇生）あり養子りゅう（明三八、一生、福井、丸岡惣松妹）は奈良縣人富永榮忠に嫁せりA五〇八（東京市板橋區中村町三ノ六五電練馬四〇）

竹内勇平　從五位勳六等、判事、廣島控訴院判事、香川縣在籍
妻　ヨリエ　明二八、四生、香川、竹内爲吉三女、女子美衛校出身
男　章　大一一、一一生
女　八千代　大七、一生、廣島女學在學
女　富美代　大八、三生、廣島山中高女在學

君は香川縣人有馬武平の二男同清平の弟にして明治二十五年三月十日を以て生れ後有馬家より分家し竹内姓を以て一家を創立す大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試補となり同八年判事に任ぜられ浦和松江各地方吳區廣島地方各裁判所判事廣島控訴院判事山口地方裁判所部長等を經て昭和七年再び廣島控訴院判事に補せられ今日に至る（廣島市大手町八ノ一四六）

竹内與三郎　從四位勳四等、實業試驗場技師
福島出張所長、新潟縣在籍
妻　ヤス　明二四、二生、東京、山崎良吉妹
男　三郎　明四三、一一生、明大商科在學

君は新潟縣人竹内與吉の長男にして明治八年三月十五日を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治三十二年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し現時同大學學生主事兼書記官農學校教諭岡山縣農事試驗場技手同縣立農事講習所技師岡山縣警察部勤務省原實種製造所技師等を經て大正三年實業試驗場官制の廢布と同時に同場技師となり同九年福島支場長に任ぜられ後出張所と改稱せられ現に福島出張所長たり家族は尙四男四郎（昭六、一〇生）あり長女イチ（明三三、六生）は福島縣人林定吉三男武に嫁し弟由藏（同一〇、八生）同妻ハル（同一七、六生、新潟、加藤仙六女）は共に其子女を伴ひ分家し弟廣二（同二〇、四生）同妻クニ（同二二、三生、新潟、長澤範男長女）も亦共に分家せり（福島市曾根田町實業試驗所福島出張所官舍）

竹内理一　前大阪市技師
大阪府在籍
妻　ヒサ　明二三、四生、大阪、石崎喜兵衛妹
女　幸子　明四一、七生、金關高女出身
女　節子　大元、八生、大手前高女出身
女　典子　大四、九生
女　朗子　大七、一〇生、大手前高女在學

君は大阪府人竹内利右衛門の長男にして明治十一年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十年京都帝國大學工科大學を卒業し大阪市技師となり水道部技術課長たりしも現時閑地に在り家族は尙五女淳子（大一一、八生）弟利治（明二〇、五生）同妻トク（同三六年生、京都、若江喜右衛門妹）及其子女亡弟伊三妻梅（同二六、三生、兵庫、佐野警三女）及其一女ありA四一三三（長庫縣武庫郡精道村蘆屋平田一八七一ノ二電蘆屋二五〇〇）
參照‖石崎喜兵衛※石崎喜次郎※山本乙五郎の項

竹内良三郎　正五位勳六等、東京帝國大學學生主事兼書記官助教授、學生課長、長野縣在籍
父　國次郎　安政六、七生、現戸主
妻　幾　明二七、九生、長野、片瀨嘉助二女、松本高女出身
女　寛子　大八、三生

君は長野縣人竹内國次郎の三男にして明治二十四年十一月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同九年第五高等學校教授に任じ昭和二年東京帝國大學助教授となり現時同大學學生主事兼書記官農學部助教授にして學生課長たり昭和六年中華民國に出張す家族は尙兄德太郎（明一九、二三生、長野、中澤男三郎四女）弟吉（同三〇、一生）同妻やすゑ（同三五、一二生、長野、山本良平妹）弟敏雄（同三二、六生）あり叔父悅次郎（明五、七生）同妻しづ（同一一、八生、長野、竹内秀一妹）は其子女を伴ひ叔父文四郎（同五、二生）同妻かつへ（同二〇、二生、長野、藤井運次長女）は共に其子女を伴ひ分家し叔父孝之助（同一五、三生）同妻まさ（同二〇、一生、長野、小林傳兵衛二女）も亦分家し姉八重（同一八、五生）は長野縣人岡野市五郎長男國吉に叔母ゑい（同三、二生）は同縣人片瀨嘉助に同むつ（同八、一〇生）は同縣人和合與三衛榮弟元三郎に同しな（文久元、六生）は同縣人岡野市五郎に嫁せり（東京市中野區住吉町二七電四谷五五八八五）

竹内林之助　竹内商店、竹内曼陀羅各㈱社長、家主、東京府在籍
母　よね　安政三、六生、東京、士、鈴木源次郎長女
男　光太郎　明四三、八生

君は東京府人先代林之助の長男にして明治十一年八月を以て生れ同四十一年家督を相續し襲名す山崎屋本店として現時竹内商店社長の外前記會社の重役に就任し東京商工會議所議員特選たり二女富子（明四二、八生）は群馬縣人井田金七弟吾助に嫁し三女增子（同四五、二生）四女きみ子（大三、一〇生）五女千代子（同六、八生）三男良吉（同八、一一生）は外祖父東京府人小布施新三郎の家督に入り弟榮三郎（明三一、一一生）は分家せりA四七四（東京市小石川區音羽町四ノ四電牛込七二）
參照‖小布施新三郎の項

竹尾秋助　酉島製作所㈱常務取締役
京都府在籍
妻　靜　明三三、一一生、大阪、堤他彥二女
女　初子　大三、八生

君は愛知縣人竹尾彥九郎の三男にして明治十四年八月一日を以て生れ大正七年兄年助方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學機械工學科を卒業し現時酉島製作所常務取締役たり（大阪市此花區西島町二二四電土佐堀一三六五）
參照‖竹尾年助※林政吉の項

竹尾幸次郎　竹尾商店㈱取締役
大阪府在籍
妻　キヌ　明一六、一一生、父富太郎二女
妻　美知　明四一、一生、大阪、板根武兵衛長女
男　治一郎　昭元、一二生

君は京都府人富田富太郎の二男にして明治三十五年八月七日を以て生れ大正十年大阪府人先代治右衛門の養子となり昭和六年家督を相續す竹尾商店取締役たり家族は尙長女しな（昭三、七生）三女くす（同六、九生）ありA八一八（大阪市東區南本町四ノ三八電船場二三八五）

竹尾三郎平　廣島縣多額納稅者、賀茂鶴酒造㈱取締役、酒造業、廣島縣在籍
母　ミエ　明四〇、二生、神奈川、齋藤誠一郎二女、實踐高女出身
妻　チエ
男　吉郎　大一五、八生

當家は寛政五年五代の祖森角兵衛分家し代々酒造業を營み來る先代都朗の二男にして明治二十九年十月五日を以て生れ大正三年家督を相續し同十三年前名完吉を改め祖父名三郎平を襲名す先是同四年廣島縣立忠海中學校を卒業し爾來家業たる酒造業を經營し現に賀茂鶴酒造株式會社の取締役にして直接國稅四千十三圓を納め縣下多額納稅者に列す家族は尙長女浩子（昭二、一二生）二女昭子（同四、一〇生）三女加茂子（同七、一〇生）弟謹造（明四二、四生、早稻田大學在學）あり妹ヒサ（同三三、三生）は廣島縣人横山憲三に同トシエ（同三九、四生）は同縣人實業家桐原秀太郎長男眞次郎に嫁し弟昌造（同三六、八生）は同縣人鈴川貫一の養子となれり（廣島縣賀茂郡志和堀村雷原）

竹尾年助　唐津鐵工所㈱取締役社長
愛知郡在籍

妻　ムメ　明一九、一生、福岡、高橋達長女
日本女子大附籍
男　彦巳　明四三、○生、唐津鐵工所勤務
早大出身
女　せつ　明四五、二生、女子高等學校出身
男　達志　大二、三生、成城高等理科在學
女　はる　大四、三生、女子高等學校出身

君は愛知縣人竹尾彦九郎の二男秋助の兄にして明治六年八月十日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同二十七年東京工業學校機械科を卒業し直に渡米ストーヴンス、インスチチユト、オブ、テクノロジーを卒業し爾來米國に在りて機械工作の事務を練習すること七年にして歸朝同三十九年より唐津鐵工所の設立經營に任じ今日に至る社間歐米を見學する事四回に及ぶ家族は尙三男勢三(大五、一二生)四男快助(同八、九生)三女マツ(同一〇、一生)四女ミヤ(同一二、七生)五女トモ(同一五、二生)六女ラン(昭四、二生)ありA四四七七五(東京市牛込區市谷藝王寺町五〇電牛込六〇九)

参照‖竹尾秋助※林政吉の項

竹岡陽一

東邦電力株式會社常務取締役兼總務部長
大分縣人竹岡
妻　ハツネ　明二四、九生、熊本、星子茂八長女
男　年尾　明三八、二生、會社員、早大商科出身
男　茂　明四〇、三生、會社員、慶大出身
男　晴比古　大三、五生、慶大在學

君は大分縣人竹岡茂平の二男にして同吉太郎の弟なり明治九年八月十三日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十五年東京專門學校法科を卒業し現時東邦電力會社常務取締役兼總務部長にして曩に太宰府軌道會社取締役たりし事あり繪畫陶器類の蒐集に趣味を有す家族は尙二女キミ(昭二、一〇生)三女八重子(同四、二生)長男年尾妻つま子の外に女菊子あり長女千代子(明四三、二生)は福岡縣人秋山彦藏に嫁せりA三〇八五(東京市淀橋區下落合一ノ四一四電大塚三八一七)

参照‖※松永安左衛門の項

竹岡和吉

西和、青果商
京都府人籍
妻　うた　明一二、八生、京都、本田元吉四女
男　和一　明四三、九生
女　まさ　明三七、八生
女　しげ　明四〇、三生
女　よね　大四、三生
女　せい　大六、八生

君は京都府人竹岡多吉の長男にして明治六年十二月十七日を以て生れ同三十年家督を相續す西和と稱して青果商を營む家族は尙二男榮藏(大九、二生)あり弟定治郎(明一二、六生)は京都府人太田佐七の養子となり同捨吉(同一七、九生)は同妻キセ(同二五、一生、京都、丹羽吉之助長女)及其一子と共に同末吉(同二二、一生)同妻なみ(同二五、四生、京都、太田寅吉二女)は其二子を伴ひ各分家し妹きみ(同一五、七生)は石川縣人澤村人間下松之助に同とめ(同二〇、三生)は同府人谷又三郎二男保三に長女きん(同三三、九生)は同府人間下安之助に寅吉に二女はな(同三五、八生)は同府人間下安之助に各嫁せりA二八七B一五九(京都市下京區西七條西ノ町電下七四三八)

竹上藤次郎

京都商工會議所副會頭、京都ステーションホテル、竹上商店各表社長、内外出版、相互運輸倉庫、日本レーヨン各株取締役、竹上生絲店
生絲貿易商、京都府在籍
父　藤造　文久二、五生
母　ツル　慶應二、一二生、京都、古川三郎姉
妻　多滿　明二三、八生、京都、古川三郎姉
男　藤一郎　大二、一二生
女　照　大四、一〇生

君は京都府人竹上藤造の二男にして明治二十年一月十七日を以て生れ大正十五年家督を相續す同年六月立命館大學に學び實業界に入り京都竹上生絲店と稱し生絲問屋及貿易商を營み傍ら京都ステーションホテル竹上商店社長の重役にして京都商工會議所副會頭に推されて曩に京都市會議員同市選出衆議院議員に擧げらる弟藤吉(明二四、九生)叔父藤兵衛(慶應三、四生)は各分家せりA九九三(京都市上京區烏丸一條上電西陣八〇)

参照‖古川三郎　岩根友愛※古川源三郎の項

竹上與三郎

從五位勳四等、判事、上野區裁判所判事、奈良縣在籍
妻　トヨ　明一四、四生、奈良、高橋清次郎妹
男　文雄　明三五、一生、京都高等蠶絲學校出身
男　武雄　明三七、八生、京都帝大電氣工學部出身
男　義雄　明四三、一一生、金澤高工土木工學科出身

君は奈良縣人にして明治七年十二月二十七日を以て生る同三十年明治法律學校を卒業し翌年辯護士試驗に及第す直ちに辯護士を開業し同三十八年高等學校文官高等試驗に合格同四十二年鐵道院參事補に任ぜられ同四十三年同副參事となり大正二年文官分限令第三條第一項第三號に依り官を免ぜられ辯護士となり同三年判事に任じ金澤安濃津各地方大野小濃敦賀福井武生各區裁判所等に歷任現時上野區裁判所判事たり(三重縣阿山郡上野町上野區裁判所內)

竹川貞銳

從四位勳四等、東美鐵道株式會社取締役
東京府在籍
妻　しま　明九、九生、青森、大淵新太郎長女
孫　鉦一　昭六、一生、亡長男新長男

君は青森縣士族竹川鉦雄の二男にして明治六年九月七日を以て生れ明治二十九年家督を相續す同三十五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し翌年日本鐵道會社土木技手同技師鐵道作業局雇帝國鐵道廳技師鐵道院技師に歷任す大正元年歐米に留學し同九年鐵道省技師に任じ仙臺鐵道局工務課長に補せられ神戸改良事務所長に轉じ昭和二年從四位勳四等に敍せらる同年六月官を辭し後各務原鐵道會社監査役名古屋鐵道會社技師長たりし事あり現時東美鐵道會社重役たり家族は尙三男鐵三郎(大六、五生)あり二女富貴(明四一、三生)は青森縣人泉山松三郎二男醫學博士幸吉に四女久(明四四、九生)は北海道人子秋幹一弟郁夫に嫁せりA二四〇〇名古屋市東區主稅町二ノ二電東三五八八)

竹川政七

酒造業
京都府在籍
妻　ひさ　明元、六生、養父政七長女
男　政治郎　明二七、三生
婿　喜久　明三九、六生、長男政治郎妻、京都、大八木庄太郎妹

君は京都府人堂木在郎兵衛の三男にして慶應二年一月八日を以て生れ先代政七の養子となり明治三十二年家督を相續し前名乙吉を改め襲名す酒造業を營む家族は尙孫高廸(大九、二生、長男政治郎長男)同進三(昭三、一一、同二男)同勉(同九、五生、同四男)あり三男和三郎(明三二、七生)は分家し長女さと(同二五、八生)は京都府人倉田保之助に二女加代(同三四、一二生)は同府人永井種次郎に嫁し孫かづ(大六、一生、長女さと私生子)は同府人倉田保之助の養子となれりA三六四B九九(京都市上京區黑門通下立賣上ル電西陣九〇八)

竹越與三郎

正四位勳二等、貴族院議員、大阪府人籍
妻　竹代　明三、一〇生、岡山、士、中村興廣姉、大阪梅花女學校出身
男　虎之助　明二六、一生、藥學士
婿　梅子　明三五、二生、長男虎之助妻、愛媛、士、林德太郎長女東京女學館出身
男　熊三郎　明二八、六生、三菱鑛業會社員、工學士、經濟學士
婿　明子　明三六、二生、二男熊三郎妻、青森、士、山中千之長女
男　龍五郎　明三一、九生、王子製紙會社員、慶大理財科出身

君は新潟縣人清野仙三郎の二男にして慶應元年十月十四日を以て生れ先代梅平の養子となり明治十六年家督を相續す夙に同人社に入り後慶應義塾に轉じ明治新報大阪公論國民新聞記者及雜誌世界の日本主筆たり同三十一年文部省勅任參事官兼祕書官に任ぜられ同三十五年以來衆議院議員に當選する事五回後宮內省入り帝室編修局編纂官長たりしも現時貴族院議員にして大阪毎日新聞の社友たり三叉と號し著書多し歐米に遊ぶ事四回『二十五百年史』『南國記』『日本經濟史』『三叉文有』『三叉書簡』『人民讀本』『蒐風裡の日本』等最も著る

家族は尙孫亮一(大一四、九生、長男虎之助長男)同雄次(昭三、二生、同二男)同郁三郎(同七、五生、同三男)同萬佐子(同五、七生、同長女)同起一(大一三、四生、二男熊三郎長男)同照三(昭六、四生、同三男)同昌介(同七、九生、四男熊五郎長男)同起二(大一三、(明二四、九生、女子大學出身)は故文學博士元良勇次郎長男工學博士信太郎に嫁し三男鐵四郎(同三〇、七生、東邦電力會社員)は神奈川縣人伊藤ふじ子の入夫となり孫晉次(昭二、三生、二男熊三郎二男)は東京府人山中千之の養子となれりA一一七(東京市中野區新井藥師町三三三電中野二三五〇)

参照‖元良信太郎※伯爵珍田捨巳※秋山龜太郎※丸潤雄一郎の項

竹腰健造

長谷部竹腰建築務所常務取締役
福岡縣士族
養母　マサ　文久三、九生、竹腰與三郎長女
妻　シツ　明二三、九生、先代虎太郎長女
男　洋一　大一三、九生

君は故男爵岩村高俊の男にして男爵岩村博の叔父なり明治二十一年六月二十五日を以て生れ先代虎太郎の養子となり大正十二年家督を相續す夙に明治四十五年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し義に住友合資會社工作部工作課長たり昭和八年五月株式會社長谷部竹腰建築事務所を創設す長女富美子(大二、三生)は京都府人初田哲一郎に嫁せりA二〇五(神戸市灘區篠原南町二電御影三二五六)

参照‖男爵岩村博※白石多士良※那波光雄※平井金三郎の項

竹腰重三郎

友惠堂、菓子商
大阪府在籍
妻　なつ　明一二、七生、先代重三郎長女
男　重男　明四二、一二生
婿　道子　大二、一〇生、長男重男妻、大阪飯田愛三長女
男　重次　明四四、一二生
女　登代子　大八、二生

君は京都府人天津與長衛の二男にして明治十三年一月十七日を以て生れ同三十二年大阪府人竹腰重三郎の養子となり同三十八年家督を相續し前名丑松を改め襲名す友惠堂と稱し菓子商を營む家族は尙女惠美子(大九、八生)あり長女登喜(明三三、二生)は大阪府人天津梅吉長男卯之助に二女惠以(同三八、一生)は同府人村田重長衛弟平三郎に妹ツル(同三八、一〇生)は同府人齋藤孫七養子岩太郎に嫁し妹アサ(同一六、一一生)同夫(同二二、八生、德島、谷田イサラ叔父)は女雪子(同四一、一生)を伴ひ分家せりA三一一五B二五六(大阪市南區宗右衛門町一七電南八三二)

竹腰正文

正五位、男爵
舊尾州藩國老
男　正夫　大九、五生

當家は左大臣源雅信の裔遠江守滿信の三男備中守持綱の後なり後二代重綱に至り竹腰と稱し三代を經て山城守正信に至る正信德川家康に仕へ尾州藩親義直の異父兄たるの故を以て同藩の國老を命ぜられ濃州今尾三萬石を食む夫より九代を經て先代正巳に至り明治十七年男爵を授けらる夙に米國に航しカンパランド大學を卒業して法律學を修め歸朝後貴族院議員に互選される事二回に及ぶ君其の後を享く君實は伯爵東久世通敏の弟にして明治二十一年六月十六日を以て生れ先代正巳の養子となり大正三年家督を相續す夙に明治四十五年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し昭和八年家督を相續し伯爵東久世秀雄の項

竹崎虎惣太

正五位勳五等、大分高等商業學校教授、高知縣在籍
父　永太郎　安政元、八生、高知、上杉儀三郎長男、現戶主
母　芳　萬延元、三生、細父久萬次長女
妻　久壽惠　明二一、二生、海軍中將大谷幸四郎妹
男　靖一　大五、三生、松江高校理科在學

君は高知縣人竹崎永太郎の長男にして明治十四年一月を以て生る同三十八年東京外國語學校獨語科を卒業し次で翌年同校研究科を修了し同四十一年陸軍助教授に任じ大正八年同教授に進み同十一年大分高等商業學校教授となり今日に至る家族は尙二男俊二(大一〇、八生)あり姉繁(明一一、二生)は陸軍歩兵少佐坂本最吉に長女美智子(同四一、五生)は福井縣人農學博士加賀山辰四郎二男三菱倉庫會社員次雄に嫁し二女雅子(明

四三、九生）は海軍少將西尾雄治郎二男、大阪商船會社勤務孫正に嫁す叔母鹿（文久三、四生）は分家せり（大分市城崎町）

參照＝大谷幸四郎、加賀山辰四郎の項

竹崎米吉

從五位勤五等、沖繩縣在籍
警察部長、高知縣在籍
倉太郎　嘉永五年生、現戸主
甲　明二七、八生
妻　齊美　大四、一一生、高知高校在學
男　平太　明四三、一二生
女　正　明四二、三生
女　幸　大三、六生

君は高知縣人竹崎倉太郎の男にして明治十九年十一月二十五日を以て生る大正三年關西大學法律科を卒業し警部補に任じ同八年高等文官試驗に合格大阪府屬兼大阪府警部沖繩警視警務課長同巡査教習所長同縣中頭郡長同縣國頭郡長地方事務官等を歷任し愛媛縣書記官學務部長を經て現時沖繩縣書記官に任じ警察部長に補せらる家族は尙二男榮彥（大一一、一〇生）あり（那覇市美榮橋町一ノ三）

竹澤太一

衆議院議員（千葉縣選出）、館山鐵工所（株）取締役、千葉水産（株）相談役
農業、千葉縣在籍
妻　元　明一三、一二生、東京、千本福隆
男　平太　明四三、一二生
女　正　明四〇、二生、府立第三高女及東京女子醫專出身
女　幸　明四二、三生

君は千葉縣人竹澤彌太郎の長男にして明治四年二月七日を以て生れ同三十一年家督を相續す農を營む傍ら夙に佛國及米國に留學し實業界に入り海外興業會社取締役兼伯國支店長として伯剌西爾に在留し又督て安房銀行明治製菓總雙乳安房酒造各會社の重役たりしことあり現時前記會社の重役に於て衆議院議員に推され昭和七年再選立憲政友會所屬たり白國政府よりシュヴァリエ・ド・ロルドル・レオポルト勳章を贈らる家族は尙三男統太（大五、一二生）四男康太（同八、七生）七男洋太（昭二、八生）あり長女重（明三四、一一生）は千葉縣人鳥海孝太郎弟完に妹てる（同九、一二生）は同縣士族安田愼に嫁し同つね（同一四、一一生）從弟治雄（同三八生）三生、亡叔母里榮子）は各分家せり（東京市麻布區飯倉片町六電赤坂三五〇）

竹澤德藏

從四位勳四等、京都取引所（株）常務理事、京都府在籍
明三〇、一二生、藤本證券會社員
東京高商出身
男　德重　明三七、八生、長男德重妻、京都藤井新次郎三女、家庭高女出身
婦　スエノ　明三八、七生、京都府醫大研究室勤務、醫學士
男　德敬　大元、一〇生、三男德敬妻、岡山大山安雄長女、桃山高女出身
婦　貞子　明四一、三生、大阪藥專出身
男　德榮　明四三、一一生、名古屋醫大在學
男　德俊　大四、二生、京都府女專在學
女　美都子

君は京都府人田清次郎の弟にして明治六年二月七日を以て生れ先代惣次郎の養子となり同四十三年家督を相續す曾て京都府何鹿天田兩郡長京都府理事官勸業課長等を歷任し大正十年京都取引所に入り現に其の常務理事たり家族は尙六男德敏（大一〇、二生）孫德和（昭二、三生、長男德重長男）同滋子（同七、二生、同二女）あり二男德幸（明三六、六生）は京都府人三上美佐をの婿養子となり孫清（昭四、一二生、長男德重長女）は滋賀縣人渡邊伊右衛門長男安太郎の養子となり二女八重子（大二、三生）は京都府人京都電燈會社員經濟學士藤田友次郎に嫁せりA一八六〇（京都市上京區小山下總町三二電陽二三二七）

竹澤松太郎

大家主
大阪府在籍
妻　マス　明七、一生、大阪、杉本房吉三女
男　鶴吉　明四一、三生
婦　キヌ　明三〇、六生、長女ウノ夫、大阪長男鶴吉妻、大阪、青山藤太郎長女
養子　鶴松　明三六、一生、養子鶴松妻
女　ウノ　大四、三生
女　松枝　明三六、一生

君は大阪府人竹澤太吉の長男にして明治四年十一月七日を以て生れ同三十六年家督を相續す家族は尙孫增雄（大一四、三生、養子鶴松長男）同養子（昭五、二生、同長女）同元子（同七、六生、同二女）同正治（同八、一生、長男鶴吉長男）妹コノ（明一二、三生）あり二女ヤクエ（明四五、三生）は大阪府人鈴木德太郎長男源太郎に嫁せりA一〇七三（大阪市西淀川區野里町四六八ノ三電土佐堀三四九六）

竹下幾太郎

土木建築請負業
東京府在籍
母　き　く　明一六、一生、東京、萩原蔑吉長女

君は東京府人竹下幾太郎の長男にして大正二年十一月八日を以て生れ昭和七年家督を相續し前名武寺を改め襲名す土木建築請負業を營む家族は尙妹美千代（大六、一一生）同千江子（同一〇、九生）弟滿幸（同一二、九生）ありA三二〇B一一二（東京市大森區田園調布一ノ四八五電田園調布二三）

竹下勇

正三位勳一等、海軍大將
東京府士族
妻　チイ　明一四、一二生、男爵鮫島具重愛
姉、須榮高女出身
男　政彥　大五、一生
女　英子　明四四、四生

君は舊薩摩藩士山元定義の二男にして明治二年十二月を以て生れ同七年先代壯之丞の養子となり家督を相續し改名す同二十二年海軍兵學校を卒業し同二十三年海軍少尉に任じ大正十二年海軍大將に累進す其間海軍大學校を卒業し軍艦朝日巡航の爲英國に渡航し常備艦隊參謀米國公使館附武官磐手副長第二艦隊參謀長須磨春日出雲筑波敷島各艦長海軍々令部出仕同參謀第一艦隊參謀長海軍大學校教官第二戰隊司令官海軍將官會議々員兼軍令部次長第一艦隊兼聯合艦隊司令長官吳鎭守府司令長官等に歷補し軍事參議官に轉じ昭和四年豫備役仰付らる後に軍事視察の爲清國に出張し大正六年石井遣米特派大使に隨行を命ぜられ更に同八年嫌和全權委員西園寺公望の隨員として渡佛し同九年國際聯盟海軍代表として歐洲に出張し同十年皇太子殿下海外巡遊供奉仰付らる趣味として武術戶外運動及刀劍を愛好す長女香（明三五、七生、聖心女子學院出身）は東京府人前田青莎長男精毅に二女節（同四一、一一生、出身校同上）は同府人三浦謹之助長男紀彥に四女玲子（大二、三生）は同府人三谷一二二男憲二に嫁せりA一〇七（東京市芝區高

輪車町三五電高輪一五六五）

參照＝男爵鮫島具重、前田青莎の項

竹下勘右衛門

父　敬助　文久二、九生、福井、三好助右衛門妹
繼母　キサ　明二五、四生、福井、齋藤與平四女
妻　す　ゑ　大二、四生
女　菊枝

君は福井縣人先代勘右衛門の三男にして明治十五年八月五日を以て生れ大正四年家督を相續し前名謙治を改め襲名す明治四十三年京都帝國大學醫科大學を卒業し開業醫として今日に至る傍ら南越鐵道會社社長たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙二女帝子（大九、四生）三女久子（昭二、九生）あり姉たづ（明五、一生）は福井縣人蒲八郎に嫁し弟靜（同二六、一二生）は同縣人齋藤與二郎の養子となれり（福井縣今立郡周防村）

參照＝齋藤與二郎の項

竹下清松

安田生命保險（株）取締役兼統計課長
東京帝國大學理學部講師
東京府在籍
妻　菊江　明二八、九生、島根、安江豐太郎長女
男　良夫　大三、二生

君は新潟縣人竹下榮吉の三男にして明治二十一年二月二十日を以て生れ大正八年兄武松方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し農商務省に奉職其間英國に留學し保險學を研究す現時安田生命保險會社取締役兼統計課長にして傍ら帝國大學講師たり著書として「統計學原論」あり家族は尙長女けい（大一〇、一一生）二女ふみ（同一四、一生）三女やす（昭五、四生）ありA五三五（東京市澁谷區代々木山谷一六九電四谷六〇九二）

竹下清助

伊勢屋、空樽商
東京府在籍
妻　とめ　明九、一生、東京、大塚產五郎三女
男　清太郎　明三五、五生
婦　梅　明四三、四生、長男清太郎妻、東京、平林林平三女
男　旭　明三六、一二生
婦　まさ　明四五、一生、二男旭妻、東京、川上葉太郎妹
男　清　明四〇、一生

君は東京府人先代清助の長男にして明治元年六月十六日を以て生れ明治四十四年家督を相續し前名浦太郎を改め襲名す伊勢屋と稱し空樽商を營む家族は尙四男義雄（大四、五生）五男（昭六、四生、長男清太郎長男）同喜美子（同七、六生、同長女）同禎一（同七、八生、二男旭長男）あり長女シマ（明三三、七生）は千葉縣人川名正吉郎二男洋次に嫁すA三七六B八七（東京市深川區常盤町一ノ七電本所一〇一〇）

竹下辰四郎

發動機製造（株）常務取締役、日本エーアーブレーキ（株）取締役、大阪工業倶樂部理事長、兵庫縣在籍
妻　雪　明二一、八生、福井、富坂皎姉
男　常正　明四四、一〇生
男　俊武　明四四、八生

君は東京府人竹下秀の叔父にして明治十四年二月二十日まを以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十三年大阪高等工業學校機械科を卒業し現時前記會社の重役にして又大阪工業倶樂部理事長に推さる義に日本金具會社の重役を兼ぬ家族は尙四男義雄（大四、五生）七男輝雄（同一四、二生）ありA三三九（兵庫縣武庫郡精道村打出郷の本八電芦屋三三一九）

竹下豐次

從四位勳四等、宮崎縣在籍、臺中州知事
妻　カツ子　明治二八年生
男　敬一郎　大正五年生、慶大理科在學
女　千枝子　大正四年生、櫻蔭高女出身

君は宮崎縣人にして明治二十年二月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し更に大學院に學び大正元年文官高等試驗に合格す同二年福岡縣屬並同縣警部となり爾來同警視警視庶務副參事同參事を經て農商務省工場監督官に轉じ農商務書記官工場課長在任中大正十一年國際勞働會議帝國政府代表道家齊氏の隨員として渡歐引續きジュネーブに在り國際勞働機關事務所に勤務中政府代表顧問として第五回及第六回國際勞働會議に出席同十三年歸朝後社會局書記官長野縣警察部長臺灣總督府社會課長及同地方課長に任補し昭和四年勅任事務官に累進同七年臺中州知事に任じ現在に至る家族は尙二男義雄（大正七年生）三男敬次（同九年生）二女富美子（同一四年生）三女壽美子（昭和元年生）四女美佐子、同三年生）あり（臺中市村上町一丁目官舍電七）

竹下文隆

衆議院議員（沖繩縣選出）、東京醫學專門學校主事
沖繩縣在籍
妻　カナエ　明二五、四生、廣島、衆議院議員高橋琢也五女

君は山口縣人竹下滿藏の二男にして明治十八年七月を以て生れ一家を創立す大正七年東京醫學專門學校を創立し現に其主事の職に在り昭和三年沖繩縣より推されて衆議院議員に當選すること二回立憲政友會に所屬す夙に早稻田大學文科に學び明治四十一年より父滿藏に從つて朝鮮に在り後再び早稻田大學に法科を修め大正四年政治雜誌國論を創刊し其主筆たりし事十七年後著書「愛する青年の爲めに」「民衆の政治批判」「非常時と憲政擁護」等あり襲馬青雲讀書を趣味とす（東京市淀橋區東大久保四一二電四谷一五五五）

竹島吉松

味噌商
大阪府在籍
母　マサ　明五、一二生、大阪、猪口恒次郎三女
妻　照子　明四、五生
男　康夫

君は大阪府人竹島吉松の長男にして明治二十八年三月一日を以て生れ大正六年家督を相續し前名一治郎を改め襲名す味噌商を營む家族は尙二女邦子（昭二、四生）・三女慶子（同三、五生）四女千惠子（同八、六生）弟繁三（明三四、七生）同妻道子（同四一、三生、大阪、杉田宗一郎長女）及其二子弟榮藏（同三六、二生）同正造（同四一、一生）同盛藏（同四三、三生）同十士夫（大二、一生）あり妹千代（同三七、一〇生）は奈良縣人松石源次

郎養子正次に嫁せりA六〇八（大阪市南區高津四番町四五）

竹島新三郎　南海興業、長岡グラウンド各㈱取締役、原田商店㈱監査役、金物製造業、大阪府在籍

母　ヒサ　明七、七生、大阪、芥子久左衛門二女

妻　マサ　明三五、一生、大阪、原田虎次郎三女

男　一夫　大一四、三生

君は大阪府人先代新三郎の長男にして明治三十一年一月二十六日を以て生れ大正十五年家督を相續し前名健一を改め襲名す金物製造業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男敏夫（昭二、六生）三男健夫（同三、七生）長女純子（同五、四生）次妹貞子（明三九、四生）同千代子（同四一、四生）弟新三（同四五、一生）あり姉高（同二九、一生）は同夫富三郎（同二六、一生、大阪、西口利七弟）と共に分家し妹鹿（同三三、八生）は大阪府人大島七郎の養子となり同千代子（同四一、四生）は同府人粮箭治三郎長男晋治に嫁せりA一七六五（大阪市浪速區惠美須町三ノ一三六電浪二九八）

參照＝原田虎次郎※祭原邦太郎の項

竹島鎭太郎　朝鮮運送㈱社長、國際通運㈱取締役、東京府士族

妻　中枝　明五、五生、岡山、士、板津吉顯二女

男　鎭一　明三一、四生

婦　のぶ　武信吉長女

君は東京府士族竹島倉三の孫にして明治二年六月五日を以て生れ同二十二年家督を相續す現時朝鮮運送會社社長たる外前記各會社の重役にして兼に佐原合同運送會社重役を兼ぬ家族は尙孫たまる（昭二、四生、長男鎭一長女）同朝子（同三、一二生、同二女）あり養子てう（明三四、六生、靜岡、北原初藏長女）は靜岡縣人井上文六に嫁せり（京城府古市町一二電本局四六八〇）

竹田穎川　臨濟宗建仁寺派管長

京都府在籍

君は愛知縣人加藤芳七の三男にして明治十一年十二月二十三日を以て生れ先代默雷の養子となり昭和五年家督を相續す臨濟宗建仁寺派管長たり（京都市東山區小松原町一三九建仁寺電祇園一九〇）

竹田音治郎　正五位勳四等、判事、大審院判事

奈良縣在籍

妻　ツヤ　明二二、六生、大阪、士、工藤盛義三女、京都同志社高女出身

男　健　大一一、三生

君は奈良縣人竹田庄三郎の四男にして明治十五年十一月を以て生れ大正九年兄龜藏方ょり分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正元年判事に任ぜられ爾來千葉區同地方東京地方同區靜岡地方各裁判所判事及東京控訴院判事同部長等に歷補し現時大審院判事たり民事訴訟法の大家として知らるる家族は尙三女雅子（大一四、八生）四女清子（同一五、一〇生）あり長女綾子（明四三、一生、東京女學館出身）は三重縣士族大倉商事會社員佐藤光夫に嫁せり（東京市本郷區駒込追分町三〇）

竹田覺之助　家主

大阪府在籍

男　由次　大三、七生

庶子　由之　明四三、一一生

女　芳子　大五、一〇生

君は大阪府人竹田由松の長男にして明治二十三年三月を以て生れ昭和九年家督を相續す家主たり家族は尙三女公子（大一二、一〇生）あり長男由夫（明四五、二生）は外戚玉島キクエの養子となれりA四四六四（大阪市浪速區榮町一ノ五一電櫻川二八〇）

竹田喜太郎　清洲銀行㈱副頭取、名古屋織物㈱監査役、愛知縣在籍

妻　佐久　明二一、三生、愛知、吉田久三郎長女

女　つぎ　明四一、二生

女　富貴子　大五、一生

女　とき子　大七、八生

君は愛知縣人竹田市左衛門の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十八年母とうの後を承けて家督を相續す現時清洲銀行副頭取にして前記會社の重役たり家族は尙五女志貴（大一〇、五生）六女田鶴（同一一、三生）あり長女富美子（明三七、九生）は愛知縣人鬼頭與三兵衛に嫁せりA三四二（愛知縣西春井郡清洲町電三〇）

竹田儀一　從五位、衆議員議員（大阪府選出）

大阪市會議員、石川縣在籍

父　永吉　安政六、九生

妻　とよ　明三五、一一生、石川、篠原藤平二女

大一一、三生、大阪清水谷高女在學

君は石川縣人竹田永吉の長男にして明治二十七年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す同七年京都帝國大學法科大學を卒業し大阪市第二區より推されて尙衆議院議員に當選する事二回現時立憲民政黨所屬たり亦大阪市會議員となり昭和七年拓務大臣秘書官に就任し同九年齋藤内閣柱冠に依り辭職す家族は尙長女とし（大一一、三生、大阪清水谷高學在）あり（東京市澁谷區千駄ヶ谷三ノ五二六電青山四五四〇）

竹田菊　正五位勳五等、山脇高等女學校教諭、東京府在籍

母　せん　文久三、一〇生、茨城、士、清水忠義妹

夫　茂　明二二、一一生、長崎、宮崎觀二男、現戸主、東京横濱電鐵會社員

君は東京府人竹田誠の三女にして明治二十年三月を以て生れ大正二年家督を相續し同十五年家督を入夫茂に讓る明治四十三年東京女子高等師範學校文科を卒業し千葉縣女子師範學校教諭に任じ大正二年東京女子高等師範學校教諭となり後教授に進み昭和六年退官す現時前記教練の傍ら婦人問題教育問題等に關し新聞雜誌等に評論の筆を執る（東京市荏原區戸越町一三五一電荏原四一三〇）

竹田源次郎　竹田組㈱社長、東京製氷㈱監査役

東京府在籍

妻　まさ　明六、三生、東京、吉川義兵衛二女

養子　春枝　明三五、一生、東京、野口清之姉、竹田㈱監査役

君は東京府人横田八五郎の二男にして明治元年二月を以て生れ同二十一年先代せいの養子となり家督を相續す現時竹田組社長の外前記會社の重役たり家族は尙庶子定子（大九、五生、生母養子春枝）同まつ子（同一一、

五生、生母同上）同典子（昭三、二生、生母同上）同久子（同四、三生、生母同上）同綾子（同六、八生、生母同上）同寛次（同九、一生）生母同上あり養子春吳（明四四、一〇生、東京、吉川善三郎姪）は分家し長女げん（同三〇、九生）は東京府人植本藤三郎長男誠一に嫁せりA一九五三（東京市京橋區新富町二ノ一四電京橋九一五）

竹田三七　浪速瓦斯㈱取締役、京都競馬倶樂部監事、和歌山縣士族

妻　千穂　明三四、三生、奈良、谷口延昌妹

男　新一郎　明三四、五生、京都帝國大學理學部助教授、理學士

男　復郎　明三七、四生、法學士

女　以志子　大八、一二生

君は長野縣人宮澤常吉の二男にして明治四年九月を以て生れ先代達三の養子となり大正九年家督を相續す現時浪速瓦斯會社取締役にして京都競馬倶樂部監事に推さる養に京阪電氣鐵道會社經理課長電燈課長同社主事京阪土地會社取締役兼支配人たり長女龍子（明二九、五生）は東京府人内務省社會局囑託黒川小六に二女節子（同三二、四生）は同府人東京控訴院判事小藤六郎に嫁せり（大阪府北河内郡友呂岐村電寝屋川一五五五乙）

竹田省　從三位勳三等、法學博士、京都帝國大學名譽教授、京都府在籍

妻　いま　明一六、四生、石川、鈴木與兵衛二女

男　謙太郎　明四〇、三生

婦　千代　明四四、一〇生、長男謙太郎妻、京都、鍛重雄長女

男　準二郎　明四一、四生

婦　春代　明四四、二生、二男準二郎妻、京都、半井朴三女

君は富山縣人清水榮吉の三男にして明治十三年九月を以て生れ先代つやの養子となり同四十年家督を相續す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十一年同大學助教授に任じ大正元年商法研究の爲獨佛英各國に留學し同四年歸朝同大學法科大學教授に進み同六年法學博士の學位を受け大正十二年法學部長に擧げらる昭和七年職を退き現時同大學名譽教授たり養に昭和四年法制審議會委員に擢さる（京都市上京區北白川小倉町五〇ノ四〇電上四九九）

參照＝半井朴、鍛重雄の項

竹田武男　正五位勳四等、鳥取縣書記官、内務部長、兵庫縣在籍

妻　千代　明三〇、一生、岐阜、井上孝哉長女

男　恒　大六、一一生

君は兵庫縣人にして明治二十三年十月十日を以て生る大正三年文官高等試驗に合格同四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し愛知縣屬東京府屬兼内務屬大分縣逓見郡長國勢院書記官兼臨時國勢調査局事務官統計局書記官社會局事務官復興局事務官同書記官千葉縣學務部長等に歷任し昭和六年現職に轉ず養に昭和三年八月歐米各國（出張を命ぜられ同四年八月歸朝す家族は尙長女芳子（大九、六生）二女昭子（昭二、九生）三女温子（同七、三生）あり（鳥取市上町縣廳官舍電一六〇）

參照＝井上孝哉の項

竹田珠子　家主

大阪府在籍

養母　こま　文久元、四生、先々代百輔養子、大阪、竹田治助二女

君は大阪府人竹田隆造の妹にして明治二十八年七月九日を以て生れ同三十九年先代興右衛門の養子となり昭和四年家督を相續す家主たりA一五九一（大阪市東區淡路町二五三）

竹田忠藏　家主

大阪府在籍

養母　マス　明元、三生、奈良、竹田忠三郎長女

妻　さく　明二三、二生、養父忠藏長女

君は大阪府人片山藤太郎の二男にして明治十九年十月二十六日を以て生れ先代マスの養子となり昭和六年家督を相續し前名紺太郎を改め襲名す家主たり家族は尙長女滿三子（昭六、一二生）二女佐世子（生年月同上）紺子（同四、一生、兵庫、泉仙介二女）あり（大阪市東區南久寶寺町二ノ六七電西三五一八）

竹田振太郎　傳授㈱社長

愛知縣在籍

男　晉一郎　明二一、一〇生、現戸主、早大商科出身

婦　倶　明二九、一生、長男晉一郎妻、愛知、士、長尾康太郎妹

君は愛知縣人竹田義正の長男にして元治元年一月を以て生れ後家督を相續し大正十四年退隱す久しく名古屋信託會社長を勤め現時愛會社長たり養に三弘自動車朝鮮瓦斯電氣會社の重役にして郡會議員縣會議員等に擧げらる和歌藏は尙孫弘太郎（大五、一生、長男晉一郎長男）同潮路（同七、二生、同二男）あり二男公雄（明三三、一二生）は其一子を伴ひ分家し三男三千三（同三五、九生、醫學士）弟登冤吉（同二〇、一二生）も亦各分家し三女富佐（同二九、九生）は愛知縣人井澤正二に四女圭子は同縣人高木一に五女和州（同四三、九生）は同縣人高木仁右衛門に妹いつ（慶應二、五生）は同縣人水野榮七に同ゆき（明一一、一〇生）は同縣人竹田鈴太郎に嫁し第二藏（同六、五生）は同縣士族水谷時宜に同新三（同一六、二生）は京都府人中島みやに各養子となり同三郎（同八、五生）は愛知縣人神野りきの入夫となり妹あい（同三、一一生）は同縣人伊藤孝一の繼母たりA四八〇（名古屋市中區横三ッ藏町五ノ一二電本局三〇六六）

參照＝伊藤孝一、神野三郎、高木仁右衛門の項

竹田寅三　堂島ビル㈱取締役兼支配人

大阪府在籍

妻　ミネ　豐生　大六、四生、滋賀、青木信造長女

養子　豐次郎　大一四、五生、愛知、佐藤慶吉男

君は愛知縣人佐藤豐次郎の弟にして明治十二年十一月十二日を以て生れ母の生家竹田家に入り大正八年分れて一家を創立す名古屋明倫學校東田大塊私塾赤司英學塾等に學び明治三十三年鴻池銀行に入り爾來住友銀行滋賀堀支店名古屋支店支配人代理となり大正八年辭任し千日土地建物會社專務取締役兼高知商業銀行内外商事大阪株券大東土地會社等の重役に就任せしも後之を辭し現時堂島ビル取締役兼支配人たり和歌藏は尙孫同人たり（堺市戎島町二ノ三七電二六三六）

竹田學　養蚕家

兵庫縣在籍

父　義藏　明一八、八生、現戸主

母　いく　明二八、九生、兵庫、西尾新平長女

現戸主父義藏は奈良縣人竹田傳治郎の二男にして明治

四十三年慶應義塾理財科を卒業し神戸衞生實驗所大五製藥武田長兵衞商店等諸會社の重役たり君は義藏の長男にして大正六年四月を以て生る資產家たりA八四一（兵庫縣武庫郡精道村電芦屋二七三二）

参照＝竹田義藏の項

竹田義藏　武田長兵衞商店㊫專務取締役、神戸衞生實驗所、大五製藥各㊫取締役、奈良縣在籍

妻　いく　明二八、九生、兵庫、西尾新平長女

男　學　大六、四生

君は奈良縣人竹田傳治郎の二男にして明治十八年八月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十三年慶應義塾理財科を卒業し現時武田長兵衞商店專務取締役の外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二男惟（大七、八生）あり姉せい（明一二、七生）は同夫寡多郎（同元、八生、奈良、竹田瀧藏弟）は分家せりA一二四四（兵庫縣武庫郡精道村芦屋岸ノ下七八電芦二七三二）

参照＝竹田學の項

竹田龍太郎　神戸商工會議所常議員、日本樟腦㊫取締役、竹田㊫代表社員　兵庫縣在籍

母　つた　慶應三、一生、兵庫、柳田久五郎長女

妻　よしゑ　明二八、二生、兵庫、藤田寡兵衞長女

男　龍　大一三、七生

女　文子　大五、一二生

女　政子　大八、四生

君は兵庫縣人竹田文吉の長男にして明治二十年六月十四日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し現に日本樟腦會社取締役竹田合名會社代表社員の外神戸商工會議所常議員にして養に煙草元賣捌業を營み選ばれて神戸市會議員たりしことあり家族は尙三女昭子（大一〇、六生）四女敎子（同一二、一生）ありA四七九七（神戸市葺合區熊内町一ノ二五電葺合一三四八）

竹田量之助　高島屋飯田㊫常務取締役、高島屋㊫監査役、飯田㊫理事、東京府在籍

妻　ヨシ　明一五、一〇生、京都、竹田伊之助長女

男　昂　明三六、一二生、醫科醫

婦　公　明四四、四生、長男昂一妻、富山宮林彥九郎二女

男　達二　明三八、七生、戸畑鑄物會社員

女　惠美　明四五、一生、フレンド女學校出身

君は京都府人竹井作左衞門の二男にして明治七年六月八日を以て生れ同三十六年先代ヨシの入夫となり家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し直に高島屋貿易部に入り專ら外國貿易に從事し佛國里昂及倫敦に在る事前後十五年に及ぶ大正五年十二月高島屋飯田會社の設立せらるゝや選ばれて取締役となり現時常務取締役の職に在り傍ら飯田合名會社理事及高島屋の監査役たり家族は尙三女麻子（大一二、二生）あり長女蘭（明四一、五生）は神奈川縣人山田繁藏三男錠次郎に嫁せり（明一二、一生、竹田伊之助三女）は京都府人巽子ミツ（同三一、一生、竹田伊之助三女）は京都府人三浦豐二長男寛に嫁せりA七八四（東京市麻布區霞町一八電青山五六一三）

竹歳萬治　從四位勳四等、茨城鐵道㊫取締役　鐵道同志會常任理事、全國產業團體聯合會理事、鳥取縣在籍

母　さん　安政四、一一生、鳥取、道祖尾伊三郎二女

妻　文子　明二二、一二生、男爵安藤直義叔母、學習院女學部出身

女　節子　明四五、四生、女子學習院高等科出身

女　敬子　大六、一二生、女子學習院在學

君は鳥取縣人竹歳喜平の長男にして明治十三年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す第一高等學校を經て帝國大學法科大學法律科を卒業直に選明治四十年東京帝國大學法科大學法律科を卒業直に選信省に入り同年文官高等試驗に合格し帝國鐵道廳主事となり爾來鐵道院參事鐵道局庶務課長鐵道監察官鐵道局總務課長鐵道省敎習所長等に歷任し大正十三年勅任監察官に進み同年十二月官を辭す現時芙城鐵道會社取締役鐵道同志會常任理事全國產業團體聯合會理事たり養に歐米各國に出張を命ぜられ巴里媾和會議の交通部委員會に參與す姉ちゑ（明九、一二生）は夫豊造（同九、一生、鳥取、三谷元次郎二男）と共に分家すA一五六（東京市杉並區上荻窪町四三九電荻窪二三〇一）

参照＝男爵安藤直義※伯爵松平直富※坂本泰則の項

竹友虎雄　正五位、關西學院大學部敎授　東京府在籍

妻　芳　明三三、一二生、兵庫、士、藤井穗太郎三女、兵庫縣立高女出身

男　安彥　大一〇、七生

君は東京府人竹友安治郎の長男にして明治二十四年九月を以て生る夙に京都帝國大學に學び大正四年米國に遊學しコロンビヤ大學に入り英文學を專攻しマスターオブ・アーツの稱號を受け歸朝後慶應義塾大學敎授となり次いで東京高等師範學校敎授となり後退職し現時關西學院大學部敎授たり藻風と號して詩文に長ず家族は尙二男俊彥（大一三、六生）長女和子（昭二、一二生）あり（兵庫縣武庫郡甲東村仁川）

竹中龜太郎　クレー商　兵庫縣在籍

妻　くに　明一〇、一〇生、兵庫、下村利介妹

養子　育三郎　明三七、三生、兵庫、石坂芳松三男

庶子　純一　明四〇、五生、生母、兵庫、西逢ひで

君は兵庫縣人竹中德兵衞の長男にして明治四年九月二日を以て生れ同十八年組母しげの後を承け家督を相續すクレー商を營む妹もと（明一九、八生）は兵庫縣人富田肇次郎長男肇太郎に嫁せりA九〇七B二〇二（神戸市兵庫區北仲町一二電兵庫二七六八）

竹中寛二　竹中鑄造所、機械製造業　大阪府士族

妻　イク　明二三、一〇生、大阪、紙田宗七三女

養子　重　明三四、八生、長女くに夫、神奈川、小俣喜代次良長男

庶子　くに　明三七、一生、養子重妻

庶子　幸寛　明四〇、一〇生、生母、望月キヌ

女　菊乃　大元、一〇生

女　春　大三、三生

女　千重子　大六、二生

君は兵庫縣人竹中德兵衞の長男にして明治八年一月五日を以て生れ同十年家督を相續す竹中鑄造所を經營し機械製造業を營む家族は尙四男宇太郎（大七、一〇生）六女壽美江（同九、一生）七女節子（同一一、一〇生）孫

弘（昭元、一二生、養子重二男）同信子（同五、七生、同二女）同喜代子（同八、一〇生、同三女）あり二女滿子（明四〇、九生）は大阪府人藤井義一に妹ひい（同九、一二生）は福井縣人嶺尾太一に嫁せりA三九三（大阪市浪速區稻荷町一ノ九九一電櫻川一三六一）

竹中久藏　東京府多額納稅者、米久、牛鳥料理業、東京府在籍

妻　節子　明四〇、三生、東京、吉川晋吉三女

母　しけ　明一五、一生、水野金次郎長女

君は東京府人竹中彌助の長男にして同久太郎の養嗣なり明治三十五年八月十六日を以て生れ大正四年家督を相續す米久と稱し牛鳥料理業を營む直接國稅五千四百五十五圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙養弟捨男（大元、九生、岡山、士、瀧川龍太郎四男）あり養姉すゑ（明三三、一一生、東京、水野いと私生子）は分家せり（東京市淺草區千束町二ノ三四電淺草三七二〇）

参照＝竹中久太郎の項

竹中久太郎　米久商事㊫社長、米久、牛肉料理業、東京府在籍

妻　せい　明二九、一〇生、東京、高岡安次郎四女

男　久男　大六、六生

女　ひさの　大八、四生

君は東京府人竹中久次の長男にして明治二十五年三月二十九日を以て生れ後前名久治を改め大正二年家督を相續す米久商事會社長にして牛肉料理業を營み米久本店として知らる藝に日本家畜市場會社取締役たりしことあり家族は尙二女久松（昭二、一生）三女久惠（同三、一〇生）庶子久丸（同七、五生、生母、東京、竹內都子）あり養兄彌助（明八、三生）は其妻子を伴ひ分家し其子久藏當主たりA五五二（東京市瀧野川區田端町六三一電小石川三五八九）

参照＝竹中久藏の項

竹中敬一　正五位勳五等、海軍豫備少佐、地方海員審判所理事官、大阪地方海員審判所勤務、和歌山縣在籍

妻　のぶ　明二一、五生、和歌山、竹中儀市郎長女

男　孝　昭三、五生

君は和歌山縣士族竹中俊夫の長男にして明治十七年十月七日を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十年商船學校航海科を卒業し日本郵船會社に入り勤續五ヶ年の後遞信省に奉職し航路標識管理所技師羅州丸船長に任ぜらる昭和六年現官職に轉ず先是同三年海軍豫備少佐に任ぜらる家族は尙爺修三（明三〇、二生）同滋夫（明三四、五生）ありA二〇〇（大阪市北區中之島六丁目大阪地方海員審判所內電土佐堀一九七〇）

竹中源助　和歌山縣多額納稅者、昭和倉庫㊫代表取締役、竹中商店、市岡土地㊫取締役、阪和電氣鐵道、東洋毛糸紡績各㊫取締役、木津川船渠㊫監査役、和歌山縣在籍

妻　美喜枝　明二一、一生、養父源助二女、和歌山縣立高女出身

男　源太郎　大元、一一生

女　延子　明四三、七生、日本女大家政科在學

女　美佐代　明四四、八生、和歌山縣立和歌山高女出身、實踐女學校在學

君は和歌山縣士族川口論之助の叔父にして明治十年六月を以て生れ先代伯父源助の養子となり同四十五年家督を相續し前名兵四郎を改め襲名す現時前記各會社の重役にして和歌山縣多額納稅者に列し直接國稅一萬千百九十九圓を納む義に和歌山商業會議所特別議員に擧げらる家族は尙男泰三（大六、六生）あり長女美代子（明四〇、八生）は分家せり（和歌山市屋形町電二九七）

竹中政一　南滿洲鐵道㊫理事　兵庫縣在籍

妻　トシ　明二七、二生

男　正夫　大一四、九生

女　君子　大四、四生

君は明治十六年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し直ちに南滿洲鐵道會社に入り歐米各國へ留學を命ぜらる歸朝後大連奉天長春各驛及び運輸課營業部等に勤務し大正八年總務部文書課長となり爾來連記生業成所長奉天地方事務所長北京公所長經理部長を經て昭和六年同會社理事に進み當時計畫部長兼管理部長たりしが同八年より經理事務擔任となれり家族は尙二女千代（大二二、四生）三女美代子（昭二、一二生）あり（大連市星ヶ浦水明莊二八電青山一七五）

竹中宗吉　家主　大阪府在籍

妻　タマ　萬延元、三生、大阪、土肥清兵衞養女

男　宗一　明三三、二生

嫡　幾代　明三七、一〇生、長男宗一妻、長崎、日高爲治庶子

君は大阪府人竹中善政の長男にして文久元年一月十五日を以て生れ明治二十年家督を相續す家族は尙孫時子（大一四、一二生、長男宗一長女）同道子（昭四、一〇生、同二女）姪玉奈（明二三、五生、養妹キク私生子）ありA四四二（大阪市住吉區北田邊町五五五ノ一）

竹中保　鍼灸師　大阪府在籍

父　一規　齊應三、四生、現戸主

妻　ナカ　明二五、三生、大阪、西田嘉兵衞三女

女　翠江　大二、一二生

君は大阪府人竹中一規の二男にして明治二十一年八月一日を以て生れ昭和六年父隱居に因り家督を相續す鍼灸師たりA九七八（大阪市旭區今津町一五六三電東六九一）

竹中藤右衞門　竹中工務店㊫代表社員　兵庫縣在籍

妻　ちか　明一八、七生、愛知、士、中尾義猛二女

男　錄一　明四四、三生、竹中工務店出資社員

壽美　大二、六生

君は愛知縣人先代藤右衞門の長男にして明治十一年七月二十五日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名錄一を改め襲名す當家々祖は織田信長に仕へて普請奉行たり織田家亡ぶるに至りて刀劍を拋ち名古屋開府と共に同地に移住し專ら神社佛閣の造營に當り爾來世襲連綿たり明治三十二年兄弟祖業を繼承するに至り君は居を關西に移し洋風建築に力を竭す明治四十二年合名會社竹中工務店を組織し代表社員として專ら其經營に任す家族は尙二男宏平（大四、八生、竹中工務店出資社

員）あり長女郁美（明三七、三生）は山口縣人白根清香に二女喜美子（同四〇、八生）は宮城縣人横武彦に嫁せりA四七一九（神戸市葺合區熊内町六ノ五電葺合九六二）

參照＝※鈴木信吉の項

竹中藤五郎　竹中工務店㊞無限責任社員、建築請負業、愛知縣在籍

妻　はる　明二七、四生
男　泰弘　大九、一〇生
女　證子　大四、八生

君は愛知縣人先代藤五郎の長男にして明治六年一月十四日を以て生れ同三十二年家督を相續し前名昇太郎を改め襲名す當家々祖は織田信長に仕へて普請奉行たり織田家亡ぶるに至り刀劍を拋ち名古屋開府と共に同地に移住して專ら神社佛閣の造營に當り爾來世襲絶えず明治四十二年合名會社竹中工務店を組織して出資社員たりA一〇六〇（名古屋市西區西菅原町二ノ一電本局一八四二）

竹中豐次郎　帝國典籍愛代表社員、東京府在籍

妻　リキ　明八、六生、東京、平塚助右衛門四女
男　時次郎　明二九、五生
　　明三四、二生、二男時次郎妻、東京、神山民次郎十一女

君は東京府人先代金兵衛の二男にして明治六年十月十日を以て生れ同十六年家督を相續す現時帝國典籍會社代表社員たり家族は尙祖初枝（大一一、一生、二男時次郎長女）同德郎（同一二、二生、同長男）同安（昭四、三生、同三女）同茂夫（同六、三生、同二男）あり二女なか（明三三、六生）は宮城縣人安田利一に嫁し孫恒（大一四、三生、二男時次郎二女）は東京府人中村五目男の死跡を相續すA七三五（東京市赤坂區青山南町三ノ六三電青山一〇九二）

竹中直次郎　大和川染工㊞無限責任社員、綿布染色再整業、大阪府在籍

妻　カメノ　明二九、五生、香川、堺谷虎之助三女
男　眞一　明四三、六生
女　ゆき　大二、九生
　　みつ子　大七、三生

君は大阪府人柳原吉兵衛の二男にして明治十六年六月を以て生れ同二十三年竹中安之助の養子となり分れて一家を創立す綿布染色再整業を營む傍ら大和川染工合名會社無限責任社員たり家族は尙二男勇次（大五、一生）西男雲八（同一〇、一生）五男達吉（同一三、四生）六男機六（昭二、三生）ありA七一七（堺市七道東町一五〇電一一五）

竹中峰次郎　朝鮮拓殖㈱事務取締役、東京府在籍

母　たま　安政五、四生、大阪、松本儀兵衛長女
妻　ふく　明一三、六生、東京、池田正藏長女
男　清之助　大四、一一生

君は東京府人竹中熊吉の長男にして明治十年九月を以て生れ大正元年家督を相續す現時朝鮮拓殖會社專務取締役たり妹シナ（明一九、九生、太郎二女）

妻　エチ　大八、二生
男　一日子　大四、一一生
女　京子　大四、一一生

君は熊本縣人竹永恒太郎の長男にして明治十四年九月を以て生れ同三十一年興父繁次郎の後を承け家督を相續す同四十一年東京帝國大學醫學科を卒業し醫術開業試驗附屬病院助手となり同醫員醫術開業試驗委員新橋濟療所大井工場治療所主任東京鐵道病院外科醫員同外科醫に兼務傳を經て大正八年鐵道醫に任じ現時南記の職に補せらる同十一年獨佛各國に留學を命ぜられ同十五年醫學博士の學位を受く家族は尙三女ゆり（大一〇、一〇生）あり妹御（明二二、一二生）は東京府人大藏公道に叔母葉河（同二、一生）は熊本縣人橋井素進に同トヽ（同一三、三生）は山口縣士族木村智久に嫁せりA一四一（東京市世田谷區世田谷二ノ一三六八電世田谷二八一一）

參照＝緒方求太郎の項

竹野竹三郎　從五位勳六等、判事、大阪地方裁判所部長、奈良縣在籍

妻　基枝　明三四、七生、東京、村上俊長女臺北第一高女出身
男　公文　大九、二生、伊丹中學在學

君は奈良縣人竹野竹松の二男にして明治二十六年九月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正四年辯護士試驗に合格翌年中央大學法科を卒業し東京及奈良に於て辯護士並に辨理士を開業す同十年判事となり大阪地方裁同區裁判所判事を經て同十四年大阪控訴院判事に補せられ現時大阪地方裁判所部長たり著書に「破產法原論」「和議法原論」「新民事訴訟法釋義」等あり讀書登山を趣味とす家族は尙長女安子（大一三、八生）の外に三男得男四男成夫五男弘之ありA一〇七（大阪市北區若松町大阪地方裁判所內）

竹野內治三郎　伊賀屋、布團商、東京府在籍

妻　ふさ　明一〇、八生、東京、相田惣左衛門妹
男　偉生　大五、一生
　　忠一　明三四、五生、長女しげ夫、埼玉愈潛彥太郎五男
養子　しげ　明三九、五生、養子忠一妻
女　こう　明四四、七生
女　しつ　大二、一〇生

君は東京府人竹野內與四郎の長男にして明治九年三月六日を以て生れ同十九年家督を相續す伊賀屋と稱し布

團商を營む家族は尙祖慣司（昭三、二生、養子忠一長男）同裕夫（同五、五生、同二男）同稔子（同七、九生、同長女）ありA五八五（東京市淺草區猿屋町電淺草四六四六）

竹林伊之介　白米薪炭商、兵庫縣在籍

妻　かつ　明二五、八生、兵庫、松下豊吉長女
男　幸雄　大二、一二生
女　隆子　大五、二生

君は兵庫縣人薄井源左衛門の三男にして明治二十一年三月七日を以て生れ同四十五年同縣人竹林嘉七の養子となり大正六年分れて一家を創立す白米薪炭商を營む家族は尙二男文二（大八、一生）三男三郎（同一〇、一〇生）二女美奈子（同一三、一生）三女品子（昭二、四生）四女富佐子（同四一、二生）ありA九九一B一八五（神戸市兵庫區湊町一ノ三二二電湊二四二八）

竹林嘉七　淡川土地會社員、兵庫縣在籍

妻　たみ　元治元、五生、兵庫、林市松妹
男　喜一郎　明三〇、八生

君は兵庫縣人竹林長右衛門の長男にして嘉永六年九月を以て生れ後分れて一家を創立す現時淡川土地會社員たり養子伊之介（明一一、三生）は其妻子を伴ひ分家し同たま（同一〇、一〇生、兵庫、松下佐平治二女）は兵庫縣人山田政吉に嫁せりA二八八四（神戸市須磨區須磨浦二ノ一四電西須磨二四二）

竹林重正　法律顧問社、川崎支局、神奈川縣在籍（川崎市貝塚五）

妻　家主
　　奈良縣在籍
母　みさを　慶應元、五生、奈良、窪尾智照長女
庶子　喜篤　大一二、九生、生母、京都、今川雪子

君は奈良縣人竹原寗平の長男にして明治二十九年六月十一日を以て生れ大正五年家督を相續す家主たり家族は尙庶子淳子（大一一、一生、生母、京都、今川雪子）同寗子（昭二、九生、生母同上）ありA四〇五（京都市東山區下河原通坂鳥居前下ル電祇園三四五）

竹原コウ　家主、大阪府在籍

養子　清一　明三九、一二生、大阪、山田半太郎長男
婦　美代子　明四〇、一生、養子清一妻、大阪太田宗治郎二女

君は大阪府人山田半次郎の五女にして竹原友三郎の養叔母なり元治元年一月を以て生れ大正七年夫久吉の後を承け家督相續す家主たり家族は尙孫久太郎（昭二五生、養子清一長男）同幸保（昭七、一生、同二男）ありA八〇六（大阪市東區北濱町四ノ三〇電本局六三）

參照＝竹原友三郎の項

竹原莊一　家主、大阪府在籍

母　ミドリ　明一七、二生、新潟、南義三郎妹

君は大阪府人竹原莊治郎の長男にして明治四十一年十月三日を以て生れ昭和三年家督を相續す家主たり養に竹原合名會社竹原證券會社重役たり先代父莊治郎は大阪株式界に活躍し竹原商店を主宰し幾多會社の重役として知らるA一一二〇（大阪市東區道修町四ノ一一電本局一八一〇）

竹原常太　正五位勳四等、神戸商業大學教授、釜神戸高等工業學校教授、岡山縣在籍

妻　實惠　明一九、一一生、愛媛、小池武八三女、同志社女學校專門部、米國ウエルスレー女子大學各出身
女　和子　大七、一〇生

君は岡山縣士族にして明治十三年九月二日を以て生れ同三十二年及同四十二年雨度米國に留學ミシガン大學紐育大學院を各卒業大正七年神戸高等商業學校教授に任じ昭和四年神戸商業大學教授同六年神戸高等工業學校教授を歷任し今日に至る昭和七年更に歐米に出張すスタンダード英和辭典スタンダード英和辭典其他の著述あり家族は尙二女英子（大一一、七生）ありA二四五（神戸市灘區篠原町北町一ノ一六電御影三三七一）

竹原友三郎　竹原證券、竹原商店各㊞役、城南土地㈱取締役、大日本商事㈱、岸和田紡績各㈱監査役、竹原㊞代表社員、大阪府在籍

妻　秀　明二七、四生、大阪、寺田甚與茂二女
男　友吉　大七、六生
女　ゑい　大六、四生
　　義二郎　大八、九生

君は大阪府人竹原久吉の甥にして明治二十四年四月四日を以て生れ同三十九年先代友二郎の養子となり大正七年家督を相續す前名義一を改む夙に株式公債現物商を營み竹原合名會社を主宰し竹原證券會社代表取締役の外前記諸會社の重役を兼ぬ曩に城南土地會社々長關西土地日本木管各會社代表取締役の他十數會社に關係せり家族は尙二男義二郎（大八、九生）二女靜枝（同一三、八生）三女比佐子（昭三、四生）あり養兄仁三郎（明二〇、一一生）は其妻子を伴ハ分家し養叔父久吉（安政五、五生）も亦分家し其妻コウ當主たりA一七八四（大阪市東區今橋二ノ六電園本局四二〇）

參照＝竹原コウ、竹原仁三郎、寺田甚與茂※※寺田榮吉寺田甚吉※寺田甚七の項

竹原仁三郎　竹原㊞社員、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍

妻　みち　明二六、九生、兵庫、山田勘藏四女
男　仁作　大六、六生
女　やゑ　大二、七生

君は大阪府人上田卯三郎の二男にして同友三郎の養兄なり明治二十年十一月を以て生れ竹原トクの養子となり大正九年分れて一家を創立す現時大阪株式取引所一般短期國債取引員にして竹原合名會社員たり家族は尙二男二一郎（大八、一〇生）ありA二二四七三B三一〇八（兵庫縣武庫郡大社町趙木岩山椒ヶ原四七八）

參照＝竹原友三郎の項

竹平治作　正五位勳六等、檢事、松本區裁判所兼長野地方裁判所松本支部檢事、東京府在籍

妻　幸　明二八、九生、新潟、畝日末吉長女
男　光明　大一三、七生
女　正子　大八、一二生

君は東京府人竹平順藏の長男にして明治十九年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十九年明治大學法律科專門部を卒業し辯護士試驗に合格す直ちに辯

護士となり尋で早稲田大學を卒業し判事に任ぜられ大正八年檢事に轉し爾來新潟地方兼同區高崎熊谷東京各區裁判所秋田地方兼同區裁判所檢事及鹿兒島地方裁判所檢事等に歷任現時前記の職に在り（松本市松本區裁判所官舍）

竹增喜一郎　貿商　兵庫縣在籍

母　とま　明一五、七生、大阪、奥西豊吉二女
妻　こう　明三七、四生、大阪、大西佐七三女
男　誠三　昭六、九生

君は兵庫縣人先代次太郎の長男にして明治三十五年八月三十一日を以て生れ大正十四年家督を相續す貿商を營む家族は尙長女幹子（大一五、一二生）妹チエ子（同六、一生）弟章（同一一、六年）ありA三七二（兵庫縣武庫郡本庄村青木東畑三二八）

竹股一郎　從四位勳四等、鐵道技師、建設局工事課長、山形縣士族

妻　きよ　明二〇、一二生、山形、水野廉平長女、米澤高女出身
男　綱雄　明四三、一生、東北帝大法學部在學
女　三穂子　大六、六生、雙葉高女在學

君は山形縣士族竹股健次の長男にして明治十五年八月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業同四十一年鐵道院技師に任じ大正九年鐵道技師となり北海道建設事務所長を命ぜられ同十四年歐米諸國へ出張し昭和二年再び北海道建設事務所長となり同三年東京鐵道局建設事務所長に同六年熱海建設事務所長兼務を命ぜられ次いで建設局工事課長となり今日に至る家族は尙三男雄司（大一〇、八生）四男慶吾（同一三、五生）五男健六（昭二、一二生）あり弟武次郎（明二一、一二生）同妻クノ（同三九、九生、熊本、佐藤憲猷妹）は共に分家せり（東京市赤坂區氷川町四六電青山一〇〇九）

參照‖※男爵山下知彥の項

竹村勘忠　正四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、航空研究所員、東京科學博物館學藝委員、石川縣士族

妻　カツ　明二二、二生、北海道、貴族院議員金子元三郎養子
男　一夫　明四三、一生、日本興業銀行々員經濟學士

君は石川縣士族竹村親愛の二男にして明治十五年四月を以て生れ同二十六年亡兄親義の後を承け家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し同三十九年同大學助教授となり大正六年機械工學研究の爲英佛米各國に留學し歸朝後東京帝國大學教授に任じ後文部技師を兼ぬ爲に工學博士の學位を受け現時前記の官職にあり二男正彦（大元、九生、東北帝大工學部在學）は分家し三男元朗（大一一、一〇生）は東京府人金泉智一の死跡を相續し長女美枝子（明四三、一生、府立第二高女出身）は花王石鹼株式會社取締役長濱六郎に二女敏子（大五、一生、御茶の水高女出身）は日本興業銀行員經濟學士江口最に嫁せり（東京市豊島區巢鴨一ノ九三電大塚一一〇九）

竹村清雄　從四位勳四等、醫師、大阪府在籍

妻　くに　明三一、二生、仙臺、加藤清吉養女

君は大阪府人竹村茂の長男にして明治二十四年八月十日を以て生れ大正七年家督を相續す醫師たり弟直治（明二七、一生）同省吾（同三〇、一二生）妹壽琴子（同二八、一生）同省吾（同三〇、一二生）妹壽琴子（同四三、八生）は各分家し妹芳子（同八、八生）は大阪府人梅鉢安太郎弟楠太郎に嫁せりA三二六（堺市市之町二電一一六）

竹村源之助　金物商　京都府在籍

妻　トメ　明二四、九生、京都、松永平吉二女
男　源三郎　大四、一生、三高在學

君は京都府人先代源三郎の四男にして明治十八年十二月三十日を以て生れ大正二年家督を相續す夙に京都第一商業學校を卒業し金物商を營む家族は尙姉ウメ（明九、一〇生）ありA六八（京都市上京區衣棚通構木町上ル門跡町二八七電上三七一五）

竹村幸次郎　竹村製帽所、賣藥商　滋賀縣在籍

父　信三　嘉永二、四生、滋賀、長崎伊平二男
母　しん　安政二、九生、組父慣治郎長女
妻　しつ　明一八、七生、滋賀、西村平吉長女
男　信幸　明四三、三生
　　節　明四五、一生

君は滋賀縣人竹村信三の三男にして明治十六年二月二日を以て生れ大正十五年家督を相續す竹村製帽所と稱し賣藥商を營み皮膚藥セーキンの發賣元として知られる家族は尙三男幸三（大五、四生）二女壽子（同一〇、八生）ありA二七三五B七五〇（大阪市東區南久太郎町二ノ四一電長船場一五〇）

竹村昌次　從四位勳四等、浦和高等學校教授、兼東京高等學校教授、長野縣在籍

母　とよの　嘉永六、八生、長野、北澤伸右衛門長女
妻　ヤス　明二〇、六生、東京、士、岡田乾兒二女

君は長野縣人竹村兼三の二男にして明治九年五月を以て生る同三十五年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し山口高等學校教授中央大學講師海軍々令部編纂事務囑託維新史料編纂官等を歷任し現時浦和高等學校教授兼東京高等學校教授たり家族は尙ほ亡兄昌計妻シズノ（明二六、一二生、熊本、唐津正長女）及甥昌靖（明三六、七生、亡兄昌計長男、現戸主）の外弟妹あり弟英昌（同一九、一一生）同妻てい（同二七、二生、兵庫、上谷兼造妹）及其子女弟昌章（同二七、一〇生）同妻ヲトラ（同三五、三生、廣島、後藤柳兵衛五女）及其三女妹いつ（同一四、四生）あり姉ためよ（同四、一一生）は長野縣人北澤壽太郎に妹いくの（同一六、二生）は同縣人野澤五平長男泰治郎に同せつ（同二一、一二生）は同縣人河野吉十郎長男敏輔に同しうじ（同二五、一一生）は同縣人竹村熊吉二男錠重に嫁せり（浦和市常盤區七一ノ五）

竹村清次郎　竹村製帽所、賣藥商　滋賀縣在籍

妻　フジ　明一一、八生、京都、竹村藤兵衛二女
男　信一　明三四、一二生、京大經濟學部出身
妻　カツ　明二二、二生、北海道、貴族院議員金子元三郎養子
男　一夫　明四三、一生、日本興業銀行々員經濟學士

君は石川縣士族竹村親愛の二男にして明治十五年四月を以て生れ同二十六年亡兄親義の後を承け家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し同三十九年同大學助教授となり大正六年機械工學研究の爲英佛米各國に留學し歸朝後東京帝國大學教授に任じ後文部技師を兼ぬ爲に工學博士の學位を受け現時前記の官職にあり二男正彦（大元、九生、東北帝大工學部在學）は分家し三男元朗（大一一、一〇生）は東京府人金泉智一の死跡を相續し長女美枝子（明四三、一生、府立第二高女出身）は花王石鹼株式會社取締役長濱六郎に二女敏子（大五、一生、御茶の水高女出身）は日本興業銀行員經濟學士江口最に嫁せり（東京市豊島區巢鴨一ノ九三電大塚一一〇九）

竹村幸次郎　竹村製帽所、賣藥商　滋賀縣在籍

父　信三　嘉永二、四生、滋賀、長崎伊平二男
妻　ヨシ　明一五、七生、大阪、奥西豊吉二女
母　とま　明一五、七生、大阪、奥西豊吉二女
妻　こう　明三七、四生、大阪、大西佐七三女
男　誠三　昭六、九生

君は兵庫縣人先代次太郎の長男にして明治三十五年八月三十一日を以て生れ大正十四年家督を相續す貿商を營む家族は尙長女幹子（大一五、一二生）妹チエ子（同六、一生）弟章（同一一、六年）ありA三七二（兵庫縣武庫郡本庄村青木東畑三二八）

竹股一郎　從四位勳四等、鐵道技師、建設局工事課長、山形縣士族

妻　きよ　明二〇、一二生、山形、水野廉平長女、米澤高女出身
男　綱雄　明四三、一生、東北帝大法學部在學
女　三穂子　大六、六生、雙葉高女在學

君は山形縣士族竹股健次の長男にして明治十五年八月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業同四十一年鐵道院技師に任じ大正九年鐵道技師となり北海道建設事務所長を命ぜられ同十四年歐米諸國へ出張し昭和二年再び北海道建設事務所長となり同三年東京鐵道局建設事務所長に同六年熱海建設事務所長兼務を命ぜられ次いで建設局工事課長となり今日に至る家族は尙三男雄司（大一〇、八生）四男慶吾（同一三、五生）五男健六（昭二、一二生）あり弟武次郎（明二一、一二生）同妻クノ（同三九、九生、熊本、佐藤憲猷妹）は共に分家せり（東京市赤坂區氷川町四六電青山一〇〇九）

參照‖※男爵山下知彥の項

竹村勘忠　正四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、航空研究所員、東京科學博物館學藝委員、石川縣士族

妻　カツ　明二二、二生、北海道、貴族院議員金子元三郎養子
男　一夫　明四三、一生、日本興業銀行々員經濟學士

君は石川縣士族竹村親愛の二男にして明治十五年四月を以て生れ同二十六年亡兄親義の後を承け家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し同三十九年同大學助教授となり大正六年機械工學研究の爲英佛米各國に留學し歸朝後東京帝國大學教授に任じ後文部技師を兼ぬ爲に工學博士の學位を受け現時前記の官職にあり二男正彦（大元、九生、東北帝大工學部在學）は分家し三男元朗（大一一、一〇生）は東京府人金泉智一の死跡を相續し長女美枝子（明四三、一生、府立第二高女出身）は花王石鹼株式會社取締役長濱六郎に二女敏子（大五、一生、御茶の水高女出身）は日本興業銀行員經濟學士江口最に嫁せり（東京市豊島區巢鴨一ノ九三電大塚一一〇九）

竹村清雄　從四位勳四等、醫師、大阪府在籍

妻　くに　明三一、二生、仙臺、加藤清吉養女

君は大阪府人竹村茂の長男にして明治二十四年八月十日を以て生れ大正七年家督を相續す醫師たり弟直治（明二七、一生）同省吾（同三〇、一二生）妹壽琴子（同四三、八生）は各分家し妹芳子（同八、八生）は大阪府人梅鉢安太郎弟楠太郎に嫁せりA三二六（堺市市之町二電一一六）

竹村源之助　金物商　京都府在籍

妻　トメ　明二四、九生、京都、松永平吉二女
男　源三郎　大四、一生、三高在學

君は京都府人先代源三郎の四男にして明治十八年十二月三十日を以て生れ大正二年家督を相續す夙に京都第一商業學校を卒業し金物商を營む家族は尙姉ウメ（明九、一〇生）ありA六八（京都市上京區衣棚通構木町上ル門跡町二八七電上三七一五）

竹村幸次郎　竹村製帽所、賣藥商　滋賀縣在籍

妻　フジ　明一一、八生、京都、竹村藤兵衛二女
男　信一　明三四、一二生、京大經濟學部出身
妻　ヤス　明二一、九生、甲南女學校出身
女　スミ　大二、三生、長男信一妻、佐賀、西岡幸兵衛長女

君は京都府人出口平次郎の二男にして明治八年十一月十六日を以て生れ先代フジの入夫となり同三十四年家督を相續す夙に實業界に入り現時竹村商店社長たる傍ら前記諸會社の重役たり長女加代（明四一、九生、京都市立高女出身）同夫忠男（同三三、一生、大阪、澁川忠二郎四男）は京都府人竹村タカの養子となれりA七三八六（兵庫縣武庫郡住吉村反高林一八七六電御影二七一四）

參照‖※阿部彥太郎の項

竹村誠也　從五位勳四等、地方技師、愛知縣參事兼勤務、工場監督官、愛知縣士族

妻　けい　明一五、六生、愛知、星野則保姉
名古屋市立第一高女出身
男　良二　明三六、一〇生、三女ゆき江夫、名古屋高工出身
女　ゆき江　明四三、三生、養子省吾妻

君は愛知縣士族にして明治九年九月を以て生る同三十一年東京高等工業學校機械科を卒業し海軍技手愛知縣技手を經て大正四年岐阜縣技師工場監督官に任ぜられ同八年愛知縣に轉じ今日に及び現時工場監督官警察技師たり長女ウメは日本硝子會社員榊原辰雄に嫁せりA一六八（名古屋市東區南田町一ノ一電東五八五五）

竹村大太郎　昭和銀行巡視　神田支店長　東京府在籍

妻　モヨ　明二七、八生、東京、永井尙行四女
男　正弘　大五、一一生
女　道子　大七、一〇生

君は東京府人蛯江靜一の庶子にして明治二十三年九月を以て生れ先代權六の養子となり同三十三年家督を相續す大正三年慶應義塾大學理財科を卒業し現時昭和銀行神田支店長たり家族は尙二女生子（大一〇、二生）三女紘子（昭四、一一生）あり（東京市荏原區中延町一一四〇）

竹村春吉　地家主　東京府在籍

妻　ヨシ　明一一、四生、東京、渡邊儀治姉
男　純一　明三五、九生、竹村商會主、法大經濟學部出身
男　良二　明四四、九生、東京工業學部出身
女　美代子　明四四、七生、東京女學館出身

君は東京府人安倉龜八の二男にして明治三年十月十日を以て生れ先代伊之助の養子となり同十八年家督を相續す夙に製紐工場を起し機械製紐の端緒を開き漸次發展の域に達せしも大正三年之を他に讓り現時地家主たり長女キヌ（明三一、三生、府立第三高女出身）は東京府人金子源右衛門長男工學士源一郎に二女チエ（明三八、八生、出身校同上）は同府人柳下友次に嫁せりA一二八九（東京市麻布區廣尾町七八電高輪七一一五）

竹村松兵衛　大阪府在籍　大阪株式取引所取引員

妻　ヒサ　明七、六生、大阪、豊田治助二女
男　一郎　明二八、二生、現戸主
婦　花　明三〇、一二生、長男一郎妻、大阪、黒野元吉長女
婦　壽琴　明三一、一生
男　壽二郎　明三六、八生、二男壽二郎妻、大阪、奥西平次郎二女
女　艶子　明三、一一生

君は大阪府人先々代松兵衛の二男にして明治元年十一月七日を以て生れ同二十一年先代兄松兵衛の後を承け家督を相續す大正四年前名松之助を改め襲名し昭和七年退隱す現時大阪株式取引所取引員たり家族は尙孫昇一（大五、七生、長男一郎長男）同彌太郎（同六、一一生、同二男）同富貴子（同一三、一二生、二男壽二郎二女）同義武（昭二、八生、同長男）あり長女八重（明二四、四生）は大阪府人植村治郎兵衛の養子治三郎に嫁せりA二四〇六B五九五（大阪市東區今橋二ノ七電本局一七四・九九二）

竹村良克　横濱正金銀行㊞檢査役　新潟縣士族

父　良貞　文久元、一一生、現戸主
妻　よし　明二四、三生、東京、元大蔵省判事大倉鉦藏長女、女子學習院出身
男　良典　大四、一〇生、慶大豫科在學
女　百合子　大八、一一生、女子學習院在學

君は新潟縣士族現戸主竹村良貞の長男にして明治十二年二月四日を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し同年横濱正金銀行に入り本店里昂東京上海漢口濟南紐育哈爾賓神戸各支店長を經て昭和二年同行檢査役に就任して今日に至る家族は尙二男貞雄（大五、一一生）二女正子（同九、一二生、佛英和女高女在學）あり（東京市淀橋區柏木四ノ九六五五電四谷一一三〇）

參照‖大倉鉦藏、竹村良貞の項

竹村良貞　第一火災海上保險㊞監査役　新潟縣士族

妻　チク　文久三、一〇生、新潟、士、江川可藏姉
男　良克　明一二、二生
男　實　明一八、七生
婦　安喜　明三〇、一一生、二男實妻、元海軍軍醫總監石原純固五女

君は新潟縣士族竹村太平の長男にして文久元年十一月を以て生れ後家督を相續す夙に慶應義塾に學び現時前記實社の重役たり明治二十四年帝國通信社を創立して其社長となり經營三十餘年又日本プレート會社其他の取締役たり事あり其間東京市會議員同參事會員麹町區會議長に擧げられ明治三十七年以來二回に亙り衆議院議員に當選す家族は尙長男良克の子女の外孫敏子（大一〇、一〇生、二男實長女）同直（同一四、二生、同長男）同子代（同一五、一生、同二女）あり長女ハナ（明一六、一〇生）は大分縣士族齋藤謙に嫁せり（東京市淀橋區柏木四ノ九六五電四谷一一三〇）

參照‖竹村良克の項

竹村利三郎　竹村ビルブローカー㊞導務取締役　日本電化工業㊞監査役

妻　クラ　明一七、七生、廣島、金子コウ妹
男　旗夫　明四〇、一生、芝浦製作所勤務、早大理工科出身

君は長野縣平民竹村利兵衛の長男にして明治四年二月二十一日を以て生れ大正四年家督を相續し明治三十二

年七月東京帝國大學法科を卒業し直ちに二十銀行に入り本店副支配人小樽支店支配人となり同行の第一銀行と合併するや第一銀行本店調査役大阪支店副支配人四日市熊本京城各支店支配人を歷任し大正十年之を辭し獨立して外國爲替及金融仲立業を營み現に前記會社の重役たり家族は尙二男猛（大三、五生）三男規（大五、一生）あり（東京市豐島區西巢鴨二ノ二五七〇電大塚一八二二六「事務所」日本橋區通二ノ一加島ビル電日本橋三四八六・三四八七）

竹本武夫

妻　とく　明五、六生、愛知、佐藤宗七妹
男　辰夫　明三七、八生
婦　勝子　明三七、九生、長男辰夫妻、京都牧野正唯妹
女　喜多子　明四四、七生
男　眞澄　大二、六生

君は和歌山縣士族竹本長の弟にして明治十二年十二月二十五日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す興行主にして現時岐阜土地興業會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙倚久子（大一五、五生、長男辰夫長女）同敬一（昭四、六生、同長男）あり四男正雄（大六、八生）は愛知縣人佐藤關五郎の養子となれりA一一八四（名古屋市中區門前町五ノ三八電本局一七四一）

參照＝牧野正唯の項

岐阜土地興業㈱社長、マキノ映畫關東配給所㈱取締役、興行主
愛知縣在籍

竹本芳造

妻　アイ　明一八、九生、大阪、春木吉太郎長女
男　文次郎　明四一、七生
婦　秀　明四三、一一生、長男文次郎妻、近藤五郎二女

君は京都府人竹本岩吉の三男にして明治十九年二月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役として知られるA三八四（大阪市住吉區遠里北野町二〇電住吉二六四〇）

福助足袋、福助商事各㈱取締役、泉州絞羽㈱監査役、大阪府在籍

竹屋金太郎

正五位、東京高等工藝學校教授
東京府在籍

妻　しで　明二九、八生、東京、青山菊次郎二女
男　精一　大一三、九生
女　春江　大七、五生

君は東京府人淺川權次の七男にして同權八の弟なり明治十八年一月を以て生る同二十六年同府人竹屋秀吉の養子となり同年家督を相續す同四十五年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し大正九年英佛獨米各國へ留學し同十一年歸朝と同時に東京高等工藝學校教授に任ぜられ今日に及ぶ家族は尙二女照子（大一二、九生）四女佐喜子（昭二、一〇生）二男正昭（同四、八生）三男正久（昭六、五生）四男正和（同九、三生）あり（東京市中野區昭和通一ノ一二）

參照＝淺川權八の項

從四位勳四等、子爵
舊公卿家

竹屋春光

妻　壽美子　明二七、三生、公爵山縣有道妹
男　康光　大九、五生
女　千代子　大五、五生
　　眞佐子　大六、七生

當家は權大納言廣橋仲光の男兼俊の後なり兼俊分れて一家をたし家名を竹屋と稱す世々文筆を以て朝廷に仕ふ後三代を經て一時中絕す廣橋總光の二男光長之を再興し七代を經て先々代光昭に至り明治十七年子爵を授けられ掌典雅樂部長御歌所參候等に歷任す其孫威光其後を繼ぎ君に至る君實は侯爵松平康昌の叔父にして子爵藤波茂時の兄なり明治十六年三月六日を以て生れ大正十六年三月九日を以て生れ子爵を相續し貴族院議員子爵仰付けらる義に內閣總理大臣秘書官臺灣總督府秘書官等に歷任し又貴族院議員に選ばれ現に拓務省顧託たり家族は尙二男忠光（大一〇、八生）大叔母津根子（明五、四生、皇太后宮職典侍）同志計子（同九、五生、皇后宮女官長）あり養子（明三四、八生、御茶の水高女出身）は愛媛縣知事一戶二郎に嫁せり（東京市牛込區南町五電牛込一六一四）

參照＝男爵一木喜德郎、同田分平、川上俊彥、森島庫太、※荒木寅三郎※尾崎元次郎※黑田三樹※杉村七太郎※高橋鍊の項

從四位勳四等、子爵
舊公卿家

竹屋光昭

妻　榮子　明二七、三生、公爵山縣有道妹
男　道雄　明三六、七生、從六位、第一高等學校教授、文學士
女　文子　明三七、九生、御茶の水高女出身
男　謙三郎　明四一、一生、大藏省營繕管財局工務課勤務、工學士
婦　千代子　大二、一〇生、三男謙三郎妻、川上俊彥三女、御茶の水高女出身
男　和達　明四二、八生、九州帝大工學部冶金學科在學

君は靜岡縣人岡田良一郎の三男にして同分平の養叔父一木喜德郎の弟なり明治五年二月を以て生れ先代謙三の養子となり大正二年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し第一銀行京城支店長本店調査部長常任監査役となり現時遼州銀行取締役にして同縣多額納稅者に列し直接國稅六百七十七圓を納む義に東京石川島造船所石川島自動車製作所第一銀行東京製鋼東洋生命保險小倉築港淺野小倉製鋼等各銀行會社の重役たりし事あり家族は尙五男紘（大四、一生）孫達也（昭四、九生、長男初雄長男）あり長女和佐子（明三四、八生、御茶の水高女出身）は愛媛縣知事一戶二郎に嫁せり（東京市牛込區南町五電牛込一六一四）

參照＝男爵一木喜德郎、同田分平、川上俊彥、森島庫太、※荒木寅三郎※尾崎元次郎※黑田三樹※杉村七太郎※高橋鍊の項

從五位勳四等、子爵
舊公卿家

竹山純平

妻　やす　靜岡縣多額納稅者、遠州銀行㈱取締役、靜岡縣在籍
養母　逸　安政三、三生、東京、立岡久次郎姉
男　初雄　明一三、八生、靜岡、田代英作妹
婦　みち　明三三、一〇生、宮內省勤務、スコットランドエヂンバラ大學出身
男　道雄　明四〇、九生、長男初雄妻、京都森島庫太二女、京都府立第一高女出身
女　文子　明三六、七生、從六位、第一高等學校教授、文學士
男　謙三郎　明四一、一生、大藏省營繕管財局工務課勤務、工學士
　　大二、一〇生、三男謙三郎妻、川上俊彥三女、御茶の水高女出身
　　俊彥三郎　明四二、八生、九州帝大工學部冶金學科在學

君は靜岡縣人岡田良一郎の三男にして同分平の養叔父一木喜德郎の弟なり明治五年二月を以て生れ先代謙三の養子となり大正二年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し第一銀行京城支店長本店調査部長常任監査役となり現時遼州銀行取締役にして同縣多額納稅者に列し直接國稅六百七十七圓を納む義に東京石川島造船所石川島自動車製作所第一銀行東京製鋼東洋生命保險小倉築港淺野小倉製鋼等各銀行會社の重役たりし事あり家族は尙五男紘（大四、一生）孫達也（昭四、九生、長男初雄長男）あり長女和佐子（明三四、八生、御茶の水高女出身）は愛媛縣知事一戶二郎に嫁せり（東京市牛込區南町五電牛込一六一四）

參照＝男爵一木喜德郎、同田分平、川上俊彥、森島庫太、※荒木寅三郎※尾崎元次郎※黑田三樹※杉村七太郎※高橋鍊の項

從五位勳四等、子爵
舊公卿家

竹山文吉

吳服商
東京府在籍

妻　トシ　明二一、一〇生、新潟、五十嵐佐衛門長女
男　直一　大六、二生
女　文　明四四、一一生
女　千代子　大三、八生
　　芳子　大八、七生

君は新潟縣人竹山竹四郎の弟にして明治十四年十二月を以て生れ大正六年分家し一家を創立す吳服商を營む家族は尙二男博二（大一二、六生）三男光三（昭二、一〇生）四男幸雄（同六、四生）ありA四七九B二三〇（東京市本郷區駒込林町二一九電小石川七五七八）

竹山正男

妻　ロク　明四四、一〇生
男　初男　明四四、二生
　　竹節　明四三、二生

君は新潟縣人竹山屯の長男にして明治六年九月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し遺業を繼ぎ竹山病院を經營し傍ら前記銀行會社の重役にして養に新潟市參事會員に推され事あり長女櫻（明三六、三生）は北海道醫科大學教授眞崎健夫に二女菊野（同三七、三生）は新潟縣人藤田簡吉長男耕二に妹イツ（同一三、一〇生）は醫學博士津田敬義に嫁し弟九朗（同二二、一一生、醫學博士）同妻謙（同二五、一二生、新潟、古川敗衞四女）は其一子を伴ひ分家し同十朗（同二八、一生）同妻信（同三六、八生、東京、島芳藏長女）も亦分家せり（新潟市上大川端通六番町）

參照＝藤田簡吉の項

二葉社、新潟信託各㈱取締役、新潟貯蓄銀行、新潟電鐵、イタリヤ軒各㈱監査役、新潟電力㈱相談役
竹山病院長、醫師、新潟縣在籍

竹若德次郎

妻　ヌイ　明二五、一生、竹若惣兵衞長女
男　平八郎　大二、一生

君は福岡縣人松尾貞治の二男にして明治十九年一月八日を以て生れ竹若家に入り大正五年弟源三郎方より分れて一家を創立す油源と稱し海產物問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男泰男（大一〇、一二生）二女壽子（昭二、四生）ありA五九五B一九七（福岡市千年町電五二九）

博多魚市場、福岡魚市場各㈱取締役、油源、海產物問屋業
福岡縣在籍

武鶴次郎

養母　ケフ　明七、九生、山口、士、野村盛康叔母、京都高女出身
女　和江　大六、一一生

君は宮城縣人桑島龜次郎の弟にして明治十六年五月五日を以て生れ大正六年先代和三郎の養子となり昭和八年家督を相續す瓦斯電氣航空艦船及自動車用諸計器製作業を營み品川製作所長たり先代和三郎は東洋電機製造日本曹達東京瓦斯各會社の重役たり家族は尙二女千鶴子（大九、一生）あり養妹敏子（明三二、一一生、跡見高女出身）は東京府人三輪善兵衞長男善太郎に嫁せりA三五一三一B二〇四（東京市芝區高輪南町三〇電高輪二六七九）

品川製作所長、瓦斯計器製作業
東京府在籍

參照＝三輪善兵衞の項

資產家
兵庫縣在籍

武文彥

妻　たき　明二一、五生、兵庫、島谷久七長女
男　一彥　明四一、五生
　　正基　大三、一一生

君は兵庫縣人武藤の三男にして明治十六年五月五日を以て生れ大正六年分家し一家を創立す資產家たり家族は尙二女成子（昭四、六生）ありA一四八（神戶市湊區平野五宮町二七〇電元町二四二六）

從五位勳四等、鐵道局技師、東京鐵道局運輸課長、兵庫縣在籍

武井明通

父　太吉郎　慶應二、五生、現戶主
母　てつゑ　明六、八生、兵庫、井上玄海長女
妻　富美　明三三、七生、岐阜、小原半治二女

君は兵庫縣人武井太吉郎の長男にして明治二十三年五月二日を以て生る大正三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し直ちに鐵道院東部鐵道管理局に勤務し大正九年名古屋鐵道局に轉じ同年鐵道局技師に任ぜられ爾來仙臺鐵道局秋田關島各運輸事務所長に又昭和三年以後門司鐵道局廣島及下關各運輸事務所長を勤め爾後仙臺及大阪鐵道局各運輸課長を經て昭和八年東京鐵道局運輸課長を命ぜられ今日に至る大正十五年より昭和三年に渉り歐米に出張を命ぜらる「機關車操縱法」「機關車檢修法」「機關車名稱辭典」の著書あり圍碁は初段の資格を有す家族は尙妹幸子（同三三、八生）あり妹政子（明二六、二生）弟敎通（同二八、八生）同義通（同三二、一二生）（は各分家せり（東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九〇二電四谷七二七〇）

從四位勳二等、前農林省囑託
東京府在籍

武井鈴男

妻　美芙　明一七、一一生、熊本、士、岩男二郎從妹
男　一雄　明四一、二生
　　素男　明四一、八生
　　健雄　明四三、一〇生
女　喜美子　大二、九生

君は愛媛縣人武井五藏の弟にして明治三年七月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同三十年農商務省貴族院議員、上伊那郡選出、正五位、勳四等、子爵、貴族院議員、上伊那郡選出、正五位、勳四等、子爵、片倉製絲紡績、片倉生命保險各㈱取締役、昭和絹紡下、富國火災海上保險各㈱監査役、横濱取引所理事、長野縣在籍

武井覺太郎

妻　しげ子　明三三、五生、三女俊子夫、長野片倉武雄弟
養子　方介　明三九、二生、養子方介妻
女　俊子　明一五、一一生、長野、細井正雄妹

君は長野縣人先代覺太郎の長男にして明治元年九月五日を以て生れ同三十八年家督を相續し前名寅太郎を改め襲名す夙に實業界に入り數回上伊那生絲同業組合長並長野縣生絲同業組合聯合會評議員等に擧げらる又長野縣會議員に推され現時前掲各銀行會社の重役にして直接國稅九百二十三圓を納め昭和九年二月長野縣多額議員補缺選擧に當り當選貴族院議員に勅任せらる家族は尙孫陽一（大一五、二生、養子方介長男）あり妹はる（明三、四生）は長野縣人重盛富士太郎に嫁せりA九二七七（東京市本郷區駒込追分町三一電小石川二五七八）

參照＝片倉武雄※片倉兼太郎※鈴木格三郎の項

判任官見習となり爾来農商務技師林務官林野整理局技師帝林技師山林技師林務技師青森東京各大林區署長歟林技師山林局業務課長等に歷任し退官農林省囑託たりしも現時閑地にあり家族は尙四男秀雄（大九、一一生）あり（宛東京市杉並區上荻窪町五五〇）

武井泉三郎

蒲團商
愛知縣在籍

妻　ゆう　明一八、三生、愛知、浦山小兵衛二女
男　榮一　明二九、三生
婦　利惠　明三六、三生、長男榮一妻、大阪鈴木藤十郎二女
男　正二　明四〇、二生
　　直四郎　明四三、二生
女　信子　大二、一〇生

君は愛知縣人三輪其藏の十三男にして明治五年五月三日を以て生れ翌年同縣人武井辰三郎の養子となり同二十四年家督を相續す蒲團商たり家族は尙五男五郎（大七、六生）孫英子（同一五、二生、長男榮一長女）同茂子（昭三、一二生、同二女）同淳一（同五、七生、同長男）同静二（同八、三生、同二男）あり二男勇二（明三四、三生）は岐阜縣人和田光次郎の養子となり長女辰子（同三七、一一生）は岐阜縣人和田光次郎に嫁せりA五三〇B八七（名古屋市西區御幸本通六ノ一五電木局一〇〇二）

武井大助

正五位勳三等、海軍主計少將、海軍經理學校教官、東京府在籍
妻　千代　明二六、二生、兵庫、黑河内信鋼妹、神戸女學院出身

君は茨城縣人武井松太郎の三男にして明治二十年四月を以て生れ大正九年兄三左衛門より分れて一家を創立す明治四十二年東京高等商業學校を卒業し同年海軍少主計に任ぜられ昭和八年海軍主計少將に累進す其間米國駐在海軍省經理局々員海軍大學校教官海軍經理學校教官ワシントン會議隨員海軍技術研究所會計課長海軍經理學校教頭海軍艦政本部出仕等を經て現時前記の職に在りA一五三（東京市淀橋區下落合一ノ四一六電大塚三六〇七）

参照‖※木下國明の項

武井尹人（タツヒト）

所、兵庫縣在籍
母　愛子　明八、二生、組父伊右衛門長女
母　通子　明三七、三生、京都、田中一馬長女
男　功　昭四、一生

君は兵庫縣人武井幾四郎の長男にして明治三十二年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す京都帝國大學法學部に學び現時京都工商會社監査役にして傍ら武井本家事務所を看る蘇に町内耕地整理委員長に推さる家族は尙長女清子（昭六、三生）弟捷（明三七、二生、明大出身、兵庫農工銀行員）妹静子（同四一、一生、神戸親和高女出身）弟康夫（同四四、一二生、慶大出身）同俊男（大六、八生、甲南高等學校在學）あり同陸雄（明三三、六生、法大出身、鉛粉檢料會社員）は同妻英子（京都、鳥津源藏二女）及其一子と共に分家せりA一二四七六（神戸市須磨區板宿町一ノ二〇）

参照‖鳥津源藏、田中一馬※鳥津源吉※鳥津常五郎※鈴木庸輔※田中二郎※田中忠雄※原田鑑之助※深田政太郎※携谷幹次郎の項

武井民太郎

鑄物商
東京府在籍
妻　ふく　明九、六生、東京、山崎清三郎妹
男　俊治　明三九、八生
男　泰三　明四二、一生

君は東京府人武井庄太郎の長男にして明治四年九月二日を以て生れ同三十四年鑄物機械製作業を營む家族は尙四男重男（大四、四生）五男静治（同六、二生）あり二女豊子（明三七、三生）は東京府人吉村利一長平第正英に妹里（同二三、四生）は東京府人武井利作に嫁し同きん（同二〇、三生）は同縣人相場武次郎の家督を相續せりA一三二七（東京市芝區佐久間町一ノ五四電芝三五二五）

武井友貞

北海郵船㊟取締役
東京府士族
妻　ハル　明三二、五生、山形、武田利惣治二女
男　俊次　大七、八生、茨城、武井俊夫二男
婦　千枝　明四四、八生、日大在學

君は茨城縣士族武井友義の長男にして文久三年二月を以て生れ明治三十四年家督を相續す現時北海郵船會社取締役たり二女章（明三三、一二生）は東京府人讃田莊一郎に嫁せり（東京市蒲田區蒲田町一八一）

武井守成

正四位勳四等、男爵、式部職儀式課長、東京市華族
母　ふじ　安政五、七生、住友喜三郎長女
妻　花子　明三〇、一生、公爵岩倉具榮叔母
男　守久　大四、九生

當家は先代正三位勳一等守正より家名を揚ぐ守正は舊姫路藩士にして夙に勤王の志を懷き東奔西走國事に盡瘁す明治元年召されて太政官祿事となり爾來式部官庶務司判事白石縣權知事平縣權令内務少丞同大書記官農商務大書記官參事院員外議官補農商務省會計局長同山林局長鳥取石川各縣知事に歷任し貴族院議員に勅選せられ後樞密顧問官に親任せらる同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる又安田系の諸銀行會社の重役として實業界に雄飛し印籠蒐集の第一人者を以て著聞せり君は其二男にして明治二十三年十月を以て生れ大正十五年十二月家督を相續し昭和二年貴族院伯爵互選議員に當選し同年東京外國語學校伊語科を卒業し伊太利に留學し歸朝後實業界に入り後更に宮内省に奉職し現時式部官にして儀式課長に補せられ曩に樂聖長を兼ね公爵の傍ら「オルケストラ・シンフォニカ・タケヰ」なる合奏團を主宰し作曲並に音樂評論をなす家族は尙長女昭子（大九、九生）二女直子（昭二、六生）愛妹裕子（大一四、一生、男爵新田忠誠孫）養弟茂忠（同一五、九生、同上）あり婦和（明一〇、一一生）同夫鑑造（同三、五生、鳥取士、牧野伯爵四男、理學士）は其子女を伴ひ弟守域（同二七、八生、慶大出身）同守知（同二八、一〇生、農大出身）同守雄（同三一、九生）同守喜（同三四、四生、上智大學出身）も亦各分家し姉とし（同一四、四生）は神奈川縣人箕田長三郎に同みつ五（同一九、八生）は富山縣人小幡酉吉に妹富子（同三七、八生、女子學習院出身）は男爵北畠義郎に嫁せり（東京市本郷區湯島三組町五九電下谷三三四）

参照‖公爵岩倉具榮、男爵北畠義郎、小幡酉吉、箕田長三郎※公爵桂廣太郎※侯爵井上三郎※侯爵西郷從德※伯爵戸田氏共※子爵岩倉具明※子爵松平慶民※子爵森清※男爵南岩倉具威※男爵岩倉具德※今村榮三の項

武井與四郎

桐生瓦斯㊟社長、除川組、土木人夫請負業、東京府在籍
母　もと　明一一、一生、群馬、小荷田五平長女
男　增吉　大八、四生

君は群馬縣人井上五十七の二男にして明治二十五年五月を以て生れ先代武井與四郎の養子となり大正十一年家督を相續し前名新三郎を改め與四郎を襲名す現時桐生瓦斯會社の社長として知られ除川組と稱し土木人夫請負業を營む家族は尙長女綏子（大九、一二生）二男孝藏（同一三、三生）三男由夫（同一五、八生）二女君枝（昭三、一一生）あり三女胡江（同五、一二生）は群馬縣人長谷見要市弟文治郎の養子となれりA一三六B一〇〇（東京市芝區新堀町三五電三田三十〇四）

武井理三郎

日本製行㊟社
群馬縣在籍
妻　よを　明二三、九生、群馬、中村源次郎二女
女　久子　大三、一〇生

君は群馬縣人武井榮次郎の五男にして明治二十年二月二十日を以て生る夙に東京高等商業學校を卒業し日本銀行に入り大阪支店調査役紐育代理店監督役を經て現時同行神戸支店長たり家族は尙二女和子（大一四、一生）兄重三（明一七、一一生、現戸主）同妻まつ（同二五、三生、群馬、片井和吉三女）及其子女ありA八四四（神戸市葺合區熊内町五ノ八一）

武居高四郎

正五位、京都帝國大學教授、工學部勤務、滿洲國國都建設局顧問
兵庫縣在籍
妻　妙子　明三九、七生、理學博士小川琢治二女、京都府立第一高女及同專攻科出身
男　弘量　大一四、一生

君は明治二十六年八月二日を以て生る大正六年京都帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大阪市技師内務技師を歷任同十五年京都帝國大學助教授となり昭和三年同大學教授に任ぜられ工學部に勤務し現在に至る滿洲國國都建設局顧問たり讀書ゴルフを趣味とす家族は尙二男有恒（昭二、三生）三男和之（同五、二生）四男誠之（同七、六生）あり（宛京都市上京區衣笠殿町一三〇電上四九五〇）

参照‖小川琢治の項

武居巧

大阪朝日新聞社員、編輯局勤務、論説委員、兵庫縣在籍
妻　不二　明三三、七生、榮父綾藏三女、兵庫縣立第一高女出身
男　明　大一五、五生

君は熊本縣士族下田七太郎の二男にして明治二十四年九月七日を以て生れ先代故實業家綾藏の養子となり昭和七年十二月家督を相續す大正五年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し大阪新日新聞社に入り現に編輯局勤務にして論説委員たり美術釣魚の趣味あり家族は尙長女壽喜子（大一二、二生）二男精（昭三、七生）三男教（昭五、一二生）あり（西宮市結善町一五電一六二〇）

武居哲太郎

片倉殖産㊟取締役
長野縣士族
父　文炳　嘉永六、一〇生
母　しゅん　安政四、一二生、日野利八郎四女
妻　いその　明二一、六生、長野、片倉武雄妹
榮子　明三六、一生、二女妙子夫、長野
三千夫　明四四、五生、榮子三千夫妻
女　妙子　明四四、五生、榮子三千夫妻
女　青枝　大二、一生

君は長野縣士族武居文炳の長男にして明治十五年九月を以て生れ同二十一年家督を相續す現時片倉殖産會社取締役にして蘇に片倉合名會社支配人たり寄あり家族は尙弟孝次郎（明二三、七生、片倉製絲紡績會社大邱製絲所長）同妻浪江（同三二、九生、長野、濱貫一姉）及其子女あり弟三吉（同二九、一〇生、京都帝國大學教授）は分家し長女絢子（同四二、三生）は片倉武雄長男亮平に嫁せり（長野縣諏訪郡平野村）

参照‖片倉武雄、堀口きみこ※片倉兼太郎の項

武石義夫

大分縣農工銀行、耶馬溪鐵道、和光堂各㊟取締役、農業
大分縣在籍

武泰商店、丸正工場各㊟代表取締役、武市木材㊟專務取締役、武市㊟代表社員、東京府在籍
妻　都　明二二、九生、養父泰太郎二女
男　正雄　明四二、九生
男　英吉　明四四、八生
女　泰江　大八、九生

君は德島縣士族齋藤實太郎の二男にして武市泰太郎の養兄り明治十八年十二月を以て生れ武市泰太郎の養子となり前名繁次郎を改む大正十二年分れて一家を創立す夙に材木商に從事し武泰商店代表取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙三男國三（大六、一〇生）男新太郎　明四四、八生、日大在學
女　千枝　明四〇、二生、福岡縣立女子專門學校出身

君は大分縣人武石通次の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正七年家督を相續す農業を營み傍ら前記各銀行會社の重役を兼ぬ養に大分縣多額納稅者たり家族は尙三男鉉夫（大四、一一生）四男鉉央（同五、一二生）五男五七夫（同六、一〇生）弟撰一郎（明二五、一〇生）あり姉フサ（同八、七生）は福岡縣人古賀寛一郎に妹アヤ（同一九、一生）は大分縣人川谷彦三郎長男敬路に嫁せりA一三〇〇（大分縣玖珠郡玖珠町電一八）

武市昇太郎

東京木材市場㊟取締役、東京木材倉庫㊟監査役、武昇、材木商
東京府士族
母　くら　萬延元、四生、千葉、高梨政吉妹
妻　ひさ　明二九、六生、東京、遠山貞吉五女
男　顯介　大一〇、一一生
女　良子　大八、三生

君は東京府士族先代昇太郎の長男にして明治二十三年七月を以て生れ大正八年家督を相續し前名德太郎を改め襲名す武昇と稱し材木商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男富士雄（大一三、一生）二女津子（昭二、一二生）の外弟福二（明二七、三生）同妻てる（同三二、一〇生、東京、安藤眞雄養子）及其二男二女あり妹萬壽（同三一、四生）は東京府人宮城次郎兵衛長男善次良に嫁せり（東京市深川區平野町三電一三四二）

三女夫佐子（同一三、一一生）四男泰治（同一四、九生）あり（東京市深川區木場町四ノ二**電本所二〇二二・三四九〇**）

武市利美

明治生命保險㈱取締役會長、三菱信託㈱取締役、高知縣士族、三菱慶應三、二生、養父八十衛長女

妻　惠美　明二六、四主

男　龜雄　明三四、三生、長男龍男妻、東京大内武次姉

婦　恒子　明三一、二生

男　雄　明三八、九生、二男雄妻、大阪、柳瀬元男姉

婦　君子　明四三、一生

男　萬壽美

君は高知縣士族長崎利成の二男にして安政五年四月十七日を以て生れ後先代八十衛の養子となり家督を相續す現時前記各會社の重役にして義に共同運輸三菱倉庫日華製油會社の重役たり事あり家族は尙孫俊彦（大一一、六生、長男龍雄長男）同小久（同一四、三生、同長女）同八十雄（昭二、一一生、二男雄長男）あり三女延子（明三五、三生）は滋賀縣人松井孝長に嫁せりA四六二八（京都市左京區下鴨泉川町二五**電上一九六六**）

武市雄圖（南風）

道徳女學院主、名古屋毎日新聞㈱取締役兼主筆、大阪府士族

妻　吉野

男　光章　東邦電力會社勤務、法學士

君は高知縣人武市敬の二男にして慶應三年十二月五日を以て生る夙に家學を受け東京に遊學し現時株式會社名古屋毎日新聞社取締役にして主筆を兼ぬ尙名古屋市に於て道徳女學院を經營す著書に「蒲生君平」「運命の研究」「高山彌谷を尋ねて」其他多數あり（名古屋市南區道徳新町**電南五五五〇**）

武内龜之助

しまき龜、旧服部

京都府在籍

妻　つゆ　吉之助　明三九、二生

男　明三九、二生

君は京都府人先代三代目龜之助の長男にして明治九年三月七日を以て生れ同三十一年家督を相續し前名嘉作を改め襲名す四代目しまき龜と稱し旧服部を營む家族は尙二男六三（大六、一生）あり長女つる（明三三、二生）は京都府人西村二郎に二女らん（同四二、一生）は兵庫縣人海井清に嫁せりA四七一B一九六（京都市中京區麩屋町御池下ル**電本局三五六五**）

武内金平

横濱正金銀行㈱取締役

東京府在籍

妻　ヨネ　明一六、三生、佐賀、原代九郎長女、御茶の水高女出身

男　徹太郎　明三四、一一生、富士瓦斯紡績會社員、法學士

婦　淑子　明四二、長男敬太郎妻、東京、渡邊勝三郎長女、御茶の水高女出身

男　龍次　明三六、五生、正七位、外務事務官、在中華民國公使館、東京帝大出身

男　平三郎　明三七、一二生、三菱商事會社員、法學士

男　彌四郎　明三九、三生、三菱商事會社員、法學士

女　五郎　明四二、一一生、慶應大學在學

女　久　大三、六生、雙葉高女出身

君は神奈川縣神奈川町の出身にして先代利右衛門の二男なり明治五年二月十日を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十九年帝國大學法科を卒業し直に横濱正金銀行に入る爾來内外各地支店を經て大正八年取締役となり今日に至る蘊蓄高女出身取に肇げらる家族は尙孫利彌（昭五、一〇生、雙葉高女出太郎長男）あり長女高子（明四〇、一〇生、長男敬身）は東京府人七海兵吉長男經濟學士吉郎に嫁し二女千代（大元、一一生、出身校同上）は東京府人松田道一長男法學士勝郎に嫁せりA九九七七（東京市赤坂區青山南町六ノ四三**電青五六六四**）

參照＝渡邊勝三郎、七海兵吉、松田道一の項

武内實晴

豐橋瓦斯㈱取締役、大曾根土地㈱監査役、帝國乾燥機製作所㈱監査役、鳥取縣士族

母　たつ　萬延元、九生、鳥取、士、夏井猶造二女

妻　さく　明一六、八生、愛知、青木鐵次郎姉

男　實則　明三八、二生、東芦瓦斯會社員、法學士

男　貞　明四四、七生

女　豊子　大二、八生

女　廣子　大七、一一生

君は鳥取縣士族武内實芳の長男にして治明十一年十二月を以て生れ大正元年家督を相續す現時前掲會社の重役にして義に新守座社長たる外寶無盡名古屋土地建物東陽商會大曾根倉庫名古屋信託多治見鑛業土地各會社愛知實業尾三農工各銀行の重役たりしことあり家族は尙六女秀子（大一〇、四生）弟實直（明二三、六生）同妻喜美子（同三一、一〇生、鳥取、田中致義樂子、及其二男二女あり二女喜代子（同四二、七生）は愛媛縣人松木熊吉に妹幸（同一三、一一生）は大阪府人新啓に嫁し弟武（同二九、四生）は鳥取縣人夏井清太郎の養子となれりA一三三（名古屋市中區東陽町一〇ノ**四電中三二六**）

參照＝新啓の項

武内清一

家主

大阪府在籍

祖母　りやう

母　アイ　明二三、七生、兵庫、上田ペン姉

君は大阪府人武内吉次の長男にして大正元年九月を以て生れ先代才吉の後を承け昭和三年家督を相續す家主たり家族は尙弟正次（大三、一〇生）妹つぎ（同五、一二生）叔父逸三（明二三、一生、東京、高松敏馬三男）同妻歌（同二九、九生、京都、伊地知光定長女）及其子女あり姉よし（明四三、九生、京都、古賀松平秋雄に嫁せりA五八五（大阪市西區江戸堀南通三ノ一〇）

參照＝子爵松平秋雄の項

武内大造

從三位勳三等、東京外國語學校名譽教授、東京府在籍

妻　順子　明一六、七生、故工學博士寺野精一妹

男　景美　明四二、四生

養子　時之助　明二八、五生、長女壽美夫、千葉岡村才治弟

女　壽美　明三七、九生、養子時之助妻、御茶の水高女出身

女　駒子　大元、一〇生

女　房子　大四、五生

女　道子　大六、五生

君は埼玉縣人武内作藏の二男にして明治六年二月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し同年外國語學校教授に任ぜられ同四十年第七高等學校造士館教授に轉じ大正三年再び東京外國語學校教授に任ぜられ昭和七年之を退き同校名譽教授の稱號を授けらる曾て獨逸文學研究の爲獨逸に留學せし事あり昭和二年獨國政府より赤十字名譽章を授與せる家族は尙三男篤信（大八、六生）あり（東京市中野區桃園三ノ三三**電中野二〇九一**）

參照＝※寺野寛二の項

武内秀吉

上組賞代表社員

兵庫縣在籍

妻　利野　慶應二、六生、岡山、山本光造四女

養子　右近　明三八、二生、養子知惠子夫、滋賀、堀居左五郎三男

養子　知惠子　明三八、九生、神戸第二高女出身

君は岡山縣人武内新造の二男にして明治元年三月を以て生れ先代雅豫の養子となり同二十一年家督を相續す合資會社上組代表社員にして叢に名古屋上組横濱運輸會社重役たりし事ありA四九八九八（神戸市灘區篠原町一二）

武内廣治

資産家

兵庫縣在籍

妻　こず江　明二五、八生、兵庫、大崎晴男妹

君は兵庫縣人武内傳左衛門の三男にして明治十二年十二月二十七日を以て生る資産家たり家族は尙兄角太郎（慶應元、六生）あり二女富（明四一、七生）同夫信一（同三三、一二生、兵庫、高田駒吉二男）は分家せりA一三五四（神戸市兵庫區宮下山町一ノ五一**電湊一六六五**）

武内利右衛門

兵庫縣多額納稅者、伊丹銀行㈱頭取、酒造業、兵庫縣在籍

妻　巻　明一二、八生、兵庫、武内和三郎三女

男　利平　明四三、三生

男　幸平　大元、一二生

女　奈津榮　大三、七生

女　たつ　大五、六生

君は兵庫縣人武内惟三郎の長男にして明治十一年六月八日を以て生れ先代奈加の養子となり大正五年家督を相續し前名德太郎を改む酒造業を營み傍ら伊丹銀行頭取にして兵庫縣多額納稅者たり家族は尙二女和子（大一一、七生）あり二女駒（明三七、五生）は京都府人黑川眞一に嫁し女芳（同三九、三生）は京都府人先代黑川眞一の二男にして明治十一年六月田正雄に三女芳（同三九、三生）は京都府人黑川眞一に嫁し七女登久榮（大八、三生）は兵庫縣人武内駒の家督を相續せりA三〇三四B二四一（兵庫縣川邊郡伊丹町）

參照＝※武内和助の項

武内和吉

日本綿花㈱常任監査役

兵庫縣在籍

妻　順　明二二、一一生、栃木、士、木村恒治三女

養子　榮　明四一、六生、栃木、士、木村恒治孫、農林省勸業、東京帝大出身

君は兵庫縣人武内市右衛門の長男にして明治十一年六月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同三十一年東京高等商業學校を卒業し翌年横濱正金銀行に入社し馬尼剌シドニー北京青島各支店の支配人となり昭和二年同行庶務課長に就任同五年五月同行を辭し大日本鹽業會社相談役に就任し現時日本綿花會社常任監査役たりA一〇六九（東京市澁谷區櫻ヶ丘九**電青山三五二一**）

武内和助

伊丹銀行㈱取締役、酒造業

兵庫縣在籍

母　ゑい　慶應二、六生、組父和三郎長女

妻　つや　明二三、三生、大阪、鳴本竹造三女

男　英二　大五、八生

女　みね　明四三、六生

女　美佐保　大二、一生、大阪市立西華高女出身

君は兵庫縣人武内佐次郎の長男にして明治十九年四月十四日を以て生れ大正十二年家督を相續し前名和二郎を改め襲名す酒造業を營み尙記銀行の重役たり養に縣下の多額納稅者に列し伊丹酒造會社の重役を兼ぬ家族は尙二男欣三（大八、一〇生）三男清（同一一、一一生）三女廉子（同一四、一生）あり長女みね（明四三、六生）は酒造家中村喜一郎に嫁せりA一五三二B一〇二（兵庫縣川邊郡伊丹町**電三四**）

參照＝※武内利右衛門の項

武岡忠夫

湊川土地建物㈱監査役、内外木材工藝㈱支配人、兵庫縣在籍

母　ふさ　明元、八生、兵庫、鳥井清長衛二女

妻　いさを　明三三、一一生、兵庫、日田理三郎四女

男　輝雄　大九、四生

當家は代々淡路島の農家にして亡父豊太郎は幼にして辛酸を嘗め壯時郡吏となり後實業に從事し偶々品川彌二郎子に會し其知遇を受け二十八歳の時兵庫共濟會社長となり後湊川改修會社にある事二十年に亘り次で破産に瀕する楽東館社長として整理を斷行し大毎前社長本山松隱翁より神戸市の恩人と稱へらる内筆浮世繪蒐集勸王家事績表彰を以て國に盡す又公益の爲私財を寄附したる廉により大正十五年紺綬褒章を賜はる君は其二男にして明治二十六年十二月を以て生る現時前記會社の要職にあり家族は尙二男允也（大二一、九生）二女瑞子（同一五、七生）弟博三（明二九、四生、宮内省國書寮御用掛、國大出身）同妻倭子（同三五、一〇生、兵庫、高須藤次郎長女）と其四子女弟四郎（同三二、八生、大林組社員、慶大理財科出身）同妻さな子（同四一、四生、大阪、服部金兵衛姉）及三子女あり姉やす（同二四、一〇生）は兵庫縣人三菱銀行大阪西堀支店長灰谷藤治郎に嫁せり（神戸市須磨區天神町四ノ八三**電須磨一七一**）

武川守藏

五十銀行㈱常務取締役

茨城縣士族

母　しん　安政四、五生、茨城、士、黑川則茂妹

妻　いね　明二四、一二生、茨城、福田宜廣養妹

男　汎　大元、一一生

女　美代　明四四、一一生、町立石岡高女出身

男　浴　大二、一一生

女　嘉代　大七、一一生

君は茨城縣士族武川武の長男にして明治九年三月二十九日を以て生れ大正二年家督を相續す現時五十銀行常

務取締役たり家族は尚五男洸（大一二、九生）七男永（昭二、九生）八男治（同五、一一生）長女千代（明三八、八生）は山口縣士族益田武千代に嫁せり（茨城縣新治郡土浦町二四一）

武川佳海（ヨシミ）　正五位勳四等、判事、東京區裁判所勤務、福島縣士族、安政六、二生、福島、石井八郎右衛門長女

妻　貴　明二二、八生、福島、大河内武妹

長男　寛海　大三、二生

君は福島縣士族武川重信の長男にして明治十五年二月一日を以て生れ大正五年家督を相續す先是明治三十九年明治大學を卒業し判檢事登用試驗に合格し大正元年判事に任じ爾來東京地方兼同區沼津區靜岡地方兼同區宇都宮地方同區監督栃木區監督兼宇都宮地方裁判所栃木支部々長に歴補し現に東京區裁判所判事たり家族は尚二男康男（昭九、三生）あり妹喜以（明二二、五生）は福島縣人我妻光藏に同フデ（同二八、八生）は新潟縣人高野巳代太三男盛司に同ツナ（同三一、五生）は東京府人丹下健夫に嫁せり（東京市麴町區東京區裁判所内）

武川芳一　金物商　兵庫縣在籍

母　こたみ　慶應元、一生、兵庫、島田接通長女

妻　とめ子　明三六、一生、兵庫、脇清五郎四女

男　一夫　大一三、一生

君は兵庫縣人武川寅逸の長男にして明治二十三年八月十八日を以て生れ同二十七年家督を相續す金物商を營む家族は尚二男博次（大一四、七生）三男勝美（昭三、六生）長女千賀子（同五、三生）あり姉やそみ（明一六、八生）は同夫寅次郎（同一一、三生、兵庫、國本半兵衛二男）と共に分家せりA五二三（神戸市兵庫區塚本町四ノ二三ノ四三電湊一五〇九）

武貞岩次郎　神戸正米取引員、米穀商　兵庫縣在籍

養母　よう　嘉永四、二生、兵庫、武貞彦七長女

妻　てる　明一三、一二生、兵庫、川西善右衛門三女

男　彦一郎　明三七、二生、法學士

婦　倭子　明四三、七生、長男彦一郎妻、大阪、三輪義一妹、聖心女學院出身

養子　武一　明三一、九生、二女幾枝夫、兵庫森義鳳弟、法學士、經濟學士

女　幾枝　明三九、九生、養子武一妻、私立親和高女出身

女　磯枝　明四二、三生、縣立神戸第一高女高等科出身

君は廣島縣人高崎榮太郎の弟にして明治九年一月二日を以て生れ先代龜造の養子となり大正十三年家督を相續す現時米穀商を營み神戸正米取引員たり義に兵庫縣多額納稅者に列す家族は尚祖博子（大一一、九生、離縁養子龍藏長女）同岩夫（同一一男）同和產（昭二、七生、養子武一長男）同淑子（同四、四生、同長女）同登子（同五、一二生、長男彦一郎長女）あり長女貞子（明三四、八生）は愛知縣人澤田儀左衛門五男龍藏に嫁せりA二二三〇B七四（神戸市兵庫區仲町二三電兵庫四四三）

武貞忠男　兵庫縣農工銀行員　兵庫縣在籍

母　むめ　明一九、一一生、兵庫、菅藤太郎四女、神戸親和高女及大阪樟蔭高女專攻科出身

妻　たい

君は兵庫縣人先代增太郎の長男にして明治三十四年一月十日を以て生れ昭和六年家督を相續す先是大正十四年慶應義塾大學經濟學部を卒業し直ちに株式會社兵庫縣農工銀行に入り現に同行員たり資產家として知られる家族は尚妹信子（明四五、三生、神戸市立第二高女出身）弟良人（大三、一二生、京都帝大理學部在學）妹文子（同七、三生、兵庫縣立第一神戸高女在學）あり妹米五、六生、長野、黒澤恒太郎妹）は其一男を伴ひ各分家し妹むつ（同一二、二生）は長野縣人武重伴五郎長男義一に同はる（同一五、六生）は同縣人和田景太郎長男義一に嫁せり（長野縣北佐久郡本牧村電二五）

參照‖黒澤恒太郎、中山武三郎、柳澤憲一、和田義一の項

武鹿銀次郎　大阪株式取引所取引員、莫大小商　大阪府在籍

妻　たづ江　明一五、一一生、愛知、五藤亨治妹

男　伯太郎　明三三、一〇生

婦　ヨシ　明三七、七生、長男伯太郎妻、大阪、高橋壓次郎妹

君は明治五年一月七日愛知縣人鳥津助一郎の長男に生る莫大小商を營み傍ら大阪株式取引所取引員たり家族は尚孫進一（大一三、五生、長男伯太郎長男）同莊治郎（昭二、一一生、同二男）同泰三（同四、一生、同三男）同豐子（同五、一〇生、同二女）同靜代（同六、一〇生、同三女）同美津子（同八、三生、同四女）あり二女ます（明三二、一生）は京都府人大内平右衛門三男榮次郎に四女玉江（同三八、一一生）は石村林吉長男勝一に嫁し三女光江（同三五、八生）は愛知縣人加藤貞三郎の養子となれりA五八二二B一二一〇（大阪市東區内久寶寺町四ノ六電東一四八二）

參照‖石村林吉の項

武重一祐　長野縣多額納稅者、酒造業　長野縣在籍

妻　ゑつ　明九、一〇生、長野、呉服商平叔母

男　孝一　明二九、一二生

婦　きぬ　明二三、四生、長男孝一妻、長野中山武三郎三女

君は長野縣人武重德太衛門の長男にして明治五年七月八日を以て生れ同二十五年家督を相續す酒造業を營み直接國稅千百七十一圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚孫あや（大九、八生、長男孝一長女）同と（同一一、三生、同二女）同みよ（同一二、一〇生、同三女）同さく（同一四、八生、同四女）同きち（昭三、三生、同五女）同德衛（同五、二生、同長男）同ちゑ（同六、八生、同六女）同裕康（同八、九生、同二男）あり弟二祐（明八、一生）は同妻まる（同一六、六、二生、長野柳澤憲一養叔母）と共に弟英祐（同一四、一生）同妻なつ（同一五、六生、長野、黒澤恒太郎妹）は其一男を伴ひ各分家し妹むつ（同一二、二生）は長野縣人武重伴五郎長男義一に同はる（同一五、六生）は同縣人和田景太郎長男義一に嫁せり（長野縣北佐久郡本牧村電二五）

參照‖黒澤恒太郎、中山武三郎、柳澤憲一、和田義一の項

武島又次郎　從四位勳六等、御歌所寄人、日本女子大學校教授、園文學部長　東京府在籍

妻　トナ　明一二、四生、新潟、白井勝太郎五女

男　泰　明三九、五生

男　進夫　大三、一〇生

君は東京府人武島伊兵衛の二男にして明治五年十一月を以て生れ同二十七年叔父德太郎の後を承け家督を相續す同二十九年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し更に大學院に學び同三十三年東京晉樂學校教授に任じ爾來東京高等師範學校教授學習院講師を經て現に御歌寄人にして日本女子大學校教授國文學部長たり雅號を羽衣と稱し詩人並國文學者として知らる長女倭文子（明三四、一生）は香川縣人多田文太郎長男武幹に二女千枝子（同三六、九生）は兵庫縣人筧田福太郎長男壽一に嫁せりA二〇〇（東京市小石川區原町一六電小石川四三一二）

武末祐三郎　昭和生命保險㈱取締役、東京起業取締役、第一徵兵保險、山叶商會各㈱監査役、福岡縣在籍

妻　フシノ　明二〇、四生、福岡、岡部萬太二女

養子　辰雄　長女須美惠夫、群馬縣勸務、法學士

女　須美惠　明四四、一生、養子辰雄妻、實踐女學校專門部出身

君は福岡縣人武末富次郎の長男にして明治十四年五月二十二日を以て生れ昭和三年家督を相續す明治三十六年中央大學を卒業し現時前記會社の重役にして蘆に蓬萊生命保險相互會社專務取締役たりしことありA四二〇（東京市澁谷區櫻ヶ丘町二電青山一六五五）

武田明　日ノ出商車㈱社長、國際觀光ホテル㈱取締役、和歌山縣在籍

妻　タマ　明一八、四生、東京、問瀧善五郎四女

男　文也　明三九、二生、早大文學部英文科出身

君は和歌山縣人垣内義空の二男にして慶應元年十二月を以て生れ先代ミエの養子となり明治三十八年家督を相續す現時日ノ出商事會社々長たる外國際觀光ホテル會社の取締役にして蘆に東京商工會議所常議員に擧げらる著書「人世私見」「現代思潮と宗教」其他あり養母ミエ（安政五、六生、松田寅右衛門長女）は和歌山縣人武田貫の家籍に入り養弟武四（明四〇、四生、鹿兒島、大坪友太郎三男、國大出身）は分家せり（東京市目黒區富士見臺一五四二）

武田市太郎　新潟商工會議所議員、新潟縣多額稅者、武田鐵工所㈱取締役社長、土木建築請負業、新潟縣在籍

母　キク　安政四、一〇生

妻　シゲ　明三六、八生、新潟、相場長松三女

男　市郎　大二、六生

男　イエ　大四、八生

君は新潟縣人武田泰市の長男にして明治十九年一月二十七日を以て生れ大正十年家督を相續す土木建築請負業を營み傍ら武田鐵工所を設立し其取締役社長に就任す帝國在鄕軍人會新潟市美田岐分會長の公職を帶ぶ現時縣下の多額納稅者にして直接千二百三圓を納め又推されて新潟商工會議所議員たり家族は尚三女イネ（大九、八生）四男秀三郎（昭五、六生）あり（新潟市西堀前通一一生）四男秀三郎（昭五、六生）あり（新潟市西堀前通一一生）三男耕次郎（同一四、一四男）

武田勝太郎　電業社原動機製造所㈱監査役　東京府士族

妻　コウ　明九、一生、岐阜、士、富田保次郎妹

男　寛二　明二九、八生

婦　ツヤ　明二六、七生、二男寛二妻、新潟中村照司妹

女　鷹代　明三六、五生

君は長崎縣士族武田維章の長男にして元治元年二月を以て生れ明治二十八年家督を相續す同二十一年東京高等商業學校を卒業し現時電業社原動機製造所監査役たり蘆に電業社水車製造所監査役芝浦製作所計理部長たりしことあり家族は尚孫俊男（大一五、一生、二男寛二長男）あり長女松枝（明三一、六生）は分家し二女春乃（同三四、四生）は其養子となれり（東京市麻布區笄町一七六ノ四〇）

武田恭作　四花菱石材㈱代表社員　工學博士、大日本鑛業㈱取締役、東京府在籍

妻　イチ　明九、七生、大阪、藏田鹿太郎長女

男　健一　明三三、四生、米國ハーバード大學修了

男　淳　明三七、二生、慶大出身

男　新　明三九、二生、工學士

男　克　明四二、一生、慶大法學部在學

女　祐子　大二、九生、東京女學館出身

女　隆子　大六、二生

君は山口縣士族磯部正春の弟にして慶應三年十一月を以て生れ先代トヨの養子となり明治二十六年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し大正八年工學博士の學位を受く先是藤田組に入り同社鑛山事業を確立する等盡瘁する處尠からざりしが後之を辭し獨力武田鑛業本店を起し廣く鑛山探掘に從事す大正四年之を閉鎖し新たに大日本鑛業會社を興し其社長となり後同社取締役たること數年にして之を辭せり家族は尚六男徹（大四、二生）あり長女壽子（明二九、一二生、東京女學館出身）は東京府人淺野總一郎第三に二女淑子（同三五、三生、出身校同上）は福岡縣人第一徵兵保險會社副社長法學士太田新吉に三女昌子（同四〇、一一生、出身校同上）は三重縣人宮井準吉長男準平に嫁せりA一〇四（東京市荏原區中延町一一四〇電荏原二二三四）

參照‖淺野良三、太田新吉※男爵岡俊二※松井石根の項

武田金作　大阪商船㈱參事　大阪府在籍

母　末　安政四、一二生、兵庫、喜田川六助長女

妻　道　明二三、六生、東京、清水暉元三女

男　宏　大九、四生

女　香苗　大七、五生

君は大阪府人武田藤十郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す夙に大阪商業學校を卒業し同四十年大阪商船會社に入社し爾來那覇臺南高雄各支店長を經て昭和二年同社門司支店長に進み現時同社參事たり蘆に推されて門司商工會議所顧問たりし事あり家族は尚二女千冬（大一〇、一二生）三女小竹生（同一三、五生）四女夏洲子（同一五、六生）二男晃世

(昭五、七生)あり妹庸(明二八、九生)は大阪府人佐々木五郎に嫁せり(大阪市北區宗是町一大阪商船會社内)
参照‖佐々木五郎の項

武田賢治

妻　ふさ　正八位勲六等、豐橋商工會議所議員、豐橋電氣㈱社長、豐川電氣㈱取締役、愛知縣在籍三州自動車㈱取締役

男　正夫　明七、一一生、愛知、豐田成章四女　明二六、二生、日本郵船會社員、早大商科出身

婿　まさ　明三三、五生、長男正夫妻、三河醬油會社長中村正炎郎四女

男　春夫　明四三、二生、京都府立醫大在學

君は愛知縣人荒川杏造の二男にして慶應元年九月十九日を以て生れ明治二十三年先代うらの入夫となり家督を相續す先々代準平は實業家阿部泰藏の實兄にして縣會議長となり自由黨の爲大に氣を吐きしが明治十五年政敵の爲暗殺せらる君は亦縣參事會員に選ばるゝこと二回に及び現時前記諸會社の重役にして推されて豐橋商工會議所議員たり又傍ら武田慈惠團を設立し社會事業に盡すところあり曩に豐橋自動車山田松坂自動車豐橋循環自動車中部電力豐橋電氣軌道渥美電鐵各會社重役たり家族は尙孫英夫(大一一、一生、長男正夫長男)同郁夫(同一二、同三生、同二男)同三夫(昭二、七生、同三男)同朝子(同四、八生)あり二男森男(明三二、二生合同電氣會社技師、明治專門學校出身)四男雪夫(同三五、九生)は各分家し三男國夫(同三四、一生)は静岡縣人花井善吉の養子となれり(愛知縣寶飯郡國府町電豊橋一一八七)

武田富次郎

妻　みつ　大阪株式取引所取引員　滋賀縣在籍　明一三、三生、滋賀、二井忠兵衛二女

君は滋賀縣人武田治三郎の長男にして慶應二年一月三日を以て生れ昭和四年齊子義男方より分れて一家を創立す現時大阪株式取引所一般取引員たり A三九六四六 B四三二二(大阪市東區北濱一ノ一六電本局六七)

武田謙

香川縣多額納稅者、多度津銀行㈱頭取、讃岐貯蓄銀行、琴平電鐵、讃岐土地、屋島登山鐵道、瓢江溫泉鐵道、朝鮮實業、讃岐信託各㈱取締役、四國水力電氣、四水證券各㈱監査役、農業、香川縣在籍　元治　叔母　元治元、一〇生、香川、武田茂祐

母　モト　明二三、五生、香川、武田亮太郎妹

妻　末　大二、一生

男　一　大四、三生

女　幸　大四、一生

君は香川縣人武田定治郎の長男にして明治二十二年二月二十四日を以て生れ大正元年家督を相續す農業を營み傍ら多度津銀行頭取の外前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千四百九十四圓を納む家族は尙二男郁郎(大七、二生)三男邦彦(同九、一一生)四男豊彦(同一二、九生)の外妹フミ(明二六、三生)同夫正通(同二二、一二生、香川、田中彦平二男)及其二男一女弟弘(同三〇、九生)同妻タキ(同三六、一生、香川、喜山卯吉長女)と其一女あり(香川縣沖多度郡多度津町電一三八)
参照‖武田亮太郎の項

武田五一

妻　琴　明二二、三生、和歌山、谷井竹藏二女

男　直秀　明三二、一〇生、北清道帝國大學教授、工學士

婿　武子　明三八、八生、長男直秀妻、大阪市長關一二女、清水谷高女出身

男　英吉　明三四、九生、神戸高等工業學校教授、工學士

婿　静枝　明三八、七生、二男英吉妻、愛媛縣池原鹿之助長女、縣立神戸高女出身

君は廣島縣士族武田直行の長男にして明治五年十一月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十年東京帝國大學工科大學を卒業し大學院に學び同三十二年同大學助教授となる翌年岡案學研究の爲英佛獨に留學し歸朝後京都高等工藝學校教授兼京都府技師大藏省臨時建築局技師名古屋高等工業學校教授兼京都府技師京都帝國大學教授に歷任し現時法隆寺國寶保存工事事務所長たり大正四年工學博士の學位を受く海外に出張する事五回に及ぶ曩に京都商業會議所特別議員に推され古社寺保存會委員たり家族は尙孫直和(昭二、三生、長男直秀長男)同妙子(同九、二生、同長女)あり三男猛夫(明三七、一一生、工學士)は東京府士族飯島貞臣の指定相續人となり長女まき(同四一、三生)は大阪府人和田英太郎長男篤憲に姉マチ(同三、一一生)は岐阜縣士族醫學士佐々木曠に妹ロク(同八、三生)は同縣人神山和雄に嫁し同ノブ(同一一、二生)は東京府士族山岡祐章の養母にして叔父安之助(安政二、二生)は其妻と共に分家せりA七四八(京都市上京區小山上總町四電西陣一六九四)
参照‖池原鹿之助、關一、山岡祐章、和田英太郎の項

武田三郎

妻　冲子　正四位勲二等、工學博士、陸軍中將、長野縣在籍　明一七、一生、子爵加納久朗姉

男　久米彦　明三四、五生、從七位、陸軍砲兵大尉

婿　彌榮子　明四四、一〇生、長男久米彦妻、子爵西四辻公堯二女

男　照彦　明四五、七生、學習院高等科出身

君は長野縣人武田十代彦の三男にして文久二年七月を以て生れ先代宗左衛門の養子となり明治七年家督を相續す同十六年陸軍教導團に入り同十九年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍砲兵少尉に任じ大正五年陸軍中將に累進す其間砲兵會議事務官同審査官陸軍砲兵學校教官東京帝國大學工科大學講師砲兵會議々員陸軍技術審査官陸軍技師審査部長第一軍豫備砲廠附陸軍砲工學校長東京灣要塞司令官等に歷補す大正四年工學博士の學位を受く二女多喜子(明三八、九生、學習院女學部出身)は東京府人坪谷幸六に嫁し養子光邦(同二四、一二生、長野、武田宗左衛門一男、陸軍歩兵少佐)は分家せり(東京市世田谷區三軒茶屋一一五)
参照‖子爵加納久朗、子爵西四辻公堯の項

武田二郎

妻　ヒサ　藥學博士、武田化學機品㈱社長、武田長兵衛商店㈱副社長、小西新兵衛商店、大五製藥各㈱取締役、大阪府在籍　明三二、二生、大阪、山本東作妹

女　五百子　大八、四生

君は大阪府人武田長四郎の二男にして同長兵衛の弟なり明治二十年七月十八日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學齊科大學藥學科を卒業し大正六年藥學博士の學位を受く現時武田化學藥品會社社長にして前記各會社の重役たり家族は尙二女みを子(同一五、四生)三女高子(昭三、四生)四女富子(同五、三生)ありA一一〇八〇(兵庫縣武庫郡精道村芦屋一一四九電芦屋二三七四)
参照‖武田長兵衛、山本東作※小西新兵衛※辻本豊三郎※寺田元之助※森本寛三郎※柳原三郎※藪田勘兵衛の項

武田次七

妻　ヨレ　山文商店、松本電機計器㈱各代表取締役、ヤマブン、東京株式取引所取引員、東京府在籍　明一五、一〇生、神奈川、金子伊左衛門三女

養子　篤幸　明三四、九生、長女きみ夫、静岡柏木魁太郎二男

女　きみ　明三八、七生、養子篤幸妻

君は静岡縣人武田次郎八の二男にして明治十四年一月十五日を以て生れ同四十年兄美代吉方より分れて一家を創立すヤマブンと稱し東京株式取引所取引員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫守正(昭三、六生、養子篤幸長男)ありA二一〇三四B三〇一二(東京市大森區山王一丁目二ノ六二五電大森四二二)

武田信一

資産家　東京府士族

父　信時　弘化四、一二生

妻　たけ　明一五、六生、群馬、南條金雄妹御茶の水高女出身

男　健一　明四〇、一生、藥學士

婿　純子　大三、七生、兵庫、鹽野孝太郎妹學心女學院出身

男　强二　明四二、九生、東京帝大農科在學

女　つね　大元、九生、府立第二高女出身

君は岐阜縣士族武田信時の長男にして明治五年十一月を以て生れ後家督を相續す同二十五年東京高等商業學校を卒業し後桐生機業組合事務所等に勤務する事約五年同三十年三井銀行に入り累進して參事となり昭和二年退職す家族は同三男誠三(大四、一〇生)四男享(同九、四生)二女とく(同一一、一一生)あり妹つぎ(明八、七生)は京都府人香川銳太郎に嫁せりA一八五(東京市小石川區原町一〇電大塚四五七五)
参照‖鹽野孝太郎の項

武田捨三郎

妻　みち　武田商店㈱代表取締役、皮革商　東京府在籍　明二一、一生、茨城、須田雄枝姪

男　恒一郎　明四二、四生、東京商大出身

女　静子　大三、一〇生、跡見女學校出身　東京家政學院在學

君は長野縣人武田實彌の三男にして明治十一年十二月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す皮革商を營み傍ら武田商店代表取締役にして曩に同商店社長たり家族は尙三男明三郎(大五、一一生)四男武四郎(同八、八生)五男五郎(同一一、七生)三女佳子(同一三、四生)四女和子(同一五、二生)ありA二一〇三四B三〇一二(東京市日本橋區室町四ノ五ノ七電日本橋一四五三・一四五四)

武田誠士

家主　兵庫縣士族

君は兵庫縣士族武田堤の四男にして明治四十一年二月十三日を以て生れ同四十三年家督を相續す家主たり家族は姉きく(明二七、一〇生)ありA三八六(神戸市須磨區離宮前二五)

武田善吉

白米商　東京府在籍

母　キク　明八、八生、先代善吉長女

妻　こう　明三七、六生、東京、神谷銀次郎二女

男　善雄　昭三、二生

君は東京府人先代善吉の長男にして明治三十七年三月十六日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名榮吉を改め襲名す白米商を營む家族は尙長女宜子(大一五、五生)ありA六一〇(東京市本所區東兩國一ノ一八電本所三一五四)

武田泰郎

正五位勲四等、遞信監察官、大臣官房監察課長、兵庫縣在籍

妻　秋子　明三二、一一生、東京、横手千代之助三女

男　綾　大一一、五生

君は兵庫縣人武田金之介の三男にして明治二十三年八月を以て生れ大正十二年兄重治方より分れて一家を創立す大正五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年東部遞信局書記となり爾來遞信事務官補同副事務官簡易保險局事務官同書記官遞信書記官兼秘書官簡易保險局理事等に歷任し其間長野郵便局第四課長熊本遞信局保險課長簡易保險局庶務課長同積立金運用課長及び大臣官房秘書課長等を經て昭和八年遞信監察官に任じ大臣官房監察課長に補せられ今日に至る曩に大正十五年英佛兩國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝す家族は尙二男曉(大一三、一〇生)三男康(昭二、一二生)長女蘭子(同五、二生)ありA一五二(東京市荏原區中延町一一〇九ノ一電荏原三六六九)

武田辰藏

妻　なを　武田工業所、捺染ロール、彫刻製造業、東京府在籍　明二六、四生、京都、石東誠太郎妹

男　德男　大六、一生

養子　あさえ　大三、二生、京都、武田善四郎五女

君は京都府人武田善次の三男にして明治九年十月二日を以て生れ同四十三年兄善四郎方より分れて一家を創立す武田工業所と稱し捺染ロール彫刻製造業を營むA二二四B一三九(東京市向島區寺島二ノ一電墨田二七七四)

武田長兵衛

大阪府多額納稅者、武田長兵衛商店㈱社長、大日本製藥㈱監査役、大阪府在籍　廣榮㈱取締役、

妻　檜菊　明一六、七生、奈良、平井太郎妹

男　銳太郎　明三八、四生、慶大高等部出身

婿　繁子　明四四、八生、長男銳太郎妻、三重、國分勘兵衛三女、東京女學館出身

男　啓之助　明四一、一生、東京帝大藥學科在學

男　豊夫　明四三、六生、濱松高工在學

女　ひろ　大二、九生、甲南高女出身

女　よし子　大三、九生、甲南高女出身

静子　大六、八生、甲南高女在學

君は大阪府人武田長四郎の長男にして明治三年十一月二十七日を以て生れ同三十七年家督を相續し前名重太郎を改む代々藥種商を營み近江屋と稱し老舗として知らる現に前記各會社の重役にして大阪府多額納稅者たり家族は尙六男六郎(大七、七生)妹アサ(明一六、四生)あり長女ふみ(同二九、八生、清水谷高女出身)は大阪府人武田長兵衛商店常任監査役森本寛三郎に二女ひさ(同四四、五生、甲南高女出身)は愛知縣人佐野秀雄に妹みや(同一〇、五生)は京都府人小西新兵衛に嫁し弟二郎(同二〇、七生)は同妻セサ(明三二、二生、大阪、山本東作四女)と共に二男深藏(同四〇、一〇生)は同妻須賀子(大四、一〇生、大阪、宮崎彌作四女)を伴ひ各分家せりA四七五四〇(大阪市東區道修町二ノ二七電信局本局五〇二四)

參照‖小西新兵衛、岡分勘兵衛、武田二郎、平井太郎、森本寛三郎、武田深藏、佐野秀雄※森川喜八郎※木下政治※宮崎彌作の項

武田貞之助

妻　八重野

君は滋賀縣人武田藤吉の長男にして明治元年四月を以て生れ同二十六年家督を相續す夙に滋賀縣師範學校を出で關西法律學校に學ぶ後辯護士試驗に合格し爾來大阪に於て辯護士を開業し今日に至る現時前記各會社の重役を兼ぬ曩に滋賀縣より推されて衆議院議員に當選す家族は尙弟藏之助(明一五、一〇生)同妻芳子(同二五、三生、兵庫、村上正輔妹)及其子女あり妹すみの(同六、七生)は滋賀縣人武田武兵衛に同ます(同一三、九生)は同縣人山岡久藏に嫁せりA一四九三(大阪市東區今橋五ノ二六電本局二一四六)

武田都松

藝妓　愛知縣在籍

男　直敏　文久元、六生
女　綾　明三二、六生
君は愛知縣人山中秀直の二男にして明治三年十月二十八日を以て生れ同三十三年先代善三郎の養子となり同四十年家督を相續す醫師たり家族は尙長男直敏(昭六、六生、同二男)及孫忠直(長男直敏長男)同善直(昭六、六生、同二男)ありA二九三(名古屋市東區久屋八ノ三電東二四五三)

武田德三郎

妻　ハマ
男　良文　明一三、六生、新潟、山崎伊太三郎姪
娘　セツ　明三五、一一生、高田中學出身
娘　正信　明三九、一二生、長男良文妻、新潟、松岡格衛妹、新發田高女出身
男　貞雄　明三八、四生、日本補道會社員、法大出身
女　トメ　明四一、七生、法大經濟科出身
女　スイ　明四四、四生、高田高女及女子經濟專門學校出身
女　スミ　大六、二生、駒澤高女出身千代田高女專科在學
君は新潟縣人武田良治の長男にして明治五年二月を以て生れ大正四年家督を相續す夙に和佛法律學校を卒業し義に福岡日日新聞日本新聞各記者高田日報主幹關川電力會社重役たりしことあり現時中央電氣會社監査役にして農を業とし大正九年以來衆議院議員に推さるること四回立憲政友會に屬し田中內閣の下に農林大臣勲四等瑞寶章を受く家族は尙孫エツ(昭二、七生、長男良文長女)同悌子(同五、八生、同二女)弟憲平(明二七、三生)同妻キヨ(同三五、一〇生、新潟、福山宇一郎妹)及其子女甥忠正(同三二、七生、武田忠隆長男)同妻ナミ(同三一、一生、新潟、武田關通二女)あり長女マスミ(同四一、五生)は新潟縣人古澤彥策長男茂樹に二女ヒデ(同三四、二生)は同縣人山岸牛三郎長男孝吉に嫁せりA二九二(東京市世田谷區太子堂三二電青山六〇〇九)

武田俊夫

妻　ツヤ　慶應二、五生、兵庫、西野虎次郎長女
養子　節子　明四二、九生、兵庫、武田榮次郎長女

君は兵庫縣人武田勇吉の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治二十六年家督を相續し前名字三郎を改む夙に酒造業を營み清酒快男の醸造元として知られ前記會社の重役たり曩に內藤商事會社東淡銀行淡路銀行淡路電氣會社等の重役に推され又兵庫縣會議員に選ばるる妹とみの(明一四、七生)は兵庫縣人佐藤林次郎に同まつゑ(同二一、七生)同縣人上原利八二男伊平に同なかしよう(安政二、一一生)に同縣人松倉新平に嫁し弟近次郎(明八、六生)は同妻しつ(同一八、三生、兵庫、西田茂八郎四女)は其子女を伴ひ分家せり(兵庫縣津名郡假屋町電五)

武田敏信

母　津也　野村浪行㊞取締役、萬延元、一〇生、岡山、後藤熊治郎長女
妻　慶運　明二三、六生、岡山、太田一太長女
男　慶　大五、八生、大阪高等學校在學
君は岡山縣人武田文吉の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十五年東京帝國大學農科大學を卒業し更に大正六年京都帝國大學法科大學政治經濟科を卒業し野村銀行に入り堂島支店長福岡支店長本店業務課長兼調査課長等を經て同行取締役に就任し今日に至る家族は尙長女美代子(大一〇、一一生、府立大手前高女在學)の外弟義信(明二九、三生)同妻俊子(同三四、九生、岡山、難波政治郎長女)及其子女あり三男實(大八、四生)は岡山縣人武田榮治郎の養子となり叔母ゆた(明九、一〇生)弟元三郎(同三一、一生)は各分家せりA二四五(大阪府豐能郡中町新免四五一)

武田富吉

日本橋髮㊞專務取締役兼技師長
愛知縣在籍
養父　誠一　慶應二、一〇生、現戸主
養母　まさ　明一〇、八生、愛知、間瀨佐次平妹
妻　やゑ　明二五、一一生、榮矢、誠一長女
女　壽々子　大七、一〇生
君は愛知縣人伊東廉の弟にして明治十五年三月を以て生れ同四十四年現戸主誠一の養子となる同四十一年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し現時日本橋梁會社專務取締役兼技師長たり家族は尙妻敏子(明二二、二生、福井、士、村田千熊二女)あり亡弟秀壽妻千世(同二七、五生、東京、士、來吉保馬長女)は東京府人石川鎖次に嫁せり(東京市杉並區天沼二五二電荻窪一三七五)

武田秀一

妻　二三　明二三、一生、東京、三宅甲造長女
男　秀孝　大五、五生
君は高知縣士族故陸軍少將武田秀山の長男にして明治十一年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十四年陸軍少將に陞進す其間近衛歩兵第一聯隊陸軍歩兵學校青森聯隊區司令部豐橋教導學校各勤務歩兵第三十七旅團長近衛師團司令部附等に歷補し昭和九年八月豫備役被仰付家族は尙弟秀三(明二一、三生)同妻ハル(同二二、七生、大分、河合精一郎長女)及び其一男一女あり亡弟秀壽妻千世(同二七、五生、東京、士、來吉保馬長女)は東京府人石川鎖次に嫁せり(東京市杉並區天沼二五二電荻窪一三七五)

武田秀雄

養子　光雄　大九、一二生、和歌山、士、豐田貞次郎二男
君は高知縣士族武田左衛士の長男にして文久二年十一月を以て生れ後家督を相續す明治十六年海軍機關學校を卒業し同十九年海軍省機關士に任じ大正二年海軍中將に累進す其間海軍艦政本部出仕海軍練炭製造所長兼朝鮮平壤鐵業所長海軍省教育本部第三部長日本光學工業三菱電機會社取締役會長海軍機關學校長等に歷補し曩に佛國に駐在す退官後實業界に投じ三菱合資會社監事三菱電機會社取締役會長日本光學工業三菱製鐵三菱航空機三菱造船各會社取締役に就任し現時前記諸會社の重役に擧げらる長女滿子(明二三、六生、學習院女學部出身)は海軍少將豐田貞次郎に養子滿喜子(同四四、九生)は海軍大尉山本祐二に嫁せりA二九二四(東京市小石川區鶯籠町二五四電大塚六九)

武田福藏

妻　エツ　學習社㊞取締役、交盛館、書籍出版販賣業、大阪府在籍
女　初子　明三〇、一一生、大阪、白水ティ大七、四生

京帝國大學工科大學土木科を卒業し現時日本橋梁會社專務取締役兼技師長たり家族は尙二男敏彥(大四、一〇生)三男輝彥(同一〇、一生)四男道夫(同二二、五生)五男巖(同一五、三生)六男豊(昭三、一一生)養弟滿作(明四〇、九生)養妹田鶴(同三八、八生)あり同百合(同三四、七生)は東京府人淺井東一に同あや(同三六、五生)は愛知縣人三賀治に嫁せり(大阪市住吉區松虫通二ノ五四電天下茶屋三七二四)

參照‖淺井東一の項

武田楢三郎

五十六銀行㊞取締役
大阪府在籍
妻　ハル　明二五、一生、大阪、岡本龜太郎二女
男　佳次　大三、二生
女　富士江　明四二、八生、大手前高女出身
君は大阪府人武田元助の弟にして明治十三年十二月を以て生れ同十六年先代マサの養子となり家督を相續す同三十二年大阪高等商業學校を卒業し第一銀行に入り大阪支店副支配人同行西區支店長たりしも後轉じて現時五十六銀行取締役たり家族は尙三男昇三(大四、七生)三女文子(同一〇、二二生)ありA二四七(大阪府豐能郡箕面村櫻井紅葉橋電櫻井一四二)

參照‖武田元助※草川求馬※原田虎次郎の項

武田信保

地主
東京府士族
妻　綱子　明三二、二生、東京、井上俊雄五女
男　昌信　大八、一〇生
君は貴族院議員伯爵柳澤保惠の弟にして明治二十五年三月三日を以て奈良縣郡山柳澤舊城內に生れ東京府士族武田家の養子となり前名保之を改め大正九年家督を相續す昭和二年山梨縣廳の調査に依り武田信玄公の直系(第十四世)と決定す夙に農業大學を卒業し餘暇を講道館に修業し柔道四段の免許を有す現時東京市外三鷹村の別莊に於て農園を經營す地主たり家族は尙三男宣和(大一二、九生)四男具昭(同一四、一一生、長女智惠子(昭二、二生)二女美江子(同五、五生)ありA一八四九(東京市淀橋區百人町三ノ三三九一別宅)東京府北多摩郡三鷹村)

參照‖伯爵柳澤保惠※朝倉文三の項

武田秀一

妻　二三　明二三、一生、東京、三宅甲造長女
男　秀孝　大五、五生
君は高知縣士族故陸軍少將武田秀山の長男にして明治十一年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十四年陸軍少將に任じ昭和八年陸軍中將に陞進す其間近衛歩兵第一聯隊陸軍歩兵學校青森聯隊區司令部豐橋教導學校各勤務歩兵第三十七旅團長近衛師團司令部附等に歷補し昭和九年八月豫備役被仰付家族は尙弟秀三(明二一、三生)同妻ハル(同二二、七生、大分、河合精一郎長女)及び其一男一女あり亡弟秀壽妻千世(同二七、五生、東京、士、來吉保馬長女)は東京府人石川鎖次に嫁せり(東京市杉並區天沼二五二電荻窪一三七五)

武田秀雄

養子　光雄　大九、一二生、和歌山、士、豐田貞次郎二男
君は高知縣士族武田左衛士の長男にして文久二年十一月を以て生れ後家督を相續す明治十六年海軍機關學校を卒業し同十九年海軍省機關士に任じ大正二年海軍中將に累進す其間海軍艦政本部出仕海軍練炭製造所長兼朝鮮平壤鐵業所長海軍省教育本部第三部長日本光學工業三菱電機會社取締役會長海軍機關學校長等に歷補し曩に佛國に駐在す退官後實業界に投じ三菱合資會社監事三菱電機會社取締役會長日本光學工業三菱製鐵三菱航空機三菱造船各會社取締役に就任し現時前記諸會社の重役に擧げらる長女滿子(明二三、六生、學習院女學部出身)は海軍少將豐田貞次郎に養子滿喜子(同四四、九生)は海軍大尉山本祐二に嫁せりA二九二四(東京市小石川區鶯籠町二五四電大塚六九)

武田福藏

妻　エツ　學習社㊞取締役、交盛館、書籍出版販賣業、大阪府在籍
女　初子　明三〇、一一生、大阪、白水ティ大七、四生
君は山口縣士族新庄德次郎の二男にして明治八年十月を以て生れ先代信夫の養子となり同十九年家督を相續す同三十年東京郵便電信學校を卒業し遞信技師として遞信省に奉職大正五年退職現時前揭各會社の重役たり曩に關西聯合電球會社代表取締役たりしことあり謠曲及碁樂を趣味とするA二二八(兵庫縣兵庫郡精道村苫屋原一一五四電苫屋三〇一二)

武田元助

秋田屋、金物商
妻　賢次郎　明二七、八生
男　哲三郎　明二九、一〇生、中井洋瓶店員、同志社大學出身

武田正己

妻　敏子　明三三、二生、福井、士、村田千熊二女
君は福井縣士族武田正雄の長男にして明治四十二年十月を以て生れ大正元年家督を相續す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し現時大倉商事會社取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙長女光子(大九、七生)二女英子(同一一、三生)三女敬子(同一四、六生)と弟妻千代(同三六、一生、京都、高橋恒次姉)及其一子あり弟寧遠(同三六、四生)は福井縣人辻右作の養子となり姉薫(同二〇、五生)は同縣人岡外吉に嫁せりA三五四(東京市小石川區久堅町七一電小石川七四四八)

大倉商事、南部鉄㊞製造所、大倉鉄鑛店、大倉火災海上保險、中央自動車、昭和農場、日本運輸、大倉スマトラ農場、シヤリング殖民會社、日本電氣㊞監査役、福井縣士族

武田孟

妻　千代子　明二三、二生、東京、士、小枝セキ繼子
君は高知縣士族新庄德次郎の二男にして明治八年十月を以て生れ先代信夫の養子となり同十九年家督を相續す同三十年東京郵便電信學校を卒業し遞信技師として遞信省に奉職大正五年退職現時前揭各會社の重役たり曩に關西聯合電球會社代表取締役たりしことあり謠曲及碁樂を趣味とするA二二八(兵庫縣兵庫郡精道村苫屋原一一五四電苫屋三〇一二)

武田元助

妻　賢次郎　明二七、八生
男　哲三郎　明二九、一〇生、中井洋瓶店員、同志社大學出身